

練馬区高齢者基礎調査等 報告書

令和5年（2023年）3月
練馬区

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査概要	3
(1) 高齢者基礎調査	3
(2) 在宅介護実態調査	4
(3) 施設整備調査	5
2. 調査結果を見る上での注意事項	5
第2章 高齢者基礎調査	9
1. 回答者の基本属性	11
(1) 調査票の記入者	11
(2) 性別	11
(3) 年齢	12
(4) 居住地区	13
(5) 世帯の状況	14
(6) 暮らし向き	20
2. 住まい	23
(1) 住居形態	23
(2) 将来の住まいに関する不安	24
(3) 介護が必要になった場合に希望する暮らし方	25
3. 社会参加	27
(1) 外出状況	27
(2) 就労状況	32
(3) 地域活動への参加状況	35
(4) 孤立感	36
4. 健康・介護予防・フレイル予防	39
(1) 健康	39
(2) フレイルの認知度	43
(3) 介護予防・フレイル予防	44
5. 介護保険	47
(1) 要介護認定の状況	47
(2) 介護保険サービス	50
(3) 支給限度額に対する介護保険サービスの利用	55
(4) ケアマネジャーに対する満足度	56
(5) 介護保険サービスの利用による変化	59
(6) 介護保険料と介護サービスの利用料	61
6. 医療・在宅療養	64
(1) かかりつけ医等の状況	64
(2) 医療の受診状況	65

(3) 在宅療養	66
(4) リハビリ療養	69
(5) 人生の最終段階における医療・ケア	71
7. たすけあい	79
(1) 手助け	79
(2) 成年後見制度	80
8. 地域包括支援センター	82
(1) 地域包括支援センターの認知度	82
(2) 地域包括支援センターに期待する役割	83
(3) 高齢者の虐待	84
(4) 認知症	86
9. 日常生活の状況	89
(1) 日常生活の中での困りごと	89
(2) 日常生活で困った場合の相談先	90
(3) 保健福祉や介護保険に関する情報の入手方法	91
(4) 老後を楽しく生きていくために必要なもの	92
(5) 高齢者だと思ふ年齢	94
(6) 将来の不安	95
(7) スマートフォン等の情報通信機器の使用状況	96
(8) 新型コロナウイルス感染症拡大の暮らしへ影響	102
(9) 今後力を入れてほしい高齢者施策	104
10. 家族介護の状況	105
(1) 主な介護者	105
(2) 主な家族介護者の属性	105
(3) 介護期間	108
(4) 介護者の就労状況	109
(5) 調査対象者の介護以外の負担の状況	110
(6) 介護サービス利用時の家族介護者の感じ方	111
(7) 家族介護者の負担や困りごと	112
(8) 介護をされていてつらい時の相談先	113
(9) 在宅介護を継続する上で介護者自身が受けたい支援	114
(10) 特別養護老人ホームに申し込んだ理由（主な家族介護者）	115
(11) 家族介護者が特別養護老人ホームに期待すること	116
11. 特別養護老人ホーム入所申込みの状況	117
(1) 現在の生活場所	117
(2) 医療処置の状況	118
(3) 認知症の診断状況	119
(4) 入所の希望時期	119
(5) 特別養護老人ホームの最初の申込みからの経過期間	120
(6) 入所したい特別養護老人ホームのタイプ	120

(7) 特別養護老人ホームの申込み状況	121
(8) 申し込んでいる特別養護老人ホームから連絡がきた場合の対応	125
(9) 区外の特別養護老人ホームの入所申込み状況	127
(10) 特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況	128
(11) サービス等の充実による在宅生活の継続希望	132
(12) ショートステイの利用状況	134
12. 介護サービス事業所調査	136
(1) 事業所の概要	136
(2) 居宅介護支援事業所の考え	142
(3) 苦情対応	152
(4) サービスの質の向上	153
(5) 事業所の運営	155
(6) 要介護1・2の者の生活援助サービス等の地域支援事業への移行の効果・影響	163
(7) 地域との関わり	163
(8) 人材の確保・育成・定着	167
(9) 生産性向上に向けた取組	175

第3章 高齢者基礎調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査） 179

1. 回答者の基本属性	181
(1) 調査票の記入者	181
(2) 性別	181
(3) 年齢	182
(4) 居住地区	182
(5) 世帯の状況	183
(6) 介護・介助の必要性	184
(7) 暮らし向き	184
2. 日常生活の状況	185
(1) からだを動かすこと	185
(2) 食べること	187
(3) 毎日の生活	190
3. 地域活動とたすけあい	191
(1) 地域づくりの推進	191
(2) 地域活動への参加状況	192
(3) たすけあい	196
4. 健康	200
(1) 健康状態	200
(2) 幸福度	201
(3) うつ傾向	202
(4) 喫煙の状況	202
(5) 現在治療中・後遺症のある病気	203

5. 認知症の相談窓口	204
(1) 認知症の症状がある人の有無	204
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度	204
第4章 在宅介護実態調査	205
1. 本人の基本属性	207
(1) 年齢	207
(2) 性別	207
(3) 二次判定結果（要介護度）	207
(4) 障害高齢者の日常生活自立度	208
(5) 認知症高齢者の日常生活自立度	208
(6) 世帯類型	208
(7) 家族等による介護の頻度	209
(8) 介護のための離職の有無	211
(9) 施設等への入所・入居の検討状況	211
(10) サービス利用の組み合わせ	214
2. 主な介護者の基本属性	215
(1) 主な介護者の本人との関係	215
(2) 主な介護者の性別	215
(3) 主な介護者の年齢	215
3. 主な介護者の働き方と就労継続見込み	217
(1) 主な介護者の勤務形態	217
(2) 主な介護者の働き方の調整状況	219
(3) 主な介護者の就労継続の見込み	220
(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	222
第5章 施設整備調査	225
1. 特別養護老人ホーム	227
2. ショートステイ	229
3. 介護老人保健施設	230
4. 有料老人ホーム	232
5. サービス付き高齢者向け住宅	234
6. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	235
7. 夜間対応型訪問介護	238
8. 地域密着型通所介護	240
9. (介護予防) 認知症対応型通所介護	243
10. (介護予防) 小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護	246
11. (介護予防) 認知症対応型共同生活介護	249
第6章 参考資料	253

第 1 章 調査の概要

1. 調査概要

(1) 高齢者基礎調査

①調査の目的

令和6年度を計画の始期とする第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための基礎資料を得ることを目的とし、以下の調査を実施した。

②調査方法

いずれの調査も、郵送法（郵送配付・郵送回収）により実施した。

③調査期間

令和4年11月1日～令和4年11月28日

調査対象期日は、原則として令和4年10月1日現在とした。

④調査対象

各調査の調査対象者は、④特別養護老人ホーム入所待機者調査、⑤介護サービス事業所調査を除き住民基本台帳から無作為抽出した。無作為抽出は、調査間での対象者の重複を避け、所定の人数を抽出した。

調査種別	調査対象	図・表中での記載名
①高齢者一般調査	介護保険の認定を受けていない65歳以上の区民から無作為に2,500人を抽出した（総合事業対象者を含まない）。	高齢者一般
②要支援・要介護認定者調査	介護保険の認定を受けている65歳以上の区民から無作為に6,500人を抽出した（総合事業対象者を含む）。	要支援認定者
		要介護認定者
③これから高齢期を迎える方の調査	介護保険の認定を受けていない55～64歳の区民から無作為に800人を抽出した。	これから高齢期
④特別養護老人ホーム入所待機者調査	特別養護老人ホーム入所待機者の方全員1,025人を対象とした。	【特養入所待機者】 全体 13ポイント以上 12ポイント以下
⑤介護サービス事業所調査	介護サービスを提供している区内の全事業所1,050事業所を対象とした。	介護サービス事業所
⑥介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	要介護認定（要介護1～5）を受けていない65歳以上の区民から無作為に2,200人を抽出した。	

※④特別養護老人ホーム入所待機者調査では、全体での集計の他に、練馬区特別養護老人ホーム入所基準の指数が13ポイント以上の方と12ポイント以下の方を分けて集計を行った

⑤回収状況

No.	調査種別	対象者数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
①	高齢者一般調査	2,500	1,517	60.7%	1,516	60.6%
②	要支援・要介護認定者調査	6,500	2,951	45.4%	2,946	45.3%
	要支援認定者	2,300	—	—	1,280	55.7%
	要介護認定者	4,200	—	—	1,344	32.0%
③	これから高齢期を迎える方の調査	800	391	48.9%	391	48.9%
④	特別養護老人ホーム入所待機者調査	1,025	444	43.3%	311	30.3%
	12ポイント以下（指数低）	767	353	46.0%	246	32.1%
	13ポイント以上（指数高）	258	91	35.3%	65	25.2%
⑤	介護サービス事業所調査	1,050	540	51.4%	540	51.4%
⑥	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,200	1,577	71.7%	1,577	71.7%

※②要支援・要介護認定者調査では、要介護度が不明な回答も有効とするため、要支援認定者と要介護認定者の合計が全体を示す数値と一致しない

（2）在宅介護実態調査

①調査の目的

「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点から、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とし、調査を実施した。調査項目は『在宅介護実態調査』として国が示した内容とした。

②調査方法

介護保険認定調査実施時に、介護保険認定調査員等が、調査対象者や調査に立ち会っている家族などに、聞き取り調査を行った。

③調査期間

令和4年8月18日～令和4年11月30日

④調査対象

区内で在宅生活をしている、要支援・要介護認定の更新申請または区分変更申請に伴う認定調査対象者とその家族で、「在宅介護実態調査」へのご協力の了解を得られた方。

⑤回収状況

対象者数	有効回答数（率）
616	616（100.0%）

(3) 施設整備調査

①調査の目的

第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための基礎資料を得ることを目的とし、区内に所在する介護保険施設等を対象に、施設の利用状況等の調査を実施した。

②調査方法

電子メールおよびFAXにより、配付・回収を実施した。

③調査期間

令和5年1月16日～令和5年1月31日

④回収状況

施設類型	施設数	回収数	回収率
1 特別養護老人ホーム	37施設	37施設	100.0%
2 ショートステイ	42施設	42施設	100.0%
3 介護老人保健施設	14施設	14施設	100.0%
4 有料老人ホーム	80施設	62施設	77.5%
5 サービス付き高齢者向け住宅	20施設	10施設	50.0%
6 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8施設	8施設	100.0%
7 夜間対応型訪問介護	2施設	2施設	100.0%
8 地域密着型通所介護	110施設	98施設	89.1%
9 (介護予防) 認知症対応型通所介護	11施設	11施設	100.0%
10 (介護予防) 小規模多機能型居宅介護・ 看護小規模多機能型居宅介護	23施設	22施設	95.7%
11 (介護予防) 認知症対応型共同生活介護	38施設	32施設	84.2%

2. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・図・表中の「-」は回答者が皆無のものである。
- ・回答はnを100%として百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- ・複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- ・複数の回答選択肢を1つにまとめて分析する場合、回答選択肢ごとの比率を合計した数値と、1つにまとめた比率の数値が異なる場合がある。
- ・本文、表、グラフにおいて、調査票の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- ・クロス集計結果の図・表については、「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

【高齢者基礎調査】

- ・クロス集計の図表中では、居住地区の住所表記を下記のように記載する。

選択肢	記載名
旭丘1～2丁目、小竹町1～2丁目、栄町、羽沢1～3丁目、豊玉上1～2丁目、豊玉中1～4丁目、豊玉南1～3丁目、豊玉北1～6丁目、中村1～3丁目、中村南1～3丁目、中村北1～4丁目、桜台1～6丁目、練馬1～4丁目、向山1～4丁目、貫井1～5丁目	練馬
錦1～2丁目、氷川台1～4丁目、平和台1～4丁目、早宮1～4丁目、春日町1～6丁目、高松1～6丁目、北町1～8丁目、田柄1～5丁目、光が丘1～7丁目、旭町1～3丁目、土支田1～4丁目	光が丘
富士見台1～4丁目、南田中1～5丁目、高野台1～5丁目、谷原1～6丁目、三原台1～3丁目、石神井町1～8丁目、石神井台1～8丁目、下石神井1～6丁目、関町北1～5丁目、関町南1～4丁目、上石神井南町、立野町、上石神井1～4丁目、関町東1～2丁目	石神井
東大泉1～7丁目、西大泉1～6丁目、南大泉1～6丁目、大泉町1～6丁目、大泉学園町1～9丁目、西大泉町	大泉

- ・クロス集計の図表中では、サービス種別の選択肢表記を下記のように記載する。

選択肢	記載名
居宅介護支援	居宅介護支援
訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護	訪問系
通所介護、通所リハビリテーション、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護	通所系
介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、短期入所生活介護、短期入所療養介護	入所系
特定施設入居者生活介護、認知症高齢者グループホーム	居住系
福祉用具貸与・販売	福祉用具

【在宅介護実態調査】

- ・集計・分析に係る用語の定義は、以下のとおりとする。

〈 サービスの利用の分析に用いた用語の定義 〉

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、「未利用」として集計している。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計している。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

〈 サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義 〉

用語		定義
未利用		・上表に同じ
訪問系のみ		・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している
訪問系を含む組み合わせ		・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ		・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計している。

〈 障害高齢者の日常生活自立度 〉

用語	説明	
J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	J 1	交通機関等を利用して外出する。
	J 2	隣近所へなら外出する。
A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	A 1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
	A 2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。	
	B 1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。
	B 2	介助により車いすに移乗する。
C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	C 1	自力で寝返りをうつ。
	C 2	自力では寝返りもうたない。

〈 認知症高齢者の日常生活自立度 〉

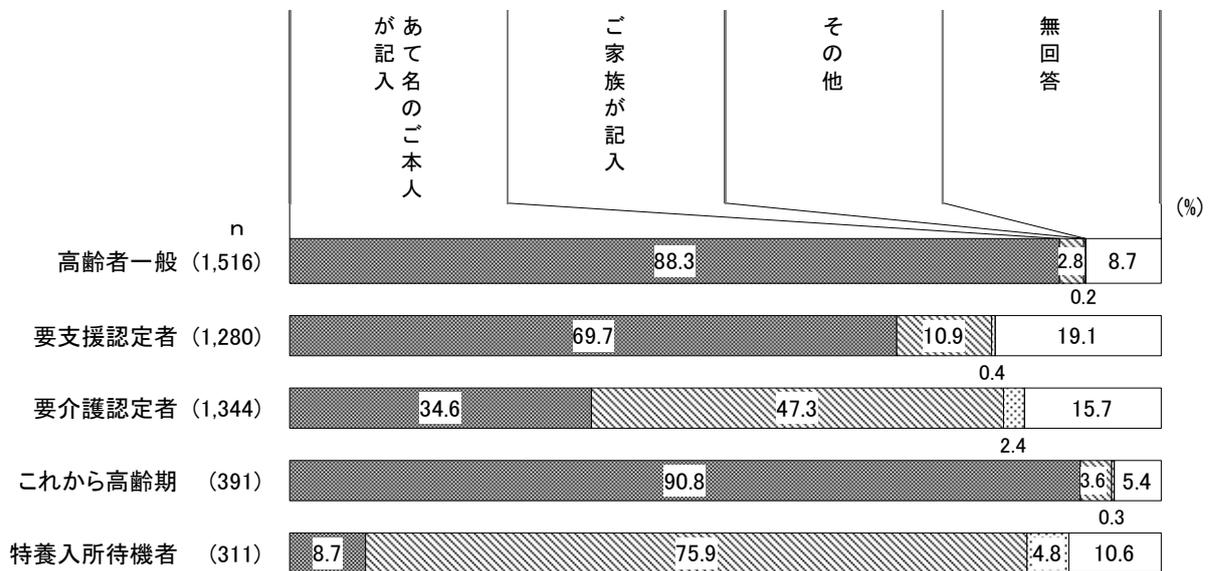
用語	説明	
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	A 1	家庭外で上記IIの状態が見られる。
	A 2	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
	B 1	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
	B 2	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	
V	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	

第2章 高齡者基礎調查

1. 回答者の基本属性

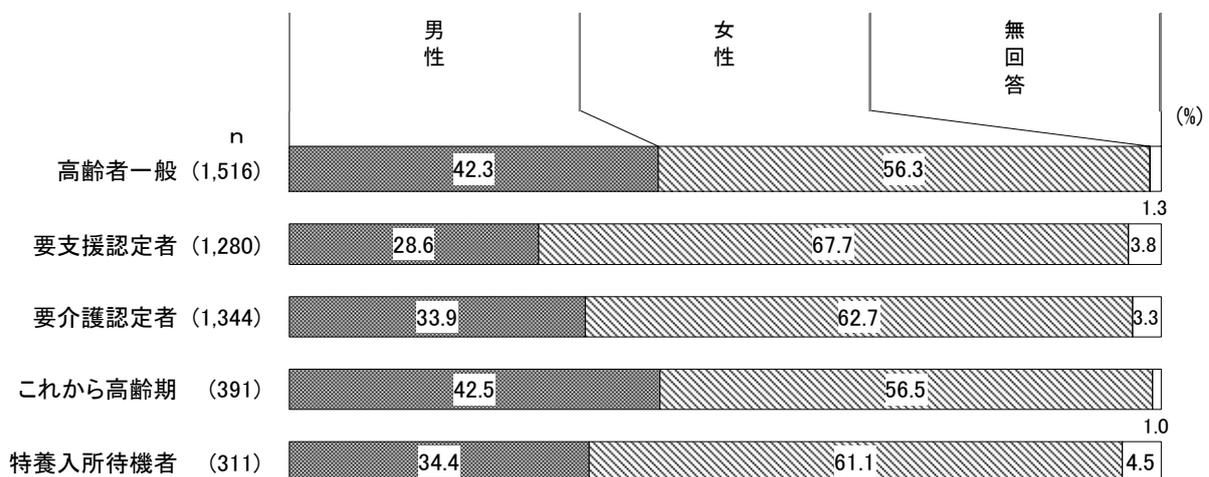
(1) 調査票の記入者

- 高齢者一般では、「あて名のご本人が記入」が88.3%、「ご家族が記入」が2.8%となっている。
- 要支援認定者では、「あて名のご本人が記入」が69.7%、「ご家族が記入」が10.9%となっている。
- 要介護認定者では、「あて名のご本人が記入」が34.6%、「ご家族が記入」が47.3%となっている。
- これから高齢期では、「あて名のご本人が記入」が90.8%、「ご家族が記入」が3.6%となっている。
- 特養入所待機者では、「あて名のご本人が記入」が8.7%、「ご家族が記入」が75.9%となっている。



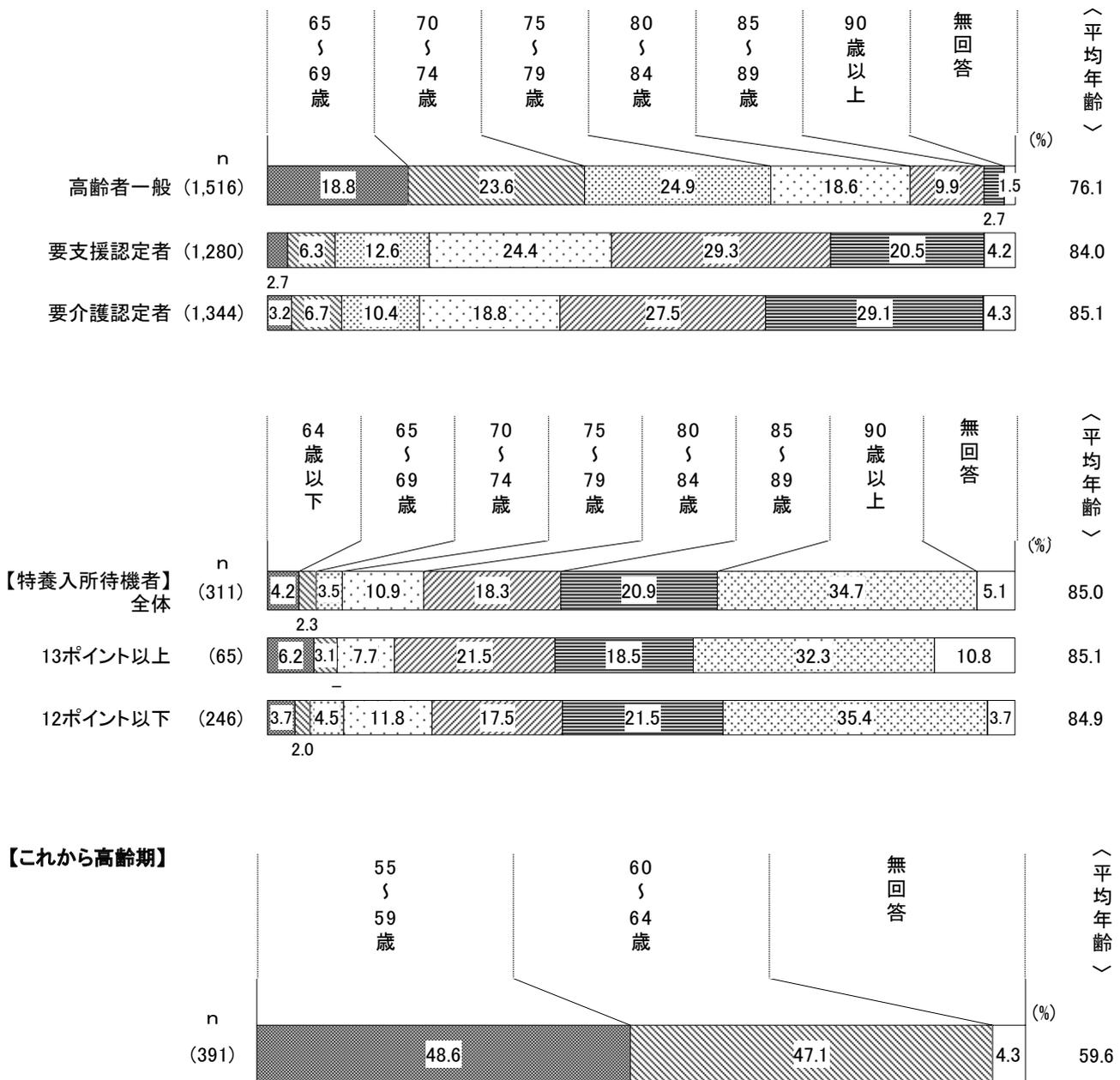
(2) 性別

- いずれの調査でも「女性」の割合が高く、5割半ばから7割近くとなっている。



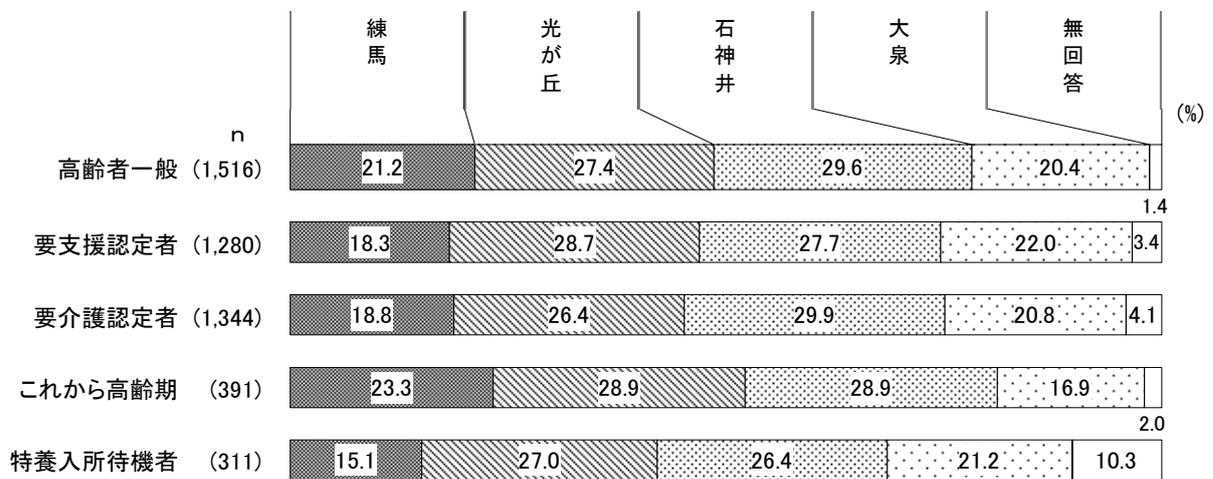
(3) 年齢

- 高齢者一般では、前期高齢者が4割超、後期高齢者が5割半ばで、平均年齢は76.1歳となっている。
- 要支援認定者では、前期高齢者が約1割、後期高齢者が8割半ばで、平均年齢は84.0歳となっている。
- 要介護認定者では、前期高齢者が約1割、後期高齢者が8割半ばで、「90歳以上」が3割近くとなっている。平均年齢は85.1歳となっている。
- 特養入所待機者では、後期高齢者が8割半ばで、平均年齢は85.0歳となっている。
- これから高齢期では、「55歳～59歳」が48.6%、「60歳～64歳」が47.1%で、平均年齢は59.6歳となっている。



(4) 居住地区

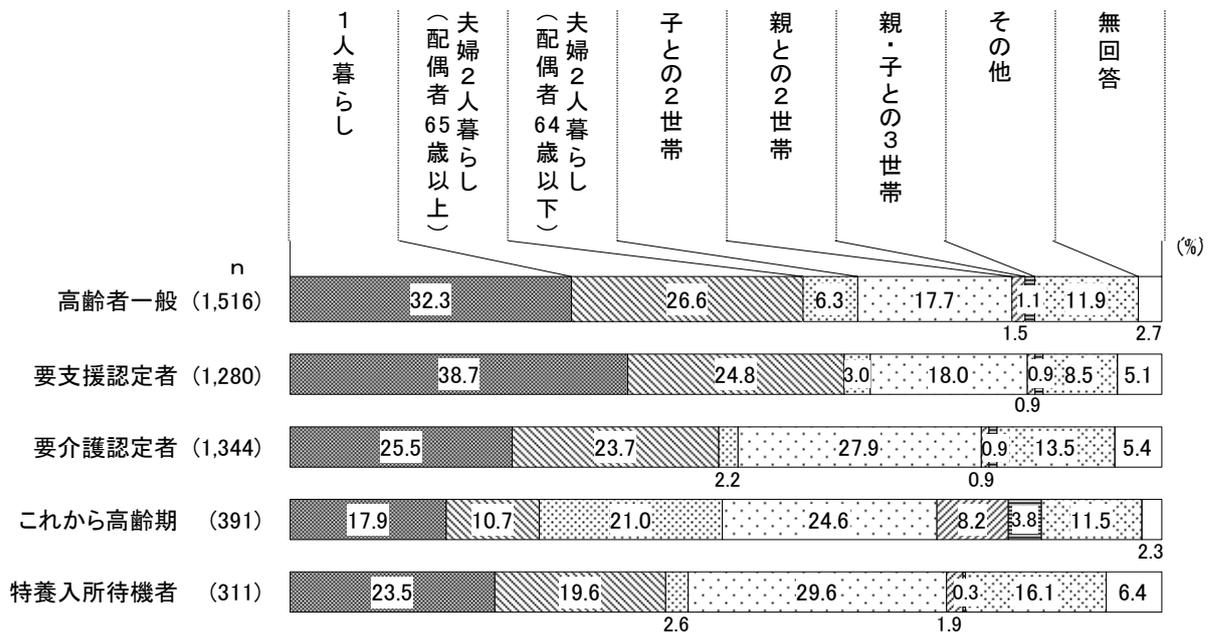
- 高齢者一般では、「練馬」が21.2%、「光が丘」が27.4%、「石神井」が29.6%、「大泉」が20.4%となっている。
- 要支援認定者では、「練馬」が18.3%、「光が丘」が28.7%、「石神井」が27.7%、「大泉」が22.0%となっている。
- 要介護認定者では、「練馬」が18.8%、「光が丘」が26.4%、「石神井」が29.9%、「大泉」が20.8%となっている。
- これから高齢期では、「練馬」が23.3%、「光が丘」が28.9%、「石神井」が28.9%、「大泉」が16.9%となっている。
- 特養入所待機者では、「練馬」が15.1%、「光が丘」が27.0%、「石神井」が26.4%、「大泉」が21.2%となっている。



(5) 世帯の状況

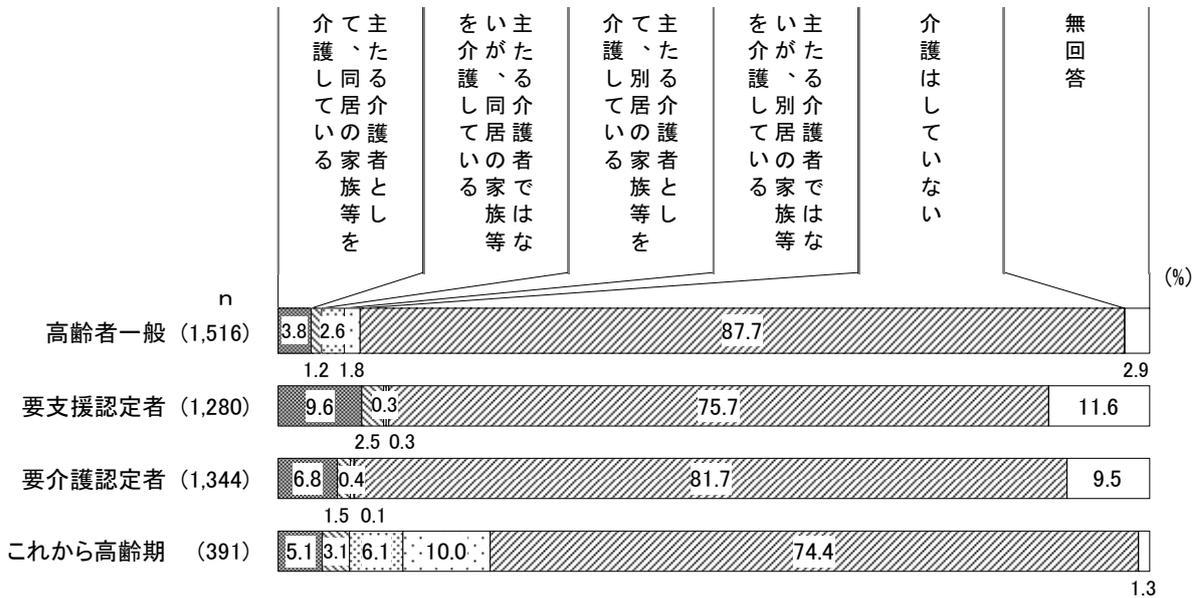
①世帯構成

- 高齢者一般では、「1人暮らし」が32.3%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が26.6%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が6.3%、「子との2世帯」が17.7%、「親との2世帯」が1.5%、「親・子との3世帯」が1.1%となっている。
- 要支援認定者では、「1人暮らし」が38.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が24.8%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が3.0%、「子との2世帯」が18.0%、「親との2世帯」が0.9%、「親・子との3世帯」が0.9%となっている。
- 要介護認定者では、「1人暮らし」が25.5%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が23.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が2.2%、「子との2世帯」が27.9%、「親との2世帯」が0.9%、「親・子との3世帯」が0.9%となっている。
- これから高齢期では、「1人暮らし」が17.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が10.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が21.0%、「子との2世帯」が24.6%、「親との2世帯」が8.2%、「親・子との3世帯」が3.8%となっている。
- 特養入所待機者では、「1人暮らし」が23.5%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が19.6%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が2.6%、「子との2世帯」が29.6%、「親との2世帯」が1.9%、「親・子との3世帯」が0.3%となっている。



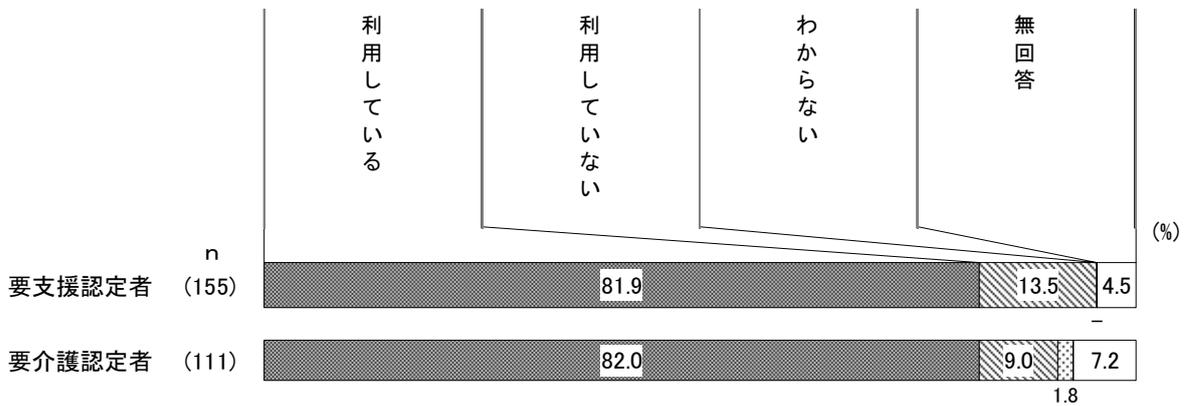
②介護の有無

○いずれの調査でも「介護はしていない」が最も高く、7割半ばから9割近くとなっている。



[被介護者の介護保険サービスの利用状況]

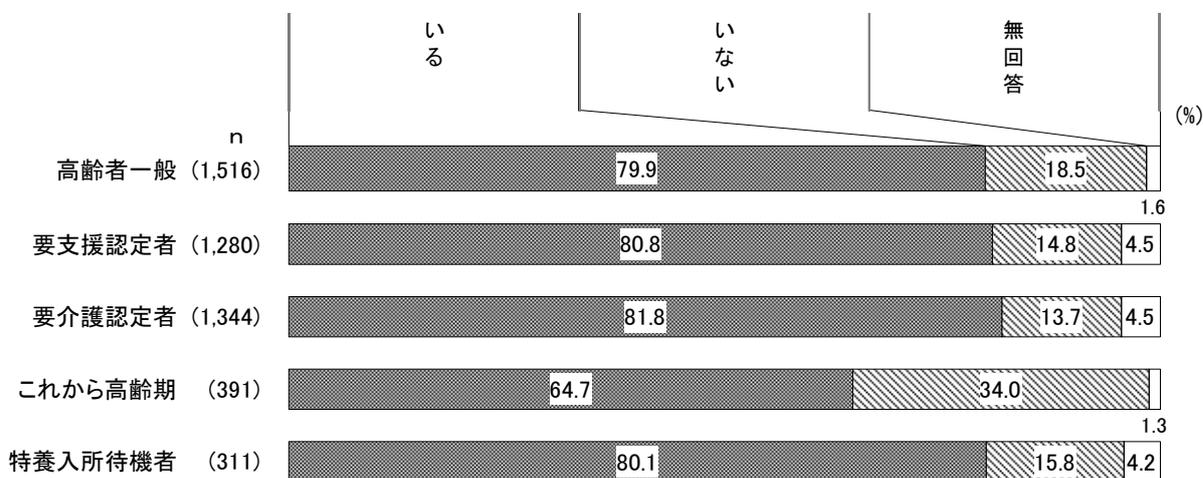
○“介護をしている”と回答した人で、介護保険サービスを「利用している」のは、要支援認定者、要介護認定者ともに8割超となっている。



③子どもの有無

○子どもが「いる」は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者、特養入所待機者で約8割となっている。

○これから高齢期では、子どもは「いない」が3割半ばとなっている。



[年代別 / 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者]

○年代別にみると、いずれの調査でも『前期高齢者』は、子どもが「いない」が『後期高齢者』と比べて高くなっている。子どもが「いない」と回答した『前期高齢者』は、高齢者一般が22.7%、要支援認定者が31.9%、要介護認定者が37.6%となっている。

	n	いる (%)	いない (%)	無回答 (%)
高齢者一般	1,516	79.9	18.5	1.6
前期高齢者(65-74歳)	643	76.8	22.7	0.5
後期高齢者(75歳以上)	850	83.4	15.5	1.1

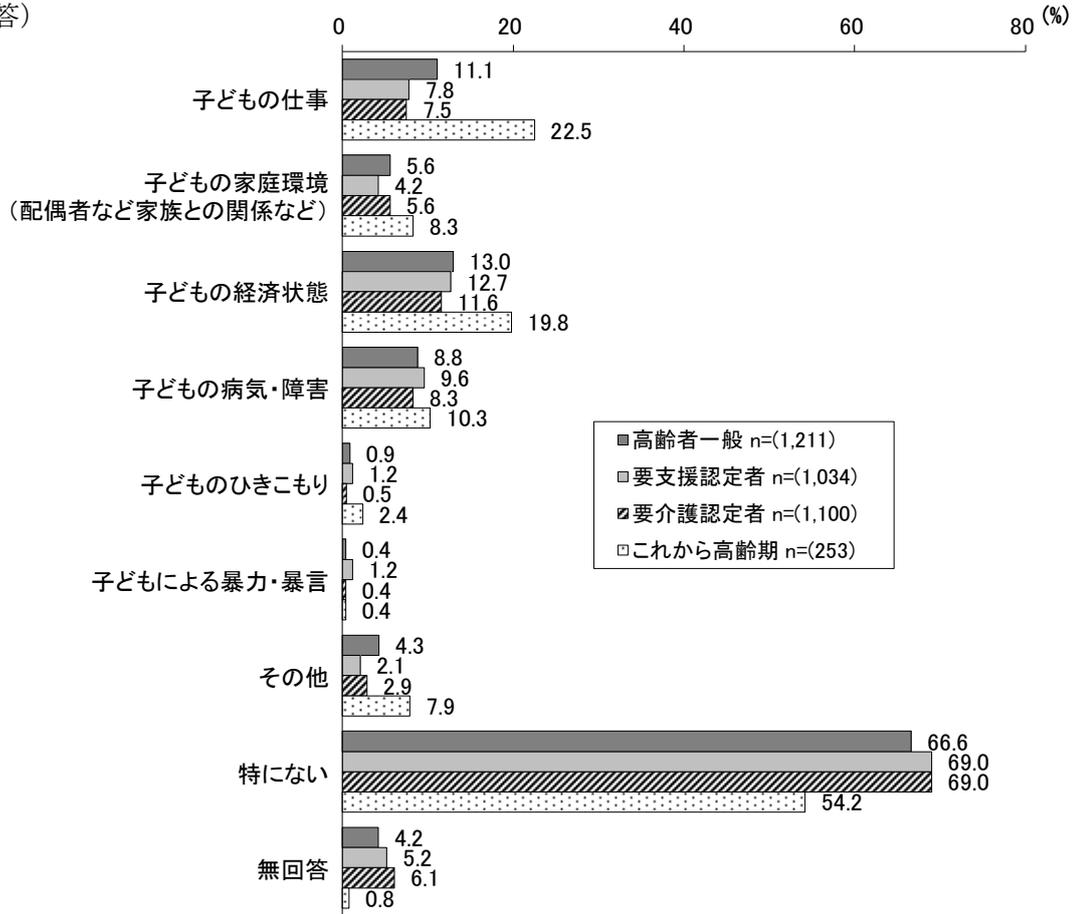
	n	いる (%)	いない (%)	無回答 (%)
要支援認定者	1,280	80.8	14.8	4.5
前期高齢者(65-74歳)	116	65.5	31.9	2.6
後期高齢者(75歳以上)	1,110	84.8	13.5	1.7
要介護認定者	1,344	81.8	13.7	4.5
前期高齢者(65-74歳)	133	60.2	37.6	2.3
後期高齢者(75歳以上)	1,153	87.0	11.4	1.6

④子どもに関する心配ごと

○子どもが「いる」と回答した人の子どもに関する心配ごとは、いずれの調査でも「特にない」が最も高く、5割半ばから7割近くとなっている。

○心配ごととしては、いずれの調査でも「子どもの仕事」、「子どもの経済状態」、「子どもの病気・障害」が上位に挙げられている。これから高齢期では、「子どもの仕事」と「子どもの経済状態」が2割前後と他の調査と比べて高くなっている。

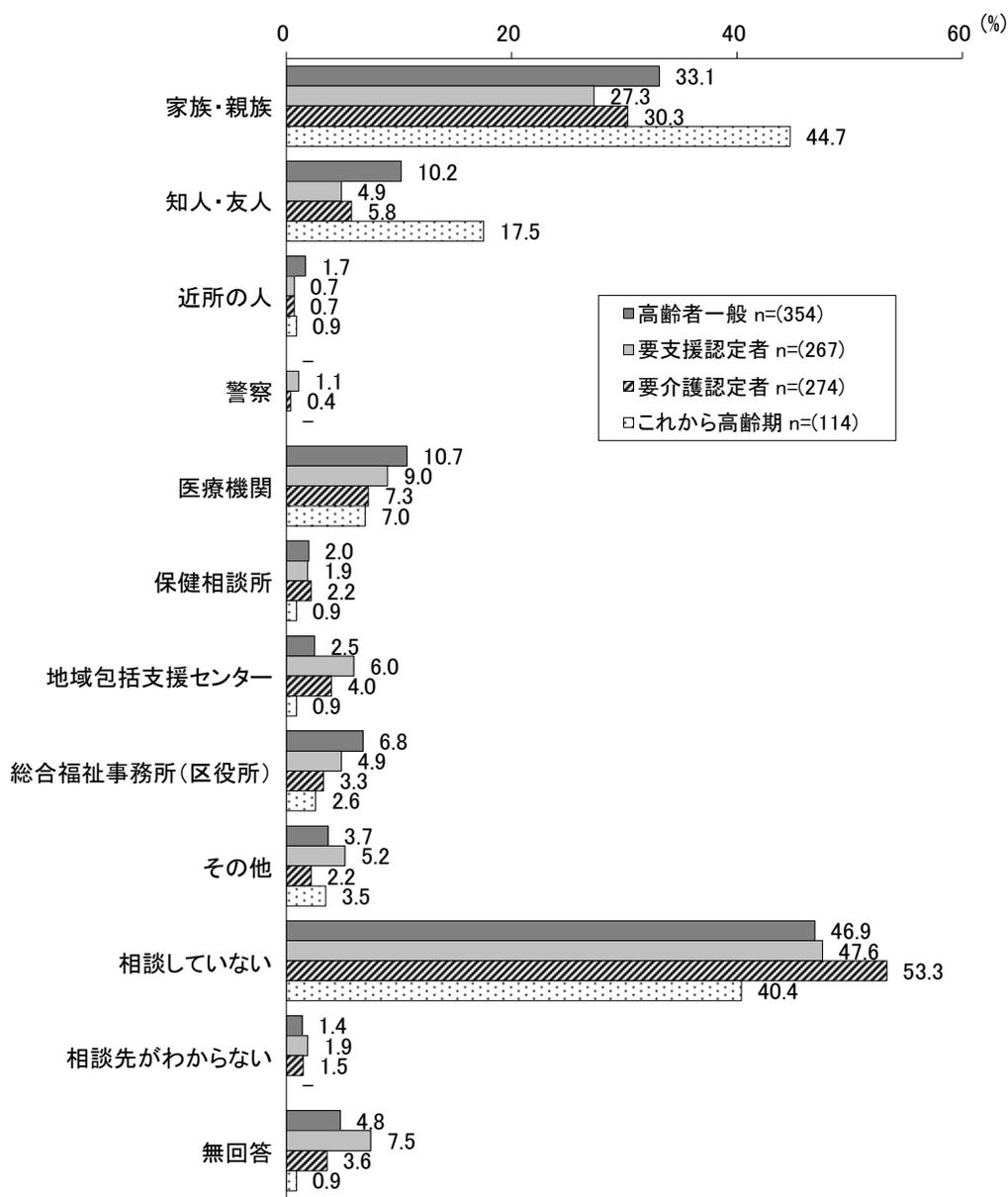
(複数回答)



⑤子どもに関する心配ごとの相談状況

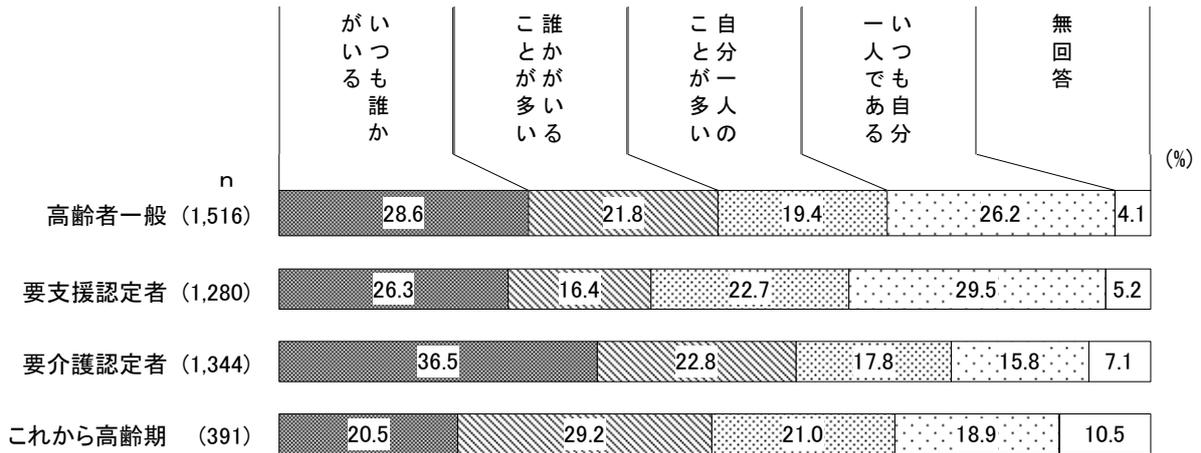
- 何らかの子どもに関する心配ごとがあると回答した人の相談状況は、高齢者一般では、「相談していない」が46.9%となっている。相談している人のなかでは「家族・親族」(33.1%)が最も高く、次いで「医療機関」(10.7%)、「知人・友人」(10.2%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「相談していない」が47.6%となっている。相談している人のなかでは「家族・親族」(27.3%)が最も高く、次いで「医療機関」(9.0%)となっている。
- 要介護認定者では、「相談していない」が53.3%となっている。相談している人のなかでは「家族・親族」(30.3%)が最も高く、次いで「医療機関」(7.3%)となっている。
- これから高齢期では、「相談していない」が40.4%となっている。相談している人のなかでは「家族・親族」(44.7%)が最も高く、次いで「知人・友人」(17.5%)、「医療機関」(7.0%)となっている。

(複数回答)



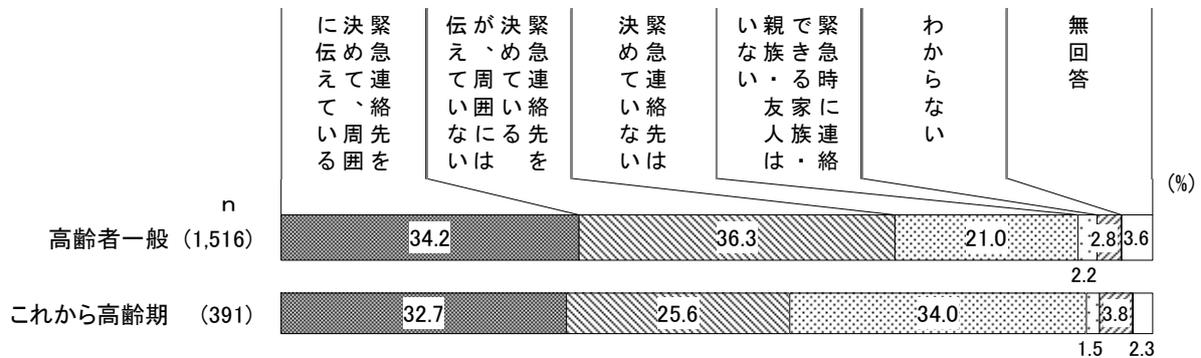
⑥日中独居の状況

- 高齢者一般では、“日中独居”（「いつも自分一人である」と「自分一人のことが多い」の合計）は4割半ばとなっている。
- 要支援認定者では、“日中独居”は5割超となっている。
- 要介護認定者では、「いつも誰かがいる」が36.5%で最も高く、“日中独居”は3割半ばとなっている。
- これから高齢期では、“日中独居”は約4割となっている。



⑦緊急連絡先の有無

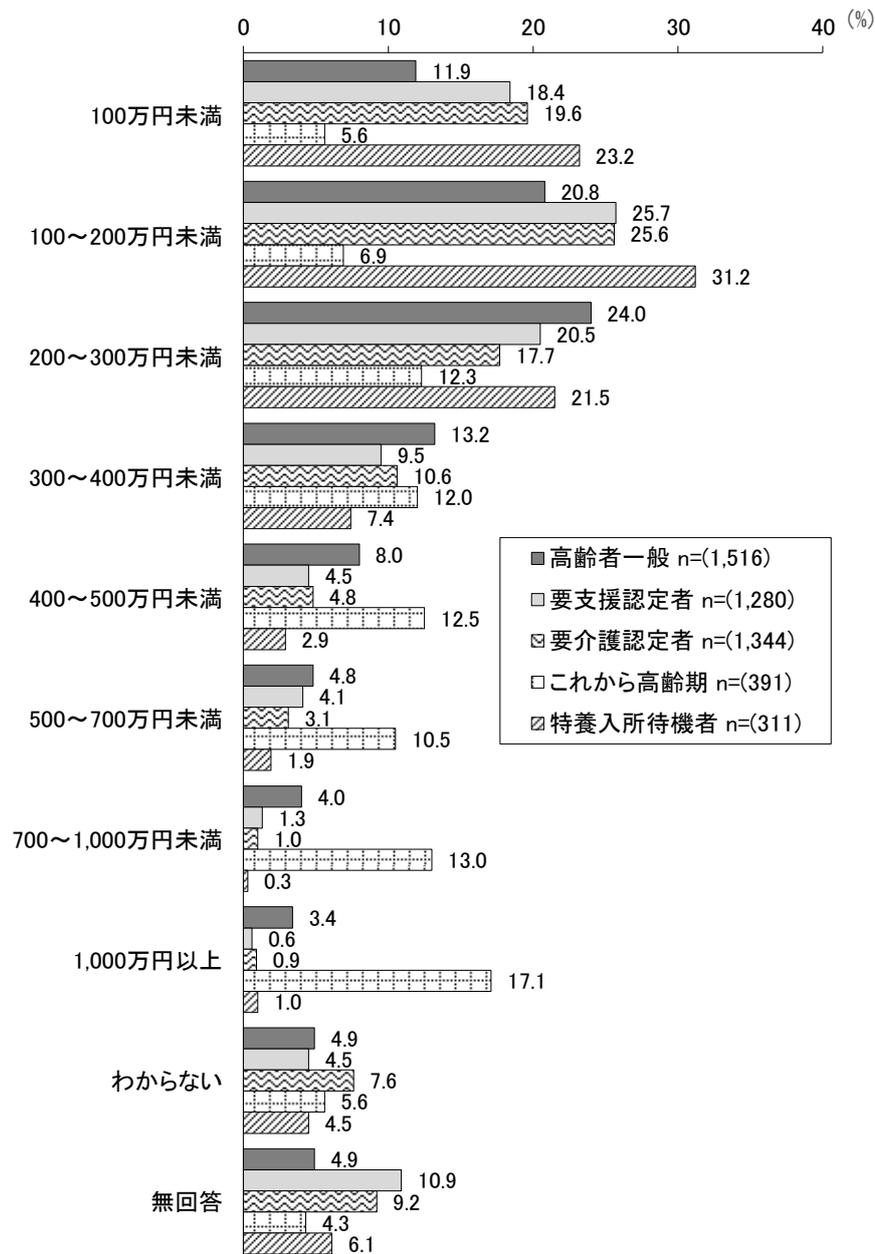
- 高齢者一般では、「緊急連絡先を決めて、周囲に伝えている」が34.2%、「緊急連絡先を決めているが、周囲には伝えていない」が36.3%となっている。「緊急連絡先は決めていない」は21.0%となっている。
- これから高齢期では、「緊急連絡先を決めて、周囲に伝えている」が32.7%、「緊急連絡先を決めているが、周囲には伝えていない」が25.6%となっている。「緊急連絡先は決めていない」は34.0%となっている。



(6) 暮らし向き

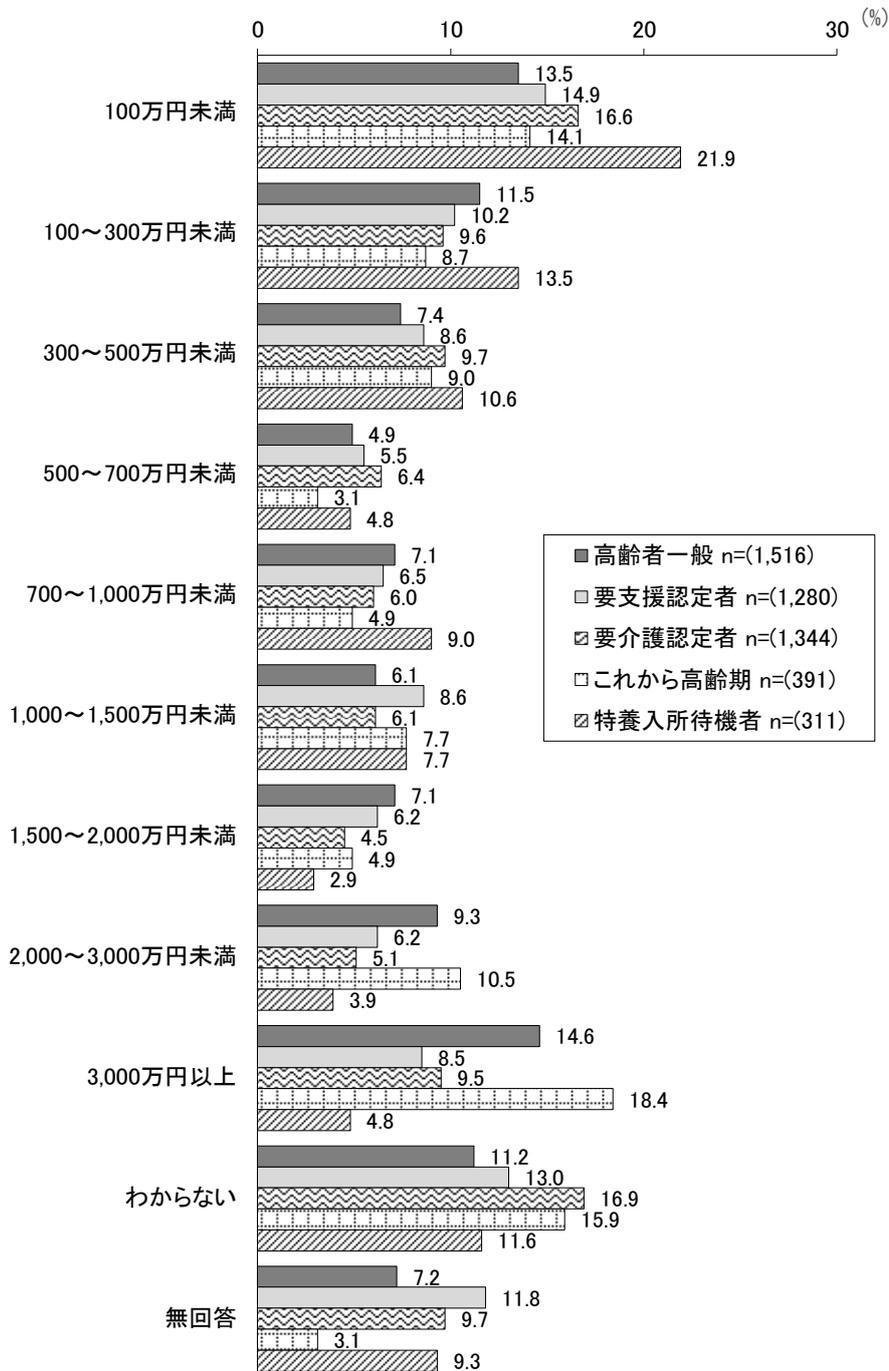
①世帯の年収

- 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者では、“300万円未満”（「100万円未満」～「200～300万円未満」の合計）が5割半ばから6割半ばとなっている。
- これから高齢期では、“500万円以上”（「500～700万円未満」～「1000万円以上」の合計）が約4割となっている。
- 特養入所待機者では、“300万円未満”が7割半ばとなっている。



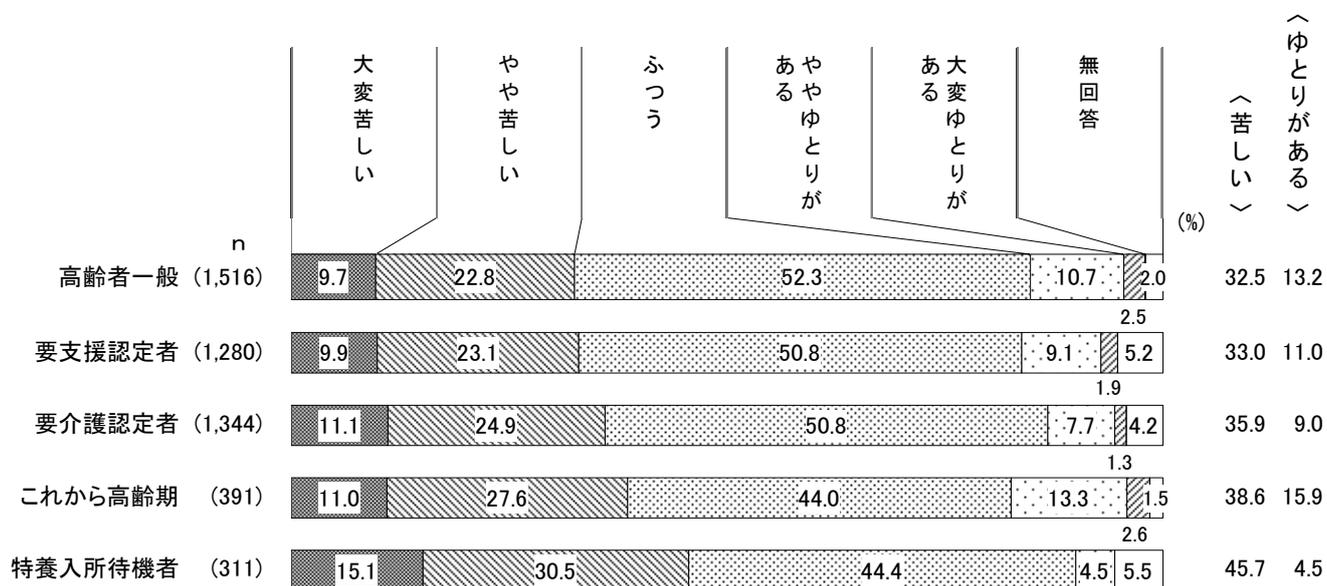
②世帯の預貯金

- 預貯金額が「100万円未満」の世帯は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者、これから高齢期で1割半ば、特養入所待機者で2割超となっている。
- “2,000万円以上”（「2,000～3,000万円未満」と「3,000万円以上」の合計）は、高齢者一般で2割半ば、これから高齢期で約3割となっている。



③暮らし向きを感じ方

○ “苦しい”（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）は、高齢者一般が32.5%、要支援認定者が33.0%、要介護認定者が35.9%、これから高齢期が38.6%、特養入所待機者が45.7%となっている。



[経年比較 / 高齢者一般]

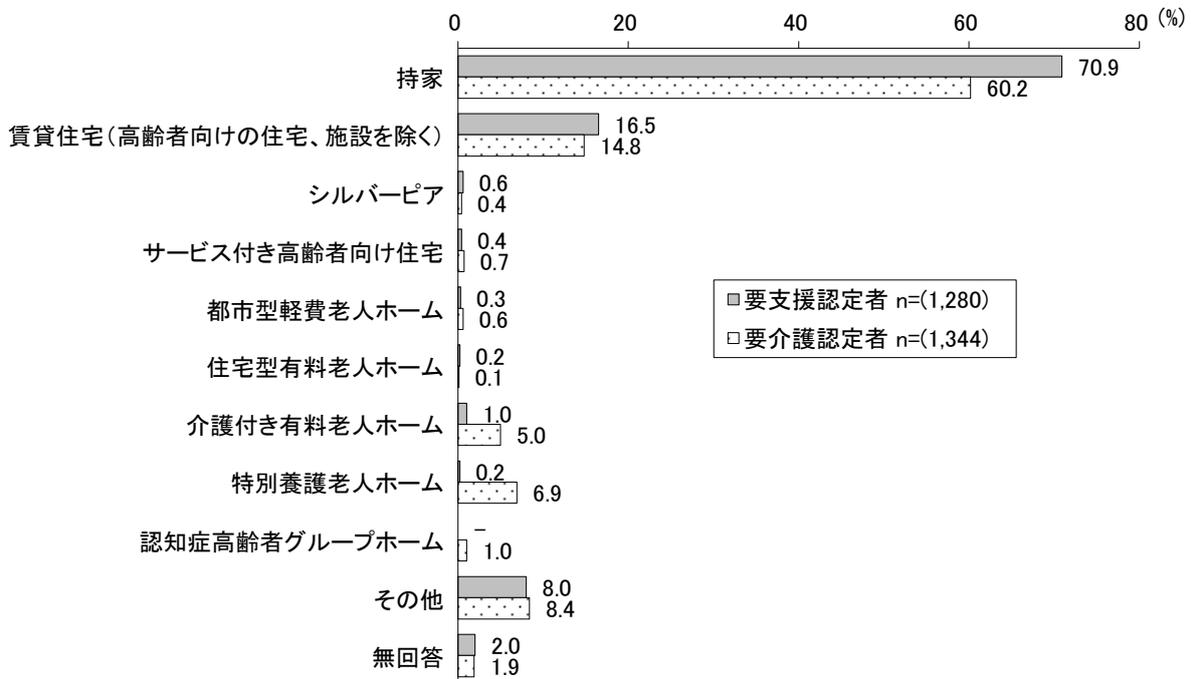
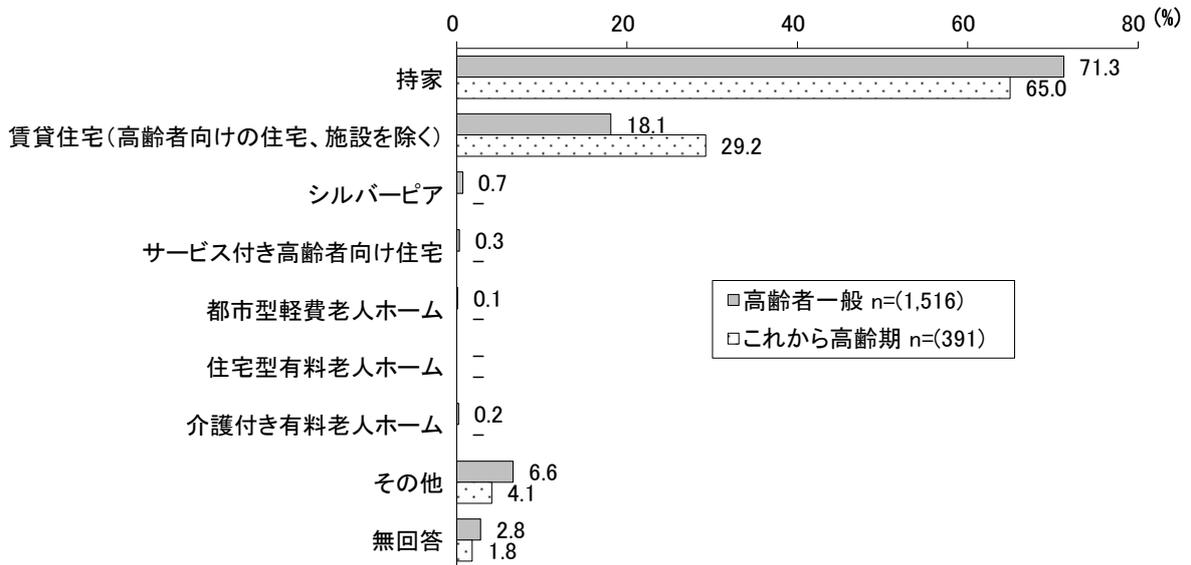
○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、“苦しい”が1.8ポイント高くなっている。

	n	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答	苦しい	ゆとりがある
令和4年度	1,516	9.7	22.8	52.3	10.7	2.5	2.0	32.5	13.2
令和元年度	1,447	7.6	23.1	54.4	10.6	2.4	1.9	30.7	13.0

2. 住まい

(1) 住居形態

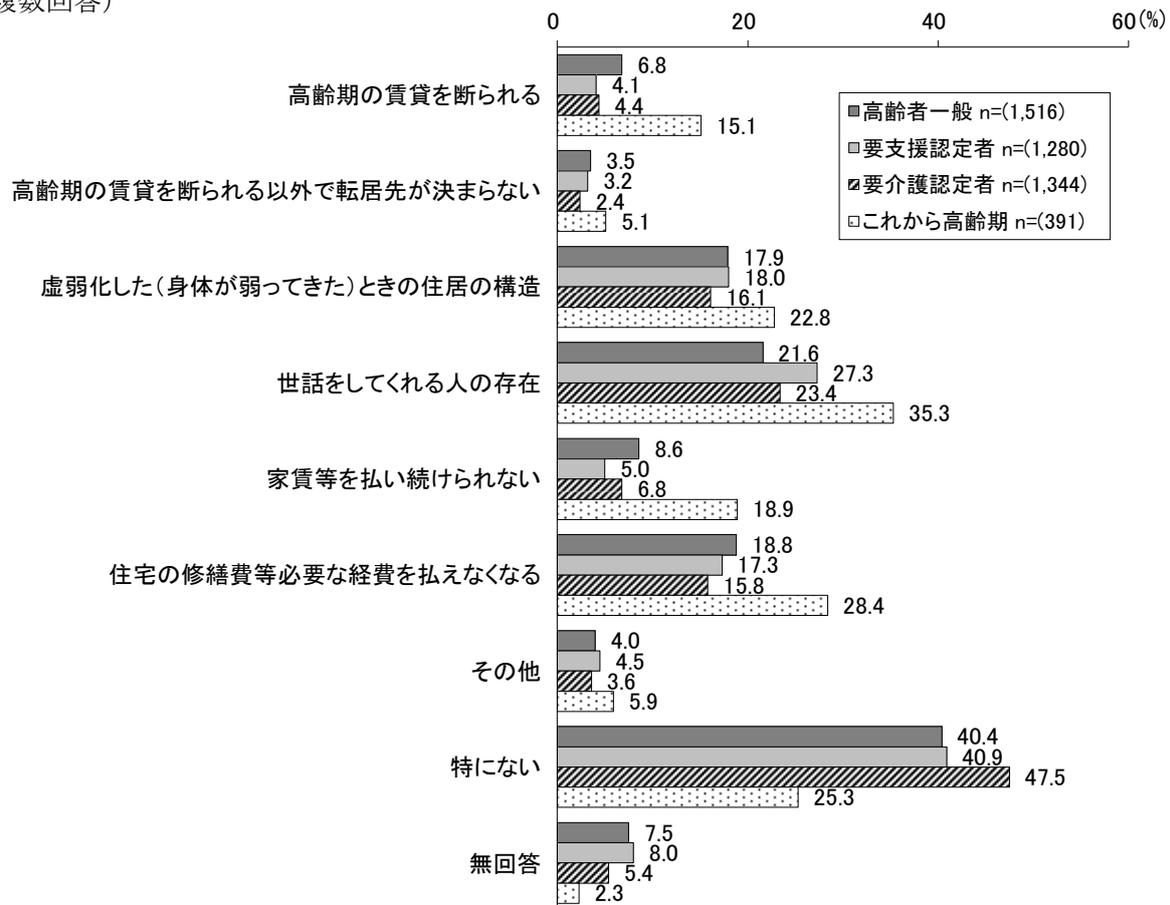
○いずれの調査でも「持家」が最も高く、高齢者一般で71.3%、これから高齢期で65.0%、要支援認定者で70.9%、要介護認定者で60.2%となっている。



(2) 将来の住まいに関する不安

- 高齢者一般では、「特にない」が40.4%となっている。住まいに関する不安としては、「世話をしてくれる人の存在」(21.6%)、「住宅の修繕費等必要な経費を払えなくなる」(18.8%)、「虚弱化した(身体が弱ってきた)ときの住居の構造」(17.9%)が上位に挙がっている。
- 要支援認定者では、「特にない」が40.9%となっている。不安としては、「世話をしてくれる人の存在」(27.3%)、「虚弱化した(身体が弱ってきた)ときの住居の構造」(18.0%)、「住宅の修繕費等必要な経費を払えなくなる」(17.3%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者では、「特にない」が47.5%となっている。不安としては、「世話をしてくれる人の存在」(23.4%)、「虚弱化した(身体が弱ってきた)ときの住居の構造」(16.1%)、「住宅の修繕費等必要な経費を払えなくなる」(15.8%)が上位に挙がっている。
- これから高齢期では、「特にない」が25.3%となっている。不安としては、「世話をしてくれる人の存在」(35.3%)、「住宅の修繕費等必要な経費を払えなくなる」(28.4%)、「虚弱化した(身体が弱ってきた)ときの住居の構造」(22.8%)が上位に挙がっている。

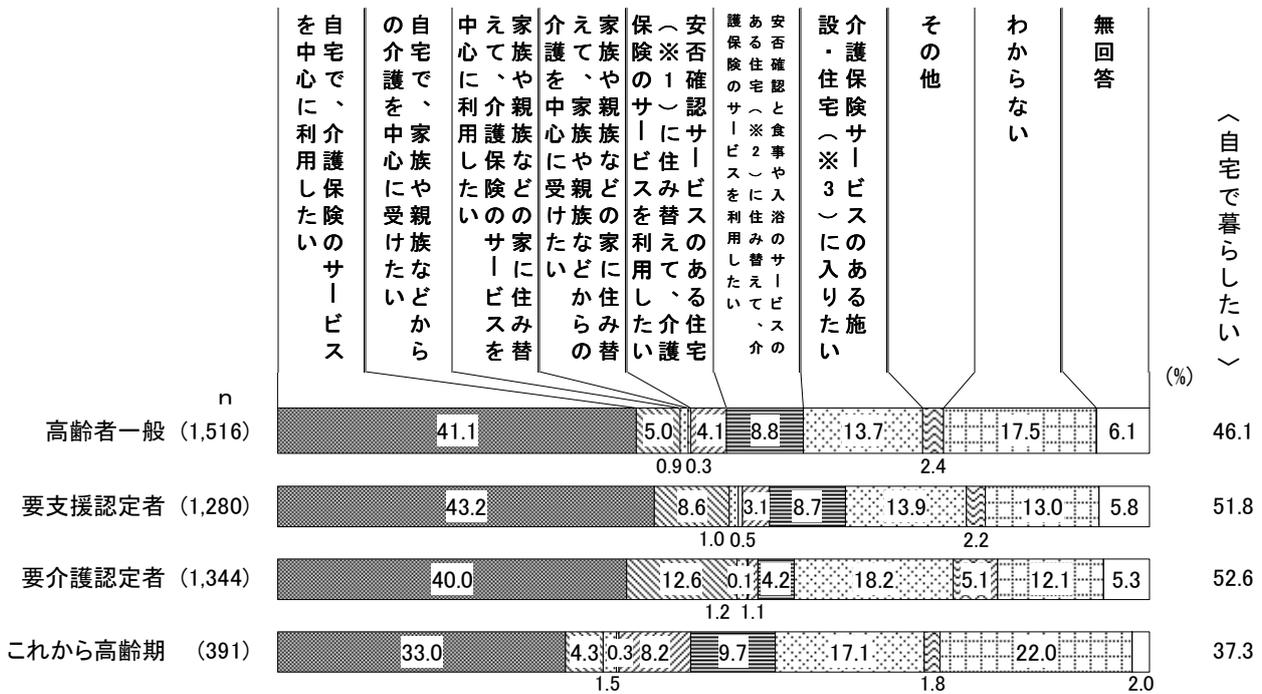
(複数回答)



(3) 介護が必要になった場合に希望する暮らし方

○いずれの調査でも「自宅で、介護保険のサービスを中心に利用したい」が最も高く、3割超から4割超となっている。

○“自宅で暮らしたい”（「自宅で、介護保険のサービスを中心に利用したい」と「自宅で、家族や親族などからの介護を中心に受けたい」の合計）は、高齢者一般で46.1%、要支援認定者で51.8%、要介護認定者で52.6%、これから高齢期で37.3%となっている。



※1 シルバーピア

※2 サービス付き高齢者向け住宅、都市型軽費老人ホーム、住宅型有料老人ホーム

※3 特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム

[経年比較 / 高齢者一般]

○令和元年度の調査結果と比較しても、大きな差はみられず“自宅で暮らしたい”が高水準で推移している。

	n	自宅中心に介護保険のサービス	自宅中心に家族や親族などから	家族や親族中心に介護保険	家族や親族中心に介護	安否確認サービスのある住宅	介護保険サービスのある住宅	安否確認と食事や入浴のサービスのある住宅	介護保険サービスのある施設	その他	わからない	無回答	自宅で暮らしたい	
令和4年度	1,516	41.1	5.0	0.9	0.3	4.1	8.8	3.1	8.7	13.7	2.4	17.5	6.1	46.1
令和元年度	1,447	38.7	6.5	0.8	0.4	3.4	10.0	3.1	8.7	17.6	2.4	17.3	2.9	45.2

〔住居形態別 / 高齢者一般〕

○住居形態別にみると、『持家』は、“自宅で暮らしたい”が5割超で、他の住居形態と比べて高くなっている。

	n	(%)										自宅で暮らしたい
		自宅で、介護保険のサービスを中心に利用したい	自宅で、家族や親族などからの介護を中心に受けたい	家族や親族などの家に住み替えて、介護保険のサービスを中心	家族や親族などの家から介護を中心							
高齢者一般	1,516	41.1	5.0	0.9	0.3	4.1	8.8	13.7	2.4	17.5	6.1	46.1
持家	1,081	46.9	5.9	0.5	0.2	2.8	8.1	14.7	1.9	15.3	3.7	52.8
賃貸住宅	274	32.5	2.9	2.6	1.1	7.3	10.2	13.5	1.5	24.5	4.0	35.4
その他	119	22.7	3.4	0.8	-	10.1	11.8	9.2	10.1	24.4	7.6	26.1

〔世帯構成別 / 高齢者一般〕

○世帯構成別にみると、『1人暮らし』は、“自宅で暮らしたい”が4割近くで、他の世帯構成と比べて低くなっている。

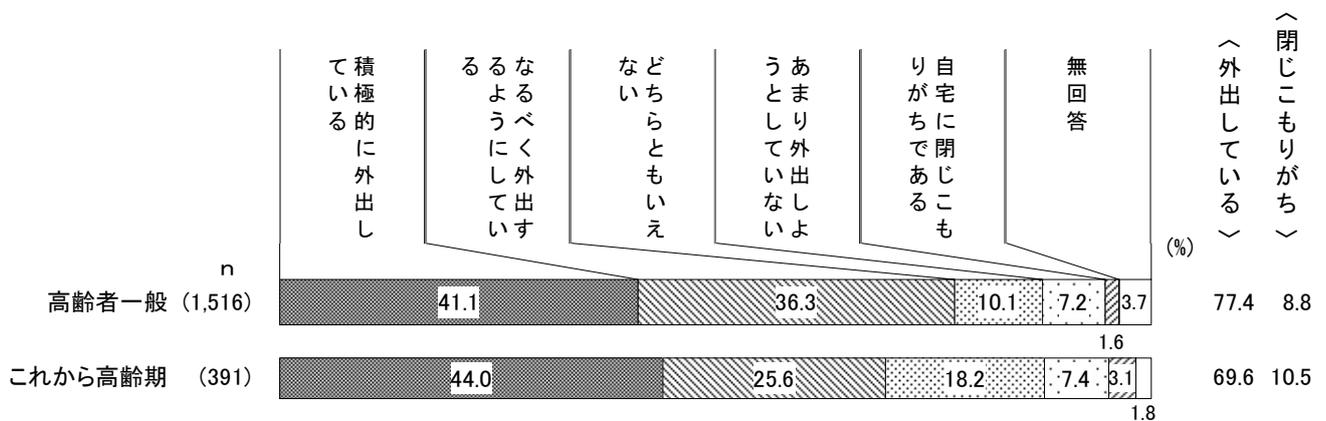
	n	(%)										自宅で暮らしたい
		自宅で、介護保険のサービスを中心に利用したい	自宅で、家族や親族などからの介護を中心に受けたい	家族や親族などの家に住み替えて、介護保険のサービスを中心	家族や親族などの家から介護を中心							
高齢者一般	1,516	41.1	5.0	0.9	0.3	4.1	8.8	13.7	2.4	17.5	6.1	46.1
1人暮らし	489	35.8	2.5	0.6	1.0	6.3	9.4	12.9	1.8	22.3	7.4	38.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	404	40.8	5.9	1.5	-	4.0	9.4	16.8	3.0	14.4	4.2	46.8
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	95	38.9	6.3	1.1	-	-	13.7	15.8	2.1	17.9	4.2	45.3
子との2世帯	269	49.1	8.6	0.7	-	2.6	7.8	11.5	1.1	13.8	4.8	57.6
その他	218	45.0	3.7	0.5	-	2.3	6.9	12.8	4.1	17.4	7.3	48.6

3. 社会参加

(1) 外出状況

①外出に対する積極性

- いずれの調査でも「積極的に外出している」が最も高く、高齢者一般で41.1%、これから高齢期で44.0%となっている。
- “外出している”（「積極的に外出している」と「なるべく外出するようにしている」の合計）は、高齢者一般で77.4%、これから高齢期で69.6%となっている
- “閉じこもりがち”（「あまり外出しようとしていない」と「自宅に閉じこもりがちである」の合計）は、高齢者一般で8.8%、これから高齢期で10.5%となっている。



[経年比較 / 高齢者一般]

- 令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、“外出している”が4.8ポイント低くなっている。

	n	積極的に外出している	なるべく外出するようにしている	どちらともいえない	あまり外出しない	自宅に閉じこもりがちである	無回答	外出している	閉じこもりがち
令和4年度	1,516	41.1	36.3	10.1	7.2	1.6	3.7	77.4	8.8
令和元年度	1,447	45.7	36.5	8.6	5.4	1.5	2.2	82.2	6.9

[情報通信機器の使用状況別 / 高齢者一般]

○情報通信機器の使用状況別にみると、『何かしらの情報通信機器を使用する』は、“外出している”が8割超で、『使用しない』と比べて高くなっている。

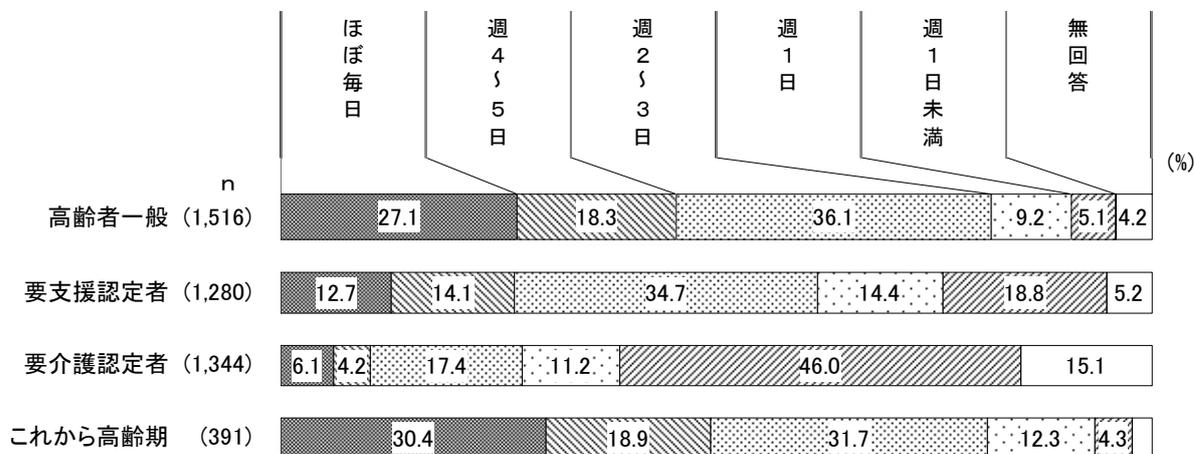
	n	（％）						外出している	閉じこもりがち
		積極的に外出している	なるべく外出する	どちらともいえない	あまり外出しない	がちである	自宅に閉じこもりがちである		
高齢者一般	1,516	41.1	36.3	10.1	7.2	1.6	3.7	77.4	8.8
何かしらの情報通信機器を使用する	1,028	46.1	36.3	9.4	5.4	1.0	1.8	82.4	6.3
使用しない	488	30.5	36.5	11.5	11.1	2.9	7.6	67.0	13.9

②目的別外出頻度

ア. 買物で外出する頻度

○週1日以上外出している人は、高齢者一般で約9割、要支援認定者で7割半ば、要介護認定者で約4割、これから高齢期で9割超となっている。

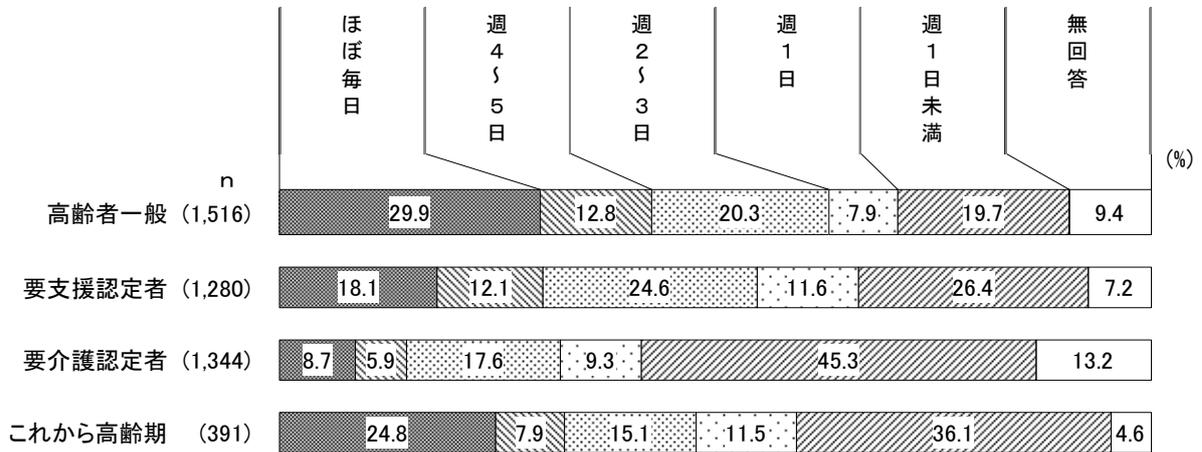
○「週1日未満」は、高齢者一般で5.1%、要支援認定者で18.8%、要介護認定者で46.0%、これから高齢期で4.3%となっている。



2.3

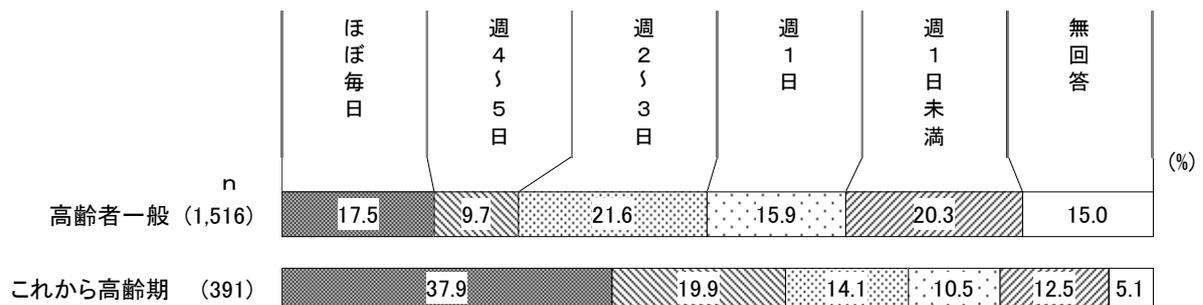
イ. 散歩で外出する頻度

- 週1日以上外出している人は、高齢者一般で約7割、要支援認定者で6割半ば、要介護認定者で4割超、これから高齢期で約6割となっている。
- 「週1日未満」は、高齢者一般で19.7%、要支援認定者で26.4%、要介護認定者で45.3%、これから高齢期で36.1%となっている。



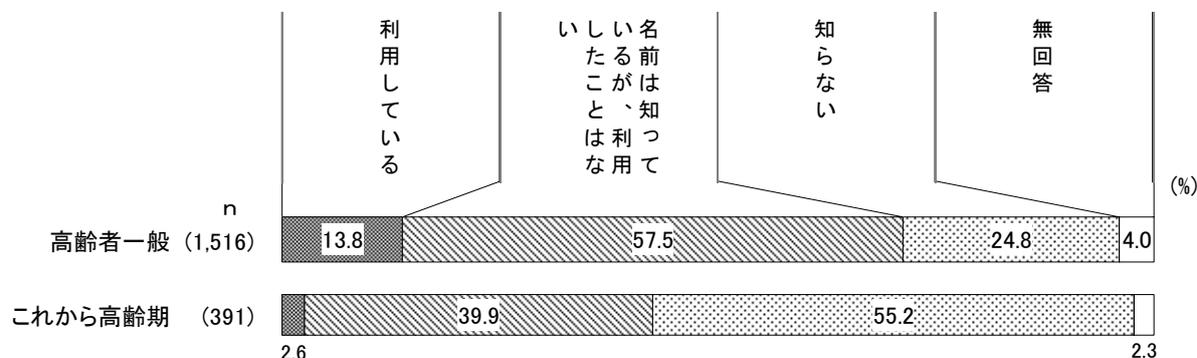
ウ. 買い物、散歩以外で外出する頻度

- 週1日以上外出している人は、高齢者一般で6割半ば、これから高齢期で8割超となっている。
- 「週1日未満」は、高齢者一般で20.3%、これから高齢期で12.5%となっている。



③はつらつセンター・敬老館・地域集会施設の利用状況

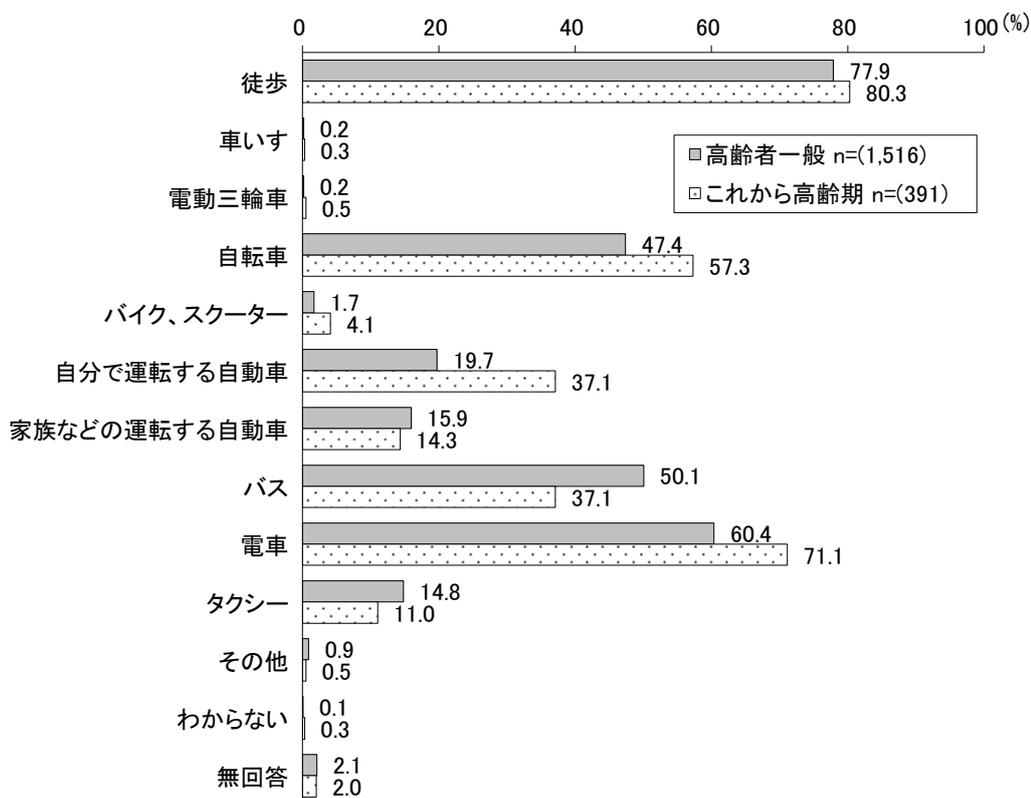
- 高齢者一般では、「利用している」が13.8%、「名前は知っているが、利用したことはない」が57.5%、「知らない」が24.8%となっている。
- これから高齢期では、「利用している」が2.6%、「名前は知っているが、利用したことはない」が39.9%、「知らない」が55.2%となっている。



④外出手段

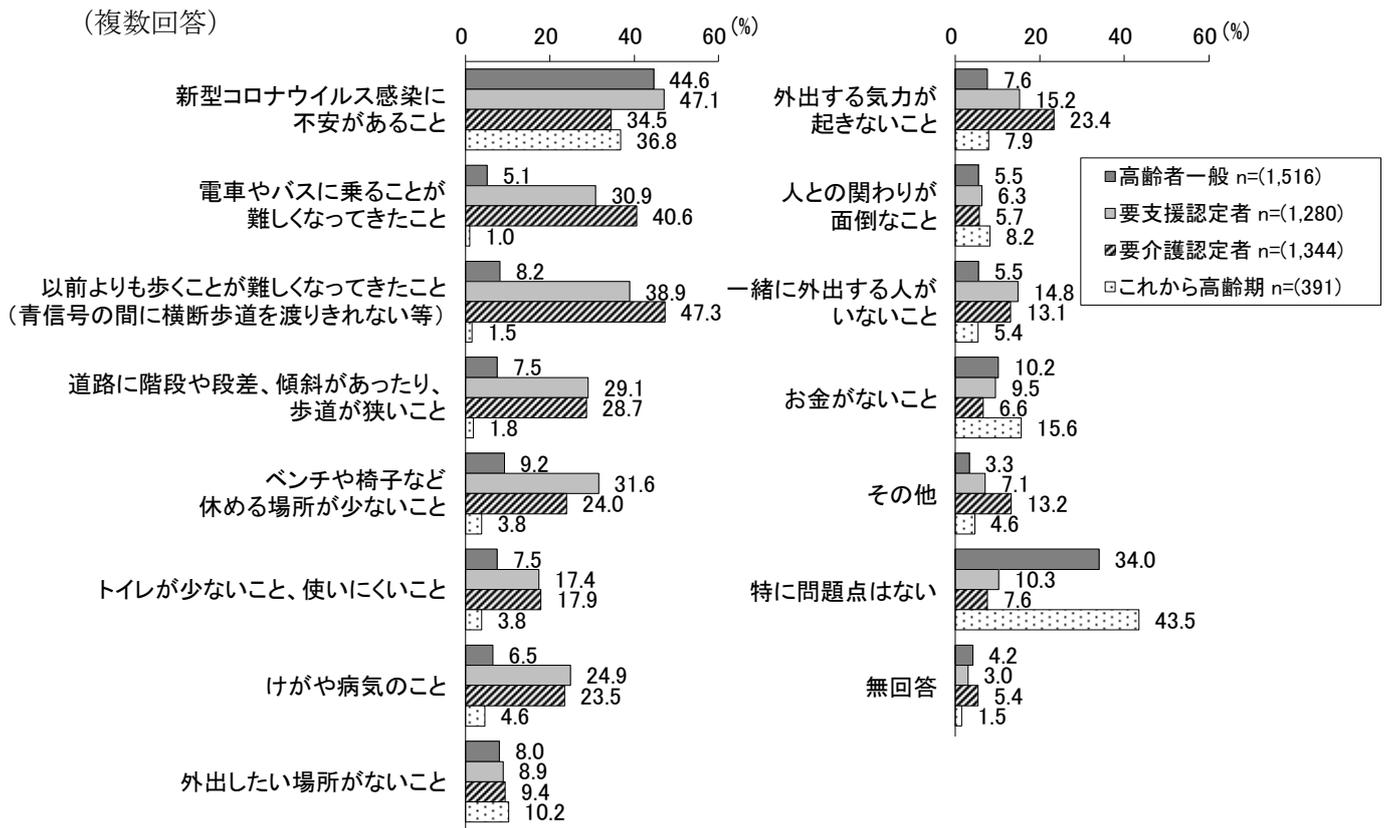
- 高齢者一般では、「徒歩」(77.9%)が最も高く、次いで「電車」(60.4%)、「バス」(50.1%)、「自転車」(47.4%)の順となっている。
- これから高齢期では、「徒歩」(80.3%)が最も高く、次いで「電車」(71.1%)、「自転車」(57.3%)の順となっている。

(複数回答)



⑤外出をためらってしまうような問題点

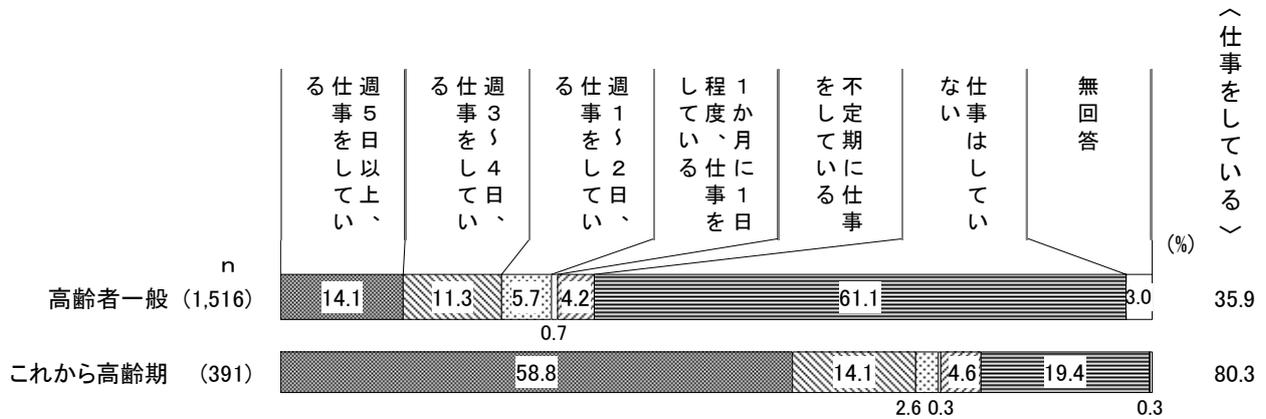
- 高齢者一般では、「特に問題点はない」が34.0%となっている。外出をためらう問題点としては、「新型コロナウイルス感染に不安があること」(44.6%)、「お金がないこと」(10.2%)が上位に挙げられている。
- 要支援認定者では、「新型コロナウイルス感染に不安があること」(47.1%)が最も高く、次いで「以前よりも歩くことが難しくなってきたこと(青信号の間に横断歩道を渡りきれない等)」(38.9%)、「ベンチや椅子など休める場所が少ないこと」(31.6%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「以前よりも歩くことが難しくなってきたこと(青信号の間に横断歩道を渡りきれない等)」(47.3%)が最も高く、次いで「電車やバスに乗ることが難しくなってきたこと」(40.6%)、「新型コロナウイルス感染に不安があること」(34.5%)の順となっている。
- これから高齢期では、「特に問題点はない」が43.5%となっている。外出をためらう問題点としては、「新型コロナウイルス感染に不安があること」(36.8%)、「お金がないこと」(15.6%)が上位に挙げられている。



(2) 就労状況

①就労状況

○“仕事をしている”（「仕事はしていない」と無回答を除く）は、高齢者一般で35.9%、これから高齢期で80.3%となっている。



[年代別 / 高齢者一般]

○年代別にみると、『前期高齢者』は、“仕事をしている”が5割半ばで、『後期高齢者』と比べて高くなっている。

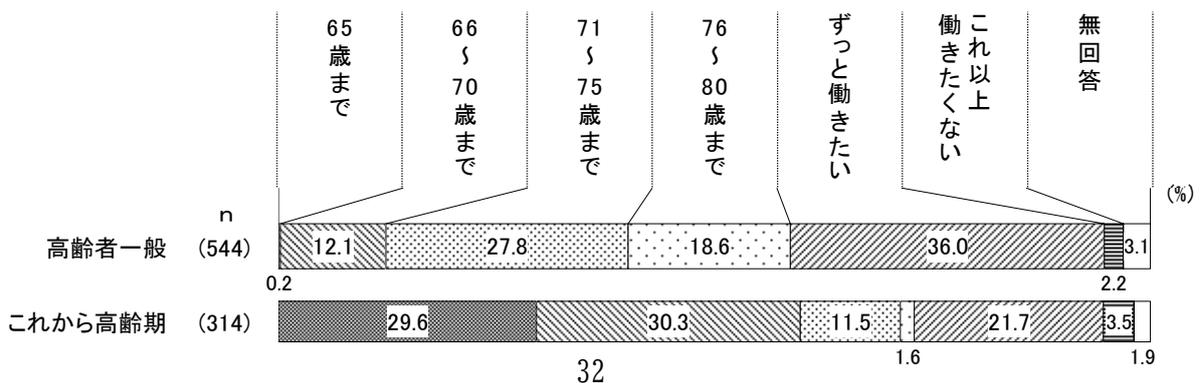
○「週5日以上、仕事をしている」は、『前期高齢者』で2割超となっている。

	n	週5日以上、仕事	週3-4日、仕事	週1-2日、仕事	1か月、仕事を1日程	不定期に仕事を	仕事はしていない	無回答	仕事をしている
高齢者一般	1,516	14.1	11.3	5.7	0.7	4.2	61.1	3.0	35.9
前期高齢者(65-74歳)	643	21.8	18.7	6.5	0.9	6.2	44.0	1.9	54.1
後期高齢者(75歳以上)	850	8.0	5.8	4.9	0.6	2.7	74.2	3.8	22.0

②働き続けたい年齢

○“仕事をしている”と回答した人の働き続けたい年齢は、高齢者一般では、「ずっと働きたい」(36.0%)が最も高く、次いで「71~75歳まで」(27.8%)、「76~80歳まで」(18.6%)の順となっている。70歳を超えても働き続けたいと回答した方は8割超を占めている。

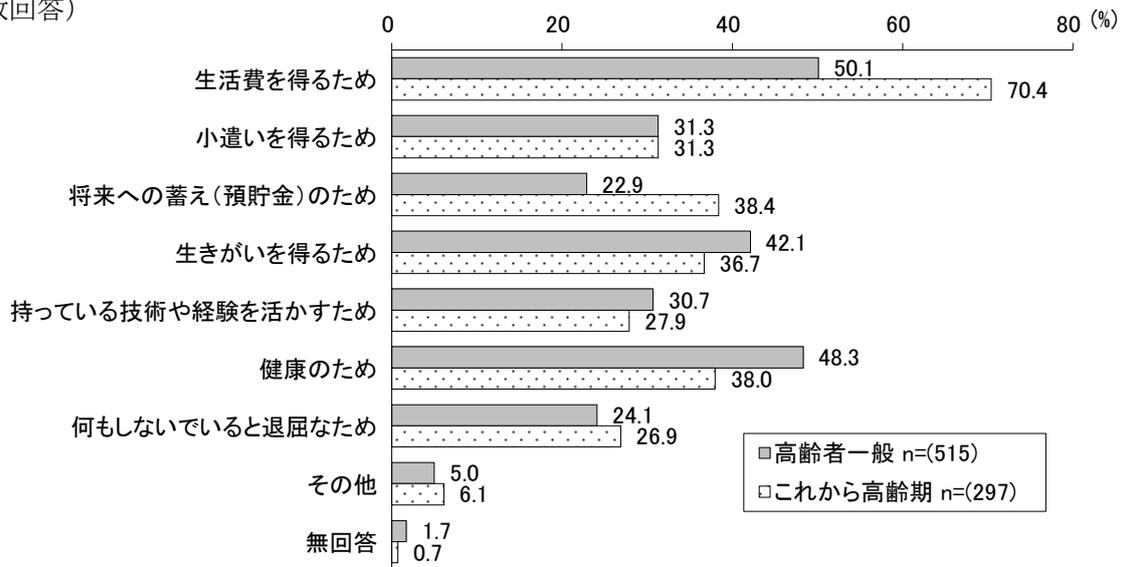
○これから高齢期では、「66~70歳まで」(30.3%)が最も高く、次いで「65歳まで」(29.6%)、「ずっと働きたい」(21.7%)の順となっている。



③働く理由

- “仕事をしている”と回答した人の働く理由は、高齢者一般では「生活費を得るため」(50.1%)が最も高く、次いで「健康のため」(48.3%)、「生きがいを得るため」(42.1%)の順となっている。
- これから高齢期では、「生活費を得るため」(70.4%)が最も高く、次いで「将来への蓄え(預貯金)のため」(38.4%)、「健康のため」(38.0%)の順となっている。

(複数回答)



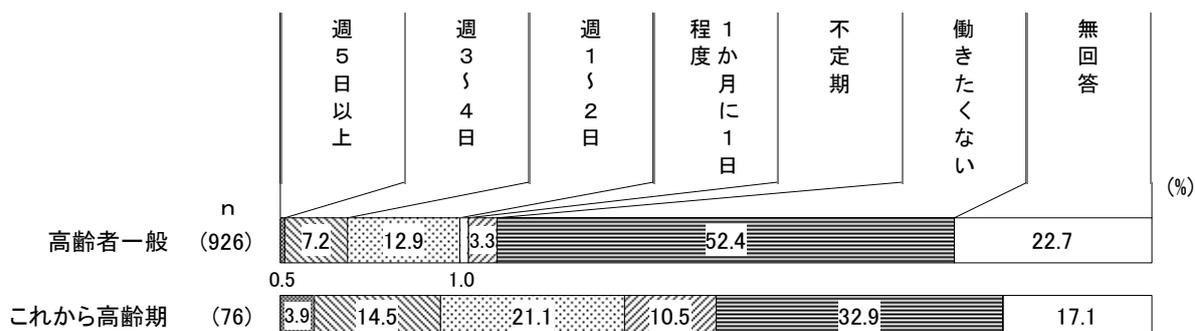
[経年比較 / 高齢者一般]

- 過去の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、「生活費を得るため」、「持っている技術や経験を活かすため」、「将来への蓄え(預貯金)のため」のポイントが高くなっている。

	n	生活費を得るため	健康のため	生きがいを得るため	小遣いを得るため	持っている技術や経験を活かすため	何もしないでいると退屈なため	将来への蓄え(預貯金)のため	その他	無回答
令和4年度	515	50.1	48.3	42.1	31.3	30.7	24.1	22.9	5.0	1.7
令和元年度	502	46.6	55.4	42.0	32.5	26.9	29.1	18.3	6.6	2.2
平成28年度	491	48.9	53.0	43.2	26.7	24.4	34.2	15.7	6.5	2.6

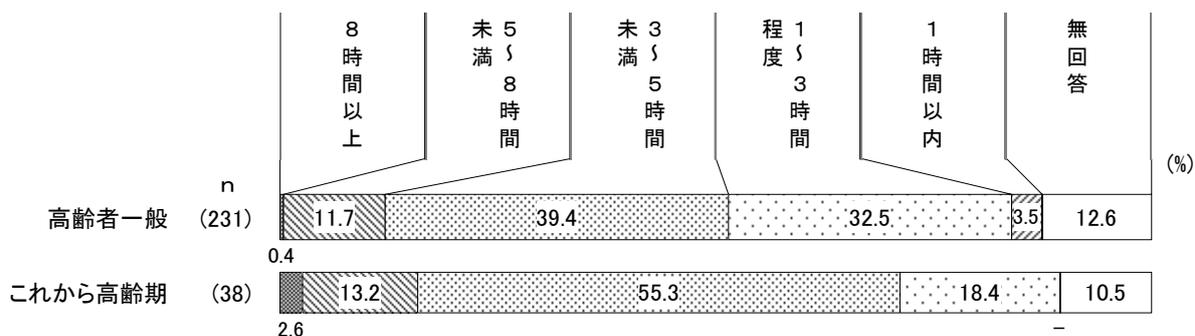
④希望する就労の頻度

- 「仕事はしていない」と回答した人の希望する就労の頻度は、高齢者一般では、「週1～2日」が12.9%、「週3～4日」が7.2%となっている。また、「働きたくない」が52.4%となっている。
- これから高齢期では、「週1～2日」が21.1%、「週3～4日」が14.5%となっている。また、「働きたくない」が32.9%となっている。



⑤希望する就労時間

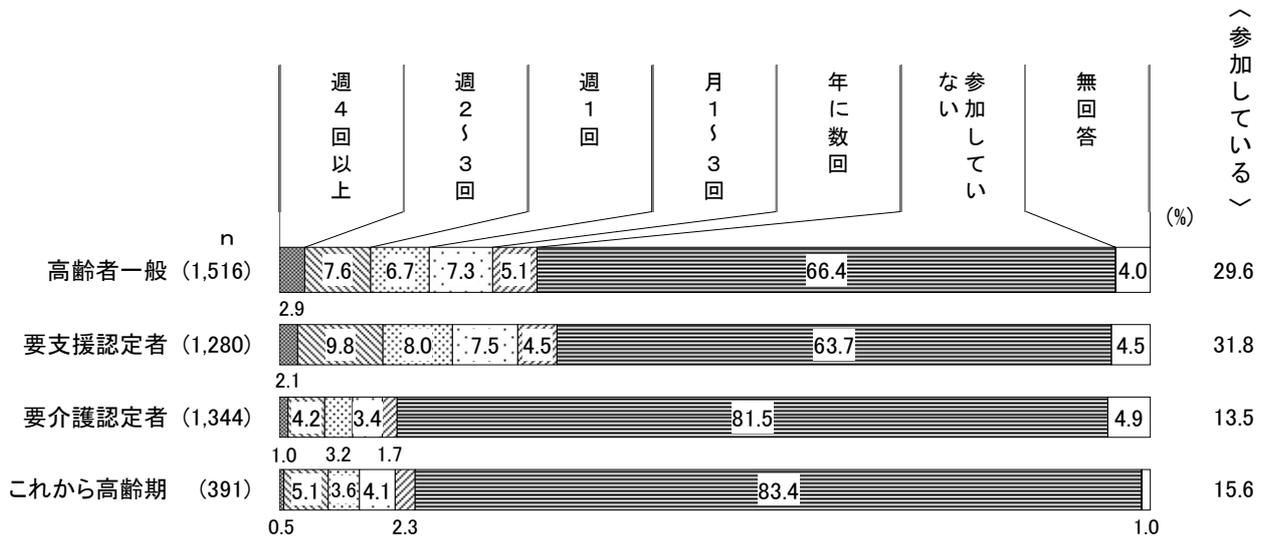
- 仕事は現在していないが就労意向はあると回答した人が希望する就労時間は、いずれの調査でも「3～5時間未満」が最も高く、高齢者一般で39.4%、これから高齢期で55.3%となっている。
- 高齢者一般では、「1～3時間程度」が3割超と、これから高齢期と比べて高くなっている。



(3) 地域活動への参加状況

①地域活動の参加頻度

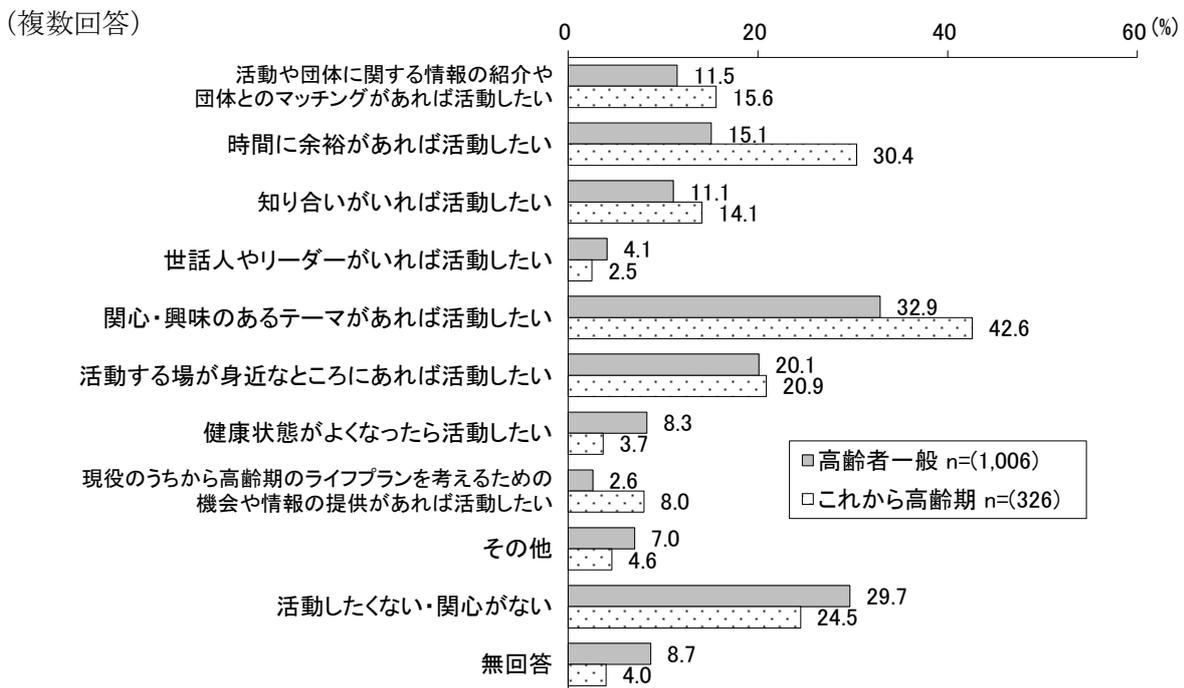
○地域活動（ボランティアや趣味・スポーツ関係のグループ、町内会・自治会、老人クラブなどの活動）に“参加している”（「参加していない」と無回答を除く）と回答した人は、高齢者一般で29.6%、要支援認定者で31.8%、要介護認定者で13.5%、これから高齢期で15.6%となっている。



②地域活動に参加するきっかけ

○地域活動に「参加していない」と回答した人の地域活動に参加するきっかけは、いずれの調査でも「関心・興味のあるテーマがあれば活動したい」が最も高く、高齢者一般で32.9%、これから高齢期で42.6%となっている。

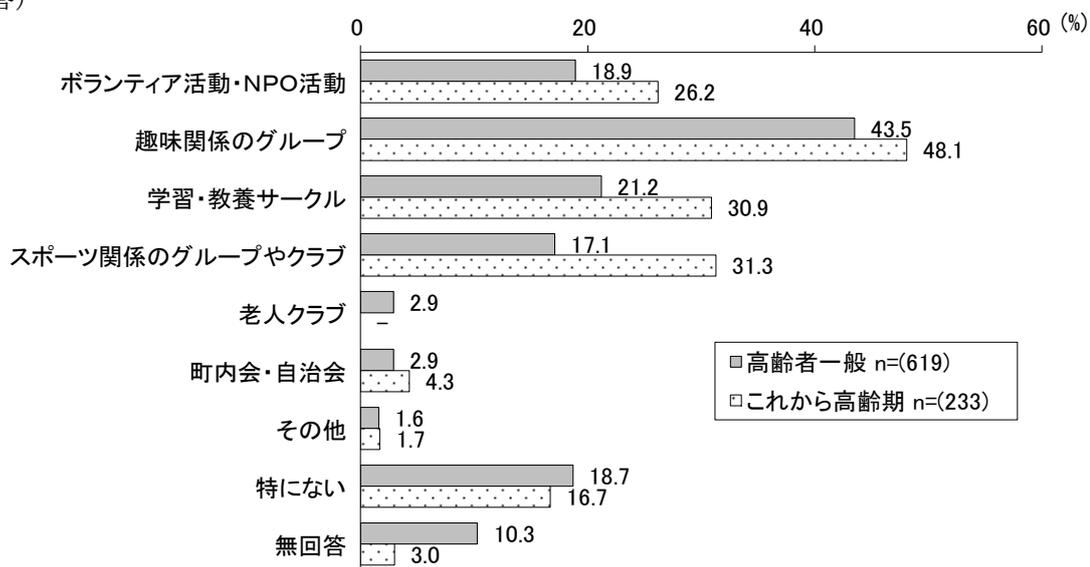
○これから高齢期では、「時間に余裕があれば活動したい」が約3割と、高齢者一般と比べて高くなっている。



③活動してみたい地域活動の分野

○地域活動に参加するきっかけがあれば活動したいと回答した人の活動してみたい活動分野は、いずれの調査でも「趣味関係のグループ」が最も高く、高齢者一般で43.5%、これから高齢期で48.1%となっている。

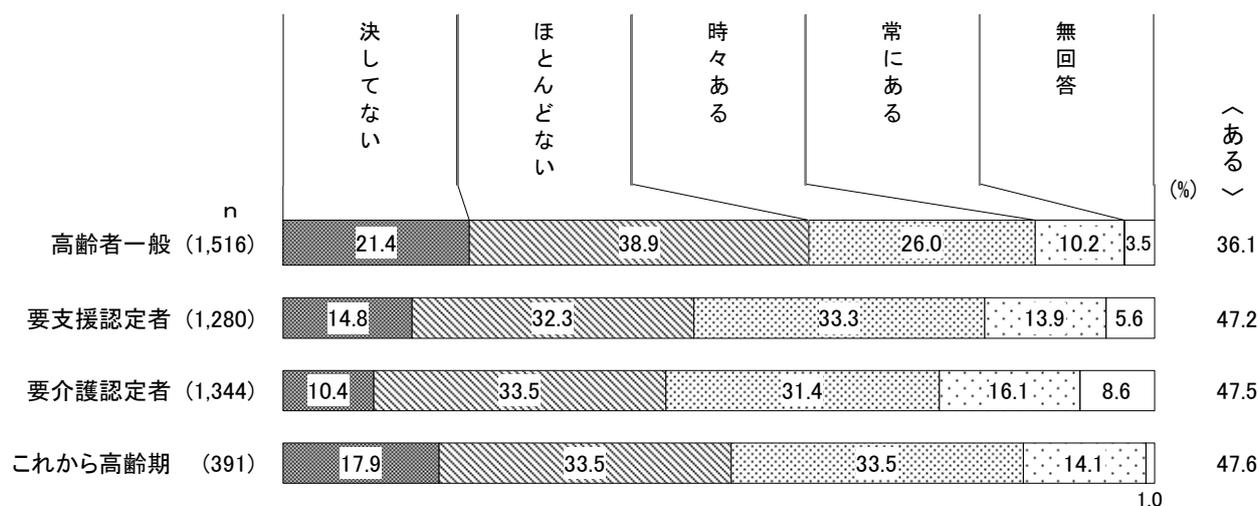
(複数回答)



(4) 孤立感

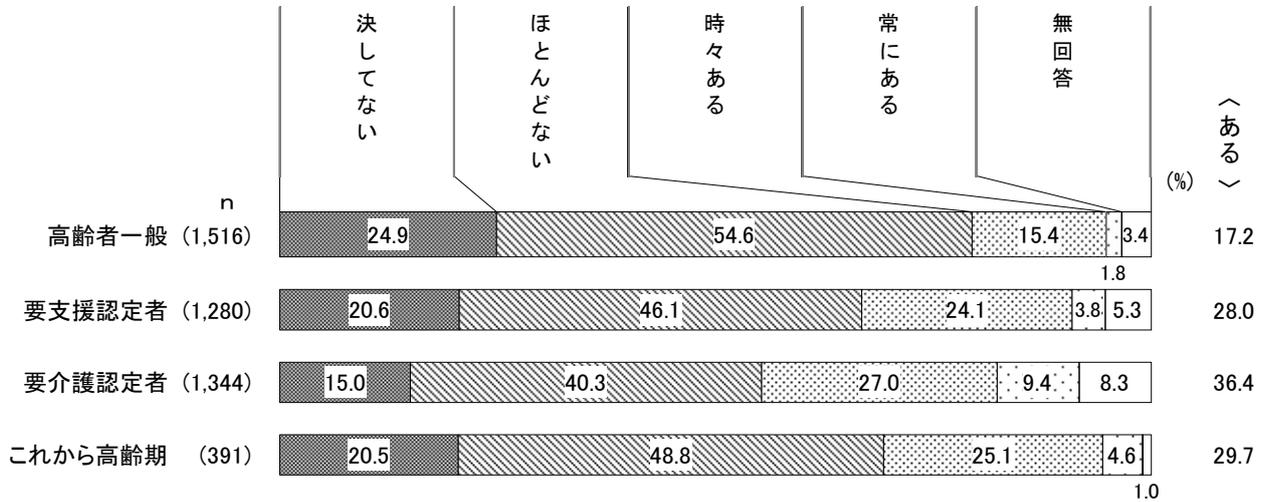
①人との付き合いがないと感じる頻度

○人との付き合いがないと感じることが“ある”（「常にある」と「時々ある」の合計）は、高齢者一般で36.1%、要支援認定者で47.2%、要介護認定者で47.5%、これから高齢期で47.6%となっている。



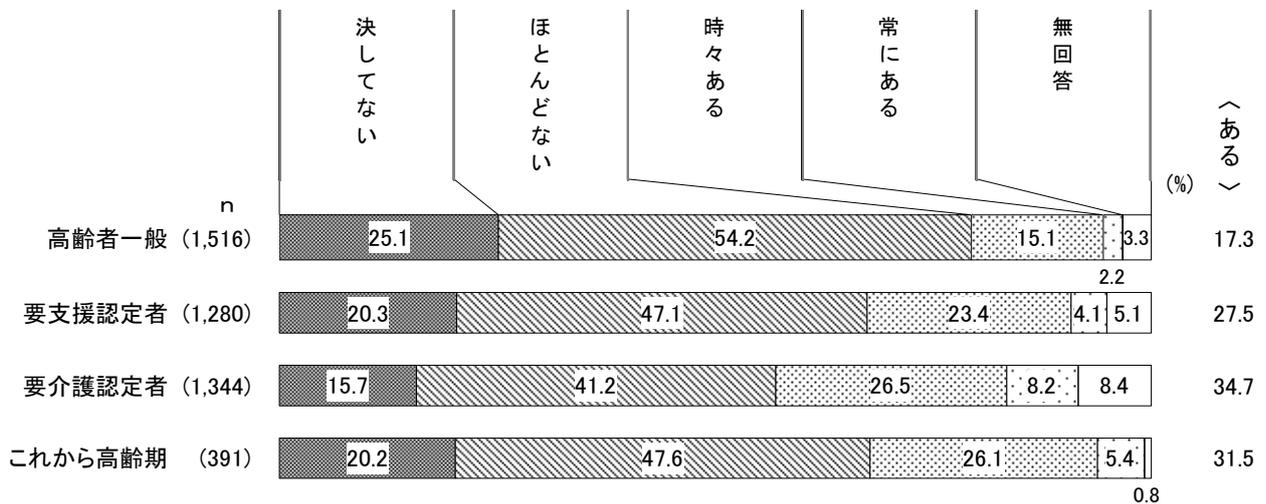
②取り残されていると感じる頻度

○取り残されていると感じることが“ある”（「常にある」と「時々ある」の合計）は、高齢者一般で17.2%、要支援認定者で28.0%、要介護認定者で36.4%、これから高齢期で29.7%となっている。



③他の人たちから孤立していると感じる頻度

○他の人たちから孤立していると感じることが“ある”（「常にある」と「時々ある」の合計）は、高齢者一般で17.3%、要支援認定者で27.5%、要介護認定者で34.7%、これから高齢期で31.5%となっている。



[世帯構成別 / 高齢者一般]

○世帯構成別にみると、『1人暮らし』は、“ある”が2割超で他の世帯構成と比べて高くなっている。

	n	決 して ない	ほ と ん ど ない	時 々 あ る	常 に あ る	無 回 答	あ る
高齢者一般	1,516	25.1	54.2	15.1	2.2	3.3	17.3
1人暮らし	489	23.9	48.5	18.6	4.3	4.7	22.9
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	404	23.5	60.1	14.1	1.0	1.2	15.1
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	95	32.6	54.7	10.5	1.1	1.1	11.6
子との2世帯	269	26.8	55.4	12.6	1.1	4.1	13.8
その他	218	25.7	55.5	14.7	1.8	2.3	16.5

[外出に対する積極性別 / 高齢者一般]

○外出に対する積極性別にみると、『閉じこもりがち』は、“ある”が34.6%で、『外出している』(14.6%)と比べて高くなっている。

○外出に対する積極性が低いほど、孤立を感じる頻度が高い傾向にある。

	n	決 して ない	ほ と ん ど ない	時 々 あ る	常 に あ る	無 回 答	あ る
高齢者一般	1,516	25.1	54.2	15.1	2.2	3.3	17.3
外出している	1,174	27.0	55.5	12.9	1.7	2.9	14.6
どちらともいえない	153	15.0	58.8	23.5	0.7	2.0	24.2
閉じこもりがち	133	21.1	40.6	25.6	9.0	3.8	34.6

[日常生活で困った場合の相談先の有無別 / 高齢者一般]

○日常生活で困った場合の相談先の有無別にみると、『相談先はない』は、“ある”が31.5%で、『相談先がある』(16.2%)と比べて高くなっている。

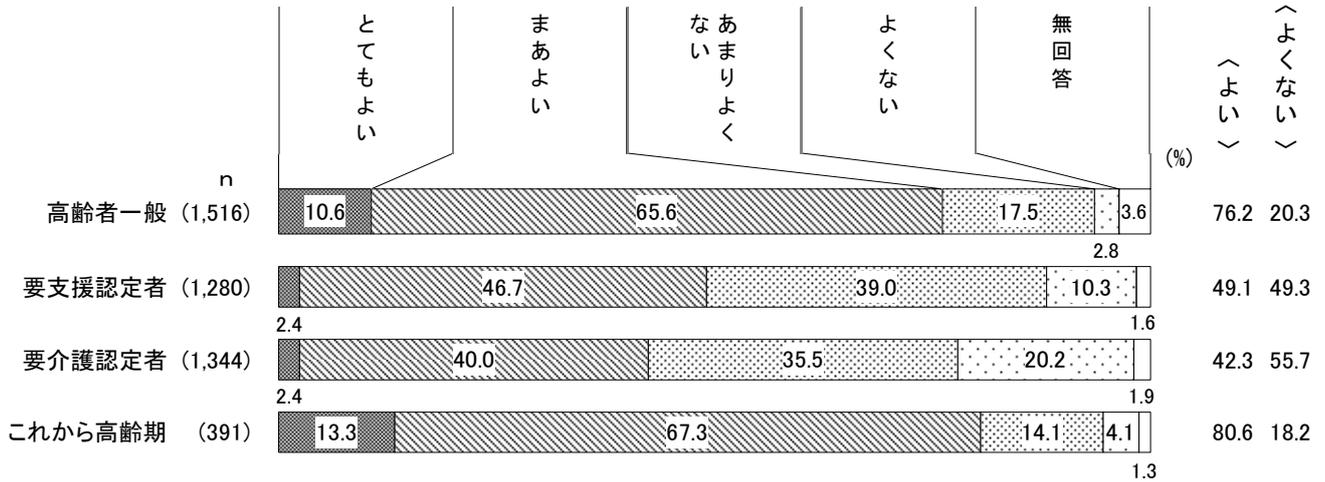
	n	決 して ない	ほ と ん ど ない	時 々 あ る	常 に あ る	無 回 答	あ る
高齢者一般	1,516	25.1	54.2	15.1	2.2	3.3	17.3
相談先がある	1,357	25.8	55.6	14.7	1.5	2.4	16.2
相談先はない	89	18.0	47.2	22.5	9.0	3.4	31.5

4. 健康・介護予防・フレイル予防

(1) 健康

①健康状態

○“よい”（「とてもよい」と「まあよい」の合計）は、高齢者一般で76.2%、要支援認定者で49.1%、要介護認定者で42.3%、これから高齢期で80.6%となっている。



[介護予防・フレイル予防の取組状況別 / 高齢者一般]

○介護予防・フレイル予防の取組状況別にみると、『取り組んでいる』は、“よい”が80.3%で、『何もしていない』(64.2%)と比べて高くなっている。

	n	健康状態 (%)					介護予防・フレイル予防の取組状況 (%)	
		とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	よい	よくない
高齢者一般	1,516	10.6	65.6	17.5	2.8	3.6	76.2	20.3
取り組んでいる	1,251	10.9	69.5	16.4	2.0	1.3	80.3	18.4
何もしていない	218	9.6	54.6	26.6	7.3	1.8	64.2	33.9

[地域活動の参加頻度別 / 要支援認定者、要介護認定者]

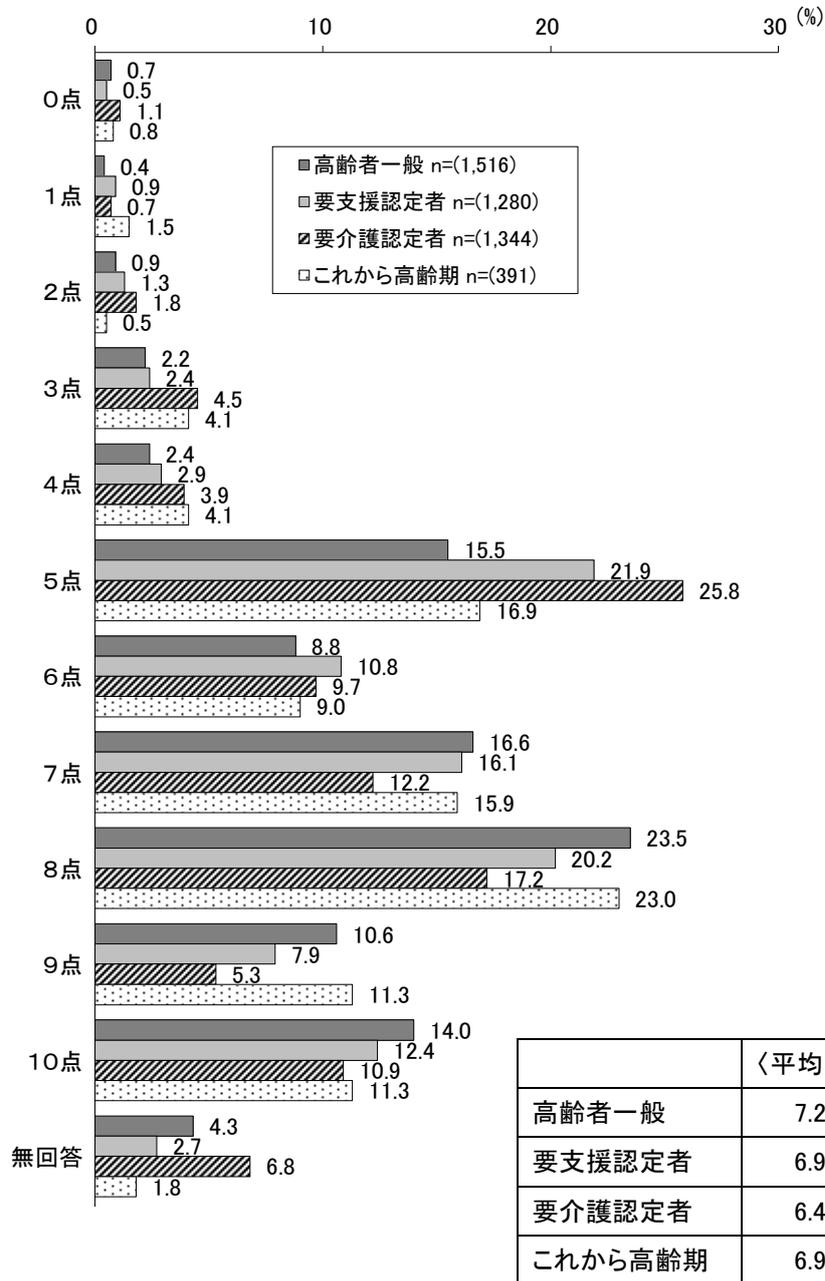
○地域活動の参加頻度別にみると、いずれの調査でも『参加している』は、“よい”が『参加していない』と比べて高くなっている。

	n	(%)					よい	よくない
		とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答		
要支援認定者	1,280	2.4	46.7	39.0	10.3	1.6	49.1	49.3
参加している	407	3.4	54.5	34.9	6.6	0.5	58.0	41.5
参加していない	815	2.0	44.2	41.2	11.8	0.9	46.1	53.0
要介護認定者	1,344	2.4	40.0	35.5	20.2	1.9	42.3	55.7
参加している	182	3.8	50.0	35.2	10.4	0.5	53.9	45.6
参加していない	1,096	2.3	38.1	36.4	22.4	0.8	40.4	58.8

②幸福度

○高齢者一般、これから高齢期では「8点」が最も高く、それぞれ23.5%、23.0%となっている。平均点は、それぞれ7.2点、6.9点となっている。

○要支援認定者、要介護認定者では「5点」が最も高く、それぞれ21.9%、25.8%となっている。平均点は、それぞれ6.9点、6.4点となっている。



[経年比較 / 高齢者一般]

○過去の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果と大きな差はみられない。

(%)

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
令和4年度	1,516	0.7	0.4	0.9	2.2	2.4	15.5	8.8	16.6	23.5	10.6	14.0	4.3	7.2
令和元年度	1,447	0.3	0.3	0.8	1.7	2.4	16.6	10.4	13.3	25.1	10.0	15.5	3.6	7.3
平成28年度	1,494	0.5	0.5	1.0	2.0	3.3	16.7	8.8	13.3	21.7	11.6	17.0	3.6	7.3

[暮らし向きの感じ方別 / 高齢者一般]

○暮らし向きの感じ方別にみると、暮らし向きにゆとりがあると幸福度が高い傾向がみられる。

(%)

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
高齢者一般	1,516	0.7	0.4	0.9	2.2	2.4	15.5	8.8	16.6	23.5	10.6	14.0	4.3	7.2
苦しい	492	1.4	1.2	2.0	3.9	5.3	25.8	9.1	17.7	16.1	7.5	6.7	3.3	6.3
ふつう	793	0.4	-	0.4	1.6	1.1	12.5	9.6	17.0	26.5	10.3	16.1	4.4	7.5
ゆとりがある	200	-	-	0.5	0.5	1.0	3.5	6.0	13.5	30.5	18.0	23.0	3.5	8.2

[健康状態別 / 高齢者一般]

○健康状態別にみると、健康状態がよいと幸福度が高い傾向がみられる。

(%)

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
高齢者一般	1,516	0.7	0.4	0.9	2.2	2.4	15.5	8.8	16.6	23.5	10.6	14.0	4.3	7.2
よい	1,155	0.2	0.2	0.4	1.3	2.1	14.1	7.6	17.2	26.1	12.5	16.5	1.8	7.5
よくない	307	2.6	1.3	2.6	6.2	3.9	21.8	14.3	16.6	16.9	4.9	6.2	2.6	6.1

[外出に対する積極性別 / 高齢者一般]

○外出に対する積極性別にみると、外出に対する積極性が高いと幸福度が高い傾向がみられる。

(%)

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
高齢者一般	1,516	0.7	0.4	0.9	2.2	2.4	15.5	8.8	16.6	23.5	10.6	14.0	4.3	7.2
外出している	1,174	0.4	0.2	0.7	1.6	2.0	15.2	8.6	15.7	24.6	11.8	15.5	3.7	7.4
どちらともいえない	153	0.7	0.7	0.7	5.2	3.9	17.6	8.5	20.3	22.2	5.9	9.8	4.6	6.7
閉じこもりがち	133	3.0	2.3	3.0	3.8	4.5	17.3	12.8	21.1	16.5	5.3	6.8	3.8	6.2

[介護予防・フレイル予防の取組状況別 / 高齢者一般]

○介護予防・フレイル予防の取組状況別にみると、介護予防・フレイル予防に取り組んでいると幸福度が高い傾向がみられる。

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
高齢者一般	1,516	0.7	0.4	0.9	2.2	2.4	15.5	8.8	16.6	23.5	10.6	14.0	4.3	7.2
取り組んでいる	1,251	0.3	0.1	0.4	1.7	2.1	14.5	8.9	17.7	25.6	12.1	14.6	2.2	7.4
何もしていない	218	2.3	2.3	4.1	6.0	5.0	22.9	10.1	13.3	16.5	4.1	11.5	1.8	6.1

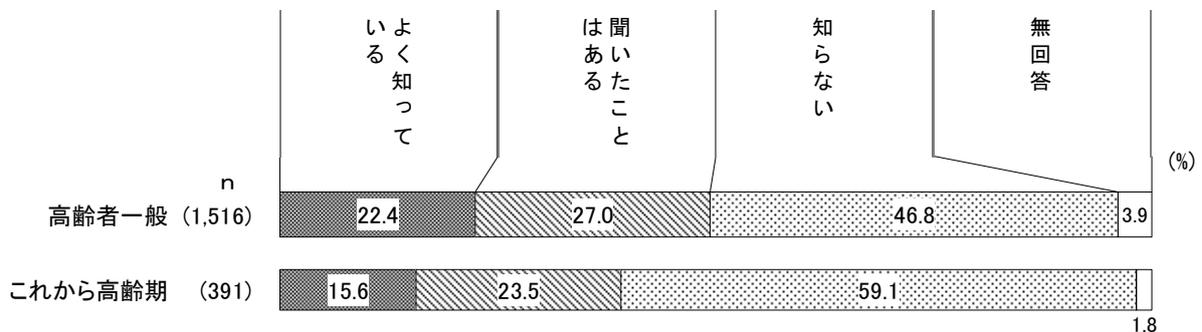
[健康状態別 / 要支援認定者、要介護認定者]

○健康状態別にみると、要支援認定者、要介護認定者ともに、健康状態がよいと幸福度が高い傾向がみられる。

	n	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
要支援認定者	1,280	0.5	0.9	1.3	2.4	2.9	21.9	10.8	16.1	20.2	7.9	12.4	2.7	6.9
よい	629	-	0.2	0.3	0.2	1.4	16.9	8.7	17.2	25.8	10.7	17.3	1.4	7.5
よくない	631	1.0	1.7	2.2	4.8	4.4	27.4	13.2	15.4	15.1	5.1	7.8	2.1	6.2
要介護認定者	1,344	1.1	0.7	1.8	4.5	3.9	25.8	9.7	12.2	17.2	5.3	10.9	6.8	6.4
よい	569	0.2	-	0.7	0.9	1.1	22.1	9.1	14.1	23.4	7.4	17.0	4.0	7.3
よくない	749	1.9	1.3	2.7	7.5	6.1	29.4	10.5	10.8	13.0	3.9	6.5	6.4	5.8

(2) フレイルの認知度

○“知っている”（「よく知っている」と「聞いたことはある」の合計）は、高齢者一般で約5割、これから高齢期で約4割となっている。

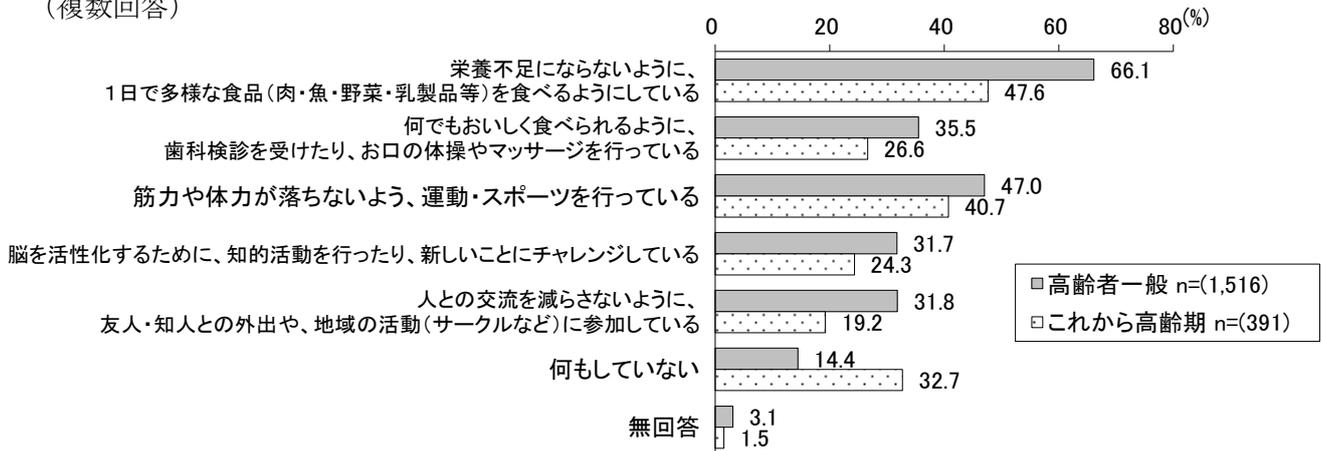


(3) 介護予防・フレイル予防

①介護予防・フレイル予防の取組状況

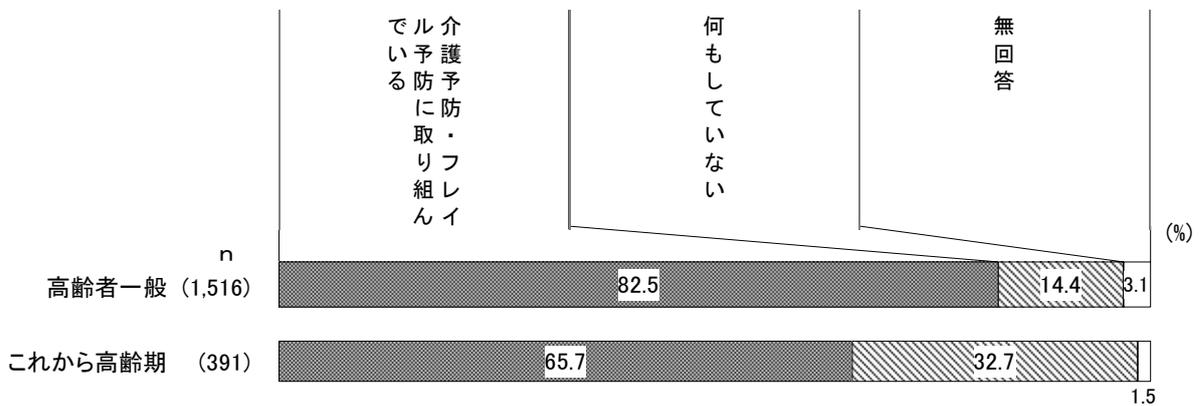
○いずれの調査でも「栄養不足にならないように、1日で多様な食品（肉・魚・野菜・乳製品等）を食べるようにしている」が最も高く、高齢者一般で66.1%、これから高齢期で47.6%となっている。

(複数回答)



[介護予防・フレイル予防の取組状況]

○“介護予防・フレイル予防に取り組んでいる”(「何もしていない」と無回答を除く)は、高齢者一般で82.5%、これから高齢期で65.7%となっている。



〔性・年代別 / 高齢者一般〕

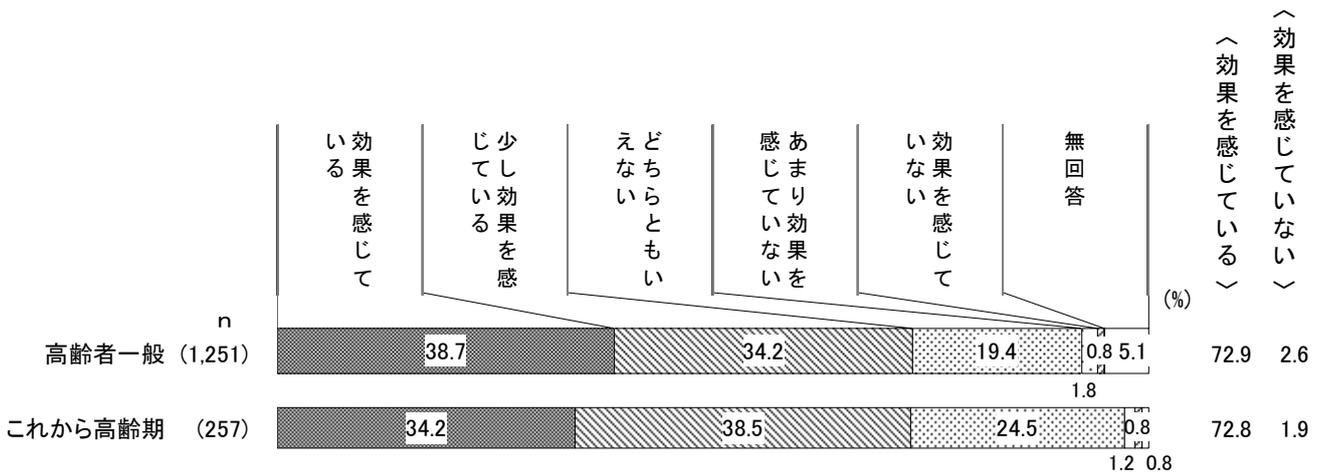
○性・年代別にみると、『前期高齢者』、『後期高齢者』ともに、“介護予防・フレイル予防に取り組んでいる”は、『女性』が『男性』と比べて高くなっている。

(%)

	n	多様な食品を食べるようになっている（肉・魚・野菜・乳製品）	栄養不足にならないよう（野菜・乳製品）	歯科検診を受ける（歯のケア）	何でもおいしく食べられるように（噛み砕く）	筋力や体力が落ちないように（運動・スポーツ）	行ったり新しいことにチャレンジ	脳活性化するために、知的活動	（サークルなど）に参加している	人との交流を減らさないように（友人・知人など）	何もししていない	無回答	介護予防・フレイル予防に取り組んでいる
高齢者一般	1,516	66.1	35.5	47.0	31.7	31.8	14.4	3.1					82.5
男性／前期高齢者	307	52.1	24.8	48.2	33.6	19.9	25.1	0.7					74.3
男性／後期高齢者	332	62.0	29.8	46.7	27.1	26.5	16.0	3.6					80.4
女性／前期高齢者	335	71.0	38.5	48.4	32.2	35.5	11.0	3.3					85.7
女性／後期高齢者	511	73.8	44.4	45.6	33.3	39.5	9.6	3.9					86.5

②介護予防・フレイル予防の主観的な効果

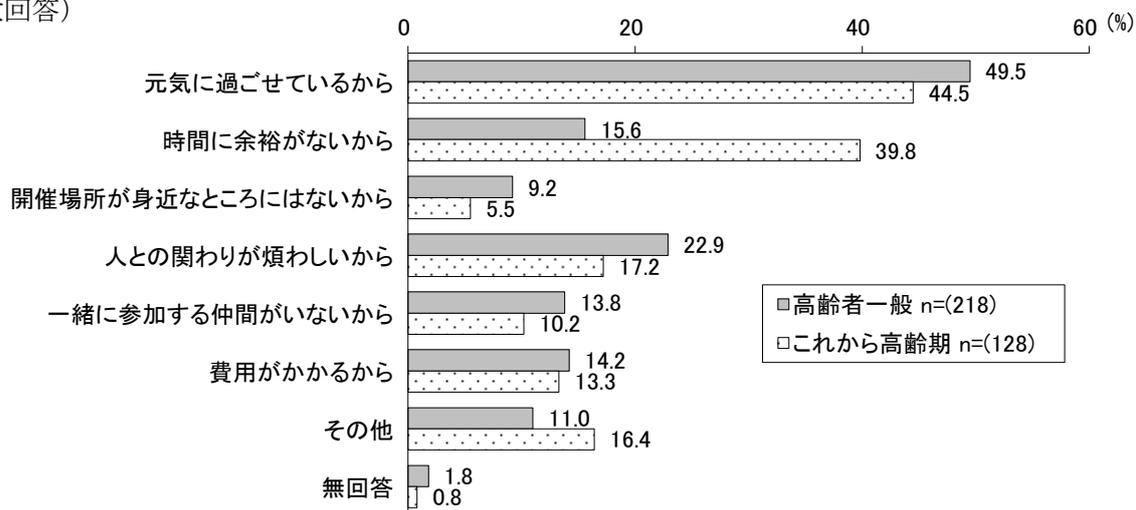
○“介護予防・フレイル予防に取り組んでいる”と回答した人の取組に対する主観的な効果は、“効果を感じている”（「効果を感じている」と「少し効果を感じている」の合計）が、高齢者一般で72.9%、これから高齢期で72.8%となっている。



③介護予防・フレイル予防に取り組んでいない理由

○介護予防・フレイル予防につながる取組を何もしていないと回答した人の取り組んでいない理由は、いずれの調査でも「元気に過ごせているから」が最も高く、高齢者一般で49.5%、これから高齢期で44.5%となっている。これから高齢期では、次いで「時間に余裕がないから」(39.8%)となっている。

(複数回答)



[性・年代別／ 高齢者一般]

○性・年代別にみると、『前期高齢者』、『後期高齢者』ともに、「一緒に参加する仲間がないから」は、『男性』が『女性』と比べて高くなっている。

○『男性』、『女性』ともに、「時間に余裕がないから」は、『前期高齢者』が『後期高齢者』と比べて高くなっている。

	n	元気に過ごせているから	時間に余裕がないから	開催場所は身近なところにはないから	人との関わりが煩わしいから	一緒に参加する仲間がないから	費用がかかるから	その他	無回答
高齢者一般	218	49.5	15.6	9.2	22.9	13.8	14.2	11.0	1.8
男性／前期高齢者	77	46.8	16.9	10.4	19.5	15.6	14.3	13.0	2.6
男性／後期高齢者	53	50.9	7.5	7.5	30.2	20.8	17.0	7.5	-
女性／前期高齢者	37	56.8	27.0	10.8	24.3	5.4	8.1	8.1	2.7
女性／後期高齢者	49	49.0	12.2	8.2	20.4	10.2	16.3	12.2	2.0

5. 介護保険

(1) 要介護認定の状況

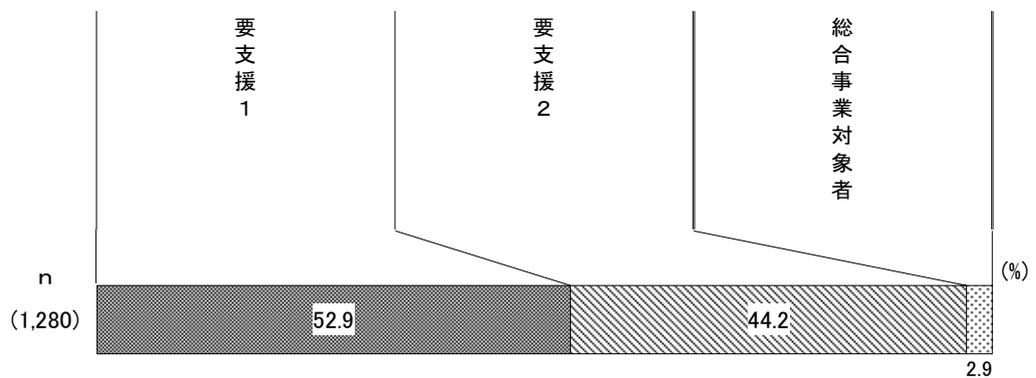
① 要介護度

○要支援認定者では、「要支援1」が52.9%、「要支援2」が44.2%、「総合事業対象者」が2.9%となっている。

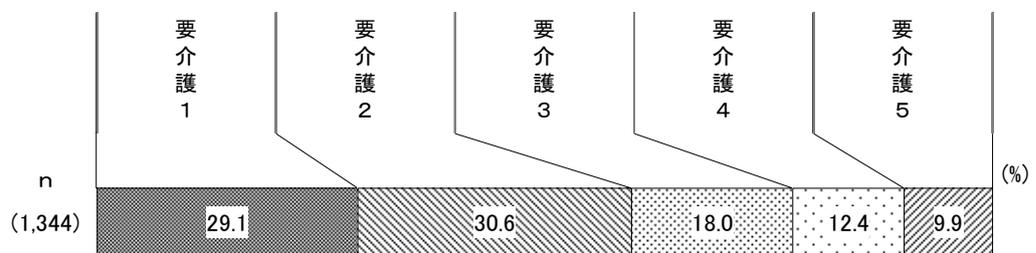
○要介護認定者では、“軽度”（「要介護1」と「要介護2」の合計）が59.7%、“中重度”（「要介護3」、「要介護4」、「要介護5」の合計）が40.3%となっている。

○特養入所待機者では、“軽度”が3.2%、“中重度”が88.1%となっている。

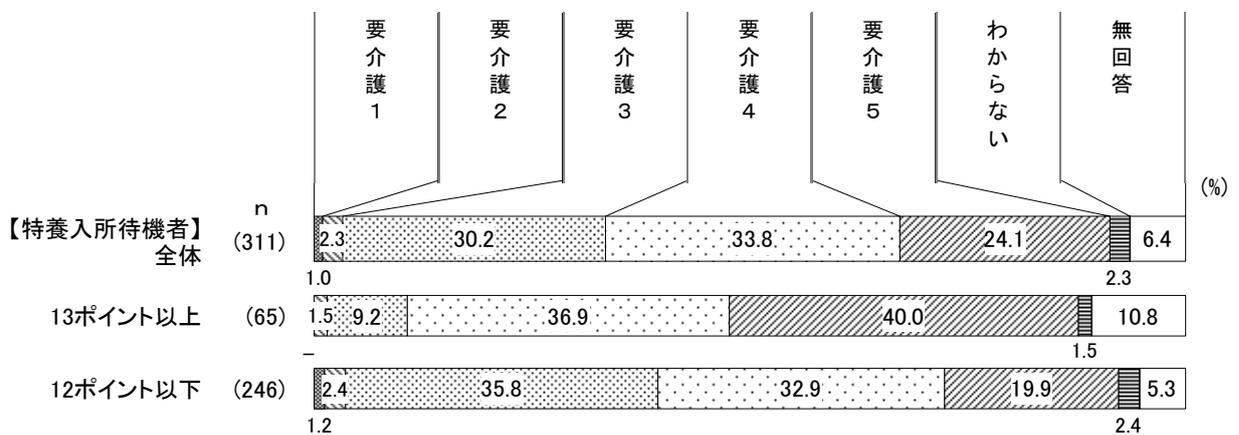
要支援認定者



要介護認定者



特養入所待機者

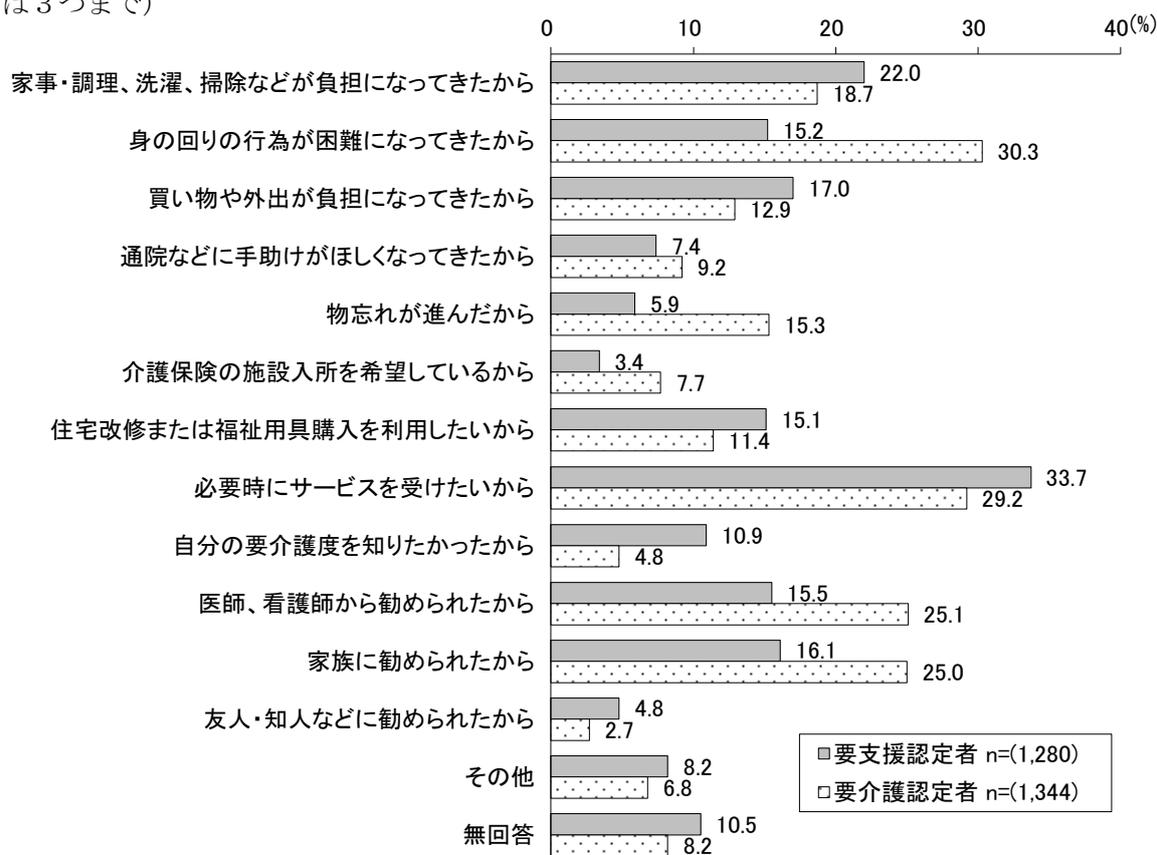


②要介護認定を申請した理由

○要介護認定を申請した理由は、要支援認定者では「必要時にサービスを受けたいから」(33.7%)が最も高く、次いで「家事・調理、洗濯、掃除などが負担になってきたから」(22.0%)、「買い物や外出が負担になってきたから」(17.0%)、「家族に勧められたから」(16.1%)の順となっている。

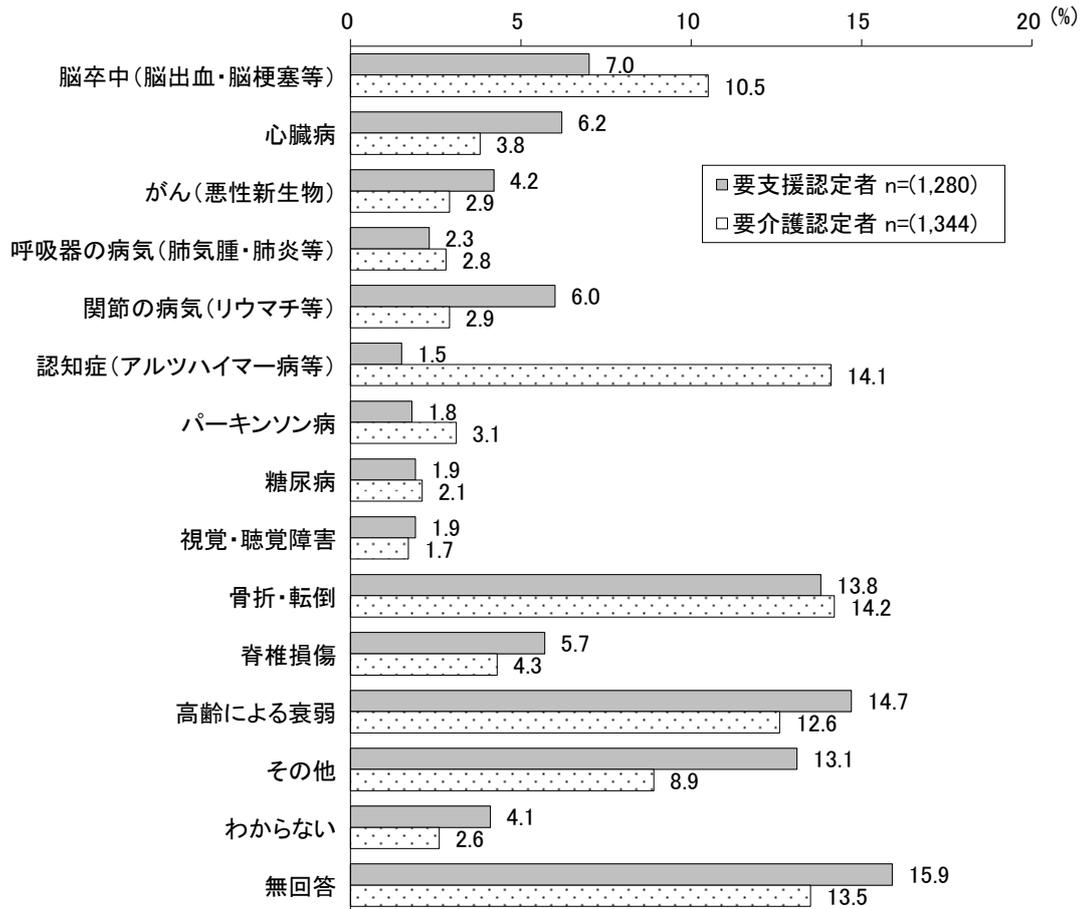
○要介護認定者では「身の回りの行為が困難になってきたから」(30.3%)が最も高く、次いで「必要時にサービスを受けたいから」(29.2%)、「医師、看護師から勧められたから」(25.1%)、「家族に勧められたから」(25.0%)の順となっている。

(○は3つまで)



③要介護認定を申請した主な原因

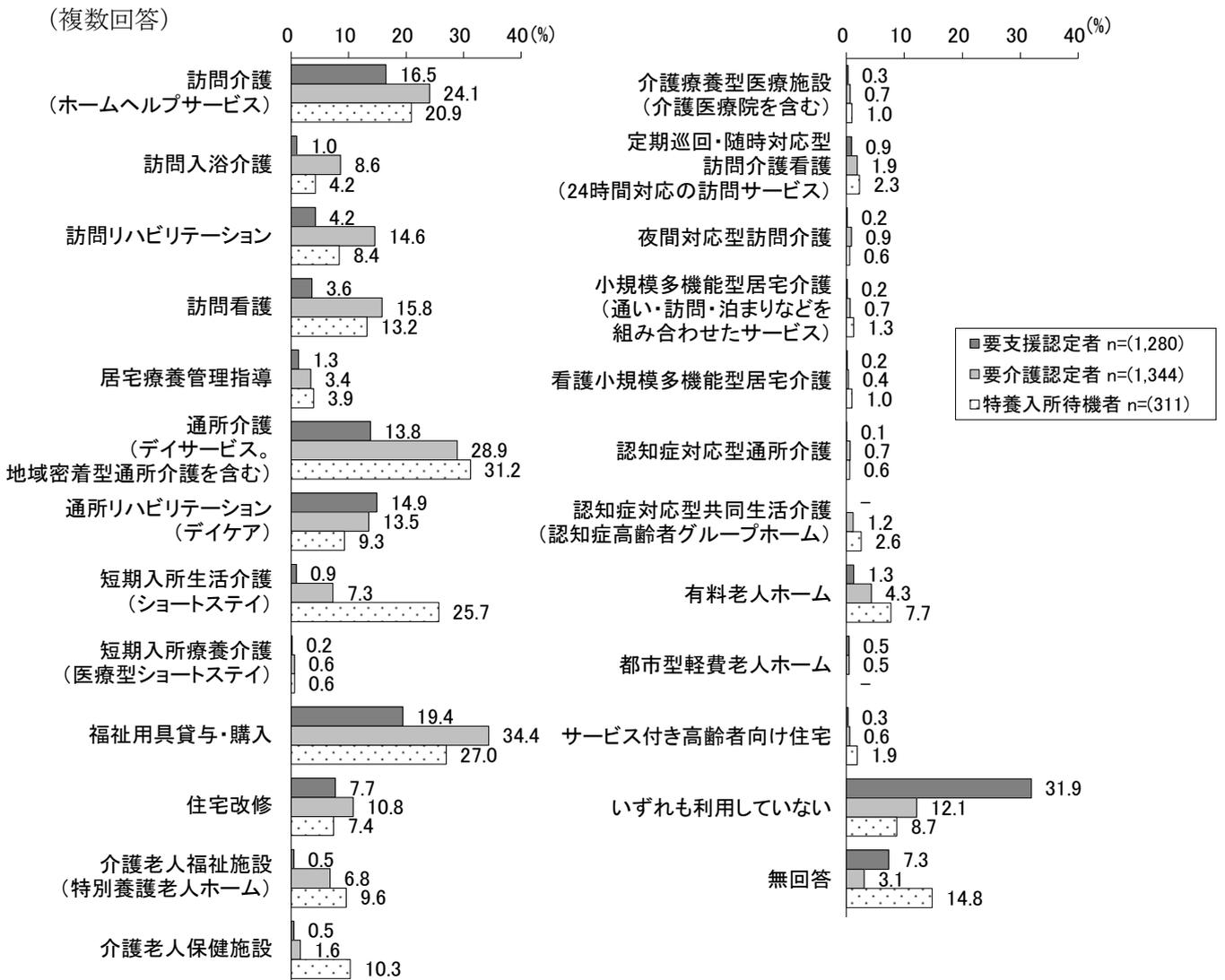
- 要支援認定者では、「高齢による衰弱」(14.7%)が最も高く、「骨折・転倒」(13.8%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(7.0%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者では、「骨折・転倒」(14.2%)が最も高く、「認知症(アルツハイマー病等)」(14.1%)、「高齢による衰弱」(12.6%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者では、「認知症(アルツハイマー病等)」が14.1%で、要支援認定者(1.5%)と比べて高くなっている。



(2) 介護保険サービス

①介護保険サービスの利用状況

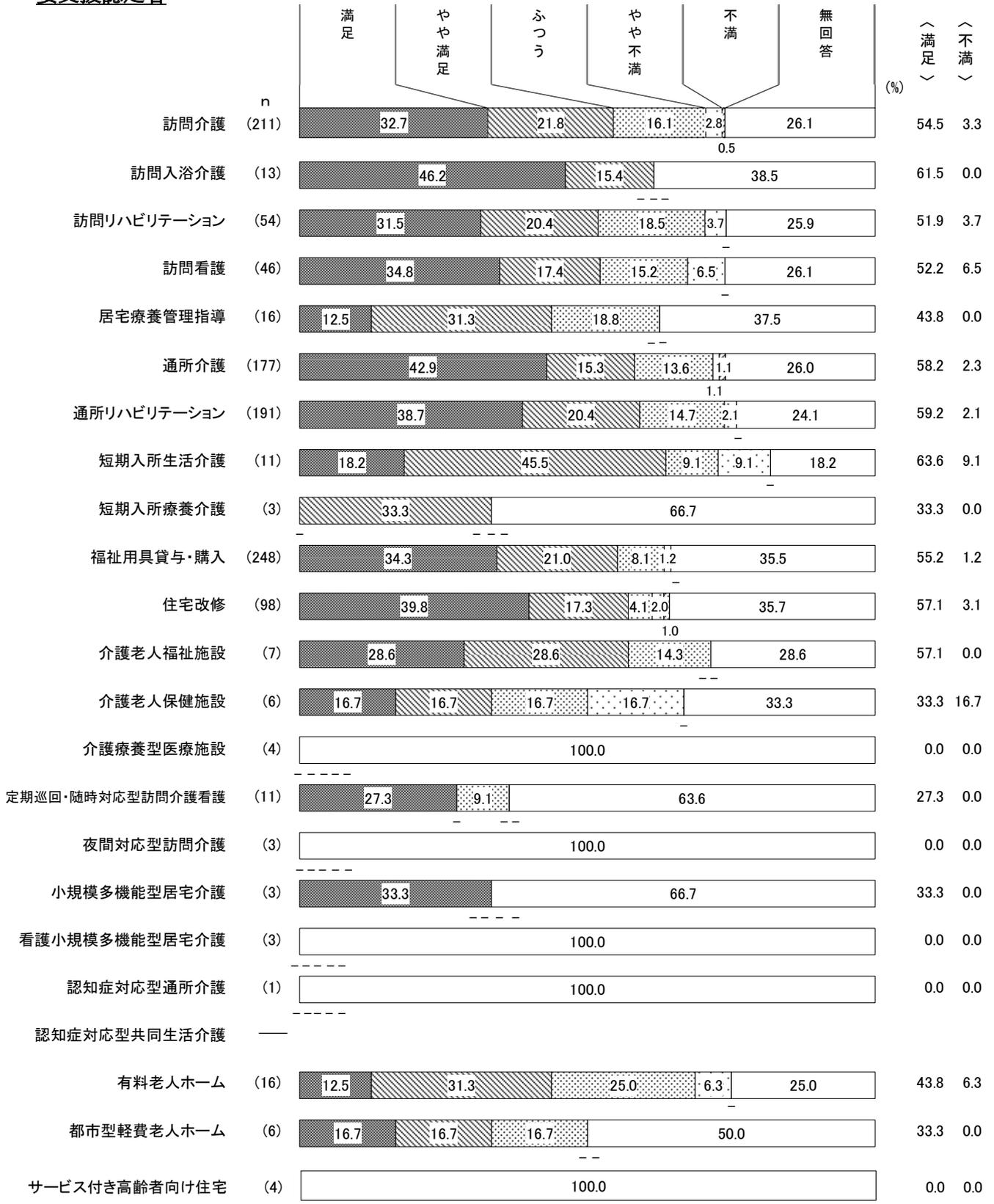
- 要支援認定者では、「いずれも利用していない」(31.9%)が最も高くなっている。利用状況は、「福祉用具貸与・購入」(19.4%)、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(16.5%)、「通所リハビリテーション(デイケア)」(14.9%)が上位に挙げられている。
- 要介護認定者では、「福祉用具貸与・購入」(34.4%)が最も高く、次いで「通所介護(デイサービス。地域密着型通所介護を含む)」(28.9%)、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(24.1%)の順となっている。
- 特養入所待機者では、「通所介護(デイサービス。地域密着型通所介護を含む)」(31.2%)が最も高く、次いで「福祉用具貸与・購入」(27.0%)、「短期入所生活介護(ショートステイ)」(25.7%)の順となっている。
- 特養入所待機者では、「短期入所生活介護(ショートステイ)」が2割半ばと他の調査と比べて高くなっている。



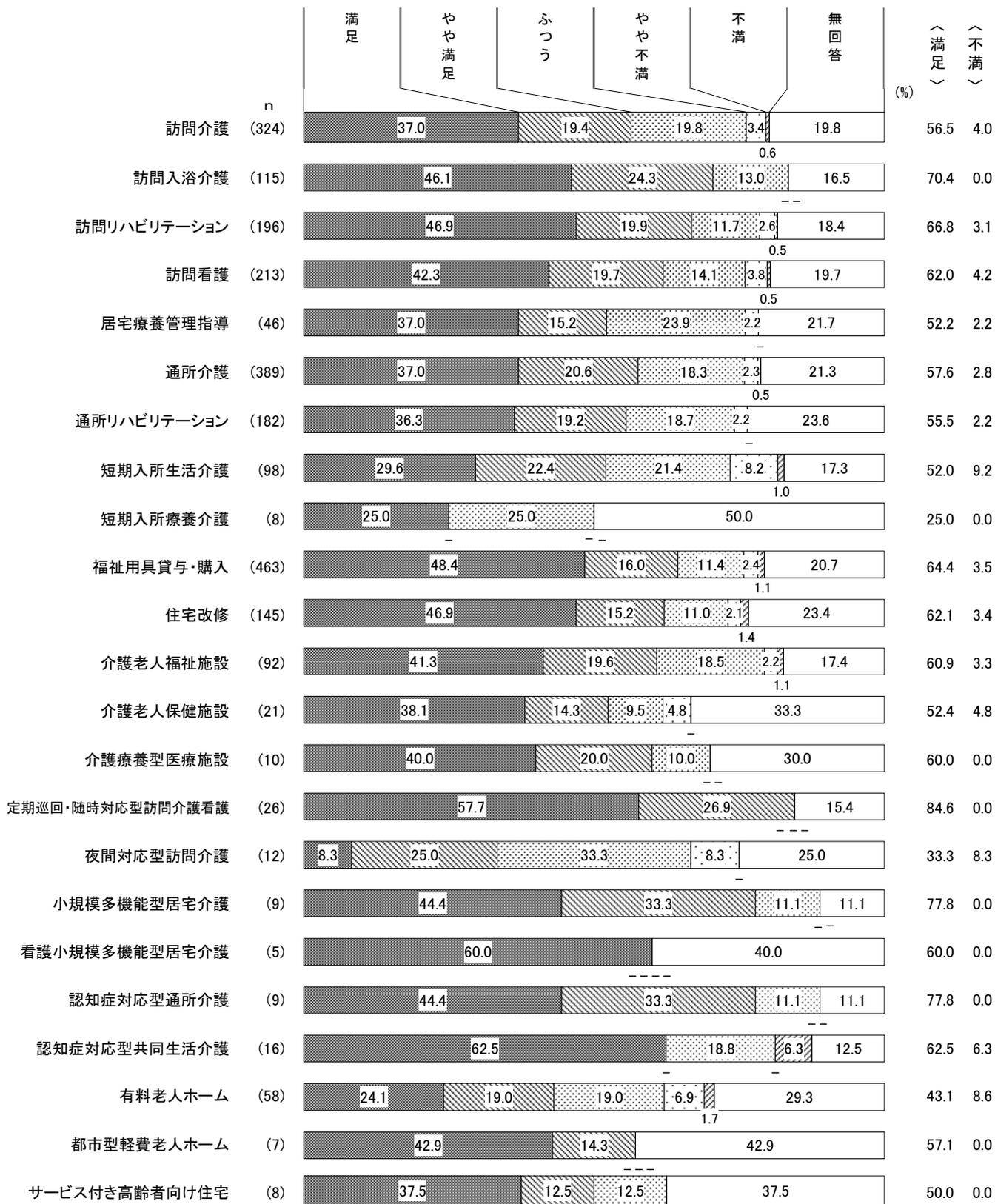
②介護保険サービスの満足度

○介護保険サービスを利用していると回答した人の利用しているサービスの満足度は、要支援認定者、要介護認定者、特養入所待機者ともに、各サービスの“満足”（「満足」と「やや満足」の合計）が“不満”（「不満」と「やや不満」の合計）を大きく上回っている。

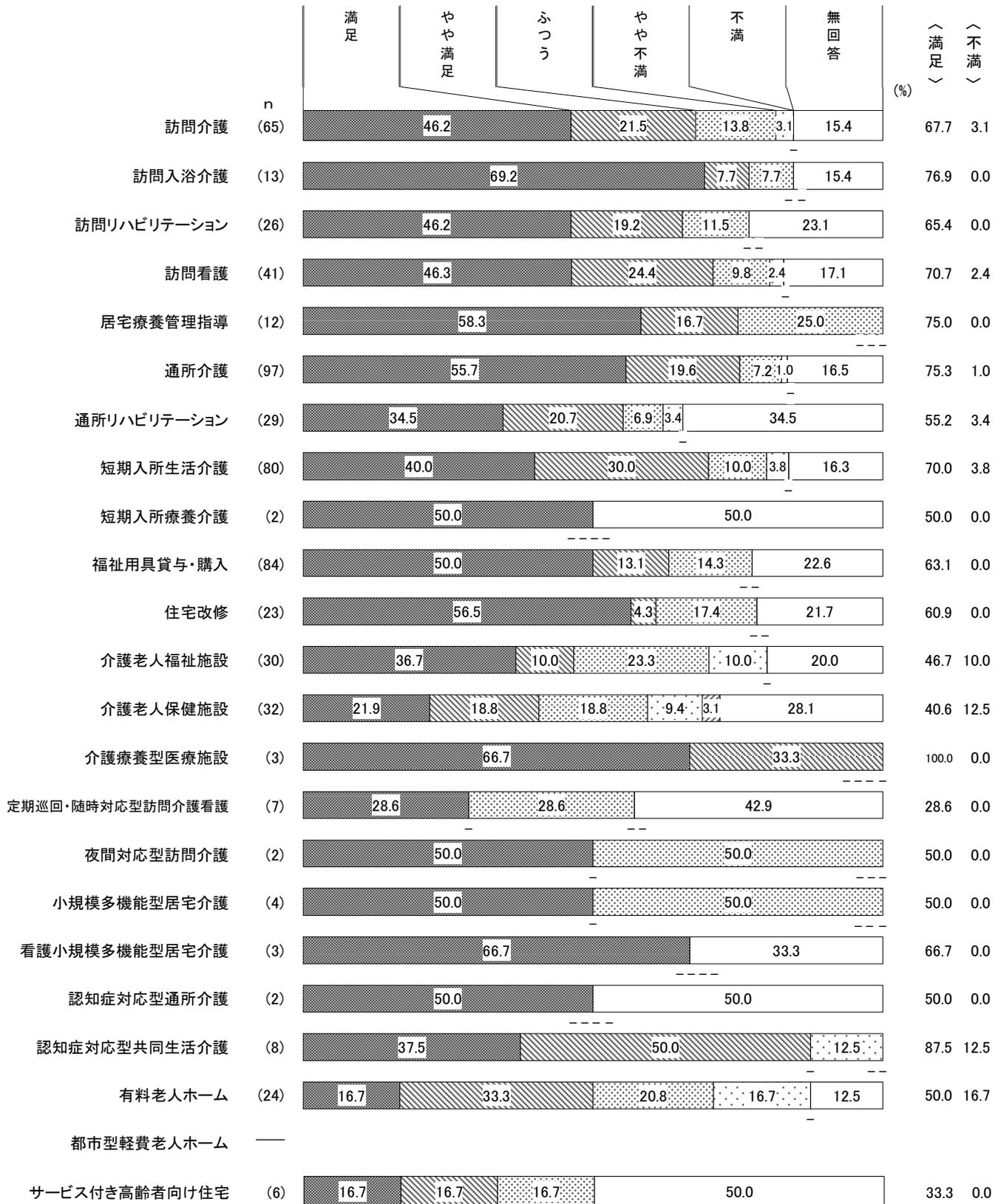
要支援認定者



要介護認定者



特養入所待機者

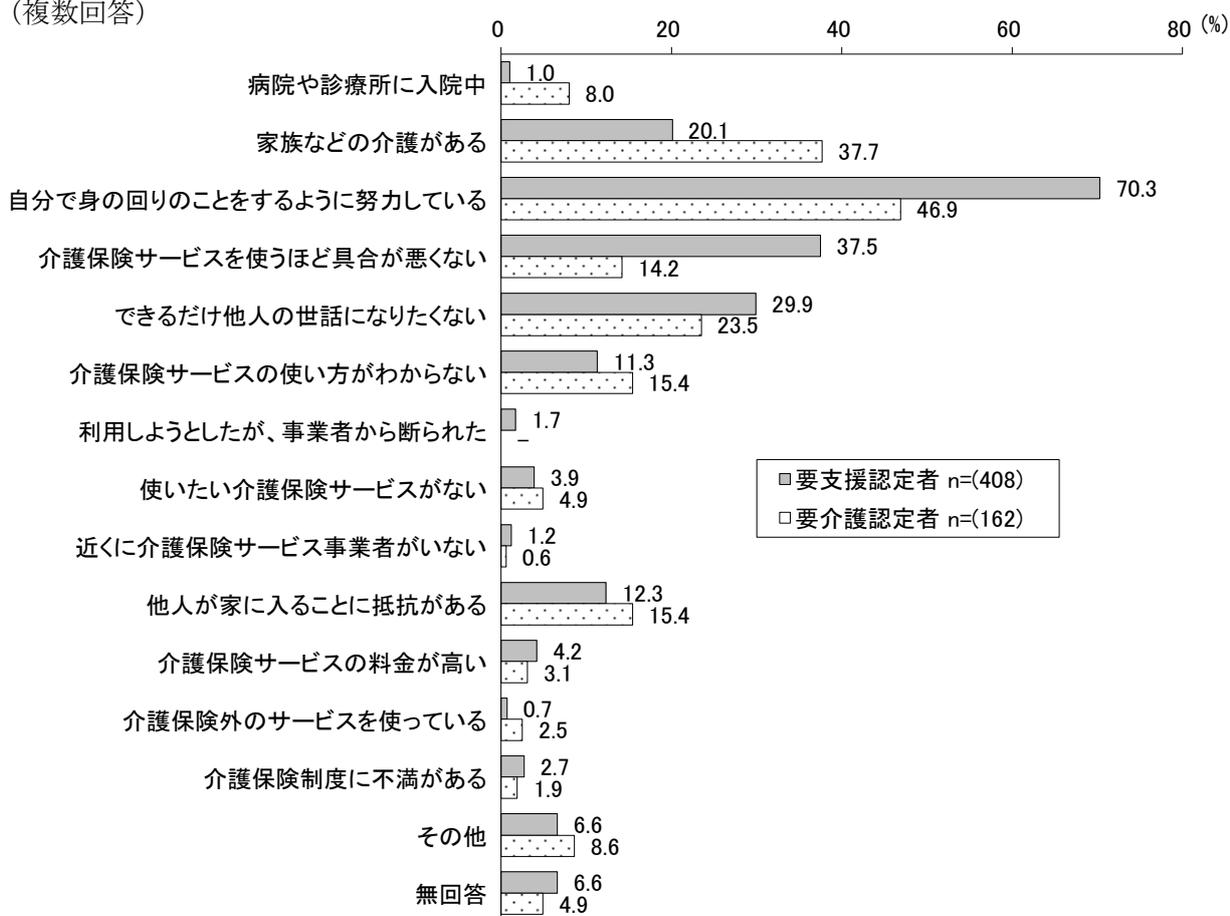


③介護保険サービスを利用していない理由

○介護保険サービスを「いずれも利用していない」と回答した人のサービスを利用していない理由は、要支援認定者では、「自分で身の回りのことをするように努力している」(70.3%)が最も高く、次いで「介護保険サービスを使うほど具合が悪くない」(37.5%)、「できるだけ他人の世話になりたくない」(29.9%)の順となっている。

○要介護認定者では、「自分で身の回りのことをするように努力している」(46.9%)が最も高く、次いで「家族などの介護がある」(37.7%)、「できるだけ他人の世話になりたくない」(23.5%)の順となっている。

(複数回答)

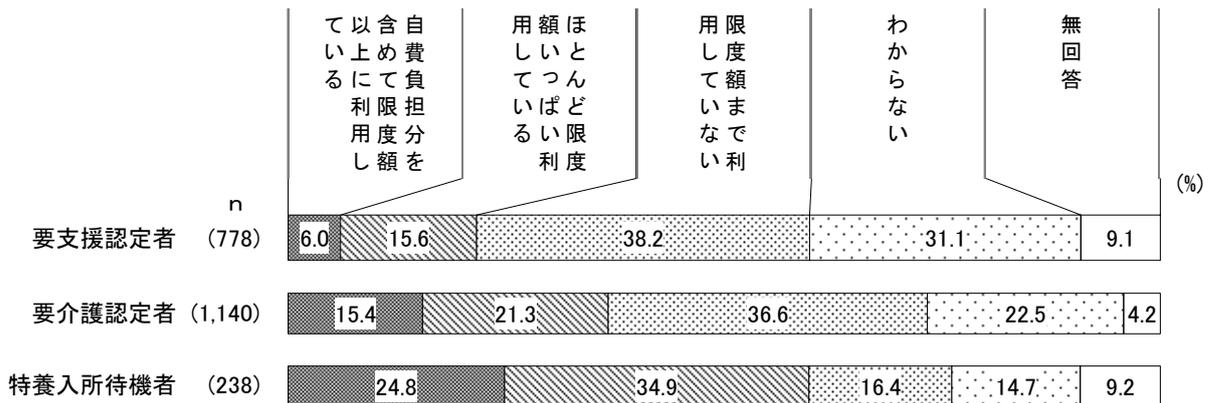


(3) 支給限度額に対する介護保険サービスの利用

① 支給限度額に対する介護保険サービスの利用状況

○いずれかの介護保険サービスを利用していると回答した人の支給限度額に対する介護保険サービスの利用状況は、要支援認定者、要介護認定者ともに「限度額まで利用していない」が最も高く、それぞれ38.2%、36.6%となっている。

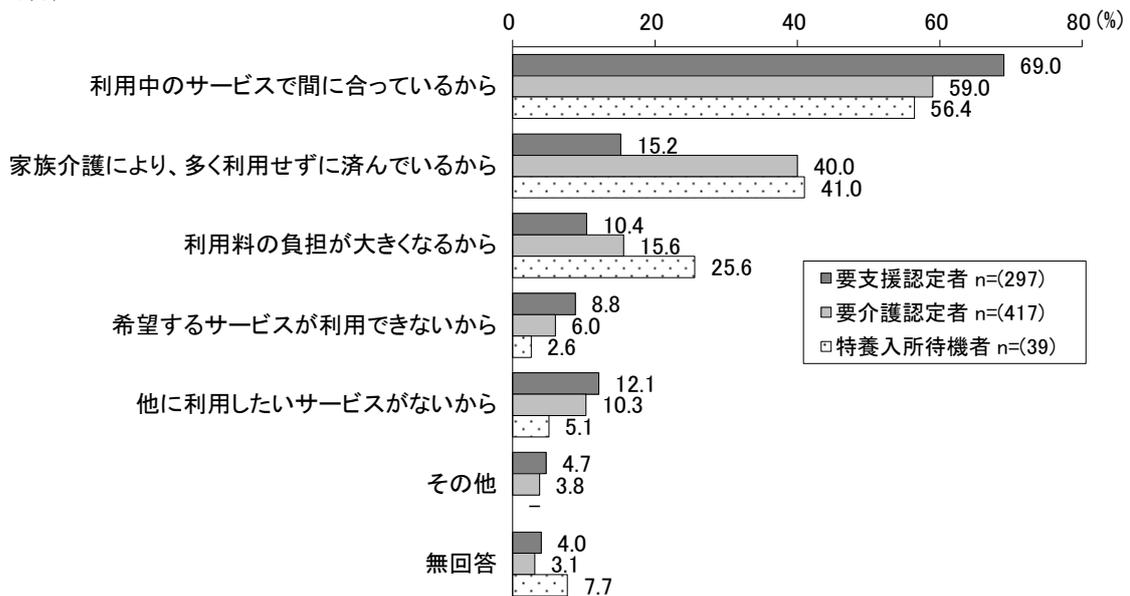
○特養入所待機者では、“支給限度額まで利用している”（「自費負担分を含めて限度額以上に利用している」と「ほとんど限度額いっぱい利用している」の合計）が約6割となっている。



② 支給限度額まで利用していない理由

○支給限度額に対する介護保険サービスの利用状況で「限度額まで利用していない」と回答した人の理由は、要支援認定者、要介護認定者、特養入所待機者ともに「利用中のサービスで間に合っているから」が最も高く、それぞれ69.0%、59.0%、56.4%となっている。

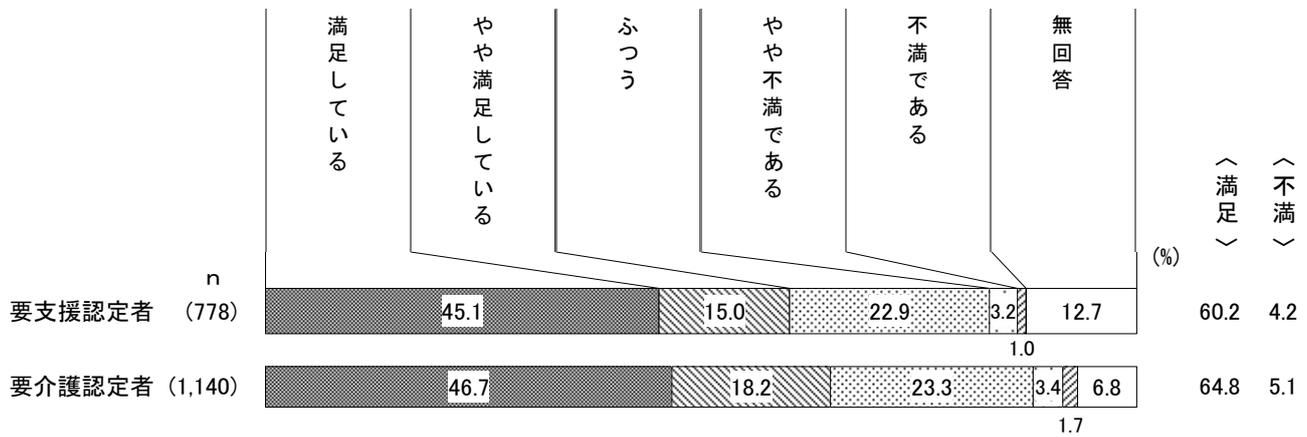
(複数回答)



(4) ケアマネジャーに対する満足度

①満足度

○いずれかの介護保険サービスを利用していると回答した人のケアマネジャーに対する満足度は、“満足”（「満足している」と「やや満足している」の合計）が、要支援認定者で60.2%、要介護認定者で64.8%と、“不満”（「不満である」と「やや不満である」の合計）を大きく上回っている。

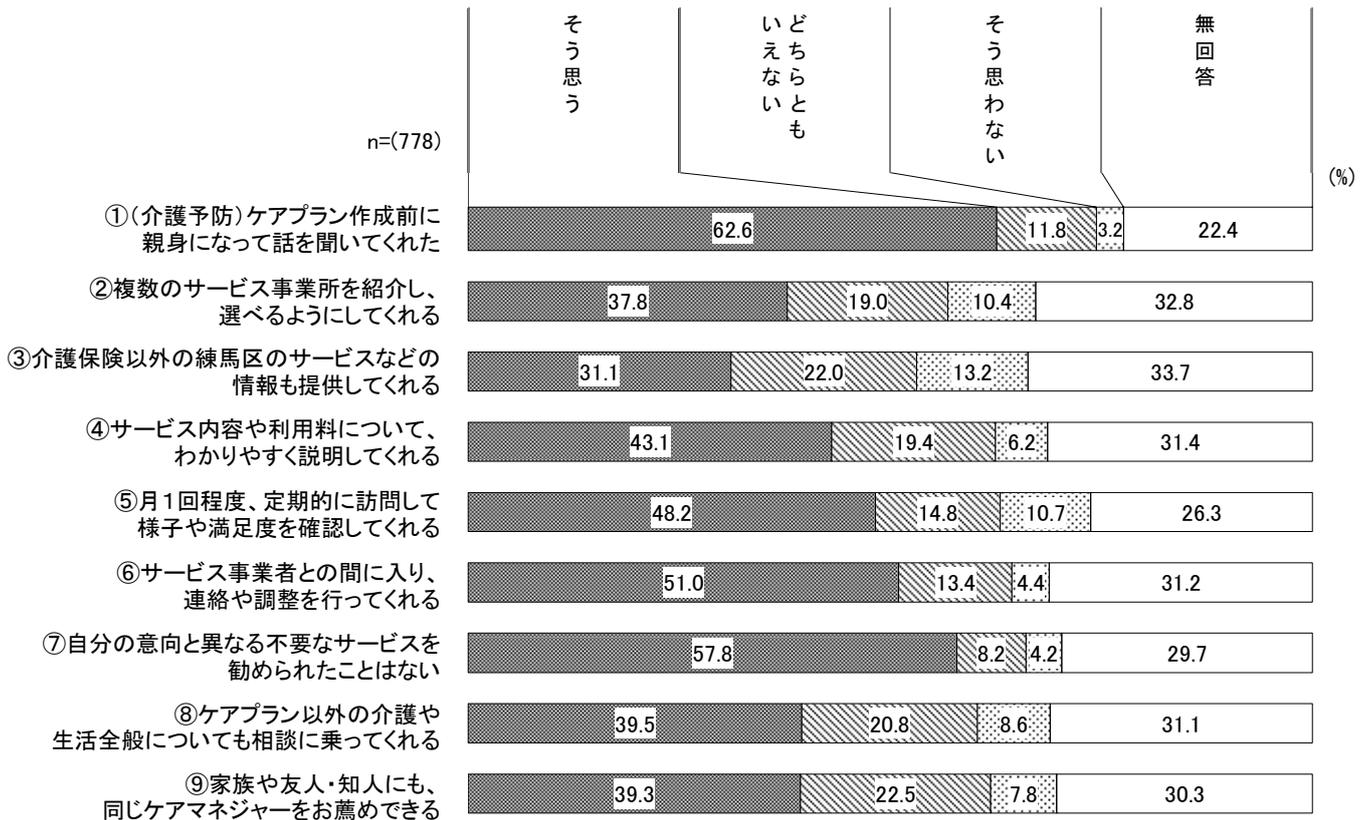


②ケアマネジャーへの考え

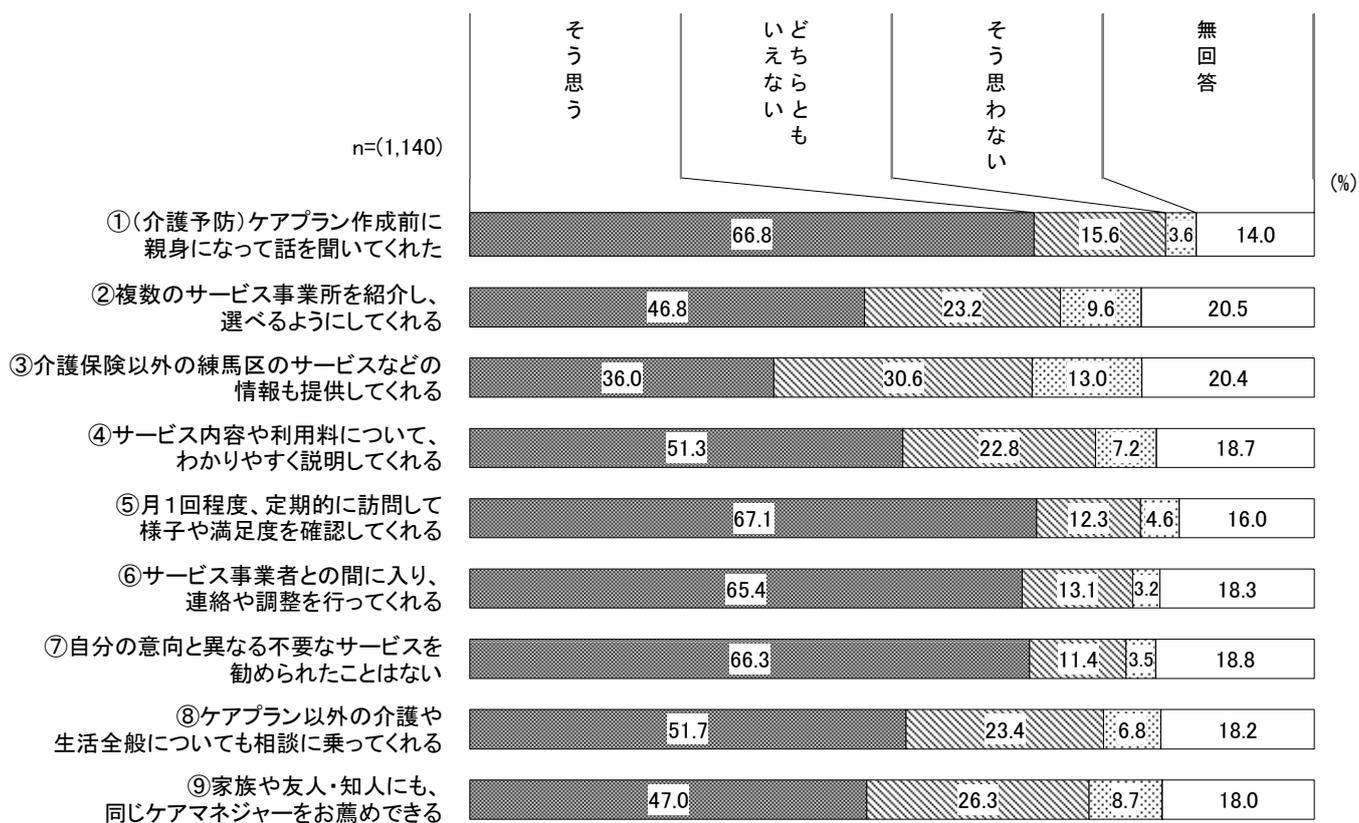
○いずれかの介護保険サービスを利用していると回答した人にケアマネジャーについてどのように感じているか聞いたところ、要支援認定者では、「①（介護予防）ケアプラン作成前に親身になって話を聞いてくれた」で「そう思う」の割合が最も高くなっている。

○要介護認定者では、「⑤月1回程度、定期的に訪問して様子や満足度を確認してくれる」で「そう思う」の割合が最も高くなっている。

要支援認定者



要介護認定者



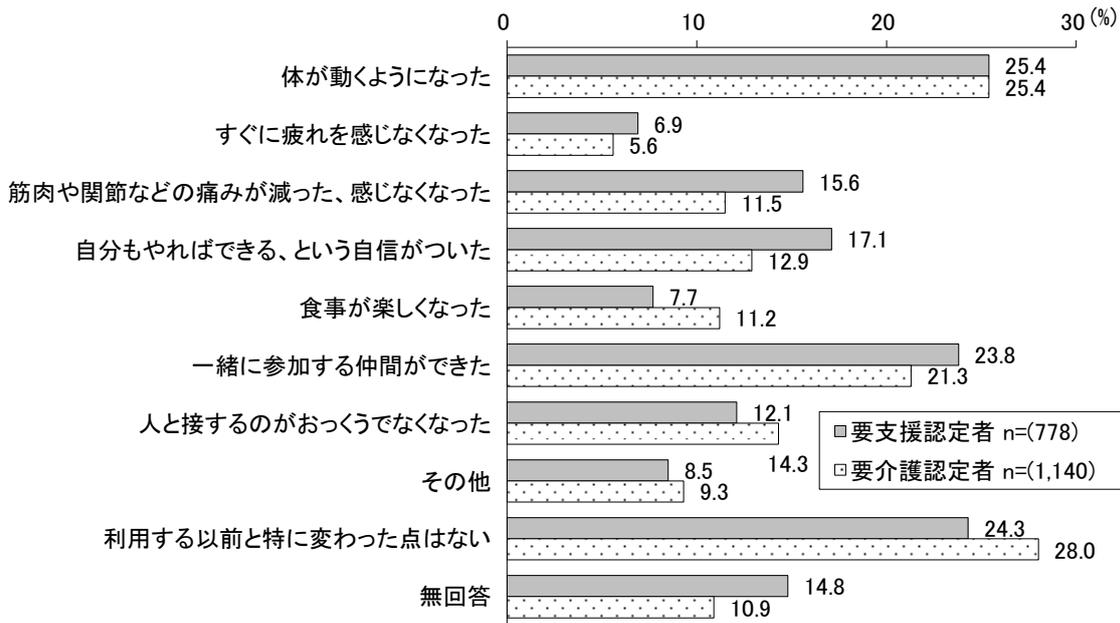
(5) 介護保険サービスの利用による変化

①介護保険サービス利用後の変化

○いずれかの介護保険サービスを利用していると回答した人の介護保険サービス利用後の変化は、要支援認定者、要介護認定者ともに「体が動くようになった」、「一緒に参加する仲間ができた」が上位に挙がっている。

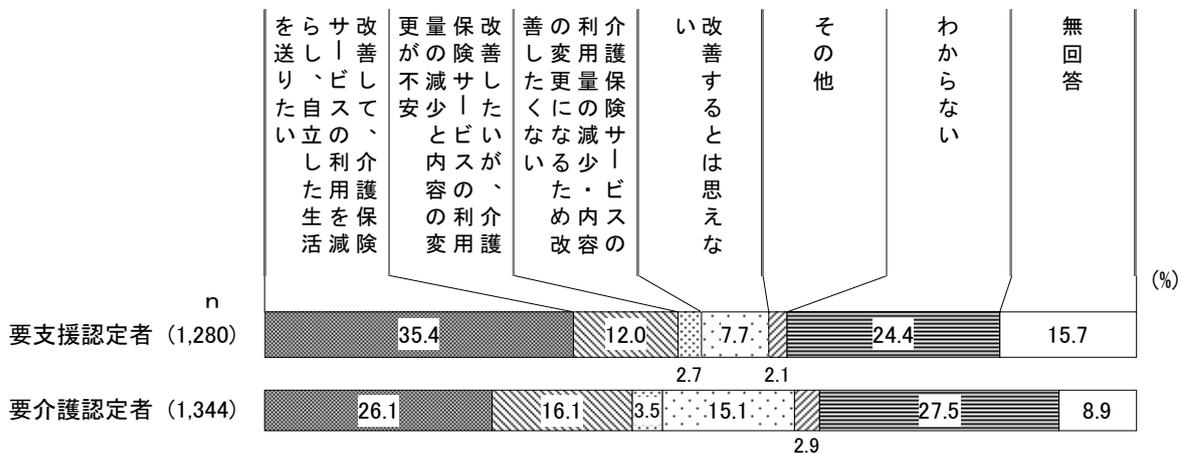
○「利用する以前と特に変わった点はない」は、要支援認定者で24.3%、要介護認定者で28.0%となっている。

(複数回答)



②要介護度の改善に対する考え

○「改善して、介護保険サービスの利用を減らし、自立した生活を送りたい」が要支援認定者で35.4%、要介護認定者で26.1%となっている。



[年代別 / 要支援認定者、要介護認定者]

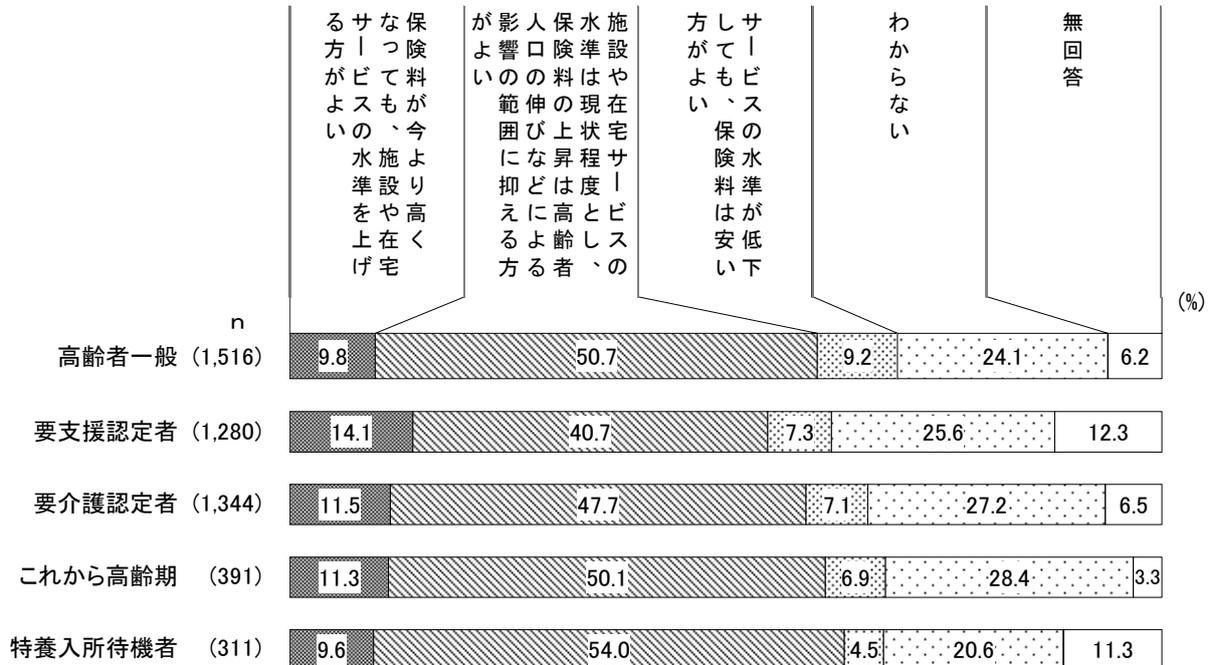
○年代別にみると、要支援認定者、要介護認定者ともに、『前期高齢者』は、「改善して、介護保険サービスの利用を減らし、自立した生活を送りたい」が『後期高齢者』と比べて高くなっている。

	n	立ビ改 したス善 ののし 生利用て をを介 を送減 りら保 たし険 たい、サ 自	とサ改 内容ー善 ののビし 変のの 更の利 がが 不安量介 のの保 減少険	なる量介 たの減保 ため少険 改善・サ した内容 たく変の ない更利 に用	改善 する とは思 えない	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
要支援認定者	1,280	35.4	12.0	2.7	7.7	2.1	24.4	15.7
前期高齢者(65-74歳)	116	40.5	11.2	4.3	9.5	0.9	25.9	7.8
後期高齢者(75歳以上)	1,110	34.9	12.3	2.5	7.7	2.3	24.2	16.2
要介護認定者	1,344	26.1	16.1	3.5	15.1	2.9	27.5	8.9
前期高齢者(65-74歳)	133	37.6	18.8	3.8	9.8	3.0	19.5	7.5
後期高齢者(75歳以上)	1,153	24.8	16.0	3.6	15.9	2.9	28.1	8.7

(6) 介護保険料と介護サービスの利用料

①介護保険サービスと保険料についての考え

○いずれの調査でも「施設や在宅サービスの水準は現状程度とし、保険料の上昇は高齢者人口の伸びなどによる影響の範囲に抑える方がよい」が最も高く、4割超から5割半ばとなっている。



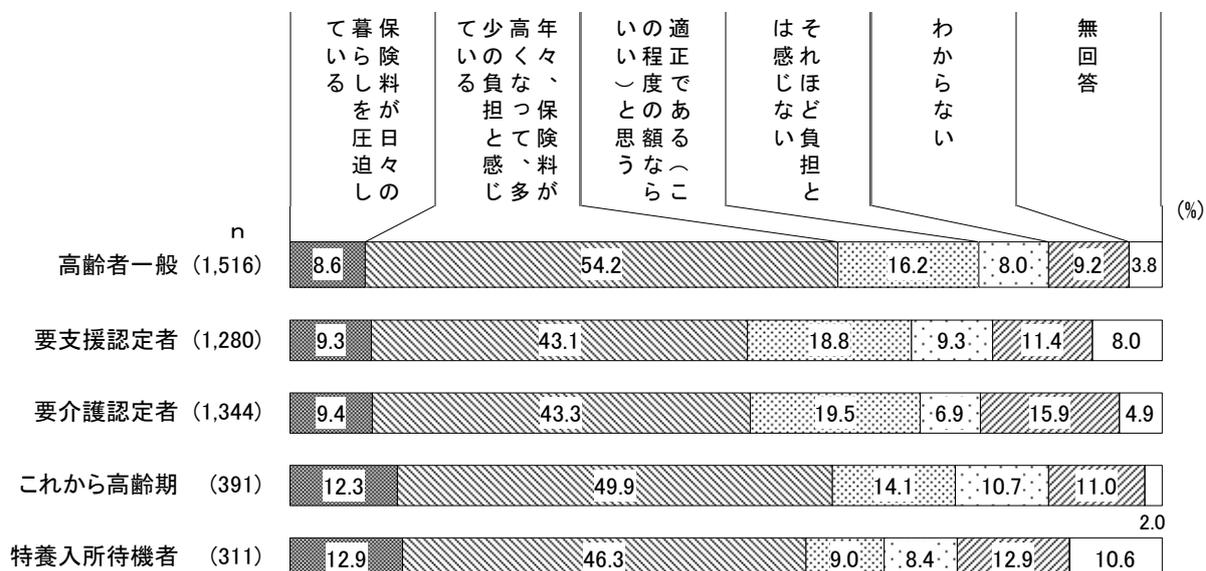
[暮らし向きの感じ方別 / 高齢者一般]

○暮らし向きの感じ方別にみると、『ゆとりがある』は、「施設や在宅サービスの水準は現状程度とし、保険料の上昇は高齢者人口の伸びなどによる影響の範囲に抑える方がよい」が5割半ばで、全体と比べて高くなっている。

	n	保険料を上げるべき	現状程度に抑える方がよい	サービス水準を下げてもよい	わからない	無回答
高齢者一般	1,516	9.8	50.7	9.2	24.1	6.2
苦しい	492	4.9	44.3	15.0	29.7	6.1
ふつう	793	10.2	53.7	7.6	22.1	6.4
ゆとりがある	200	21.5	56.0	2.0	16.5	4.0

②介護保険料や健康保険料の負担感

- いずれの調査でも「年々、保険料が高くなって、多少の負担と感じている」が最も高くなっている。
- 「保険料が日々の暮らしを圧迫している」は、いずれの調査でも1割前後となっている。



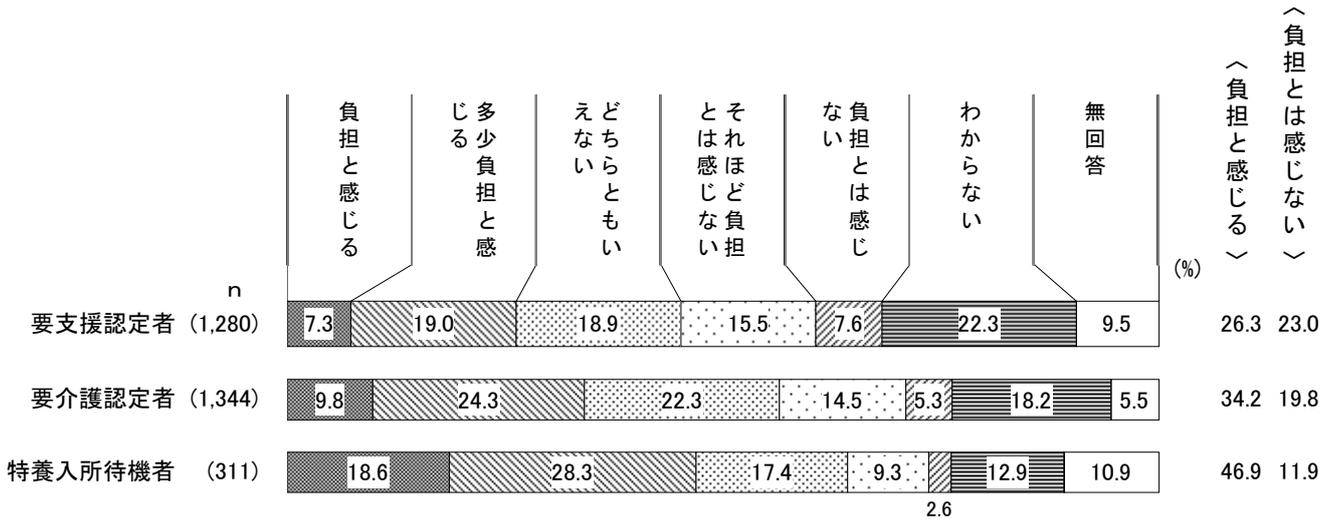
[暮らし向きの感じ方別 / 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者]

- 暮らし向きの感じ方別にみると、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者ともに、『苦しい』は、「保険料が日々の暮らしを圧迫している」が約2割で、全体と比べて高くなっている。

	n	保険料が日々の暮らしを圧迫している (%)	年々、保険料が高くなって、多少の負担と感じている (%)	適正である(この程度)と思う (%)	それほど負担とは感じない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
高齢者一般	1,516	8.6	54.2	16.2	8.0	9.2	3.8
苦しい	492	20.7	53.5	8.7	2.6	11.4	3.0
ふつう	793	3.2	59.0	17.2	8.6	8.2	3.9
ゆとりがある	200	1.0	39.5	31.0	19.5	6.0	3.0
要支援認定者	1,280	9.3	43.1	18.8	9.3	11.4	8.0
苦しい	423	19.9	46.8	10.2	2.4	13.0	7.8
ふつう	650	4.6	43.4	21.8	11.2	11.7	7.2
ゆとりがある	141	-	29.1	34.0	20.6	6.4	9.9
要介護認定者	1,344	9.4	43.3	19.5	6.9	15.9	4.9
苦しい	483	20.1	48.2	10.8	2.3	14.3	4.3
ふつう	683	3.4	44.1	24.5	6.7	17.1	4.2
ゆとりがある	121	-	24.8	30.6	27.3	11.6	5.8

③介護サービス利用料の負担感

- 要支援認定者では、“負担と感ずる”（「負担と感ずる」と「多少負担と感ずる」の合計）と“負担とは感ずらない”（「それほど負担とは感ずらない」と「負担とは感ずらない」の合計）が同程度となっている。
- 要介護認定者では、“負担と感ずる”は3割半ばと、“負担とは感ずらない”を上回っている。
- 特養入所待機者では、“負担と感ずる”は4割半ばと、“負担とは感ずらない”を上回っている。



[暮らし向きの感じ方別 / 要支援認定者、要介護認定者]

- 暮らし向きの感じ方別にみると、要支援認定者、要介護認定者ともに、『苦しい』は、“負担と感ずる”が全体と比べて高くなっている。

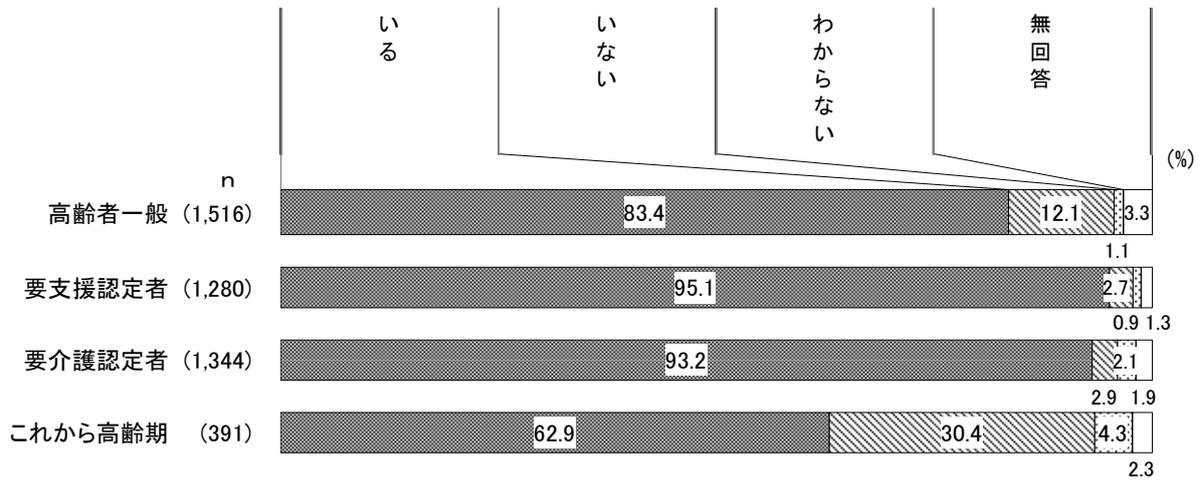
	n	(%)							負担と感ずる	負担とは感ずらない
		負担と感ずる	多少負担と感ずる	どちらともいえない	それほど負担とは感ずらない	負担とは感ずらない	わからない	無回答		
要支援認定者	1,280	7.3	19.0	18.9	15.5	7.6	22.3	9.5	26.3	23.0
苦しい	423	15.6	28.1	17.0	6.4	2.1	21.0	9.7	43.7	8.5
ふつう	650	3.4	14.6	21.8	18.6	8.2	24.0	9.4	18.0	26.8
ゆとりがある	141	0.7	9.2	10.6	30.5	22.0	19.9	7.1	9.9	52.5
要介護認定者	1,344	9.8	24.3	22.3	14.5	5.3	18.2	5.5	34.2	19.8
苦しい	483	20.1	32.1	17.2	5.6	1.4	17.6	6.0	52.2	7.0
ふつう	683	4.1	20.8	28.1	18.6	4.7	19.5	4.2	24.9	23.3
ゆとりがある	121	1.7	16.5	14.9	27.3	24.0	9.9	5.8	18.2	51.2

6. 医療・在宅療養

(1) かかりつけ医等の状況

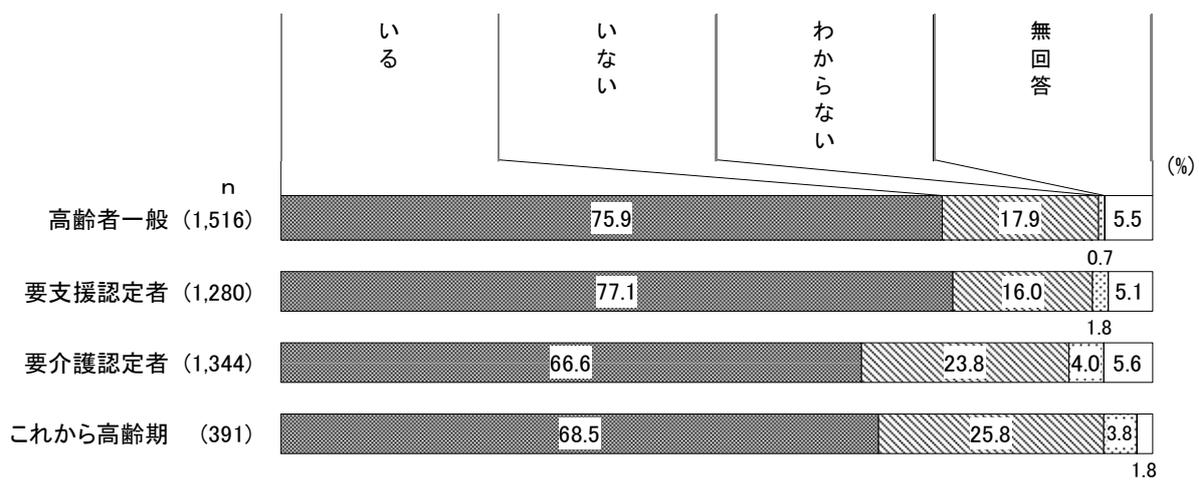
① かかりつけ医の有無

○「いる」は、高齢者一般で83.4%、要支援認定者で95.1%、要介護認定者で93.2%、これから高齢期で62.9%となっている。



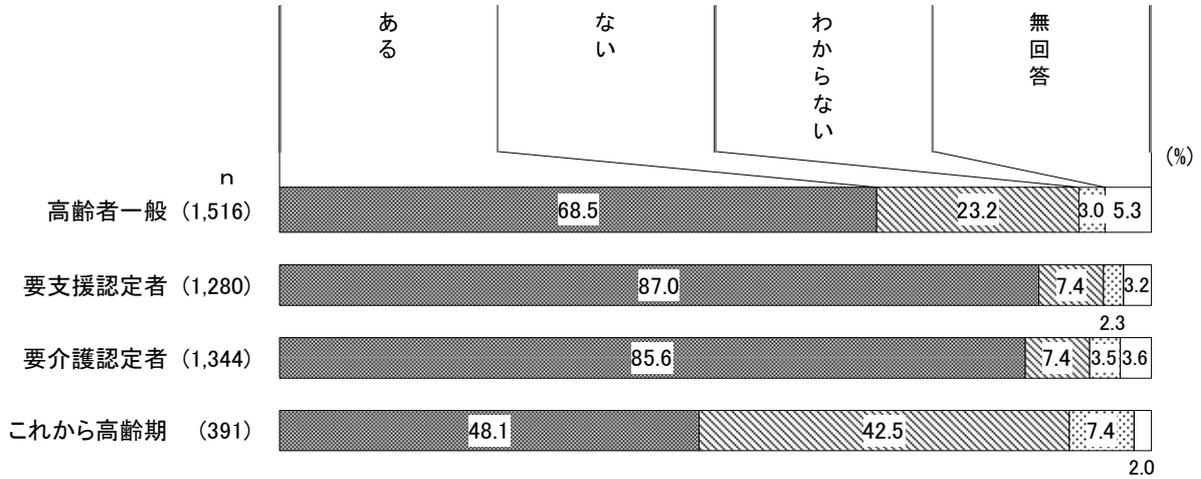
② かかりつけ歯科医の有無

○「いる」は、高齢者一般で75.9%、要支援認定者で77.1%、要介護認定者で66.6%、これから高齢期で68.5%となっている。



③かかりつけ薬局の有無

○「ある」は、高齢者一般で68.5%、要支援認定者で87.0%、要介護認定者で85.6%、これから高齢期で48.1%となっている。

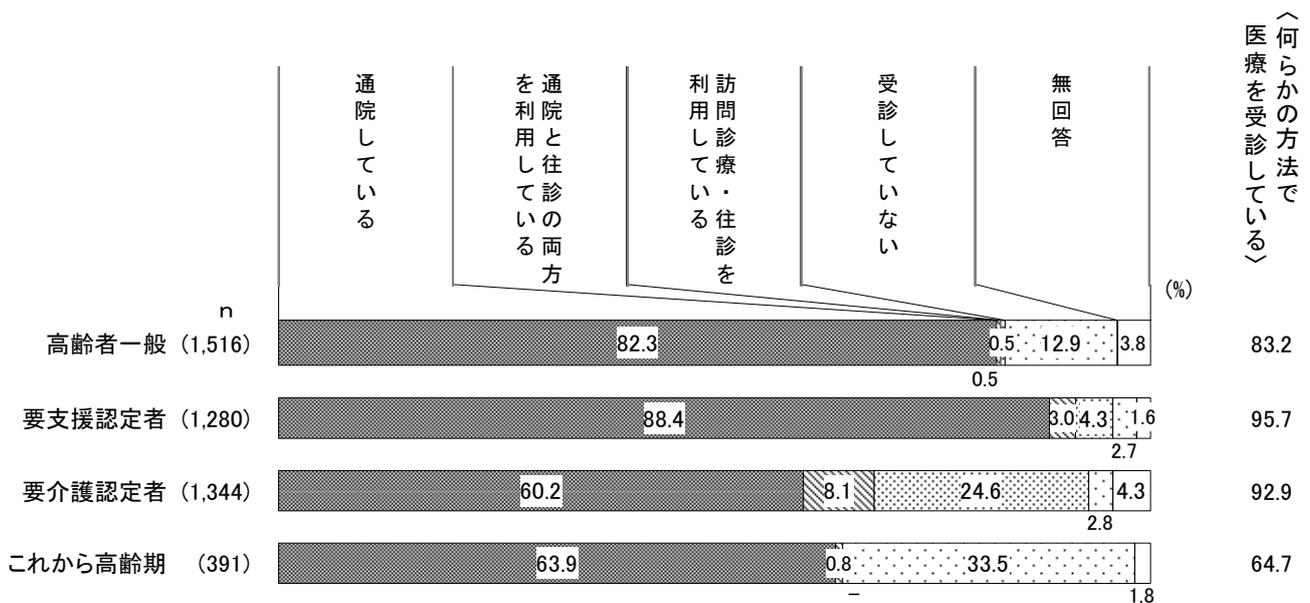


(2) 医療の受診状況

①医療の受診形態

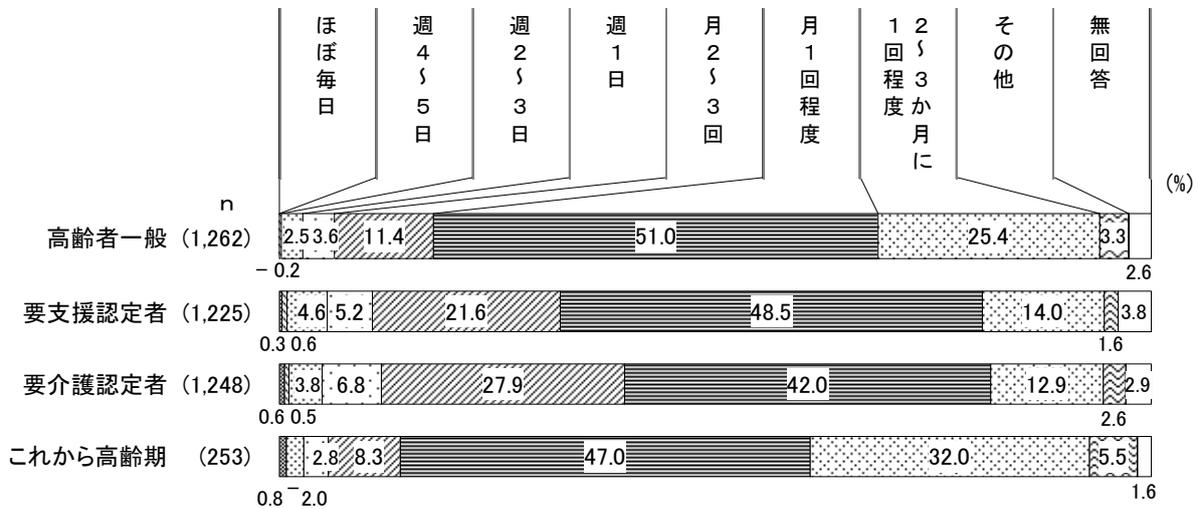
○“何らかの方法で医療を受診している”（「通院している」、「通院と往診の両方を利用している」、「訪問診療・往診を利用している」の合計）は、高齢者一般で83.2%、要支援認定者で95.7%、要介護認定者で92.9%、これから高齢期で64.7%となっている。

○「受診していない」は、高齢者一般で12.9%、これから高齢期で33.5%となっている。



②医療機関の受診頻度

○ “何らかの方法で医療を受診している” と回答した人の医療機関の受診頻度は、いずれの調査でも「月1回程度」が最も高く、4割超から5割超となっている。

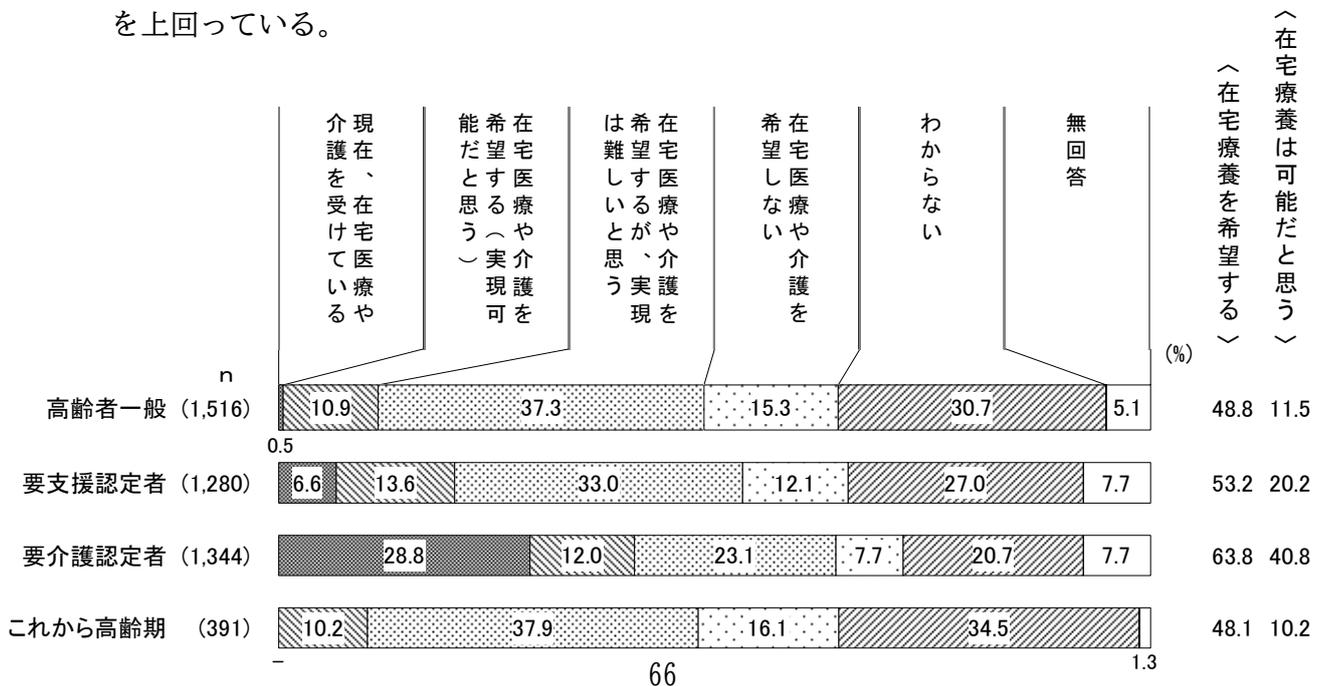


(3) 在宅療養

①在宅療養の希望と実現可能性

○脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になった場合、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいかどうか聞いたところ、“在宅療養を希望する”（「現在、在宅医療や介護を受けている」、「在宅医療や介護を希望する（実現可能だと思う）」、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」の合計）と回答した人は、高齢者一般で48.8%、要支援認定者で53.2%、要介護認定者で63.8%、これから高齢期で48.1%となっており、いずれの調査でも「在宅医療や介護を希望しない」を上回っている。

○ “在宅療養を希望する” と回答した人の在宅療養の実現可能性は、高齢者一般、要支援認定者、これから高齢期で “在宅療養は可能だと思う”（「現在、在宅医療や介護を受けている」と「在宅医療や介護を希望する（実現可能だと思う）」の合計）が「難しいと思う」を下回っている一方で、要介護認定者では、“在宅療養は可能だと思う”が「難しいと思う」を上回っている。

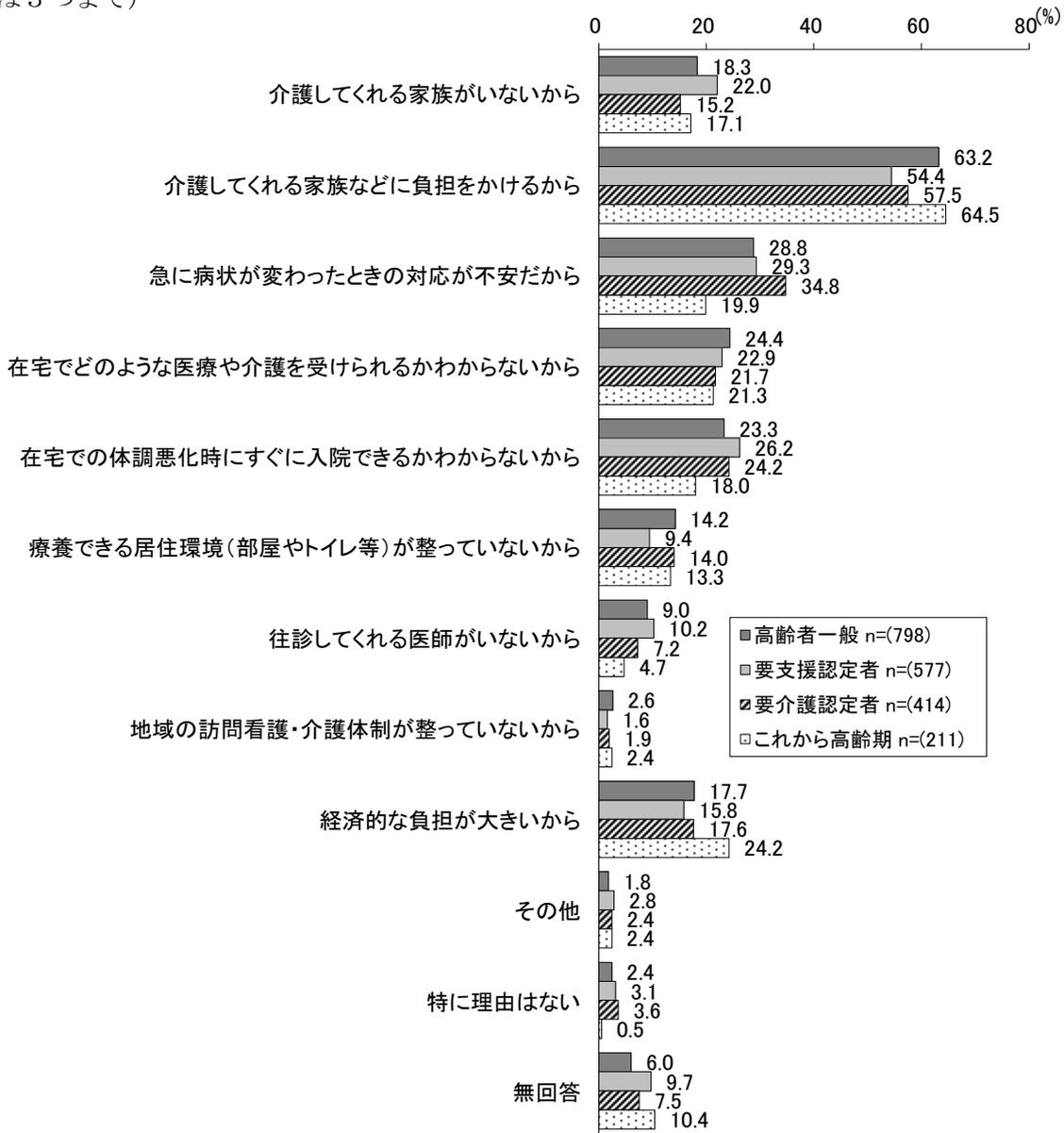


②在宅療養が難しいと思う理由

○在宅療養の希望で「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」、「在宅医療や介護を希望しない」と回答した人の理由は、いずれの調査でも「介護してくれる家族などに負担をかけるから」が最も高く、5割半ばから6割半ばとなっている。

○要介護認定者では、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が34.8%と他の調査と比べて高くなっている。

(○は3つまで)

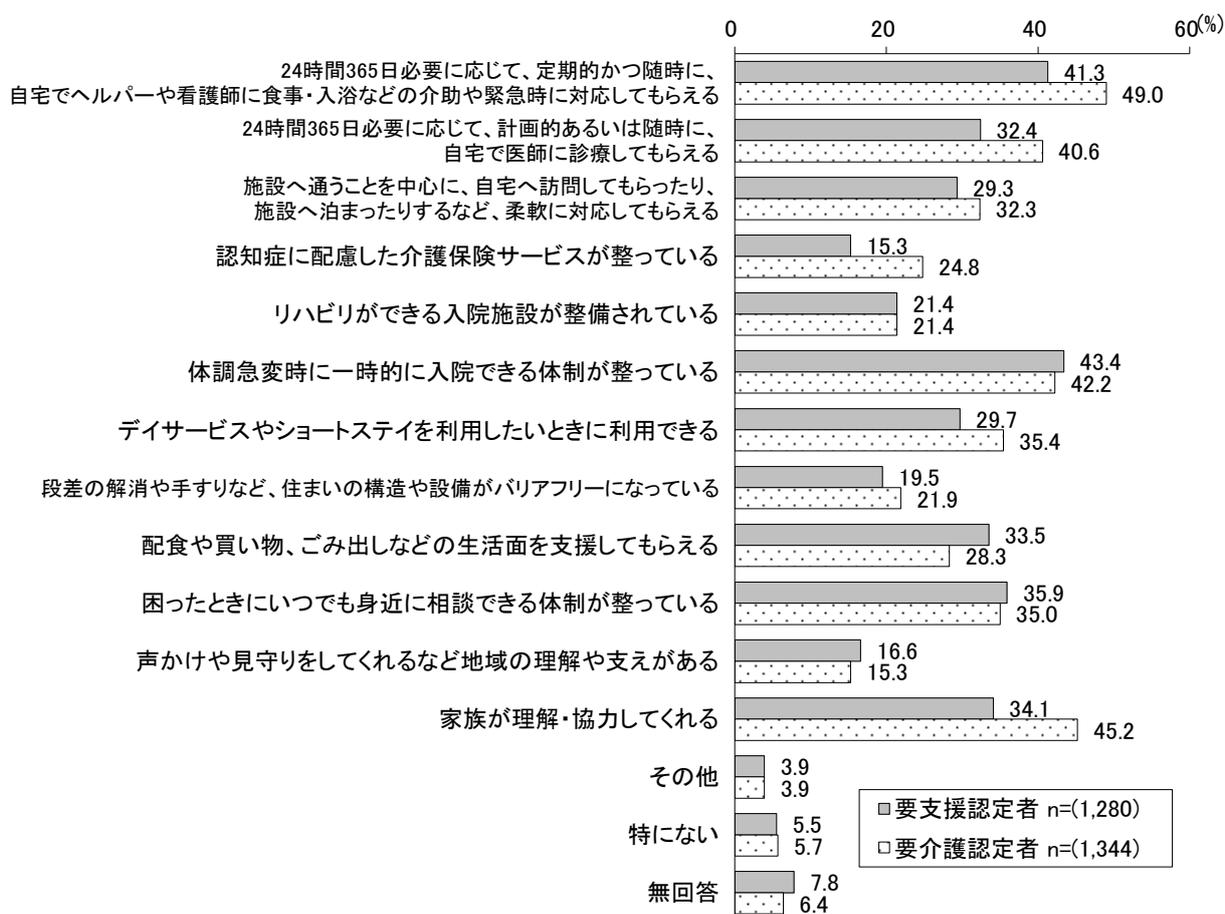


③在宅療養生活を継続するために必要なこと

○要支援認定者では、「体調急変時に一時的に入院できる体制が整っている」(43.4%)が最も高く、次いで「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(41.3%)、「困ったときにいつでも身近に相談できる体制が整っている」(35.9%)の順となっている。

○要介護認定者では、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(49.0%)が最も高く、次いで「家族が理解・協力してくれる」(45.2%)、「体調急変時に一時的に入院できる体制が整っている」(42.2%)の順となっている。

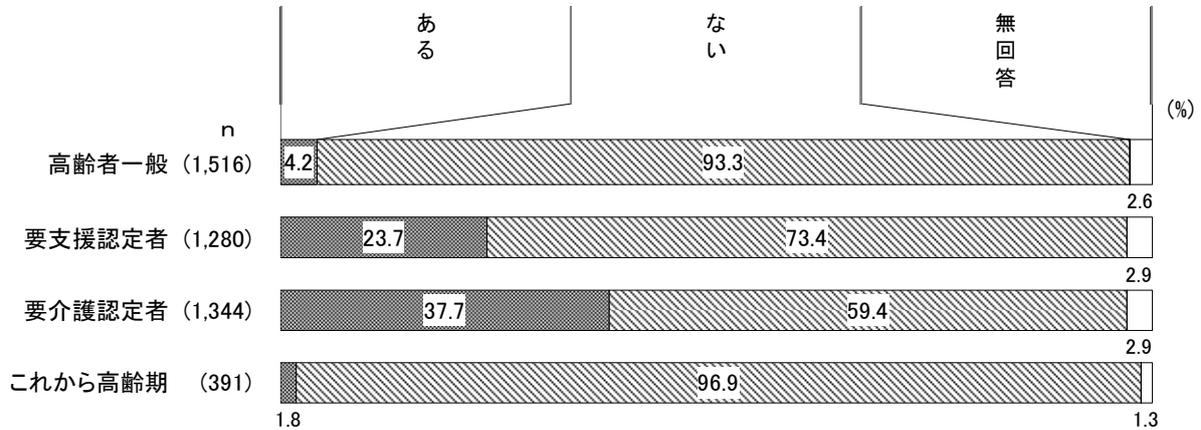
(複数回答)



(4) リハビリ療養

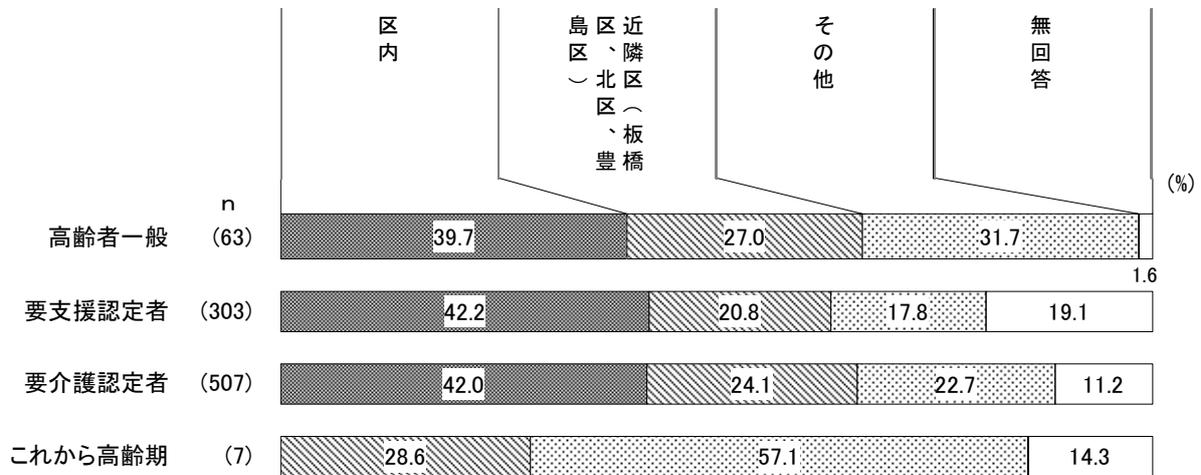
①リハビリ療養目的の入院の有無

○「ある」は、高齢者一般で4.2%、要支援認定者で23.7%、要介護認定者で37.7%、これから高齢期で1.8%となっている。



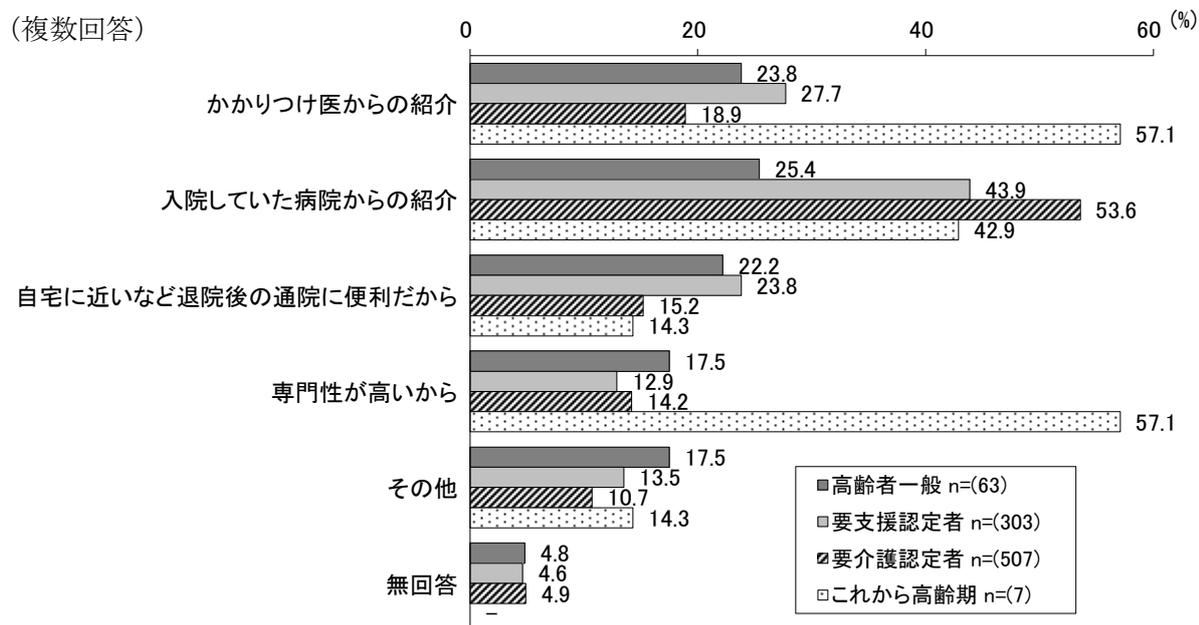
②リハビリ療養目的で入院した医療機関の所在地

○「区内」は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者で約4割となっている。



③リハビリ療養目的で入院した医療機関の選択理由

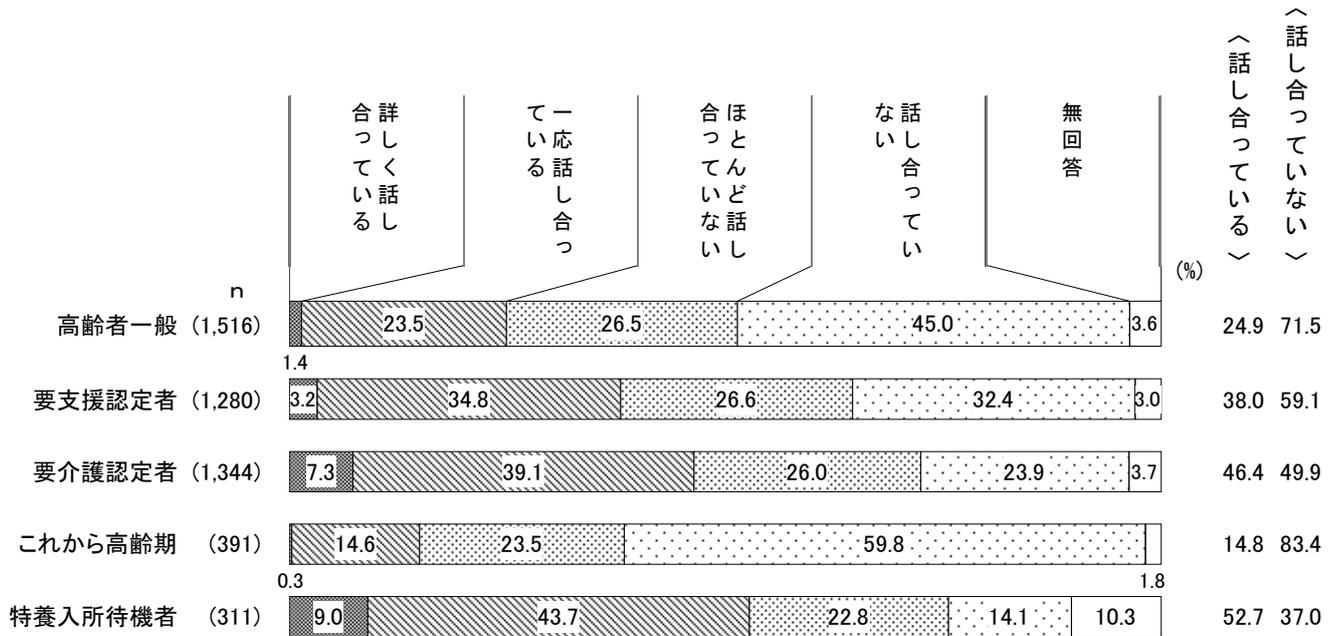
○高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者では、「入院していた病院からの紹介」が最も高く、それぞれ25.4%、43.9%、53.6%となっている。



(5) 人生の最終段階における医療・ケア

① 家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況

○人生の最終段階における受たい医療・介護、受たくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っているか聞いたところ、「話し合っている」（「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」の合計）と回答した人は、高齢者一般で24.9%、要支援認定者で38.0%、要介護認定者で46.4%、これから高齢期で14.8%、特養入所待機者で52.7%となっている。



[年代別 / 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者]

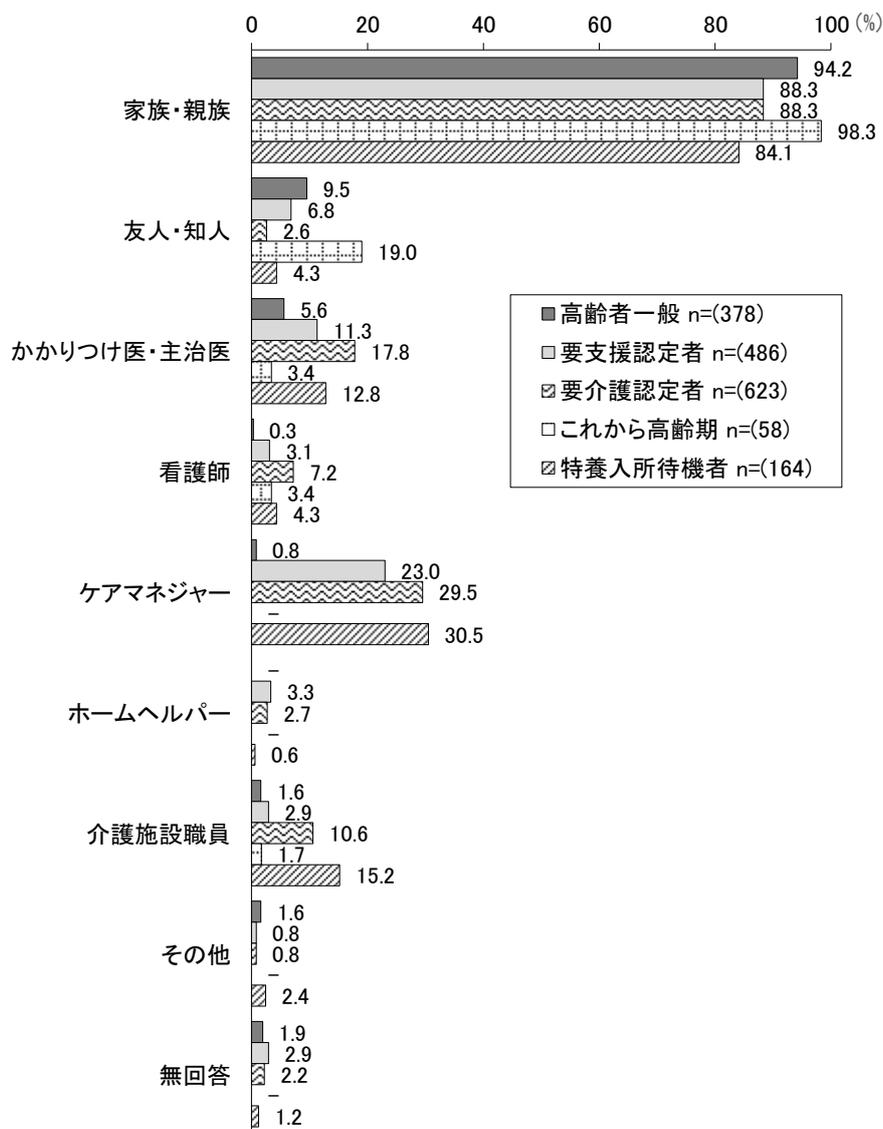
○年代別にみると、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者ともに、『後期高齢者』は、「話し合っている」が『前期高齢者』と比べて高くなっている。

	n	(%)					(%)	
		詳しく話し合っている	一応話し合っている	ほとんど話し合っていない	話し合っていない	無回答	話し合っている	話し合っていない
高齢者一般	1,516	1.4	23.5	26.5	45.0	3.6	24.9	71.5
前期高齢者(65-74歳)	643	0.9	20.5	27.1	49.3	2.2	21.5	76.4
後期高齢者(75歳以上)	850	1.6	25.9	26.0	42.2	4.2	27.5	68.2
要支援認定者	1,280	3.2	34.8	26.6	32.4	3.0	38.0	59.1
前期高齢者(65-74歳)	116	1.7	28.4	32.8	36.2	0.9	30.2	69.0
後期高齢者(75歳以上)	1,110	3.4	34.9	26.4	32.3	3.1	38.3	58.7
要介護認定者	1,344	7.3	39.1	26.0	23.9	3.7	46.4	49.9
前期高齢者(65-74歳)	133	3.0	40.6	27.1	28.6	0.8	43.6	55.6
後期高齢者(75歳以上)	1,153	7.9	39.1	25.9	23.3	3.7	47.0	49.3

②話し合っている相手

○ “話し合っている” と回答した人の話し合っている相手は、いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、8割半ばから全数近くとなっている。要支援認定者、要介護認定者、特養入所待機者では、次いで「ケアマネジャー」が高くなっている。

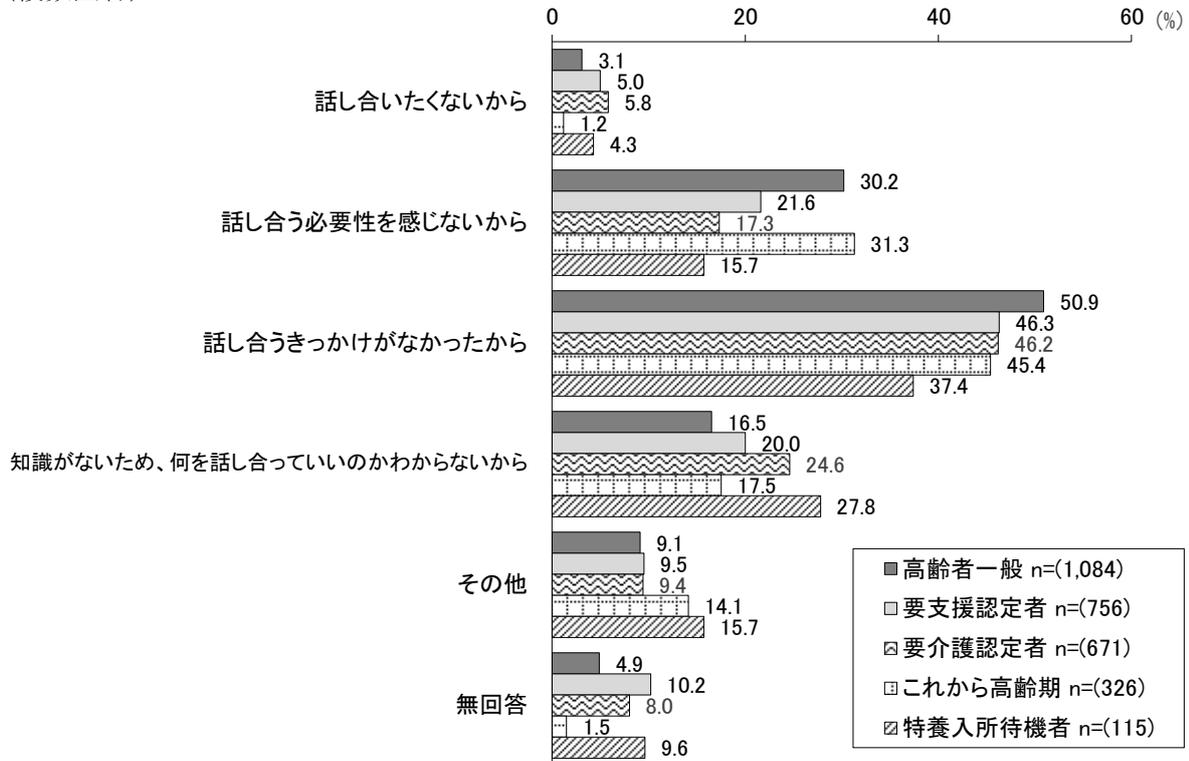
(複数回答)



③話し合ったことがない理由

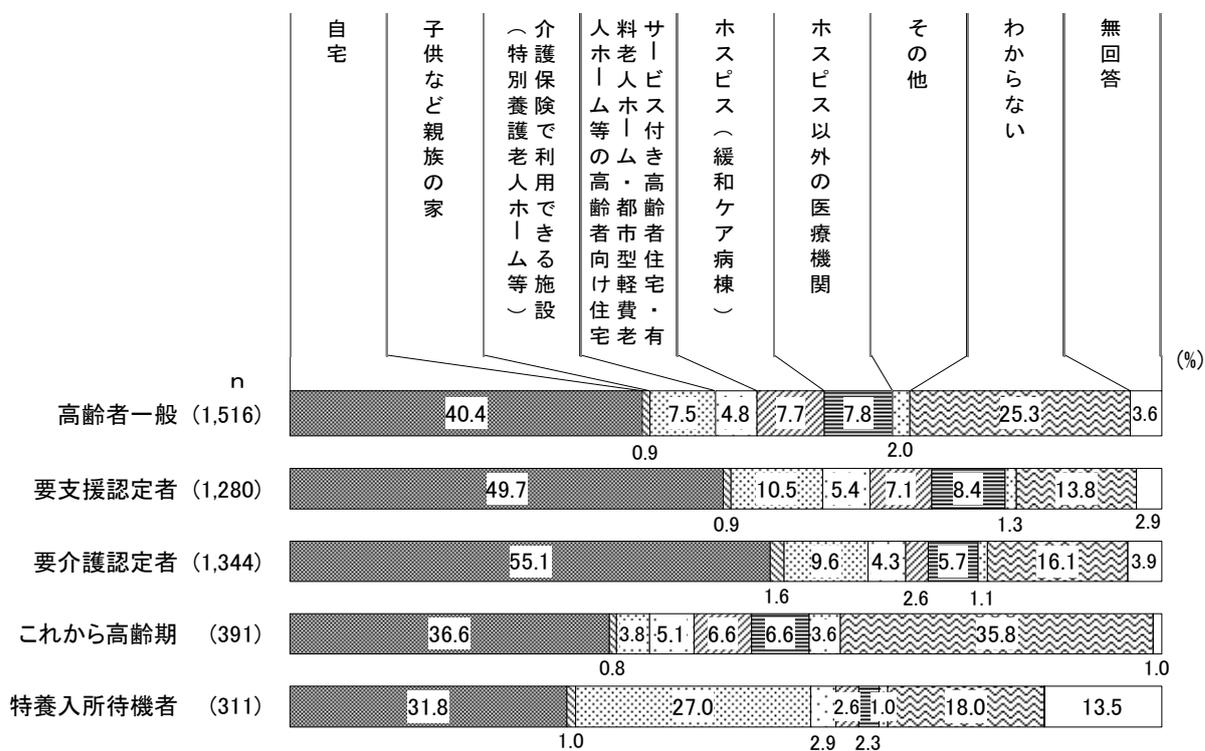
○話し合っていないと回答した人の理由は、いずれの調査でも「話し合うきっかけがなかったから」が最も高く、高齢者一般で50.9%、要支援認定者で46.3%、要介護認定者で46.2%、これから高齢期で45.4%、特養入所待機者で37.4%となっている。

(複数回答)



④人生の最期を迎えたい場所

○いずれの調査でも「自宅」が最も高く、高齢者一般で40.4%、要支援認定者で49.7%、要介護認定者で55.1%、これから高齢期で36.6%、特養入所待機者で31.8%となっている。



[世帯構成別 / 高齢者一般]

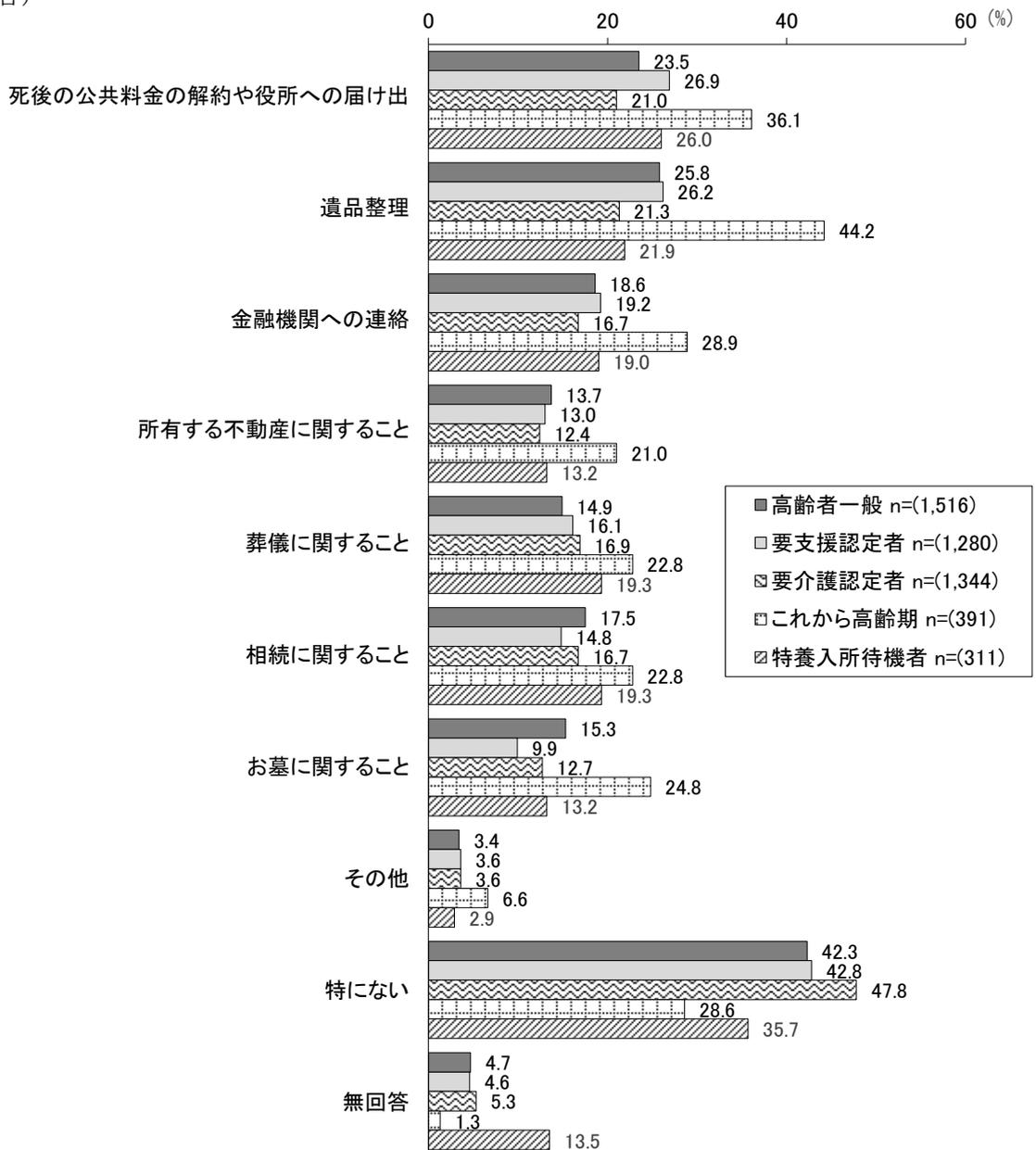
○世帯構成別にみると、『1人暮らし』は、「自宅」が約3割で全体と比べて低くなっている。

	n	自宅	子供など親族の家	介護保険で利用できる施設 (特別養護老人ホーム等)	老人ホーム等の高齢者向け住宅 (有料・有老人ホーム・高齢者向け住宅)	サービス付き高齢者住宅・有老人ホーム・都市型軽費老人ホーム	ホスピス(緩和ケア病棟)	ホスピス以外の医療機関	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,516	40.4	0.9	7.5	4.8	7.7	7.8	2.0	25.3	3.6	
1人暮らし	489	32.1	1.6	7.4	5.9	7.8	8.0	2.0	31.5	3.7	
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	404	44.8	-	7.2	5.4	6.4	7.9	1.5	23.5	3.2	
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	95	42.1	2.1	7.4	10.5	6.3	4.2	3.2	21.1	3.2	
子との2世帯	269	46.8	0.4	10.8	2.2	10.8	6.7	0.7	19.0	2.6	
その他	218	40.8	0.5	4.1	2.8	7.3	10.1	3.7	26.1	4.6	

⑤終末期・死後の手続等で不安なこと

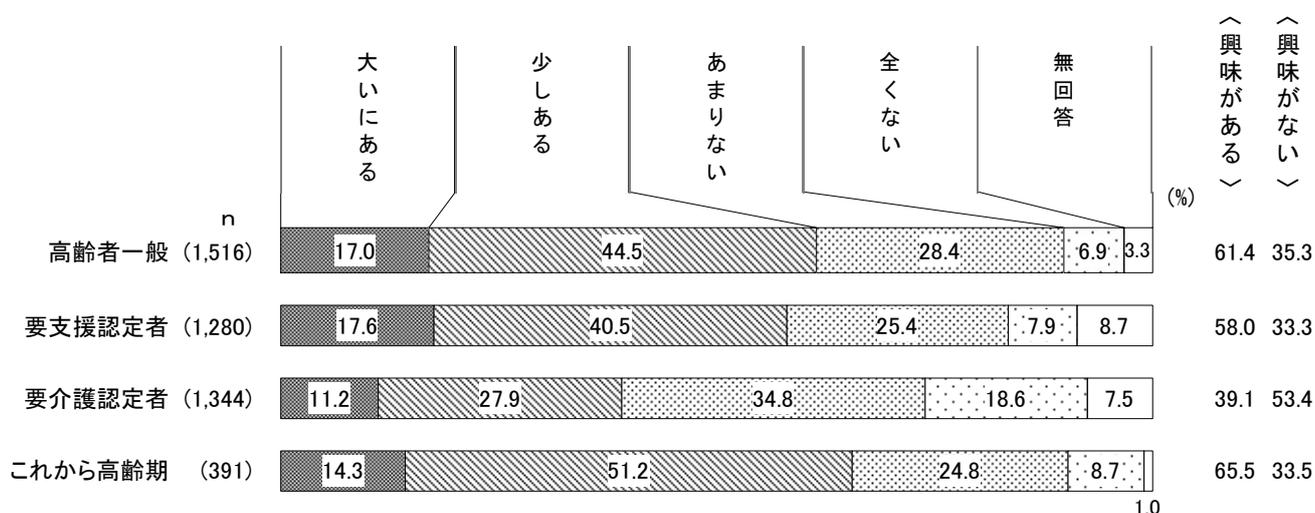
- 高齢者一般では、「特にない」が42.3%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」(25.8%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(23.5%)が上位に挙がっている。
- 要支援認定者では、「特にない」が42.8%となっている。不安なこととしては、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(26.9%)、「遺品整理」(26.2%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者では、「特にない」が47.8%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」(21.3%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(21.0%)が上位に挙がっている。
- これから高齢期では、「特にない」が28.6%と他の調査と比べて低くなっている。不安なこととしては、「遺品整理」(44.2%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(36.1%)、「金融機関への連絡」(28.9%)、「お墓に関すること」(24.8%)が上位に挙がっている。
- 特養入所待機者では、「特にない」が35.7%となっている。不安なこととしては、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(26.0%)、「遺品整理」(21.9%)が上位に挙がっている。

(複数回答)



⑥終活への興味

○“興味がある”（「大いにある」と「少しある」の合計）は、高齢者一般で61.4%、要支援認定者で58.0%、要介護認定者で39.1%、これから高齢期で65.5%となっている。



[性・年代別 / 高齢者一般]

○性・年代別にみると、『女性』は、“興味がある”が『男性』と比べて高くなっている。

	n	興味レベル (%)					興味有無 (%)	
		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
高齢者一般	1,516	17.0	44.5	28.4	6.9	3.3	61.4	35.3
男性 / 前期高齢者	307	13.4	40.1	36.5	9.1	1.0	53.4	45.6
男性 / 後期高齢者	332	11.4	39.2	34.9	10.2	4.2	50.6	45.2
女性 / 前期高齢者	335	19.4	56.7	19.7	3.6	0.6	76.1	23.3
女性 / 後期高齢者	511	21.5	42.5	25.4	5.3	5.3	64.0	30.7

[要介護度別 / 要介護認定者]

○要介護度別にみると、『軽度』は、“興味がある”が42.6%で、『中重度』(33.8%)と比べて高くなっている。

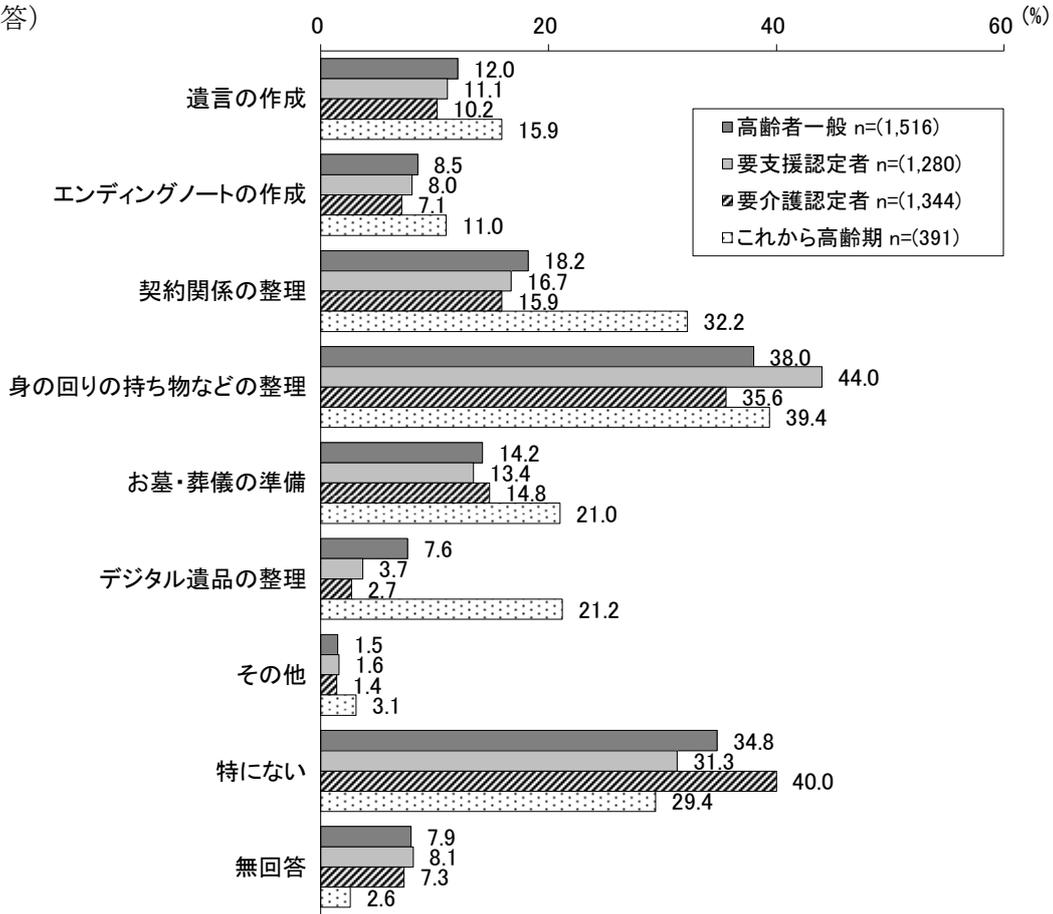
	n	興味レベル (%)					興味有無 (%)	
		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
要介護認定者	1,344	11.2	27.9	34.8	18.6	7.5	39.1	53.4
軽度	802	13.1	29.6	33.7	16.2	7.5	42.6	49.9
中重度	542	8.3	25.5	36.5	22.1	7.6	33.8	58.7

⑦終活に関して手助けが必要なこと

○いずれの調査でも「身の回りの持ち物などの整理」が上位に挙がっている。

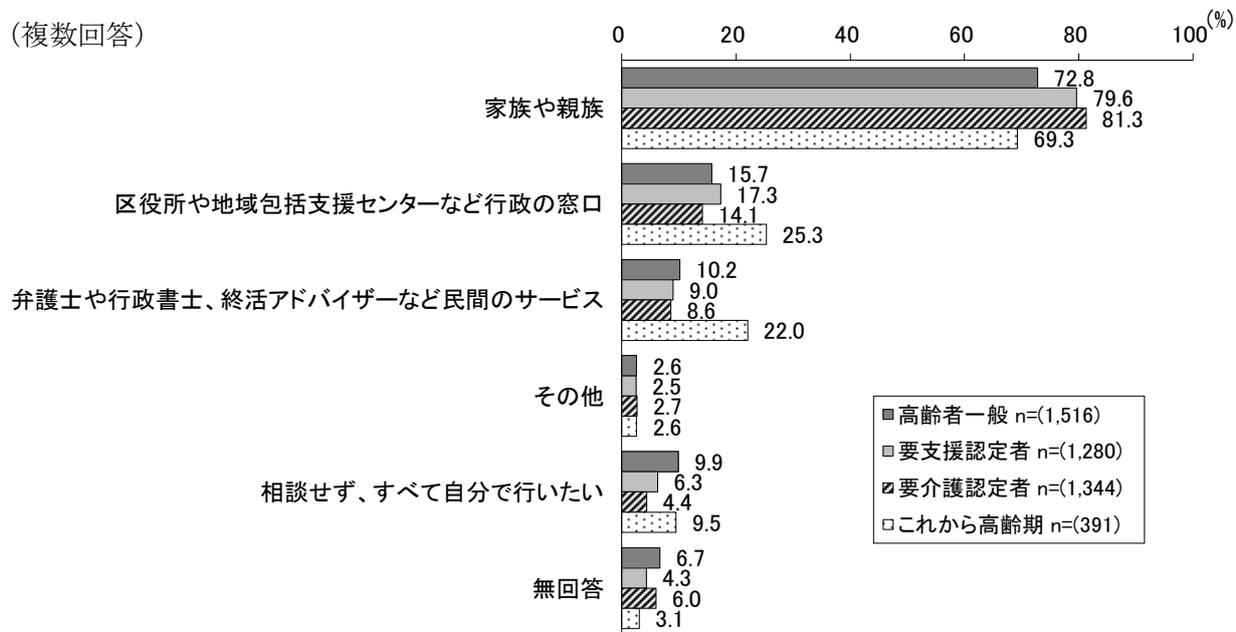
○これから高齢期では、「契約関係の整理」が32.2%、「デジタル遺品の整理」が21.2%、「お墓・葬儀の準備」が21.0%と他の調査と比べて高くなっている。

(複数回答)



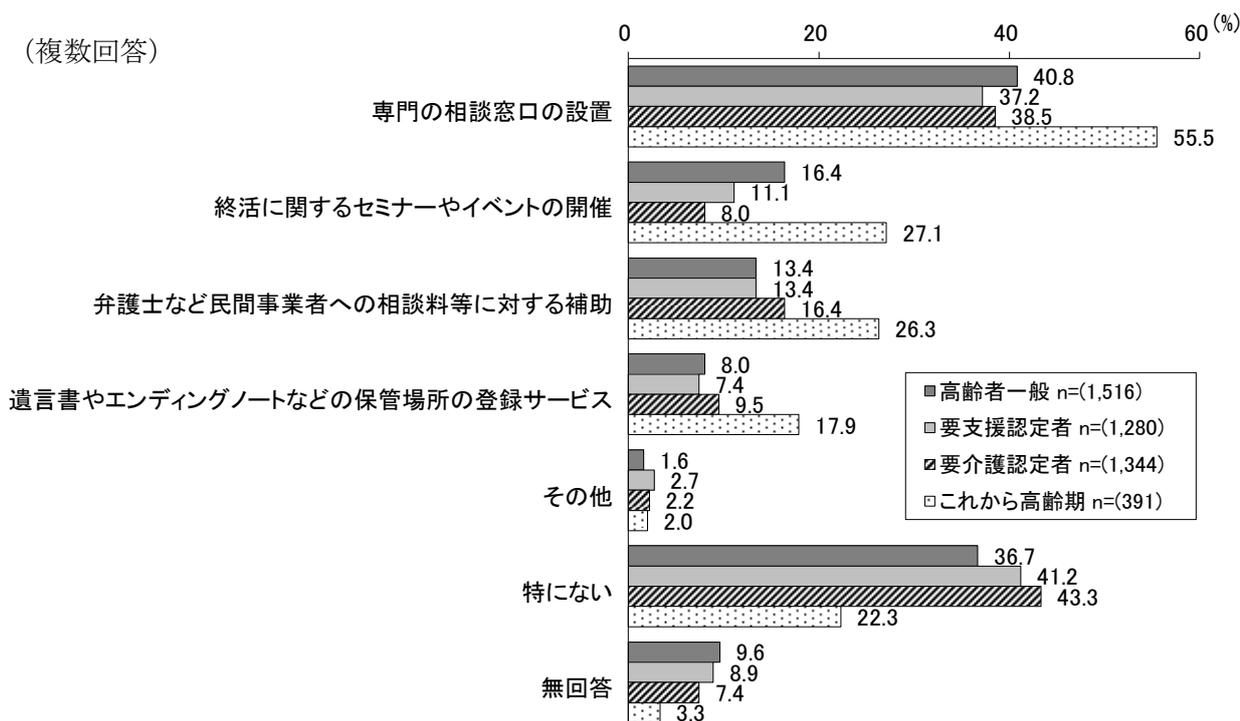
⑧終活に関して希望する相談先

- いずれの調査でも「家族や親族」が最も高く、約7割から8割超となっている。
- これから高齢期では、「区役所や地域包括支援センターなど行政の窓口」が25.3%、「弁護士や行政書士、終活アドバイザーなど民間のサービス」が22.0%と他の調査と比べて高くなっている。



⑨終活に関して区へ求める支援

- これから高齢期では、「専門の相談窓口の設置」、「終活に関するセミナーやイベントの開催」、「弁護士など民間事業者への相談料等に対する補助」、「遺言書やエンディングノートなどの保管場所の登録サービス」が他の調査と比べて高くなっている。また、「特にない」が他の調査と比べて低くなっている。



7. たすけあい

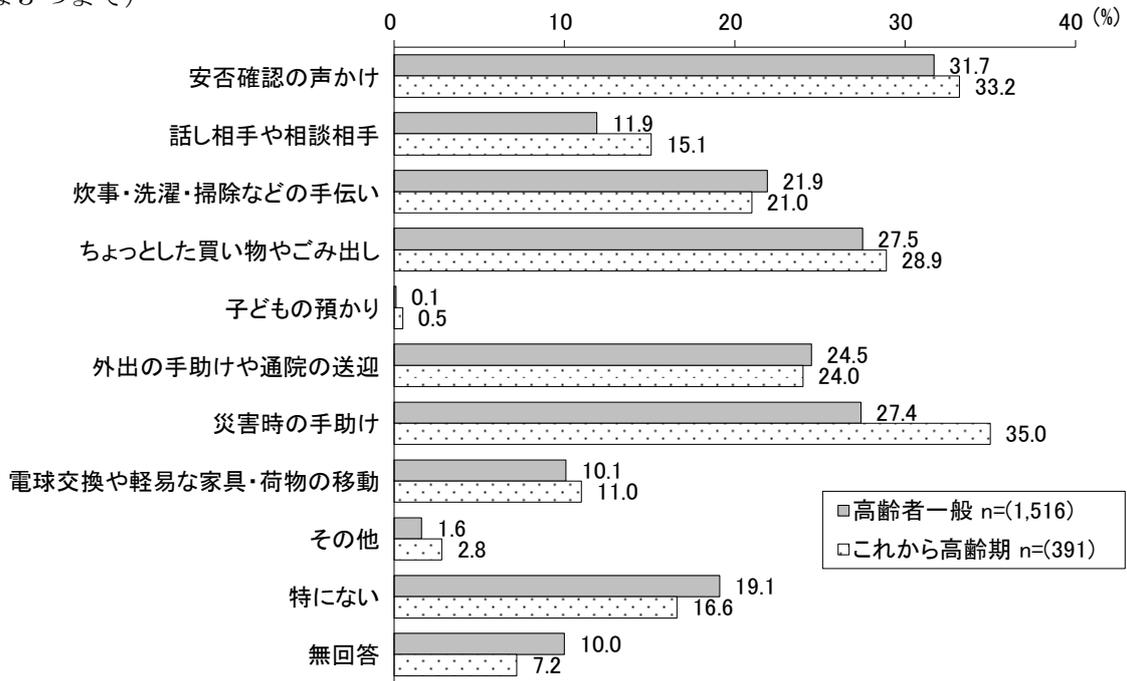
(1) 手助け

①地域の人たちにしてほしい手助け

○高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにしてほしい手助けは、高齢者一般では、「安否確認の声かけ」(31.7%)が最も高く、次いで「ちょっとした買い物やごみ出し」(27.5%)、「災害時の手助け」(27.4%)の順となっている。

○これから高齢期では、「災害時の手助け」(35.0%)が最も高く、次いで「安否確認の声かけ」(33.2%)、「ちょっとした買い物やごみ出し」(28.9%)の順となっている。

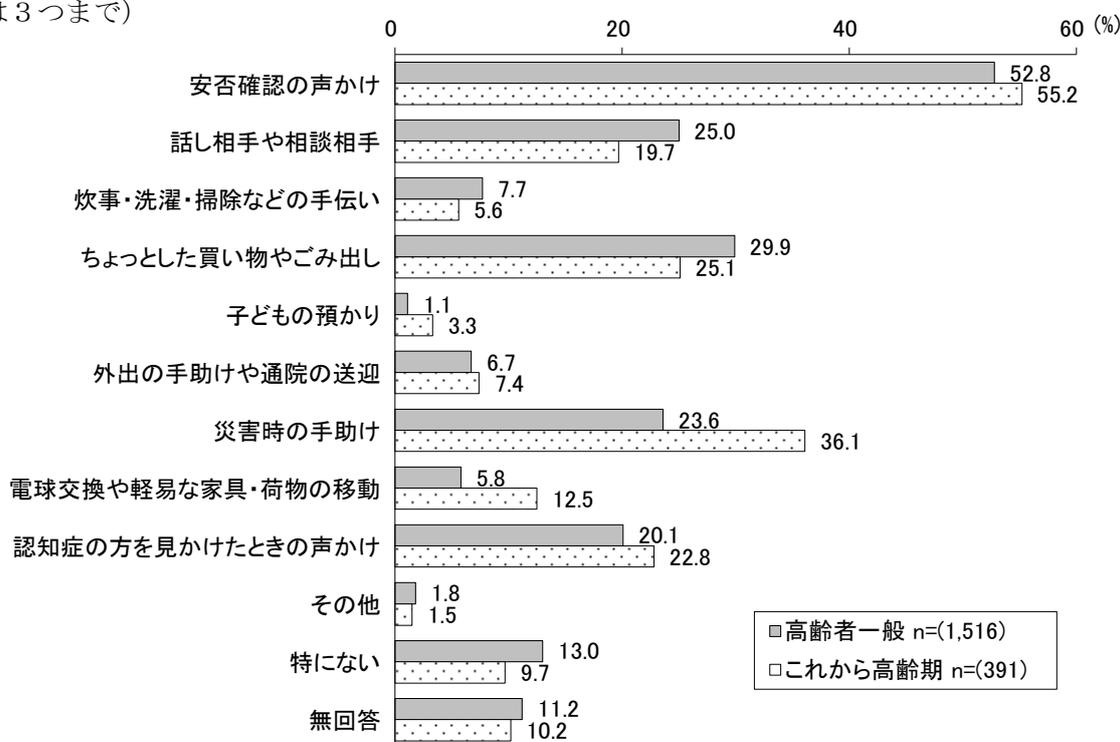
(○は3つまで)



②地域の支え合いとして自身ができること

○高齢者一般、これから高齢期ともに「安否確認の声かけ」が最も高く、それぞれ52.8%、55.2%となっている。次いで、高齢者一般では、「ちょっとした買い物やごみ出し」(29.9%)、これから高齢期では、「災害時の手助け」(36.1%)が高くなっている。

(○は3つまで)

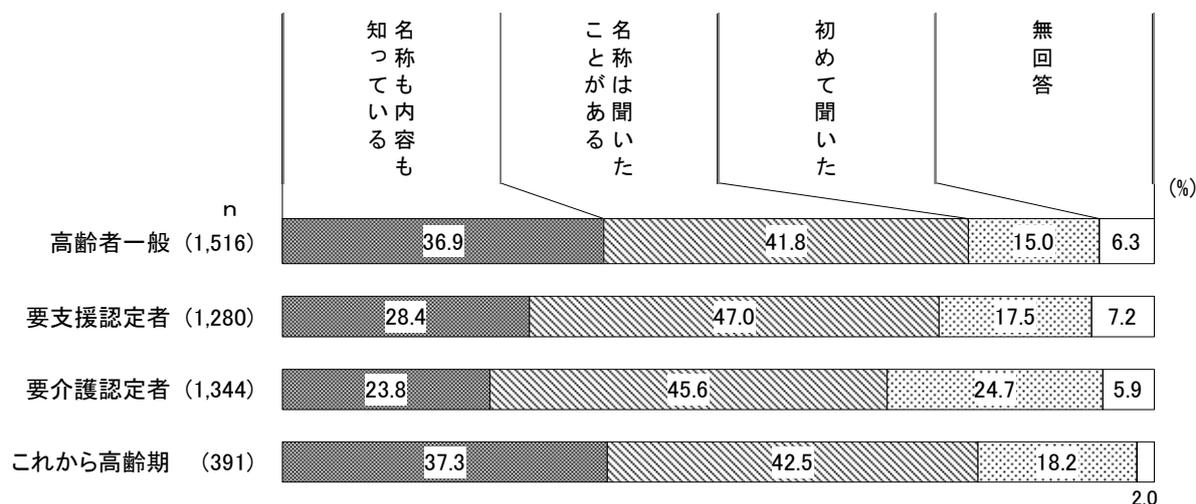


(2) 成年後見制度

①成年後見制度の認知度

○「名称も内容も知っている」は、高齢者一般で36.9%、要支援認定者で28.4%、要介護認定者で23.8%、これから高齢期で37.3%となっている。

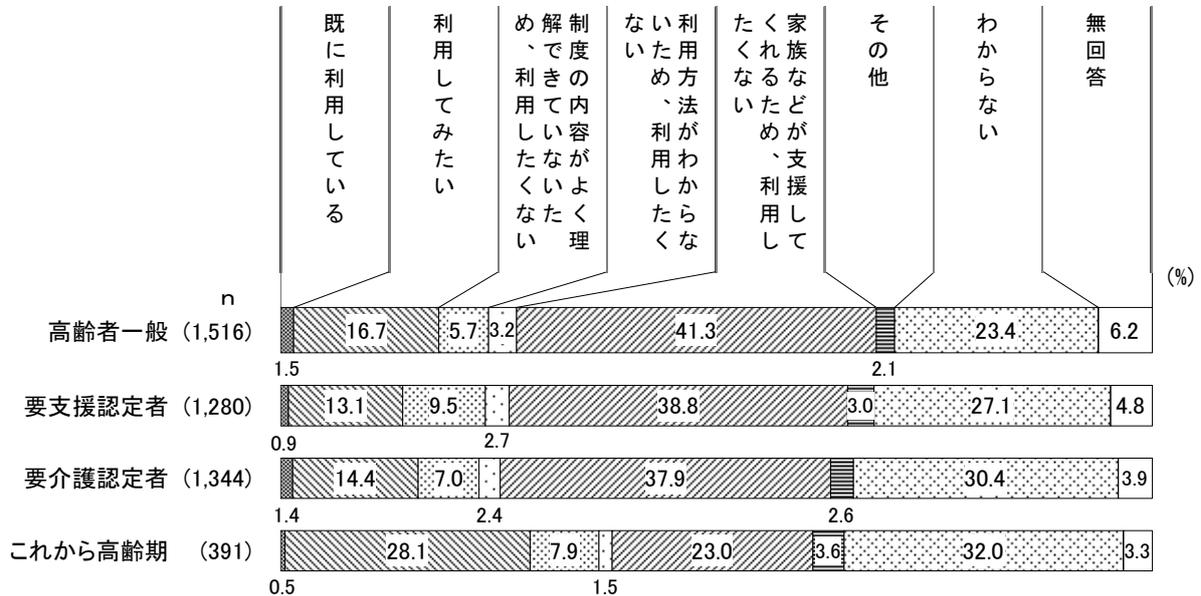
○「初めて聞いた」は、高齢者一般で15.0%、要支援認定者で17.5%、要介護認定者で24.7%、これから高齢期で18.2%となっている。



②成年後見制度の利用意向

○高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者では、「家族などが支援してくれるため、利用したくない」が4割前後で最も高くなっている。

○これから高齢期では、「利用してみたい」が28.1%と他の調査と比べて高くなっている。



[子どもの有無別 / 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者]

○子どもの有無別にみると、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者ともに、『いない』は、「利用してみたい」が『いる』と比べて高くなっている。

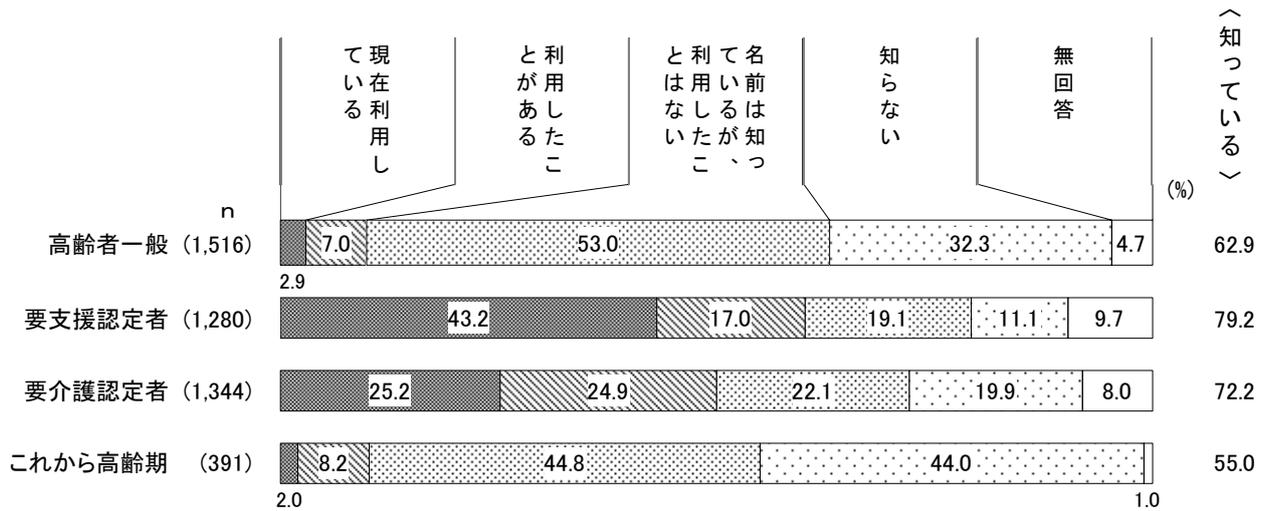
		(%)							
	n	既に利用している	利用してみたい	め解制、で度の利きの用てしい容がよくない	ない利用め方、法がわしかたらくな	たく族ななどが支援助して	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,516	1.5	16.7	5.7	3.2	41.3	2.1	23.4	6.2
いる	1,211	1.4	14.9	5.0	2.8	46.6	1.7	21.7	5.9
いない	281	1.4	24.6	8.5	5.0	19.9	3.6	31.0	6.0
要支援認定者	1,280	0.9	13.1	9.5	2.7	38.8	3.0	27.1	4.8
いる	1,034	0.8	11.7	8.9	2.7	43.2	2.5	26.2	4.0
いない	189	1.6	18.5	12.7	3.7	18.0	5.8	34.9	4.8
要介護認定者	1,344	1.4	14.4	7.0	2.4	37.9	2.6	30.4	3.9
いる	1,100	1.2	12.5	6.3	2.2	41.9	2.3	30.4	3.3
いない	184	2.2	22.8	12.0	3.8	21.2	5.4	29.9	2.7

8. 地域包括支援センター

(1) 地域包括支援センターの認知度

○ “知っている”（「現在利用している」、「利用したことがある」、「名前を知っているが、利用したことはない」の合計）は、高齢者一般で62.9%、要支援認定者で79.2%、要介護認定者で72.2%、これから高齢期で55.0%となっている。

○いずれの調査でも “知っている” が「知らない」を上回っている。



[性・年代別 / 高齢者一般]

○性・年代別にみると、『女性』は、“知っている”が『男性』と比べて高くなっている。

	n	現在利用している (%)	利用したことがある (%)	名前を知っているが、利用したことはない (%)	知らない (%)	無回答 (%)	知っている (合計) (%)
高齢者一般	1,516	2.9	7.0	53.0	32.3	4.7	62.9
男性 / 前期高齢者	307	1.0	2.6	47.2	47.6	1.6	50.8
男性 / 後期高齢者	332	1.5	6.0	47.3	39.8	5.4	54.8
女性 / 前期高齢者	335	3.0	10.4	56.7	26.6	3.3	70.1
女性 / 後期高齢者	511	5.1	8.0	57.3	22.7	6.8	70.5

[経年比較 / 高齢者一般]

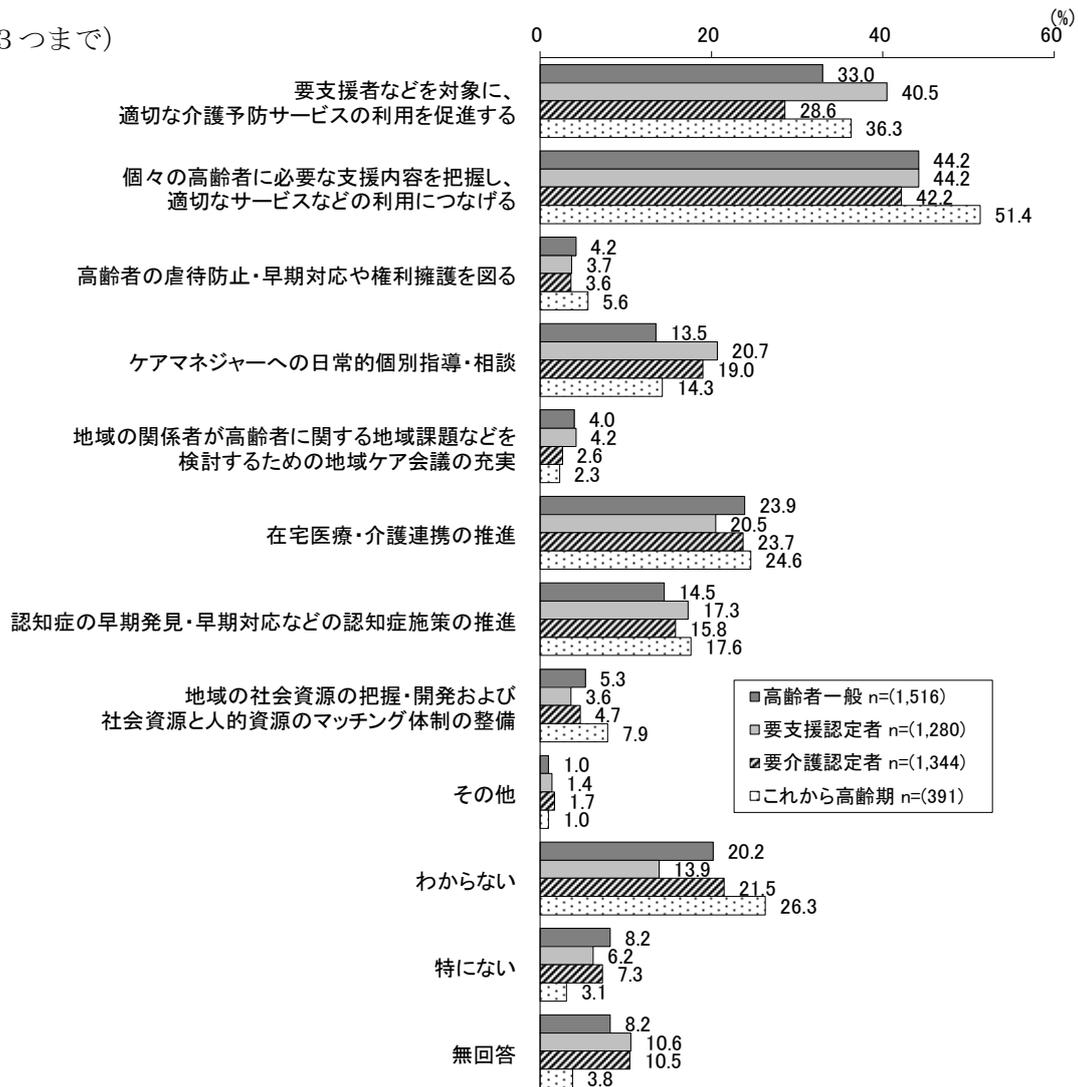
○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、“知っている”が11.5ポイント高くなっている。

	n	現在利用している	利用したことがある	名前前は知っているが、利用しなかった	知らない	無回答	知っている
令和4年度	1,516	2.9	7.0	53.0	32.3	4.7	62.9
令和元年度	1,447	3.0	7.5	41.0	33.7	14.9	51.4

(2) 地域包括支援センターに期待する役割

○いずれの調査でも「個々の高齢者に必要な支援内容を把握し、適切なサービスなどの利用につなげる」が最も高く、次いで「要支援者などを対象に、適切な介護予防サービスの利用を促進する」の順となっている。

(○は3つまで)

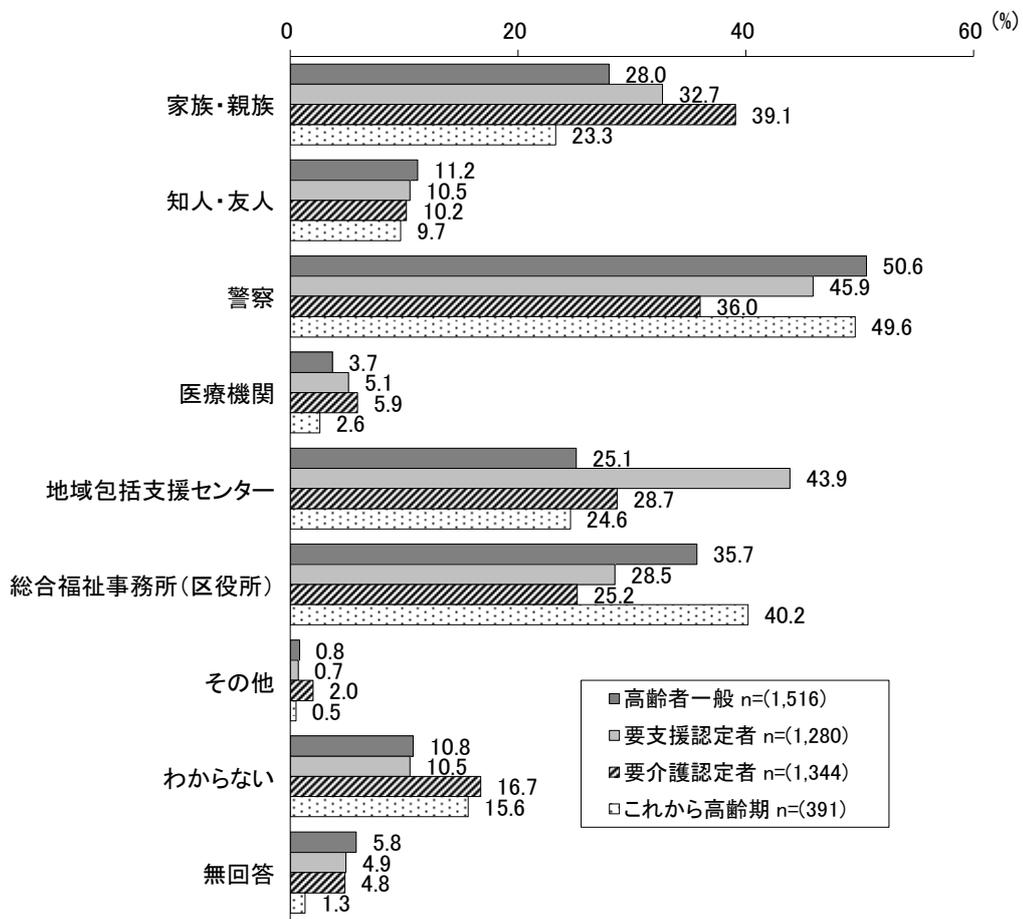


(3) 高齢者の虐待

① 高齢者虐待の相談先

- 高齢者一般では、「警察」(50.6%)が最も高く、次いで「総合福祉事務所(区役所)」(35.7%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「警察」(45.9%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(43.9%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「家族・親族」(39.1%)が最も高く、次いで「警察」(36.0%)、「地域包括支援センター」(28.7%)の順となっている。
- これから高齢期では、「警察」(49.6%)が最も高く、次いで「総合福祉事務所(区役所)」(40.2%)の順となっている。

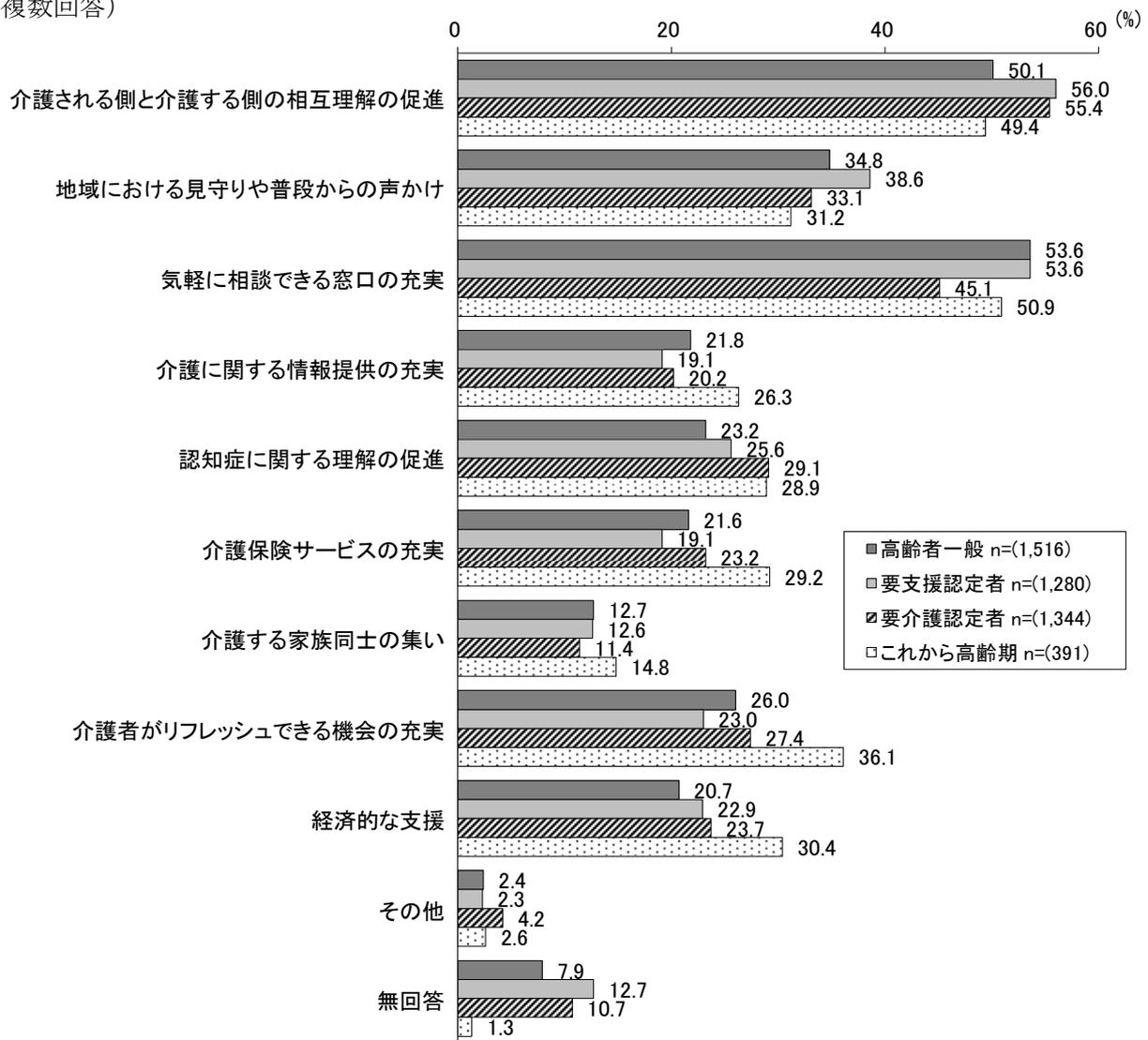
(複数回答)



②高齢者虐待を防止するために必要なこと

- 高齢者一般では、「気軽に相談できる窓口の充実」(53.6%)が最も高く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(50.1%)、「地域における見守りや普段からの声かけ」(34.8%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(56.0%)が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口の充実」(53.6%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(55.4%)が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口の充実」(45.1%)、「地域における見守りや普段からの声かけ」(33.1%)の順となっている。
- これから高齢期では、「気軽に相談できる窓口の充実」(50.9%)が最も高く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(49.4%)、「介護者がリフレッシュできる機会の充実」(36.1%)の順となっている。

(複数回答)



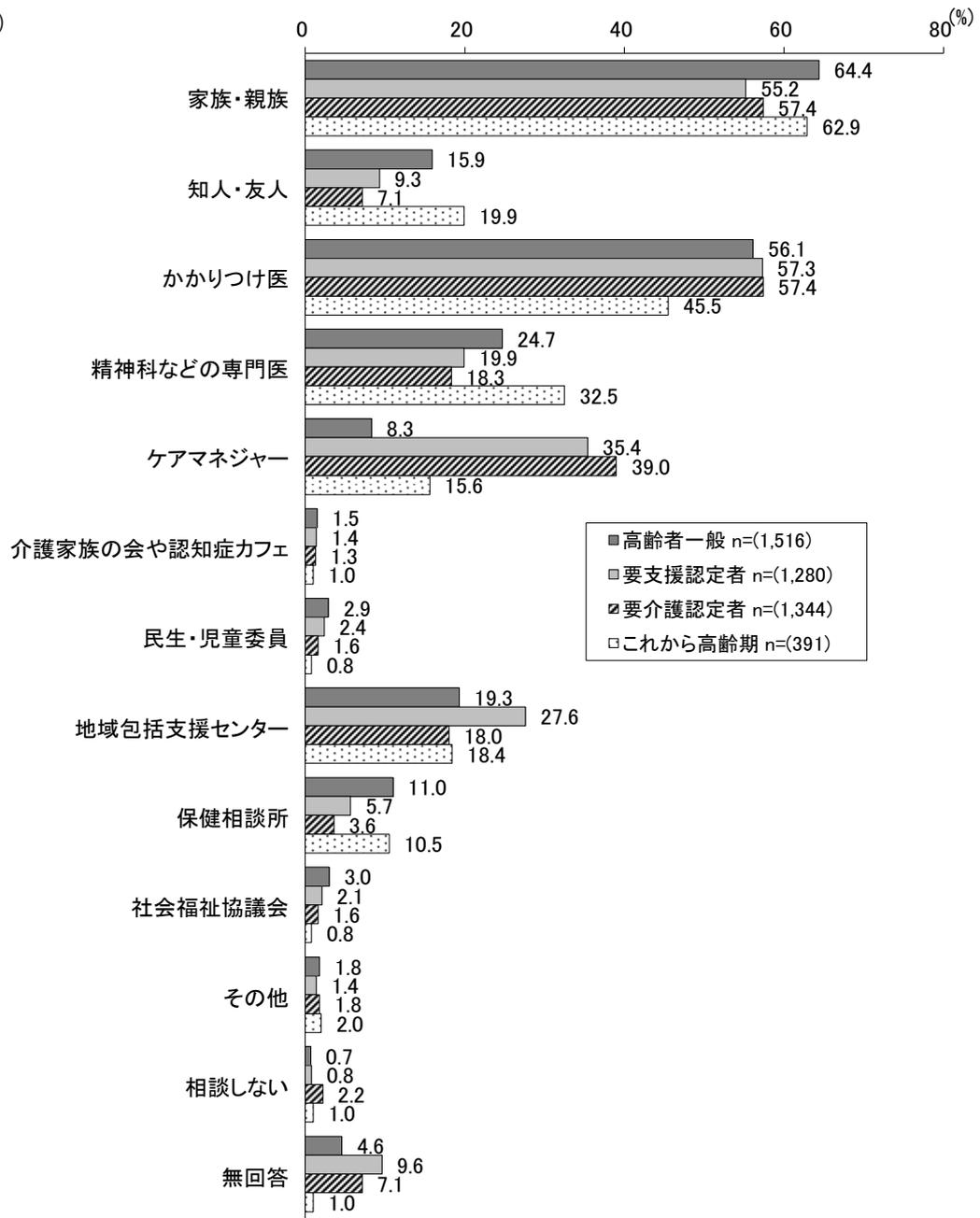
(4) 認知症

①認知症ではないかと感じたときの相談先

○いずれの調査でも「家族・親族」、「かかりつけ医」が上位に挙がっている。

○要支援認定者、要介護認定者では、「ケアマネジャー」が、それぞれ35.4%、39.0%と他の調査と比べて高くなっている。

(複数回答)

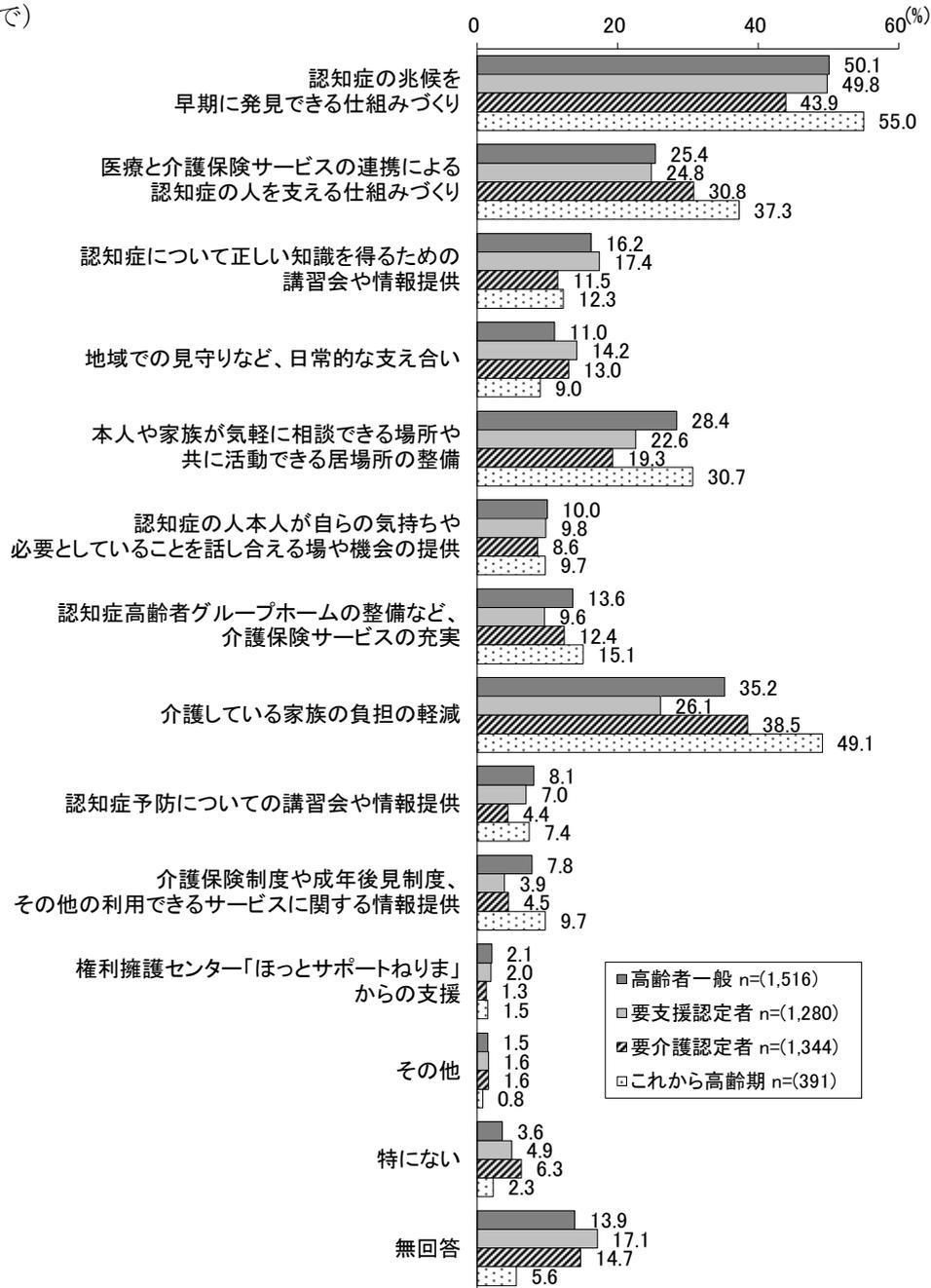


②認知症施策で必要なこと

○いずれの調査でも「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が最も高く、次いで「介護している家族の負担の軽減」の順となっている。

○これから高齢期では、「介護している家族の負担の軽減」が49.1%と他の調査と比べて高くなっている。

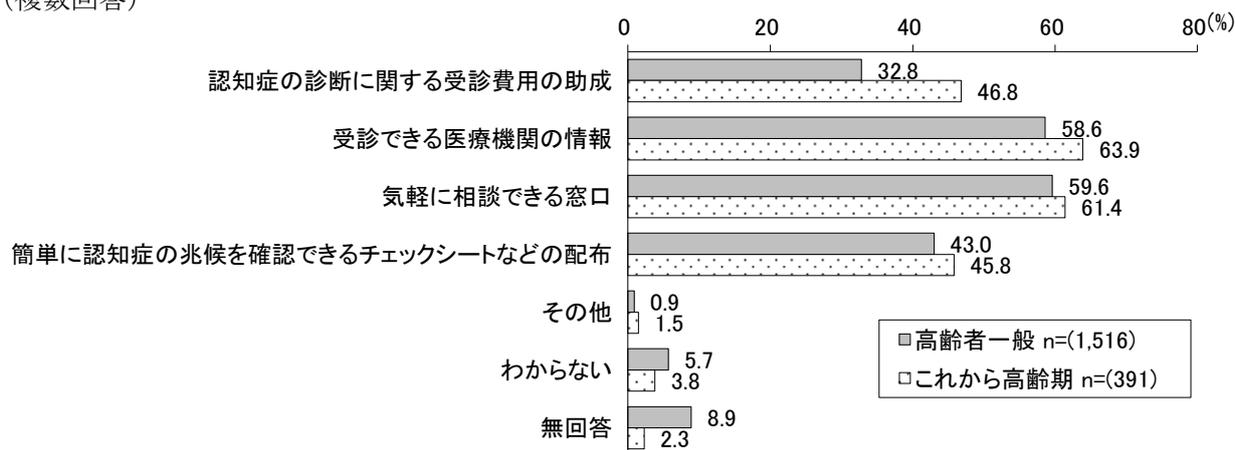
(○は3つまで)



③認知症の早期発見の仕組み

- 高齢者一般では、「気軽に相談できる窓口」(59.6%)が最も高く、次いで「受診できる医療機関の情報」(58.6%)、「簡単に認知症の兆候を確認できるチェックシートなどの配布」(43.0%)の順となっている。
- これから高齢期では、「受診できる医療機関の情報」(63.9%)が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口」(61.4%)、「認知症の診断に関する受診費用の助成」(46.8%)の順となっている。

(複数回答)

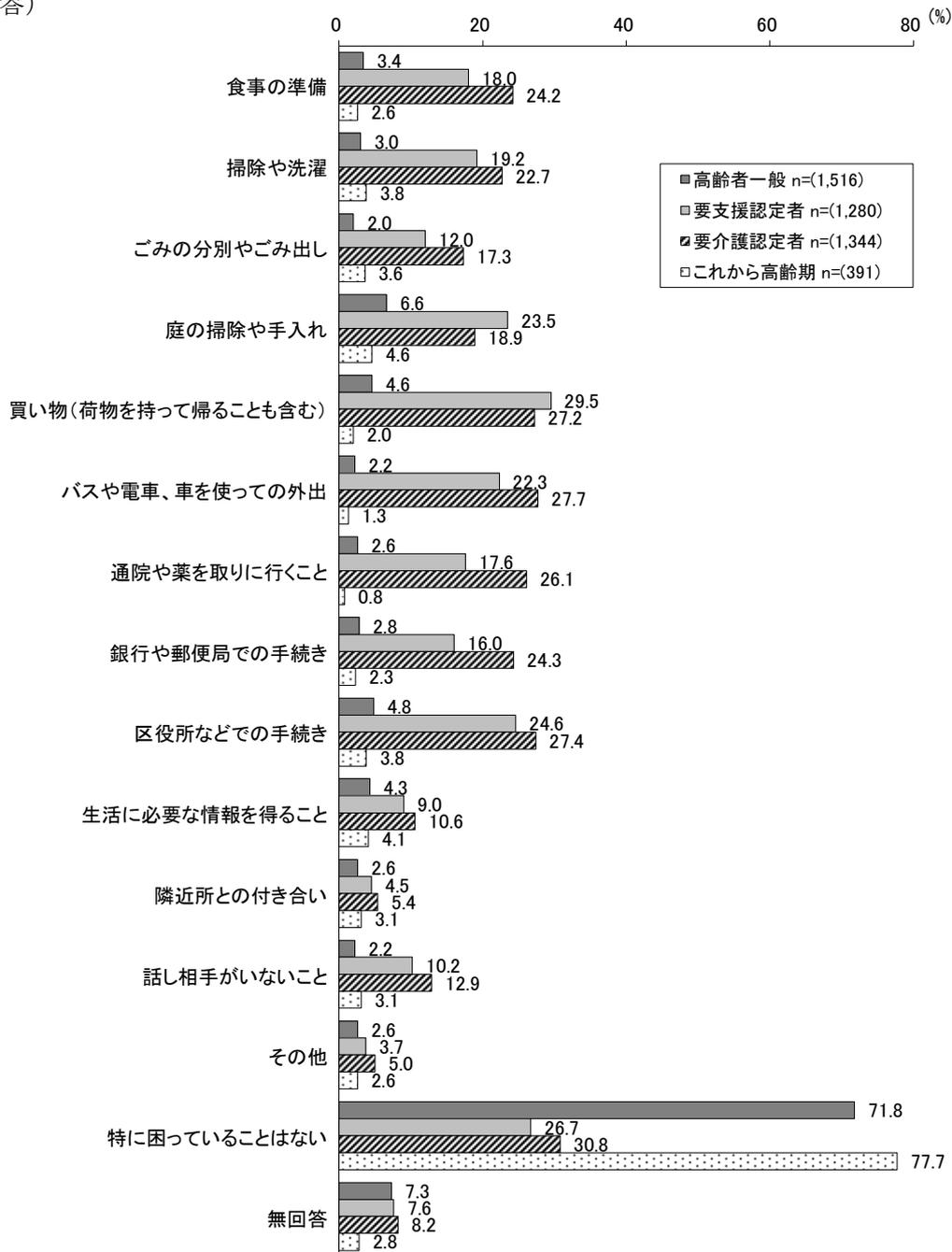


9. 日常生活の状況

(1) 日常生活の中での困りごと

- 高齢者一般、これから高齢期では、「特に困っていることはない」が最も高く、それぞれ71.8%、77.7%となっている。
- 要支援認定者では、「買い物（荷物を持って帰ることも含む）」(29.5%)、「区役所などでの手続き」(24.6%)、「庭の掃除や手入れ」(23.5%)が上位に挙がっている。「特に困っていることはない」は26.7%となっている。
- 要介護認定者では、「特に困っていることはない」(30.8%)が最も高くなっている。「バスや電車、車を使っての外出」(27.7%)、「区役所などでの手続き」(27.4%)、「買い物（荷物を持って帰ることも含む）」(27.2%)が上位に挙がっている。

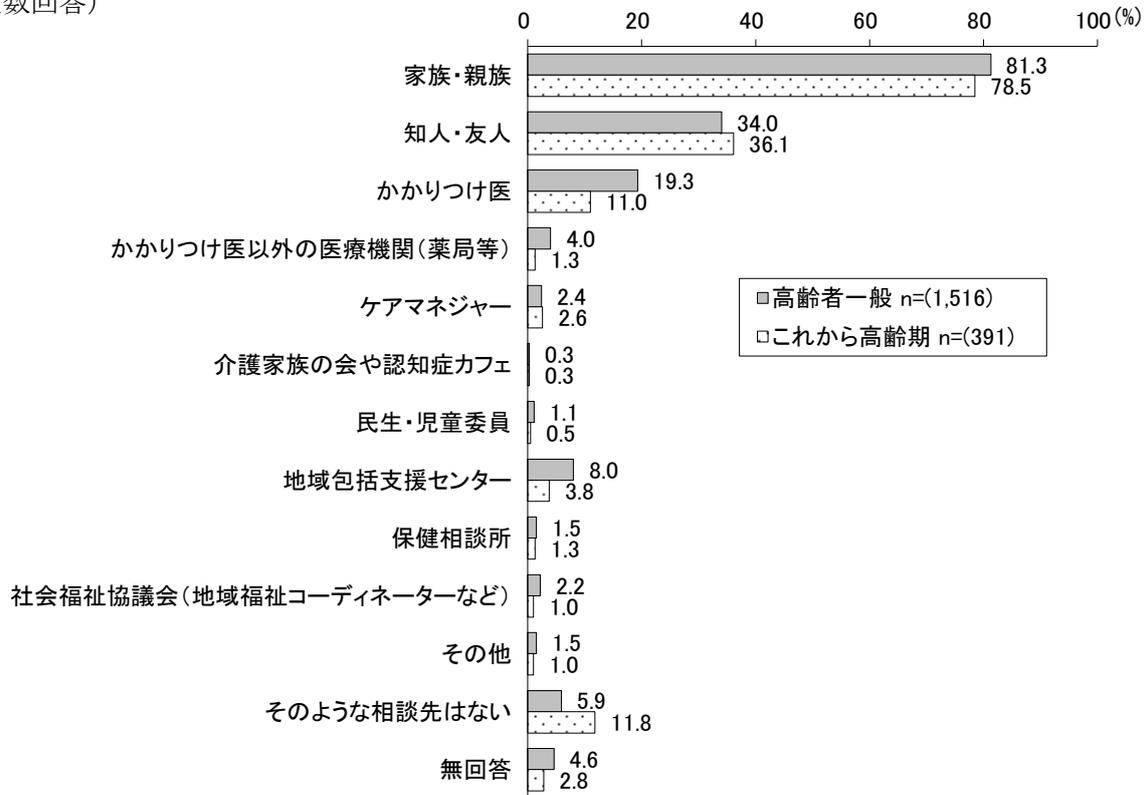
(複数回答)



(2) 日常生活で困った場合の相談先

○いずれの調査でも「家族・親族」が8割前後と最も高く、次いで「知人・友人」となっている。

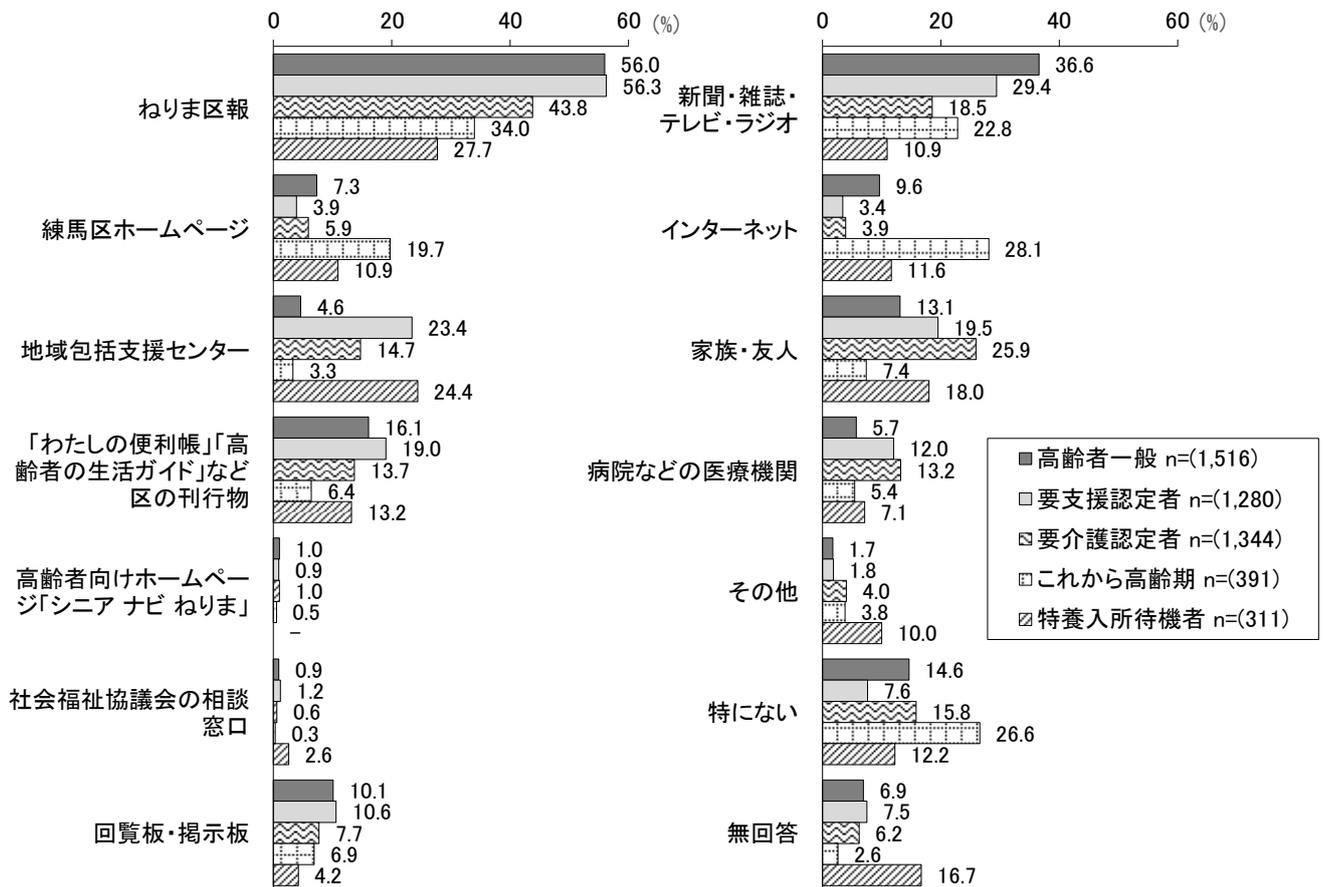
(複数回答)



(3) 保健福祉や介護保険に関する情報の入手方法

- 高齢者一般では、「ねりま区報」(56.0%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(36.6%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「ねりま区報」(56.3%)が最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(29.4%)、「地域包括支援センター」(23.4%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「ねりま区報」(43.8%)が最も高く、次いで「家族・友人」(25.9%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(18.5%)の順となっている。
- これから高齢期では、「ねりま区報」(34.0%)が最も高く、次いで「インターネット」(28.1%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(22.8%)、「練馬区ホームページ」(19.7%)の順となっている。「特にない」は26.6%となっている。
- 特養入所待機者では、「ねりま区報」(27.7%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(24.4%)の順となっている。

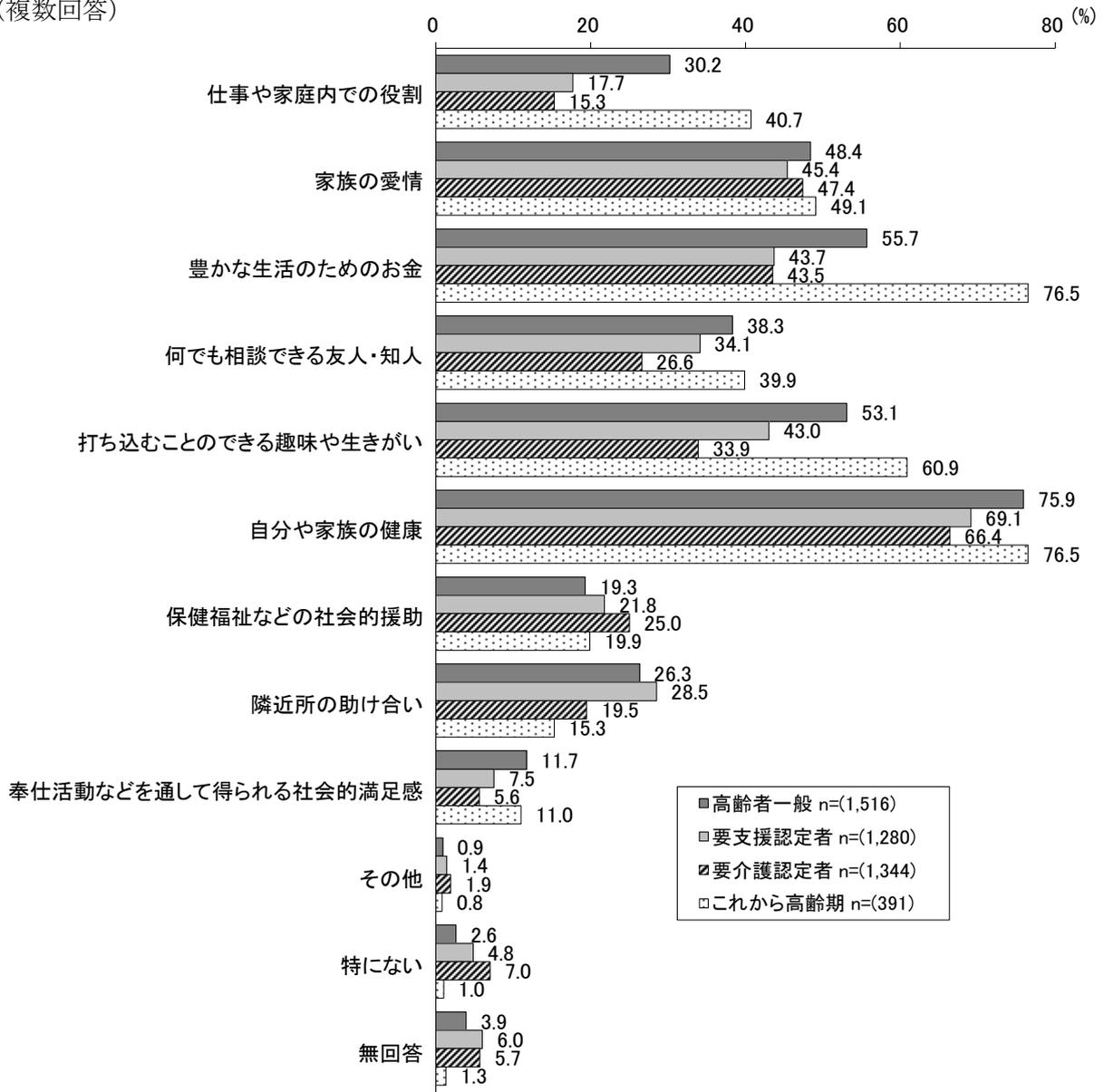
(○は3つまで)



(4) 老後を楽しく生きていくために必要なもの

- 高齢者一般では、「自分や家族の健康」(75.9%)が最も高く、次いで「豊かな生活のためのお金」(55.7%)、「打ち込むことのできる趣味や生きがい」(53.1%)、「家族の愛情」(48.4%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「自分や家族の健康」(69.1%)が最も高く、次いで「家族の愛情」(45.4%)、「豊かな生活のためのお金」(43.7%)、「打ち込むことのできる趣味や生きがい」(43.0%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「自分や家族の健康」(66.4%)が最も高く、次いで「家族の愛情」(47.4%)、「豊かな生活のためのお金」(43.5%)の順となっている。
- これから高齢期では、「自分や家族の健康」、「豊かな生活のためのお金」がそれぞれ76.5%と最も高く、次いで「打ち込むことのできる趣味や生きがい」(60.9%)の順となっている。

(複数回答)



〔経年比較 / 高齢者一般〕

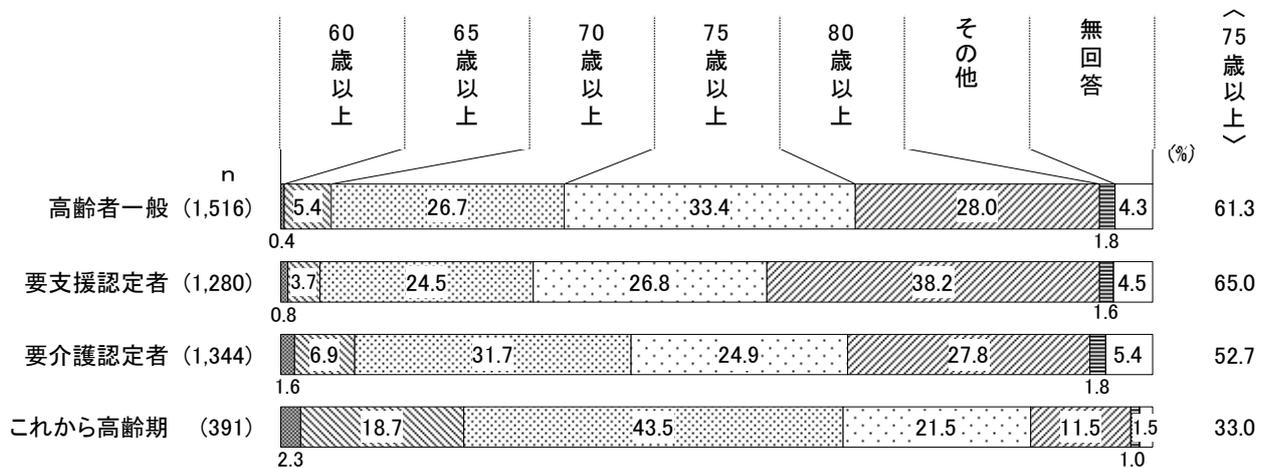
○令和4年度の調査結果は、過去の調査結果と同様に「自分や家族の健康」が最も高く、令和元年度の調査結果と比較すると10ポイント高くなっている。

(複数回答)

	n	仕事や家庭内での役割	家族の愛情	豊かな生活のためのお金	何でも相談できる友人・知人	自分や家族の健康	打ち込むことのできる趣味や生きがい	保健福祉などの社会的援助	隣近所の助け合い	奉仕活動などを通して得られる社会的満足感	その他	特になし	無回答
令和4年度	1,516	30.2	48.4	55.7	38.3	75.9	53.1	19.3	26.3	11.7	0.9	2.6	3.9
令和元年度	1,447	31.9	46.4	47.5	34.6	65.9	47.5	11.3	23.1	9.0	0.6	2.6	12.4
平成28年度	1,434	29.4	49.6	49.0	35.8	64.3	48.7	15.0	22.0	9.2	1.2	1.7	11.4

(5) 高齢者だと思う年齢

- “75歳以上”（「75歳以上」と「80歳以上」の合計）は、高齢者一般で61.3%、要支援認定者で65.0%、要介護認定者で52.7%、これから高齢期で33.0%となっている。
- これから高齢期では、「70歳以上」が4割半ばと他の調査と比べて高くなっている。



[経年比較 / 高齢者一般]

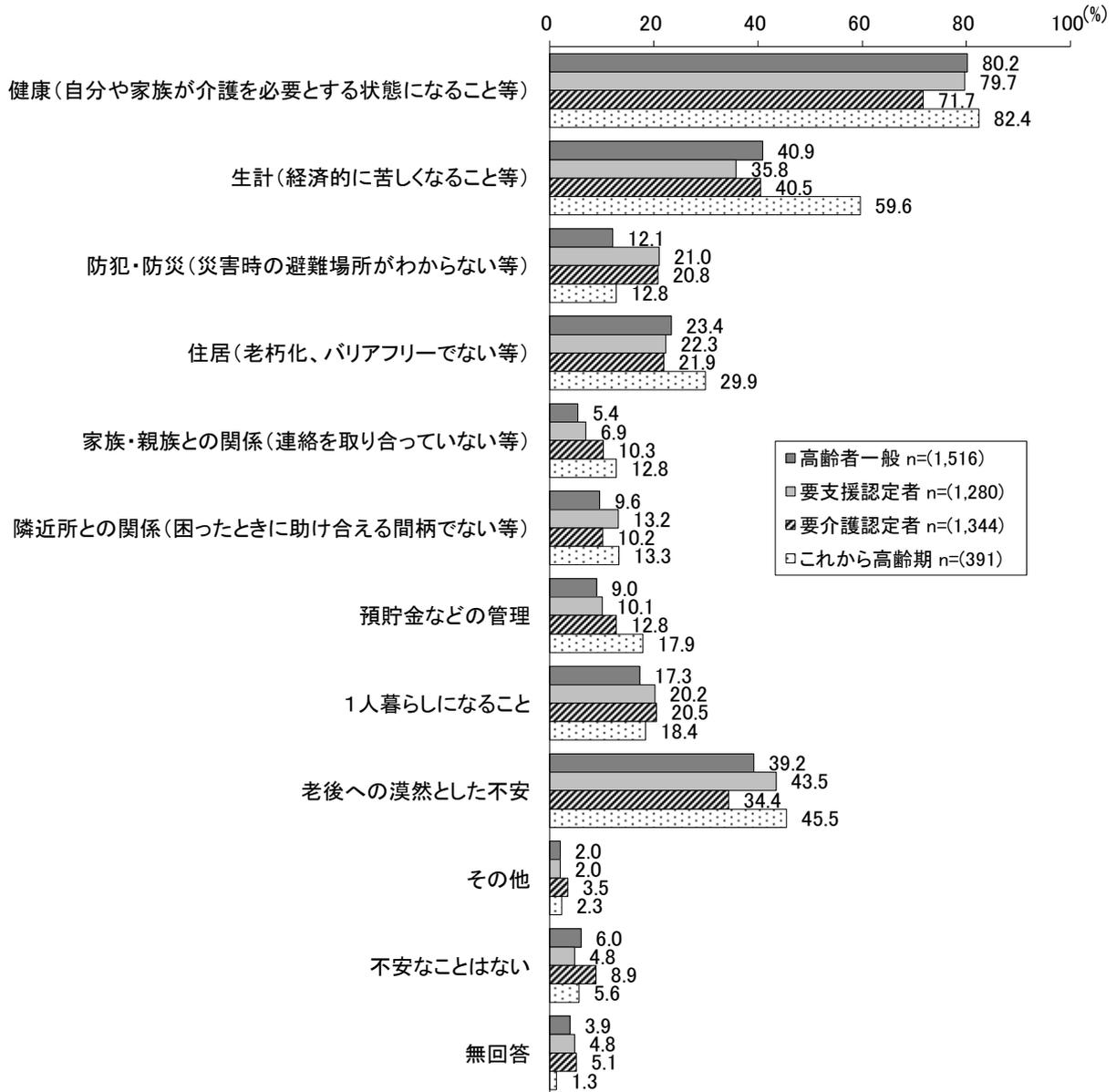
- 令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、“75歳以上”が5ポイント高くなっている。

	n	60歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	その他	無回答	75歳以上
令和4年度	1,516	0.4	5.4	26.7	33.4	28.0	1.8	4.3	61.3
令和元年度	1,447	0.7	3.9	24.4	31.9	24.3	1.4	13.4	56.3
平成28年度	1,494	0.3	3.9	30.6	29.9	22.3	1.6	11.3	52.2

(6) 将来の不安

○いずれの調査でも「健康（自分や家族が介護を必要とする状態になること等）」が最も高く、7割超から8割超となっている。また、「生計（経済的に苦しくなること等）」、「老後への漠然とした不安」が上位に挙がっている。

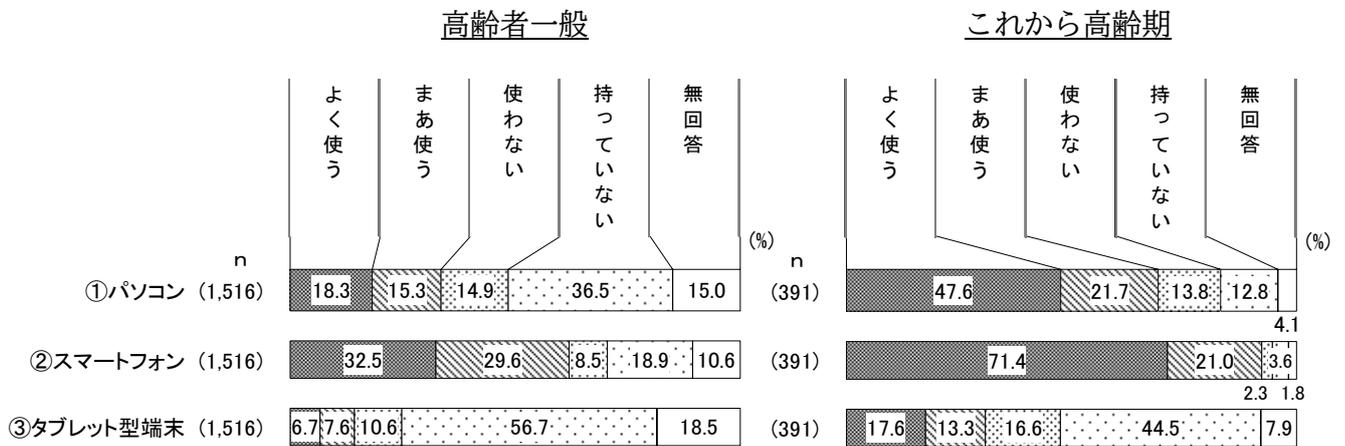
(複数回答)



(7) スマートフォン等の情報通信機器の使用状況

①使用状況

○スマートフォンを“使う”（「よく使う」と「まあ使う」の合計）は、高齢者一般で6割超、これから高齢期で9割超となっている。



[年代別 / 高齢者一般]

○年代別にみると、『前期高齢者』は、いずれの情報通信機器でも、“使う”が『後期高齢者』と比べて高くなっている。

		n	よく使う (%)	まあ使う (%)	使わない (%)	持っていない (%)	無回答 (%)	使う (%)
①パソコン	高齢者一般	1,516	18.3	15.3	14.9	36.5	15.0	33.6
	前期高齢者(65-74歳)	643	27.7	19.1	17.6	25.2	10.4	46.8
	後期高齢者(75歳以上)	850	11.4	12.6	12.7	45.1	18.2	24.0
②スマートフォン	高齢者一般	1,516	32.5	29.6	8.5	18.9	10.6	62.1
	前期高齢者(65-74歳)	643	47.4	29.2	5.3	11.2	6.8	76.7
	後期高齢者(75歳以上)	850	21.6	30.1	10.7	24.5	13.1	51.8
③タブレット型端末	高齢者一般	1,516	6.7	7.6	10.6	56.7	18.5	14.3
	前期高齢者(65-74歳)	643	10.6	11.2	13.7	52.1	12.4	21.8
	後期高齢者(75歳以上)	850	3.9	4.9	8.2	60.1	22.8	8.8

[経年比較 / 高齢者一般（スマートフォンの使用状況）]

○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、“使う”が23.3ポイント高くなっている。

	n	よく使う	まあ使う	使わない	な持っていない	無回答	使う
令和4年度	1,516	32.5	29.6	8.5	18.9	10.6	62.1
令和元年度	1,447	21.6	17.2	39.7	-	21.5	38.8

※ 選択肢「持っていない」は、令和4年度調査で設けた

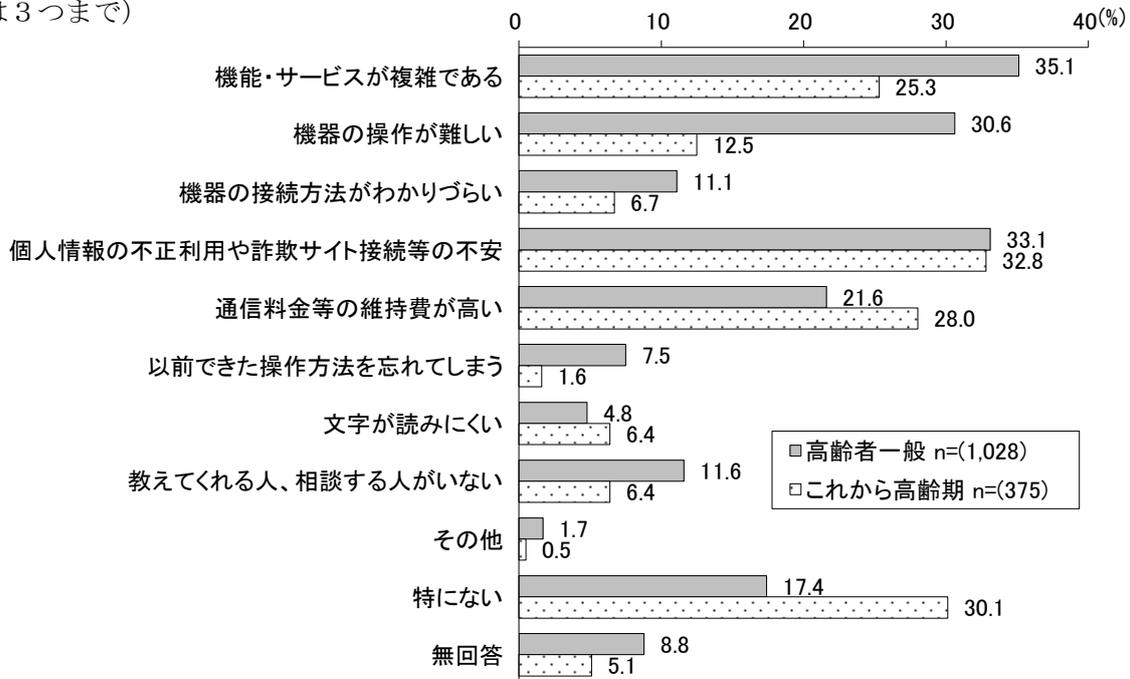
②情報通信機器の使用にあたっての困りごと

○いずれかの情報通信機器を“使う”と回答した人で、“何らかの困りごとがある”（「特にない」と無回答を除く）と回答した人は、高齢者一般で7割半ば、これから高齢期で6割半ばとなっている。

○高齢者一般では、「機能・サービスが複雑である」（35.1%）が最も高く、次いで「個人情報の不正利用や詐欺サイト接続等の不安」（33.1%）、「機器の操作が難しい」（30.6%）の順となっている。

○これから高齢期では、「個人情報の不正利用や詐欺サイト接続等の不安」（32.8%）が最も高くなっている。また、「特にない」が30.1%となっている。

（○は3つまで）



[性・年代別 / 高齢者一般]

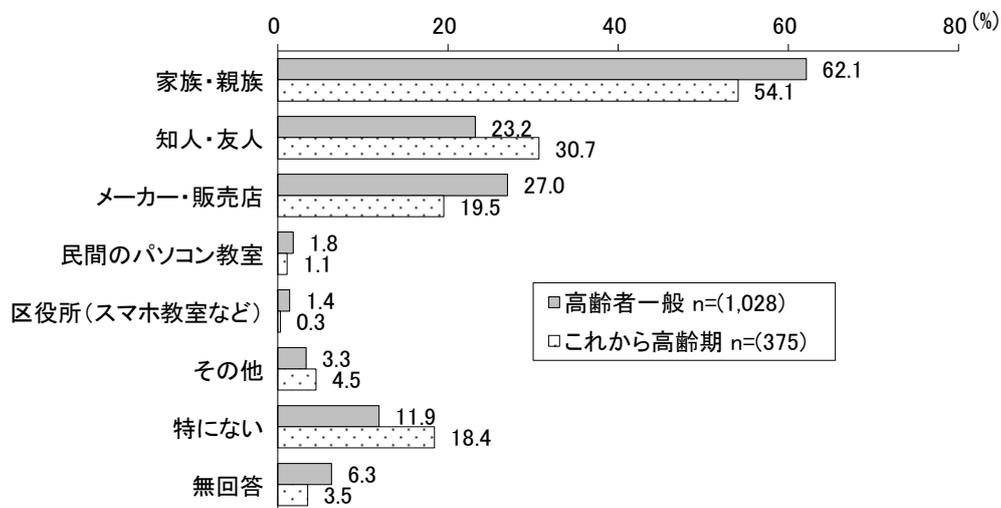
- 性・年代別にみると、『男性／前期高齢者』は、「特にない」が全体と比べて高くなっている。
- 『男性／後期高齢者』は、「教えてくれる人、相談する人がいない」が全体と比べて高くなっている。
- 『女性／前期高齢者』は、「個人情報の不正利用や詐欺サイト接続等の不安」が全体と比べて高くなっている。
- 『女性／後期高齢者』は、「機器の操作が難しい」が全体と比べて高くなっている。

	n	機能・サービスが複雑である	機器の操作が難しい	機器の接続方法がわかりづらい	個人情報の不正利用や詐欺	通信料金等の維持費が高い	以前でできた操作方法を忘れてしまふ	文字が読みにくい	教えてくれる人、相談する人がいない	その他	特にない	(%) 無回答
高齢者一般	1,028	35.1	30.6	11.1	33.1	21.6	7.5	4.8	11.6	1.7	17.4	8.8
男性／前期高齢者	250	30.0	21.6	8.4	29.6	30.0	4.4	6.0	10.8	2.8	26.4	4.8
男性／後期高齢者	213	35.7	31.0	10.8	25.8	18.3	11.3	6.1	16.9	1.9	16.4	12.2
女性／前期高齢者	268	38.1	28.7	11.6	40.7	23.5	6.0	4.1	10.4	0.7	15.7	7.5
女性／後期高齢者	283	36.0	39.2	13.4	34.6	15.9	8.5	3.2	9.9	1.4	12.0	11.3

③情報通信機器の使用にあたっての相談先

- 高齢者一般、これから高齢期ともに「家族・親族」が最も高く、それぞれ62.1%、54.1%となっている。

(○は3つまで)

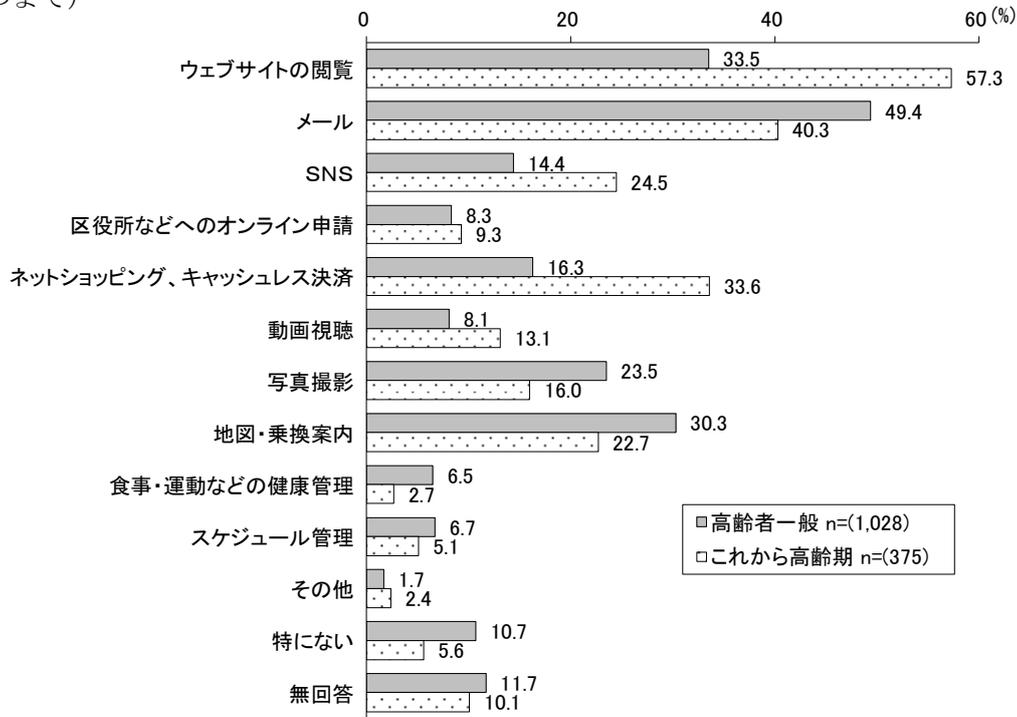


④情報通信機器で使いたい機能

○高齢者一般では、「メール」(49.4%)が最も高く、次いで「ウェブサイトの閲覧」(33.5%)、「地図・乗換案内」(30.3%)の順となっている。

○これから高齢期では、「ウェブサイトの閲覧」(57.3%)が最も高く、次いで「メール」(40.3%)、「ネットショッピング、キャッシュレス決済」(33.6%)の順となっている。

(○は3つまで)



〔性・年代別 / 高齢者一般〕

○性・年代別にみると、『前期高齢者』は、「ウェブサイトの閲覧」が『後期高齢者』と比べて高くなっている。

○『女性』は、「写真撮影」が『男性』と比べて高くなっている。

○『女性／前期高齢者』は、「地図・乗換案内」が全体と比べて高くなっている。

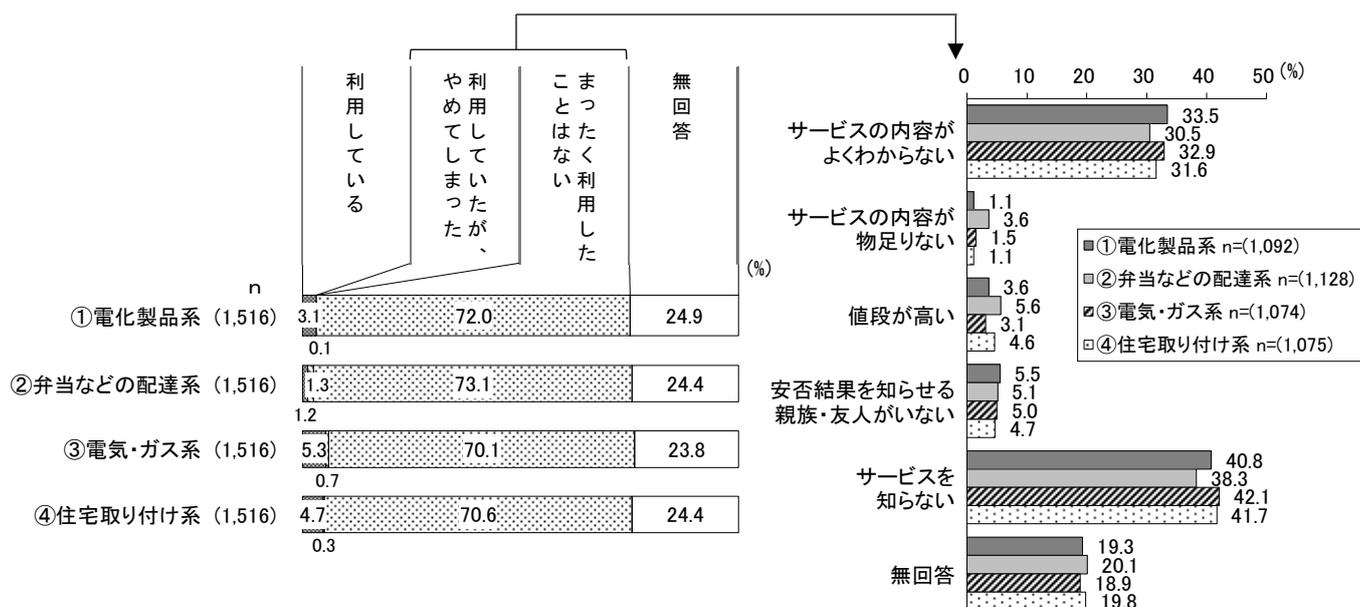
	n	ウェブサイトの閲覧	メール	SNS	区役所などへのオンライン申請	ネットショッピング、キャッシュレス決済	動画視聴	写真撮影	地図・乗換案内	食事・運動などの健康管理	スケジュール管理	その他	特にない	無回答
高齢者一般	1,028	33.5	49.4	14.4	8.3	16.3	8.1	23.5	30.3	6.5	6.7	1.7	10.7	11.7
男性／前期高齢者	250	54.4	48.0	17.2	10.4	21.2	9.2	12.4	25.6	2.4	8.8	2.0	12.0	7.6
男性／後期高齢者	213	33.8	48.4	15.0	7.5	18.8	8.9	16.4	22.1	5.2	7.0	1.9	12.7	11.7
女性／前期高齢者	268	33.2	48.9	14.2	7.1	16.0	7.8	32.5	42.9	7.1	6.0	1.9	6.7	10.8
女性／後期高齢者	283	15.9	52.3	11.3	8.1	11.0	6.7	31.4	28.3	10.2	5.3	1.1	11.7	15.5

⑤見守りICTサービスの利用状況と利用していない理由

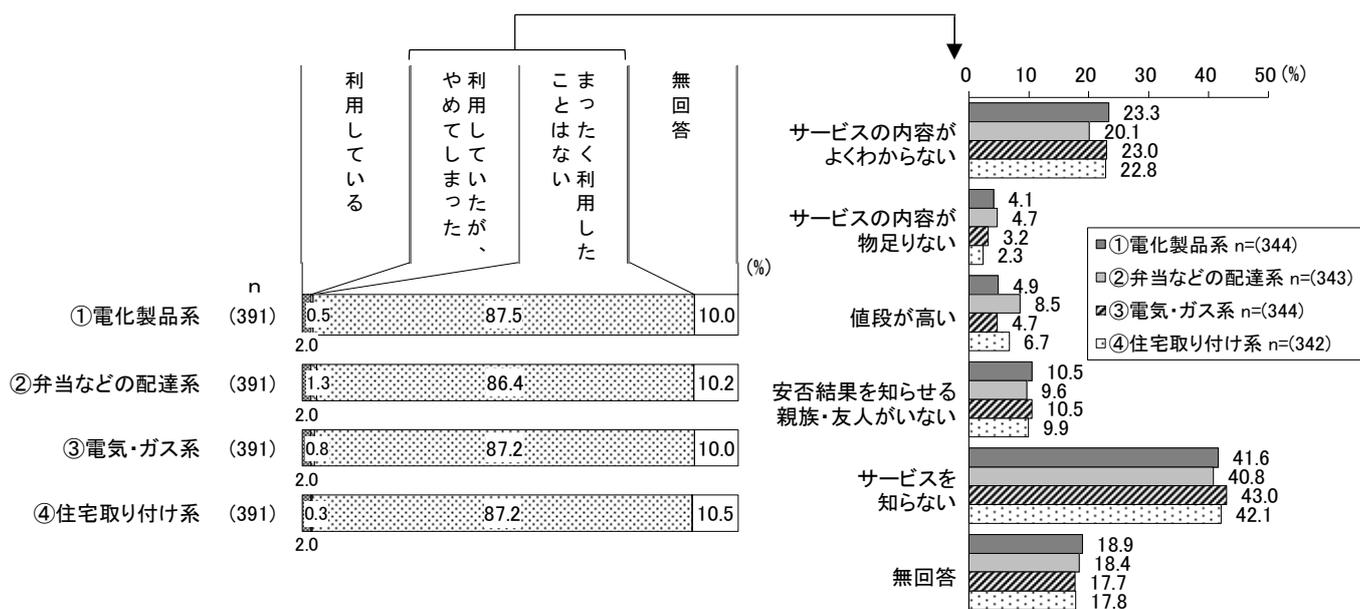
○いずれの調査でも“利用していない”（「まったく利用したことはない」と「利用していたが、やめてしまった」の合計）の割合が高く、7割超から9割近くとなっている。

○いずれの調査でも“利用していない”と回答した人の利用していない理由は、いずれの見守りICTサービスでも、「サービスを知らない」、「サービスの内容がよくわからない」が上位に挙げられている。

高齢者一般



これから高齢期

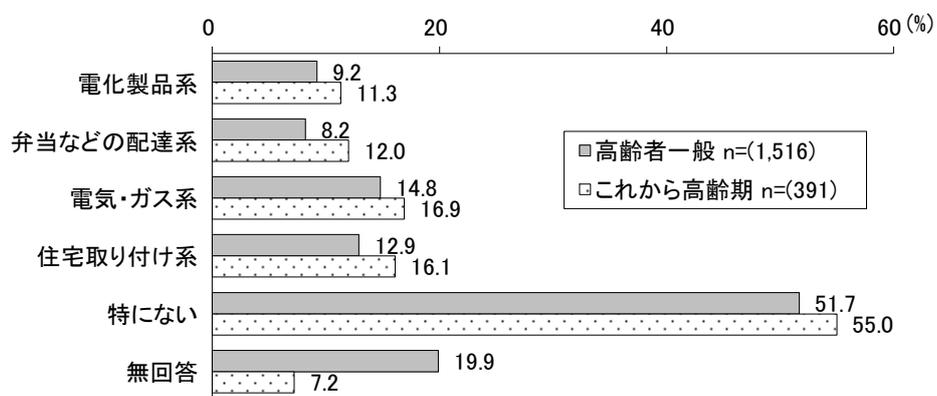


⑥利用してみたい見守りICTサービス

○いずれの調査でも「特にない」が最も高く、半数以上となっている。

○利用してみたい見守りICTサービスとしては、いずれの調査でも「電気・ガス系」、「住宅取り付け系」が上位に挙げられている。

(複数回答)



(8) 新型コロナウイルス感染症拡大の暮らしへ影響

○感染症流行前と比べて、自身の暮らしにどのような影響があったのかを聞いた。

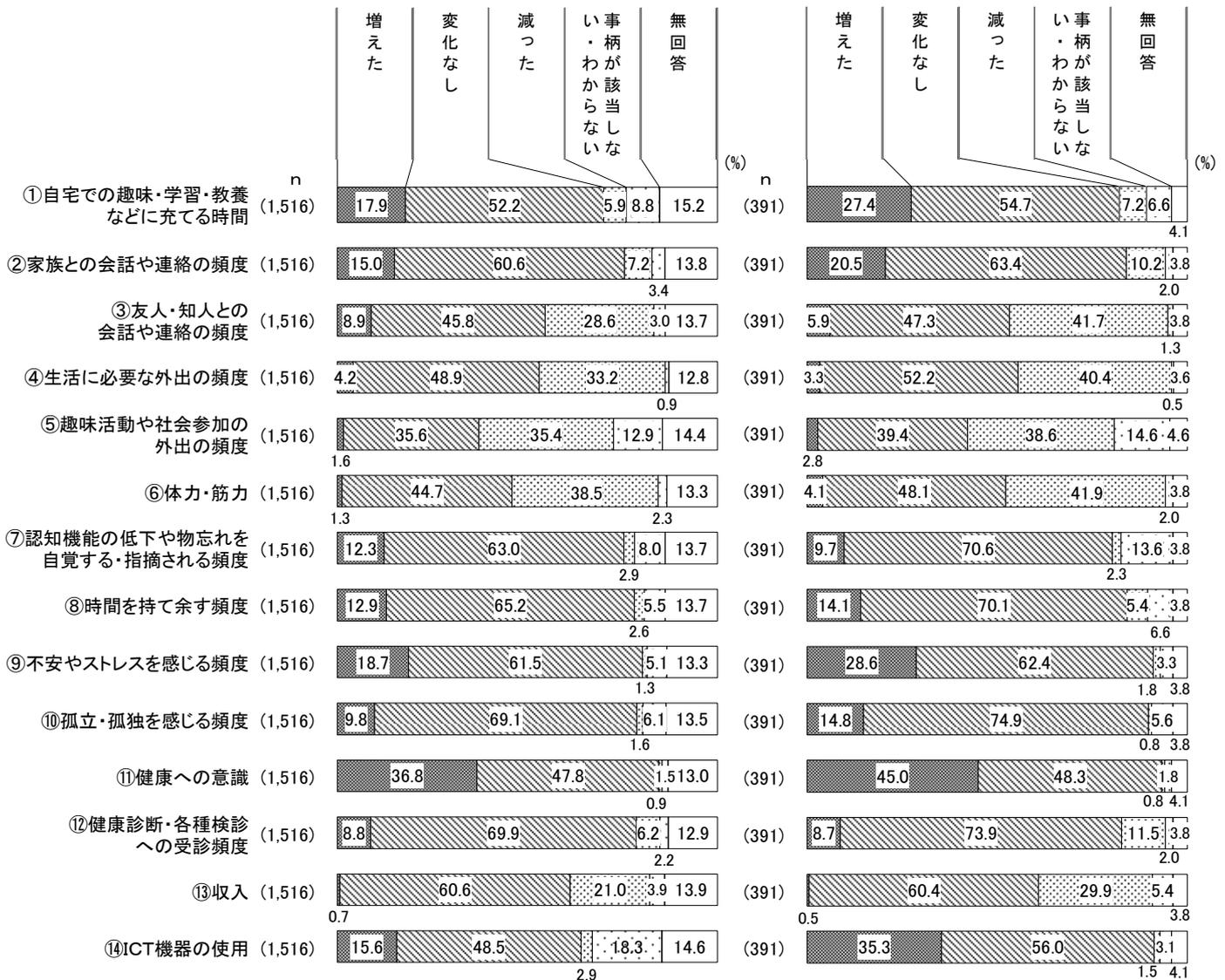
○いずれの調査でも「増えた」が「減った」よりも高い項目は、“⑦認知機能の低下や物忘れを自覚する・指摘される頻度”、“⑧時間を持て余す頻度”、“⑨不安やストレスを感じる頻度”、“⑩孤立・孤独を感じる頻度”、“⑪健康への意識”となっている。特に、“⑪健康への意識”は、「増えた」が「減った」よりも30ポイント以上高くなっている。

○いずれの調査でも「減った」が「増えた」よりも高い項目は、“③友人・知人との会話や連絡の頻度”、“④生活に必要な外出の頻度”、“⑤趣味活動や社会参加の外出の頻度”、“⑥体力・筋力”、“⑬収入”となっている。特に、“⑤趣味活動や社会参加の外出の頻度”、“⑥体力・筋力”は、「減った」が「増えた」よりも30ポイント以上高くなっている。

○介護サービスの利用頻度は、“⑮訪問サービス”、“⑯通所サービス”ともに、「増えた」が「減った」よりも若干高くなっている。

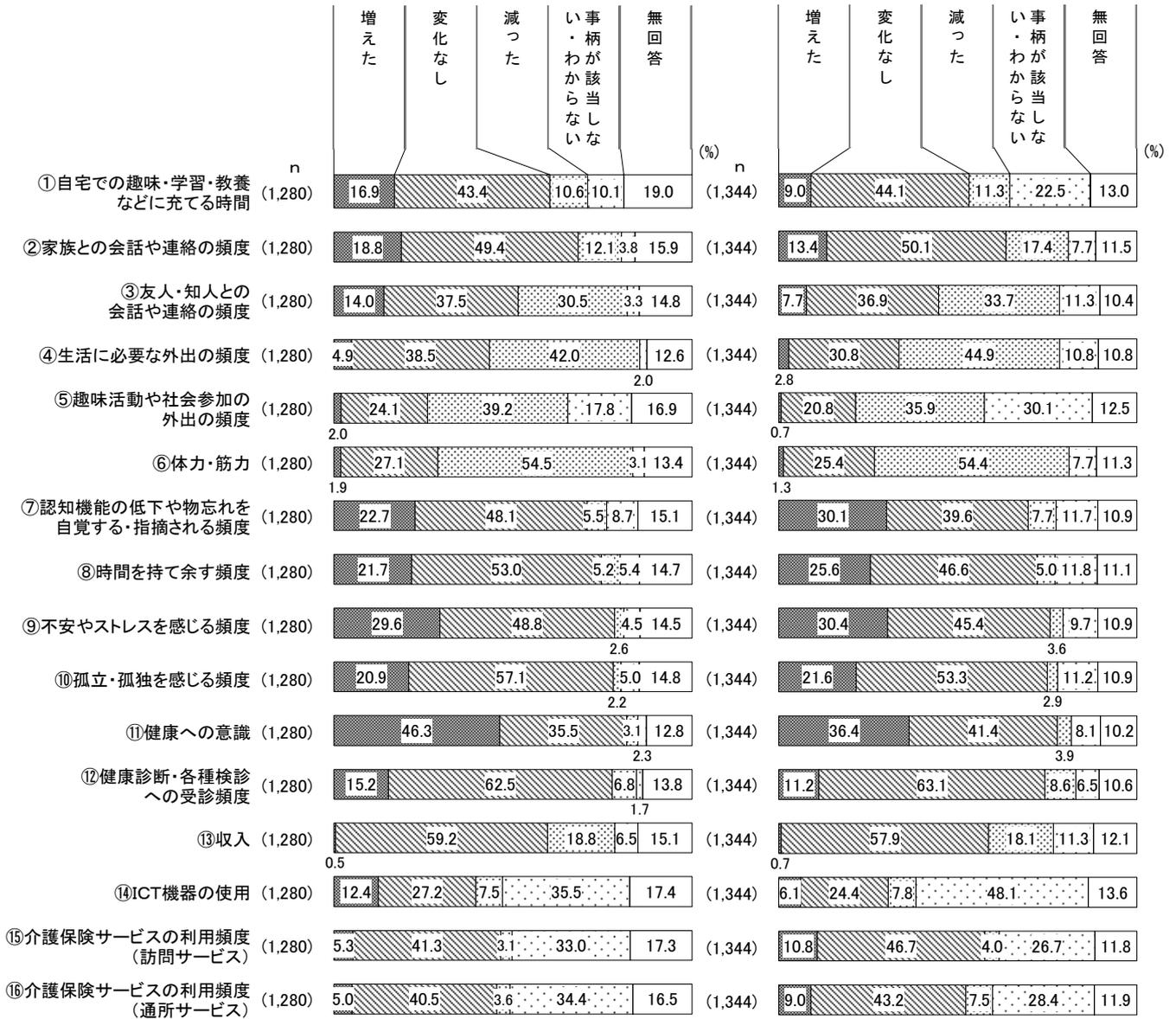
高齢者一般

これから高齢期



要支援認定者

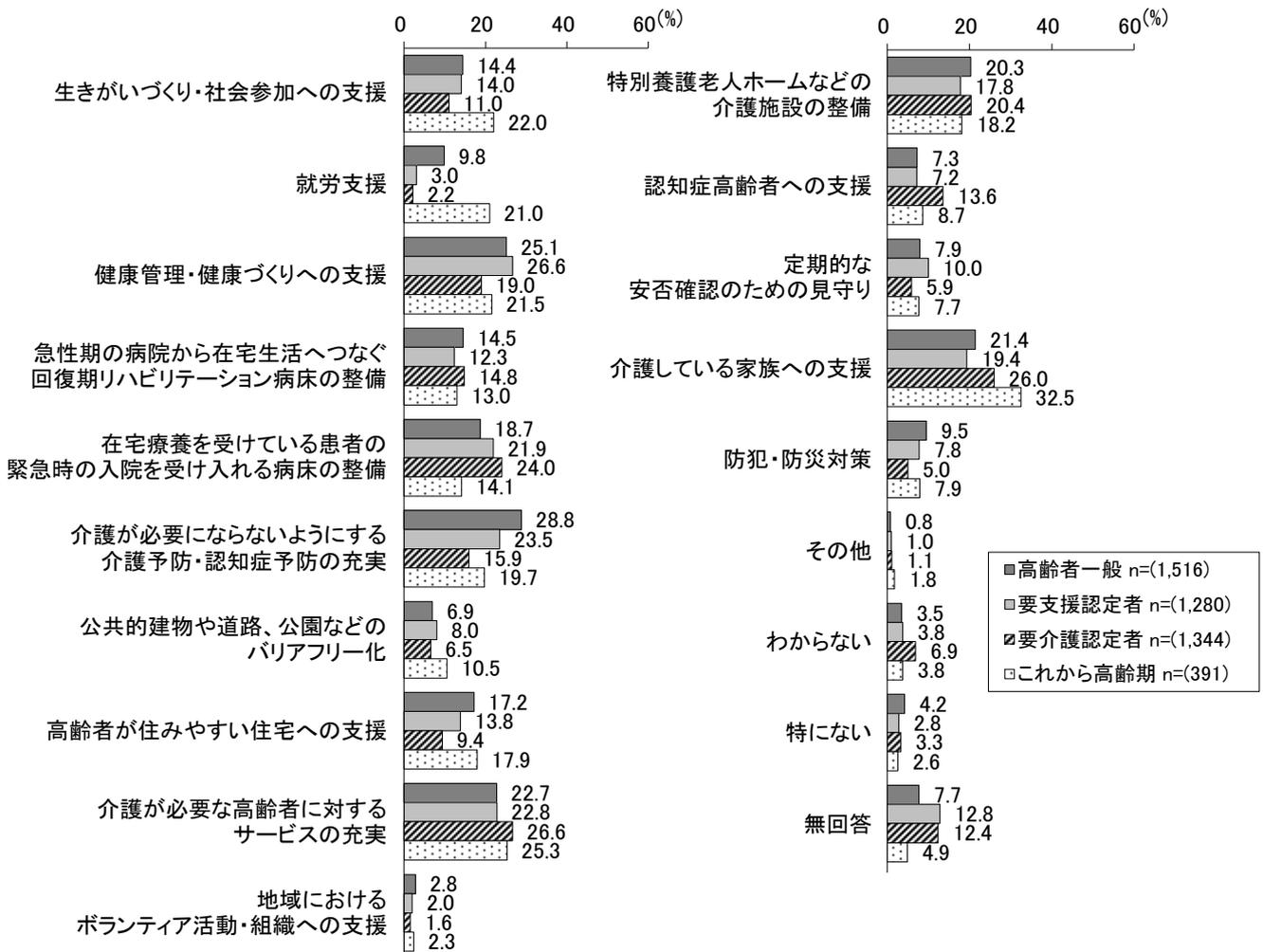
要介護認定者



(9) 今後力を入れてほしい高齢者施策

- 高齢者一般では、「介護が必要にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」(28.8%)、「健康管理・健康づくりへの支援」(25.1%)、「介護が必要な高齢者に対するサービスの充実」(22.7%)、「介護している家族への支援」(21.4%)が上位に挙がっている。
- 要支援認定者では、「健康管理・健康づくりへの支援」(26.6%)、「介護が必要にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」(23.5%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者では、「介護が必要な高齢者に対するサービスの充実」(26.6%)、「介護している家族への支援」(26.0%)が上位に挙がっている。
- これから高齢期では、「介護している家族への支援」(32.5%)、「介護が必要な高齢者に対するサービスの充実」(25.3%)が上位に挙がっている。

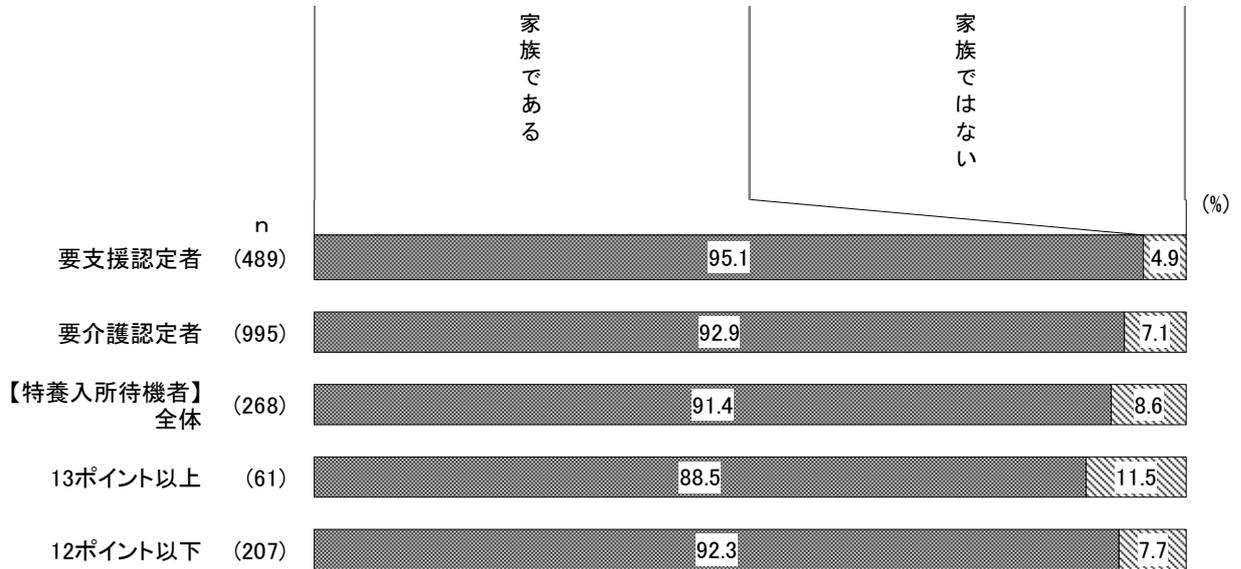
(○は3つまで)



10. 家族介護の状況

(1) 主な介護者

○主な介護者が「家族である」と回答した人は、いずれの調査でも9割以上となっている。

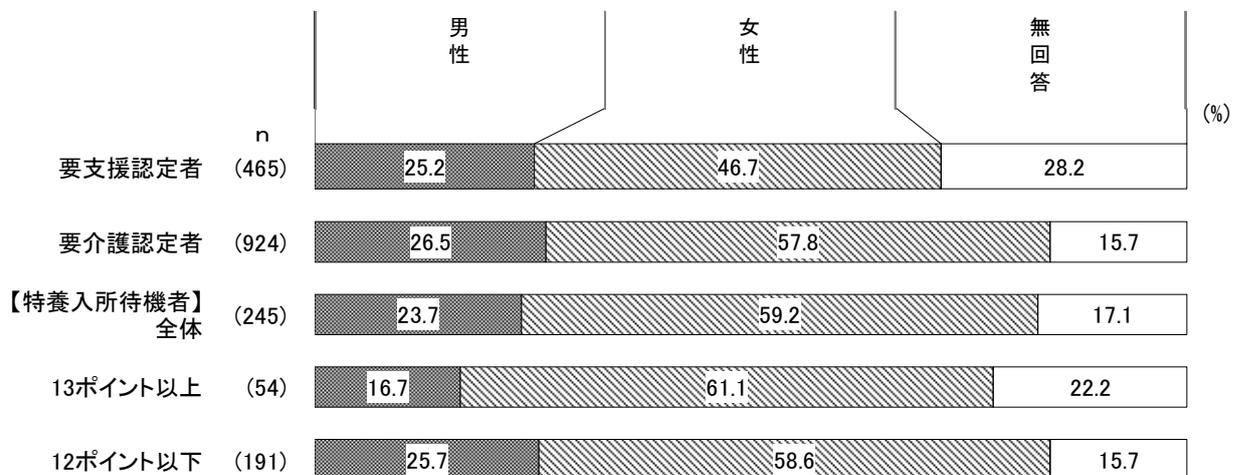


※無回答を除いて集計

(2) 主な家族介護者の属性

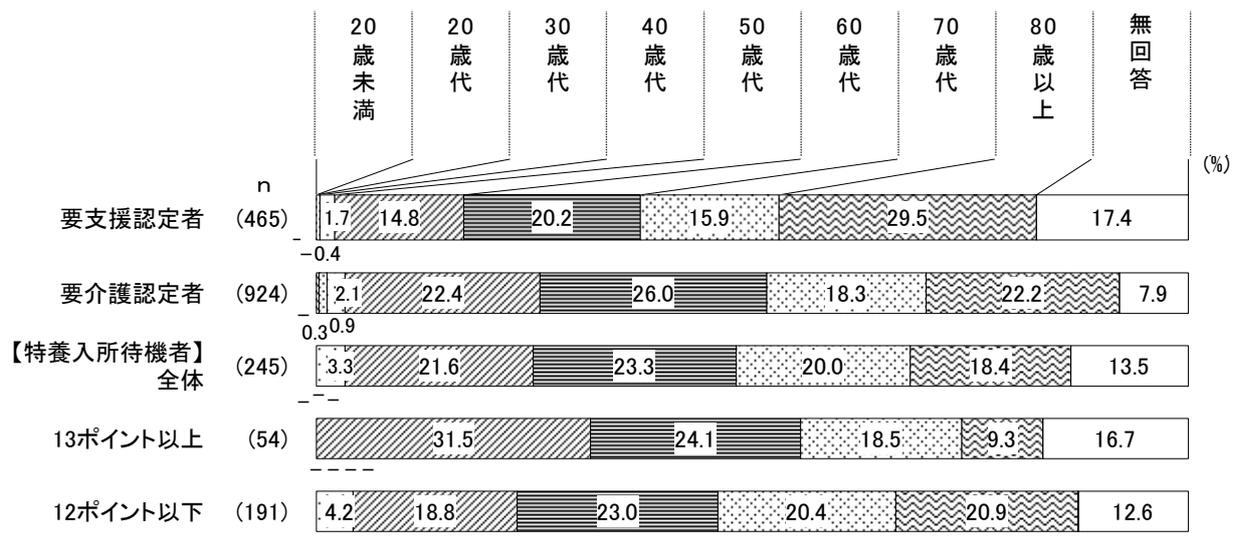
①性別

○主な家族介護者の性別は、要支援認定者、要介護認定者、特養入所待機者ともに、「女性」が「男性」を上回っている。



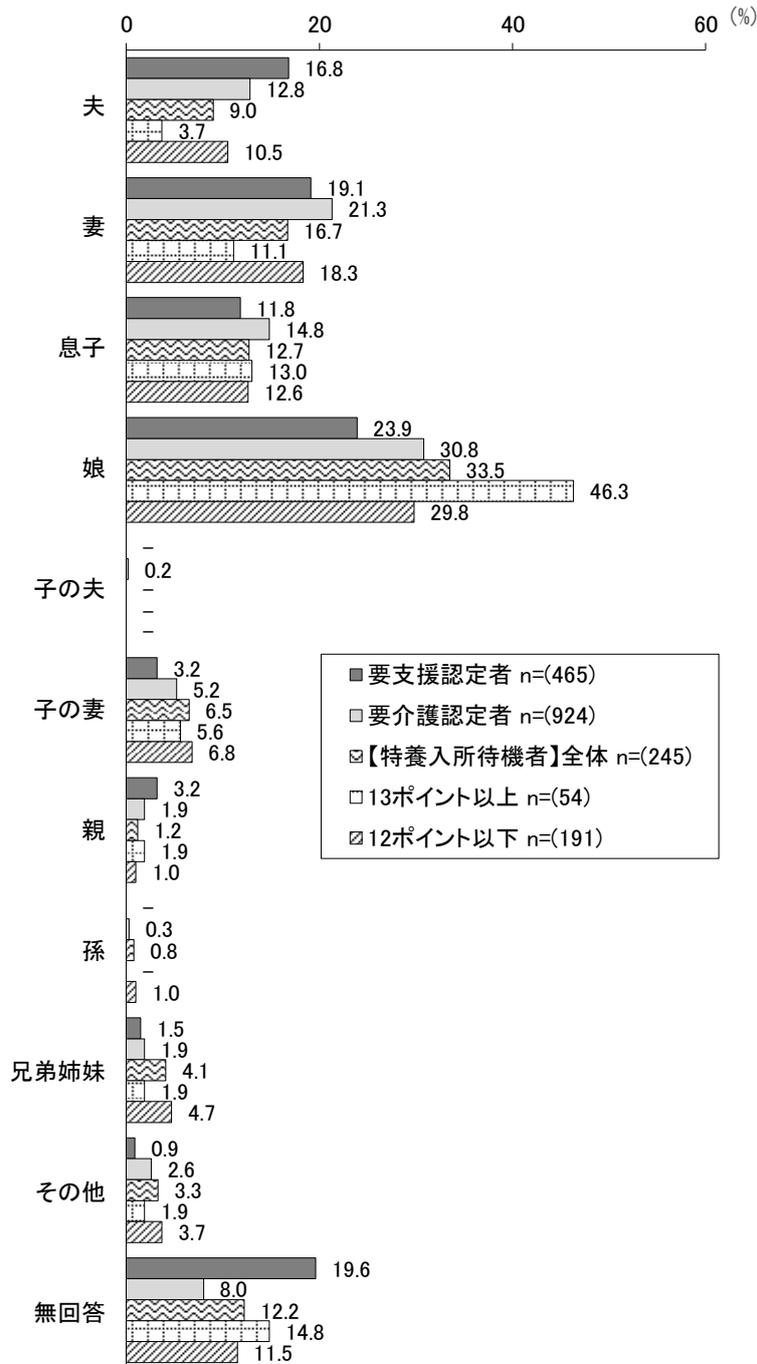
②年齢

- 主な家族介護者の年齢は、要支援認定者では「80歳以上」が29.5%となっている。
- 要介護認定者では「60歳代」(26.0%)が最も高く、次いで「50歳代」(22.4%)、「80歳以上」(22.2%)の順となっている。
- 特養入所待機者では、「50歳代」、「60歳代」、「70歳代」、「80歳以上」が2割前後となっている。



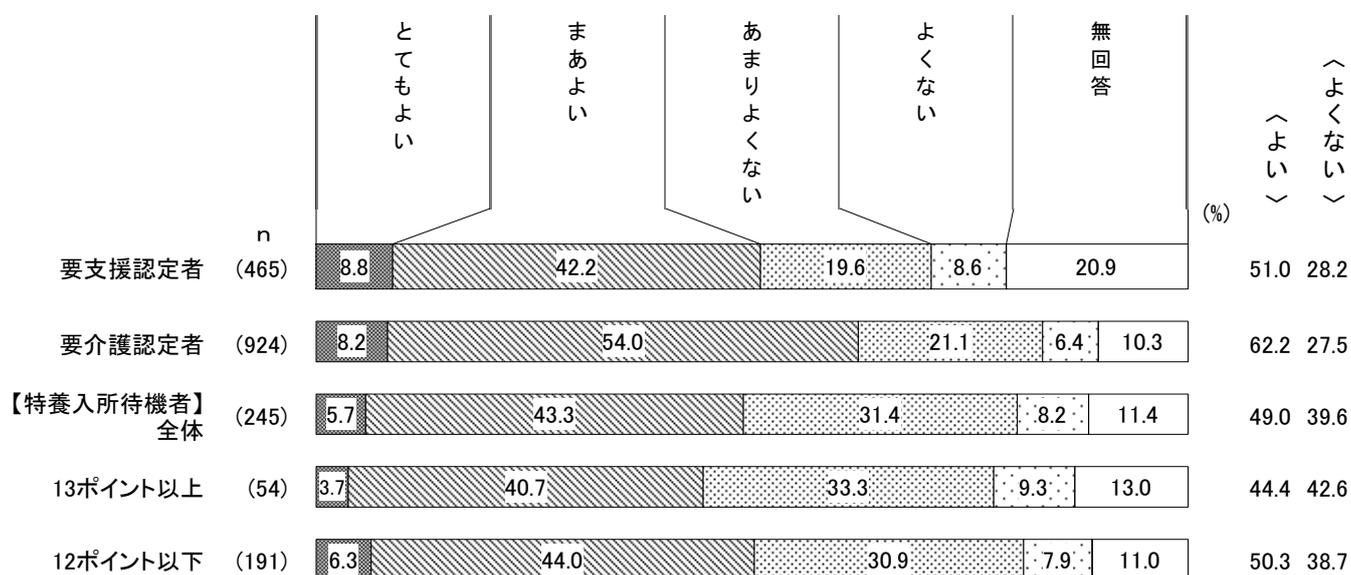
③続柄

- 主な家族介護者の続柄は、いずれの調査も「娘」が最も高くなっている。
- “配偶者”（「夫」と「妻」の合計）は、要支援認定者、要介護認定者で3割半ば、特養入所待機者で2割半ばとなっている。
- “子ども”（「息子」と「娘」の合計）は、要支援認定者で3割半ば、要介護認定者、特養入所待機者で4割半ばとなっている。



④健康状態

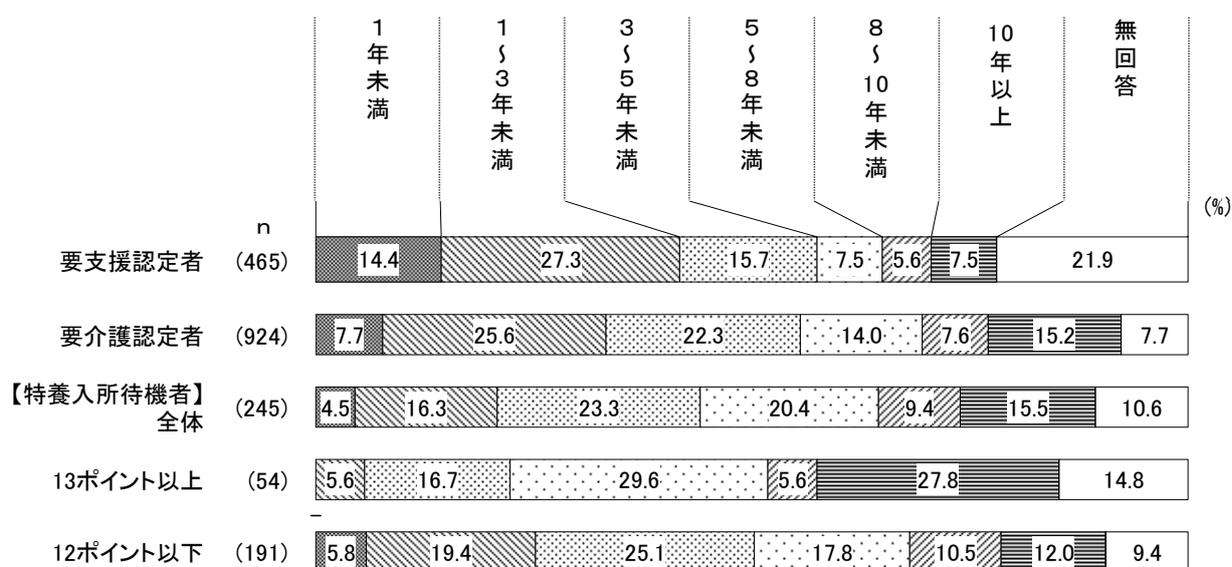
○主な家族介護者の健康状態は、いずれの調査でも“よい”（「とてもよい」と「まあよい」の合計）が“よくない”（「よくない」と「あまりよくない」の合計）を上回っている。



(3) 介護期間

○主な家族介護者の介護期間は、“5年未満”（「1年未満」、「1～3年未満」、「3～5年未満」の合計）が、要支援認定者、要介護認定者で5割半ば、特養入所待機者で4割半ばとなっている。

○特養入所待機者のうち指数13ポイント以上では、「10年以上」が3割近くとなっている。

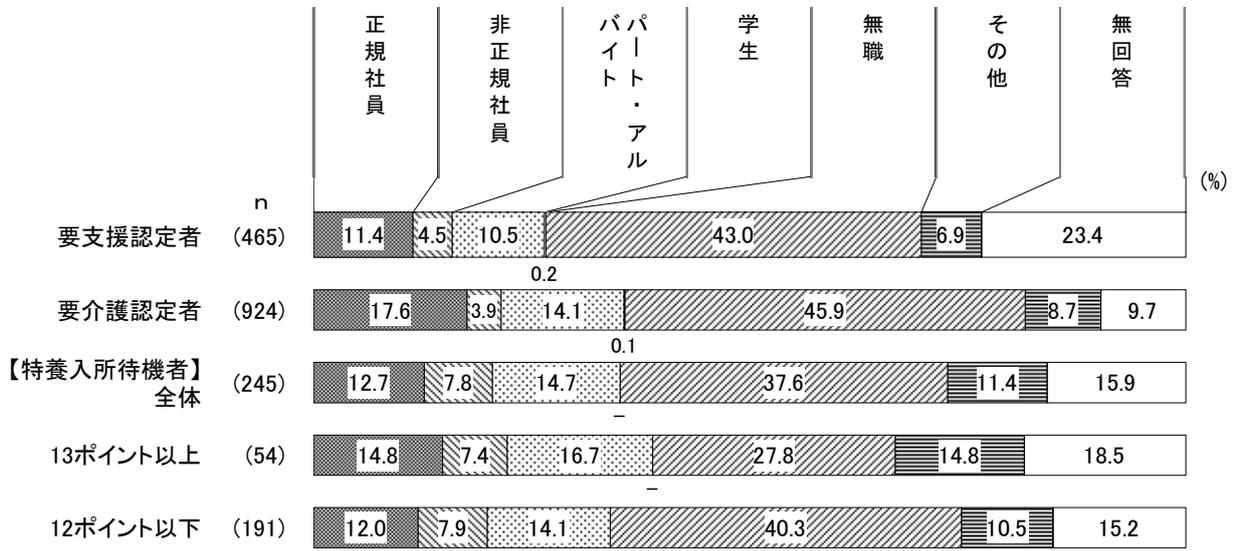


(4) 介護者の就労状況

①就労状況

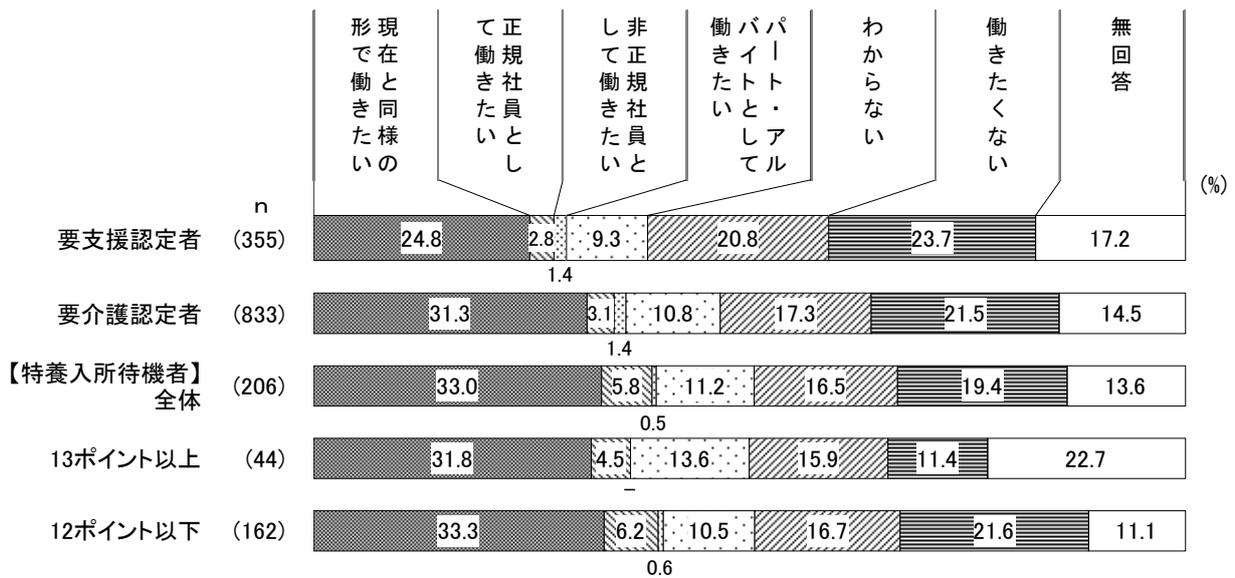
○主な家族介護者の就労状況は、いずれの調査でも「無職」が最も高くなっている。

○要介護認定者、特養入所待機者では、就労している人が3割半ばとなっている。



②今後の就労意向

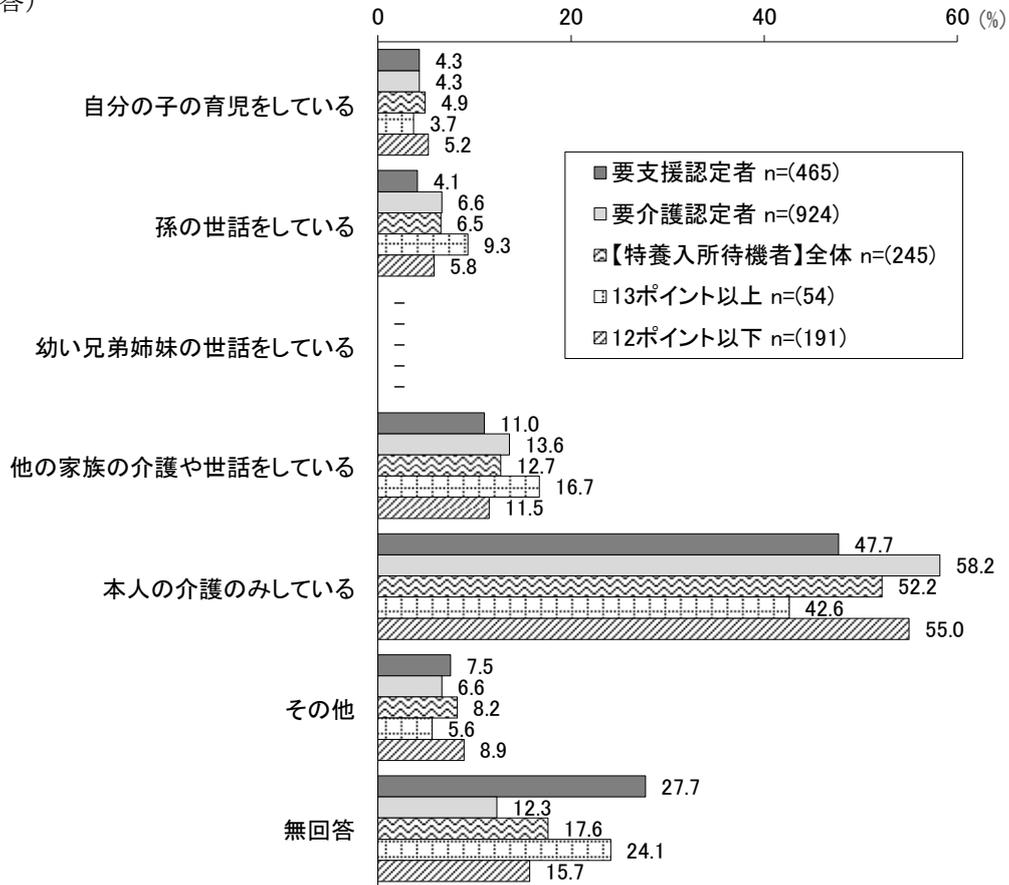
○主な介護者の今後の就労意向は、いずれの調査でも「現在と同様の形で働きたい」が最も高くなっている。



(5) 調査対象者の介護以外の負担の状況

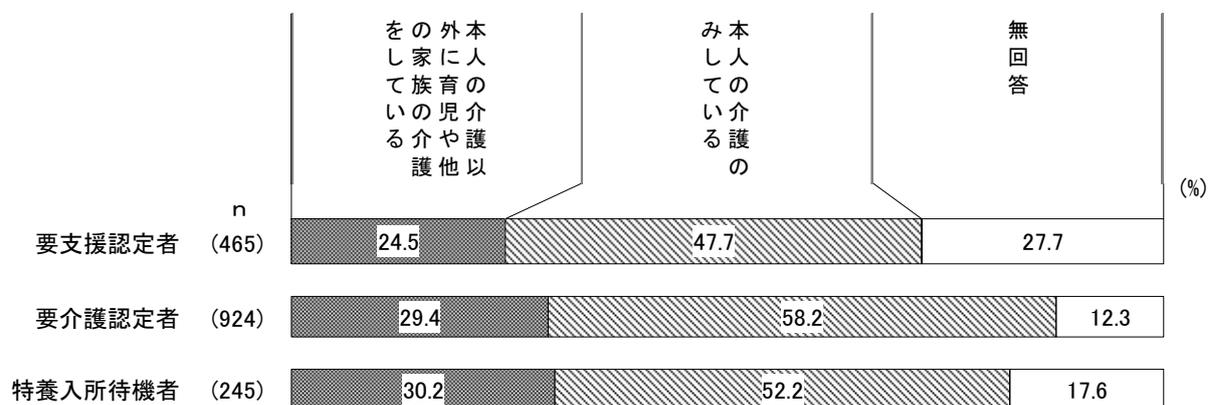
○主な家族介護者の調査対象者の介護以外の負担の状況は、いずれの調査でも「本人の介護のみしている」が最も高くなっている。

(複数回答)



[調査対象者の介護以外の負担の状況]

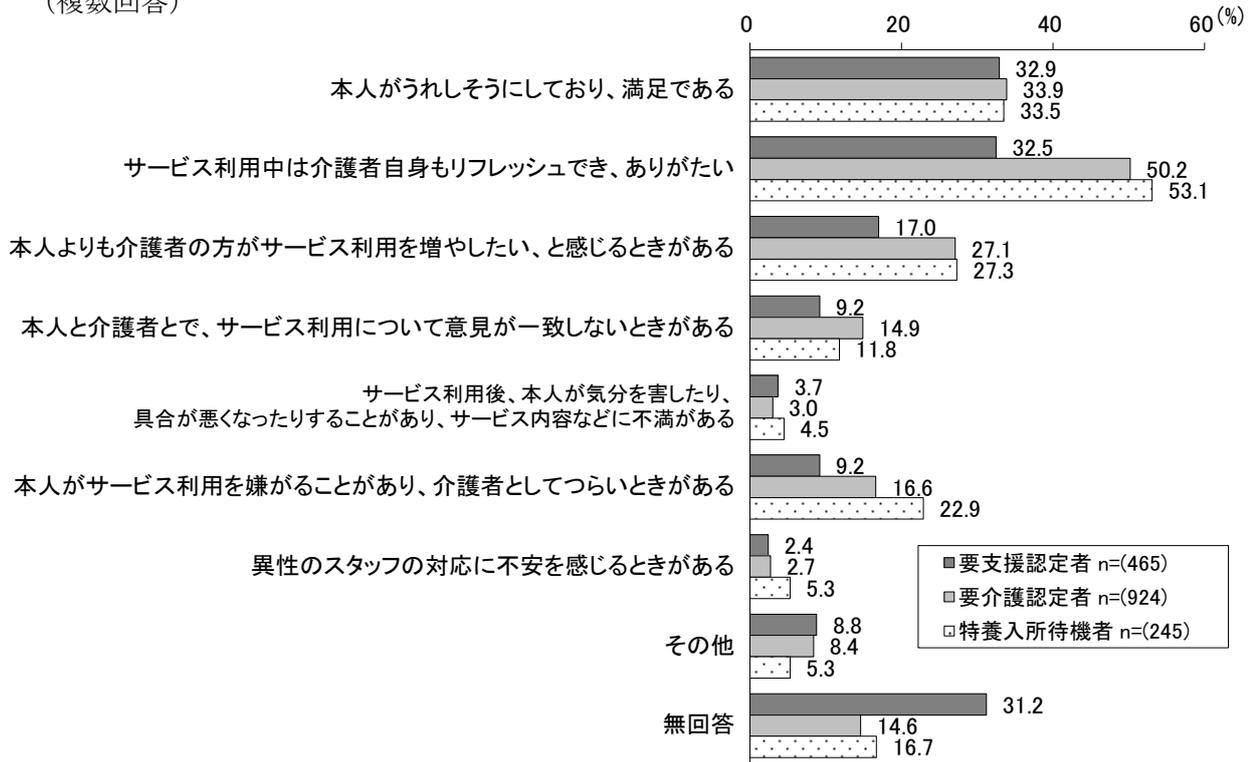
○“本人の介護以外に育児や他の家族の介護をしている”(「本人の介護のみしている」と無回答を除く)は、要介護認定者、特養入所待機者では、3割前後となっている。



(6) 介護サービス利用時の家族介護者の感じ方

- 主な家族介護者の介護サービス利用時の感じ方は、要支援認定者では、「本人がうれしそうにしており、満足である」(32.9%)、「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」(32.5%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者、特養入所待機者では、「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」が最も高く、5割超となっている。次いで「本人がうれしそうにしており、満足である」が3割半ばとなっている。

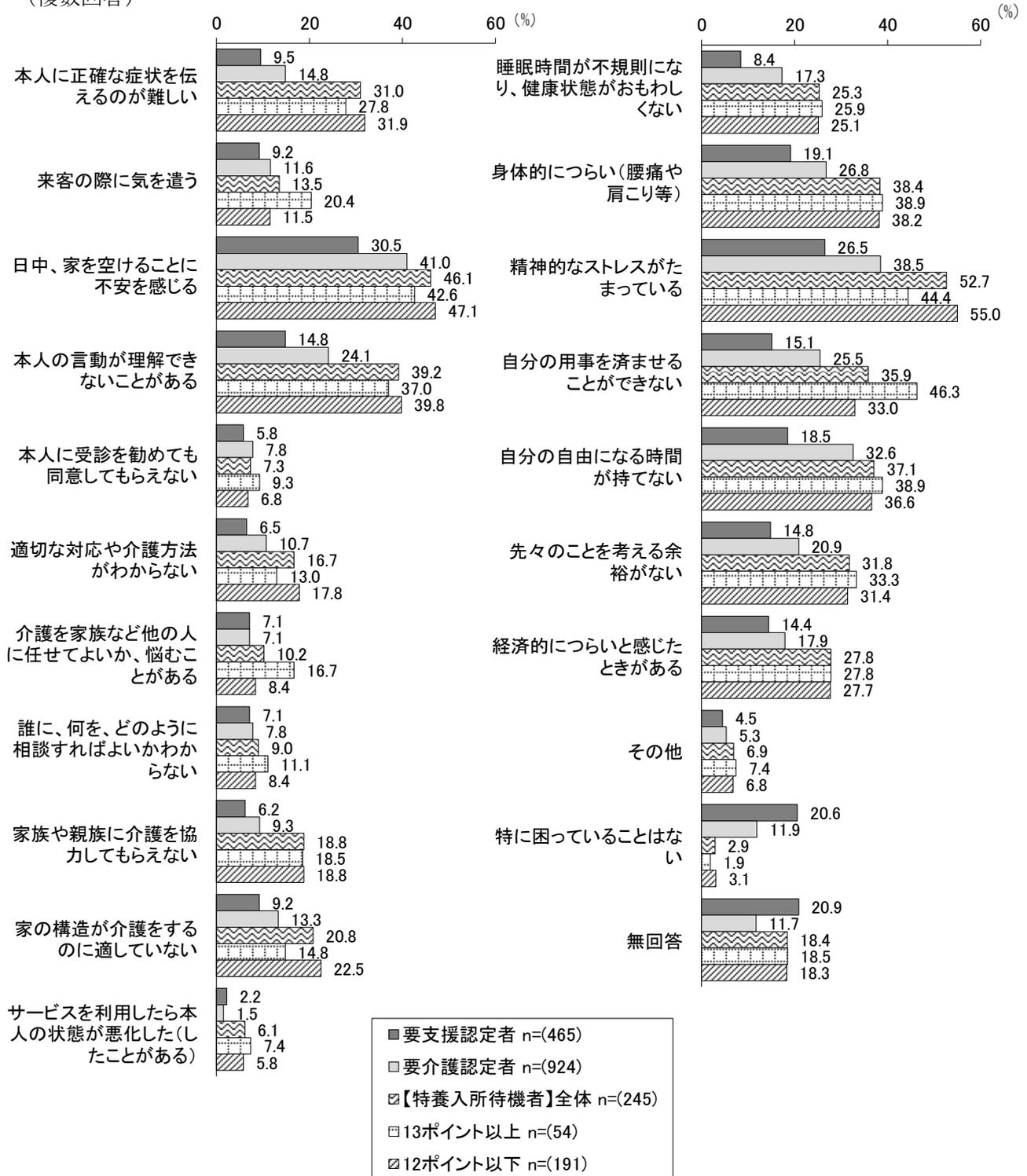
(複数回答)



(7) 家族介護者の負担や困りごと

○主な家族介護者の負担や困りごとは、いずれの調査でも「日中、家を空けることに不安を感じる」、「精神的なストレスがたまっている」が上位に挙がっている。

(複数回答)



(8) 介護をされていてつらい時の相談先

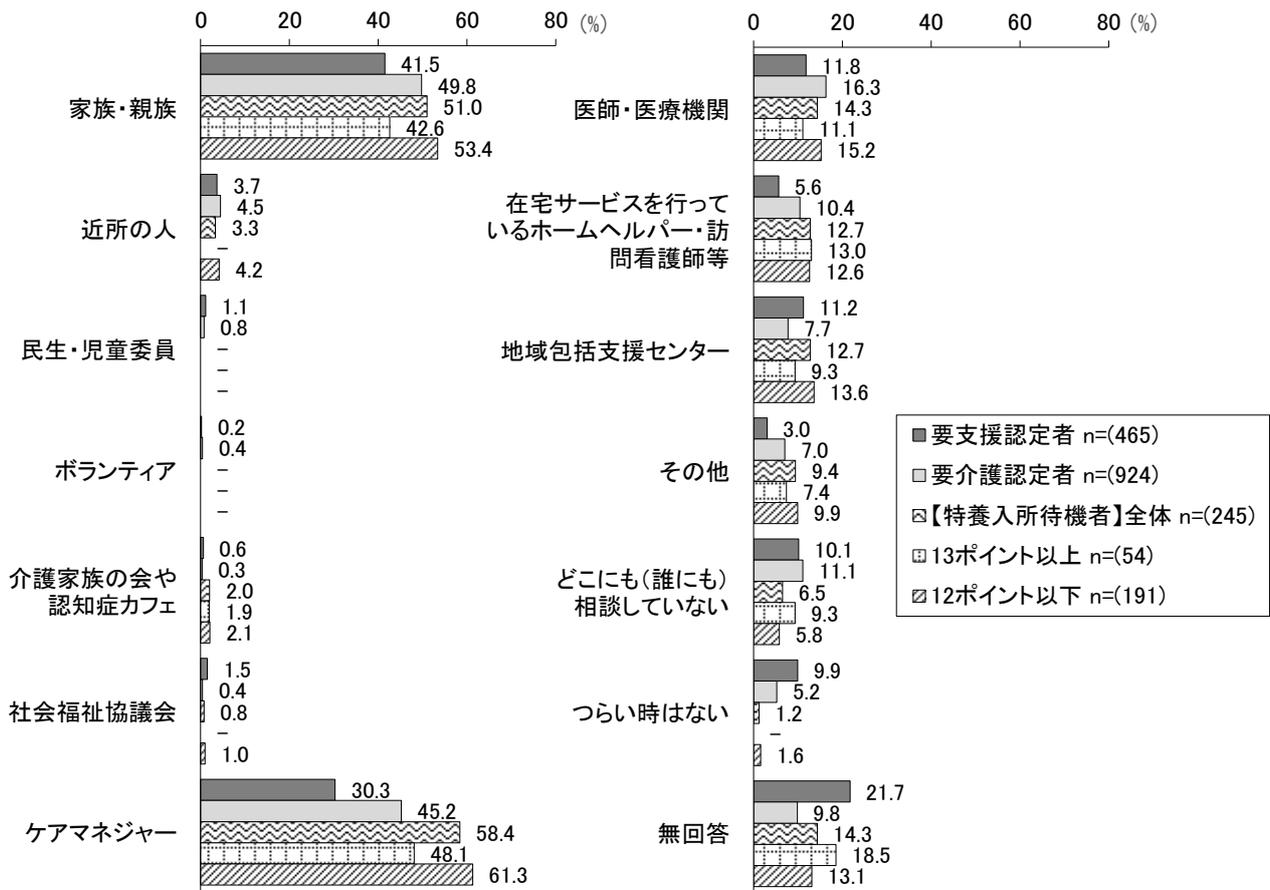
○主な家族介護者の介護をされていてつらい時の相談先は、要支援認定者、要介護認定者ともに、「家族・親族」が最も高く、次いで「ケアマネジャー」の順となっている。

○特養入所待機者では、「ケアマネジャー」が最も高く、次いで「家族・親族」の順となっている。

○いずれの調査でも「地域包括支援センター」は1割前後となっている。

○いずれの調査でも「どこにも（誰にも）相談していない」は1割前後となっている。

(複数回答)

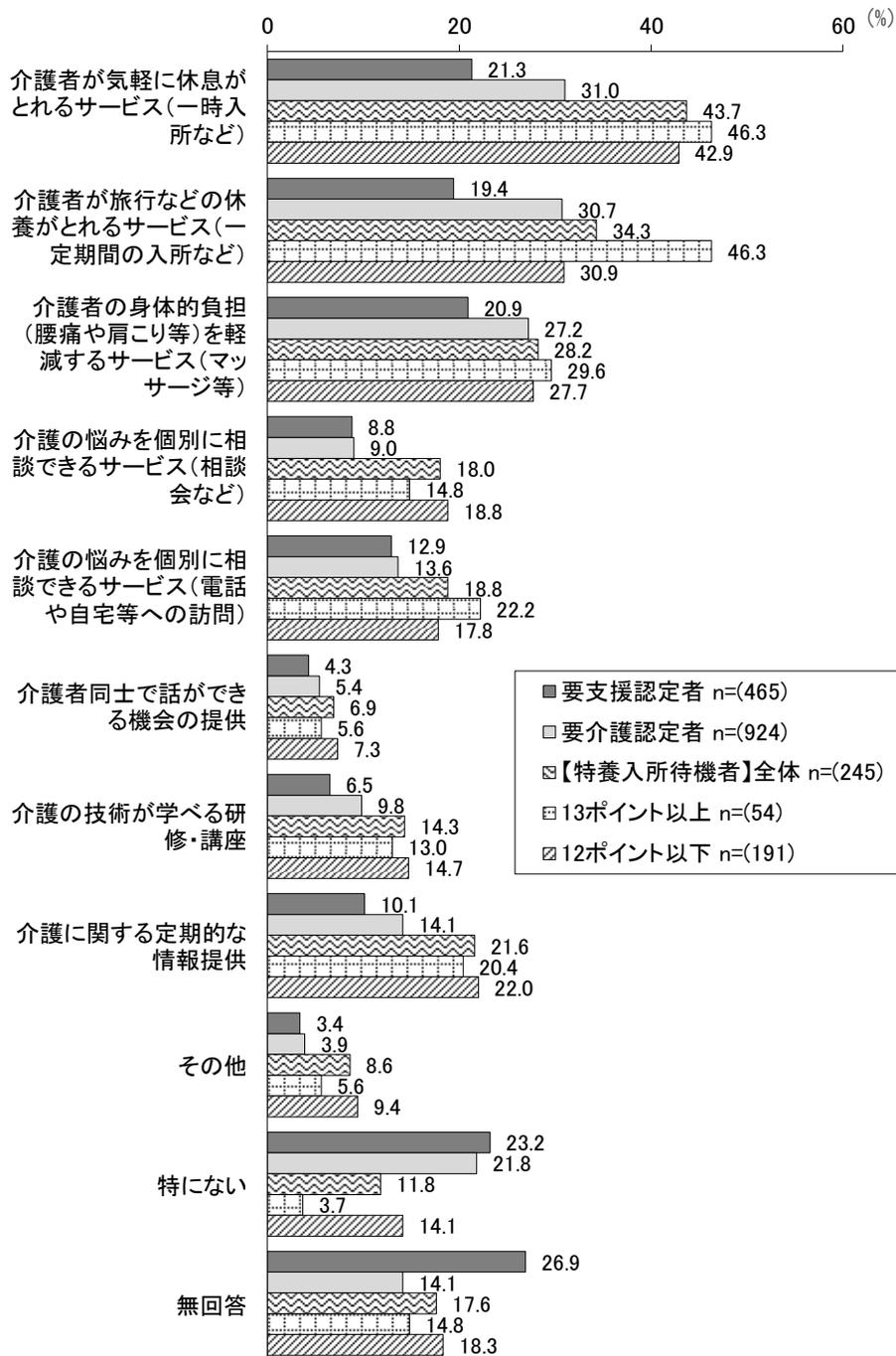


(9) 在宅介護を継続する上で介護者自身が受けたい支援

○在宅での介護を継続していくうえで、主な家族介護者自身が受けたい支援は、いずれの調査でも「介護者が気軽に休息がとれるサービス（一時入所など）」、「介護者が旅行などの休養がとれるサービス（一定期間の入所など）」、「介護者の身体的負担（腰痛や肩こり等）を軽減するサービス（マッサージ等）」が上位3項目となっている。

○特養入所待機者の13ポイント以上では、「介護者が気軽に休息がとれるサービス（一時入所など）」、「介護者が旅行などの休養がとれるサービス（一定期間の入所など）」がともに46.3%と最も高くなっている。

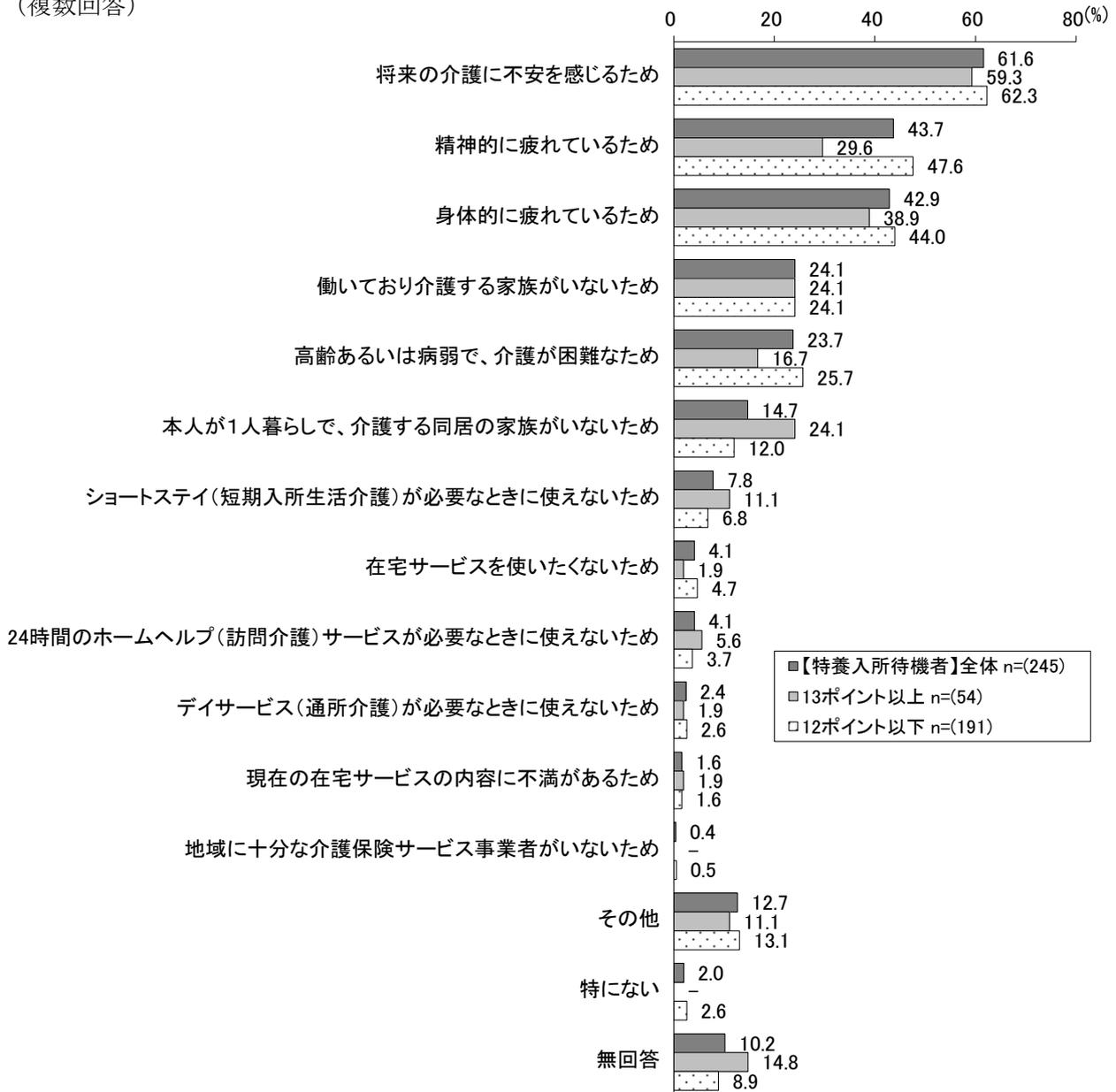
(複数回答)



(10) 特別養護老人ホームに申し込んだ理由（主な家族介護者）

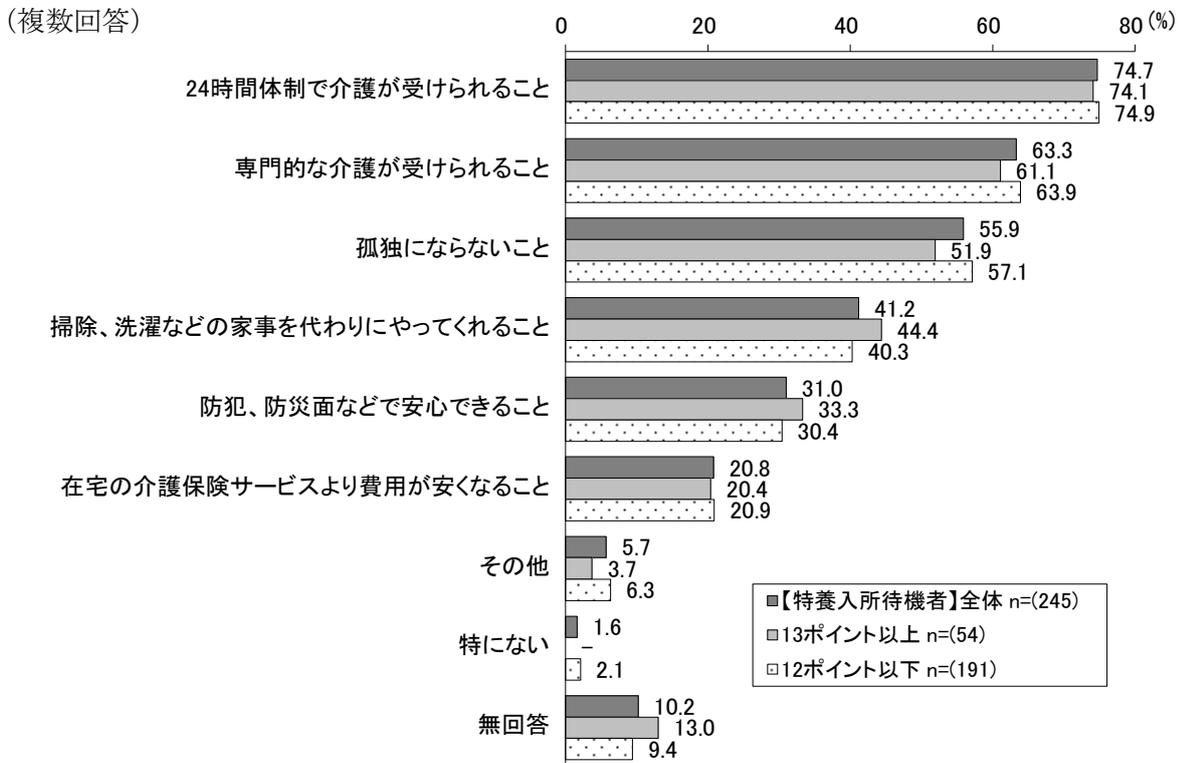
○主な家族介護者が介護者の視点から、特別養護老人ホームに申し込んだ理由は、特養入所待機者では、「将来の介護に不安を感じるため」（61.6％）が最も高く、次いで「精神的に疲れているため」（43.7％）、「身体的に疲れているため」（42.9％）の順となっている。

（複数回答）



(11) 家族介護者が特別養護老人ホームに期待すること

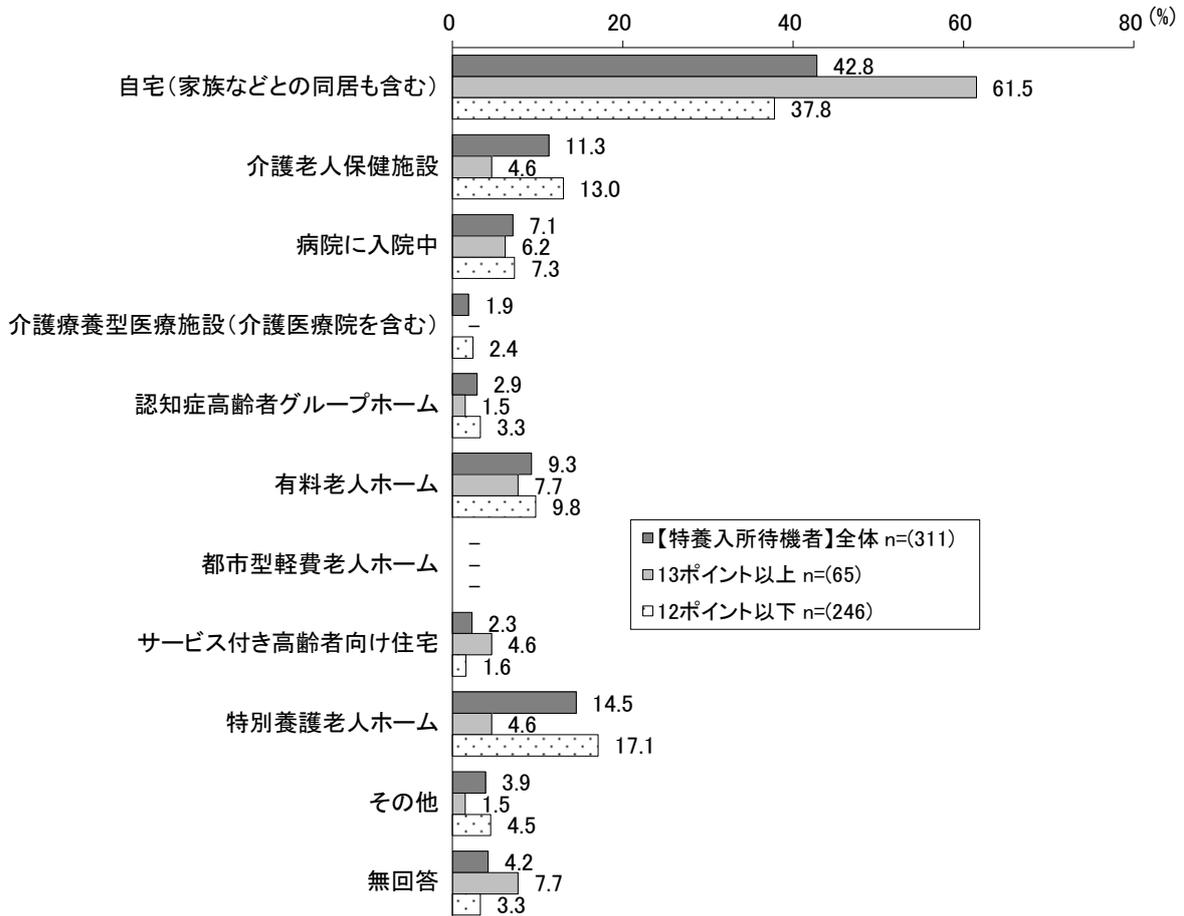
○主な家族介護者が介護者の視点から、特別養護老人ホームに期待することは、特養入所待機者では、「24時間体制で介護が受けられること」(74.7%)が最も高く、次いで「専門的な介護が受けられること」(63.3%)、「孤独にならないこと」(55.9%)の順となっている。



11. 特別養護老人ホーム入所申込みの状況

(1) 現在の生活場所

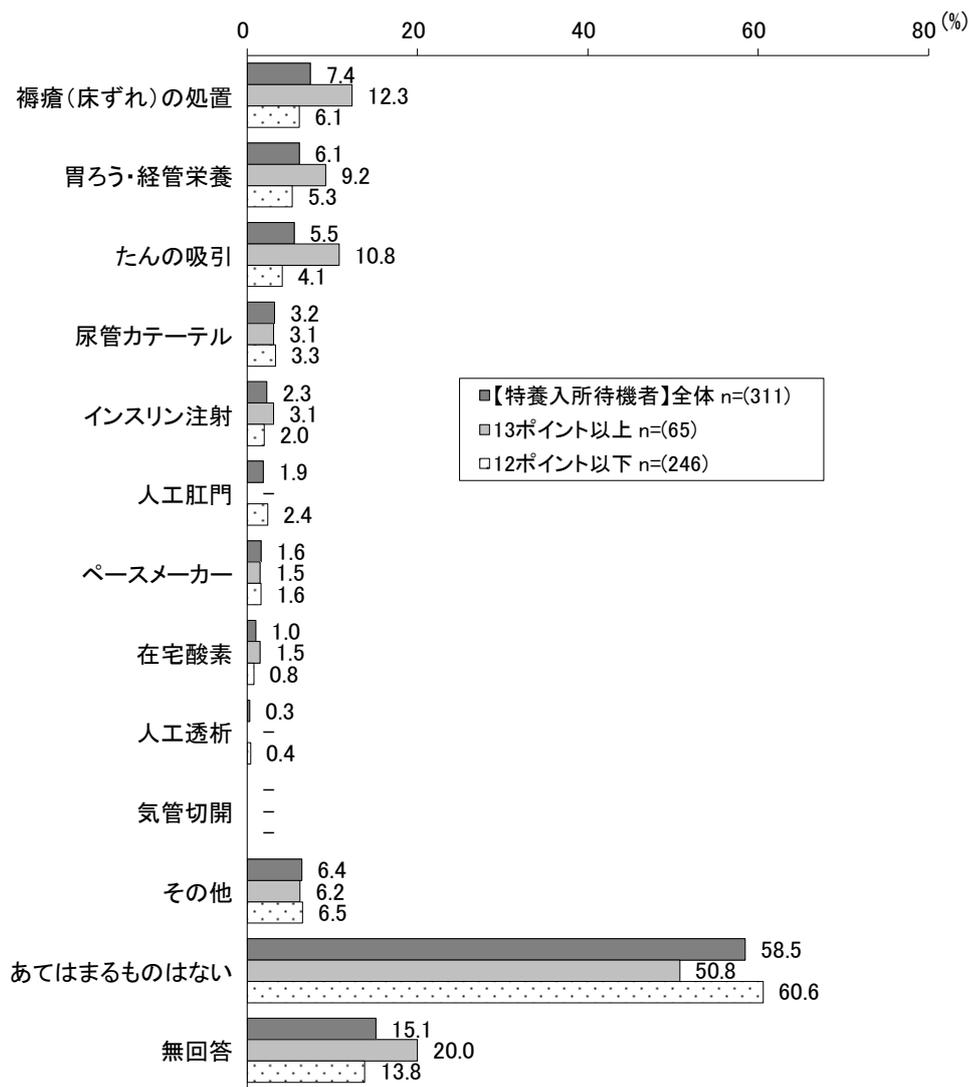
○「自宅（家族などとの同居も含む）」（42.8%）が最も高く、次いで「特別養護老人ホーム」（14.5%）、「介護老人保健施設」（11.3%）、「有料老人ホーム」（9.3%）の順となっている。



(2) 医療処置の状況

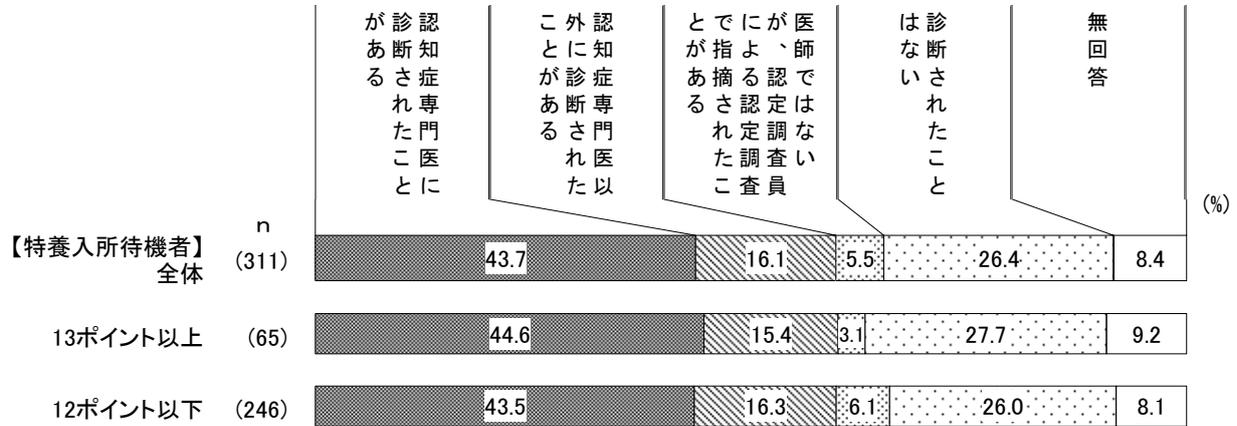
- 「あてはまるものはない」が最も高く、58.5%となっている。
- “何らかの処置を受けている”（「あてはまるものはない」と無回答を除く）は2割半ばとなっている。
- 医療器具の利用や医療処置の内容は、「褥瘡（床ずれ）の処置」（7.4%）、「胃ろう・経管栄養」（6.1%）、「たんの吸引」（5.5%）、「尿管カテーテル」（3.2%）が上位に挙がっている。

(複数回答)



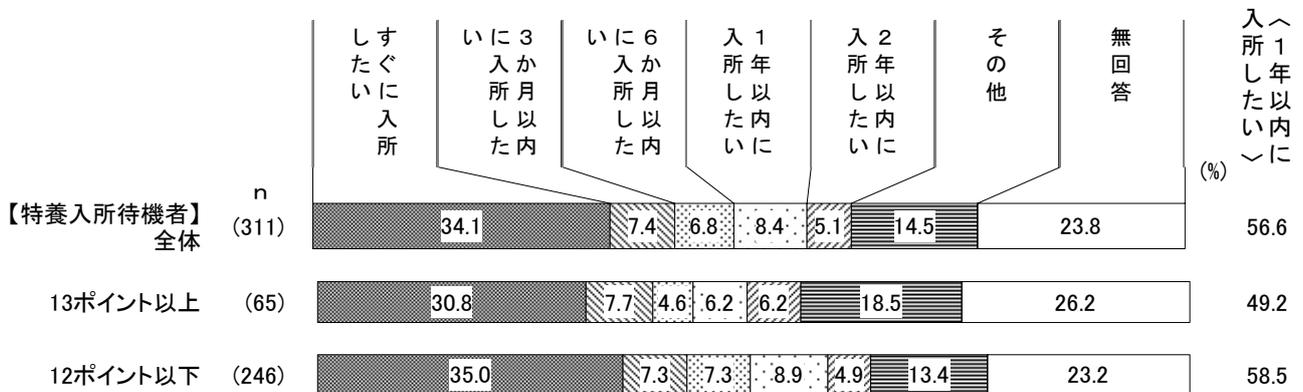
(3) 認知症の診断状況

- 「認知症専門医に診断されたことがある」が43.7%、「認知症専門医以外に診断されたことがある」が16.1%、「医師ではないが、認定調査員による認定調査で指摘されたことがある」が5.5%、「診断されたことはない」が26.4%となっている。



(4) 入所の希望時期

- 「すぐに入所したい」が34.1%で最も高くなっている。
 ○“1年以内に入所したい”（「すぐに入所したい」、「3か月以内に入所したい」、「6か月以内に入所したい」、「1年以内に入所したい」の合計）が56.6%となっている。



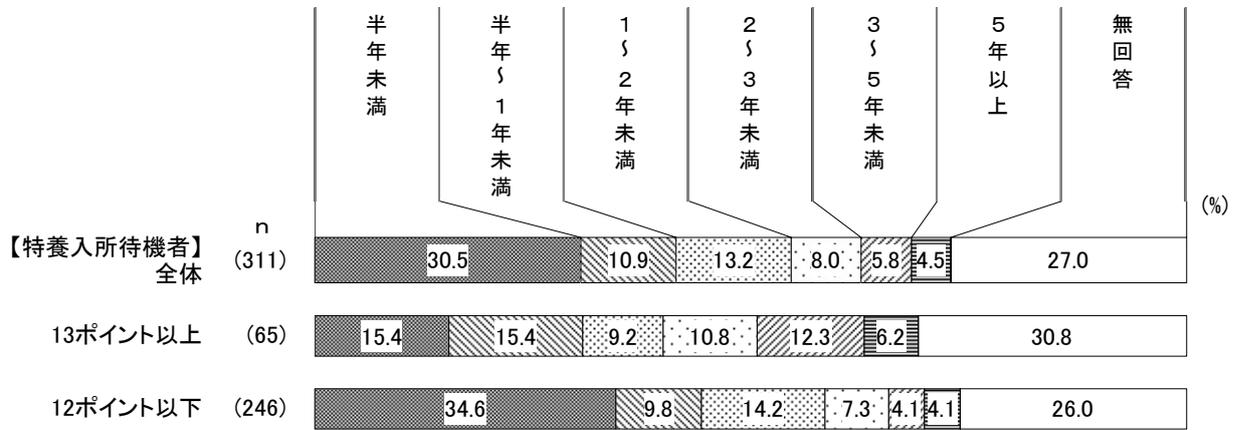
[経年比較 / 特養入所待機者全体]

- 令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、「すぐに入所したい」が5.4ポイント低くなっている。

	n	入所すぐしたい (%)	入3所か1月以内 (%)	入6所か1月以内 (%)	入1所年以内 (%)	入2所年以内 (%)	その他 (%)	無回答 (%)	入1所年以内 (%)
令和4年度	311	34.1	7.4	6.8	8.4	5.1	14.5	23.8	56.6
令和元年度	559	39.5	9.7	5.2	7.2	5.0	15.2	18.2	61.6

(5) 特別養護老人ホームの最初の申込みからの経過期間

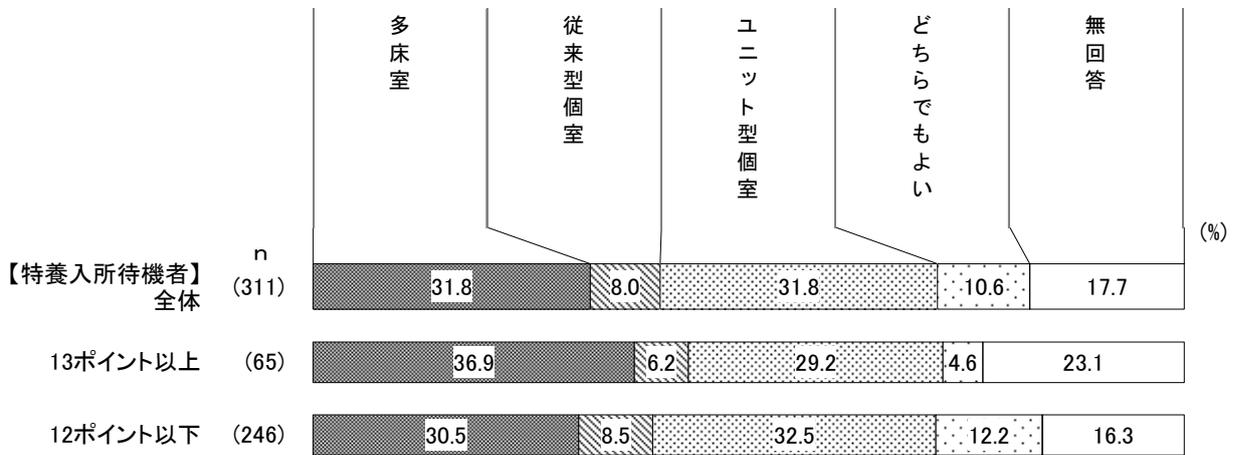
○最初の特別養護老人ホームへの入所申込みからの経過期間は、“1年未満”（「半年未満」と「半年～1年未満」の合計）が4割超となっている。



(6) 入所したい特別養護老人ホームのタイプ

①入所したい特別養護老人ホームのタイプ

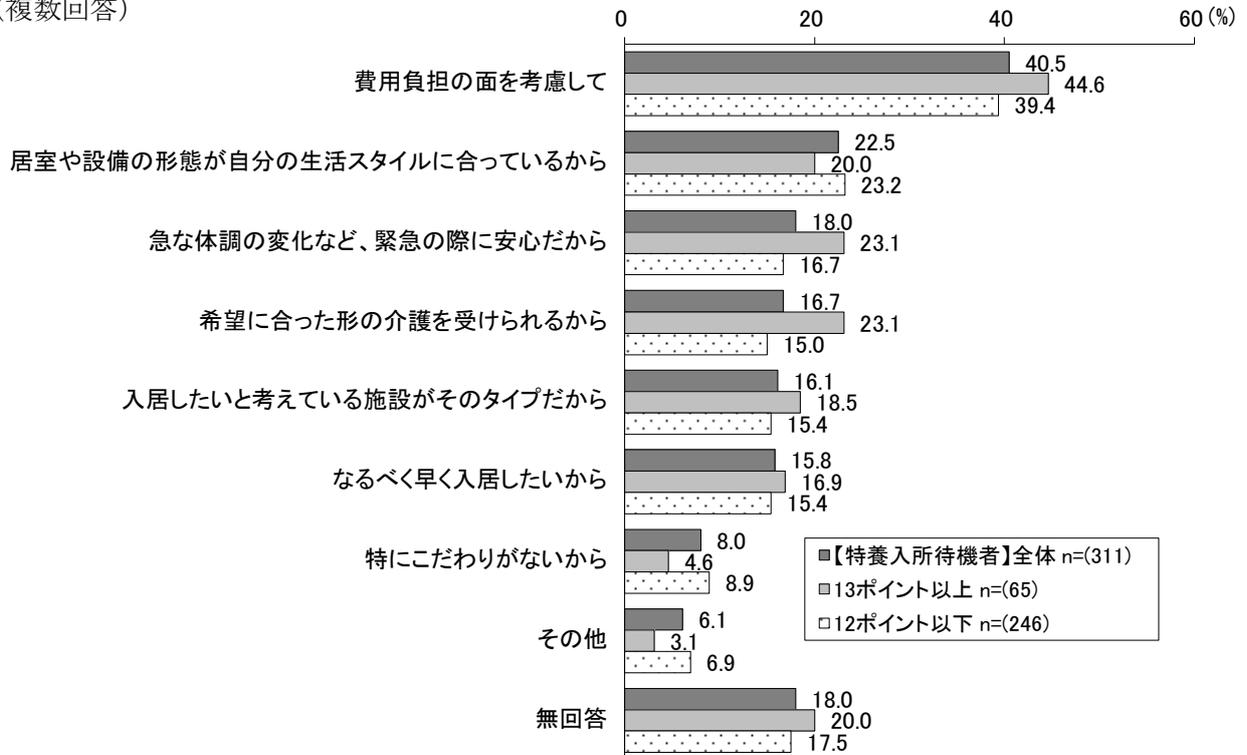
○「多床室」と「ユニット型個室」がともに31.8%で最も高くなっている。



②入所したい特別養護老人ホームのタイプの理由

- 「費用負担の面を考慮して」(40.5%)が最も高く、次いで「居室や設備の形態が自分の生活スタイルに合っているから」(22.5%)、「急な体調の変化など、緊急の際に安心だから」(18.0%)の順となっている。

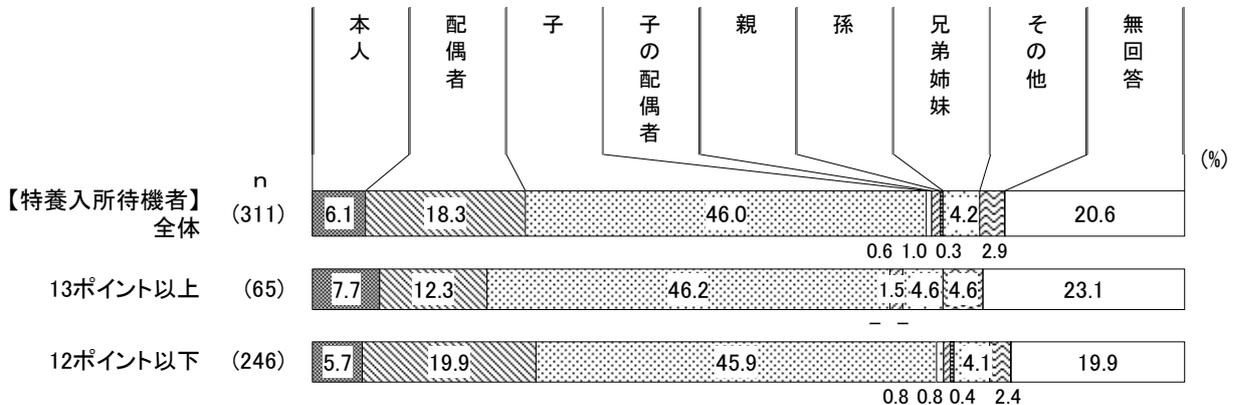
(複数回答)



(7) 特別養護老人ホームの申込み状況

①申込みを決定した人

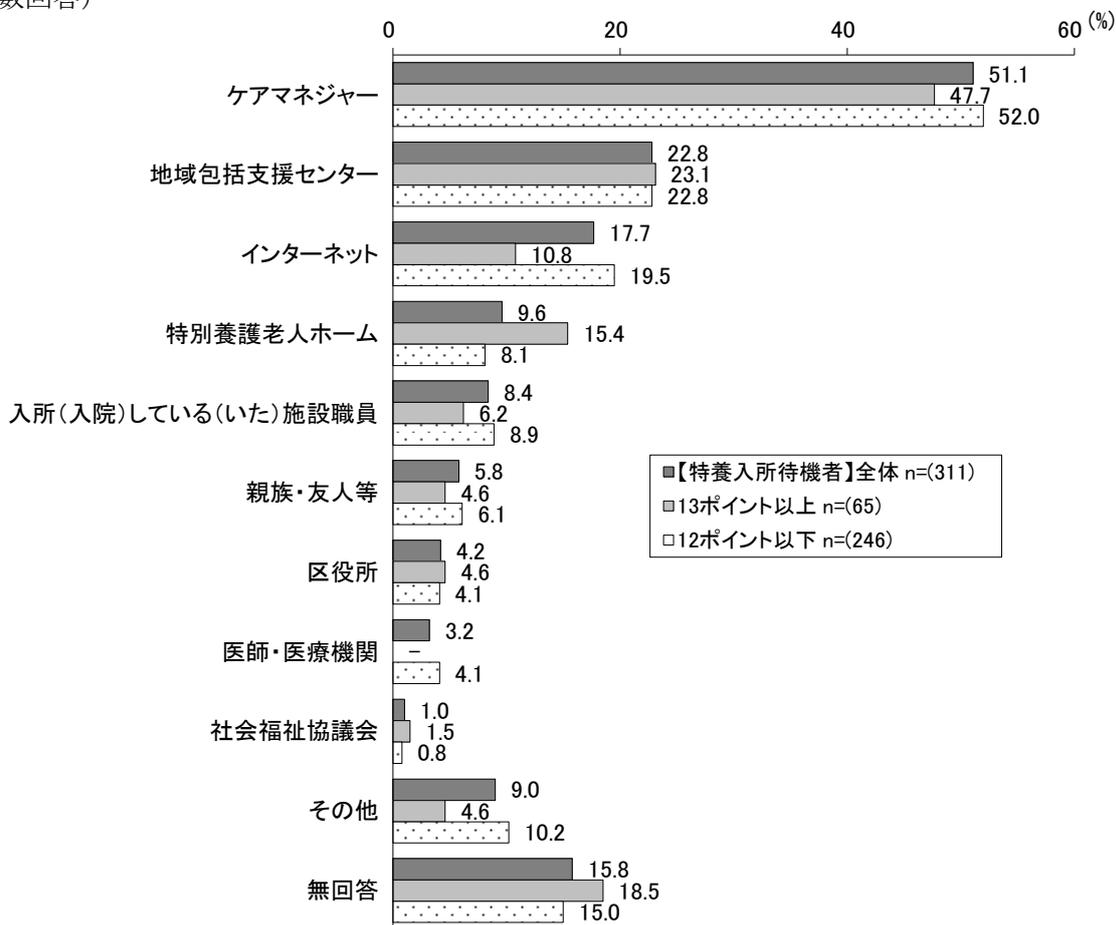
- 「子」(46.0%)が最も高く、次いで「配偶者」(18.3%)、「本人」(6.1%)の順となっている。



②入所申込みをした特別養護老人ホームの情報の入手経路

○「ケアマネジャー」(51.1%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(22.8%)、「インターネット」(17.7%)の順となっている。

(複数回答)



③入所申込みをした特別養護老人ホームを選択した理由

○「自宅から近い」(59.5%)が最も高く、次いで「家族が面会に来る際に交通が便利」(40.2%)、「居室タイプ(多床室、ユニット型等)が希望と合っている」(27.0%)の順となっている。

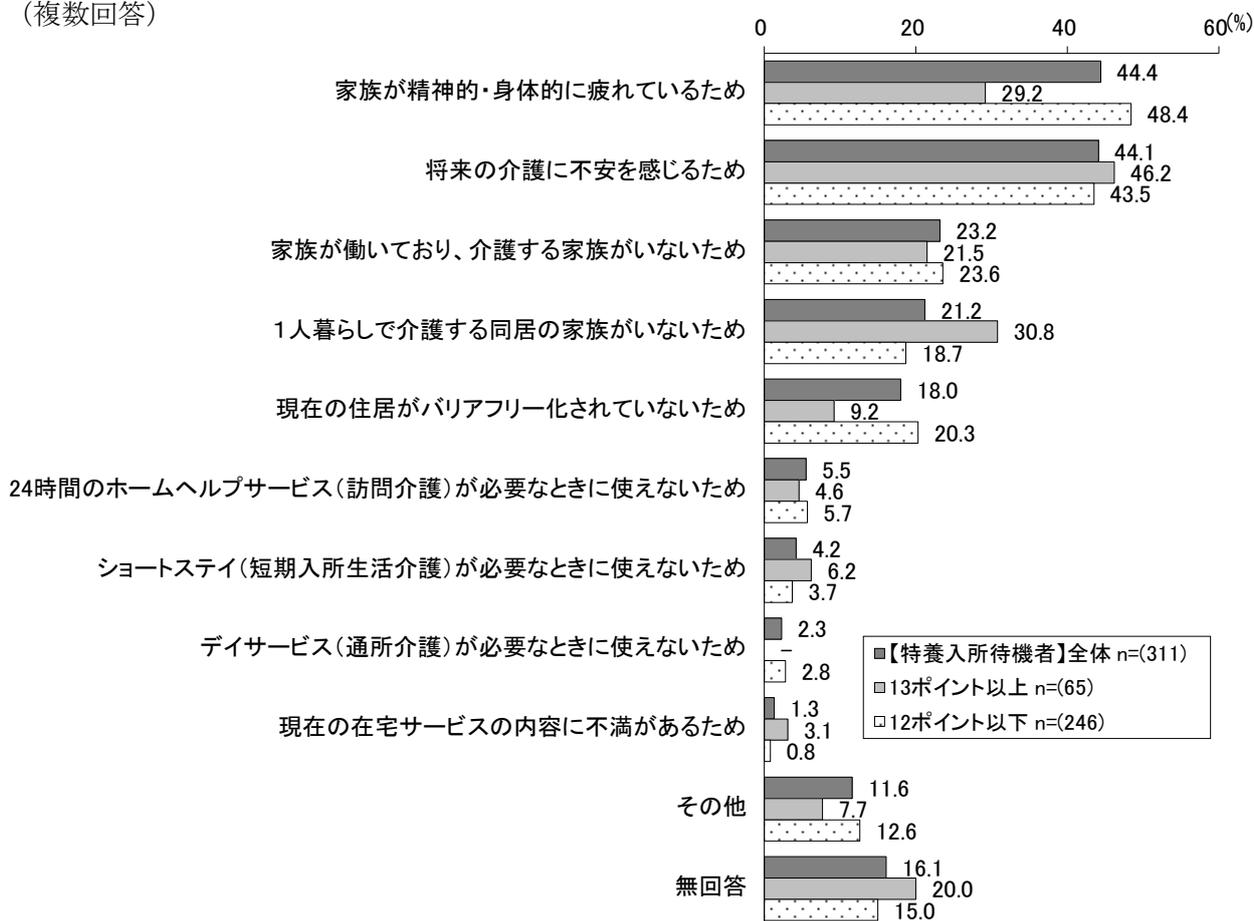
(複数回答)



④特別養護老人ホームを申し込んだ理由

○「家族が精神的・身体的に疲れているため」(44.4%)が最も高く、次いで「将来の介護に不安を感じるため」(44.1%)、「家族が働いており、介護する家族がいないため」(23.2%)、「1人暮らしで介護する同居の家族がいないため」(21.2%)の順となっている。

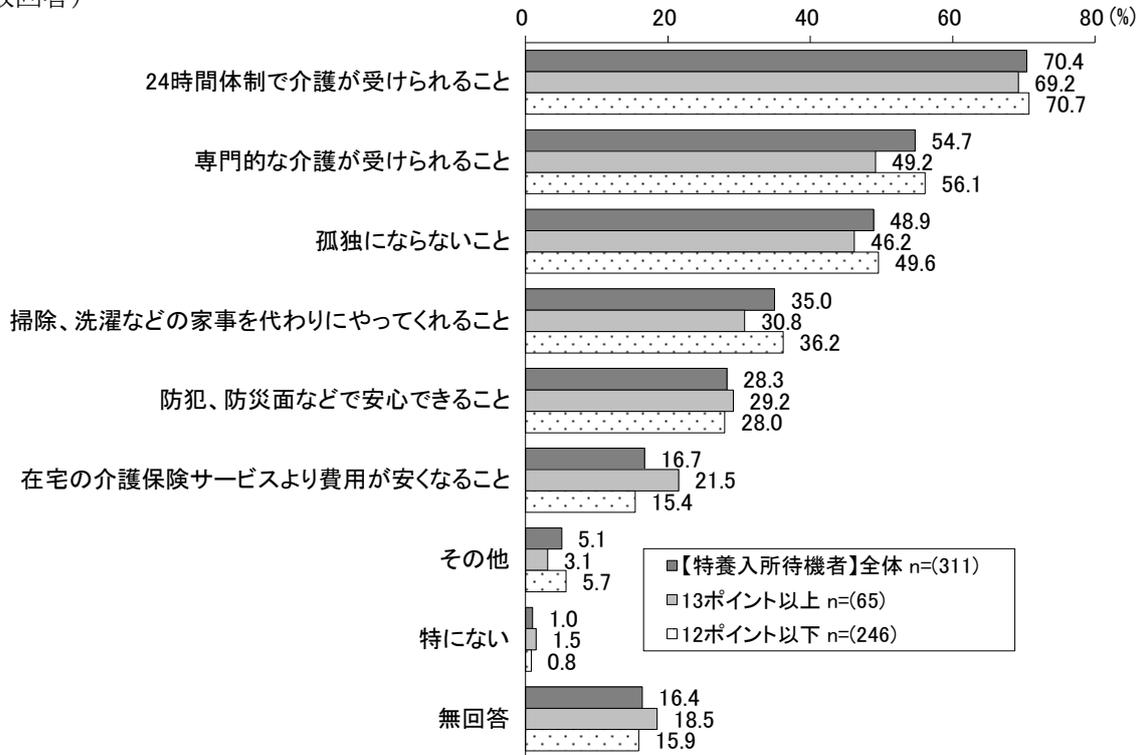
(複数回答)



⑤特別養護老人ホームに期待すること

- 「24時間体制で介護が受けられること」(70.4%)が最も高く、次いで「専門的な介護が受けられること」(54.7%)、「孤独にならないこと」(48.9%)、「掃除、洗濯などの家事を代わりにやってくれること」(35.0%)の順となっている。

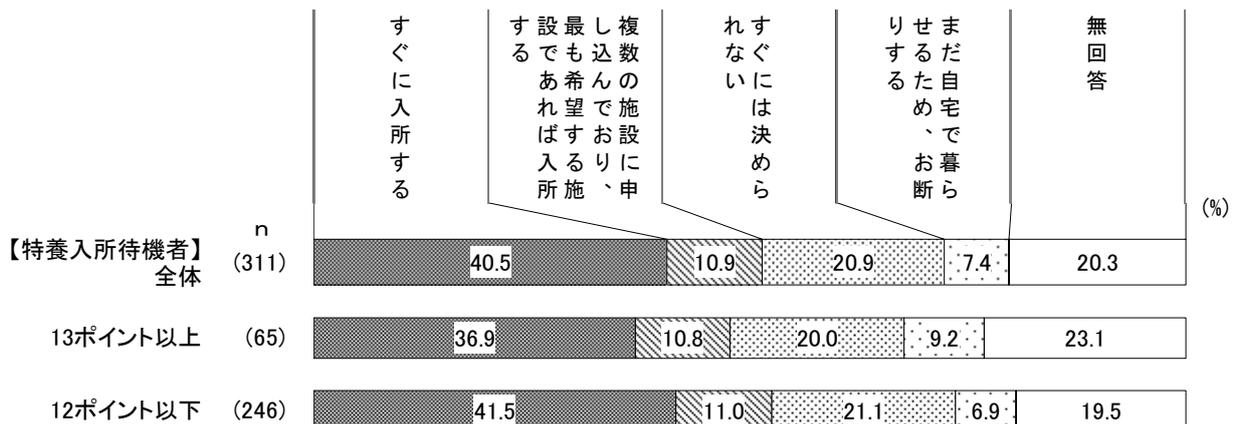
(複数回答)



(8) 申し込んでいる特別養護老人ホームから連絡がきた場合の対応

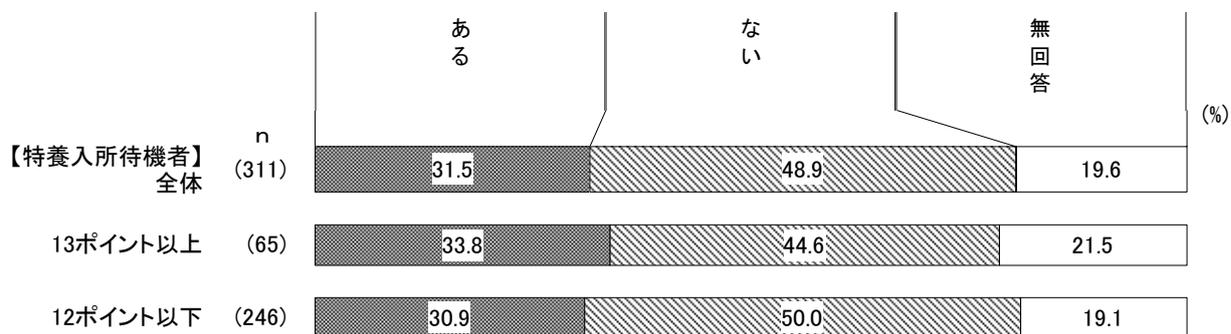
①連絡がきた場合の対応

- 申し込んでいる特別養護老人ホームから「入所できます」と連絡がきた場合の対応は、「すぐに入所する」(40.5%)が最も高くなっている。
- “すぐに入所しない”（「すぐには決められない」と「まだ自宅で暮らせるため、お断りする」の合計）は3割近くとなっている。



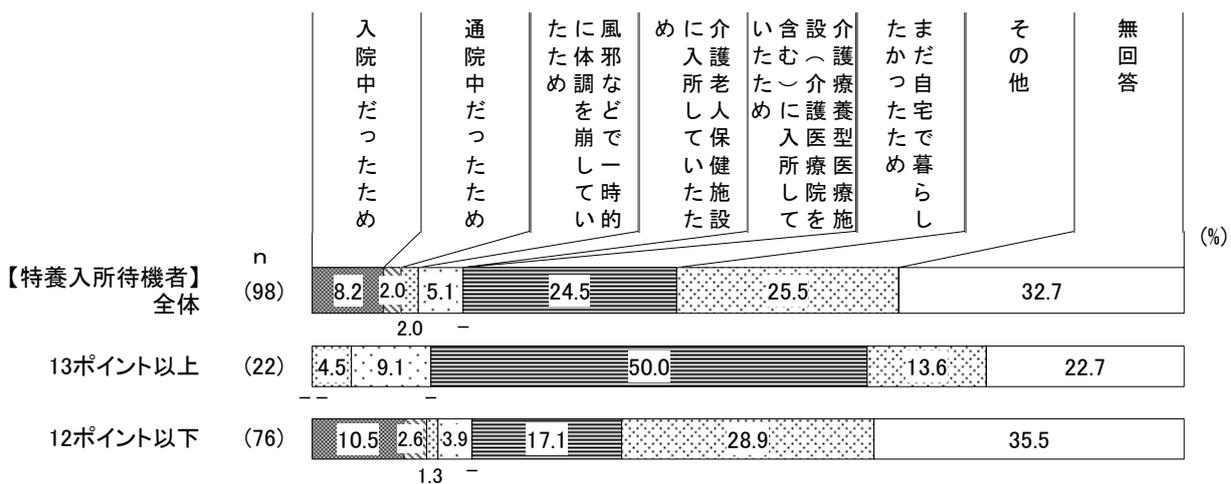
②入所案内の連絡を辞退した経験

○申し込んでいる特別養護老人ホームから「入所できます」と連絡があった際に断った経験は、「ある」が31.5%、「ない」が48.9%となっている。



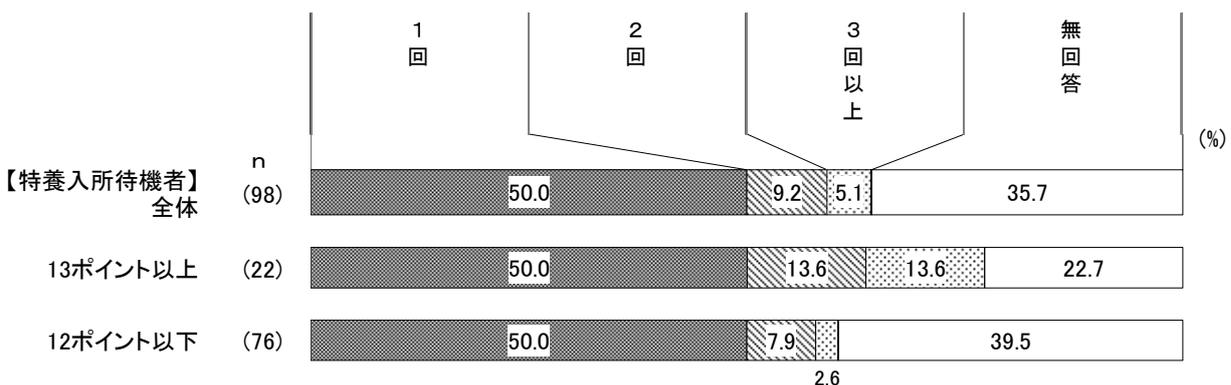
③辞退した理由

○入所辞退の経験が「ある」と回答した人の辞退理由は、「まだ自宅で暮らしたかったため」が24.5%、「入院中だったため」が8.2%、「介護老人保健施設に入所していたため」が5.1%となっている。



④辞退した回数

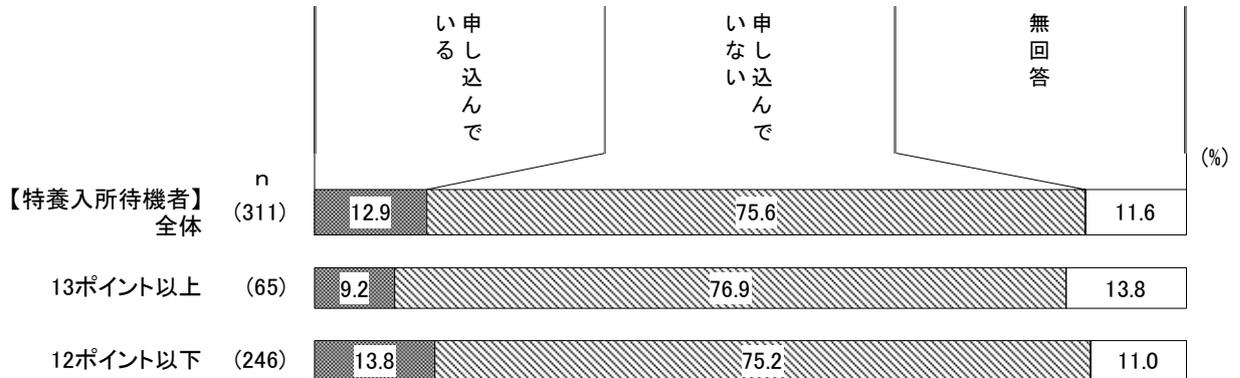
○入所辞退の経験が「ある」と回答した人の入所辞退の回数は、「1回」が50.0%、「2回」が9.2%となっている。



(9) 区外の特別養護老人ホームの入所申込み状況

①区外の特別養護老人ホームの入所申込みの状況

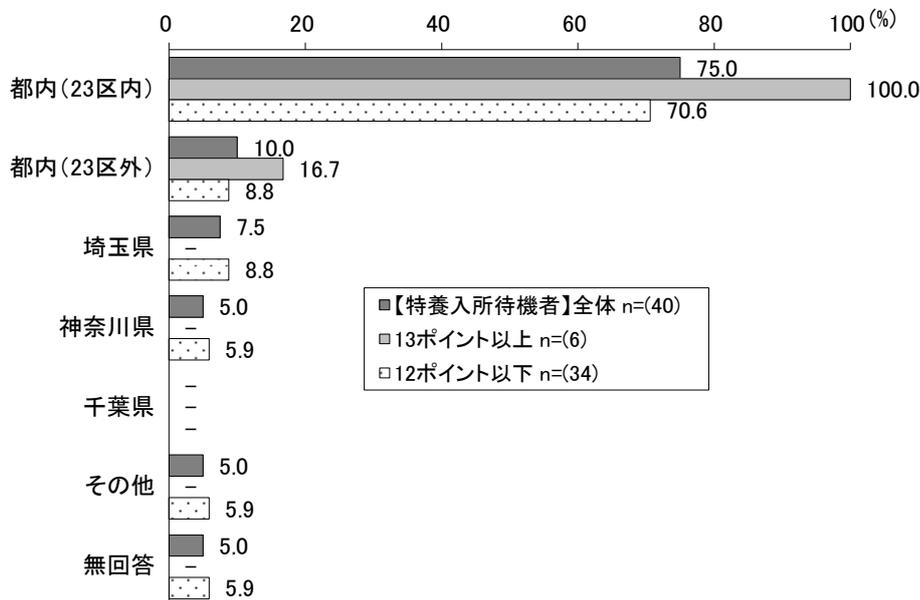
○「申し込んでいる」は12.9%、「申し込んでいない」は75.6%となっている。



②申し込んでいる特別養護老人ホームの場所

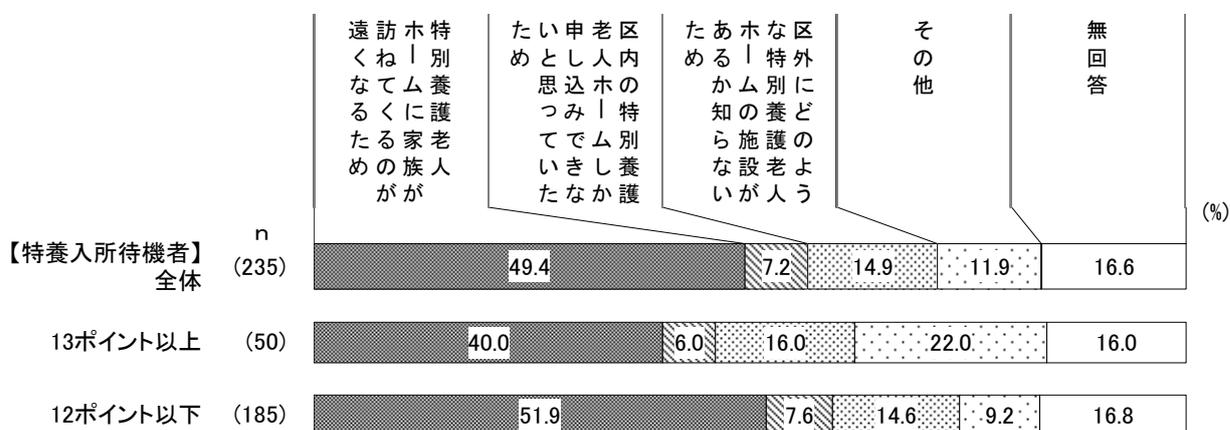
○区外の特別養護老人ホームに入所を「申し込んでいる」と回答した人の入所を申し込んでいる特別養護老人ホームの場所は、「都内（23区内）」（75.0%）が最も高く、次いで「都内（23区外）」（10.0%）、「埼玉県」（7.5%）の順となっている。

(複数回答)



③区外の特別養護老人ホームに申し込まない理由

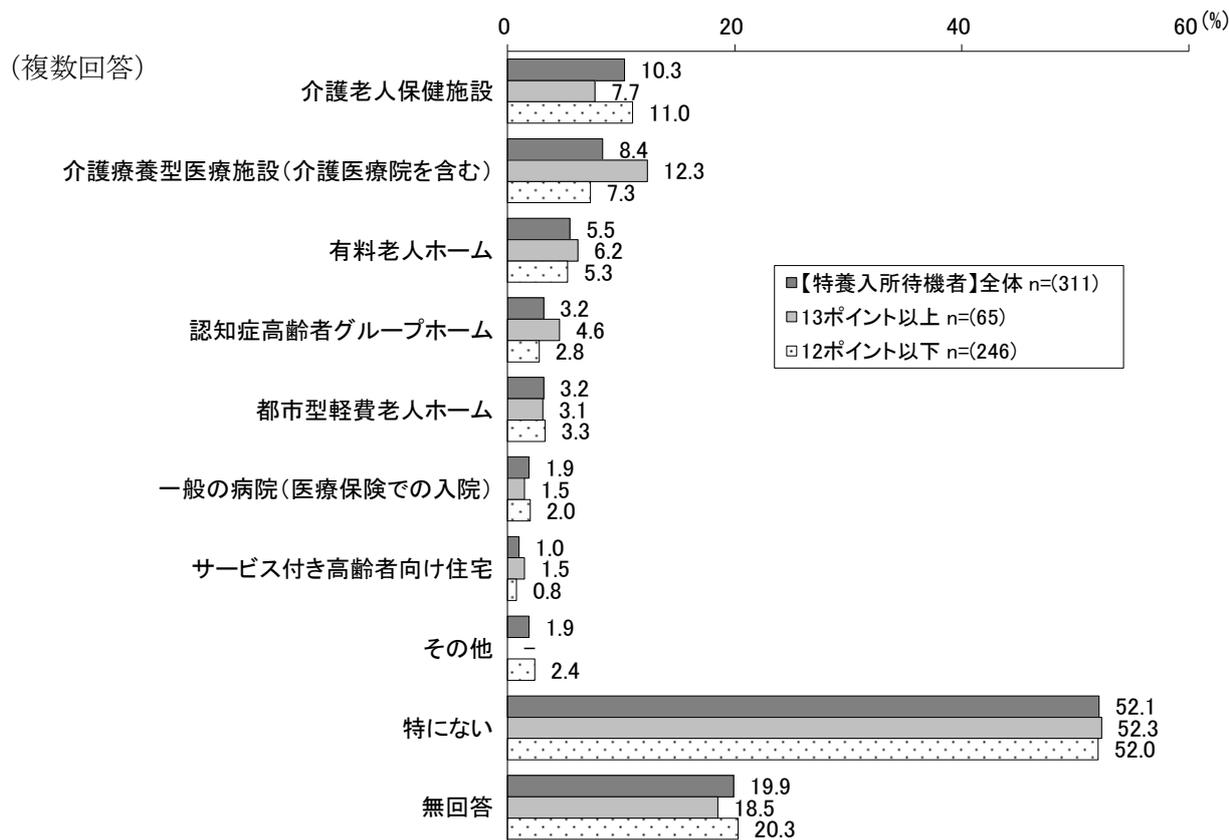
○区外の特別養護老人ホームに入所を「申し込んでいない」と回答した人の申し込まない理由は、「特別養護老人ホームに家族が訪ねてくるのが遠くなるため」(49.4%)が最も高くなっている。「区外にどのような特別養護老人ホームの施設があるか知らないため」は14.9%となっている。



(10) 特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況

①特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況

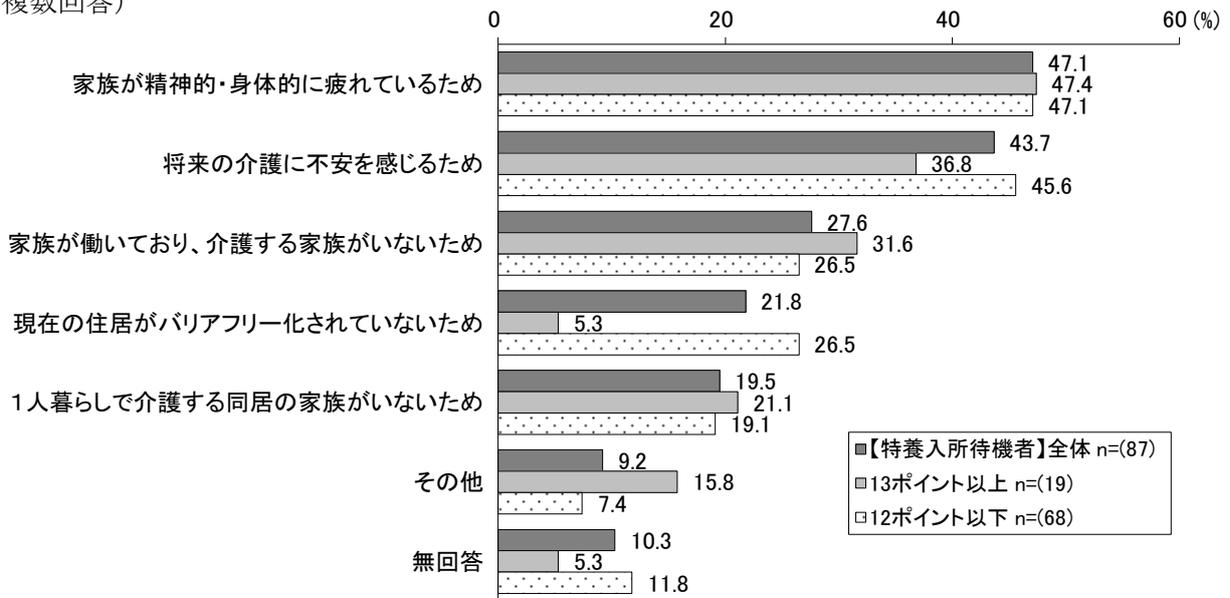
○「特にない」(52.1%)が最も高くなっている。申込み先としては、「介護老人保健施設」が10.3%、「介護療養型医療施設(介護医療院を含む)」が8.4%、「有料老人ホーム」が5.5%となっている。



②特別養護老人ホーム以外の施設等を利用したい理由

- “特別養護老人ホーム以外に申込みをしている施設、もしくは、利用を検討している施設がある”と回答した人の特別養護老人ホーム以外の施設を利用したい理由は、「家族が精神的・身体的に疲れているため」(47.1%)が最も高く、次いで「将来の介護に不安を感じるため」(43.7%)、「家族が働いており、介護する家族がいないため」(27.6%)の順となっている。

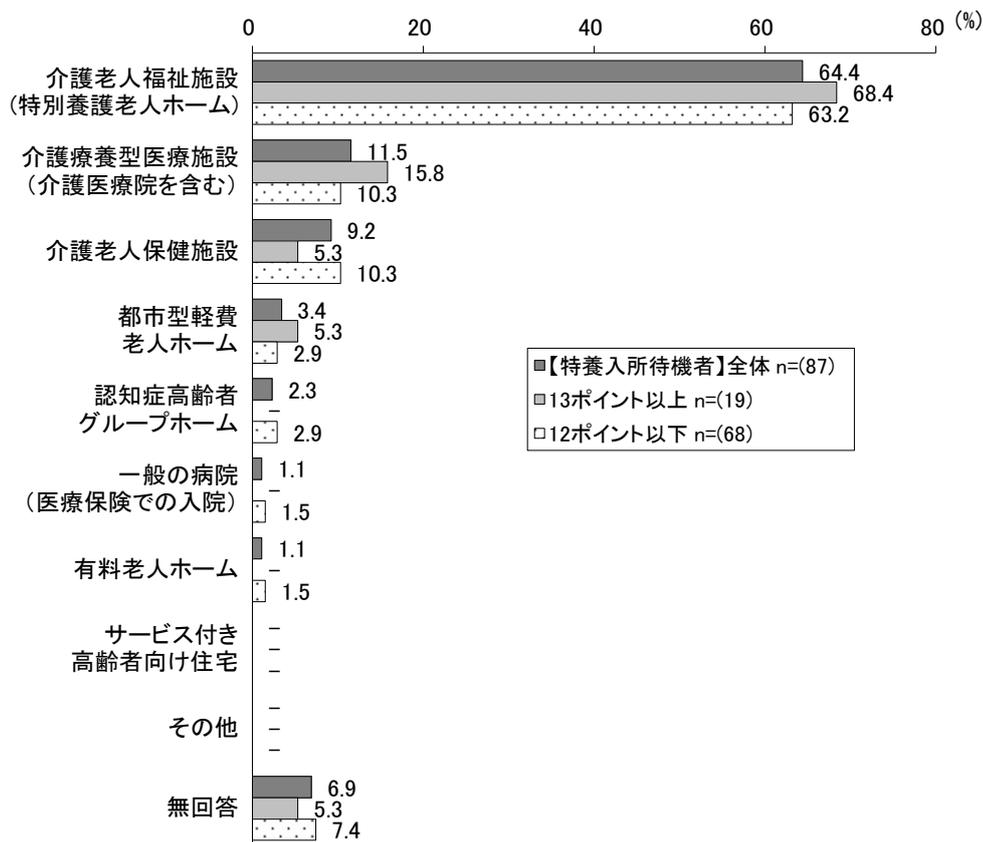
(複数回答)



③入所したい施設の優先順位

○ “特別養護老人ホーム以外に申込みをしている施設、もしくは、利用を検討している施設がある”と回答した人に、入所したい施設の優先順位を聞いたところ、第1位としての回答は、「特別養護老人ホーム」(64.4%)が最も高く、次いで「介護療養型医療施設(介護医療院を含む)」(11.5%)、「介護老人保健施設」(9.2%)の順となっている。

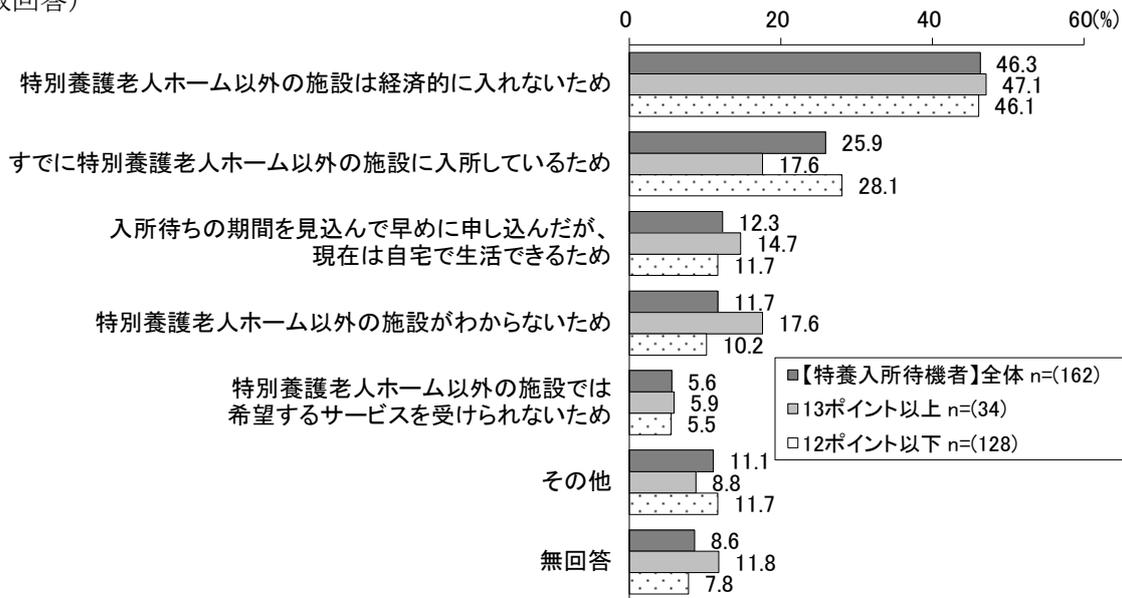
(第1位)



④特別養護老人ホーム以外に申込みをしていない理由

○特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況で「特にない」と回答した人の特別養護老人ホーム以外に申込みをしていない理由は、「特別養護老人ホーム以外の施設は経済的に入れないため」(46.3%)が最も高く、次いで「すでに特別養護老人ホーム以外の施設に入所しているため」(25.9%)、「入所待ちの期間を見込んで早めに申し込んだが、現在は自宅で生活できるため」(12.3%)の順となっている。

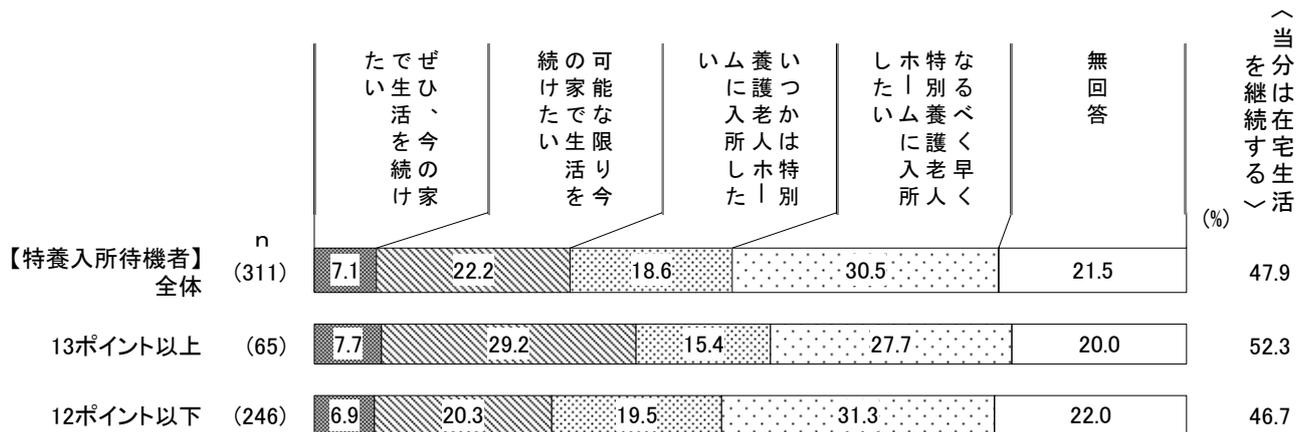
(複数回答)



(11) サービス等の充実による在宅生活の継続希望

①在宅生活の継続希望

○希望する在宅サービスの提供や制度の充実が見込めるのであれば、自宅での生活を希望するかどうか聞いたところ、“当分は在宅生活を継続する”（「ぜひ、今の家で生活を続けたい」、「可能な限り今の家で生活を続けたい」、「いつかは特別養護老人ホームに入所したい」の合計）と回答した人は47.9%で、「なるべく早く特別養護老人ホームに入所したい」（30.5%）を上回っている。



[経年比較 / 特養入所待機者]

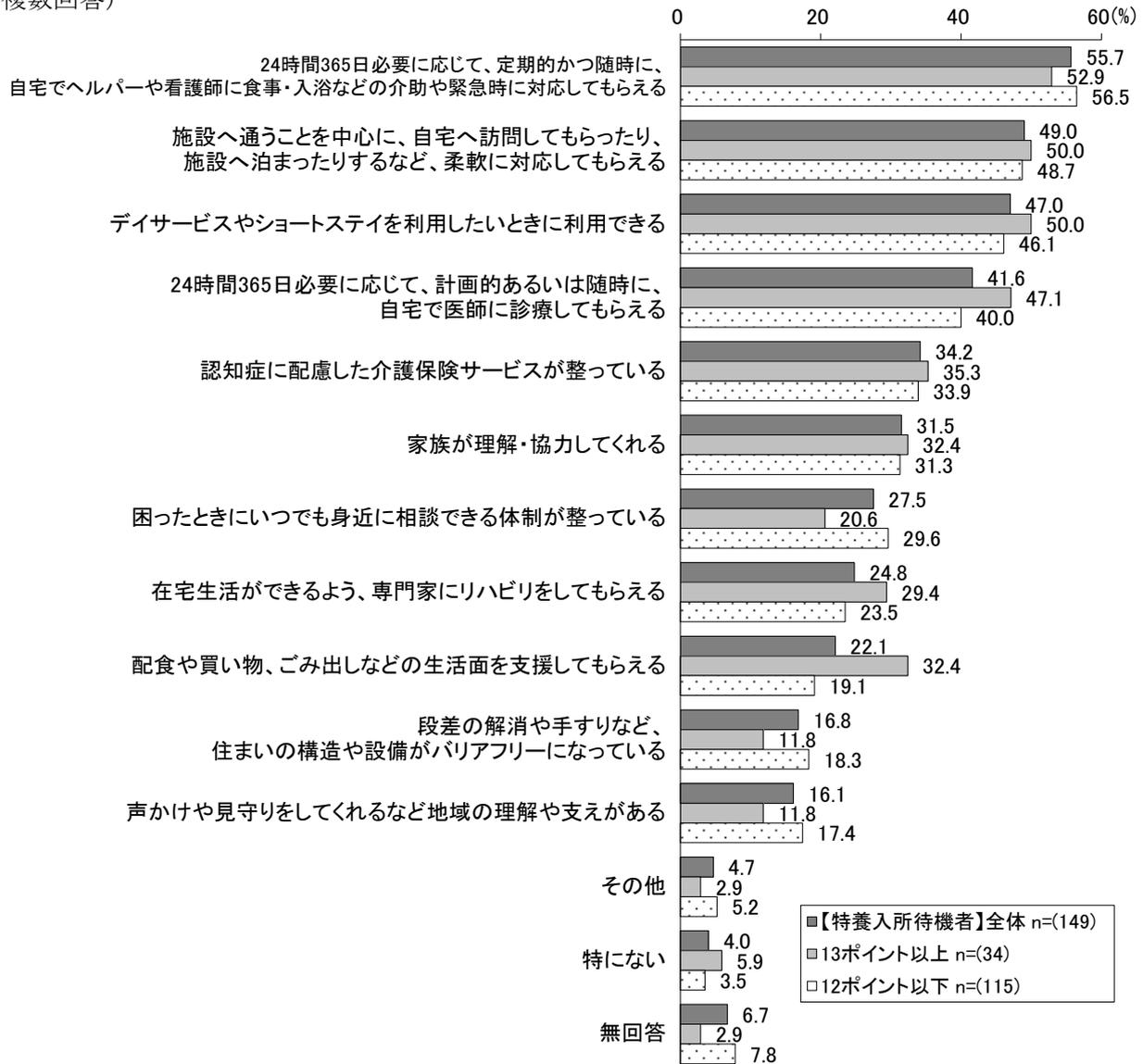
○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、「なるべく早く特別養護老人ホームに入所したい」が11.7ポイント低く、“当分は在宅生活を継続する”が8.3ポイント高くなっている。

	n	活ぜをひを続けたい今の家で生	で可生能なを限り今の家	し老いた人ついはム特に入養所	入養なるべく早く入所したい	無回答	継当続分は在宅生活を
令和4年度	311	7.1	22.2	18.6	30.5	21.5	47.9
令和元年度	559	5.2	17.2	17.2	42.2	18.2	39.6

②在宅生活を継続するために必要なこと

- “当分は在宅生活を継続する” と回答した人が在宅生活を可能にすると思うサービスは、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(55.7%) が最も高く、次いで「施設へ通うことを中心に、自宅へ訪問してもらったり、施設へ泊まったりするなど、柔軟に対応してもらえる」(49.0%)、「デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる」(47.0%)の順となっている。

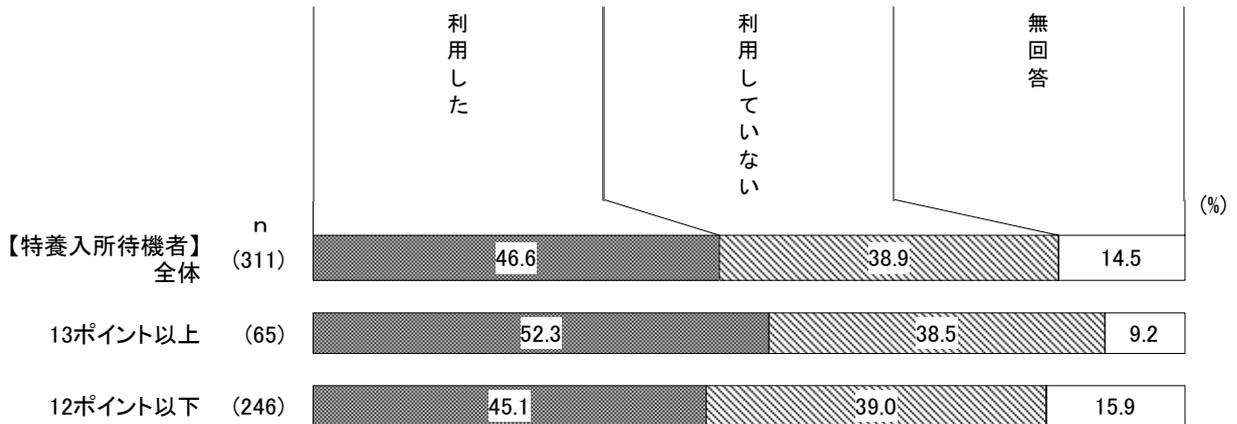
(複数回答)



(12) ショートステイの利用状況

①過去1年間のショートステイの利用状況

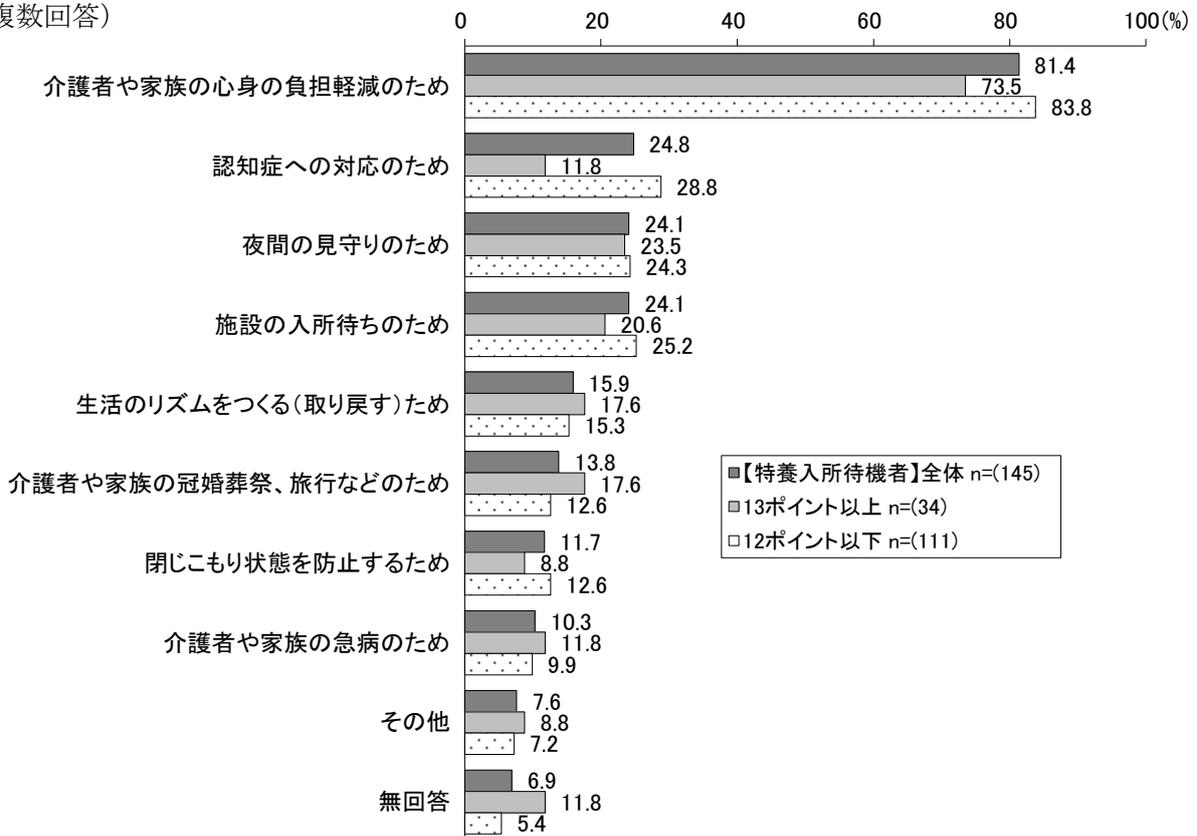
○令和3年11月から令和4年10月の過去1年間にショートステイを「利用した」は46.6%、「利用していない」は38.9%となっている。



②ショートステイの利用目的

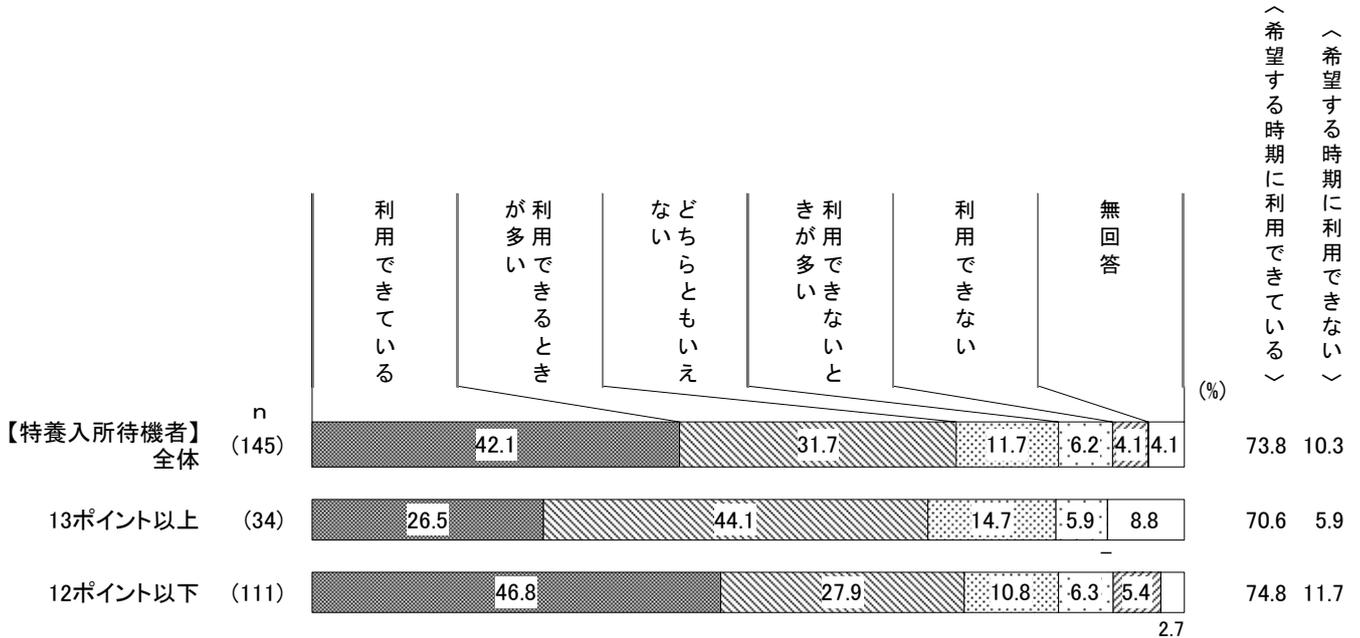
○過去1年間にショートステイを「利用した」と回答した人の利用目的は、「介護者や家族の心身の負担軽減のため」(81.4%)が最も高くなっている。

(複数回答)



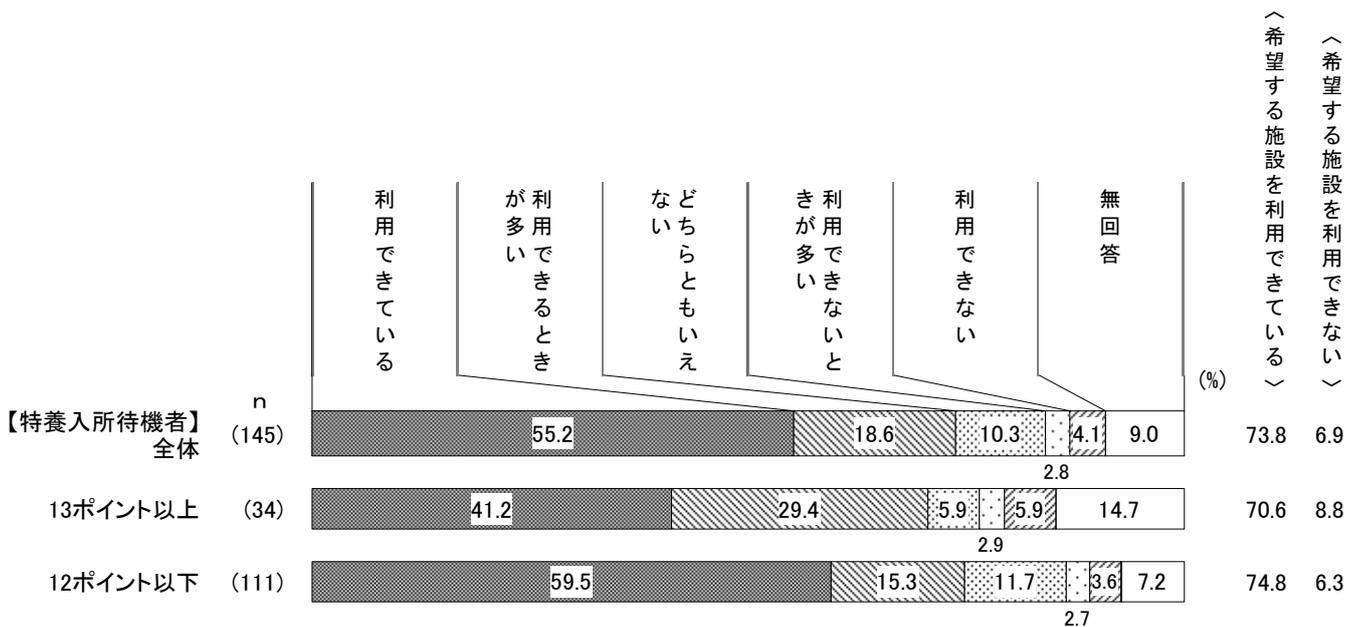
③希望する時期の利用状況

○過去1年間にショートステイを「利用した」と回答した人の希望する時期の利用状況は、“利用できる”（「利用できる」と「利用できることが多い」の合計）が73.8%と、“利用できない”（「利用できない」と「利用できないときが多い」の合計）の10.3%を大きく上回っている。



④希望施設の利用状況

○過去1年間にショートステイを「利用した」と回答した人の希望施設の利用状況は、“利用できる”（「利用できる」と「利用できることが多い」の合計）が73.8%と、“利用できない”（「利用できない」と「利用できないときが多い」の合計）の6.9%を大きく上回っている。

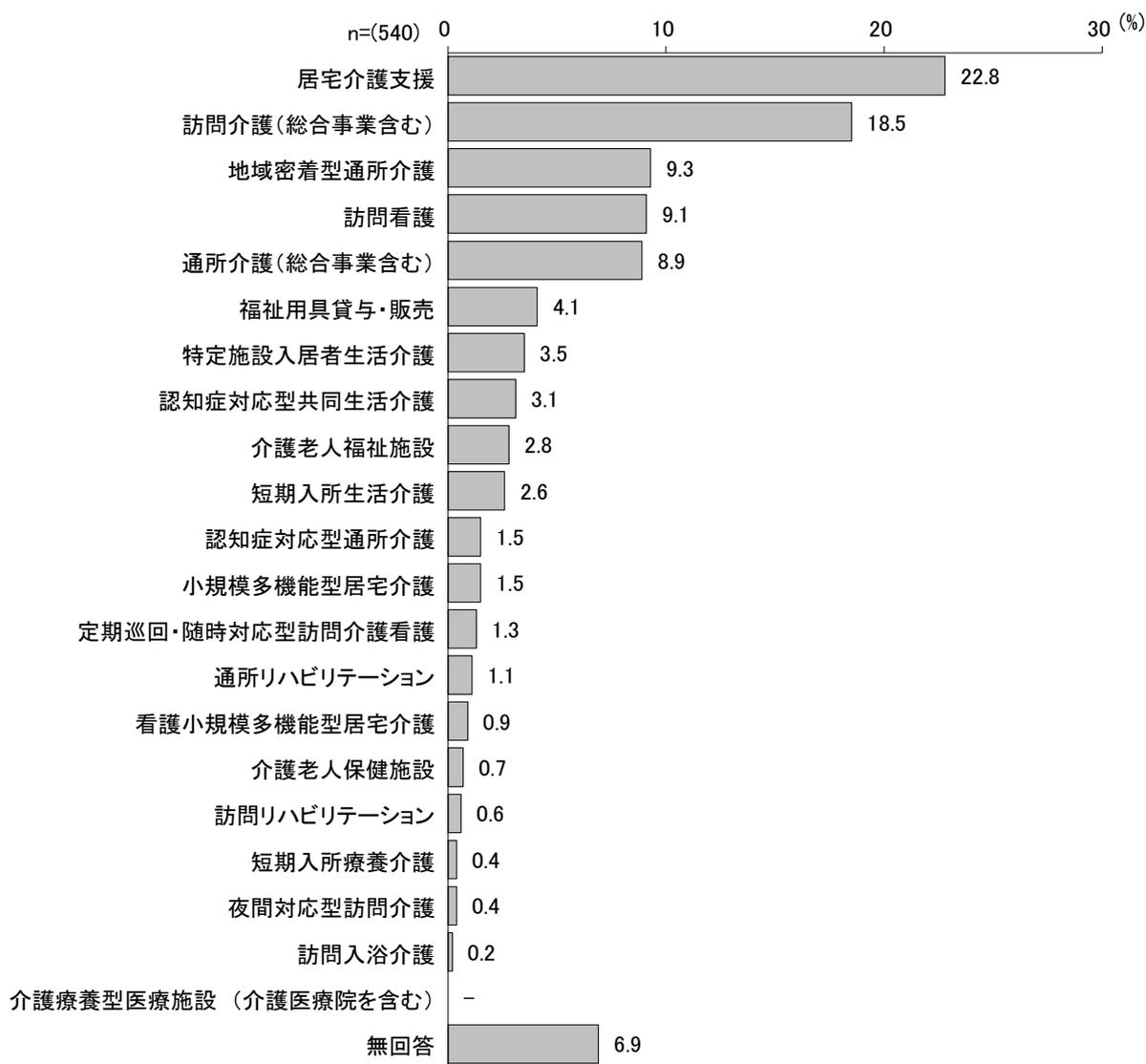


12. 介護サービス事業所調査

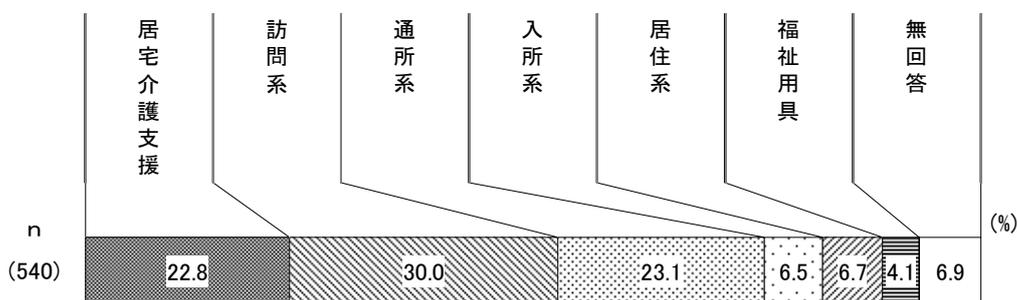
(1) 事業所の概要

①現在実施しているサービス

- 「居宅介護支援」(22.8%)が最も高く、次いで「訪問介護(総合事業含む)」(18.5%)、「地域密着型通所介護」(9.3%)、「訪問看護」(9.1%)、「通所介護(総合事業含む)」(8.9%)の順となっている。

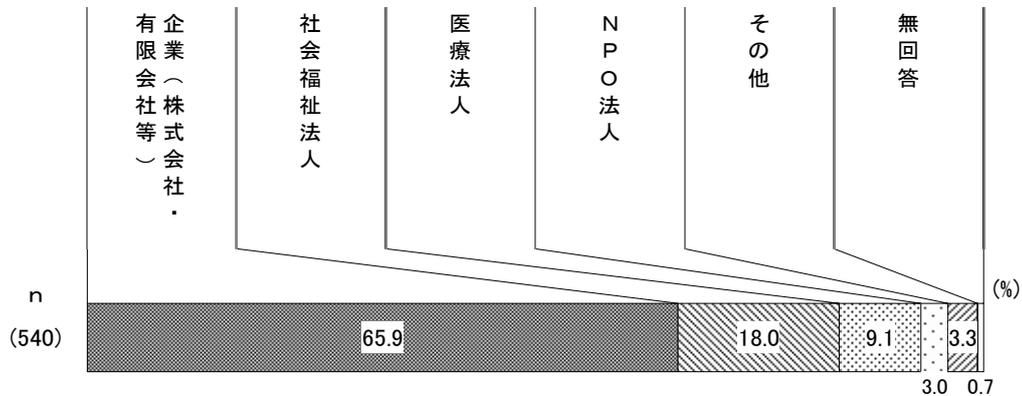


[現在実施しているサービス <サービス種別>]



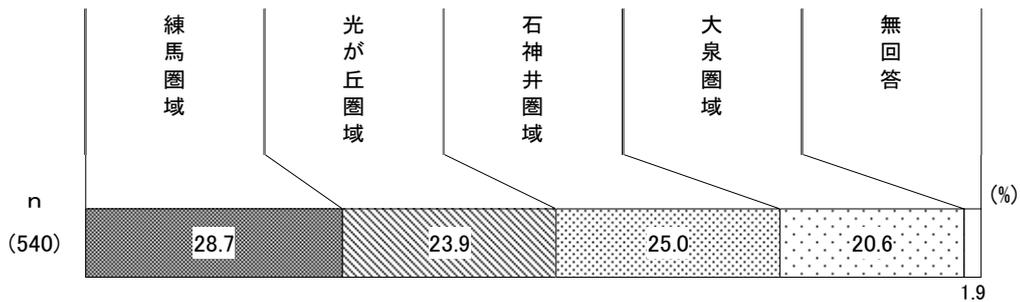
②運営主体

- 「企業（株式会社・有限会社等）」（65.9%）が最も高く、次いで「社会福祉法人」（18.0%）、「医療法人」（9.1%）の順となっている。



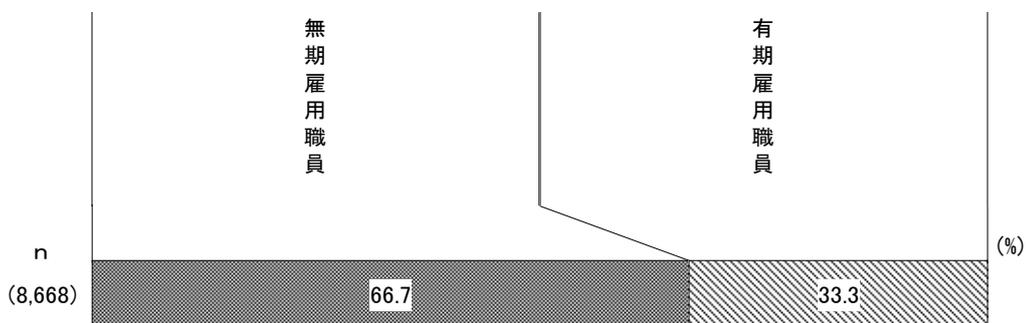
③日常生活圏域

- 「練馬圏域」が28.7%、「光が丘圏域」が23.9%、「石神井圏域」が25.0%、「大泉圏域」が20.6%となっている。



④介護サービス従事者の就業形態

- 回答のあった事業所で介護サービスに従事する従業員の就業形態は、「無期雇用職員」が66.7%、「有期雇用職員」が33.3%となっている。



※介護サービスに従事する従業員：職種や役職等に関係なく、介護保険の指定介護サービス事業に従事する者。管理者、介護事務職、調理員、栄養士、送迎運転手等を含む。ただし、派遣労働者、委託従事者を除く。

※無期雇用職員：労働時間数にかかわらず雇用期間の定めがない者。

※有期雇用職員：無期雇用職員以外の労働者。派遣労働者、委託業務従事者を除く。

※令和4年9月30日現在。

⑤職種別従業員数

○「訪問介護員」、「サービス提供責任者」、「介護職員」、「看護職員」、「生活相談員」、「PT・OT・ST等」、「介護支援専門員」の7職種について従業員数を聞いたところ、「介護職員」が41.5%で最も高く、次いで「訪問介護員」が26.5%、2つの職種を合わせると直接介護にあたる介護職は68.0%となっている。

	n	職種別 (%)							3職種計	2職種計
		訪問介護員	サービス提供責任者	介護職員	看護職員	生活相談員	PT・OT・ST等	介護支援専門員		
全体	6,622	26.5	4.2	41.5	12.9	3.9	5.3	5.7	72.2	68.0
無期雇用職員	4,498	64.0	84.3	66.2	67.6	79.6	67.4	79.5	70.7	65.4
有期雇用職員	2,124	36.0	15.7	33.8	32.4	20.4	32.6	20.5	75.5	73.4

※介護職員：介護保険の訪問介護以外の指定介護事業所で働き、直接介護を行う者。

※PT・OT・ST等：PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)等の機能訓練指導員。

※3職種：訪問介護員、サービス提供責任者、介護職員とする。

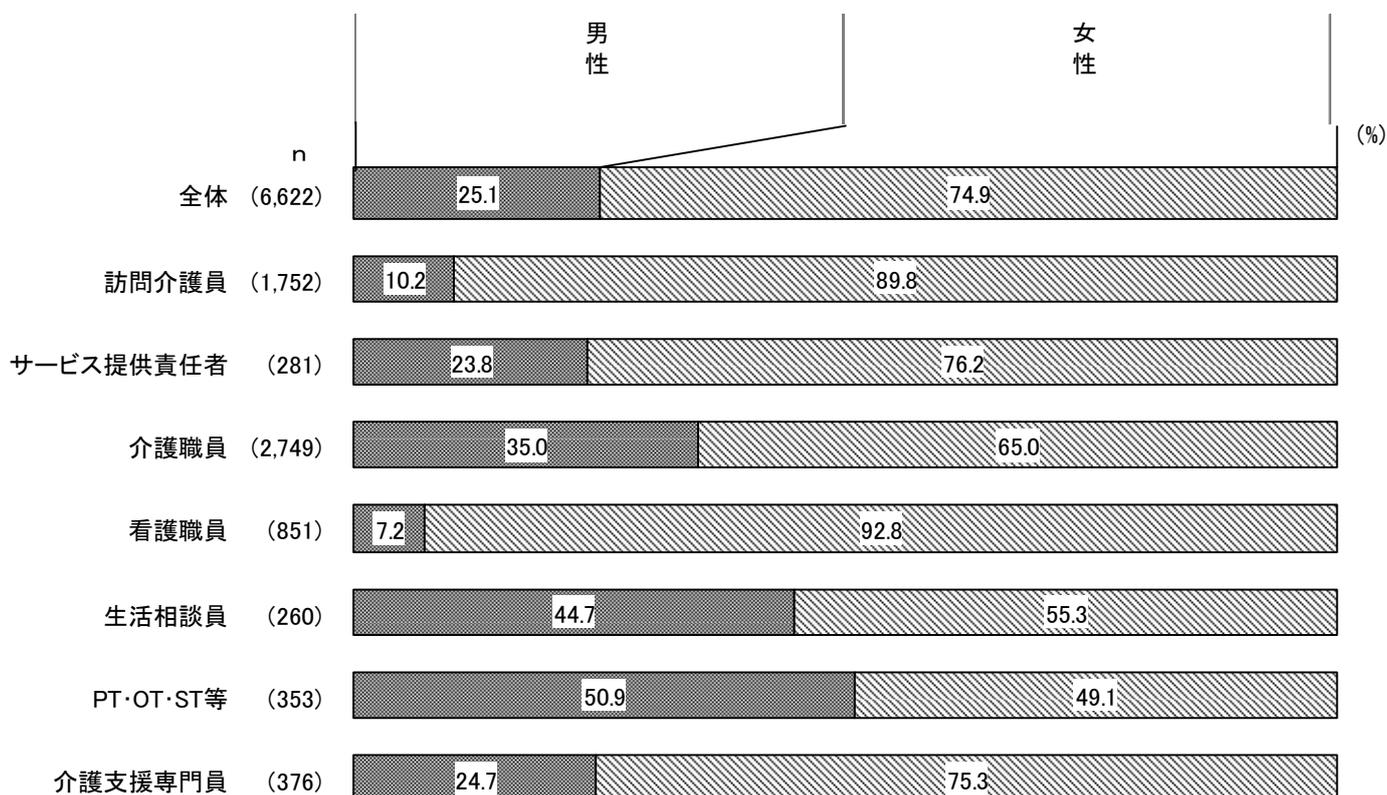
※2職種：訪問介護員、介護職員とする。

※令和4年9月30日現在。

[職種別従業員数 <性別>]

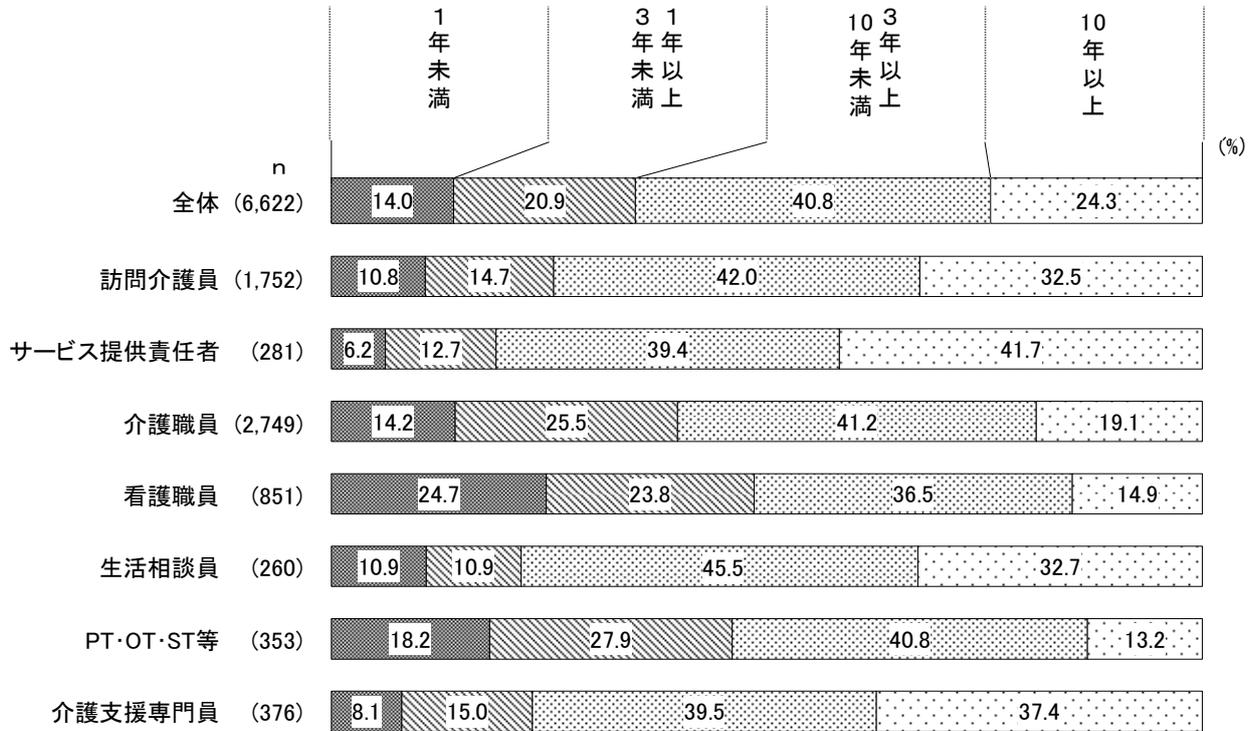
○性別は、「男性」が25.1%、「女性」が74.9%となっている。

○職種別でみると、『訪問介護員』は「男性」が10.2%、「女性」が89.8%となっている。一方、『介護職員』は「男性」が35.0%、「女性」が65.0%となっている。



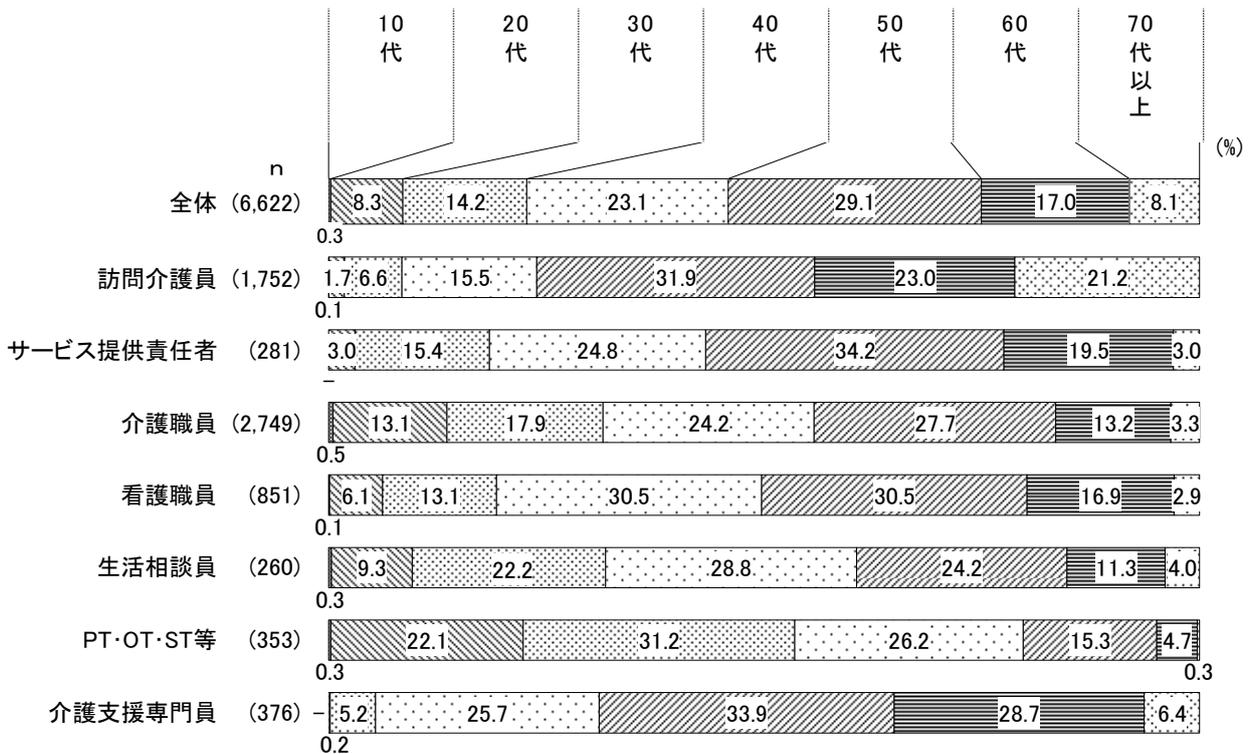
[職種別従業員数 <勤続年数別>]

- 勤続年数は、「1年未満」が14.0%、「1年以上3年未満」が20.9%、「3年以上10年未満」が40.8%、「10年以上」が24.3%となっている。
- 職種別でみると、『訪問介護員』は“3年未満”（「1年未満」と「1年以上3年未満」の合計）が2割半ばとなっている。一方、『介護職員』は“3年未満”が約4割となっている。



[職種別従業員数 <年齢階級別>]

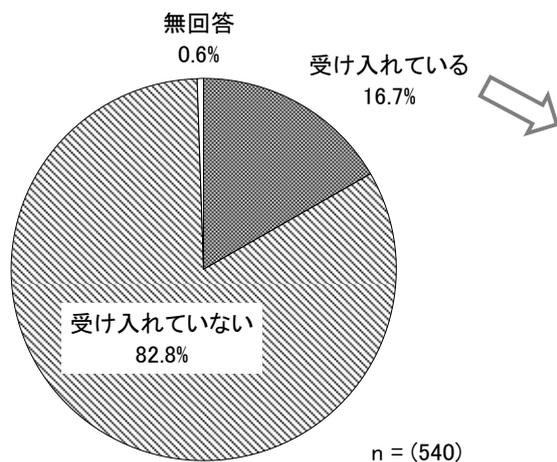
- 年齢は、「10代」が0.3%、「20代」が8.3%、「30代」が14.2%、「40代」が23.1%、「50代」が29.1%、「60代」が17.0%、「70代以上」が8.1%となっている。
- 職種別でみると、『訪問介護員』、『介護職員』ともに、「50代」が最も高く、それぞれ31.9%、27.7%となっている。



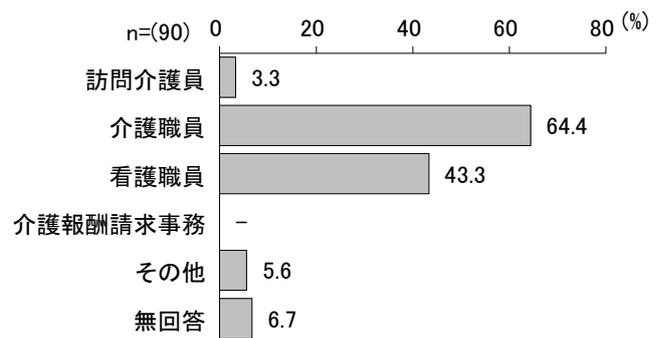
⑥派遣労働者の受け入れ状況

- 派遣労働者の受け入れの有無は、「受け入れている」が16.7%、「受け入っていない」が82.8%となっている。「受け入れている」と回答した事業所の受け入れている職種は「介護職員」(64.4%)が最も高く、次いで「看護職員」(43.3%)の順となっている。

[派遣労働者の受け入れ]



[受け入れている職種] (複数回答)



⑦利用者数

ア. 要介護度別利用者数

○令和4年10月1日時点の要介護度別利用者数は、「要支援1」が6.2%、「要支援2」が8.1%、「要介護1」が20.2%、「要介護2」が24.5%、「要介護3」が15.3%、「要介護4」が11.8%、「要介護5」が8.6%、「総合事業対象者」が5.3%となっている。

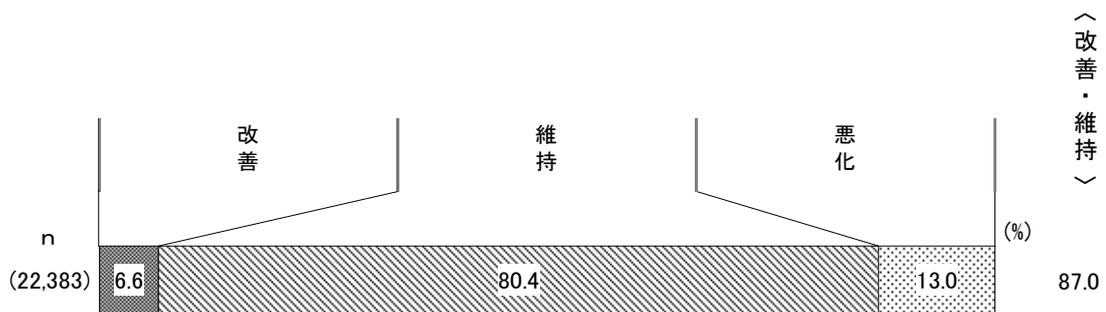
〔 要介護度別利用者数 <サービス種別> 〕

	n	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総合事業対象者
全体	45,491	6.2	8.1	20.2	24.5	15.3	11.8	8.6	5.3
居宅介護支援	11,122	5.2	6.7	26.7	29.3	15.4	9.4	6.1	1.1
訪問系	9,861	5.7	8.3	16.7	23.2	14.0	10.2	10.3	11.6
通所系	6,760	9.8	10.4	24.9	24.7	14.1	7.1	4.6	4.3
入所系	1,794	0.1	0.3	4.8	8.0	18.7	35.5	23.2	9.3
居住系	1,556	4.0	1.6	13.9	14.8	17.1	15.4	9.1	24.0
福祉用具	7,710	7.3	9.1	18.4	26.1	15.3	11.9	8.9	2.9

※無回答を除いて集計

イ. 要介護度の1年間の変化

○令和4年10月1日時点の利用者の令和3年10月1日時点と比較した要介護度の変化は、「改善」が6.6%、「維持」が80.4%、「悪化」が13.0%となっている。“改善・維持”（「改善」と「維持」の合計）は87.0%となっている。



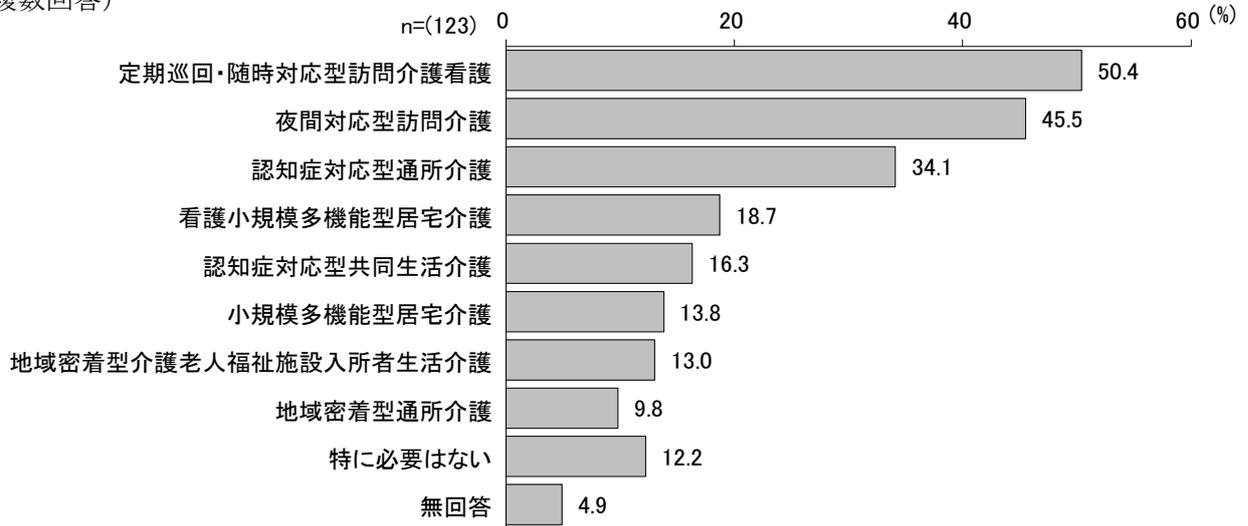
※無回答を除いて集計

(2) 居宅介護支援事業所の考え

① 今後整備が必要な地域密着型サービス

○「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(50.4%)が最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」(45.5%)、「認知症対応型通所介護」(34.1%)の順となっている。

(複数回答)



[今後整備が必要な地域密着型サービス <圏域別>]

○圏域別にみると、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」と回答した事業所は、『石神井圏域』で20件、「看護小規模多機能型居宅介護」と回答した事業所は、『石神井圏域』で8件となっている。

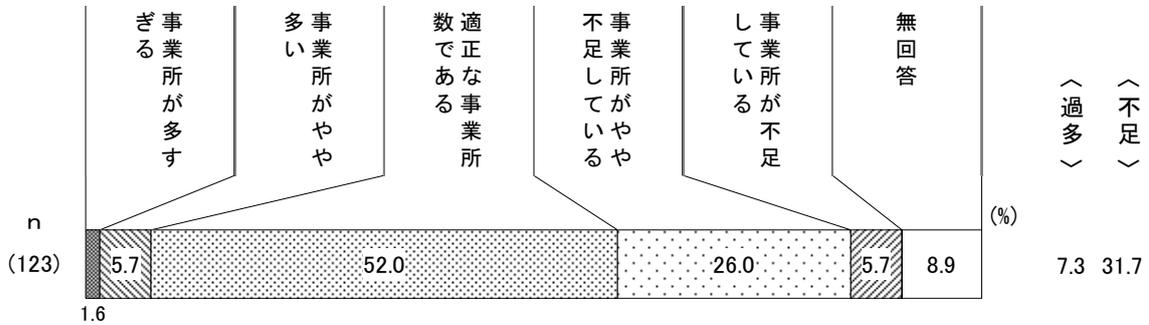
(複数回答)

	n	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護	看護小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	福祉施設入所者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	地域密着型通所介護	特に必要はない	無回答
全体	123	62	56	42	23	20	17	16	12	15	6	
練馬圏域	26	14	15	7	4	4	4	4	4	1	2	
光が丘圏域	31	14	14	11	5	4	4	4	2	3	1	
石神井圏域	38	20	16	11	8	7	3	2	4	5	2	
大泉圏域	26	14	10	11	6	5	6	6	2	6	1	

②小規模多機能型居宅介護

ア. 小規模多機能型居宅介護の需給バランス

- 「適正な事業所数である」が52.0%で最も高くなっている。
- “不足”（「事業所が不足している」と「事業所がやや不足している」の合計）が3割超で、“過多”（「事業所が多すぎる」と「事業所がやや多い」の合計）の1割近くを上回っている。



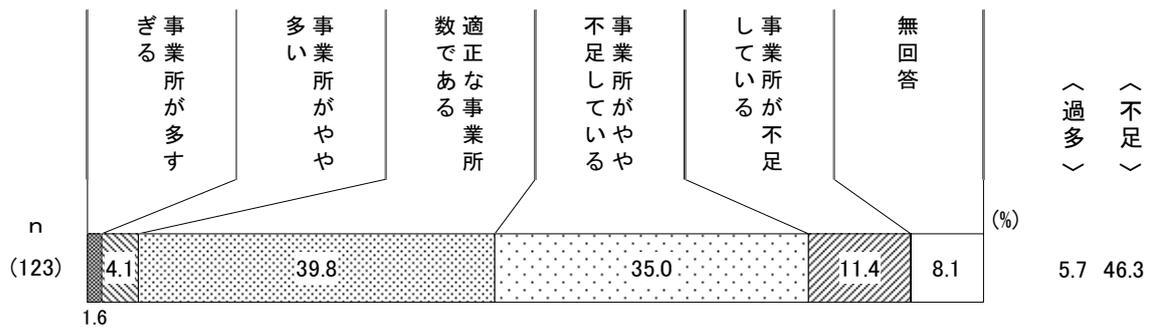
[小規模多機能型居宅介護の需給バランス <圏域別>]

- 圏域別にみると、『練馬圏域』で“不足”が「適正な事業所数である」を上回っている。

	n	(件)						過多	不足
		事業所が多すぎる	事業所がやや多い	適正な事業所数である	事業所がやや不足している	事業所が不足している	無回答		
全体	123	2	7	64	32	7	11	9	39
練馬圏域	26	1	-	11	10	2	2	1	12
光が丘圏域	31	-	2	16	7	4	2	2	11
石神井圏域	38	1	3	26	3	1	4	4	4
大泉圏域	26	-	1	11	11	-	3	1	11

イ. 看護小規模多機能型居宅介護の需給バランス

- 「適正な事業所数である」(39.8%)が最も高く、次いで「事業所がやや不足している」(35.0%)となっている。
- “不足”が4割半ばとなっている。



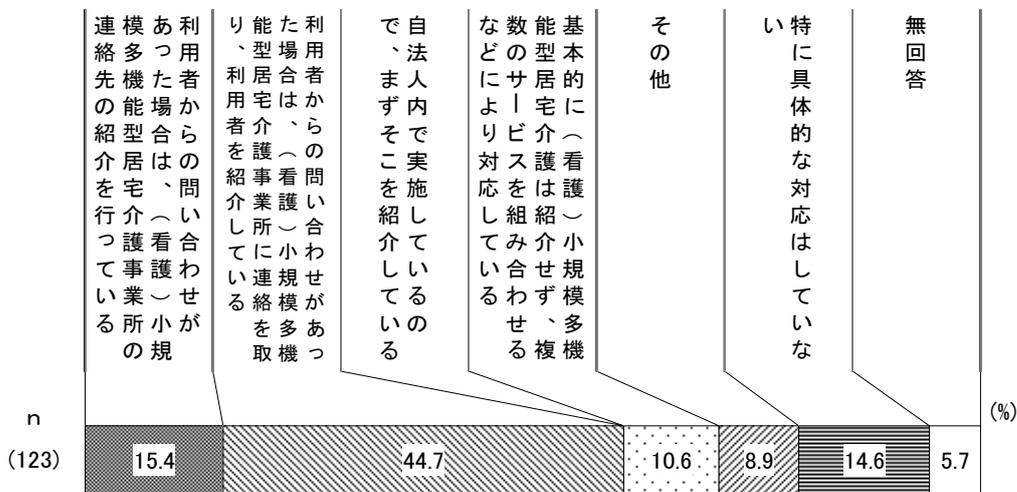
[看護小規模多機能型居宅介護の需給バランス <圏域別>]

○圏域別にみると、『練馬圏域』、『光が丘圏域』、『大泉圏域』で“不足”が「適正な事業所数である」を上回っている。

	n	(件)						過多	不足
		事業所が多すぎる	事業所がやや多い	適正な事業所数である	事業所がやや不足している	事業所が不足している	無回答		
全体	123	2	5	49	43	14	10	7	57
練馬圏域	26	1	1	7	11	4	2	2	15
光が丘圏域	31	-	1	14	9	6	1	1	15
石神井圏域	38	1	1	19	12	1	4	2	13
大泉圏域	26	-	1	9	10	3	3	1	13

ウ. (看護) 小規模多機能型居宅介護の対応状況

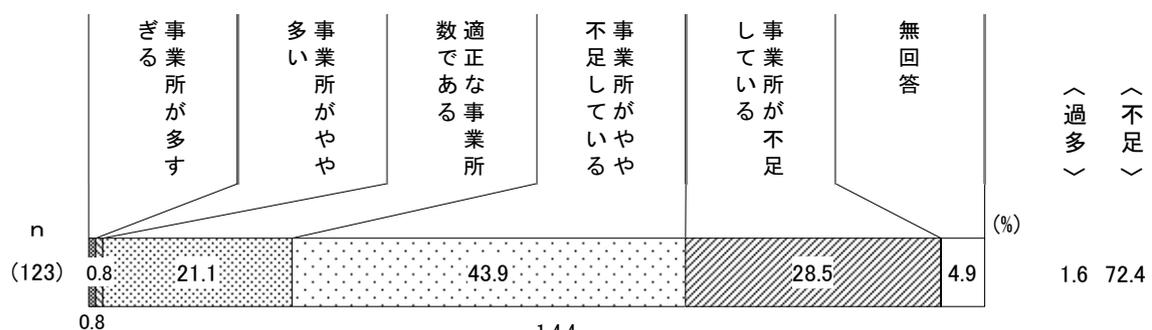
○「利用者からの問い合わせがあった場合は、(看護) 小規模多機能型居宅介護事業所に連絡を取り、利用者を紹介している」(44.7%) が最も高く、次いで「利用者からの問い合わせがあった場合は、(看護) 小規模多機能型居宅介護事業所の連絡先の紹介を行っている」(15.4%)の順となっている。「特に具体的な対応はしていない」は14.6%となっている。



③定期巡回・随時対応型訪問介護看護

ア. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の需給バランス

- “不足”が7割超で“過多”を大きく上回っている。
- 「適正な事業所数である」は21.1%となっている。



[定期巡回・随時対応型訪問介護看護の需給バランス <圏域別>]

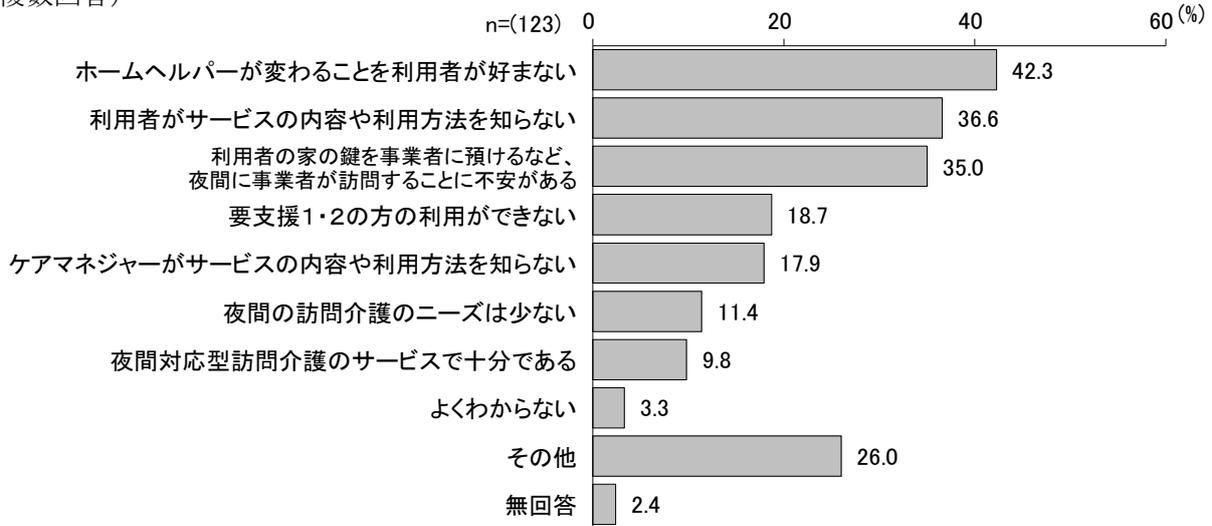
○圏域別にみると、いずれの圏域でも“不足”が「適正な事業所数である」を上回っている。

	n	(件)						過多	不足
		ぎ事業所が多すぎる	多い事業所がやや	適正な事業所数である	不足している事業所がやや	不足している事業所が不足	無回答		
全体	123	1	1	26	54	35	6	2	89
練馬圏域	26	1	-	5	9	10	1	1	19
光が丘圏域	31	-	-	6	15	9	1	0	24
石神井圏域	38	-	1	9	18	8	2	1	26
大泉圏域	26	-	-	5	12	7	2	0	19

イ. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の課題

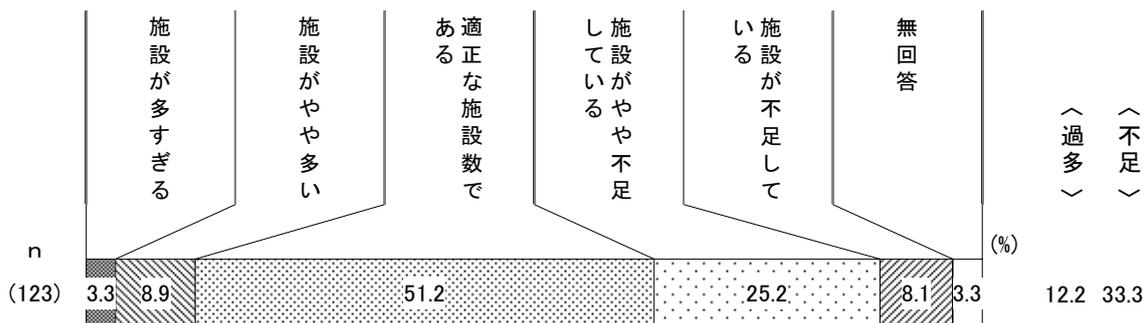
○「ホームヘルパーが変わることを利用者が好まない」(42.3%) が最も高く、次いで「利用者がサービスの内容や利用方法を知らない」(36.6%)、「利用者の家の鍵を事業者に預けるなど、夜間に事業者が訪問することに不安がある」(35.0%) の順となっている。

(複数回答)



④認知症高齢者グループホームの需給バランス

○「適正な施設数である」が51.2%で最も高くなっている。



[認知症高齢者グループホームの需給バランス <圏域別>]

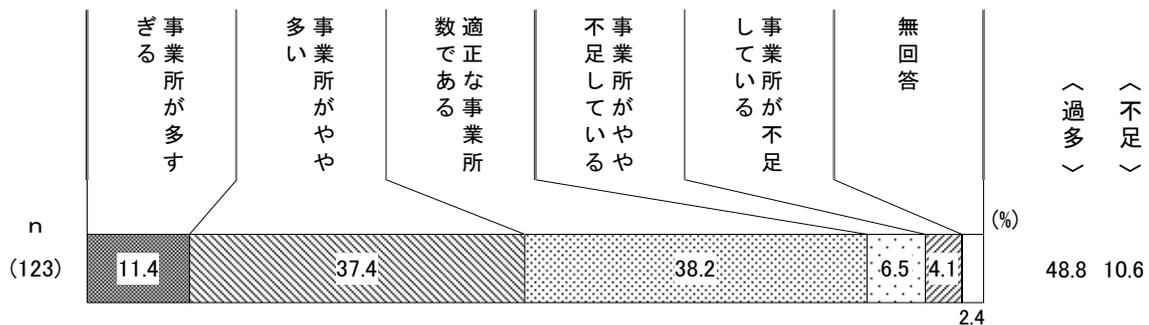
○圏域別にみると、『練馬圏域』で“不足”が「適正な施設数である」を上回っている。

	n	(件)						過多	不足
		る施設が多すぎ	い施設がやや多	で適正な施設数	足施設がやや不	て施設が不足し	無回答		
全体	123	4	11	63	31	10	4	15	41
練馬圏域	26	1	6	9	6	4	-	7	10
光が丘圏域	31	1	1	21	4	4	-	2	8
石神井圏域	38	2	1	17	15	1	2	3	16
大泉圏域	26	-	3	15	5	1	2	3	6

⑤訪問看護ステーションの需給バランス

○「適正な事業所数である」(38.2%)が最も高く、次いで「事業所がやや多い」(37.4%)となっている。

○“過多”が半数近くで“不足”を上回っている。



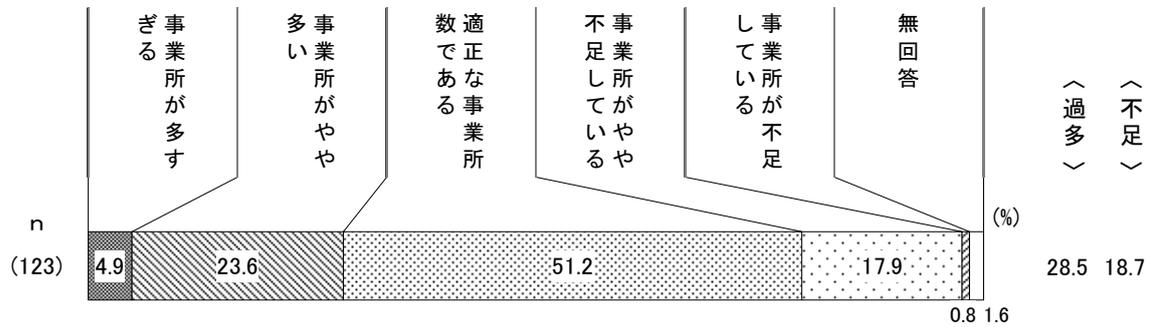
[訪問看護ステーションの需給バランス <圏域別>]

○圏域別にみると、『練馬圏域』、『光が丘圏域』、『石神井圏域』で“過多”が「適正な事業所数である」を上回っている。

	n	(件)						過多	不足
		ぎ事業所が多すぎ	多い事業所がやや	数適正な事業所	不足事業所がやや	し事業所が不足	無回答		
全体	123	14	46	47	8	5	3	60	13
練馬圏域	26	5	11	8	-	2	-	16	2
光が丘圏域	31	1	15	13	1	1	-	16	2
石神井圏域	38	6	12	13	5	-	2	18	5
大泉圏域	26	1	8	12	2	2	1	9	4

⑥通所介護の需給バランス

- 「適正な事業所数である」が51.2%で最も高くなっている。
- “過多”が3割近くで“不足”を上回っている。



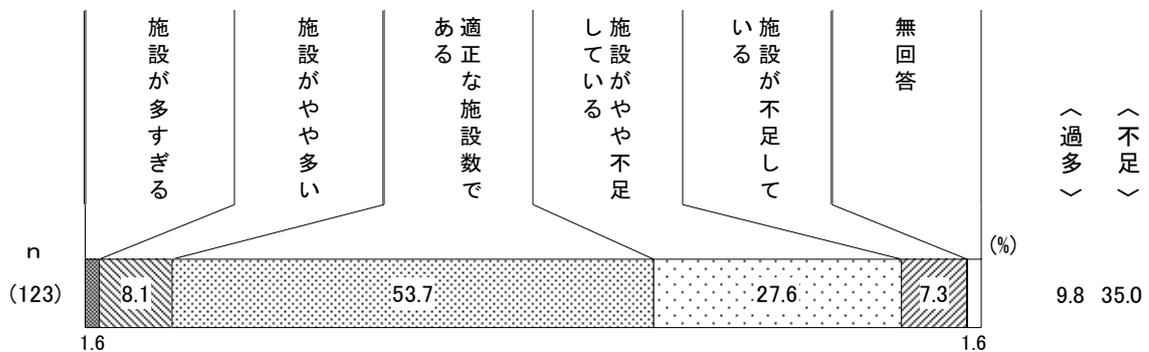
[通所介護の需給バランス <圏域別>]

- 圏域別にみると、『練馬圏域』で「適正な事業所数である」と“過多”が同数となっている。

	n	(件)					過多	不足	
		事業所が多すぎる	事業所がやや多い	適正な事業所数である	事業所がやや不足している	無回答			
全体	123	6	29	63	22	1	2	35	23
練馬圏域	26	1	9	10	5	1	-	10	6
光が丘圏域	31	1	7	20	3	-	-	8	3
石神井圏域	38	4	8	15	10	-	1	12	10
大泉圏域	26	-	5	16	4	-	1	5	4

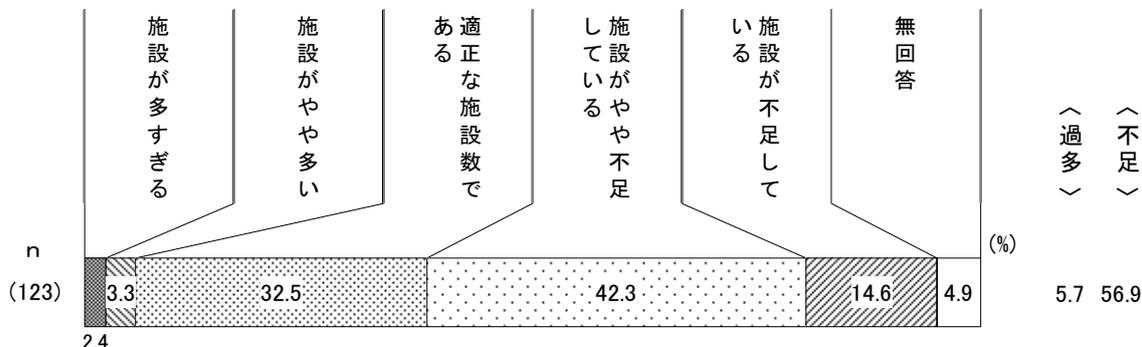
⑦ショートステイの需給バランス

- 「適正な施設数である」が53.7%で最も高くなっている。
- “不足”が3割半ばで“過多”を上回っている。



⑧都市型軽費老人ホームの需給バランス

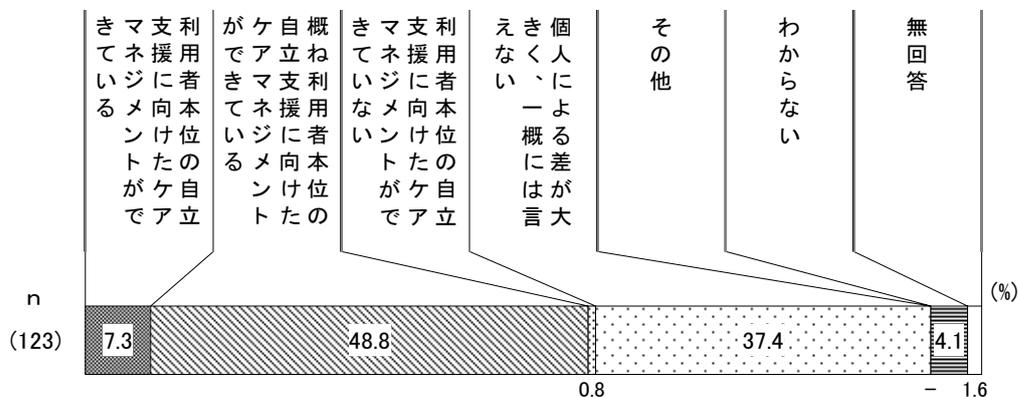
- 「施設がやや不足している」が42.3%で最も高くなっている。
- “不足”が5割半ばで“過多”を大きく上回っている。
- 「適正な施設数である」は32.5%となっている。



⑨ケアマネジャーの質の向上

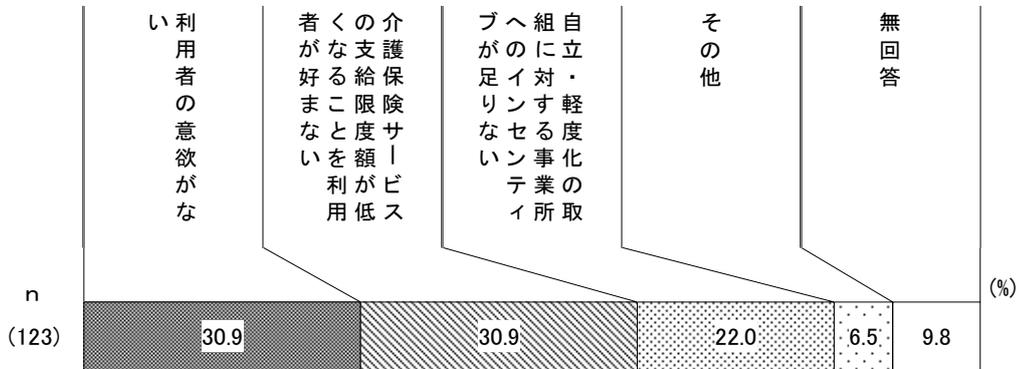
ア. 区内のケアマネジャーの質についての感じ方

- 「概ね利用者本位の自立支援に向けたケアマネジメントができています」(48.8%)が最も高く、次いで「個人による差が大きく、一概には言えない」(37.4%)の順となっている。
- 「利用者本位の自立支援に向けたケアマネジメントができています」は1割未満となっている。



イ. 自立・軽度化に向けた課題

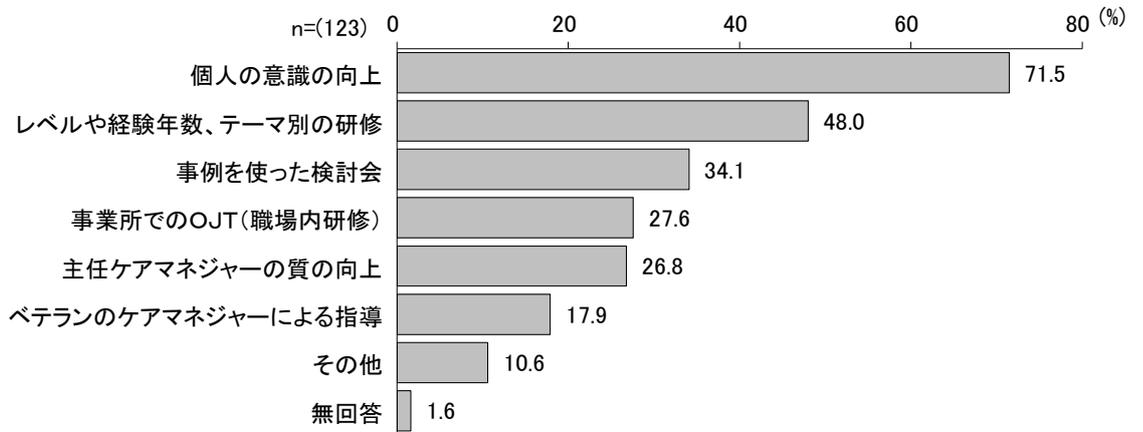
- 「利用者の意欲がない」と「介護保険サービスの支給限度額が低くなることを利用者が好まない」がともに30.9%、「自立・軽度化の取組に対する事業所へのインセンティブが足りない」が22.0%となっている。



ウ. ケアマネジャーの質の向上を図るために必要なこと

- 「個人の意識の向上」(71.5%) が最も高く、次いで「レベルや経験年数、テーマ別の研修」(48.0%)、「事例を使った検討会」(34.1%) の順となっている。

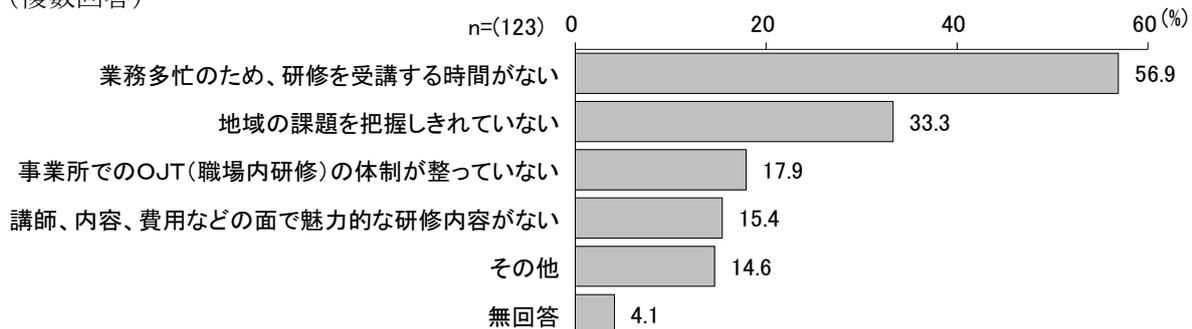
(複数回答)



エ. ケアマネジャーの質の向上における課題

- 「業務多忙のため、研修を受講する時間がない」(56.9%) が最も高く、次いで「地域の課題を把握しきれていない」(33.3%) の順となっている。

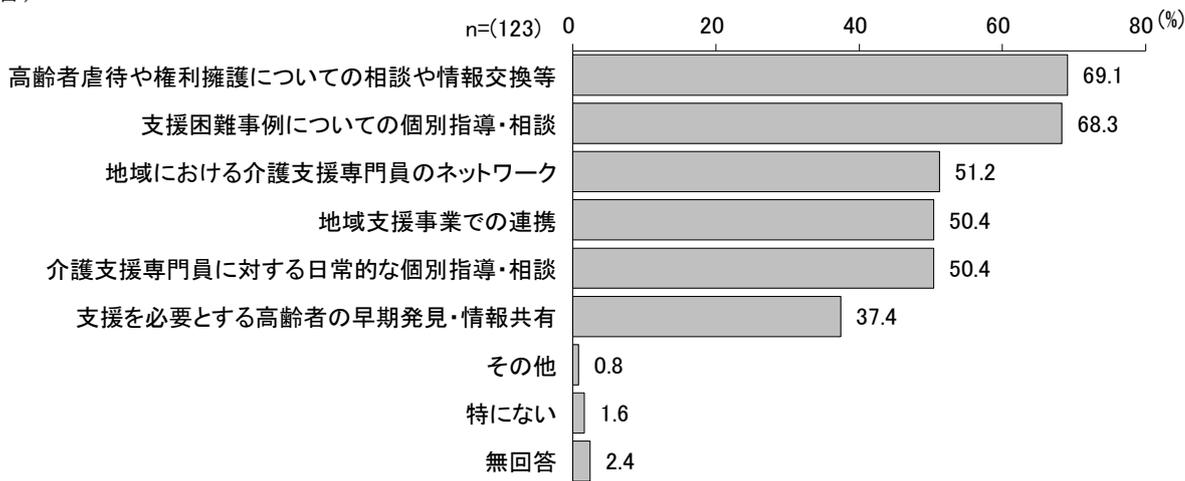
(複数回答)



⑩地域包括支援センターとの連携内容

- 「高齢者虐待や権利擁護についての相談や情報交換等」(69.1%)が最も高く、次いで「支援困難事例についての個別指導・相談」(68.3%)、「地域における介護支援専門員のネットワーク」(51.2%)、「地域支援事業での連携」、「介護支援専門員に対する日常的な個別指導・相談」(ともに50.4%)の順となっている。

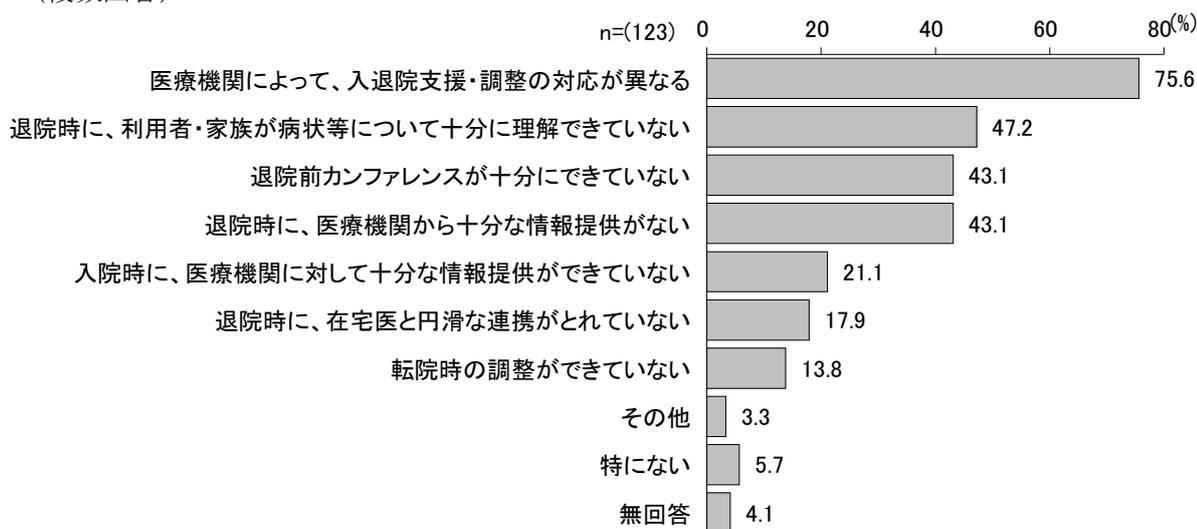
(複数回答)



⑪医療機関との入退院支援・調整における課題

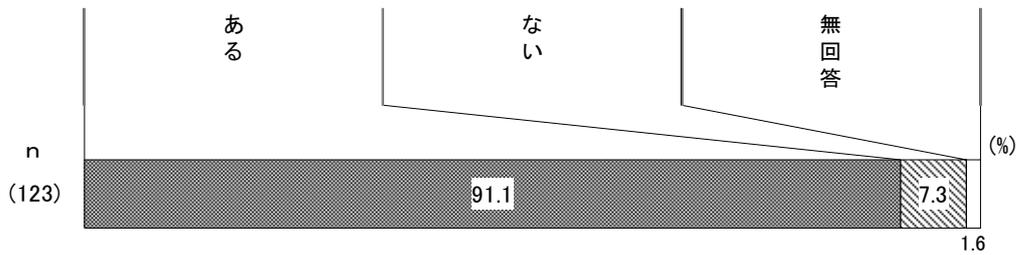
- 「医療機関によって、入退院支援・調整の対応が異なる」(75.6%)が最も高く、次いで「退院時に、利用者・家族が病状等について十分に理解できていない」(47.2%)、「退院前カンファレンスが十分にできていない」、「退院時に、医療機関から十分な情報提供がない」(ともに43.1%)の順となっている。

(複数回答)



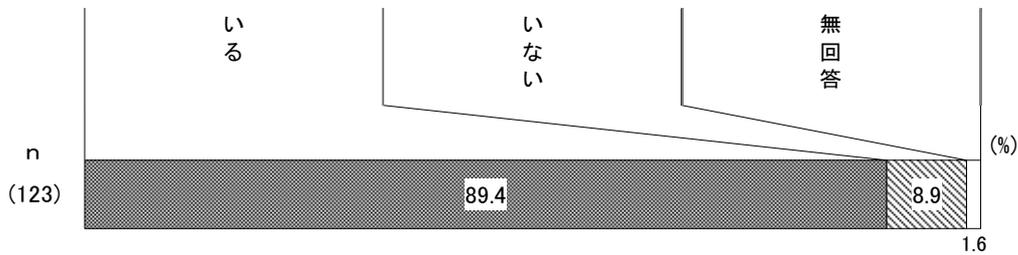
⑫在宅看取りの経験

○在宅看取りの経験が「ある」が9割超となっている。



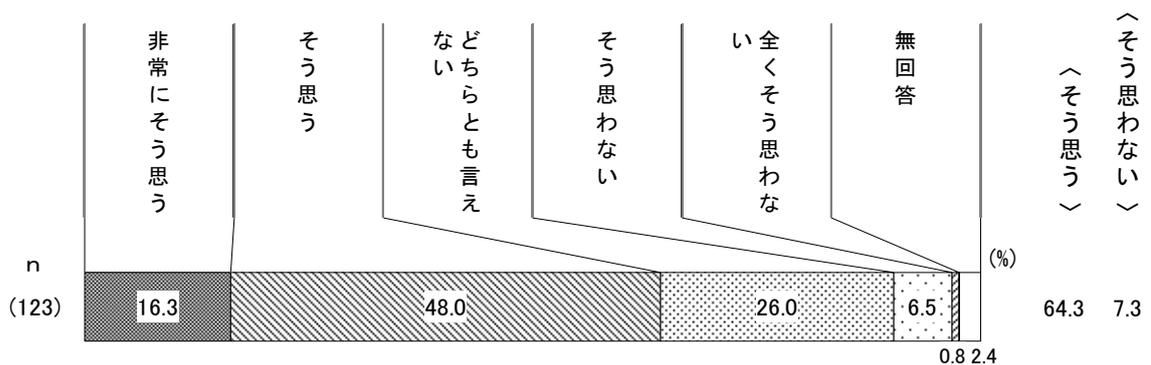
⑬在宅看取りで連携できる複数医師の有無

○在宅看取りで連携できる医師が複数「いる」が約9割となっている。



⑭在宅看取りの増加見込み

○在宅看取りを今後増やせるか見込みを聞いたところ、“そう思う”（「非常にそう思う」と「そう思う」の合計）が6割半ばで、“そう思わない”（「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計）を大きく上回っている。

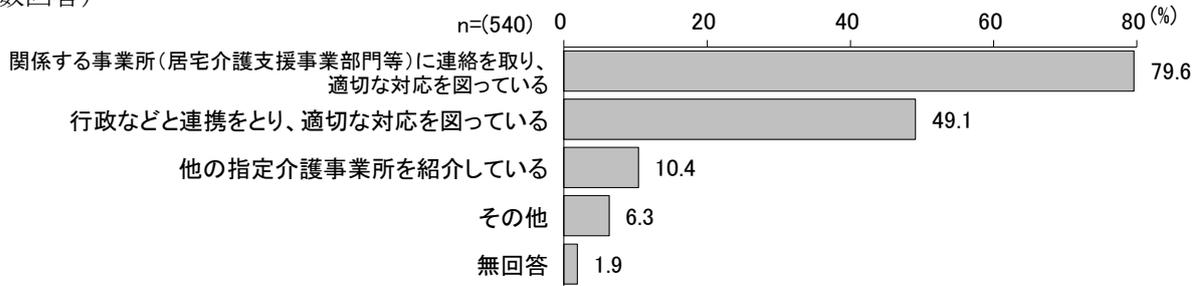


(3) 苦情対応

①サービス提供困難時の対応

- 「関係する事業所（居宅介護支援事業部門等）に連絡を取り、適切な対応を図っている」（79.6%）が最も高く、次いで「行政などと連携をとり、適切な対応を図っている」（49.1%）の順となっている。

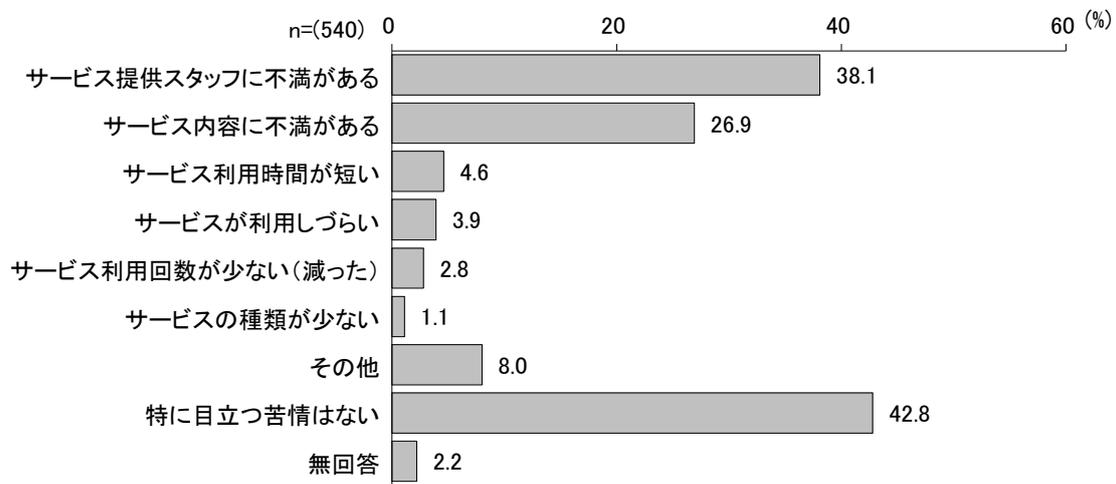
（複数回答）



②利用者からの苦情内容

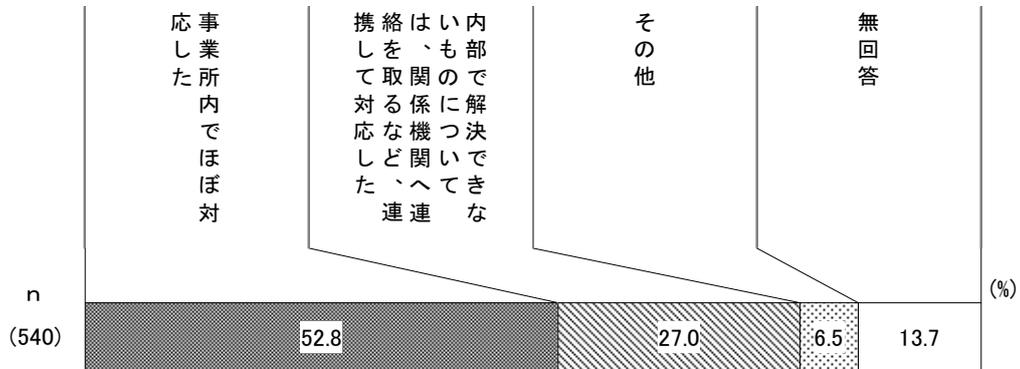
- 「サービス提供スタッフに不満がある」（38.1%）、「サービス内容に不満がある」（26.9%）が上位に挙がっている。
- 「特に目立つ苦情はない」は42.8%となっている。

（○は3つまで）



③寄せられた苦情の対応方法

- 「事業所内でほぼ対応した」が52.8%、「内部で解決できないものについては、関係機関へ連絡を取るなど、連携して対応した」が27.0%となっている。

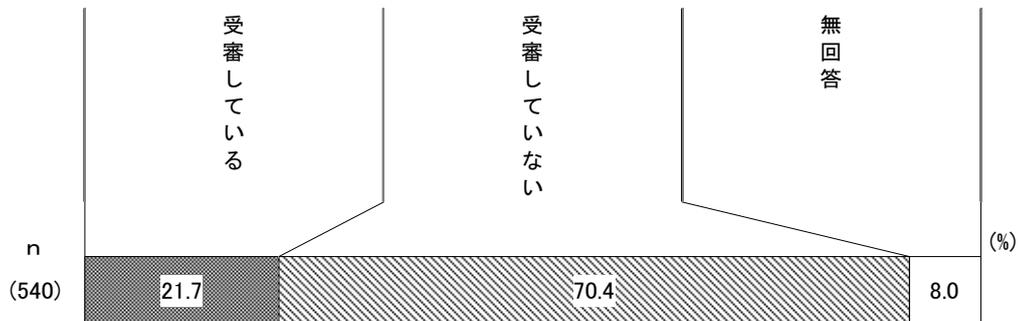


(4) サービスの質の向上

①第三者評価の受審状況と受審した評価方式

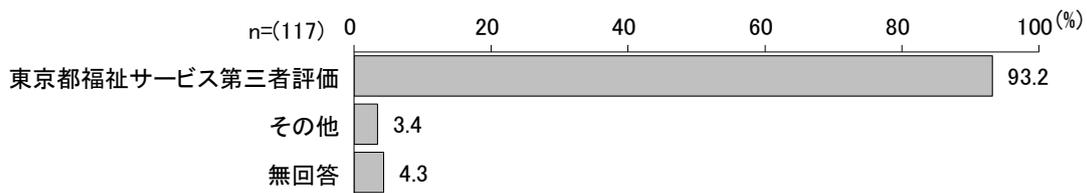
- 「受審している」が21.7%、「受審していない」が70.4%となっている。
- 「受審している」と回答した事業所の受審した評価方式は、「東京都福祉サービス第三者評価」が93.2%となっている。

ア. 受審状況



イ. 受審方式

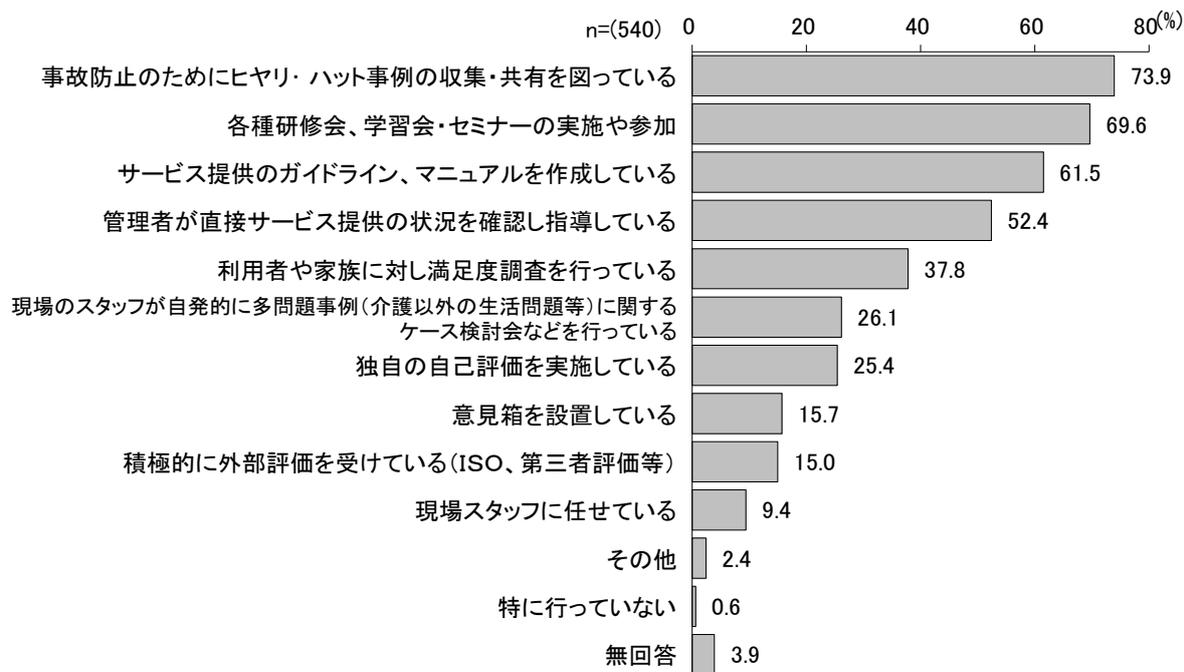
(複数回答)



②サービスの質の向上のための取組内容

- 「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」(73.9%)が最も高く、次いで「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」(69.6%)、「サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している」(61.5%)、「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」(52.4%)の順となっている。

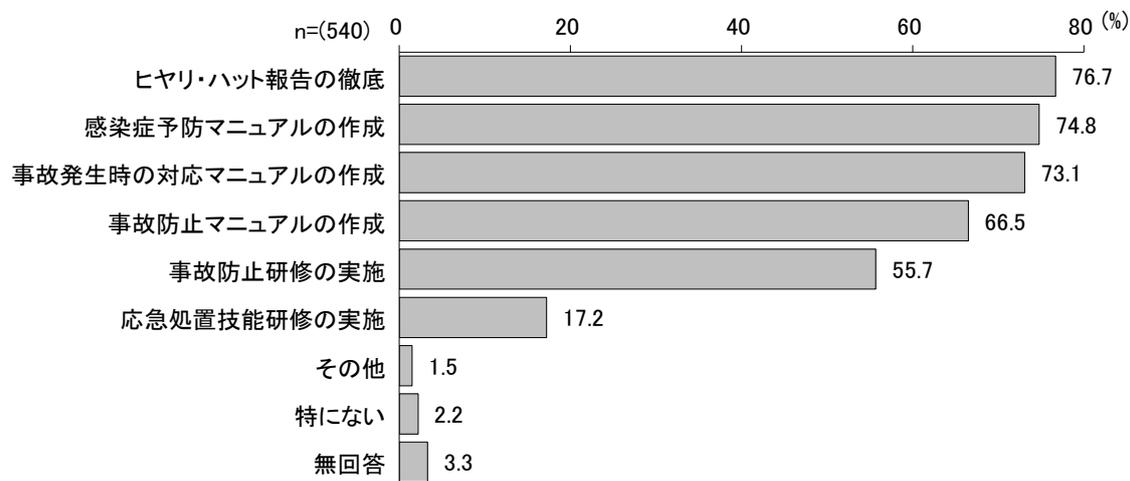
(複数回答)



③事故防止のための取組内容

- 「ヒヤリ・ハット報告の徹底」(76.7%)が最も高く、次いで「感染症予防マニュアルの作成」(74.8%)、「事故発生時の対応マニュアルの作成」(73.1%)の順となっている。

(複数回答)

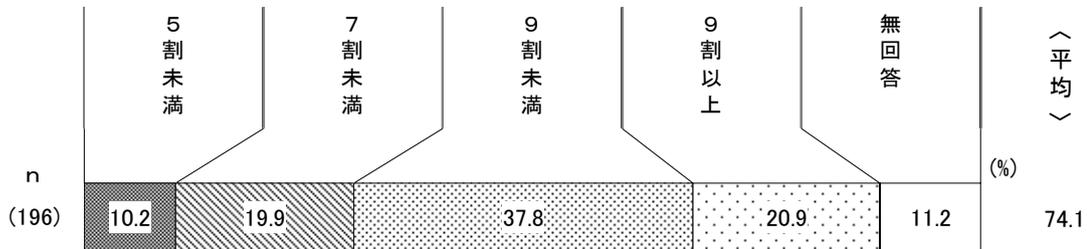


(5) 事業所の運営

①稼働状況

○稼働状況は、「9割未満」が37.8%、「9割以上」が20.9%、「7割未満」が19.9%となっている。

○平均は74.1%となっている。



※「通所介護（総合事業含む）」「（介護予防）通所リハビリテーション」「（介護予防）短期入所生活介護」「（介護予防）短期入所療養介護」「（介護予防）特定施設入居者生活介護」「（介護予防）認知症対応型通所介護」「地域密着型通所介護」「（介護予防）小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」「（介護予防）認知症高齢者グループホーム」「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」「介護療養型医療施設（介護医療院を含む）」を対象に集計した

[稼働状況 <サービス種別>]

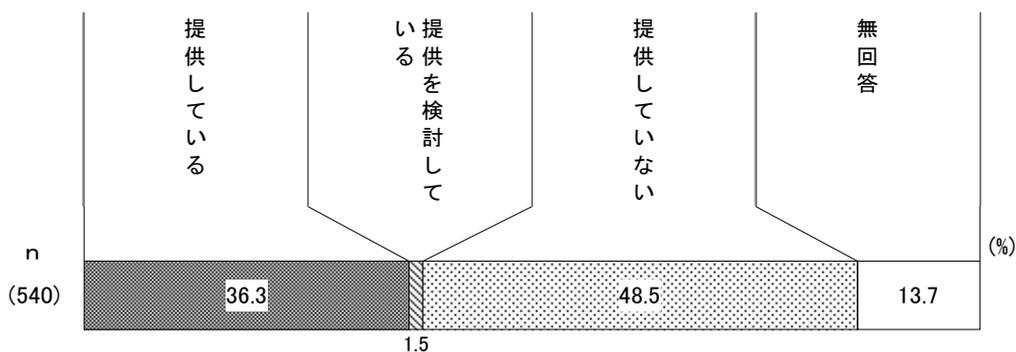
○サービス種別にみると、『入所系』、『居住系』では、平均が8割以上となっている。

	n	5割未満	7割未満	9割未満	9割以上	無回答	平均 (%)
全体	196	10.2	19.9	37.8	20.9	11.2	74.1
通所系	125	13.6	26.4	43.2	8.8	8.0	67.0
入所系	35	5.7	11.4	25.7	45.7	11.4	81.8
居住系	36	2.8	5.6	30.6	38.9	22.2	87.3

②介護保険外サービスの提供状況

ア. 提供状況

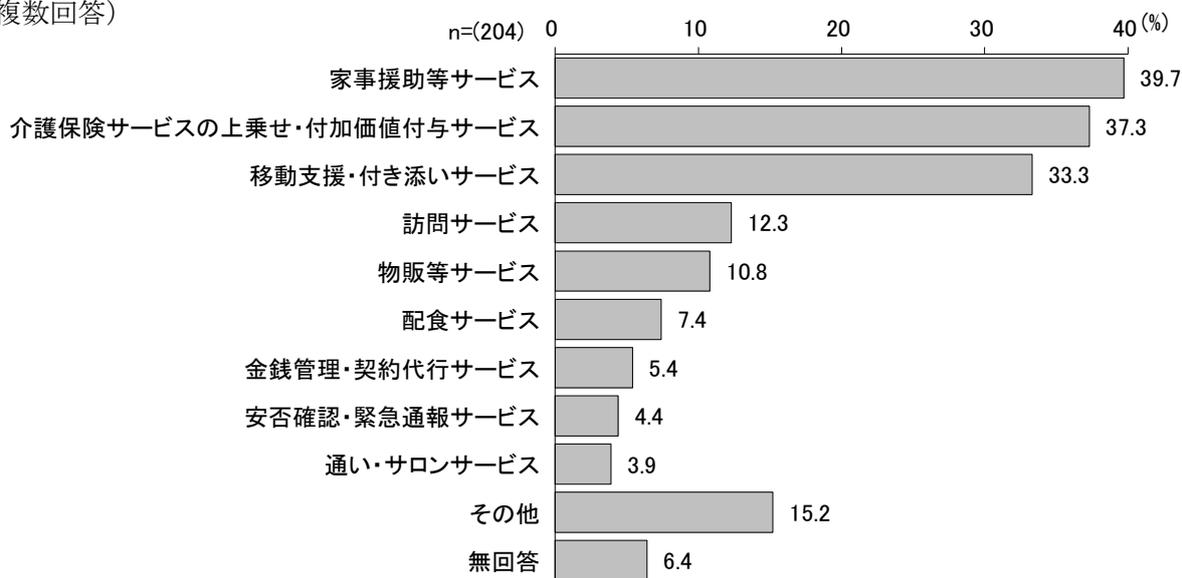
○「提供していない」が48.5%、「提供している」が36.3%、「提供を検討している」が1.5%となっている。



イ. 提供または提供を検討しているサービス

○介護保険外サービスを「提供している」、「提供を検討している」と回答した事業所が提供または提供を検討しているサービスは、「家事援助等サービス」(39.7%)が最も高く、次いで「介護保険サービスの上乗せ・付加価値付与サービス」(37.3%)、「移動支援・付き添いサービス」(33.3%)の順となっている。

(複数回答)

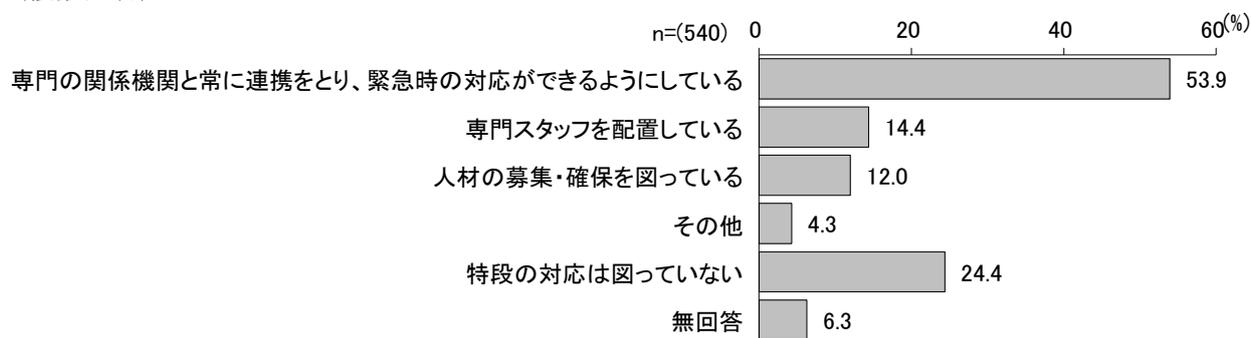


③要医療、認知症、障害等を有する利用者への対応

○「専門の関係機関と常に連携をとり、緊急時の対応ができるようにしている」(53.9%)が最も高くなっている。

○「特段の対応は図っていない」は24.4%となっている。

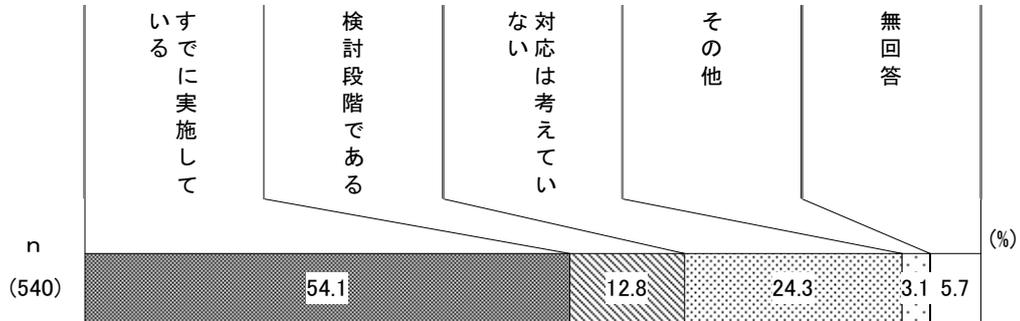
(複数回答)



④事業所におけるターミナルケアへの対応

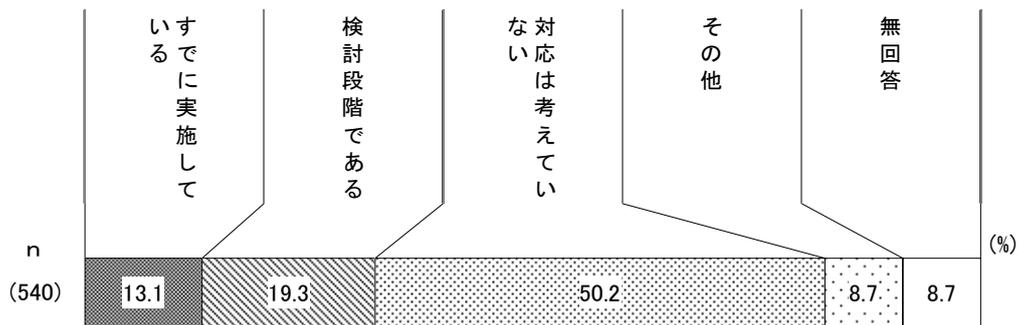
ア. ターミナルケアへの対応状況

- 「すでに実施している」は54.1%、「検討段階である」は12.8%となっている。
- 「対応は考えていない」は24.3%となっている。



イ. 介護職員によるたん吸引等の医療的ケアへの対応状況

- 「すでに実施している」は13.1%、「検討段階である」は19.3%となっている。
- 「対応は考えていない」は50.2%となっている。

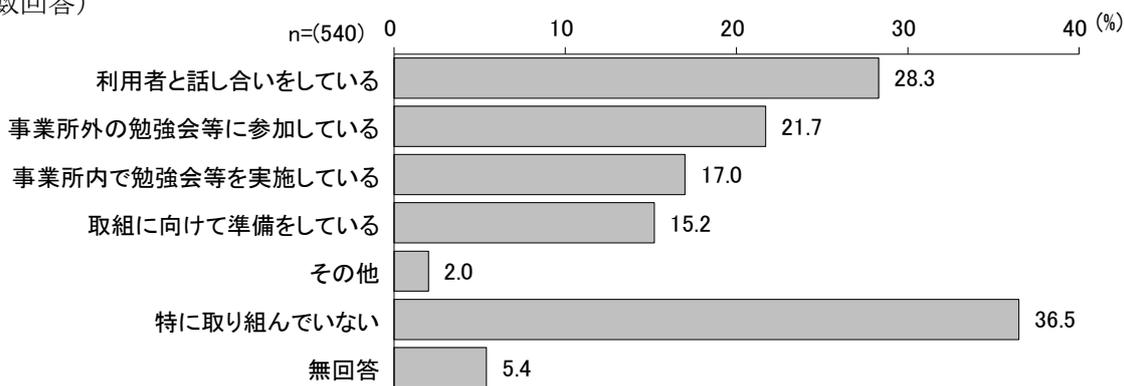


⑤ ACPへの対応内容

- ACP※ への対応内容としては、「利用者との話し合いをしている」(28.3%)、「事業所外の勉強会等に参加している」(21.7%)が上位に挙がっている。
- 「特に取り組んでいない」は36.5%となっている。

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）：自らが望む人生の最終段階の医療・介護について、前もって考え、家族や医療・介護スタッフ等と繰り返し話し合い共有すること。

(複数回答)

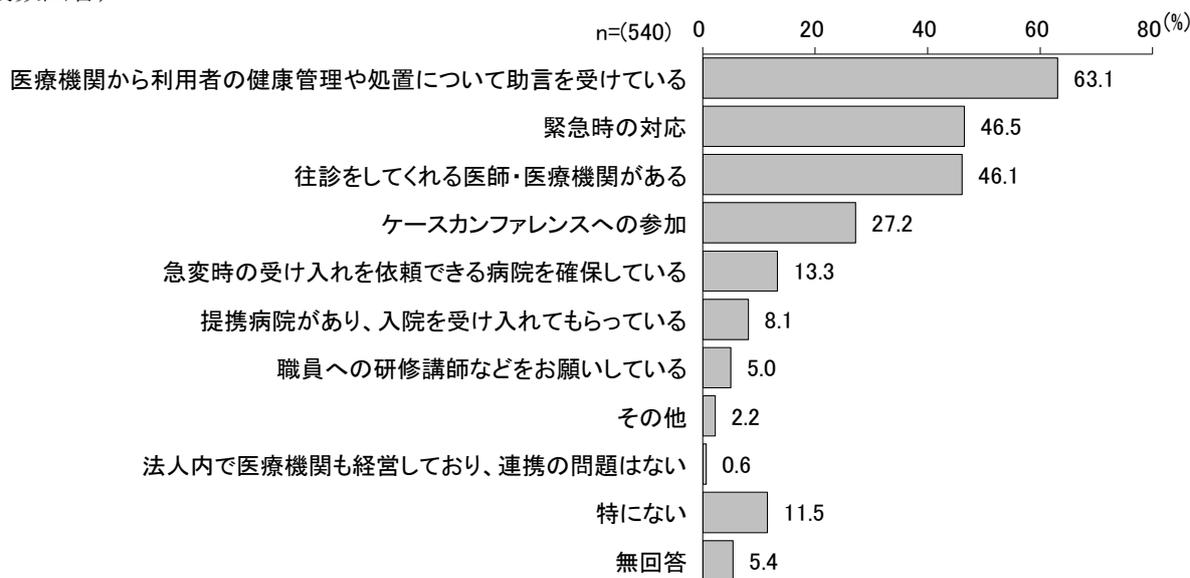


⑥ 医療機関との連携

ア. 医療機関との連携で取り組んでいること

- 「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」(63.1%)が最も高く、次いで「緊急時の対応」(46.5%)、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」(46.1%)の順となっている。

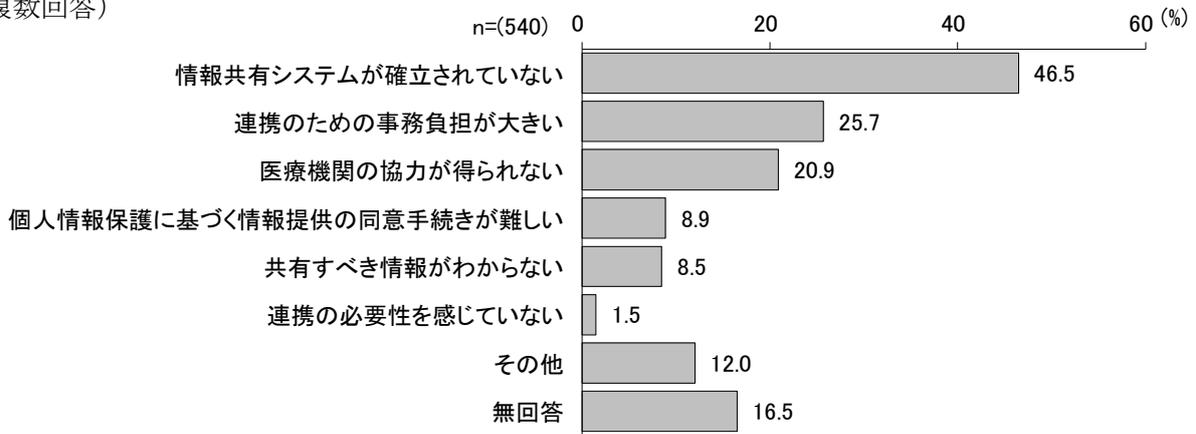
(複数回答)



イ. 医療機関との連携を進める上での課題

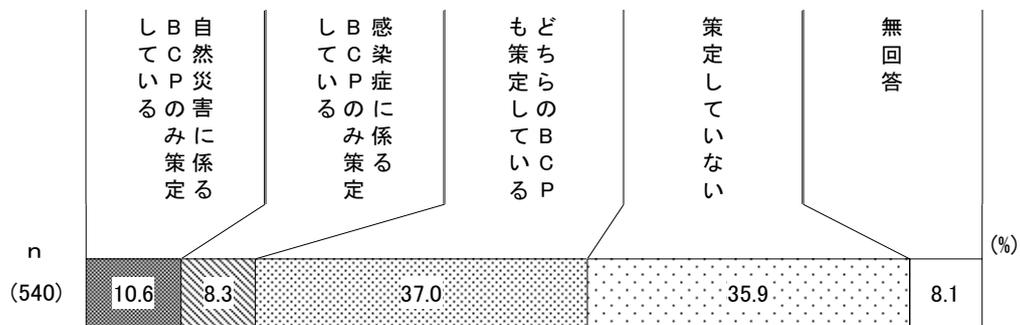
- 「情報共有システムが確立されていない」(46.5%)が最も高く、次いで「連携のための事務負担が大きい」(25.7%)、「医療機関の協力が得られない」(20.9%)の順となっている。
- 「連携の必要性を感じていない」は1.5%となっている。

(複数回答)



⑦BCPの策定状況

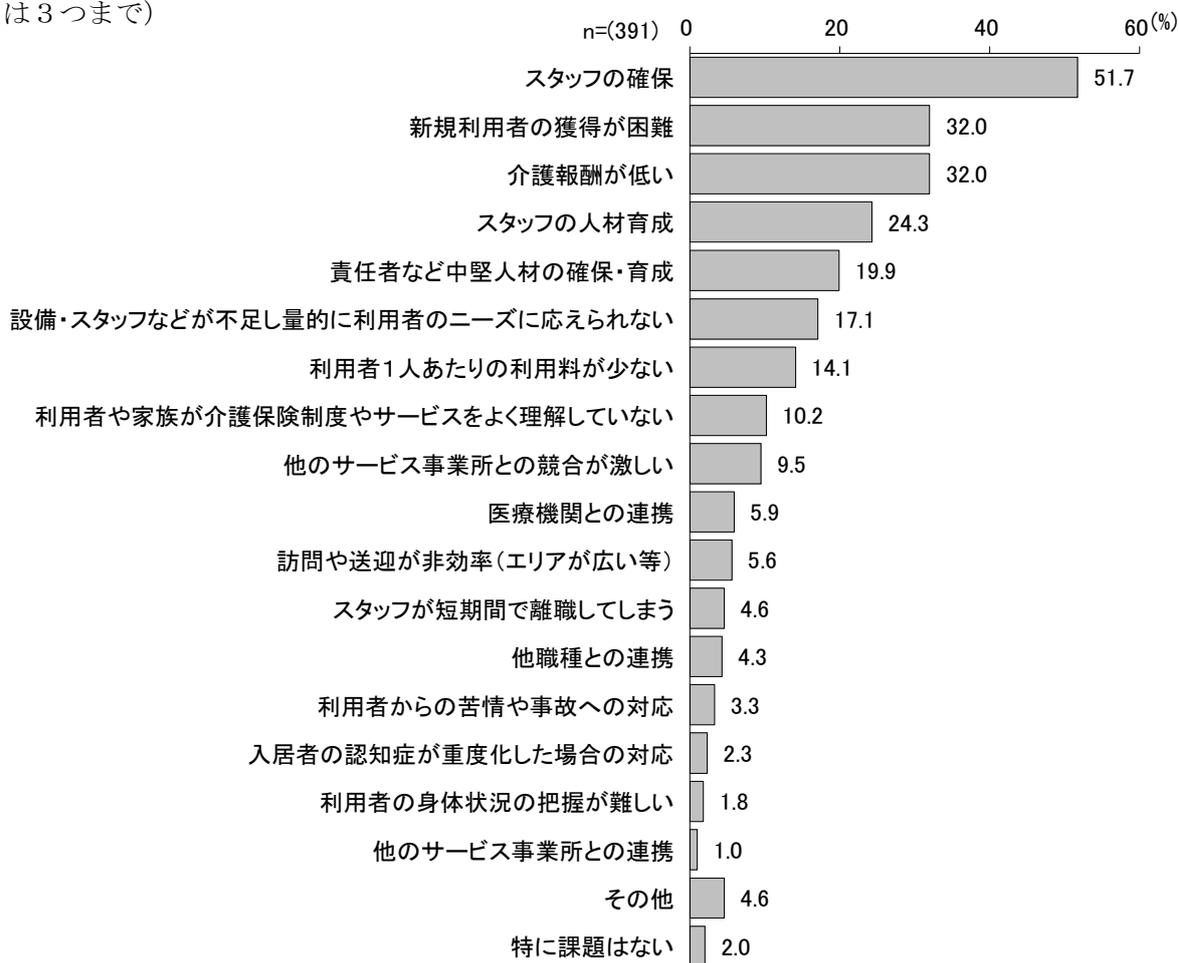
- 自然災害および感染症に関する事業継続計画（BCP）の策定状況は、「自然災害に係るBCPのみ策定している」が10.6%、「感染症に係るBCPのみ策定している」が8.3%、「どちらのBCPも策定している」が37.0%、「策定していない」が35.9%となっている。



⑧事業を運営する上での課題

○「スタッフの確保」(51.7%)が最も高く、次いで「新規利用者の獲得が困難」、「介護報酬が低い」(ともに32.0%)、「スタッフの人材育成」(24.3%)の順となっている。

(○は3つまで)



※無回答を除いて集計

〔事業を運営する上での課題 <サービス種別> 〕

○サービス種別にみると、『訪問系』、『居住系』は「スタッフの確保」が6割半ばで全体と比べて高くなっている。

(○は3つまで)

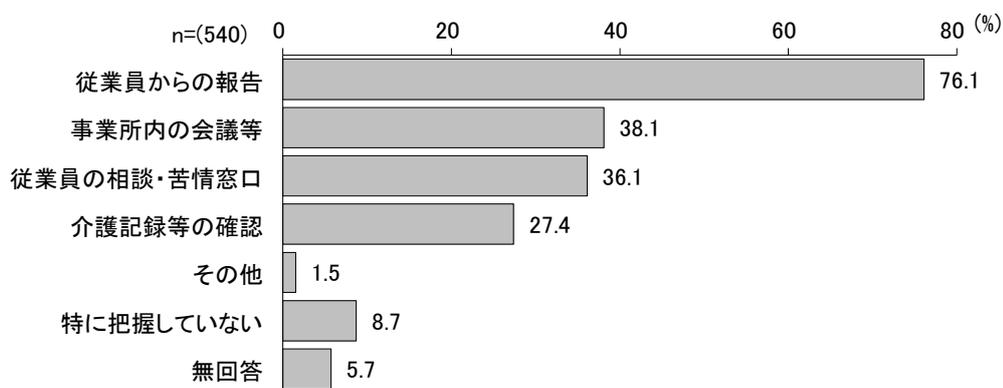
	(%)						
	全体	居宅介護支援	訪問系	通所系	入所系	居住系	福祉用具
n	391	95	122	84	25	21	16
スタッフの確保	51.7	36.8	64.8	42.9	48.0	66.7	43.8
新規利用者の獲得が困難	32.0	16.8	22.1	47.6	48.0	61.9	56.3
介護報酬が低い	32.0	48.4	20.5	44.0	28.0	4.8	12.5
スタッフの人材育成	24.3	13.7	21.3	28.6	32.0	47.6	25.0
責任者など中堅人材の確保・育成	19.9	9.5	24.6	21.4	16.0	28.6	6.3
設備・スタッフなどが不足し量的に利用者のニーズに応えられない	17.1	7.4	28.7	14.3	16.0	19.0	12.5
利用者1人あたりの利用料が少ない	14.1	12.6	15.6	17.9	24.0	-	18.8
利用者や家族が介護保険制度やサービスをよく理解していない	10.2	16.8	12.3	2.4	8.0	4.8	6.3
他のサービス事業所との競合が激しい	9.5	2.1	5.7	16.7	16.0	23.8	25.0
医療機関との連携	5.9	13.7	2.5	4.8	4.0	4.8	6.3
訪問や送迎が非効率(エリアが広い等)	5.6	3.2	5.7	11.9	4.0	-	-
スタッフが短期間で離職してしまう	4.6	1.1	4.1	7.1	4.0	19.0	-
他職種との連携	4.3	6.3	4.9	2.4	-	-	6.3
利用者からの苦情や事故への対応	3.3	7.4	2.5	-	-	-	-
入居者の認知症が重度化した場合の対応	2.3	2.1	2.5	1.2	8.0	4.8	-
利用者の身体状況の把握が難しい	1.8	2.1	1.6	1.2	8.0	-	-
他のサービス事業所との連携	1.0	2.1	-	1.2	-	-	6.3
その他	4.6	7.4	4.1	1.2	4.0	4.8	6.3
特に課題はない	2.0	4.2	1.6	-	-	-	6.3

⑨従業員に対する利用者・家族等からのハラスメントに対する対応

ア. ハラスメントを把握する手段

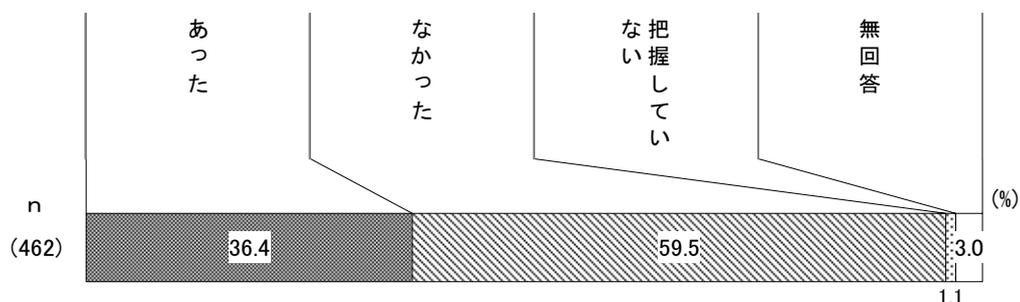
- 「従業員からの報告」(76.1%)が最も高く、次いで「事業所内の会議等」(38.1%)、「従業員の相談・苦情窓口」(36.1%)の順となっている。
- 「特に把握していない」は8.7%となっている。

(複数回答)



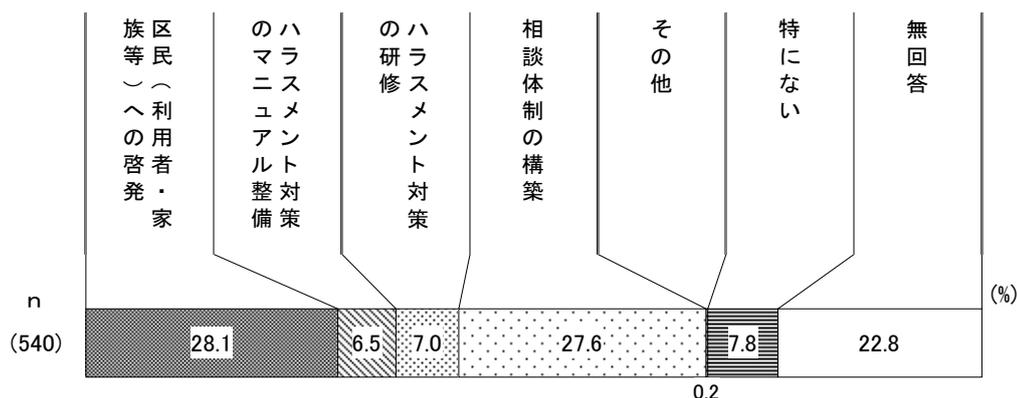
イ. 過去1年間のハラスメント相談・報告の有無

- 利用者・家族等からのハラスメントについて把握していると回答した事業所では、過去1年間に従業員等からハラスメントの相談・報告が「あった」は36.4%、「なかった」は59.5%となっている。
- 「把握していない」は1.1%となっている。



ウ. ハラスメント対応で期待する区の支援

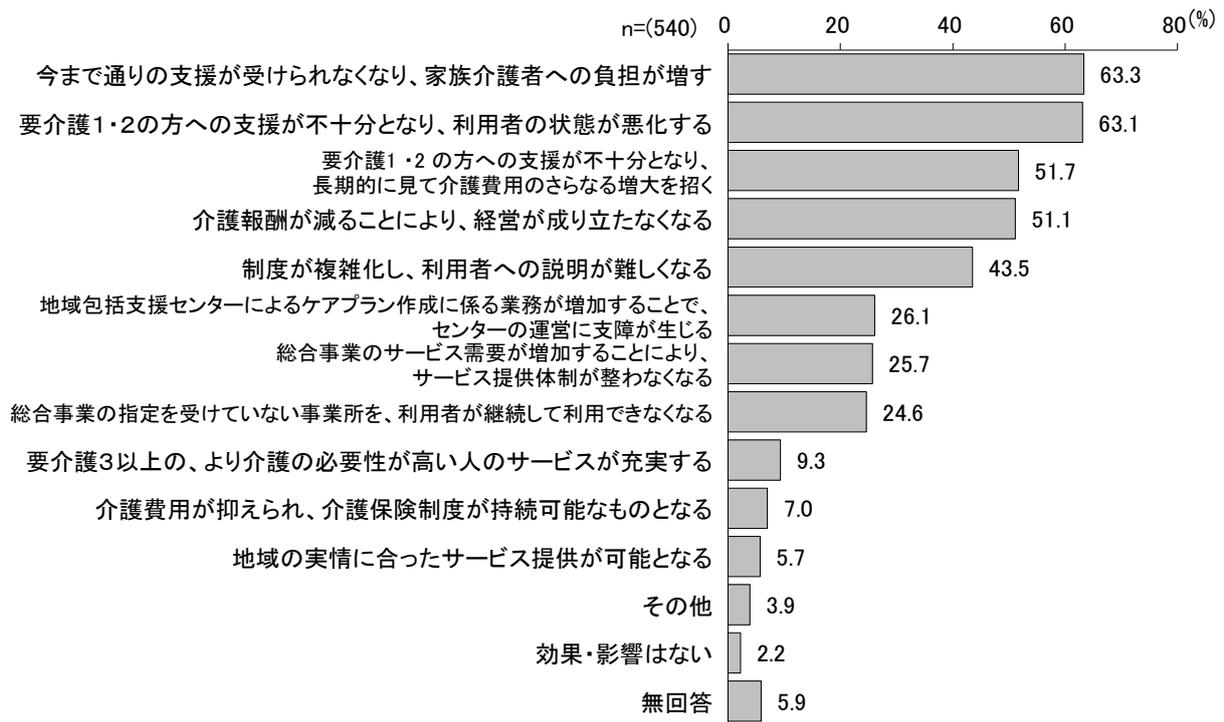
- 「区民(利用者・家族等)への啓発」(28.1%)が最も高く、次いで「相談体制の構築」(27.6%)の順となっている。



(6) 要介護1・2の者の生活援助サービス等の地域支援事業への移行の効果・影響

○要介護1・2の者の訪問介護、通所介護サービスが地域支援事業に移行された場合、どのような効果・影響があるか聞いたところ、「今まで通りの支援が受けられなくなり、家族介護者への負担が増す」(63.3%)が最も高く、次いで「要介護1・2の方への支援が不十分となり、利用者の状態が悪化する」(63.1%)、「要介護1・2の方への支援が不十分となり、長期的に見て介護費用のさらなる増大を招く」(51.7%)、「介護報酬が減ることにより、経営が成り立たなくなる」(51.1%)、「制度が複雑化し、利用者への説明が難しくなる」(43.5%)の順となっている。

(複数回答)



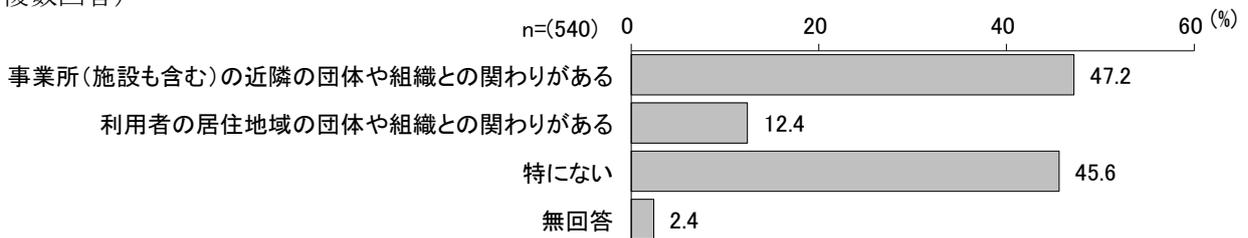
(7) 地域との関わり

①地域の各種団体や組織との関わり

ア. 地域の各種団体や組織との関わりの有無

- 「事業所(施設も含む)の近隣の団体や組織との関わりがある」が47.2%、「利用者の居住地の団体や組織との関わりがある」が12.4%となっている。
- 「特にない」は45.6%となっている。

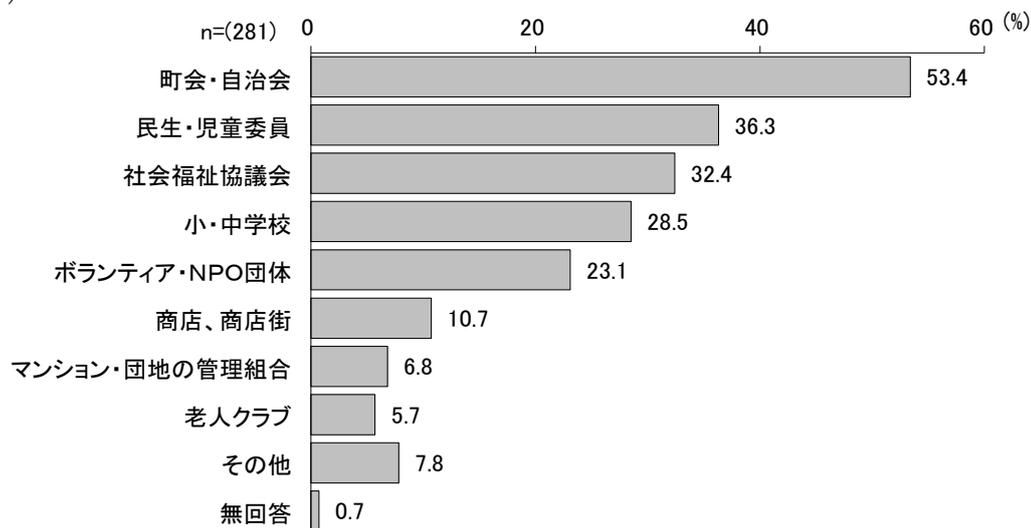
(複数回答)



イ. 関わりがある地域の各種団体や組織

○地域の各種団体や組織との関わりがあると回答した事業所の関わりがある各種団体・組織は、「町会・自治会」(53.4%)が最も高く、次いで「民生・児童委員」(36.3%)、「社会福祉協議会」(32.4%)、「小・中学校」(28.5%)、「ボランティア・NPO団体」(23.1%)の順となっている。

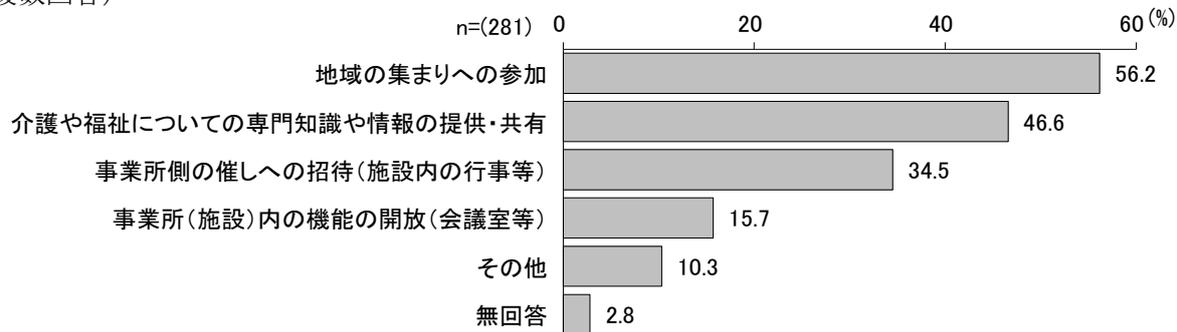
(複数回答)



ウ. 地域の各種団体や組織との関わりの内容

○地域の各種団体や組織との関わりがあると回答した事業所の関わりの内容は、「地域の集まりへの参加」(56.2%)が最も高く、次いで「介護や福祉についての専門知識や情報の提供・共有」(46.6%)、「事業所側の催しへの招待(施設内の行事等)」(34.5%)の順となっている。

(複数回答)



②ボランティアの受け入れ状況

ア. ボランティアの人数

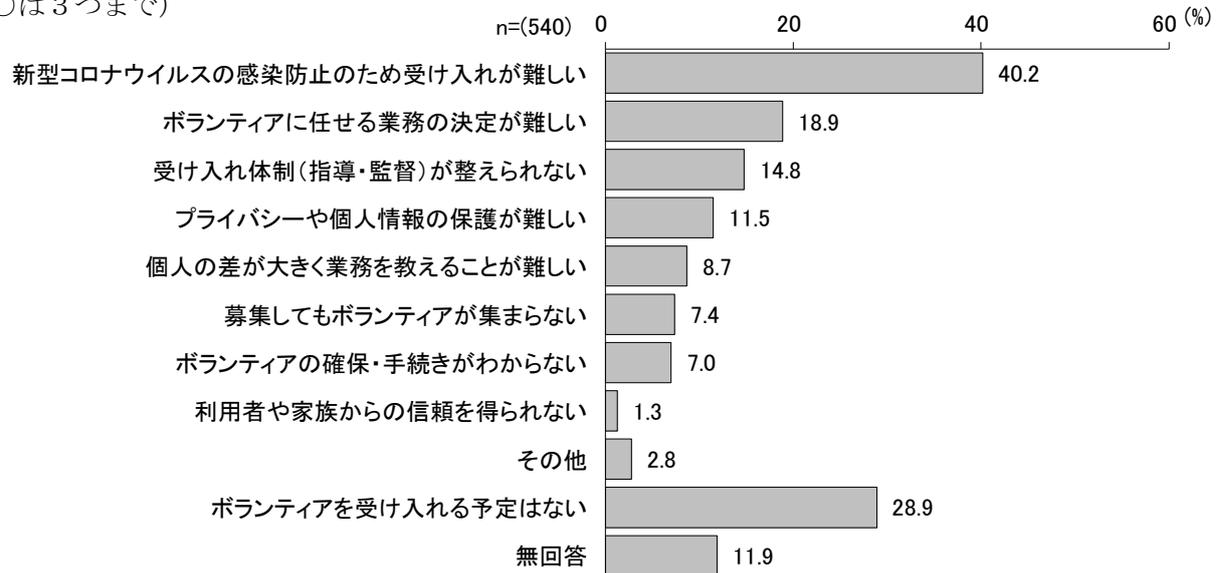
- ボランティアの人数は、区全体で約200人、そのうち高齢者のボランティアは約100人となっている。
- 『通所系』では、他のサービス種別と比べて受け入れているボランティアの人数が多くなっている。

	n	ボランティア人数 (%)					実数 (人)		
		0人	5人未満	20人未満	20人以上	無回答	合計	うち高齢者	高齢者の割合 (%)
全体	540	83.9	7.0	2.0	0.2	6.9	195	112	57.4
居宅介護支援	123	90.2	-	-	-	9.8	0	0	-
訪問系	162	92.0	1.2	-	-	6.8	2	2	100.0
通所系	125	72.0	20.8	3.2	-	4.0	80	37	46.3
入所系	35	71.4	17.1	8.6	-	2.9	28	12	42.9
居住系	36	94.4	5.6	-	-	-	5	0	0.0
福祉用具	22	81.8	-	-	-	18.2	0	0	-

イ. ボランティアを受け入れる際の課題

- 「新型コロナウイルスの感染防止のため受け入れが難しい」(40.2%)が最も高く、「ボランティアに任せる業務の決定が難しい」(18.9%)、「受け入れ体制(指導・監督)が整えられない」(14.8%)、「プライバシーや個人情報の保護が難しい」(11.5%)が上位に挙げられている。
- 「ボランティアを受け入れる予定はない」は、28.9%となっている。

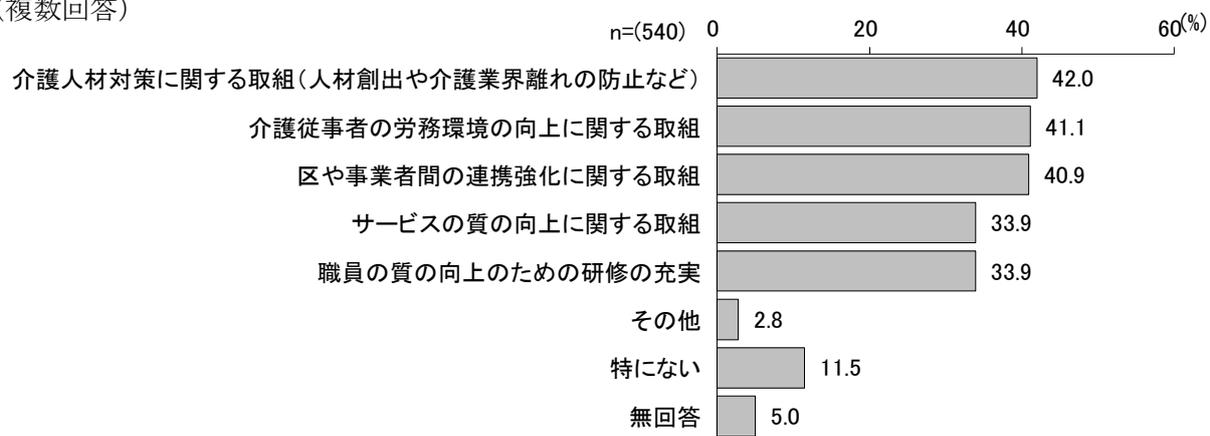
(○は3つまで)



③練馬区介護サービス事業者連絡協議会に期待すること

○「介護人材対策に関する取組（人材創出や介護業界離れの防止など）」（42.0%）が最も高く、次いで「介護従事者の労務環境の向上に関する取組」（41.1%）、「区や事業者間の連携強化に関する取組」（40.9%）の順となっている。

（複数回答）



(8) 人材の確保・育成・定着

① 1年間の採用率と離職率

- 1年間（令和3年10月1日から令和4年9月30日まで）の採用率・離職率の状況は、訪問介護員と介護職員の2職種合計では、「採用率」は20.3%、「離職率」は16.8%となっている。
- 訪問介護員は「採用率」が17.0%、「離職率」が11.9%となっている。
- 介護職員は「採用率」が22.4%、「離職率」が19.6%となっている。
- 介護支援専門員は「採用率」が20.5%、「離職率」が8.7%となっている。
- 1年間に離職した者の勤務年数をみると、訪問介護員と介護職員の2職種合計では、離職者のうち「1年未満の者」が35.9%、「1年以上3年未満の者」が30.6%、「3年以上の者」が33.5%となっている。
- 訪問介護員は「1年未満の者」が21.9%、「1年以上3年未満の者」が24.0%、「3年以上の者」が54.1%となっている。
- 介護職員は「1年未満の者」が40.8%、「1年以上3年未満の者」が32.9%、「3年以上の者」が26.2%となっている。
- 介護支援専門員は「1年未満の者」が38.7%、「1年以上3年未満の者」が12.9%、「3年以上の者」が48.4%となっている。

(%)

	回答事業所数	採用率	離職率	離職者の勤務年数		
				1年未満の者	1年以上3年未満の者	3年以上の者
訪問介護員	80	17.0	11.9	21.9	24.0	54.1
サービス提供責任者	14	10.0	7.8	15.0	10.0	75.0
介護職員	158	22.4	19.6	40.8	32.9	26.2
看護職員	107	31.1	19.1	39.1	29.7	31.2
生活相談員	28	14.6	10.4	36.0	36.0	28.0
PT・OT・ST等	40	21.8	14.2	37.8	31.1	31.1
介護支援専門員	77	20.5	8.7	38.7	12.9	48.4
3職種計 (訪問介護員、サービス提供責任者、介護職員)	236	19.7	16.2	35.3	30.1	34.6
2職種計 (訪問介護員、介護職員)	235	20.3	16.8	35.9	30.6	33.5

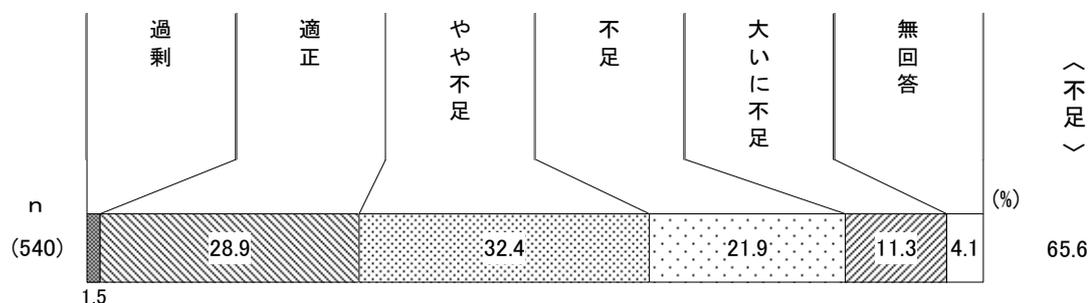
※1年間の採用率：＝1年間の採用者数÷1年前の在籍者数×100

※1年間の離職率：＝1年間の離職者数÷1年前の在籍者数×100

※3職種計の「回答事業所数」は訪問介護員、サービス提供責任者、介護職員の3者またはいずれかのいる事業所の数であり、延べ数ではない。(2職種計も同様)

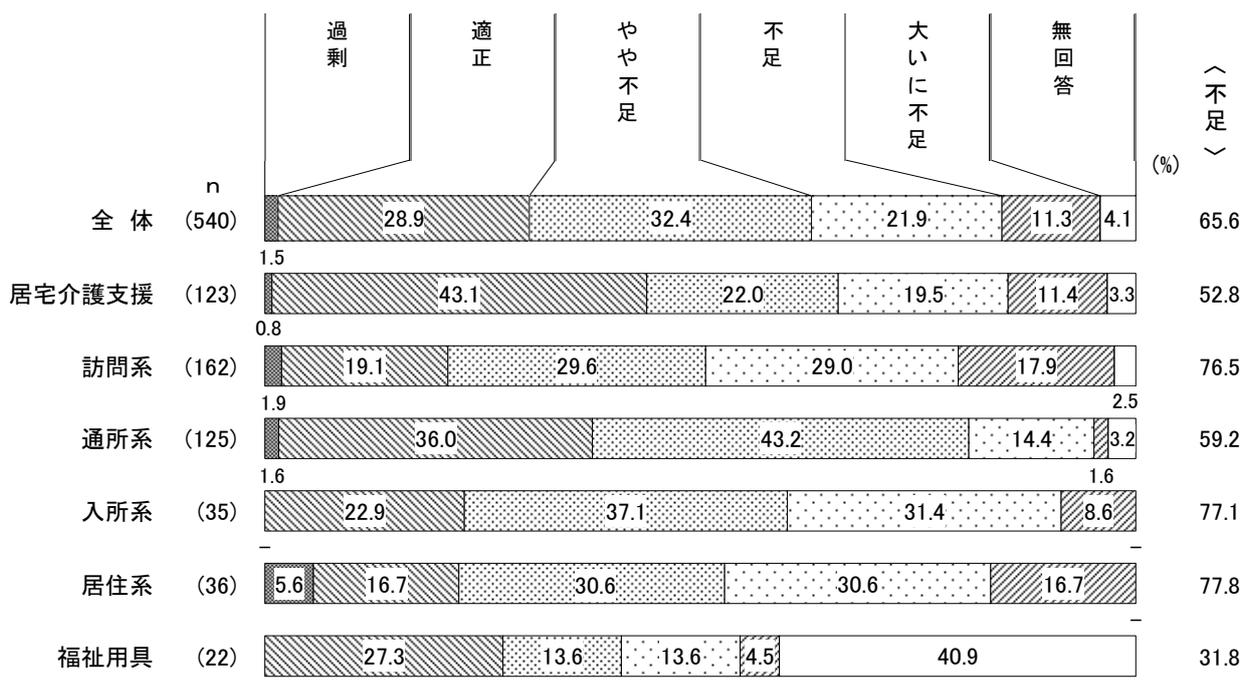
②職員の過不足の状況

- 「やや不足」(32.4%)が最も高く、次いで「適正」(28.9%)、「不足」(21.9%)の順となっている。
- “不足”(「大いに不足」、「不足」、「やや不足」の合計)は65.6%となっている。



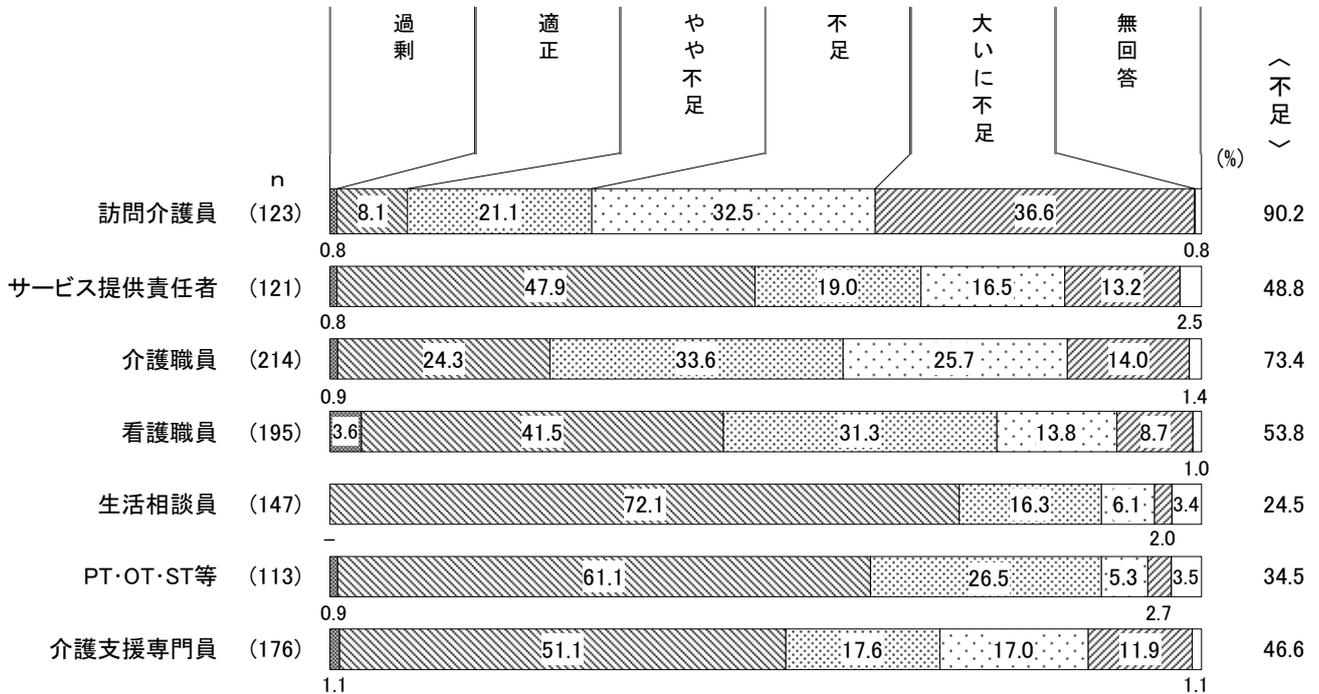
[職員の過不足の状況 <サービス種別>]

- サービス種別でみると、『訪問系』、『入所系』、『居住系』では、“不足”が7割半ばで全体と比べて高くなっている。



[職員の過不足の状況 <職種別>]

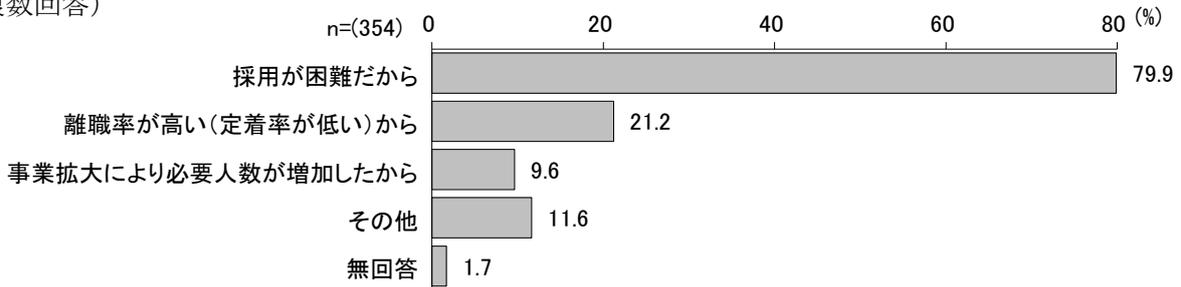
○職種別の“不足”の状況は、訪問介護員（90.2%）が最も高く、次いで介護職員（73.4%）、看護職員（53.8%）、サービス提供責任者（48.8%）、介護支援専門員（46.6%）の順となっている。



③職員が不足している理由

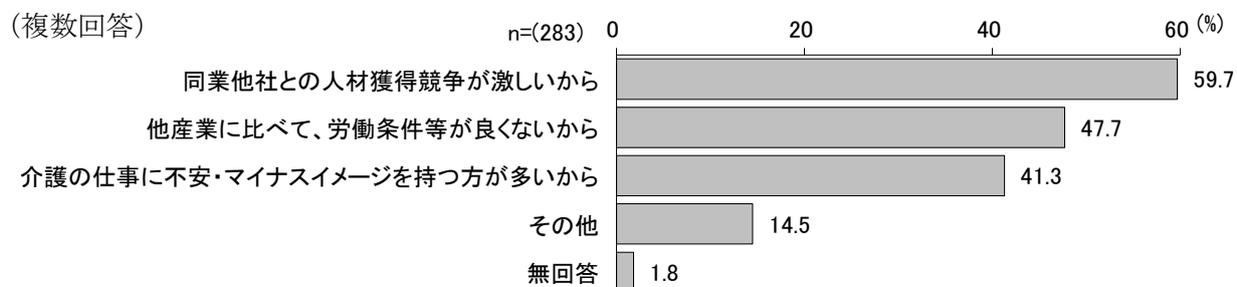
○職員が不足していると回答した事業所の職員が不足している理由は、「採用が困難だから」が79.9%、「離職率が高い（定着率が低い）から」が21.2%、「事業拡大により必要人数が増加したから」が9.6%となっている。

(複数回答)



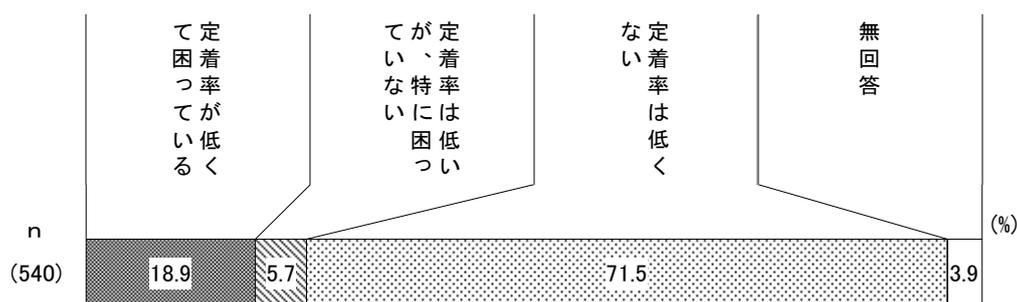
④採用が困難な理由

○職員が不足している理由を「採用が困難だから」と回答した事業所の採用が困難な理由は、「同業他社との人材獲得競争が激しいから」(59.7%)が最も高く、次いで「他産業に比べて、労働条件等が良くないから」(47.7%)、「介護の仕事に不安・マイナスイメージを持つ方が多いから」(41.3%)の順となっている。



⑤従業員の定着状況

○「定着率が低くて困っている」が18.9%、「定着率は低い、特に困っていない」が5.7%、「定着率は低くない」が71.5%となっている。



[従業員の定着状況 <サービス種別>]

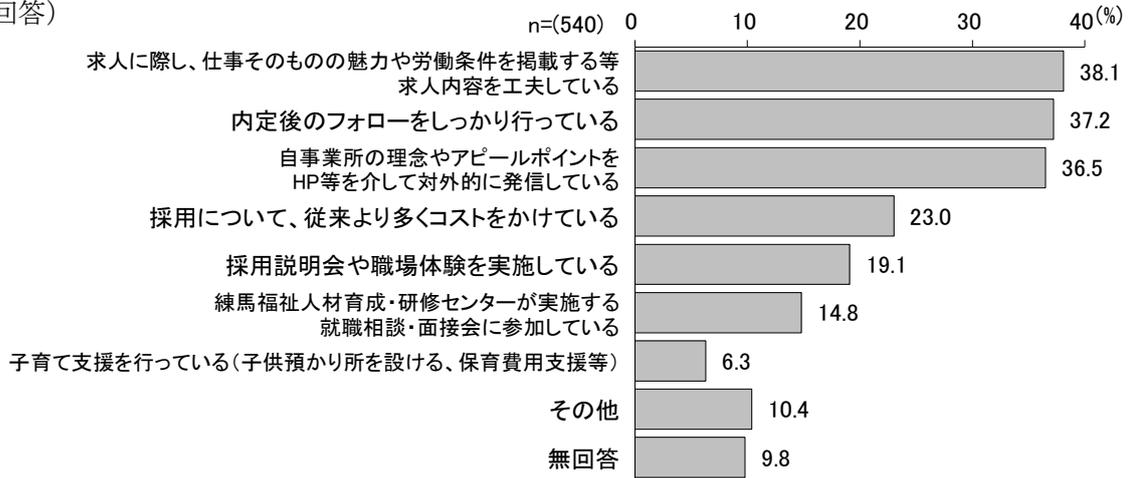
○サービス種別でみると、いずれのサービスでも、「定着率は低くない」が最も高くなっている。
 ○『通所系』、『入所系』、『居住系』では、「定着率が低くて困っている」が全体と比べて高く、それぞれ24.8%、31.4%、38.9%となっている。

	n	定着率が低くて困っている (%)	特定に定着率は低い、定着率は低くない (%)	定着率は低くない (%)	無回答 (%)
全体	540	18.9	5.7	71.5	3.9
居宅介護支援	123	12.2	6.5	77.2	4.1
訪問系	162	12.3	4.9	79.0	3.7
通所系	125	24.8	8.8	63.2	3.2
入所系	35	31.4	2.9	65.7	-
居住系	36	38.9	5.6	55.6	-
福祉用具	22	13.6	-	59.1	27.3

⑥介護人材確保のための工夫

- 「求人に際し、仕事そのものの魅力や労働条件を掲載する等求人内容を工夫している」(38.1%)が最も高く、次いで「内定後のフォローをしっかりと行っている」(37.2%)、「自事業所の理念やアピールポイントをHP等を介して対外的に発信している」(36.5%)の順となっている。

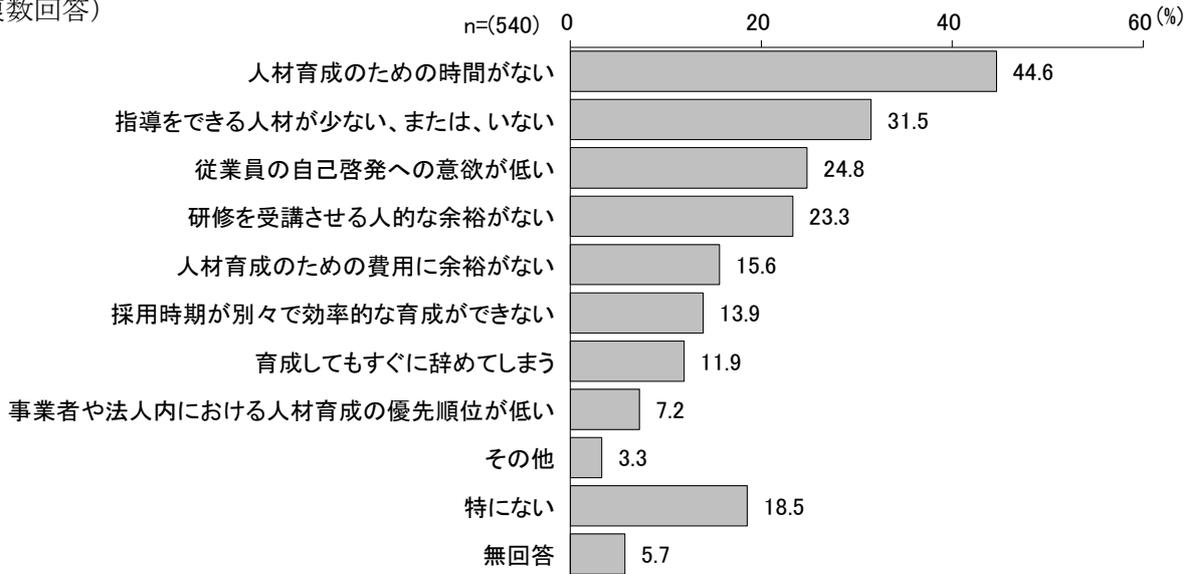
(複数回答)



⑦従業員の研修・教育等で困っていること

- 「人材育成のための時間がない」(44.6%)が最も高く、次いで「指導をできる人材が少ない、または、いない」(31.5%)、「従業員の自己啓発への意欲が低い」(24.8%)、「研修を受講させる人的な余裕がない」(23.3%)の順となっている。
- 「特にない」は18.5%となっている。

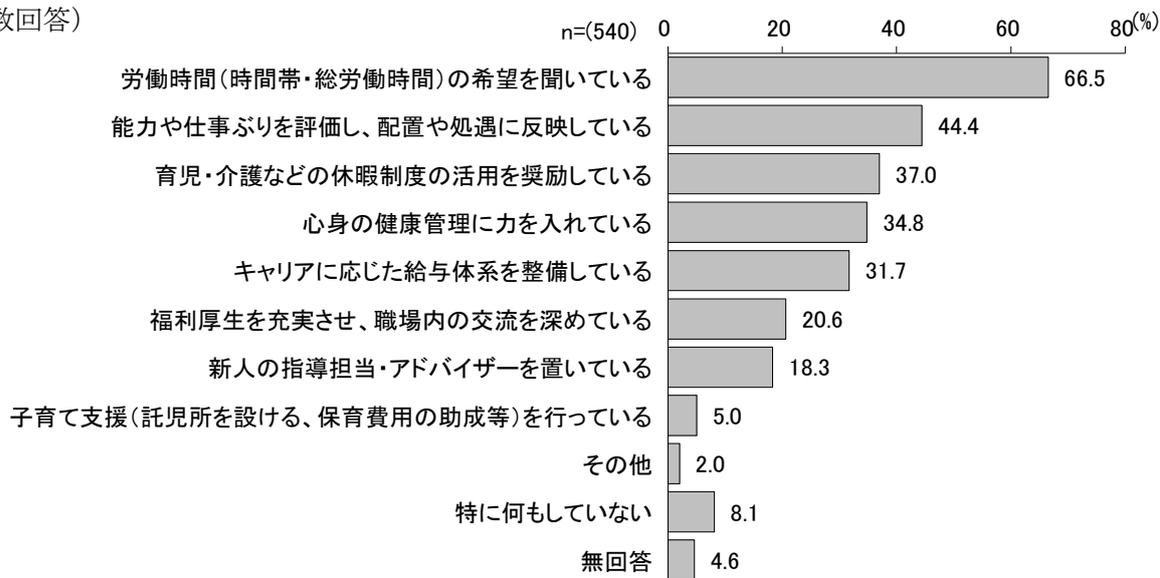
(複数回答)



⑧従業員の早期離職防止や定着促進のための取組状況

- 「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望を聞いている」（66.5%）が最も高く、次いで「能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映している」（44.4%）、「育児・介護などの休暇制度の活用を奨励している」（37.0%）、「心身の健康管理に力を入れている」（34.8%）、「キャリアに応じた給与体系を整備している」（31.7%）の順となっている。
- 「特に何もしていない」は8.1%となっている。

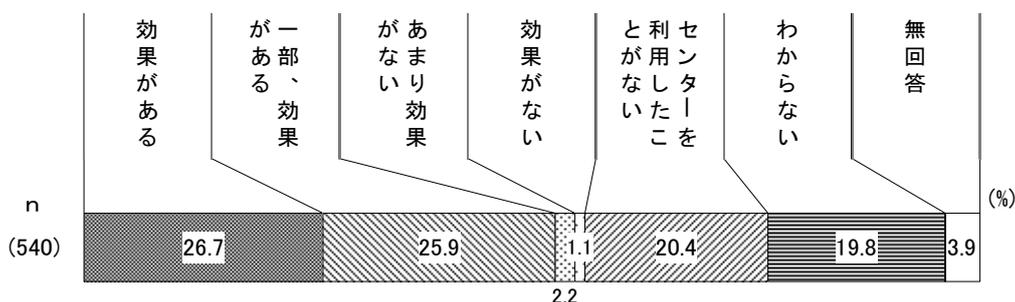
（複数回答）



⑨練馬福祉人材育成・研修センターの研修

ア. 研修の効果

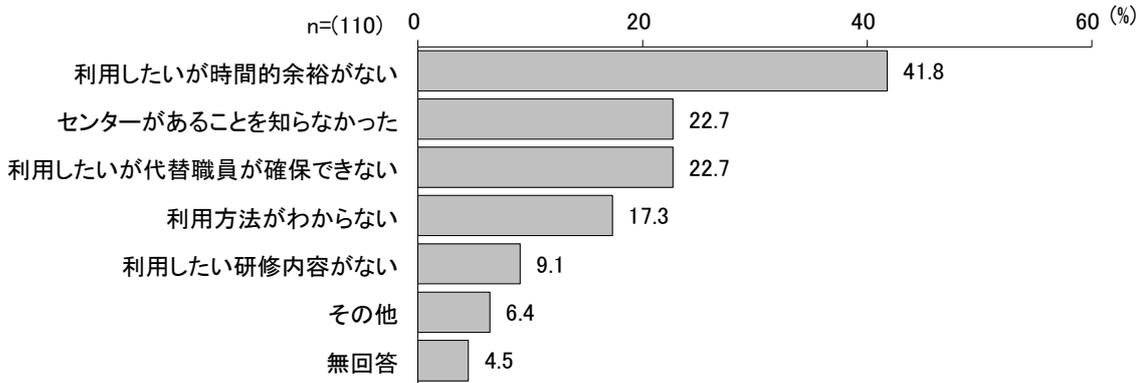
- “効果がある”（「効果がある」と「一部、効果がある」の合計）は半数以上となっている。
- 「センターを利用したことがない」は20.4%となっている。



イ. 利用したことのない理由

○練馬福祉人材育成・研修センターを利用したことのない理由は、「利用したいが時間的余裕がない」(41.8%)が最も高く、次いで「センターがあることを知らなかった」、「利用したいが代替職員が確保できない」(ともに22.7%)、「利用方法がわからない」(17.3%)の順となっている。

(複数回答)

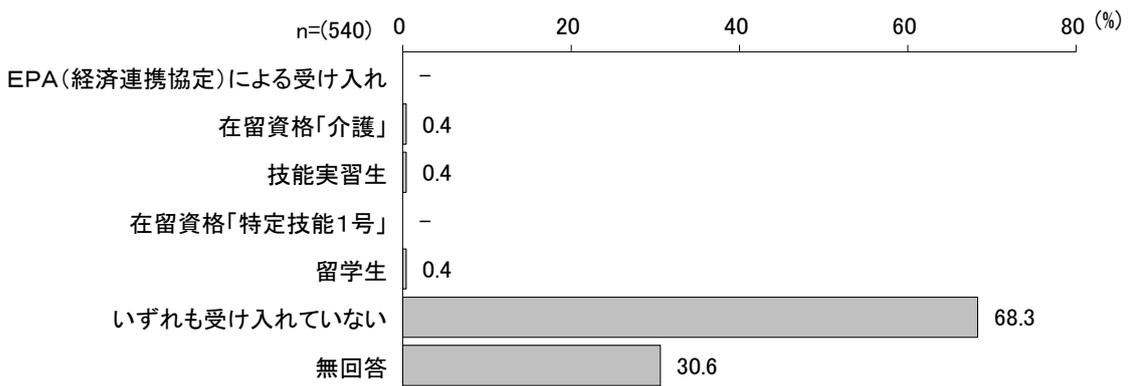


⑩外国人介護人材の活用状況

ア. 外国人介護人材の雇用状況

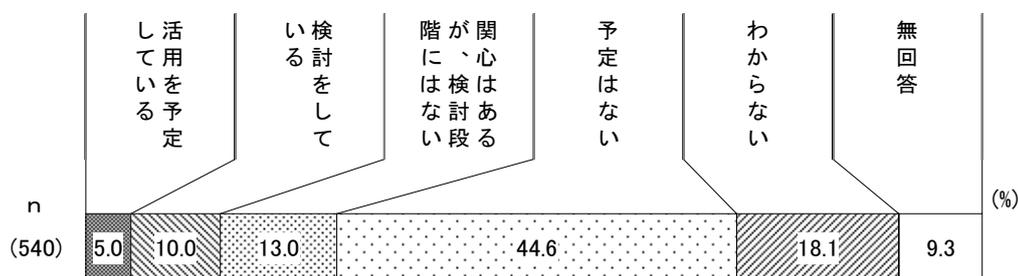
- 5種の入国資格の外国籍労働者の受け入れ状況は、「在留資格「介護」、「技能実習生」、「留学生」で、それぞれ0.4%にとどまっている。
- 「いずれも受け入れていない」は68.3%となっている。

(複数回答)



イ. 今後の外国人介護人材の活用予定

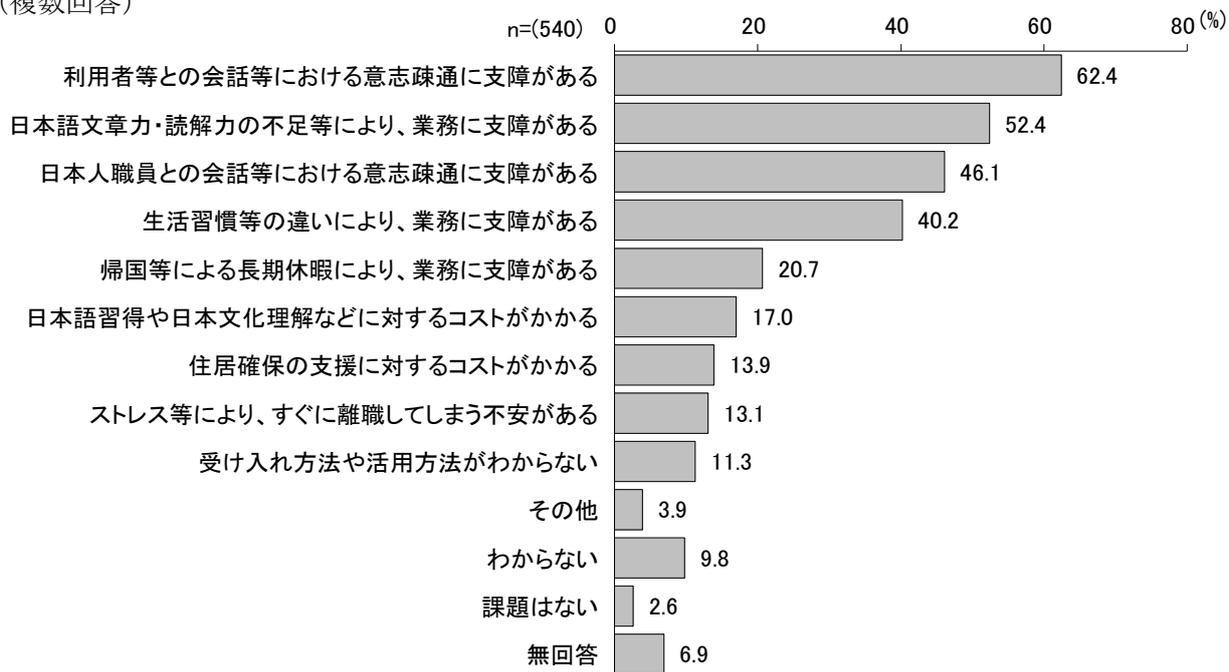
○「活用を予定している」が5.0%、「検討をしている」が10.0%、「関心はあるが、検討段階にない」が13.0%、「予定はない」が44.6%となっている。



ウ. 外国人介護人材の受け入れに当たっての課題

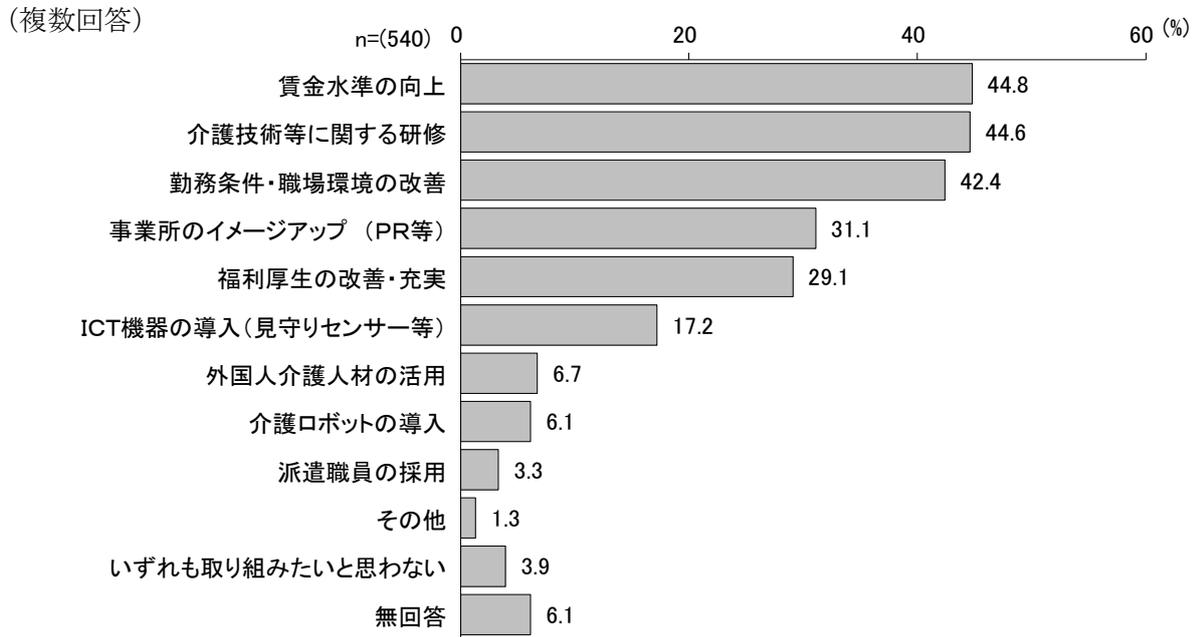
○「利用者等との会話等における意思疎通に支障がある」(62.4%)が最も高く、次いで「日本語文章力・読解力の不足等により、業務に支障がある」(52.4%)、「日本人職員との会話等における意思疎通に支障がある」(46.1%)、「生活習慣等の違いにより、業務に支障がある」(40.2%)の順となっている。

(複数回答)



①人材確保・育成・定着のために行いたい取組

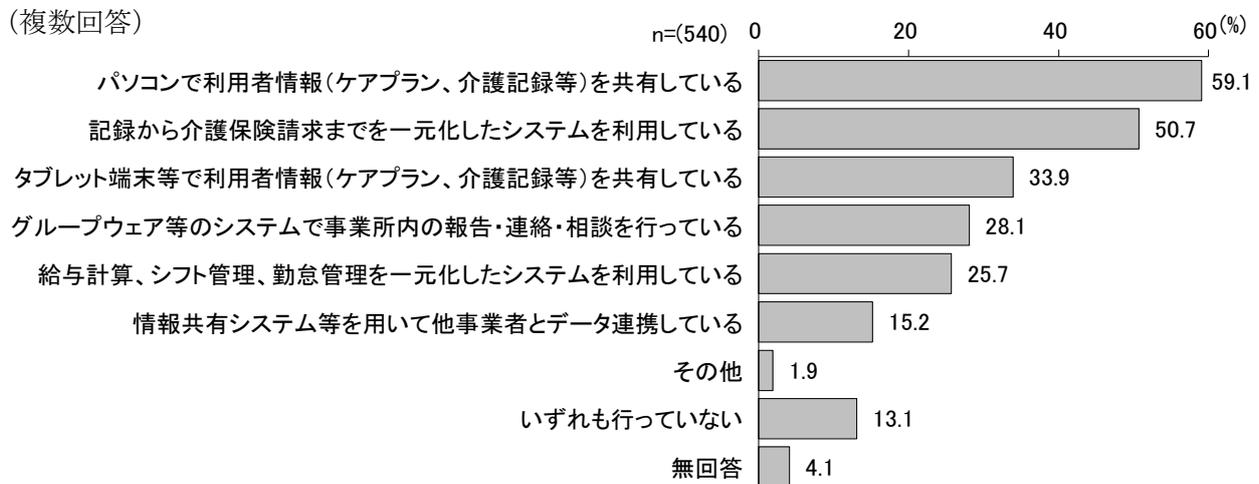
- 「賃金水準の向上」(44.8%)が最も高く、次いで「介護技術等に関する研修」(44.6%)、「勤務条件・職場環境の改善」(42.4%)の順となっている。



(9) 生産性向上に向けた取組

①ICT機器の活用状況

- 「パソコンで利用者情報(ケアプラン、介護記録等)を共有している」(59.1%)が最も高く、次いで「記録から介護保険請求までを一元化したシステムを利用している」(50.7%)、「タブレット端末等で利用者情報(ケアプラン、介護記録等)を共有している」(33.9%)
- 「いずれも行っていない」は13.1%となっている。



[ICT機器の活用状況 <サービス種別>]

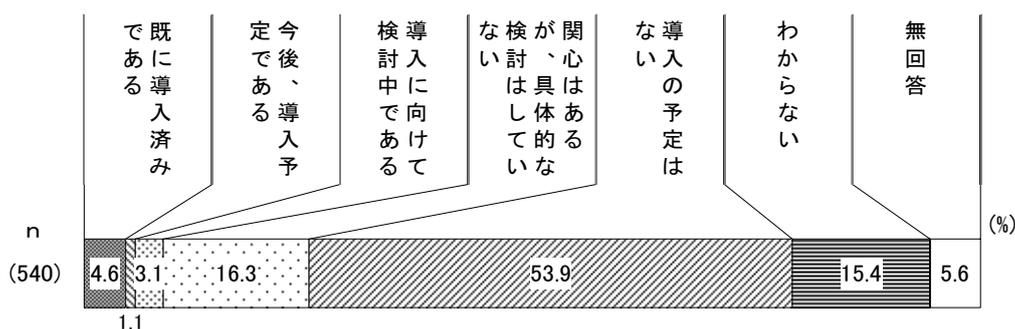
- サービス種別でみると、『入所系』は「パソコンで利用者情報（ケアプラン、介護記録等）を共有している」が88.6%で最も高く、他のサービスと比べて高くなっている。
- 『訪問系』は「情報共有システム等を用いて他事業者とデータ連携している」が他のサービスと比べて高くなっている。

(%)

	n	共有している	パソコンで利用者情報（ケアプラン、介護記録等）を共有している	記録から介護保険請求をまとめる	情報（ケアプラン、端末等）を共有している	タブレット端末等を利用している	グループウェア等のシステム	メール、電話、FAX等を利用している	給与計算、ソフト管理、出勤管理	情報共有システム等を利用している	その他	いずれも行っていない	無回答
全体	540	59.1	50.7	33.9	28.1	25.7	15.2	1.9	13.1	4.1			
居宅介護支援	123	69.1	52.8	26.0	18.7	14.6	18.7	1.6	7.3	4.1			
訪問系	162	53.7	51.2	34.6	29.6	29.6	22.8	3.1	14.2	3.1			
通所系	125	53.6	47.2	27.2	32.0	27.2	9.6	-	19.2	3.2			
入所系	35	88.6	74.3	42.9	48.6	42.9	-	-	5.7	-			
居住系	36	55.6	38.9	55.6	22.2	27.8	5.6	8.3	16.7	2.8			
福祉用具	22	45.5	36.4	36.4	18.2	22.7	18.2	-	13.6	22.7			

②介護ロボットの活用状況

- 「導入の予定はない」(53.9%) が最も高くなっている。
- 「既に導入済みである」は4.6%、「今後、導入予定である」は1.1%となっている。



[介護ロボットの活用状況 <サービス種別>]

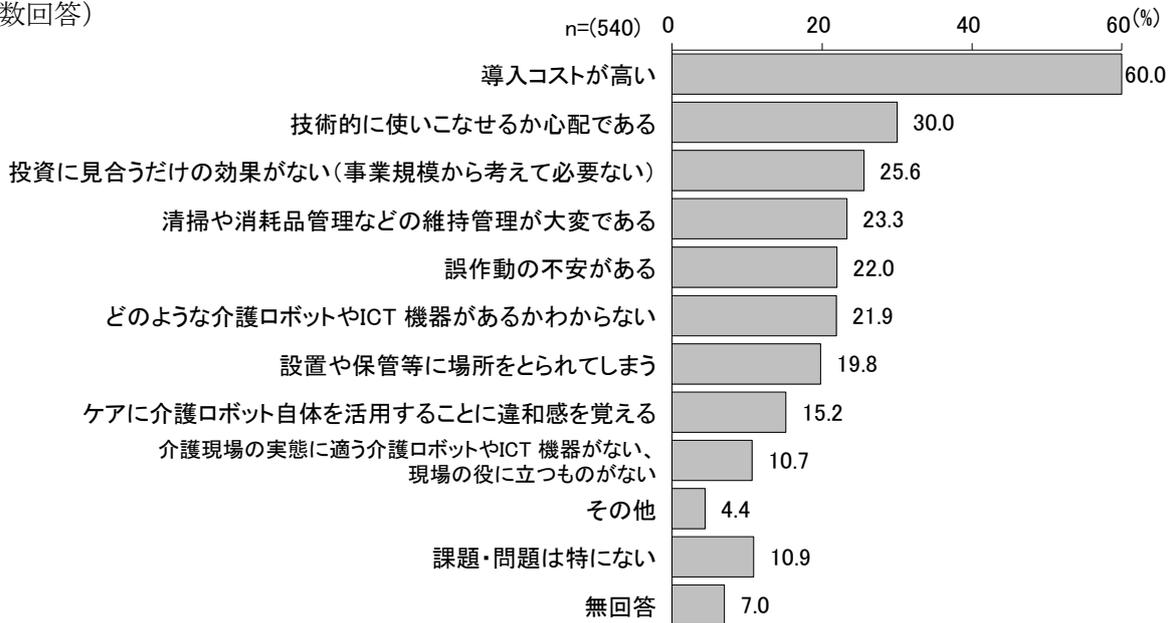
- サービス種別にみると、『入所系』では、「既に導入済である」が40.0%と全体を大きく上回っている。
- 『居宅介護支援』『訪問系』では、「導入の予定はない」が6割半ばと全体と比べて高くなっている。

	n	既に導入済みである	今後、導入予定である	導入に向けて検討中である	関心はあるが、具体的な検討はない	導入の予定はない	わからない	無回答
全体	540	4.6	1.1	3.1	16.3	53.9	15.4	5.6
居宅介護支援	123	0.8	-	-	4.1	65.9	21.1	8.1
訪問系	162	0.6	1.2	3.1	13.6	64.8	12.3	4.3
通所系	125	1.6	-	3.2	31.2	49.6	12.8	1.6
入所系	35	40.0	5.7	11.4	20.0	17.1	-	5.7
居住系	36	5.6	-	8.3	27.8	22.2	33.3	2.8
福祉用具	22	4.5	9.1	-	-	50.0	13.6	22.7

③ICT機器や介護ロボット導入に関する課題

- 「導入コストが高い」(60.0%) が最も高く、次いで「技術的に使いこなせるか心配である」(30.0%)、「投資に見合うだけの効果がない(事業規模から考えて必要ない)」(25.6%)、「清掃や消耗品管理などの維持管理が大変である」(23.3%)、「誤作動の不安がある」(22.0%)、「どのような介護ロボットやICT機器があるかわからない」(21.9%)の順となっている。

(複数回答)



第3章 高齢者基礎調査

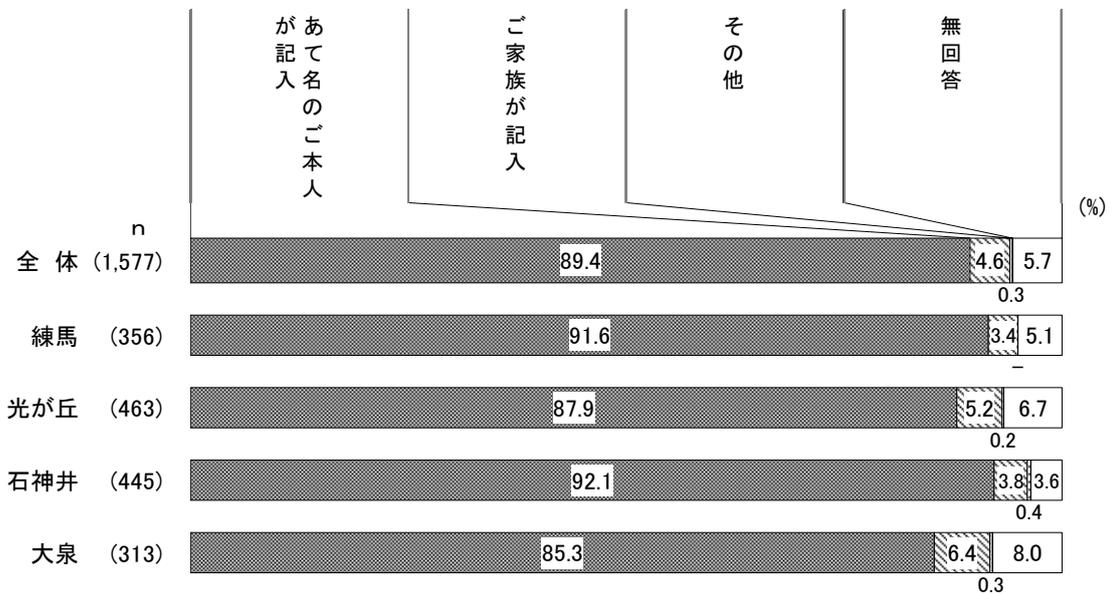
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

1. 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

○全体では、「あて名のご本人が記入」が89.4%となっている。

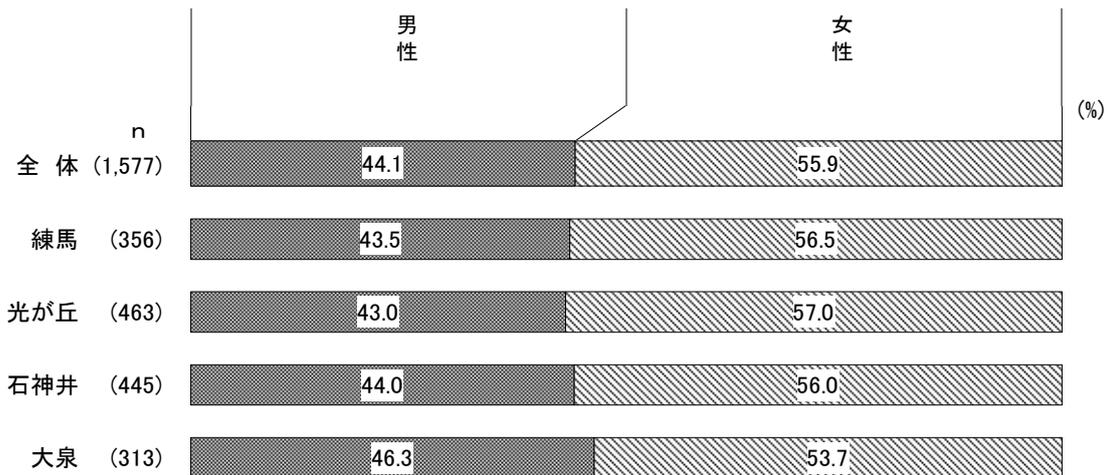
○いずれの圏域でも、「あて名のご本人が記入」が8割半ばから9割超となっている。



(2) 性別

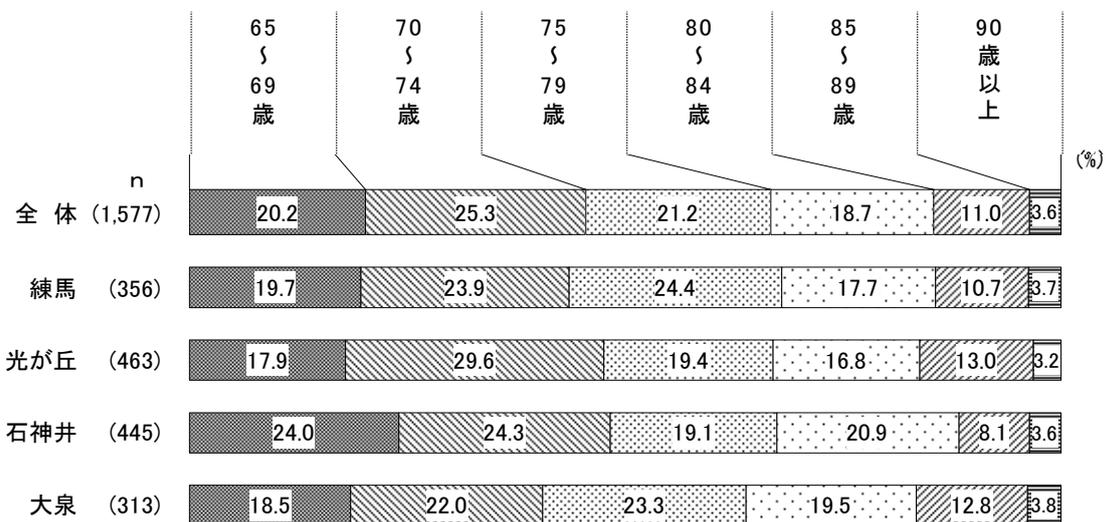
○全体では、「男性」が44.1%、「女性」が55.9%となっている。

○いずれの圏域でも、「男性」が4割半ば、「女性」が5割半ばとなっている。



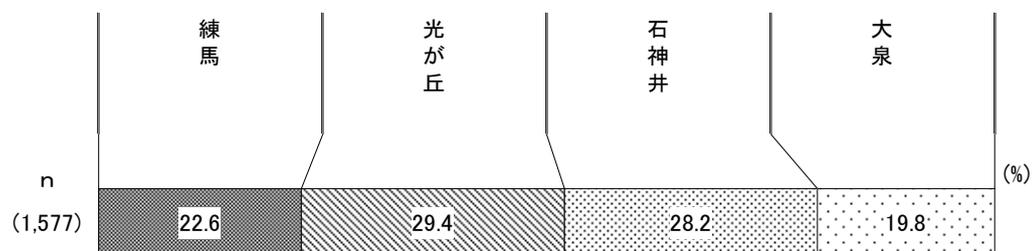
(3) 年齢

- 全体では、“前期高齢者”（「65～69歳」と「70～74歳」の合計）は4割半ば、“後期高齢者”（「75～79歳」、「80～84歳」、「85～89歳」、「90歳以上」の合計）は5割半ばとなっている。
- 大泉では、“後期高齢者”が全体と比べてやや高くなっている。



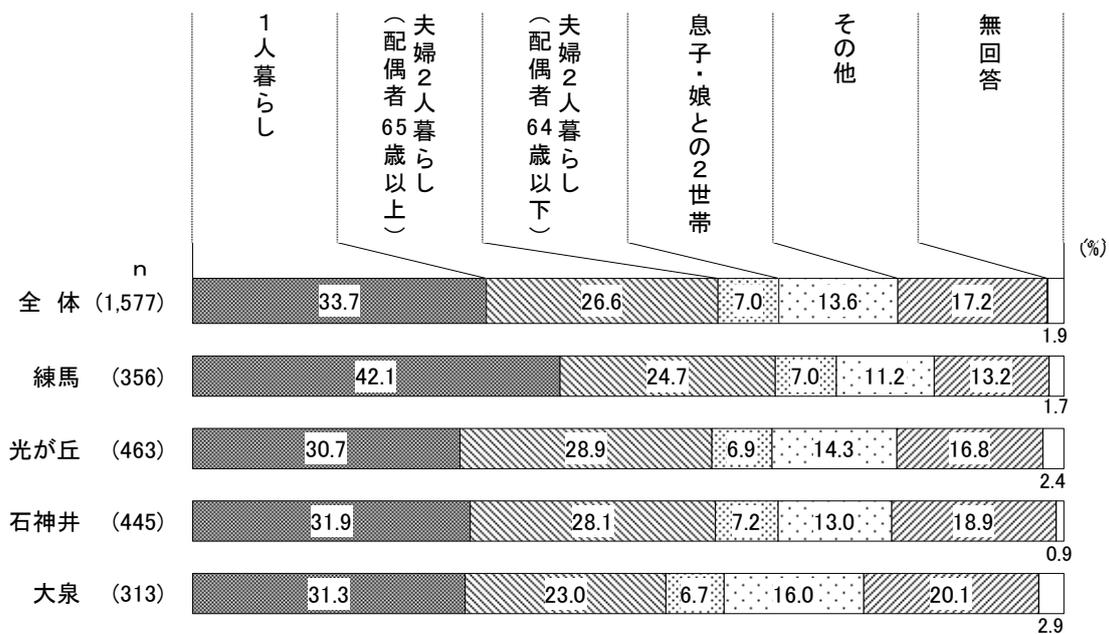
(4) 居住地区

- 「練馬」が22.6%、「光が丘」が29.4%、「石神井」が28.2%、「大泉」が19.8%となっている。



（5）世帯の状況

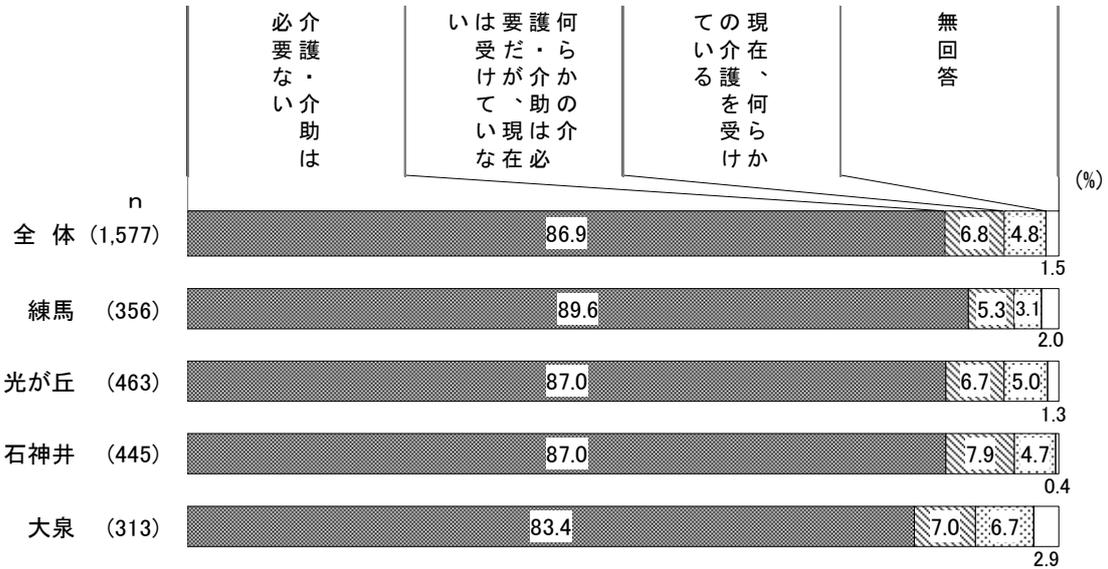
- 全体では、「1人暮らし」が33.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が26.6%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が7.0%、「息子・娘との2世帯」が13.6%となっている。
- 練馬では、「1人暮らし」が全体に比べて高く42.1%となっている。「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が24.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が7.0%、「息子・娘との2世帯」が11.2%となっている。
- 光が丘では、「1人暮らし」が30.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が28.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が6.9%、「息子・娘との2世帯」が14.3%となっている。
- 石神井では、「1人暮らし」が31.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が28.1%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が7.2%、「息子・娘との2世帯」が13.0%となっている。
- 大泉では、「1人暮らし」が31.3%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が23.0%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が6.7%、「息子・娘との2世帯」が16.0%となっている。



(6) 介護・介助の必要性

○全体では、「介護・介助は必要ない」が86.9%、「何らかの介護・介助が必要」（「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」の合計）が約1割となっている。

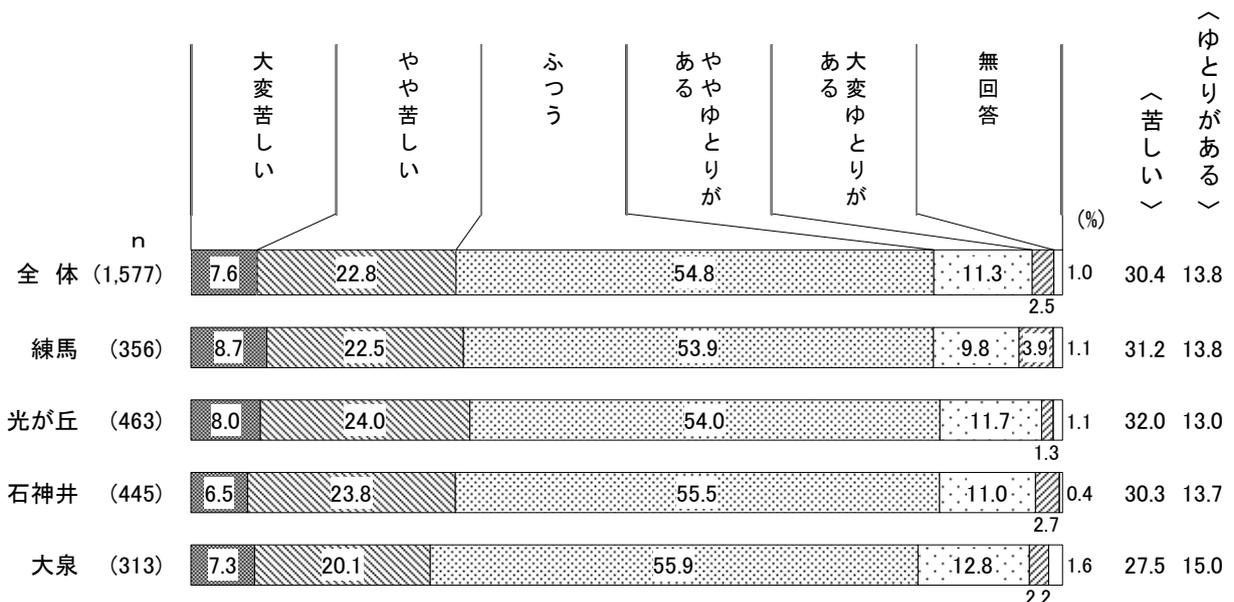
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



(7) 暮らし向き

○全体では、「ふつう」が54.8%で最も高く、「苦しい」（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）が30.4%、「ゆとりがある」（「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の合計）が13.8%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



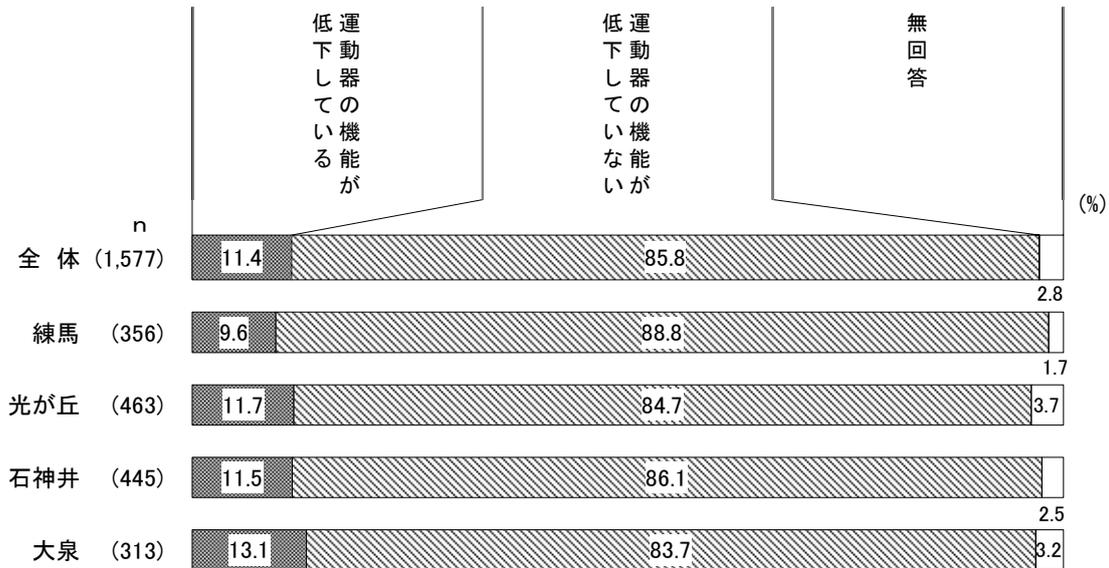
2. 日常生活の状況

(1) からだを動かすこと

①運動器の機能の低下

○全体では、運動器の機能が低下している人は、11.4%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



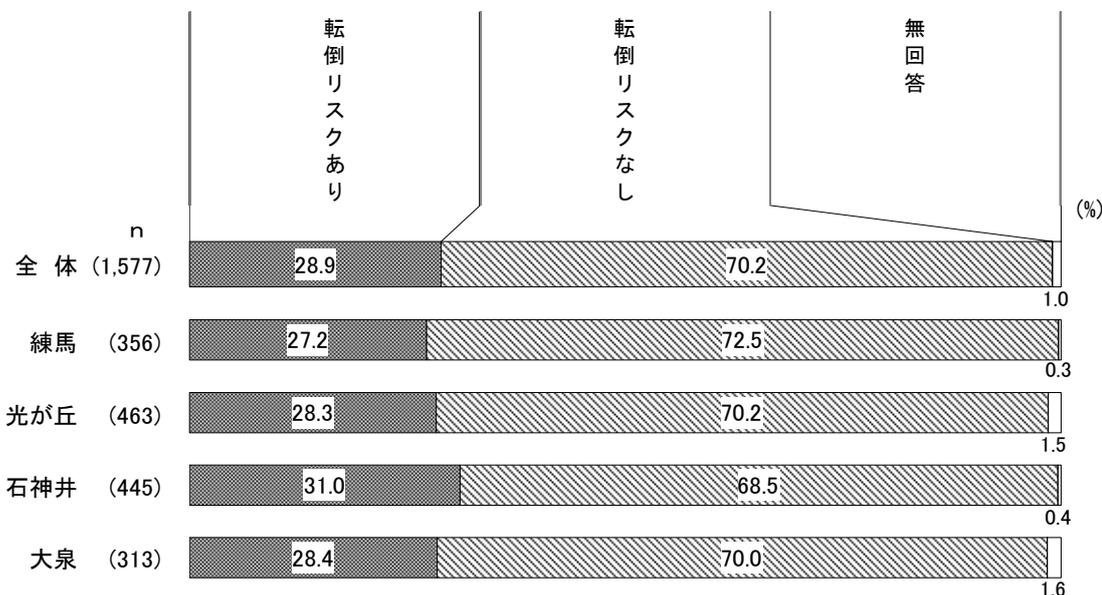
※ 下記の項目に、3つ以上該当する場合、“運動器の機能が低下している高齢者”としている

- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない
- ・15分続けて歩くことができない
- ・過去1年間に転んだ経験が、何度もある、あるいは、1度ある
- ・転倒に対して、とても不安である、あるいは、やや不安である

②転倒リスク

○全体では、転倒リスクのある人は、28.9%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

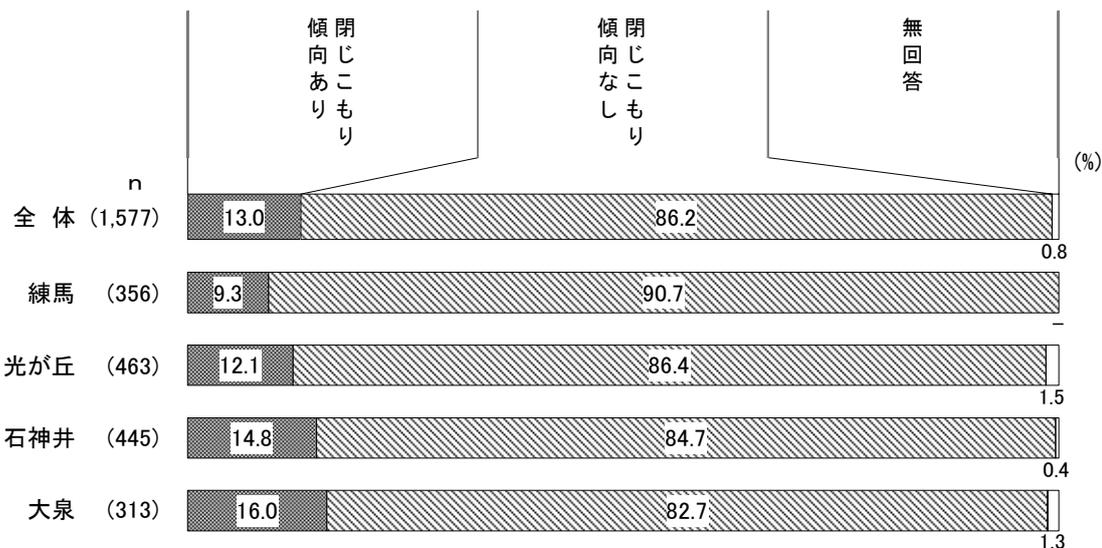


※ 過去1年間に転んだ経験が「何度もある」あるいは「1度ある」と回答した人を、“転倒リスクのある高齢者”としている

③閉じこもり傾向

○全体では、閉じこもり傾向のある人は、13.0%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

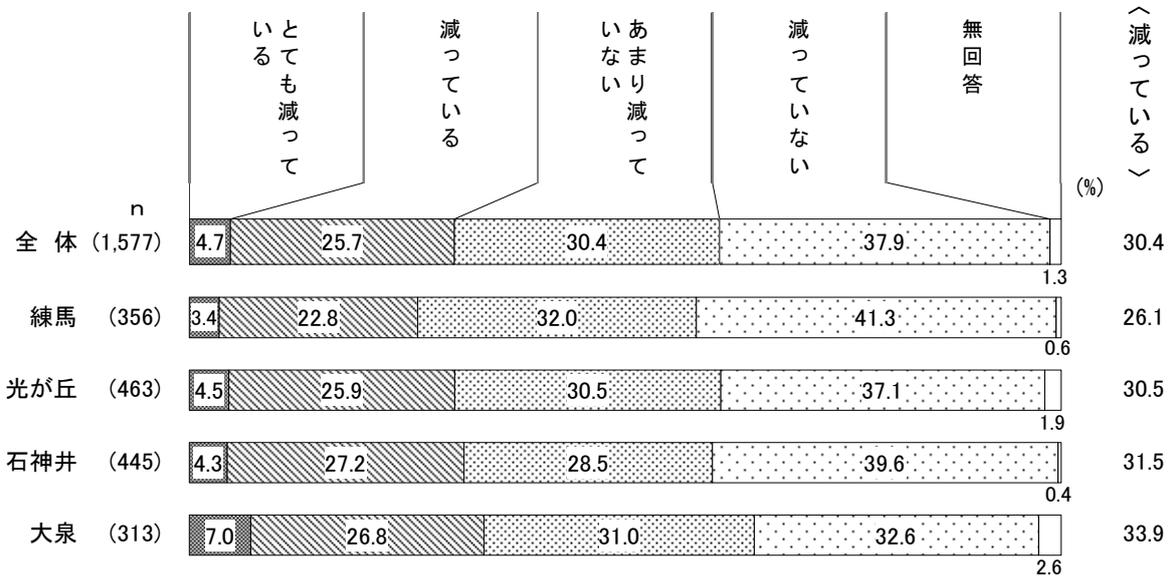


※ 外出の状況について、「ほとんど外出しない」あるいは「週1回外出する」と回答した人を、“閉じこもり傾向のある高齢者”としている

④外出回数の昨年との比較

○全体では、昨年と比べて外出の回数が“減っている”（「とても減っている」と「減っている」の合計）は30.4%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

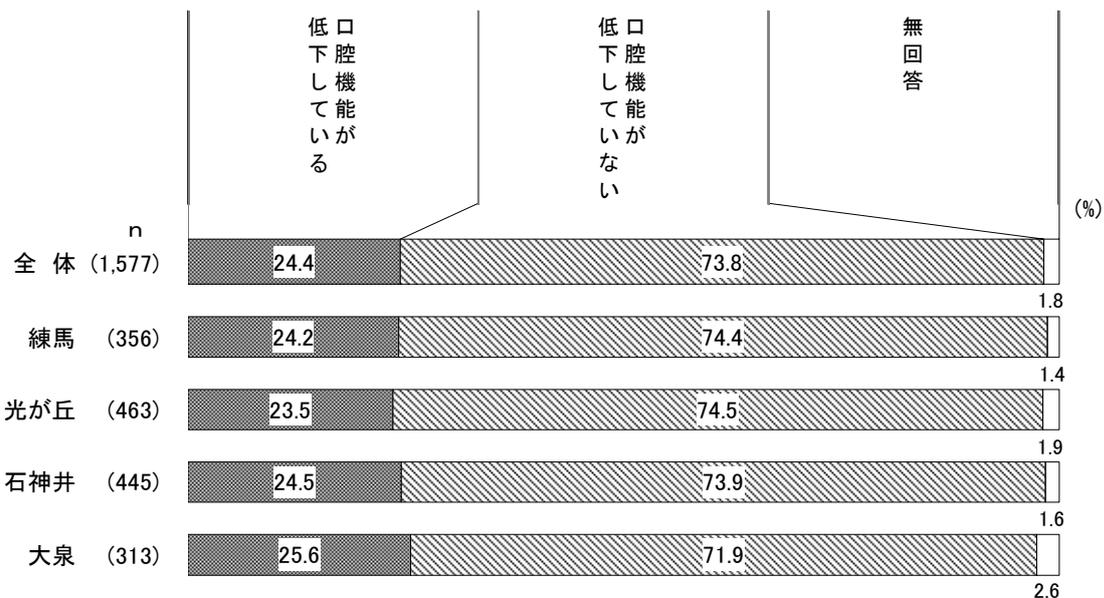


(2) 食べること

①口腔機能の低下

○全体では、口腔機能が低下している人は、24.4%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



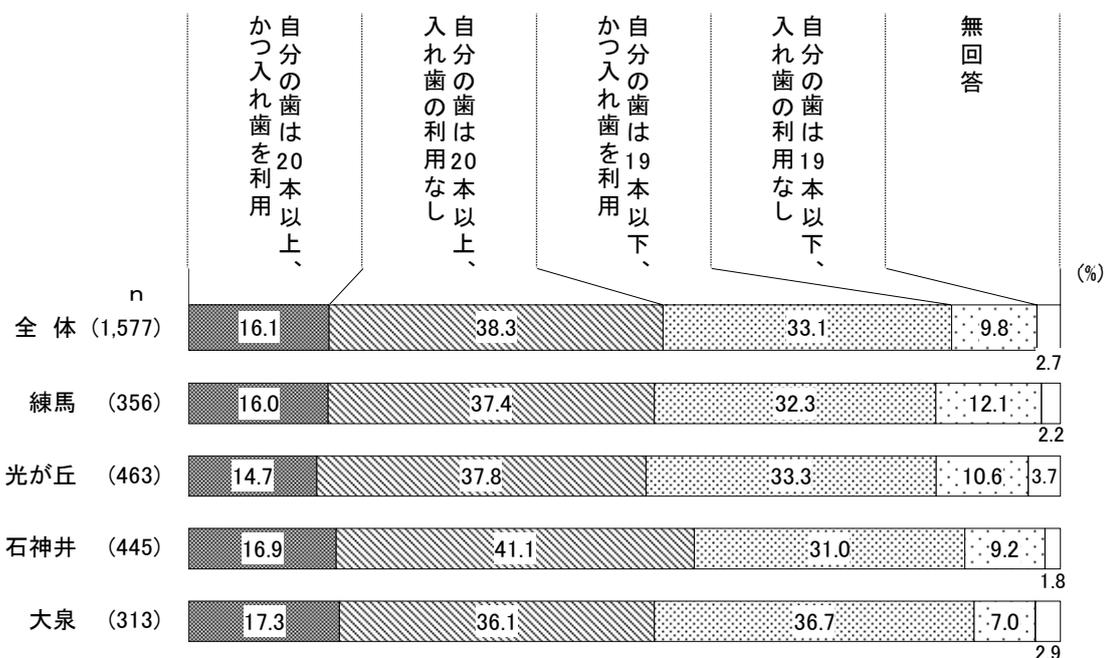
※ 下記の項目に、2つ以上該当する場合、“口腔機能が低下している高齢者”としている

- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなった
- ・お茶や汁物等でむせることがある
- ・口の渇きが気になる

②歯の数と入れ歯の使用

○全体では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が38.3%、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が33.1%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が16.1%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が9.8%となっている。

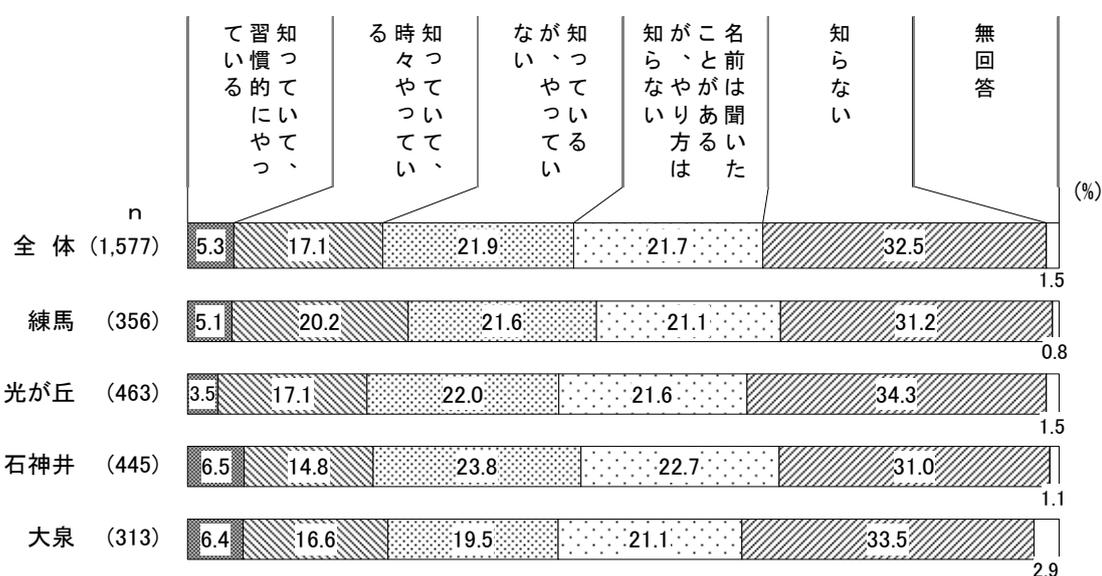
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



③口腔ケアの方法の認知度

○全体では、口の体操・だ液腺マッサージなどの口腔ケアの方法について、「知っている、習慣的にやっている」が5.3%、「知っている、時々やっている」が17.1%、「知っているが、やっていない」が21.9%、「名前はあるが、やり方は知らない」が21.7%、「知らない」が32.5%となっている。

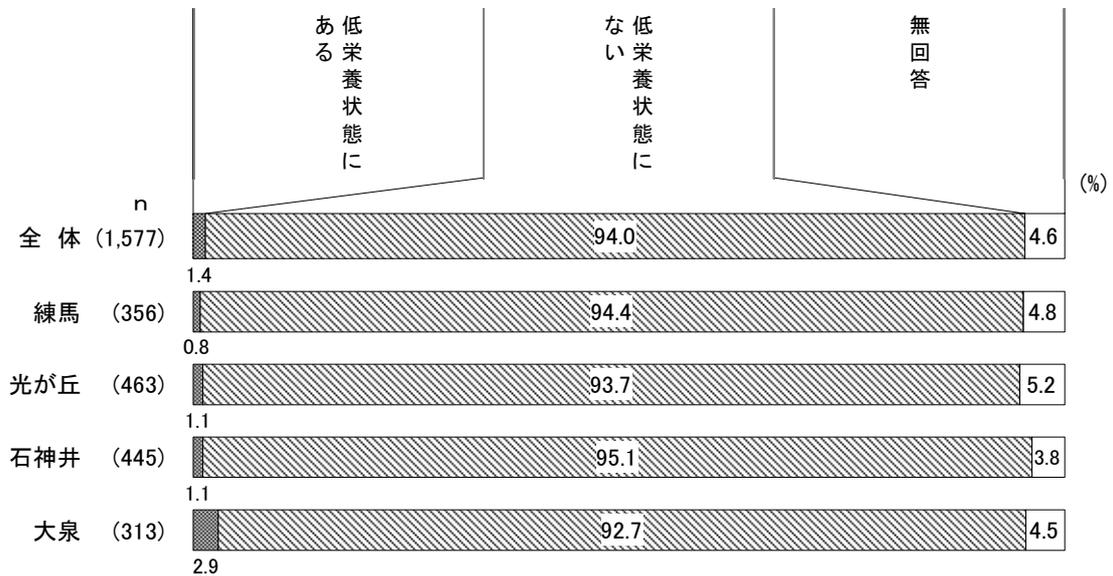
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



④低栄養の傾向

○全体では、低栄養状態にある人は、1.4%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



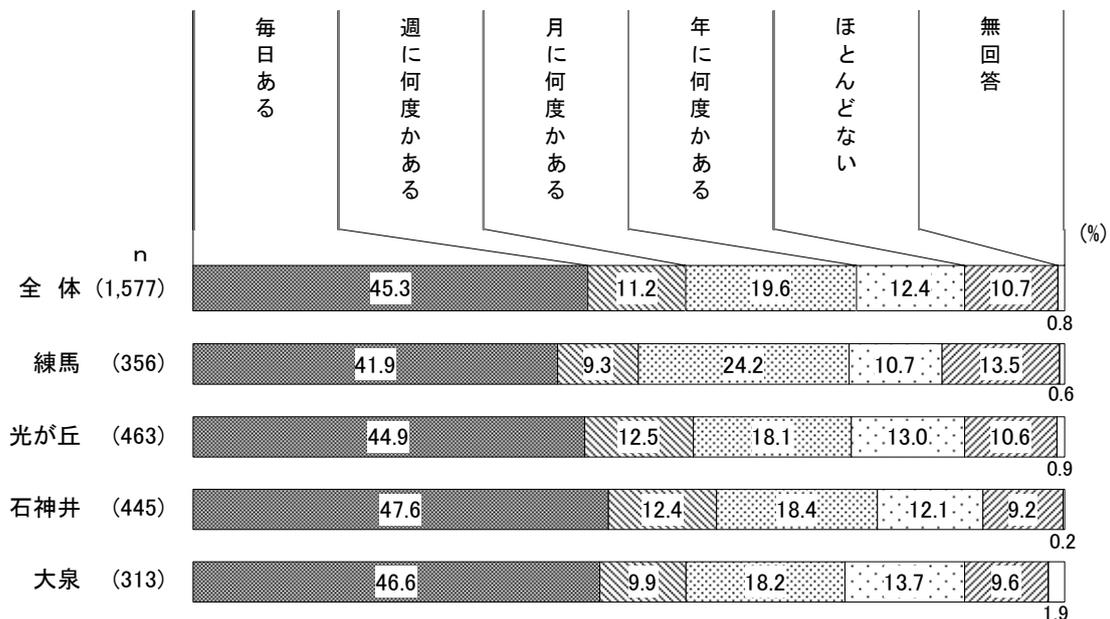
※ 下記の2項目に該当する場合、“低栄養状態にある高齢者”としている

- ・身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））が18.5以下
- ・6か月間で2～3kg以上の体重減少があった

⑤誰かと食事をともしる機会

○全体では、誰かと食事をともしる機会が「毎日ある」は45.3%、「週に何度かある」は11.2%となっている。一方、「ほとんどない」は10.7%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

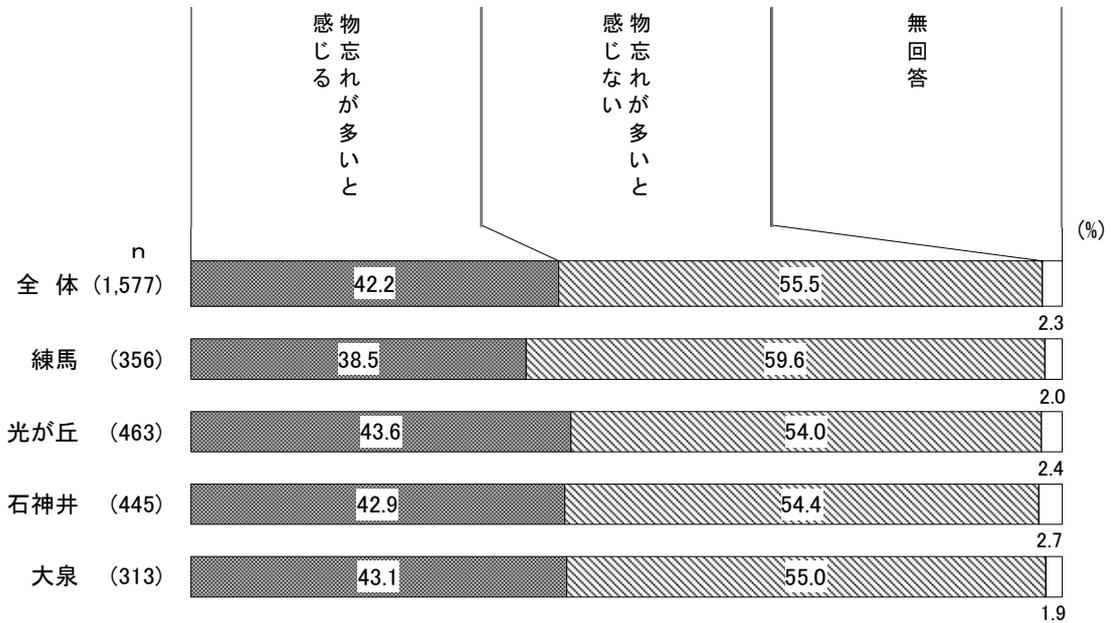


(3) 毎日の生活

①物忘れの様子

○全体では、物忘れが多いと感じる人は、42.2%となっている。

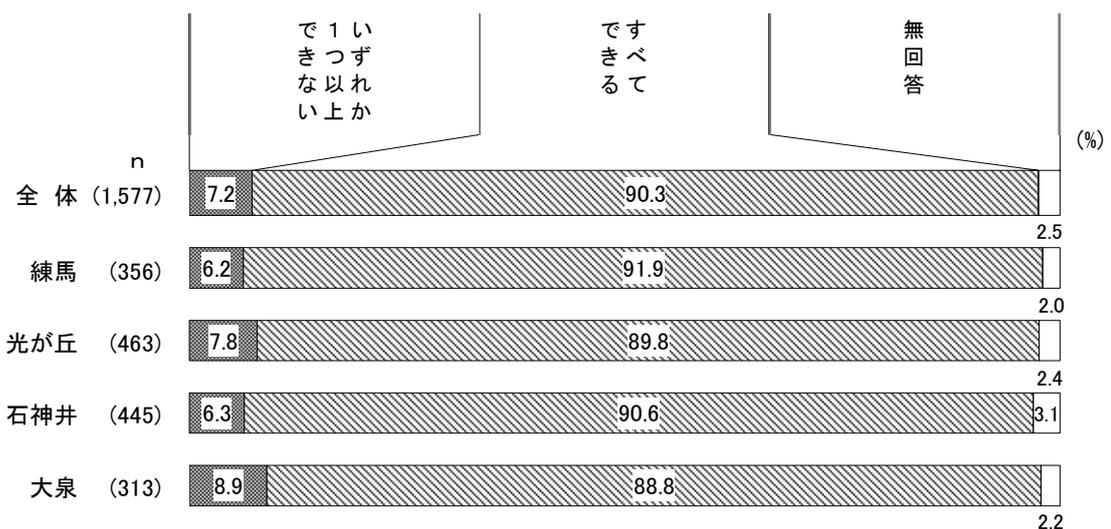
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



②日常生活の自立状況

○全体では、「いずれか1つ以上できない」人は、7.2%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



※ 以下の5項目のいずれかについて「できない」と回答した人を「いずれか1つ以上できない」、5項目全てについて「できるし、している」あるいは「できるけどしていない」と回答した人を「すべてできる」に分類した

- ・バスや電車を使って1人で外出すること
- ・自分で食品・日用品の買い物をすること
- ・自分で食事の用意をすること
- ・自分で請求書の支払いをすること
- ・自分で預貯金の出し入れをすること

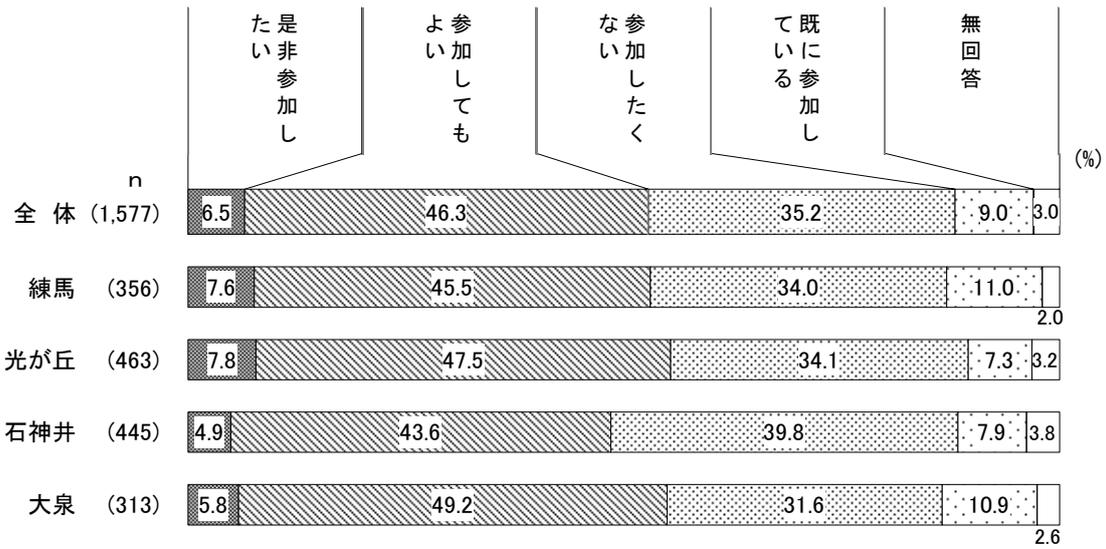
3. 地域活動とたすけあい

(1) 地域づくりの推進

①参加者としての参加意向

○全体では、「是非参加したい」が6.5%、「参加してもよい」が46.3%、「参加したくない」が35.2%となっている。「既に参加している」は9.0%となっている。

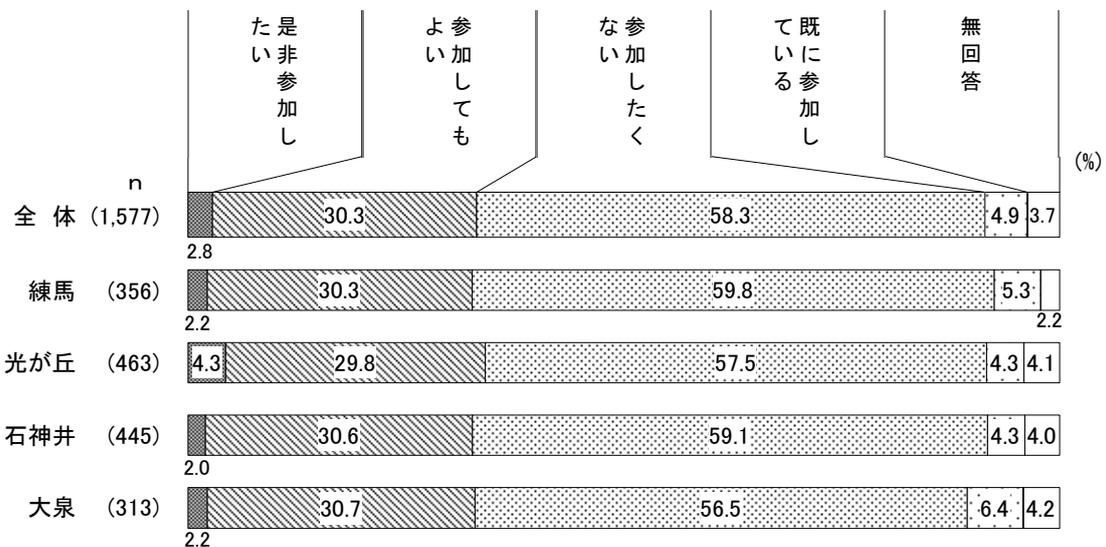
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



②企画・運営（お世話役）としての参加意向

○全体では、「是非参加したい」が2.8%、「参加してもよい」が30.3%、「参加したくない」が58.3%となっている。「既に参加している」は4.9%となっている。

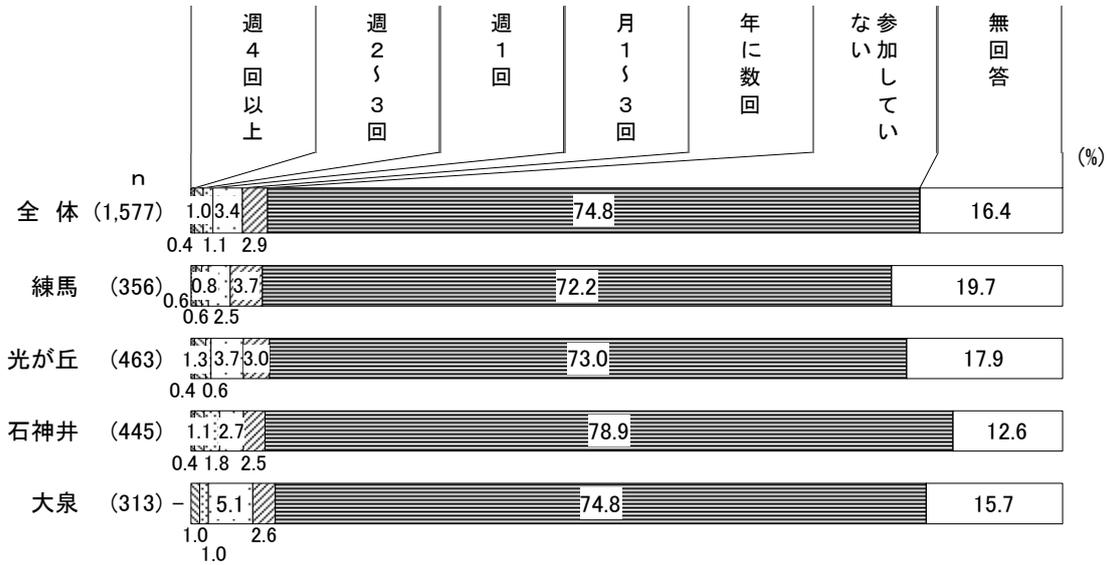
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



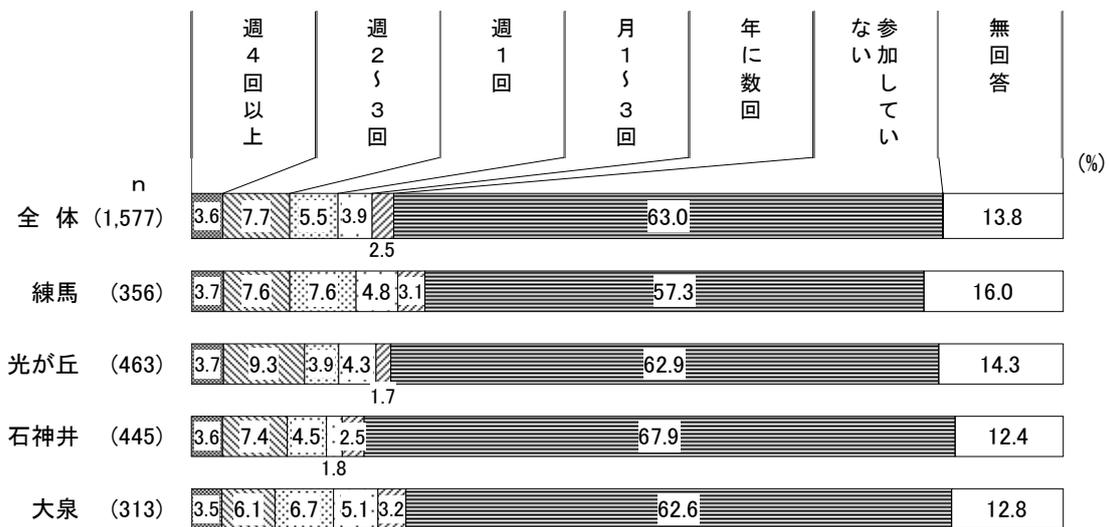
(2) 地域活動への参加状況

- いずれの地域活動も「参加していない」が半数以上となっている。
- 全体では、『スポーツ関係のグループやクラブ』、『趣味関係のグループ』、『収入のある仕事』は、“参加している”（「参加していない」と無回答を除く）が全体で2割以上となっている。

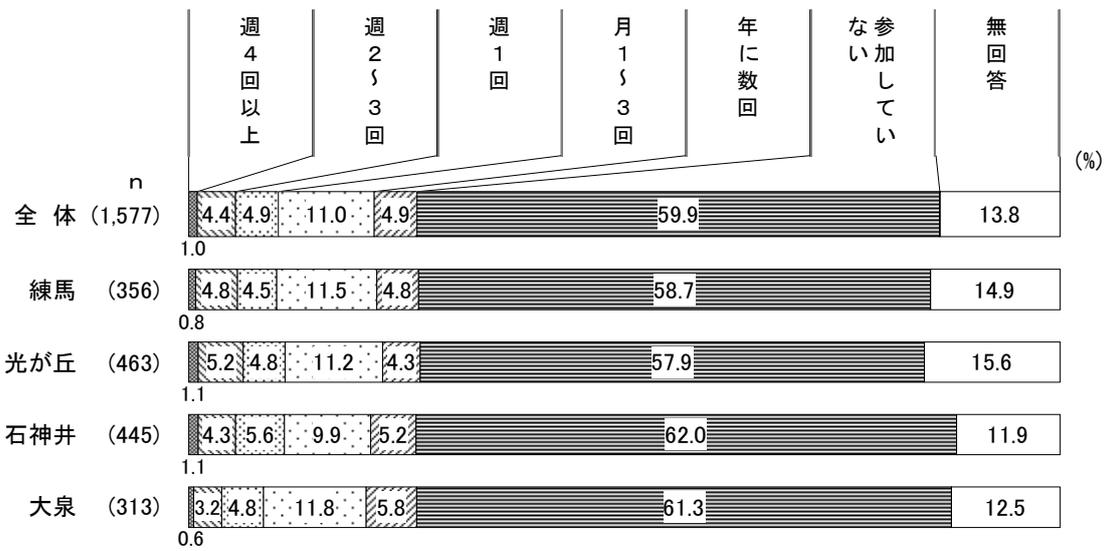
ボランティアのグループ



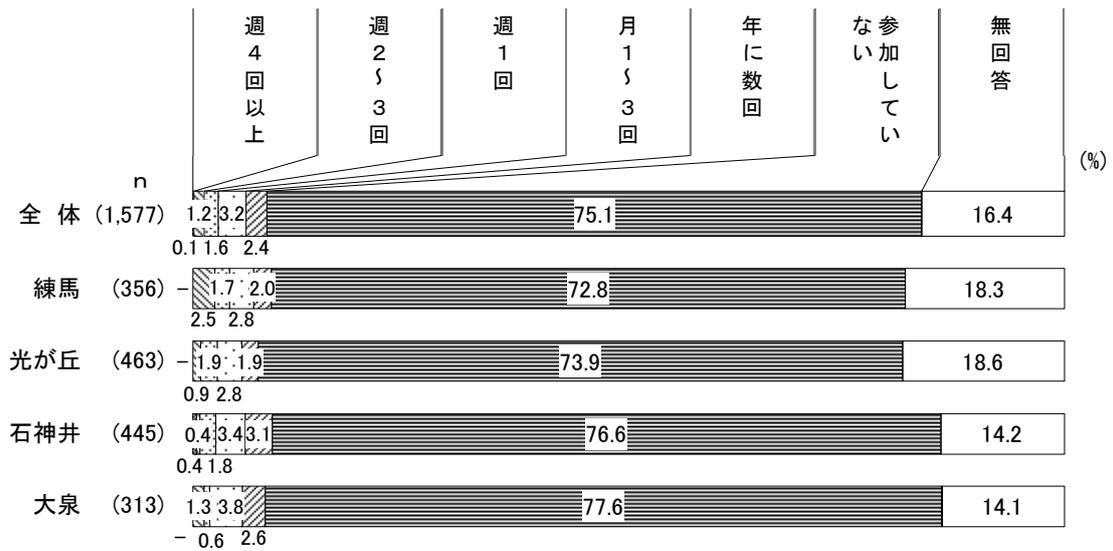
スポーツ関係のグループやクラブ



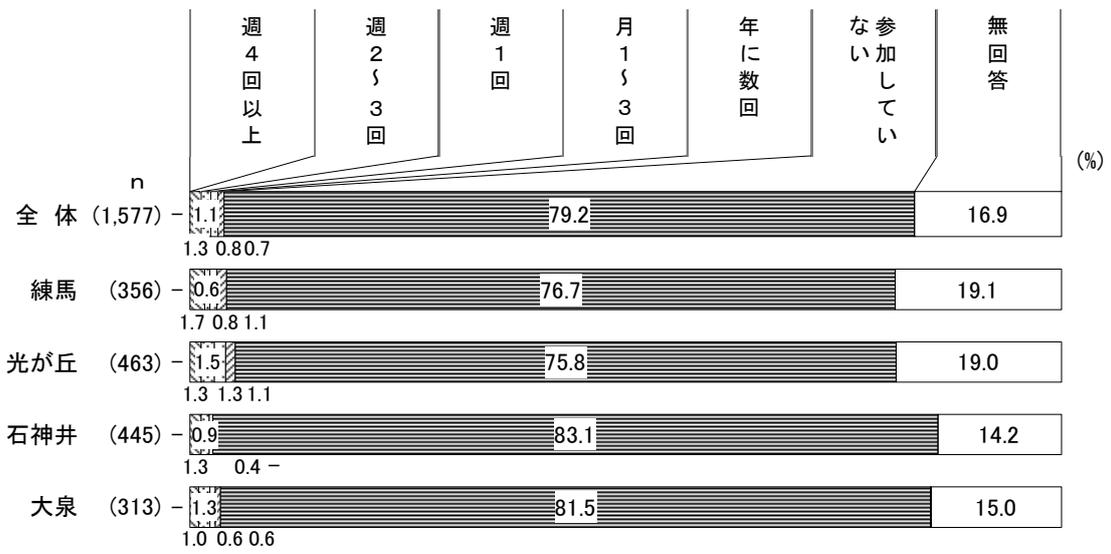
趣味関係のグループ



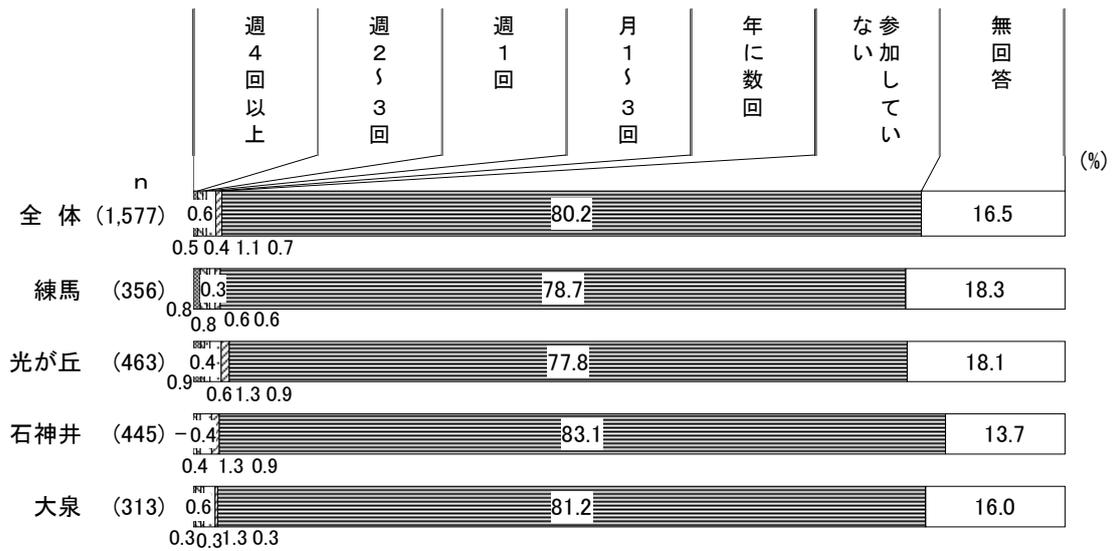
学習・教養サークル



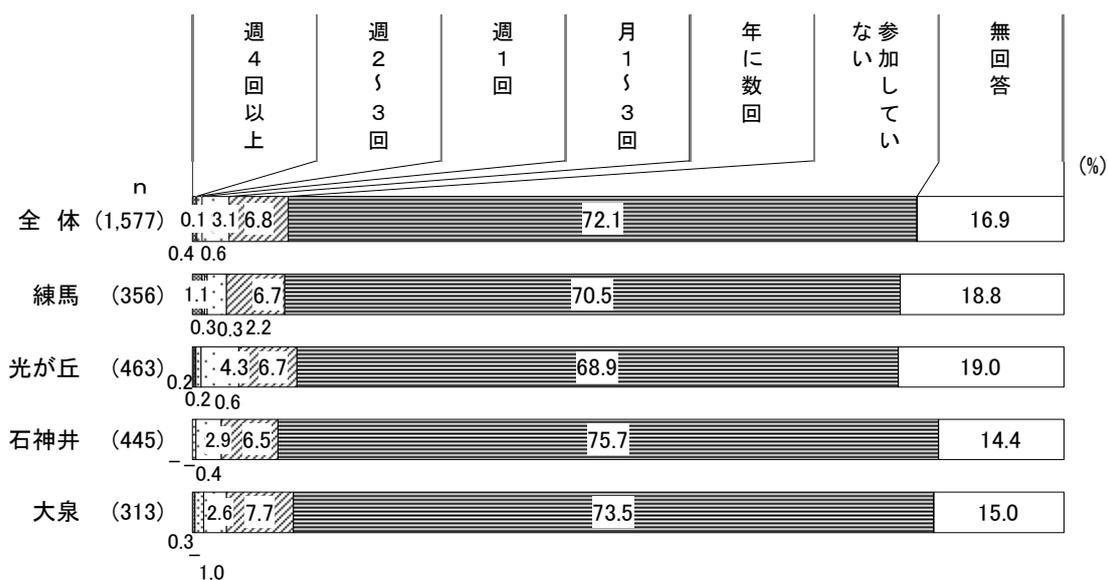
介護予防のための通いの場



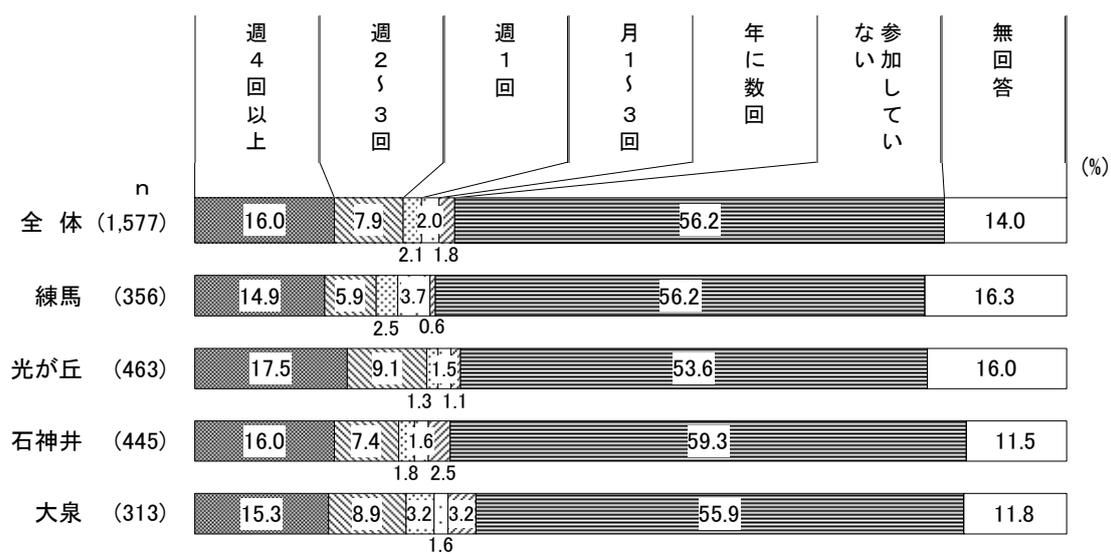
老人クラブ



町内会・自治会



収入のある仕事



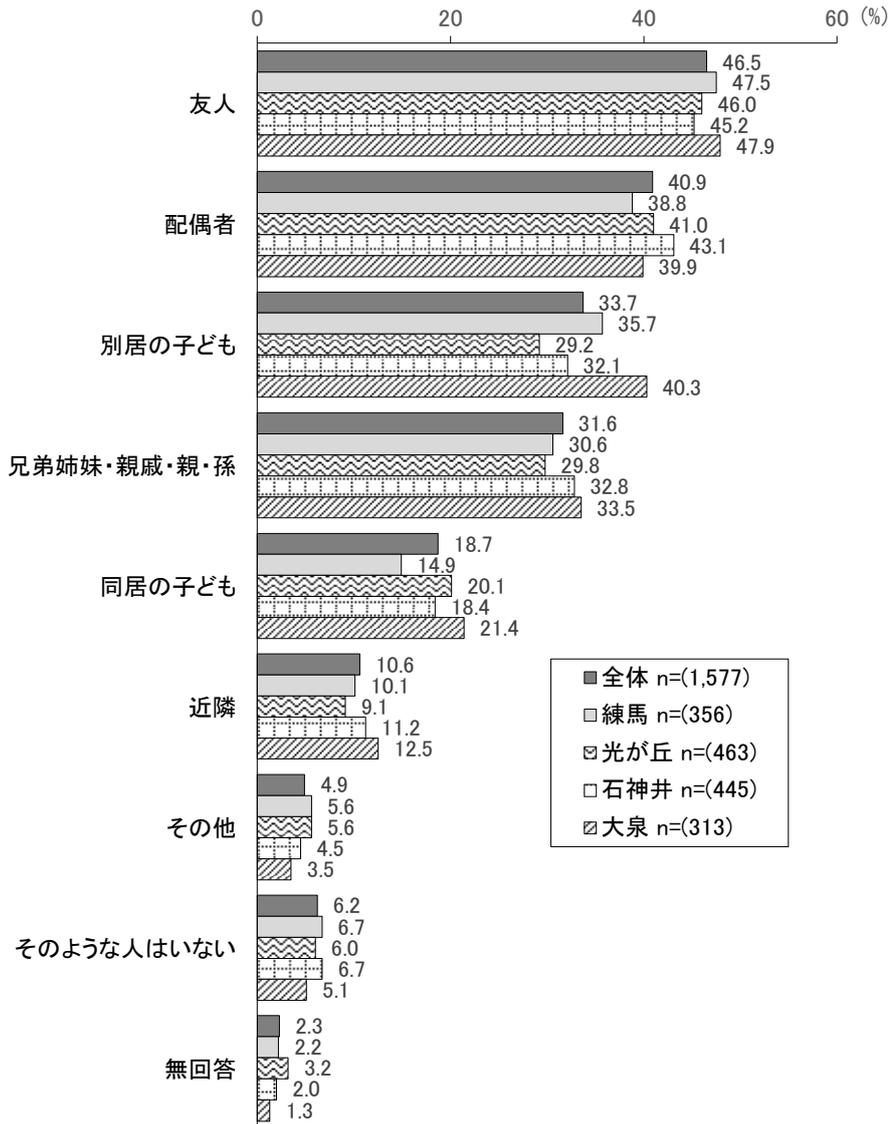
(3) たすけあい

①心配事や愚痴を聞いてくれる人

○全体では、「友人」(46.5%)が最も高く、次いで「配偶者」(40.9%)、「別居の子ども」(33.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(31.6%)の順となっている。一方、「そのような人はいない」は6.2%となっている。

○いずれの圏域でも、上位に挙がっている項目は全体と同様の傾向となっている。

(複数回答)

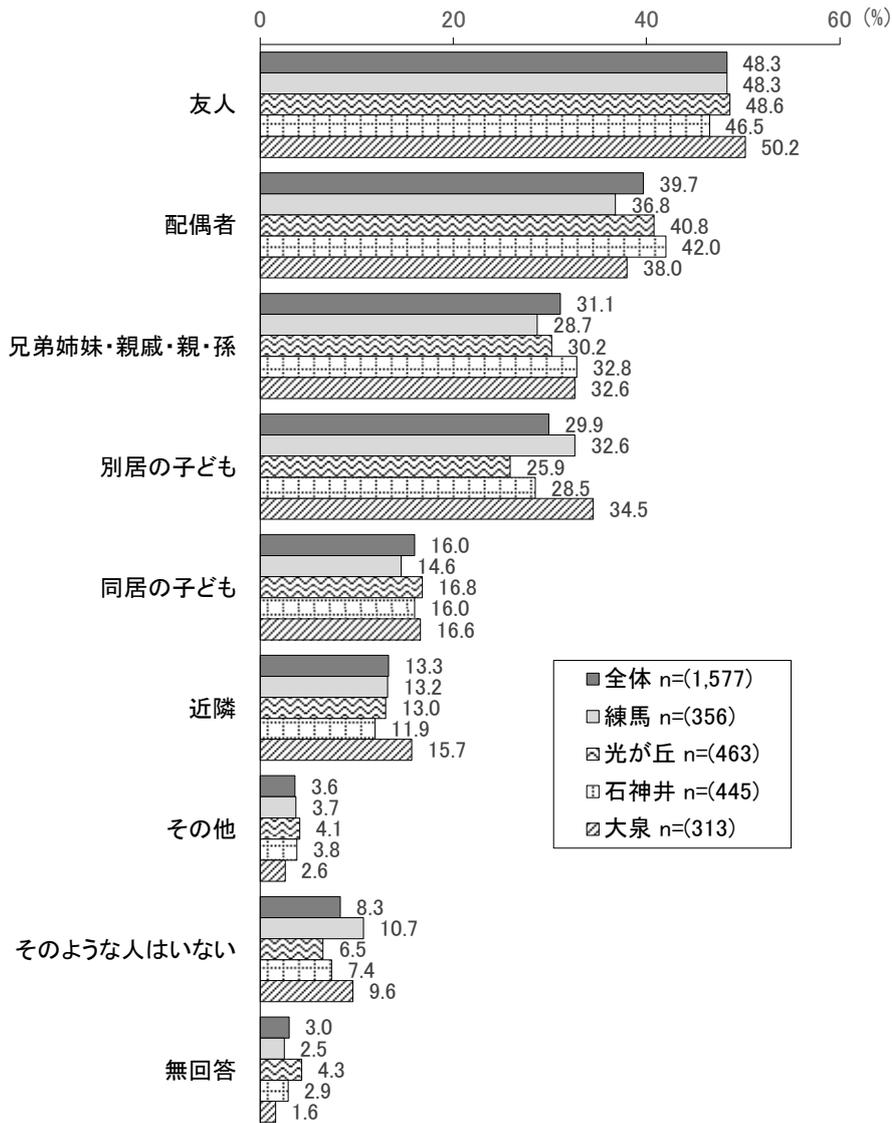


②心配事や愚痴を聞いてあげる人

○全体では、「友人」(48.3%)が最も高く、次いで「配偶者」(39.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(31.1%)、「別居の子ども」(29.9%)の順となっている。一方、「そのような人はいない」は8.3%となっている。

○いずれの圏域でも、上位に挙がっている項目は全体と同様の傾向となっている。

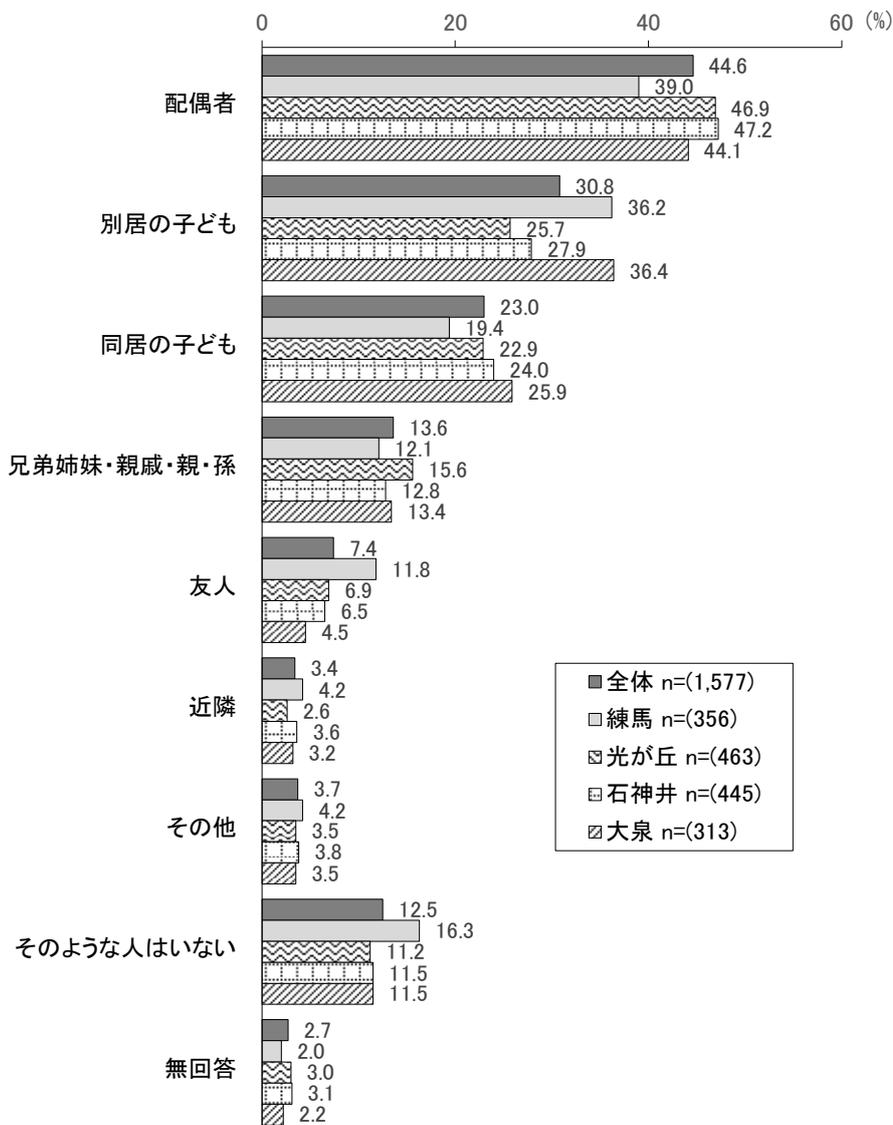
(複数回答)



③看病や世話をしてくれる人

○全体では、「配偶者」(44.6%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(30.8%)、「同居の子ども」(23.0%)の順となっている。一方「そのような人はいない」は12.5%となっている。
 ○いずれの圏域でも、上位に挙がっている項目は全体と同様の傾向となっている。

(複数回答)

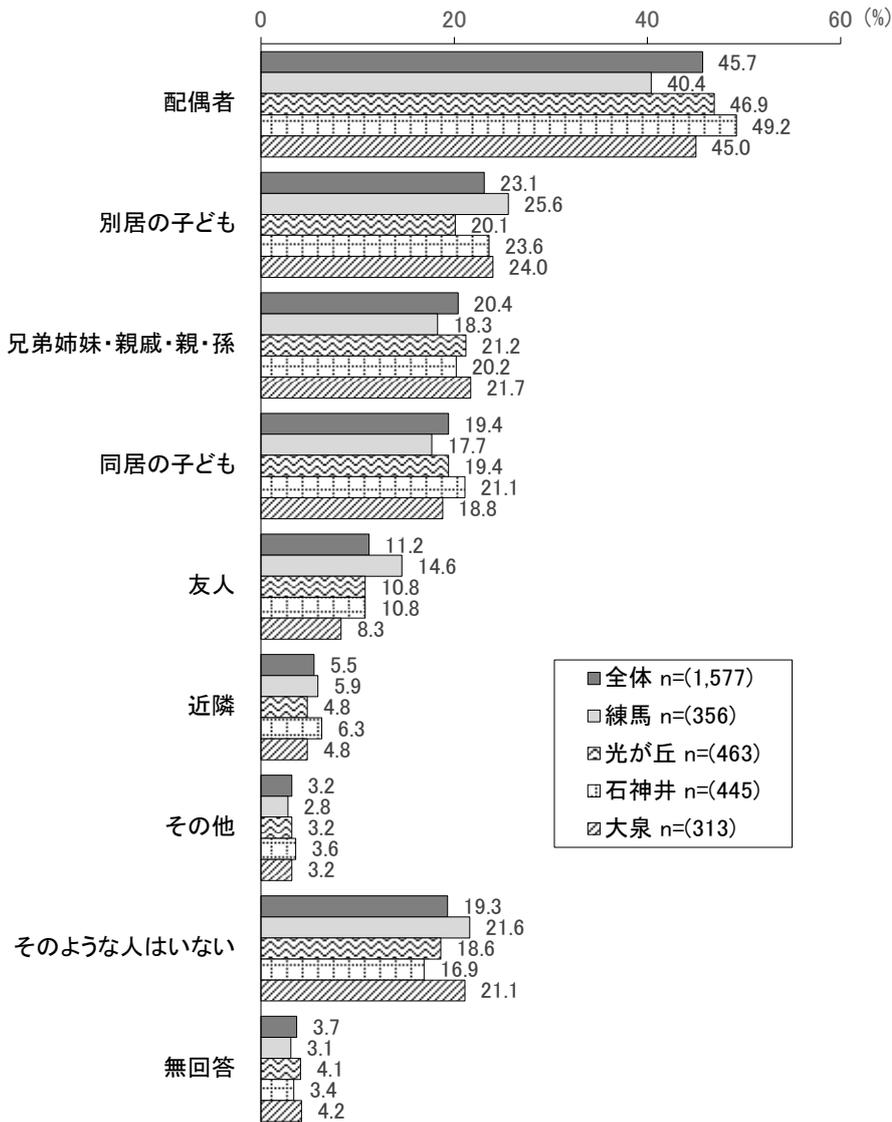


④看病や世話をしている人

○全体では、「配偶者」(45.7%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(23.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(20.4%)、「同居の子ども」(19.4%)の順となっている。一方、「そのような人はいない」は19.3%となっている。

○いずれの圏域でも、上位に挙がっている項目は全体と同様の傾向となっている。

(複数回答)

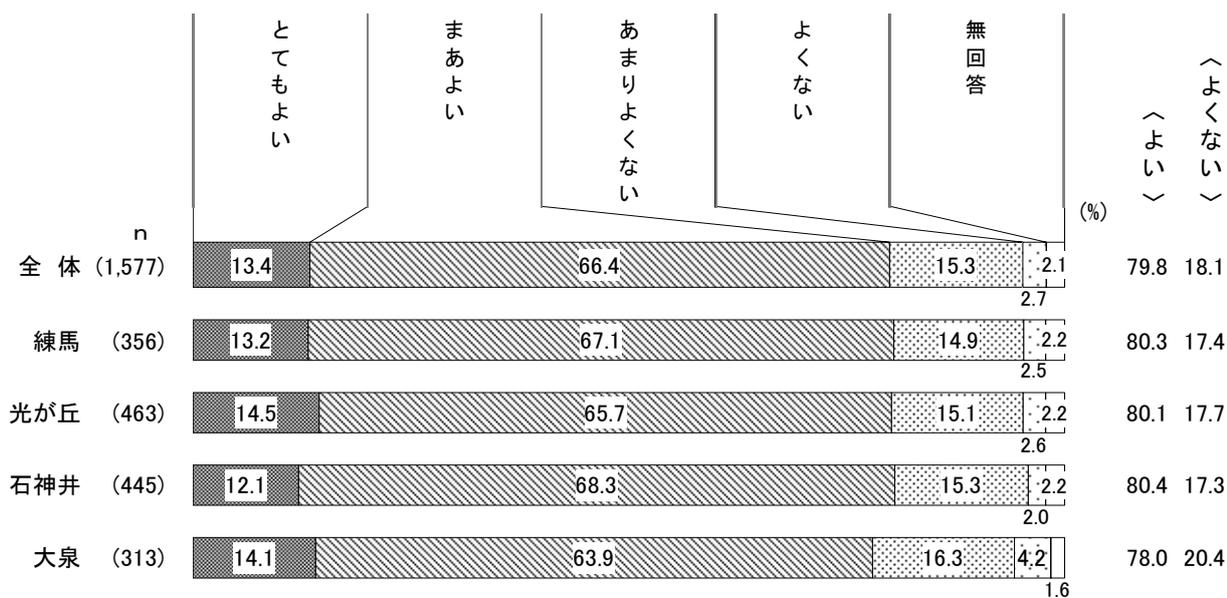


4. 健康

(1) 健康状態

○全体では、“よい”（「とてもよい」と「まあよい」の合計）が79.8%、“よくない”（「あまりよくない」と「よくない」の合計）が18.1%となっている。

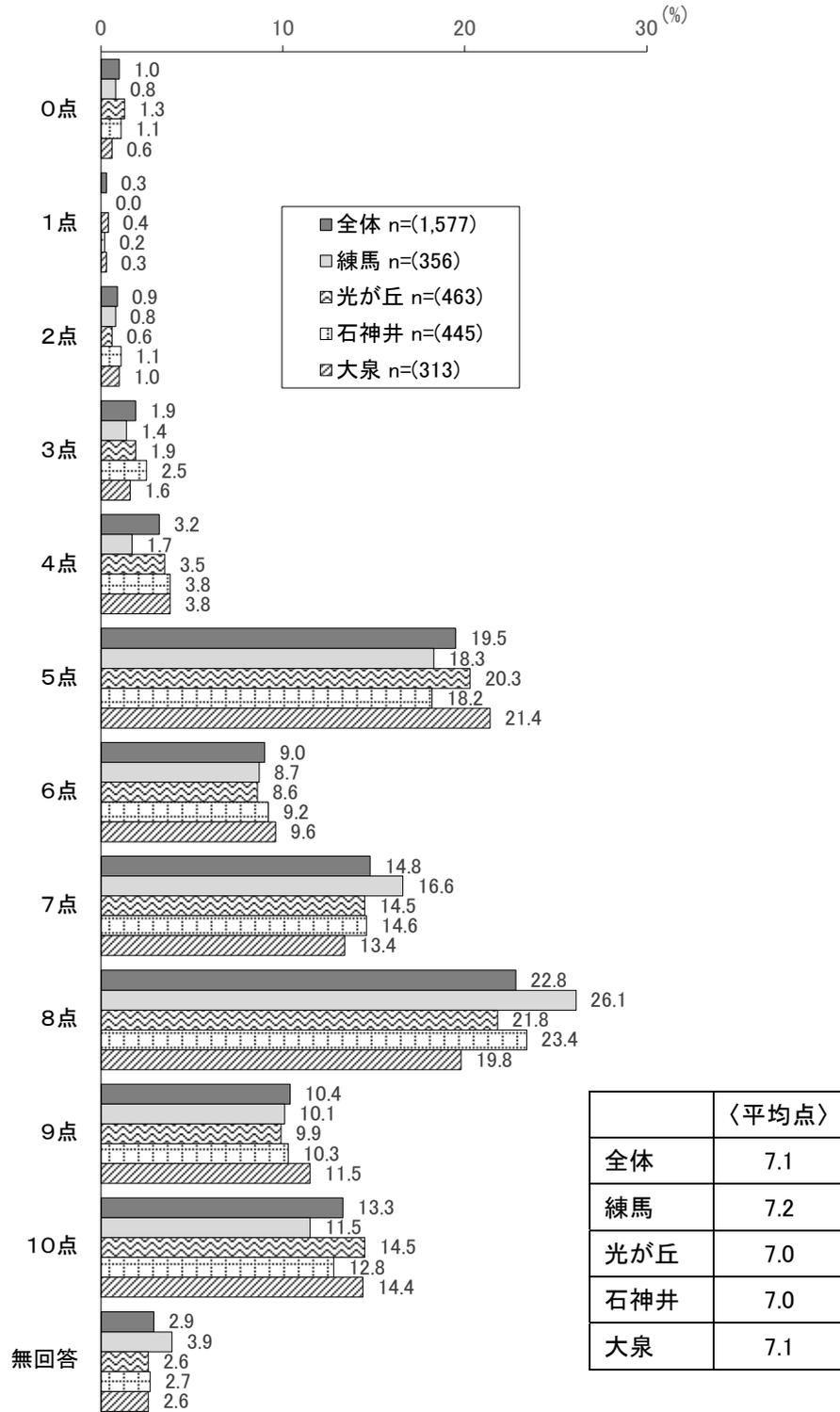
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



(2) 幸福度

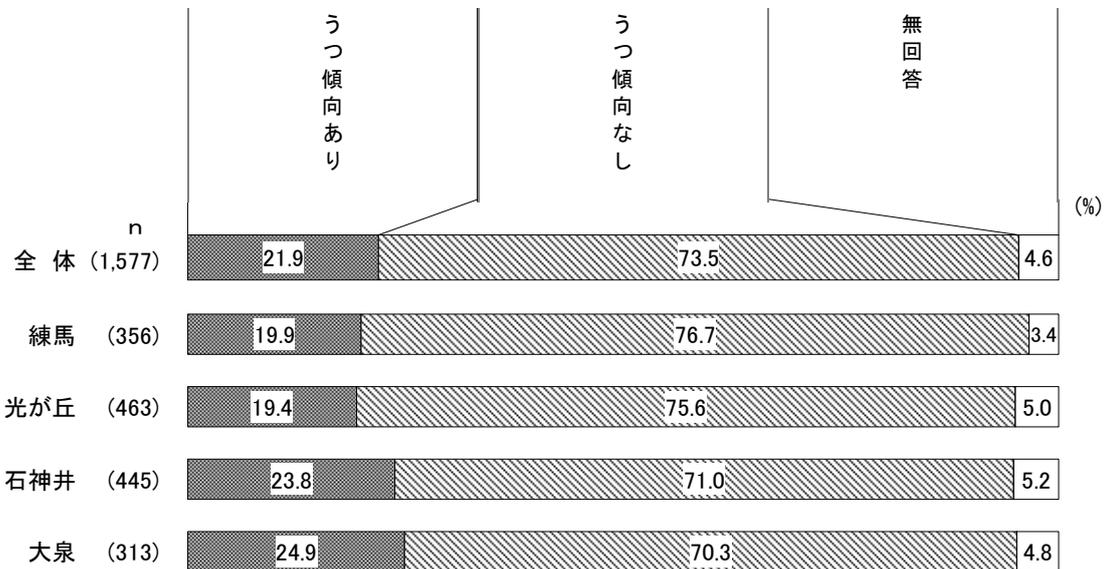
○全体では、「8点」(22.8%)が最も高く、「5点」(19.5%)、「7点」(14.8%)、「10点」(13.3%)の順となっている。平均は7.1点となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



(3) うつ傾向

- 全体では、うつ傾向のある人は21.9%となっている。
- いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

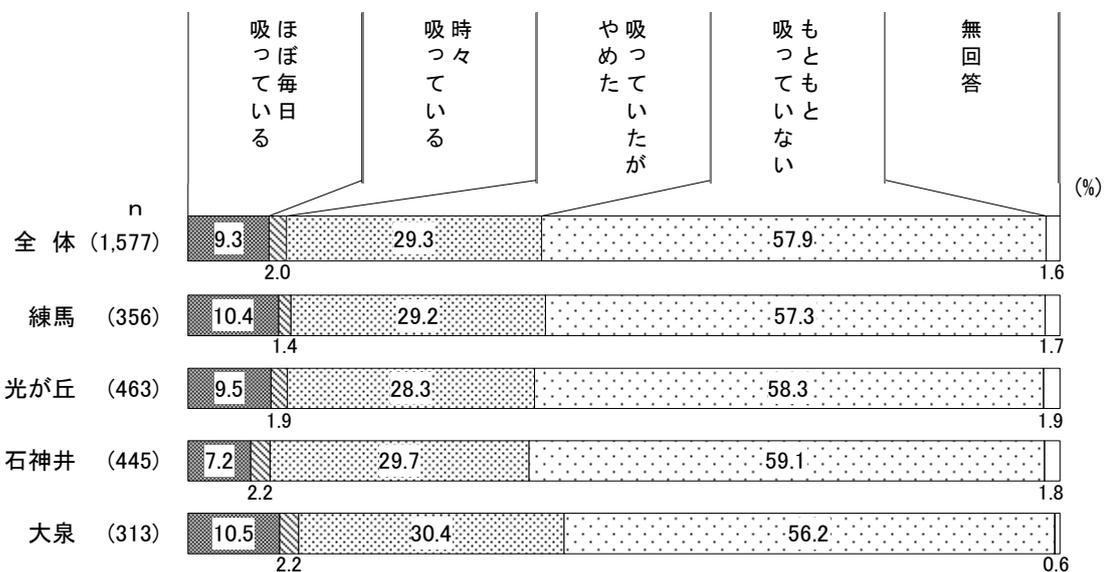


※ 下記の項目に、1つ以上該当する場合、“うつ傾向のある高齢者”としている

- ・この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった
- ・この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった

(4) 喫煙の状況

- 全体では、「ほぼ毎日吸っている」は9.3%、「時々吸っている」は29.3%となっている。
- 「吸っていたがやめた」は29.3%、「もともと吸っていない」は57.9%となっている。
- いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

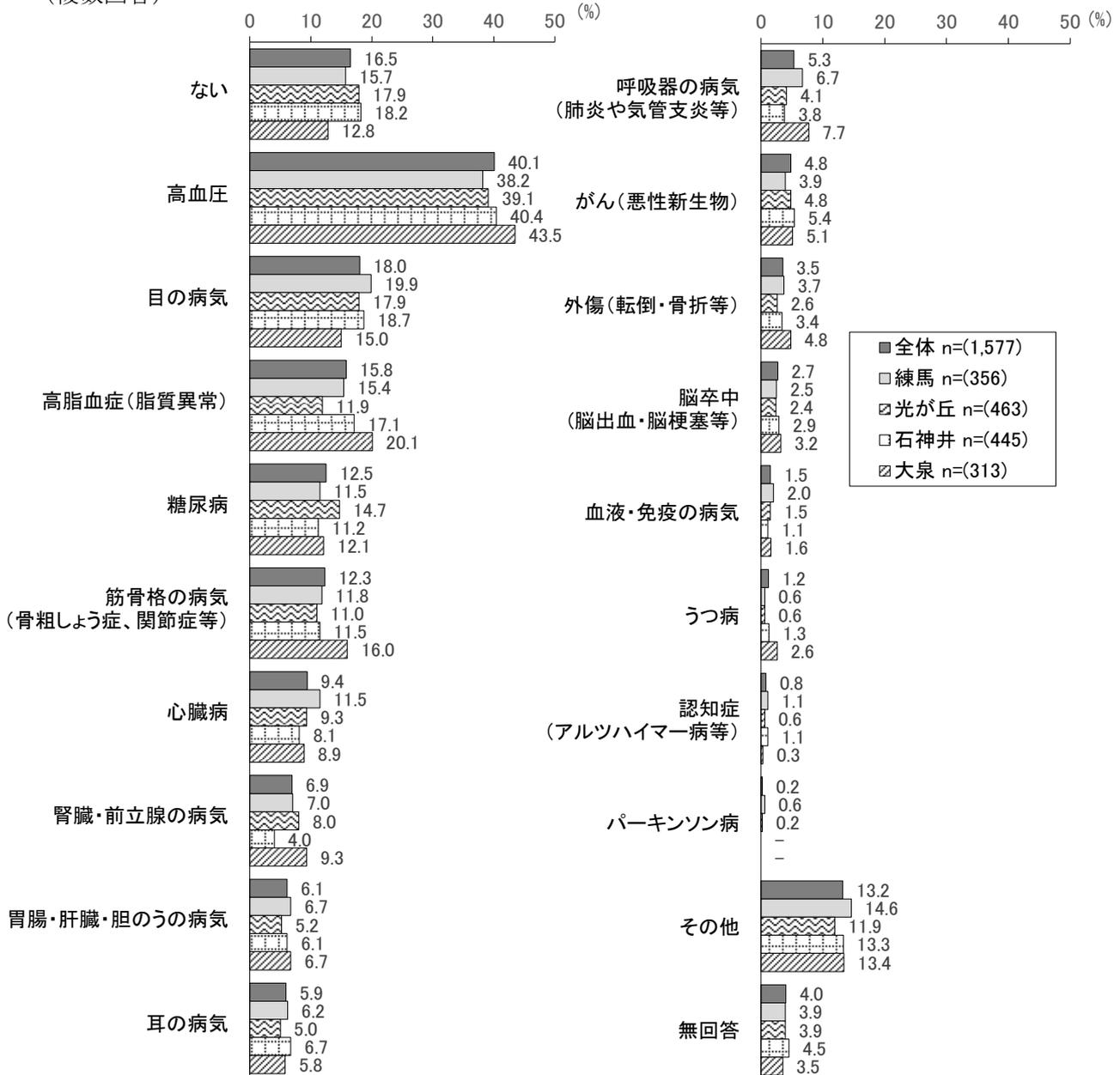


(5) 現在治療中・後遺症のある病気

○全体では、「高血圧」(40.1%)が最も高く、次いで「目の病気」(18.0%)、「高脂血症(脂質異常)」(15.8%)、「糖尿病」(12.5%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(12.3%)の順となっている。一方、「ない」は16.5%となっている。

○いずれの圏域でも、上位に挙がっている項目は全体と同様の傾向となっている。

(複数回答)

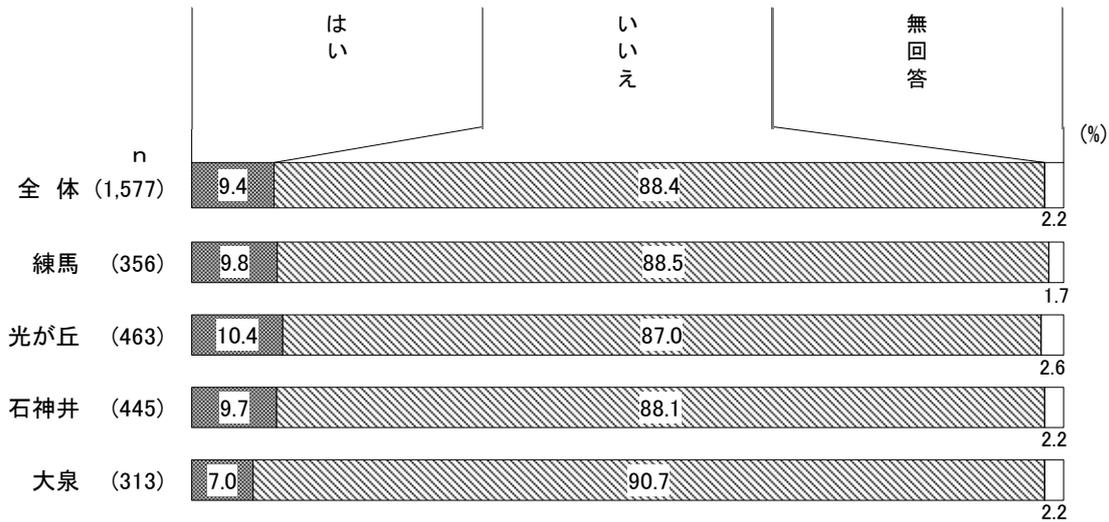


5. 認知症の相談窓口

(1) 認知症の症状がある人の有無

○全体では、認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいると回答した人（「はい」と回答した人）は9.4%となっている。

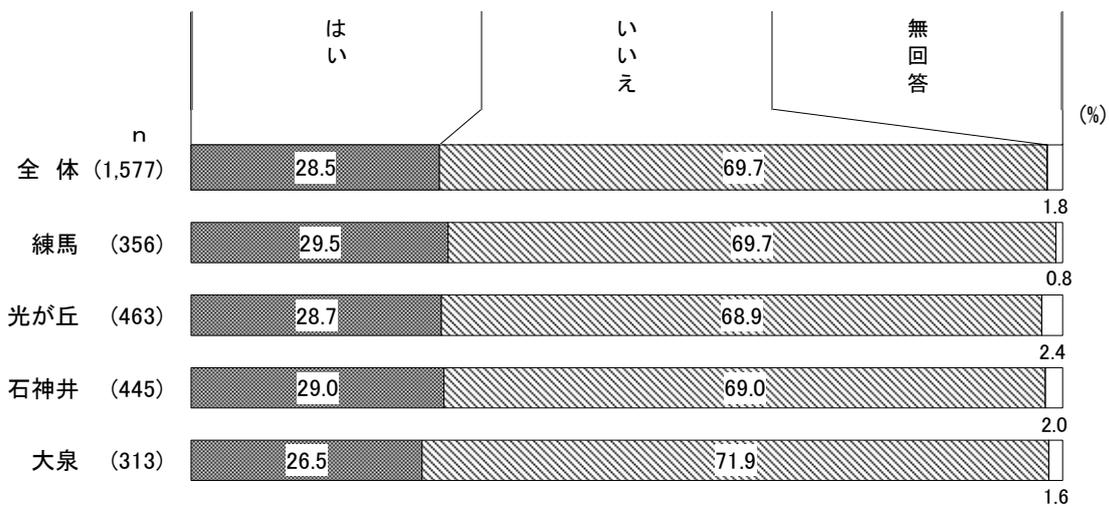
○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

○全体では、認知症に関する相談窓口を知っている人（「はい」と回答した人）は28.5%となっている。

○いずれの圏域でも、全体と同様の傾向となっている。

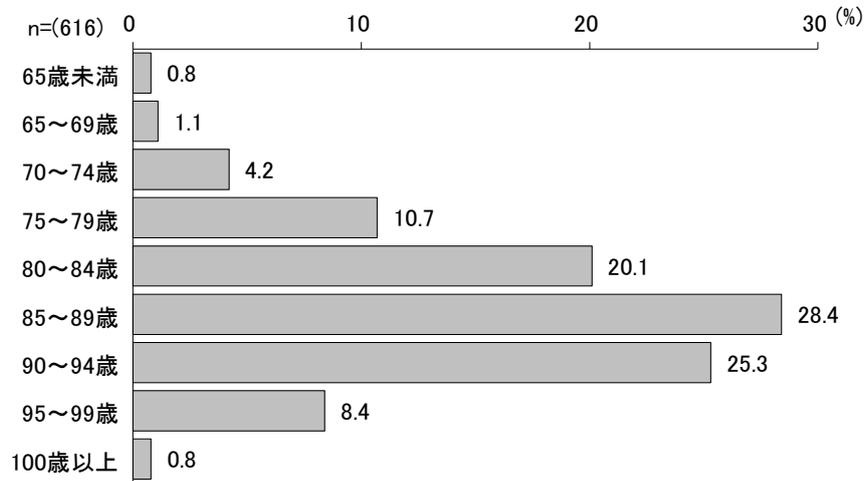


第4章 在宅介護実態調査

1. 本人の基本属性

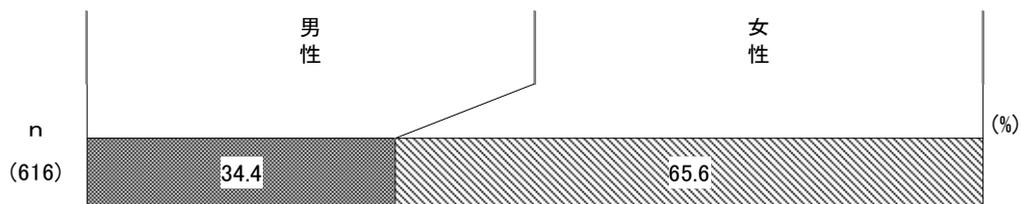
(1) 年齢

○75歳以上の後期高齢者が9割超、「65歳未満」が0.8%となっている。



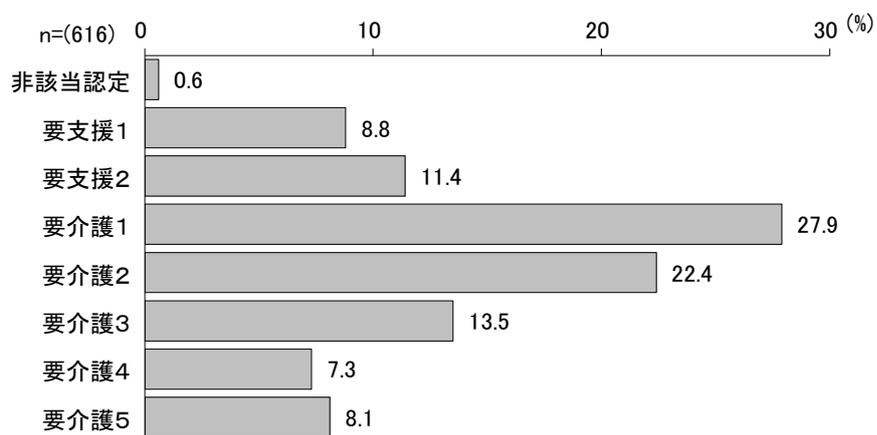
(2) 性別

○「男性」が34.4%、「女性」が65.6%となっている。



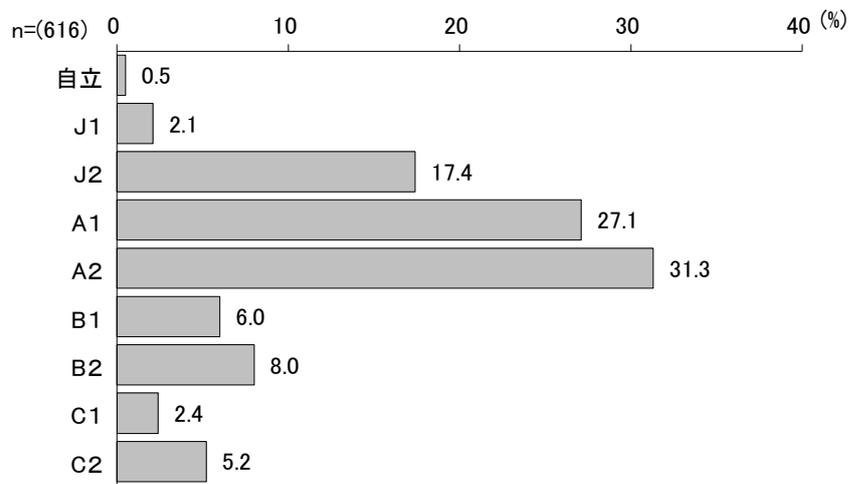
(3) 二次判定結果（要介護度）

○「要介護1」が27.9%、「要介護2」が22.4%となっている。「要支援1」と「要支援2」は合わせて20.2%、要介護3以上は28.9%となっている。



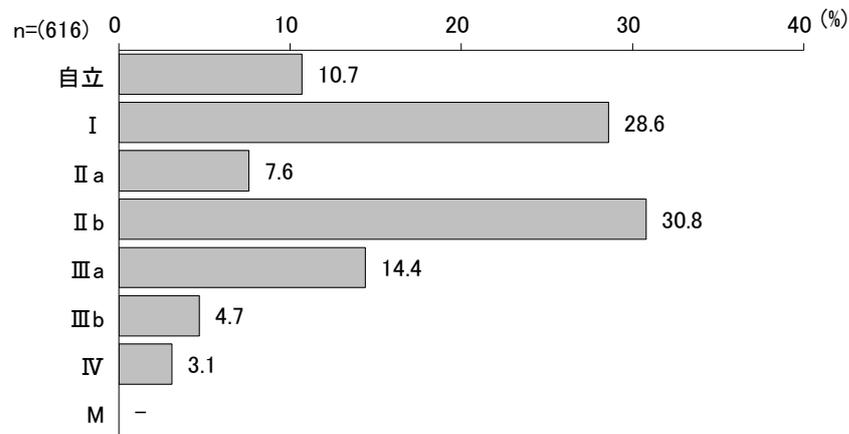
(4) 障害高齢者の日常生活自立度

○「A2」(31.3%)が最も高く、次いで「A1」(27.1%)、「J2」(17.4%)の順となっている。BおよびCランクの合計は21.6%となっている。



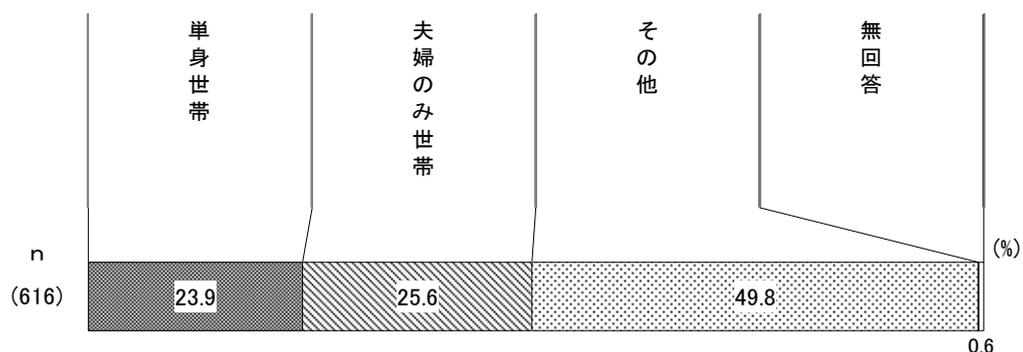
(5) 認知症高齢者の日常生活自立度

○「II b」(30.8%)が最も高く、次いで「I」(28.6%)、「III a」(14.4%)、「自立」(10.7%)の順となっている。認知症III以上は、22.2%となっている。



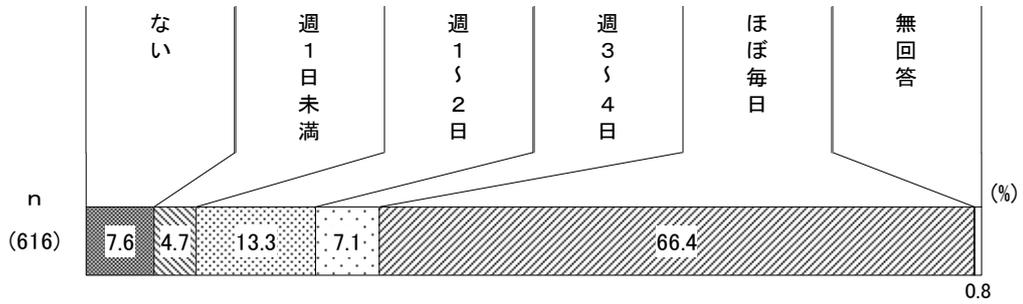
(6) 世帯類型

○「単身世帯」が23.9%、「夫婦のみ世帯」が25.6%、「その他」が49.8%となっている。



(7) 家族等による介護の頻度

- 「ほぼ毎日」(66.4%)が最も高く、次いで「週1～2日」(13.3%)となっている。
- 「ない」は7.6%となっている。



[家族等による介護の頻度 <世帯類型別>]

- 『単身世帯』、『夫婦のみ世帯』、『その他世帯』ともに「ほぼ毎日」が最も高く、それぞれ35.2%、68.8%、81.3%となっている。

	n	ない	週1日未満	週1～2日	週3～4日	ほぼ毎日 (%)
単身世帯	145	8.3	12.4	31.0	13.1	35.2
夫婦のみ世帯	157	8.9	2.5	10.8	8.9	68.8
その他世帯	305	6.6	2.3	6.2	3.6	81.3

[家族等による介護の頻度 <要介護度別・世帯類型別>]

○単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯ともに『要支援1・2』から『要介護1・2』、『要介護3以上』と要介護度の重度化に伴い「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

【単身世帯】

	n	ない	週1日未満	週1～2日	週3～4日	ほぼ毎日
要支援1・2	34	14.7	11.8	38.2	20.6	14.7
要介護1・2	73	5.5	12.3	37.0	12.3	32.9
要介護3以上	37	8.1	10.8	13.5	8.1	59.5

【夫婦のみ世帯】

	n	ない	週1日未満	週1～2日	週3～4日	ほぼ毎日
要支援1・2	33	24.2	3.0	21.2	12.1	39.4
要介護1・2	79	7.6	2.5	11.4	8.9	69.6
要介護3以上	44	-	2.3	2.3	6.8	88.6

【その他世帯】

	n	ない	週1日未満	週1～2日	週3～4日	ほぼ毎日
要支援1・2	55	14.5	3.6	10.9	7.3	63.6
要介護1・2	152	6.6	2.6	7.2	2.6	80.9
要介護3以上	97	2.1	1.0	2.1	2.1	92.8

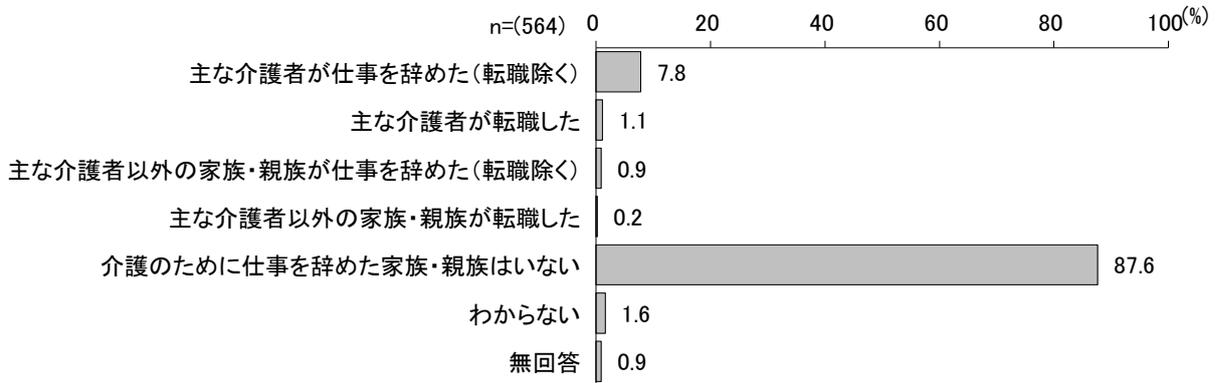
[家族等による介護の頻度 <勤務形態別>]

○『働いていない』は、「ほぼ毎日」が77.3%で『フルタイム勤務』（68.0%）と比べて高くなっている。

	n	ない	週1日未満	週1～2日	週3～4日	ほぼ毎日
フルタイム勤務	125	-	7.2	17.6	7.2	68.0
パートタイム勤務	101	-	4.0	21.8	6.9	67.3
働いていない	286	-	4.5	9.8	8.4	77.3

(8) 介護のための離職の有無

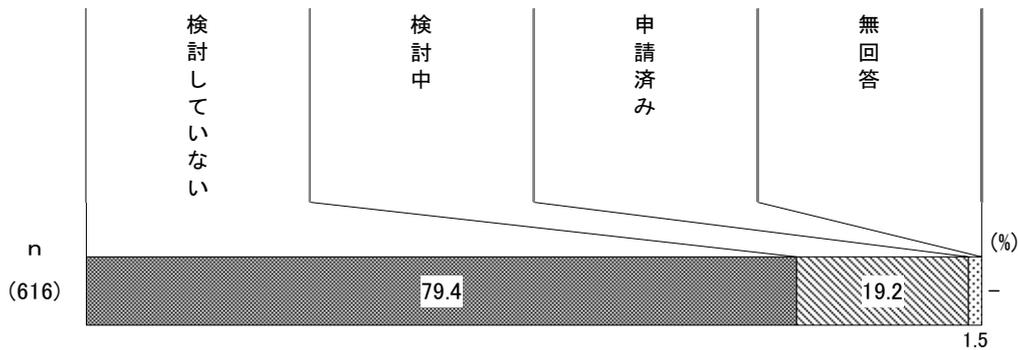
○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が87.6%で最も高くなっている。



(9) 施設等への入所・入居の検討状況

○「検討していない」(79.4%)が最も高くなっている。

○「検討中」と「申請済み」は合わせて約2割となっている。



[施設等への入所・入居の検討状況 <要介護度別>]

○要介護度別にみると、『要支援1・2』から『要介護1・2』、『要介護3以上』と要介護度の重度化に伴い「検討中」の割合が高くなっている。

○『要介護3以上』においても「検討していない」が61.8%を占めている。

	n	検討していない (%)	検討中 (%)	申請済み (%)
要支援1・2	124	92.7	7.3	-
要介護1・2	310	83.9	15.8	0.3
要介護3以上	178	61.8	33.7	4.5

[施設等への入所・入居の検討状況 <世帯類型別>]

- 世帯類型別にみると、『単身世帯』、『夫婦のみ世帯』、『その他世帯』ともに、「検討していない」が最も高く、それぞれ68.0%、84.2%、82.4%となっている。
- 『単身世帯』は、「検討中」が29.9%で他の世帯類型と比べて高くなっている。

(%)

	n	検討していない	検討中	申請済み
単身世帯	147	68.0	29.9	2.0
夫婦のみ世帯	158	84.2	13.9	1.9
その他世帯	307	82.4	16.6	1.0

[施設等への入所・入居の検討状況 <要介護度別・世帯類型別>]

- 単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯ともに、『要支援1・2』から『要介護1・2』、『要介護3以上』と要介護度の重度化に伴い、施設等への入所を「検討していない」の割合が低くなり、「検討中」の割合が高くなっている。

【単身世帯】

(%)

	n	検討していない	検討中	申請済み
要支援1・2	34	85.3	14.7	-
要介護1・2	75	65.3	34.7	-
要介護3以上	37	56.8	35.1	8.1

【夫婦のみ世帯】

(%)

	n	検討していない	検討中	申請済み
要支援1・2	33	100.0	-	-
要介護1・2	80	90.0	8.8	1.3
要介護3以上	44	61.4	34.1	4.5

【その他世帯】

	n	検討していない	検討中	申請済み
要支援1・2	55	94.5	5.5	-
要介護1・2	153	89.5	10.5	-
要介護3以上	97	63.9	33.0	3.1

【施設等への入所・入居の検討状況 <サービス利用の組み合わせ別・要介護度別>】

○サービス利用の組み合わせ別にみると、要介護3以上、要介護4以上ともに『訪問系のみ』のサービス利用者は、「検討していない」が『訪問系を含む組み合わせ』、『通所系・短期系のみ』と比べて高くなっている。

【要介護3以上】

	n	検討していない	検討中	申請済み
訪問系のみ	49	77.6	20.4	2.0
訪問系を含む組み合わせ	52	46.2	48.1	5.8
通所系・短期系のみ	45	48.9	44.4	6.7

【要介護4以上】

	n	検討していない	検討中	申請済み
訪問系のみ	34	82.4	17.6	-
訪問系を含む組み合わせ	25	44.0	44.0	12.0
通所系・短期系のみ	23	39.1	52.2	8.7

【施設等への入所・入居の検討状況 <勤務形態別>】

○勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』、『働いていない』ともに「検討していない」が最も高く、それぞれ72.0%、85.1%、78.7%となっている。

○『フルタイム勤務』は、「検討中」が27.2%で他の勤務形態と比べて高くなっている。

	n	検討していない	検討中	申請済み
フルタイム勤務	125	72.0	27.2	0.8
パートタイム勤務	101	85.1	14.9	-
働いていない	286	78.7	19.2	2.1

[施設等への入所・入居の検討状況 <就労継続見込み別>]

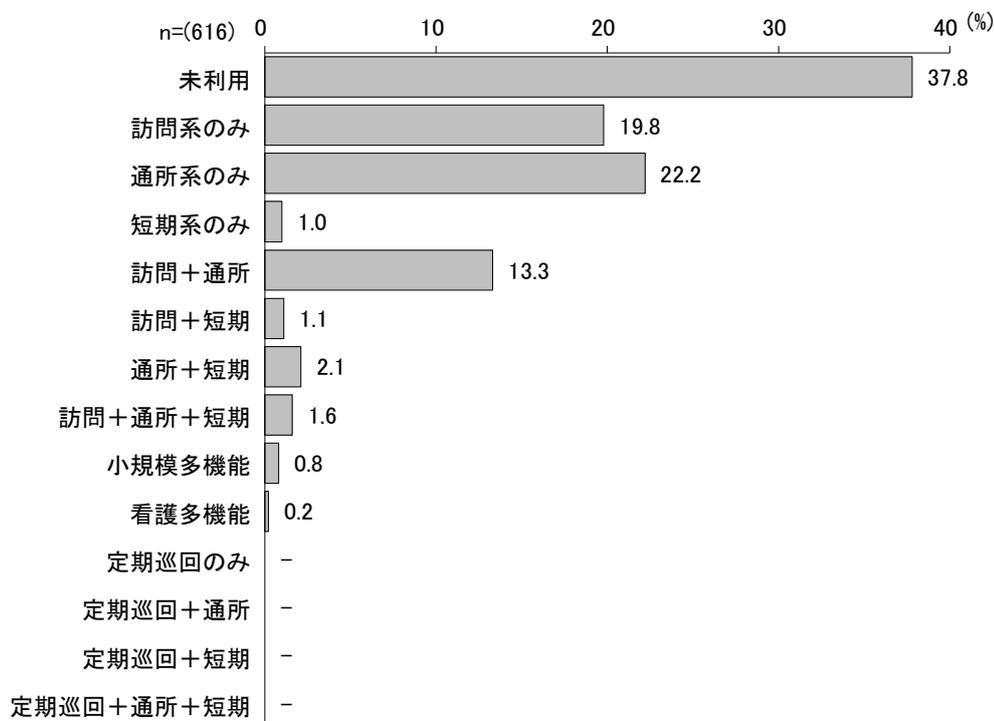
○『問題なく、続けていける』から『問題はあるが、何とか続けていける』、『続けていくのは「難しい』』と就労継続見込みが難しくなるにつれ、施設等への入所を「検討していない」の割合が低くなり、「検討中」の割合が高くなっている。

【要介護度2以上、主な介護者が就労中】

	n	検討していない	検討中	申請済み
問題なく、続けていける	15	80.0	20.0	-
問題はあるが、何とか続けていける	78	67.9	30.8	1.3
続けていくのは「やや+かなり難しい」	22	40.9	59.1	-

(10) サービス利用の組み合わせ

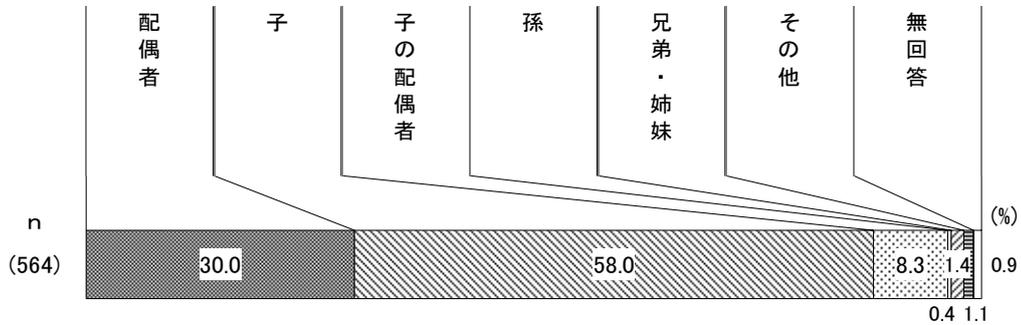
○「通所系のみ」が22.2%、「訪問系のみ」が19.8%、「訪問+通所」が13.3%となっている。
 ○「未利用」は37.8%となっている。



2. 主な介護者の基本属性

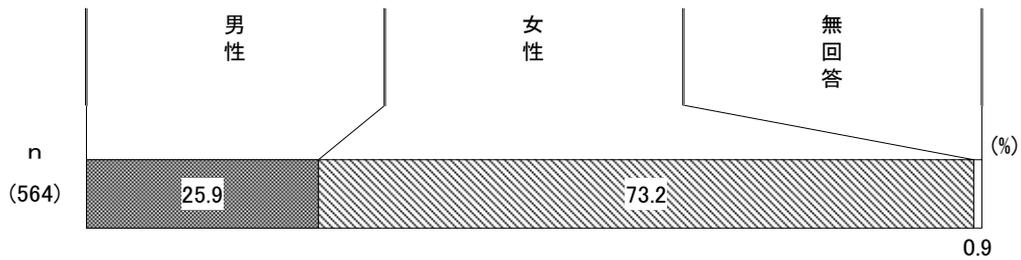
(1) 主な介護者の本人との関係

○「子」(58.0%)が最も高く、次いで「配偶者」が30.0%となっている。



(2) 主な介護者の性別

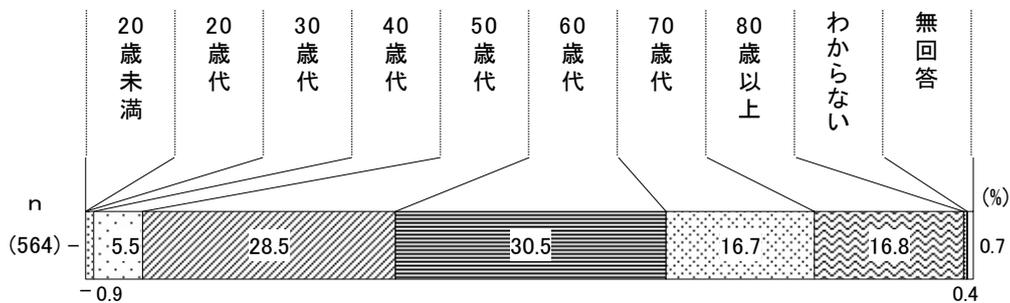
○「女性」が73.2%で、「男性」(25.9%)と比べて高くなっている。



(3) 主な介護者の年齢

○「50歳代」と「60歳代」を合わせると59.0%で半数以上を占めている。

○70歳代以上は33.5%となっている。



[主な介護者の年齢 <本人の年齢別>]

○本人の年齢が『70歳代』では主な介護者は「70歳代」が最も高く37.0%、本人の年齢が『80歳代』では「50歳代」が最も高く40.1%、本人の年齢が『90歳以上』では「60歳代」が最も高く58.8%となっている。

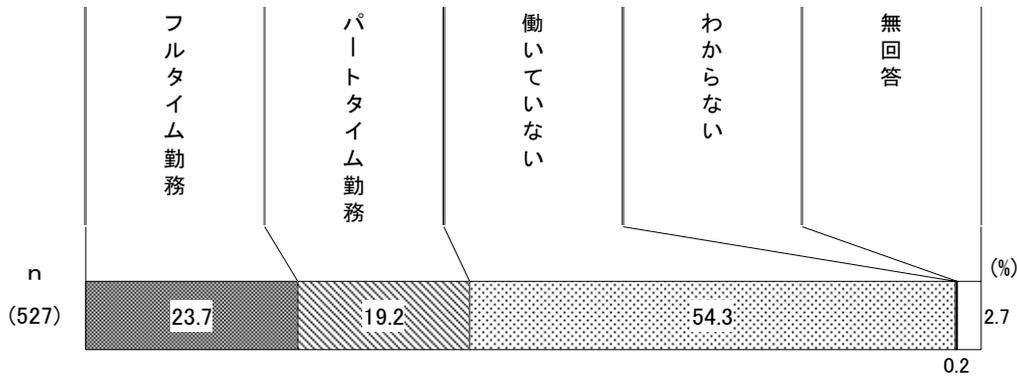
	n	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
65歳未満	4	-	25.0	75.0	-	-	-
65～69歳	7	-	-	-	85.7	14.3	-
70歳代	81	2.5	21.0	18.5	4.9	37.0	16.0
80歳代	272	0.4	4.0	40.1	17.6	14.7	23.2
90歳以上	194	1.0	1.0	17.5	58.8	11.9	9.8

(%)

3. 主な介護者の働き方と就労継続見込み

(1) 主な介護者の勤務形態

○「働いていない」(54.3%)が最も高く、次いで「フルタイム勤務」(23.7%)、「パートタイム勤務」(19.2%)の順となっている。



[要介護度 <主な介護者の勤務形態別>]

○本人の要介護度を主な介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』ともに「要介護1」が最も高く、それぞれ29.6%、26.3%となっている。

○『働いていない』では、「要介護1」、「要介護2」がともに26.0%と最も高くなっている。

	n	(%)					
		要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
フルタイム勤務	125	15.2	29.6	20.8	21.6	6.4	6.4
パートタイム勤務	99	22.2	26.3	22.2	12.1	9.1	8.1
働いていない	285	17.2	26.0	26.0	12.3	9.1	9.5

[認知症高齢者の日常生活自立度 <主な介護者の勤務形態別>]

○本人の認知症高齢者の日常生活自立度を主な介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』、『働いていない』ともに「Ⅱ」が最も高く、それぞれ37.6%、45.5%、38.8%となっている

	n	自立 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ 以上
フルタイム勤務	125	32.8	37.6	29.6
パートタイム勤務	101	33.7	45.5	20.8
働いていない	286	38.5	38.8	22.7

[世帯類型 <主な介護者の勤務形態別>]

○本人の世帯類型を主な介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』、『働いていない』ともに「その他世帯」が最も高く、それぞれ53.2%、55.4%、48.9%となっている。

	n	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他世帯
フルタイム勤務	124	36.3	10.5	53.2
パートタイム勤務	101	27.7	16.8	55.4
働いていない	284	16.5	34.5	48.9

[主な介護者の年齢 <主な介護者の勤務形態別>]

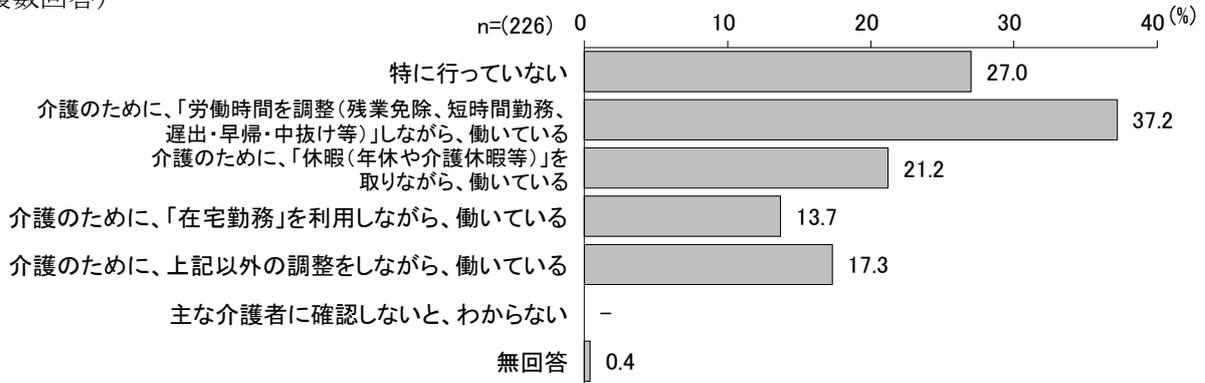
○主な介護者の年齢を主な介護者の勤務形態別にみると、『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』とともに「50歳代」が最も高く、それぞれ44.4%、43.6%となっている。次いで「60歳代」が高く、「50歳代」と「60歳代」を合わせるとそれぞれ8割前後を占めている。

	n	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
フルタイム勤務	124	0.8	12.9	44.4	38.7	2.4	0.8
パートタイム勤務	101	2.0	6.9	43.6	34.7	8.9	4.0
働いていない	283	0.4	1.8	12.7	27.2	27.6	30.4

(2) 主な介護者の働き方の調整状況

- 「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」（37.2%）が最も高くなっている。
- 「特に行っていない」は27.0%となっている。

（複数回答）



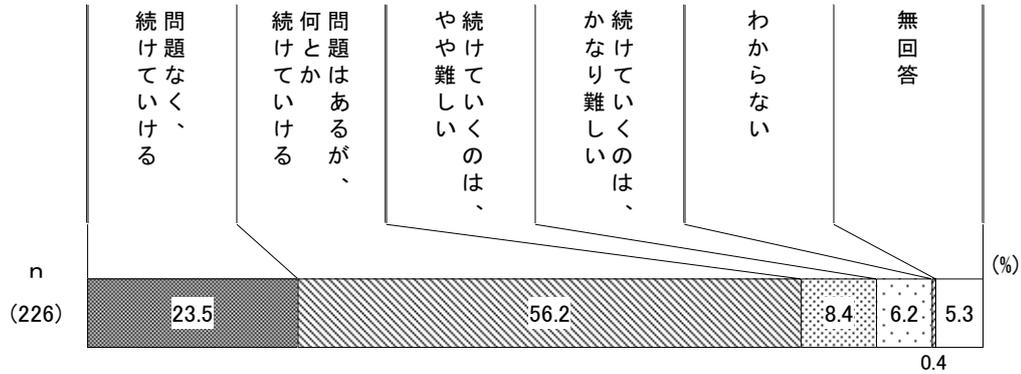
[主な介護者の働き方の調整状況 <勤務形態別>]

- 『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』ともに「介護のために、労働時間を調整しながら働いている」が最も高く、それぞれ32.0%、44.0%となっている。

	n	特に行っていない (%)	残業免除等のため、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等を利用しながら働いている (%)	介護のための休暇（年休や介護休暇）を取りながら働いている (%)	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら働いている (%)	介護のために、上記以外の調整をしながら働いている (%)	わからない (%)
フルタイム勤務	125	29.6	32.0	26.4	21.6	12.8	-
パートタイム勤務	100	24.0	44.0	15.0	4.0	23.0	-

(3) 主な介護者の就労継続の見込み

- 「問題はあるが、何とか続けていける」(56.2%)が最も高くなっている。
- 「問題なく、続けていける」は23.5%である一方で、働く上で何らかの問題を感じている主な介護者は約7割となっている(「問題はあるが、何とか続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」の合計)。



[主な介護者の就労継続の見込み <勤務形態別>]

- 『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ64.4%、53.1%となっている。

	n	問題なく、 続けていける	問題はあるが、 何とか続けていける	続けていくのは、 やや難しい	続けていくのは、 かなり難しい	わからない	(%)
フルタイム勤務	118	19.5	64.4	10.2	5.1	0.8	
パートタイム勤務	96	31.3	53.1	7.3	8.3	-	

[主な介護者(就労中)の就労継続の見込み <要介護度別>]

- 『要支援1～要介護1』、『要介護2以上』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ49.5%、67.8%となっている。

	n	問題なく、 続けていける	問題はあるが、 何とか続けていける	続けていくのは、 やや難しい	続けていくのは、 かなり難しい	わからない	(%)
要支援1～要介護1	97	39.2	49.5	5.2	5.2	1.0	
要介護2以上	115	13.0	67.8	11.3	7.8	-	

[主な介護者(就労中)の就労継続の見込み <認知症高齢者の日常生活自立度別>]

○『自立+ I』、『Ⅱ以上』ともに、「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ48.6%、64.8%となっている。

(%)						
	n	続問 け題 てなく ける	何問 と題 かは 続ける が、 いける	や続 やけ や難 てい しい くの は、	か続 なけ りて 難い くの は、	わ から ない
自立+ I	72	36.1	48.6	9.7	4.2	1.4
Ⅱ以上	142	19.0	64.8	8.5	7.7	-

[主な介護者(就労中)の就労継続の見込み <サービス利用の組み合わせ別> -要介護2以上-]

○『訪問系利用あり』、『訪問系利用なし』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ60.3%、75.4%となっている。

(%)						
	n	続問 け題 てなく ける	何問 と題 かは 続ける が、 いける	や続 やけ や難 てい しい くの は、	か続 なけ りて 難い くの は、	わ から ない
訪問系利用あり	58	17.2	60.3	12.1	10.3	-
訪問系利用なし	57	8.8	75.4	10.5	5.3	-

[主な介護者(就労中)の就労継続の見込み <サービス利用の組み合わせ別> -認知症Ⅱ以上-]

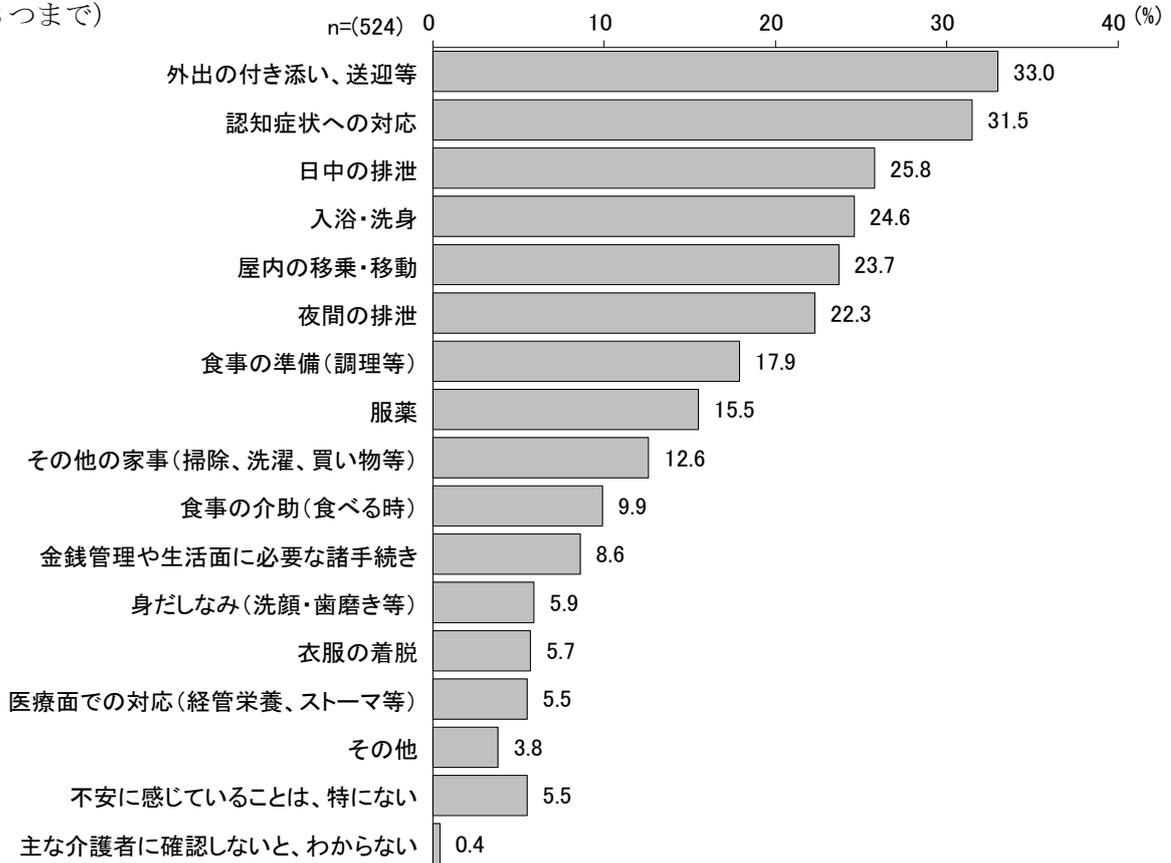
○『訪問系利用あり』、『訪問系利用なし』ともに、「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ62.5%、66.7%となっている。

(%)						
	n	続問 け題 てなく ける	何問 と題 かは 続ける が、 いける	や続 やけ や難 てい しい くの は、	か続 なけ りて 難い くの は、	わ から ない
訪問系利用あり	64	18.8	62.5	7.8	10.9	-
訪問系利用なし	78	19.2	66.7	9.0	5.1	-

(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

- 「外出の付き添い、送迎等」(33.0%)、「認知症状への対応」(31.5%)が上位に挙がっている。
- 「不安に感じていることは、特にない」は5.5%にとどまっている。

(○は3つまで)



※無回答を除いて集計

[主な介護者が不安に感じる介護 <要介護度別>]

- 『要支援1・2』、『要介護1・2』では「外出の付き添い、送迎等」が最も高く、それぞれ50.5%、38.7%となっている。
- 『要介護3以上』では「日中の排泄」(45.7%)が最も高く、次いで「夜間の排泄」(36.6%)、「認知症状への対応」(34.1%)の順となっている。

	n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助(食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	食事の準備(調理等)	その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	主な介護者に確認しないと、わからない
要支援1・2	91	16.5	16.5	6.6	23.1	1.1	1.1	19.8	50.5	4.4	15.4	3.3	25.3	24.2	6.6	4.4	8.8	1.1
要介護1・2	266	16.9	15.8	6.4	26.7	5.6	5.6	24.1	38.7	22.6	35.7	4.9	17.3	12.0	9.4	4.1	4.9	0.4
要介護3以上	164	45.7	36.6	17.7	22.6	9.1	7.9	25.0	14.0	9.8	34.1	7.9	15.2	6.7	8.5	3.0	4.9	-

[主な介護者が不安に感じる介護 <認知症高齢者の日常生活自立度別>]

- 『Ⅱ』、『Ⅲ以上』ともに「認知症状への対応」が最も高く、それぞれ38.4%、49.6%となっている。
- 『自立+Ⅰ』では「外出の付き添い、送迎等」が最も高く45.2%となっている。

	n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	主な介護者に確認しないと、わからない
自立+Ⅰ	186	18.3	15.1	6.5	26.3	3.2	4.8	28.5	45.2	7.0	11.3	5.9	19.9	16.1	8.1	4.3	9.1	1.1
Ⅱ	211	25.6	23.2	8.1	26.1	5.2	4.7	22.7	32.2	22.3	38.4	6.2	16.1	12.3	7.6	4.3	3.8	-
Ⅲ以上	127	37.0	31.5	18.1	19.7	11.0	8.7	18.1	16.5	16.5	49.6	3.9	18.1	7.9	11.0	2.4	3.1	-

[主な介護者が不安に感じる介護 <サービス利用の組み合わせ別> -要介護3以上-]

- 『訪問系のみ』では、「日中の排泄」（43.9%）が最も高く、次いで「夜間の排泄」（31.7%）の順となっている。
- 『訪問系を含む組み合わせ』では、「認知症状への対応」（47.1%）が最も高く、次いで「日中の排泄」（43.1%）、「夜間の排泄」（41.2%）の順となっている。
- 『通所系・短期系のみ』では、「日中の排泄」（45.5%）が最も高く、次いで「認知症状への対応」（40.9%）、「夜間の排泄」（38.6%）の順となっている。

	n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	主な介護者に確認しないと、わからない
訪問系のみ	41	43.9	31.7	19.5	22.0	2.4	9.8	22.0	12.2	7.3	12.2	7.3	22.0	9.8	9.8	4.9	14.6	-
訪問系を含む組み合わせ	51	43.1	41.2	17.6	15.7	11.8	13.7	25.5	9.8	11.8	47.1	7.8	13.7	5.9	9.8	3.9	-	-
通所系・短期系のみ	44	45.5	38.6	15.9	31.8	13.6	4.5	22.7	20.5	9.1	40.9	4.5	11.4	2.3	6.8	2.3	2.3	-

[主な介護者が不安に感じる介護 <サービス利用の組み合わせ別> -認知症Ⅲ以上-]

- 『訪問系のみ』では「食事の準備（調理等）」（33.3%）が最も高くなっている。
- 『訪問系を含む組み合わせ』、『通所系・短期系のみ』では「認知症状への対応」が最も高く、それぞれ59.1%、47.7%となっている。

	n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	主な介護者に確認しないと、わからない
訪問系のみ	18	27.8	22.2	16.7	11.1	-	5.6	11.1	11.1	22.2	27.8	5.6	33.3	5.6	11.1	5.6	16.7	-
訪問系を含む組み合わせ	44	36.4	27.3	18.2	15.9	13.6	13.6	25.0	15.9	18.2	59.1	4.5	18.2	4.5	18.2	-	-	-
通所系・短期系のみ	44	38.6	38.6	18.2	25.0	15.9	6.8	13.6	20.5	18.2	47.7	2.3	13.6	6.8	6.8	4.5	-	-

[主な介護者が不安に感じる介護 <主な介護者（就労中）の就労継続の見込み別>]

- 『問題なく、続けていける』では「外出の付き添い、送迎等」（34.0%）が最も高くなっている。
- 『問題はあるが、何とか続けていける』では、「認知症状への対応」（34.6%）が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」（33.9%）の順となっている。
- 『続けていくのは「難しい」』では、「認知症状への対応」（46.9%）が最も高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」（ともに37.5%）の順となっている。

	n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	主な介護者に確認しないと、わからない
問題なく、続けていける	53	11.3	9.4	11.3	22.6	3.8	5.7	18.9	34.0	24.5	22.6	9.4	15.1	15.1	17.0	3.8	7.5	-
問題はあるが、何とか続けていける	127	23.6	17.3	11.0	26.8	6.3	4.7	15.7	33.9	21.3	34.6	5.5	26.8	15.0	11.0	2.4	4.7	-
続けていくのは「難しい」	32	37.5	37.5	9.4	21.9	6.3	6.3	15.6	37.5	21.9	46.9	3.1	21.9	9.4	15.6	3.1	-	-

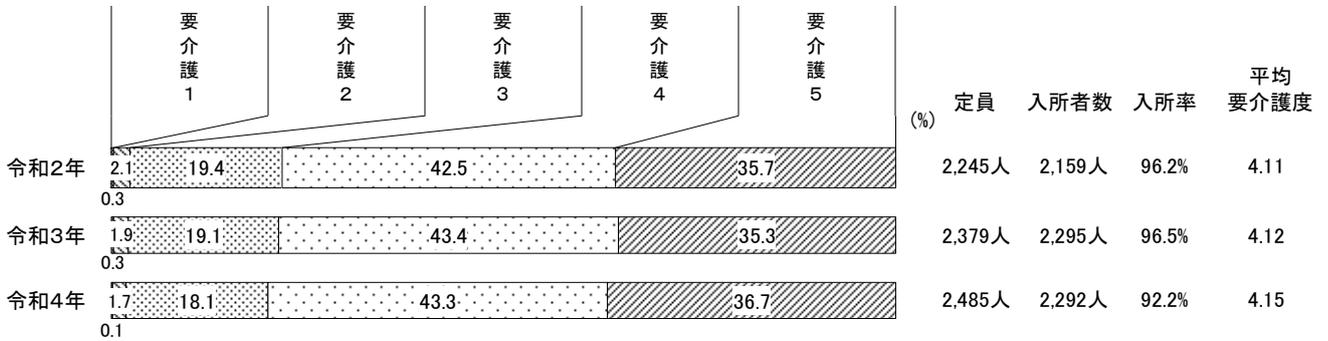
第5章 施設整備調査

1. 特別養護老人ホーム

(1) 要介護度別利用状況（各年12月末現在）

○要介護3以上の方の割合は、いずれの年も9割超となっている。

○定員に対する入所者の割合（入所率）は、いずれの年も9割超となっている。



※令和4年度に開設した3施設を除いて集計

(2) 入所前の住所地（令和4年12月末現在）

○入所前の住所地が区内である方の割合は、95.6%となっている。

	圏域					練馬区計	都内(練馬区除く22区)	都内(その他)	都外	計
	練馬	光が丘	石神井	大泉	無回答					
入所者	405	622	636	528	0	2,191	50	22	29	2,292
	17.7%	27.1%	27.7%	23.0%	0.0%	95.6%	2.2%	1.0%	1.3%	

※令和4年度に開設した3施設を除いて集計

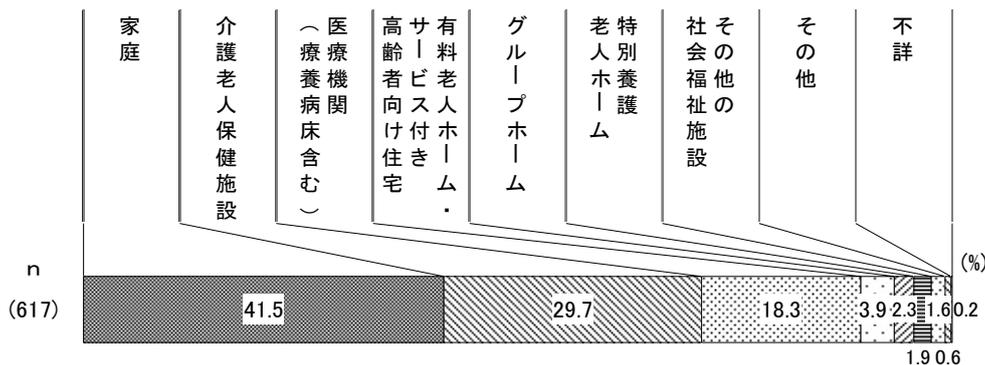
(3) 令和4年中の入退所状況

①入退所

○令和4年中の入所者の入所前の生活場所は、「家庭」(41.5%)が最も高く、次いで「介護老人保健施設」(29.7%)、「医療機関(療養病床含む)」(18.3%)の順となっている。

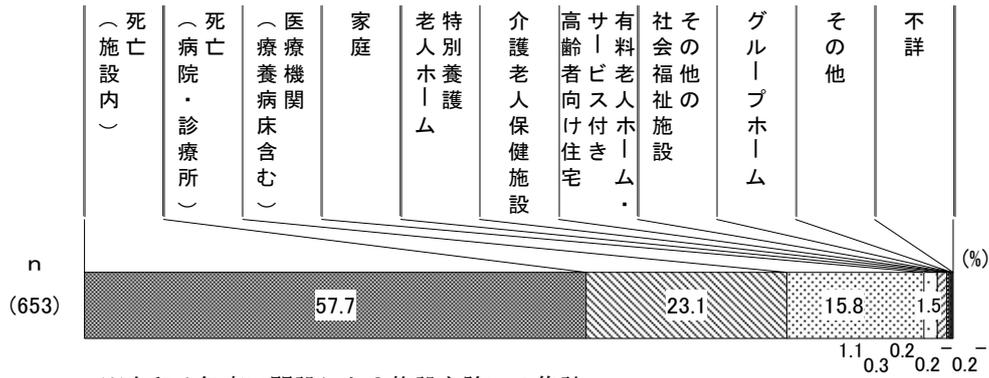
○退所後の行先(退所の理由)は、「死亡(施設内)」(57.7%)が最も高く、次いで「死亡(病院・診療所)」(23.1%)の順となっている。

【入所前の生活場所】



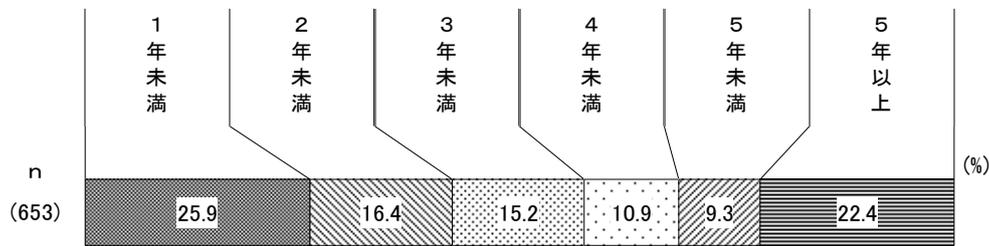
※令和4年度に開設した3施設を除いて集計

【退所後の行先（退所の理由）】



②退所者の在所期間

○令和4年中の退所者の在所期間は、「1年未満」が25.9%で最も高くなっている。



(4) 入所者の待機期間

○令和4年中の入所者のうち、申込みから3か月以内に入所した方の割合は、5割半ばとなっている。

○申込みから1年以内に入所した方の割合は、93.2%を占めている。

○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、申込みから1年以内に入所した方の割合が4.8ポイント高くなっている。

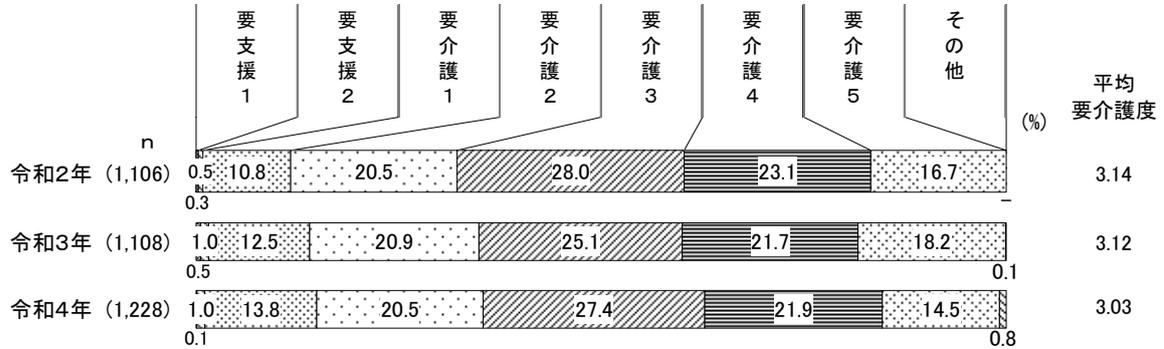
	n	待機期間 (%)							1年以内 (%)
		1か月以内	3か月以内	6か月以内	1年以内	2年以内	3年以内	3年超	
令和4年度	617	18.0	35.7	27.1	12.5	5.0	1.1	0.6	93.2
令和元年度	619	10.7	29.6	36.0	12.1	8.1	2.6	1.0	88.4

※令和4年度に開設した3施設を除いて集計

2. ショートステイ

(1) 要介護度別利用状況（各年12月実績）

○要介護1以上の方の割合は、いずれの年も10割近くとなっている。



○利用日数を利用者数で除した平均利用日数は、いずれの年も約8日となっている。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他	計
令和2年 12月	利用日数	17	52	824	1,468	2,696	2,466	1,653	0	9,176
	利用者数	3	6	120	227	310	255	185	0	1,106
	平均利用日数	5.7	8.7	6.9	6.5	8.7	9.7	8.9	-	8.3
令和3年 12月	利用日数	55	71	905	1,569	2,580	2,205	1,823	4	9,212
	利用者数	6	11	138	232	278	240	202	1	1,108
	平均利用日数	9.2	6.5	6.6	6.8	9.3	9.2	9.0	4.0	8.3
令和4年 12月	利用日数	2	53	1,198	1,697	2,815	2,451	1,698	65	9,979
	利用者数	1	12	170	252	336	269	178	10	1,228
	平均利用日数	2.0	4.4	7.0	6.7	8.4	9.1	9.5	6.5	8.1

(2) 利用者の住所地（令和4年12月実績）

○区民の方の利用割合は、91.5%となっている。

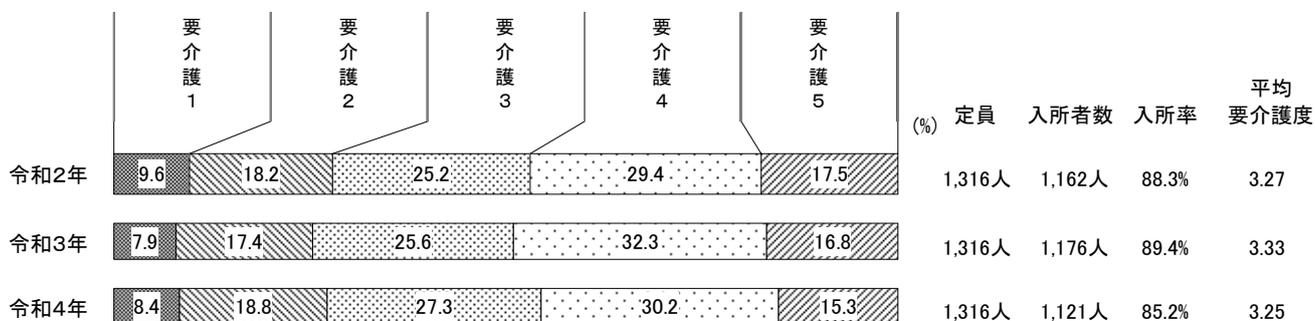
施設所在地	施設数	定員数	圏域				練馬区計	都内(練馬区除く22区)	都内(その他)	都外	不明	計
			練馬	光が丘	石神井	大泉						
区内全域	42	427	203	294	307	320	1,124	55	30	17	2	1,228
			16.5%	23.9%	25.0%	26.1%	91.5%	4.5%	2.4%	1.4%	0.2%	
練馬圏域	5	34	47	17	4	5	73	3	0	0	1	76
			61.8%	22.4%	5.3%	6.6%	96.1%	3.9%	0.0%	0.0%	1.3%	
光が丘圏域	14	149	99	229	66	58	452	29	2	7	0	490
			20.2%	46.7%	13.5%	11.8%	92.2%	5.9%	0.4%	1.4%	0.0%	
石神井圏域	8	85	23	21	151	35	230	18	2	2	1	252
			9.1%	8.3%	59.9%	13.9%	91.3%	7.1%	0.8%	0.8%	0.4%	
大泉圏域	15	159	34	27	86	222	369	5	26	8	0	408
			8.3%	6.6%	21.1%	54.4%	90.4%	1.2%	6.4%	2.0%	0.0%	

3. 介護老人保健施設

(1) 要介護度別利用状況（各年12月末現在）

○要介護3以上の方の割合は、いずれの年も7割超となっている。

○定員に対する入所者の割合（入所率）は、令和4年で85.2%となっている。



(2) 入所前の住所地（令和4年12月末現在）

○入所前の住所地が区内である方の割合は、63.3%となっている。

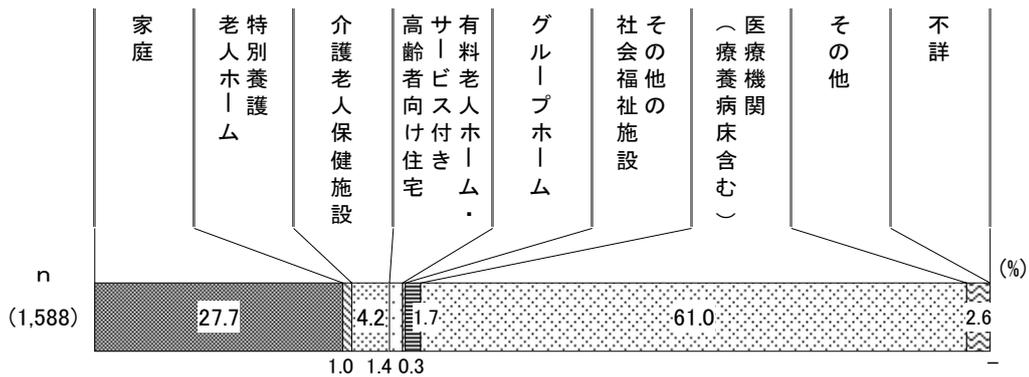
	圏域				練馬区計	都内(練馬区除く22区)	都内(その他)	都外	計
	練馬	光が丘	石神井	大泉					
入所者	214	179	163	154	710	258	59	94	1,121
	19.1%	16.0%	14.5%	13.7%	63.3%	23.0%	5.3%	8.4%	

(3) 令和4年中の入退所状況

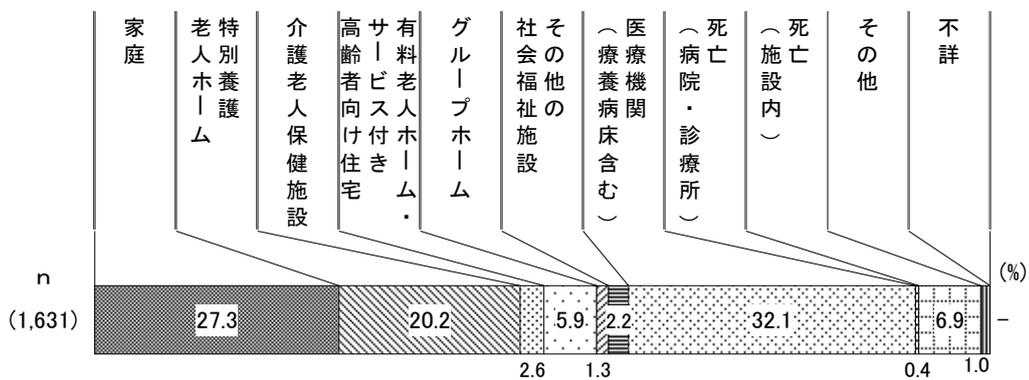
○令和4年中の入所者の入所前の生活場所は、「医療機関（療養病床含む）」（61.0%）が最も高く、次いで「家庭」（27.7%）の順となっている。

○退所後の行先（退所の理由）は、「医療機関（療養病床含む）」（32.1%）が最も高く、次いで「家庭」（27.3%）の順となっている。「死亡」は施設内、病院・診療所を合わせても1割未満となっている。

【入所前の生活場所】



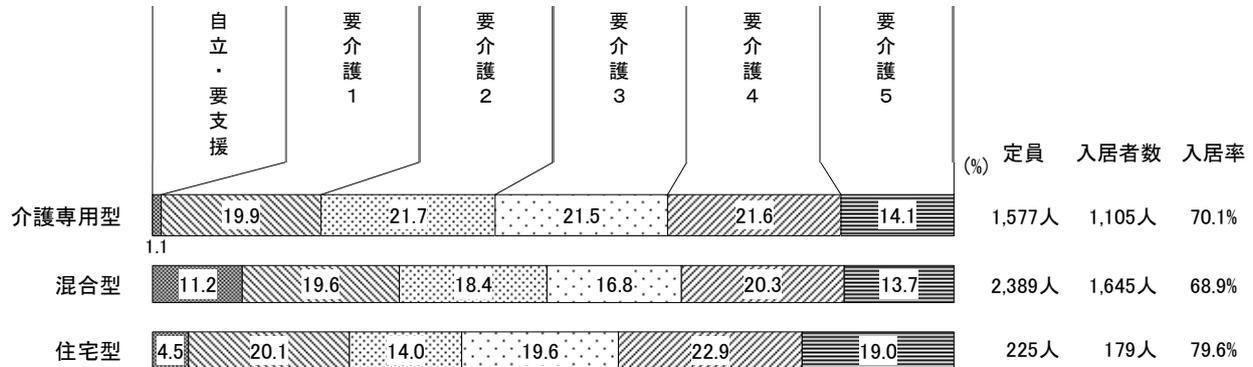
【退所後の行先（退所の理由）】



4. 有料老人ホーム

(1) 要介護度別利用状況（令和4年12月末現在）

○要介護3以上の方の割合は、いずれの施設類型でも半数以上となっている。



(2) 入居前の住所地（令和4年12月末現在）

○入居前の住所地在区内である方の割合は、42.6%となっている。

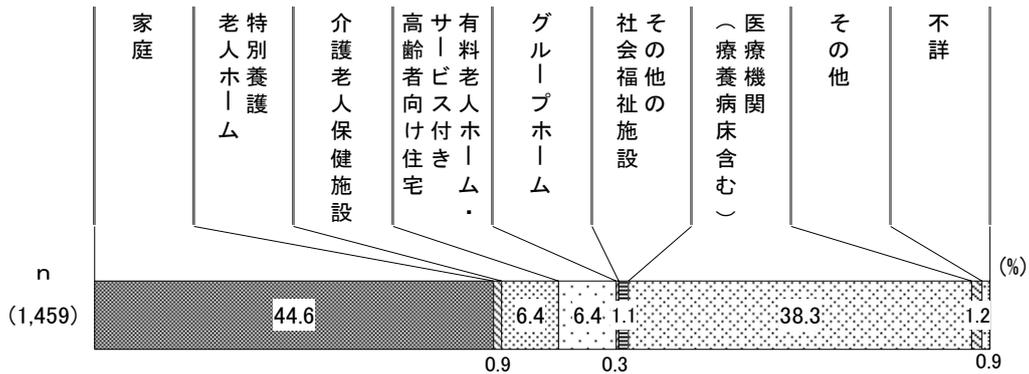
	圏域					練馬区計	都内(練馬区除く22区)	都内(その他)	都外	不明	計
	練馬	光が丘	石神井	大泉	無回答						
入所者	343	263	336	242	63	1,247	1,053	325	297	7	2,929
	11.7%	9.0%	11.5%	8.3%	2.2%	42.6%	36.0%	11.1%	10.1%	0.2%	

(3) 令和4年中の入退居状況

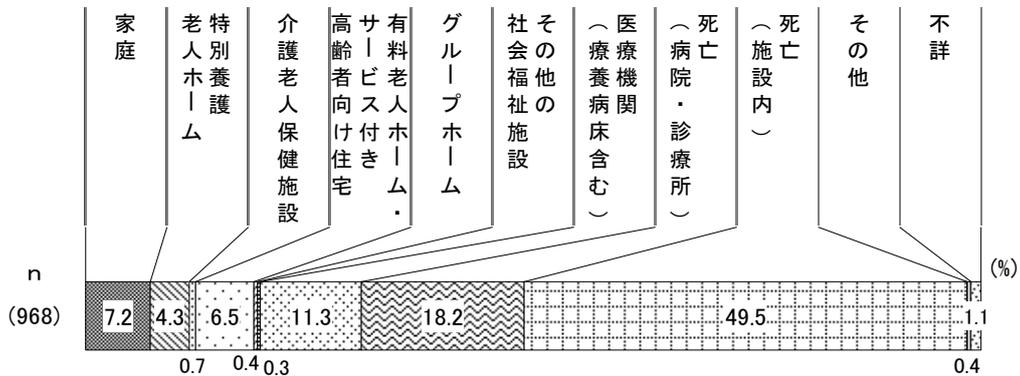
○令和4年中の入居者の入居前の生活場所は、「家庭」(44.6%)が最も高く、次いで「医療機関(療養病床含む)」(38.3%)の順となっている。

○退居後の行先(退居の理由)は、「死亡(施設内)」(49.5%)が最も高く、次いで「死亡(病院・診療所)」(18.2%)の順となっている。

【入居前の生活場所】



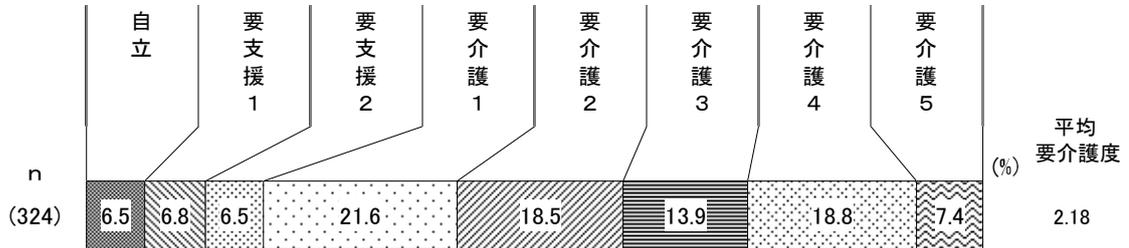
【退居後の行先(退居の理由)】



5. サービス付き高齢者向け住宅

(1) 要介護度別利用状況（令和4年12月末現在）

○要介護3以上の方の割合は約4割となっている。一方、「自立」は6.5%となっている。



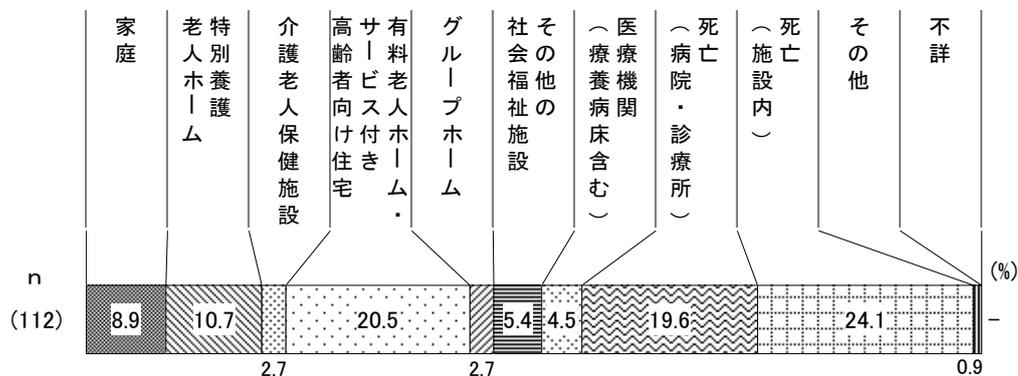
(2) 入居者の前住所地（令和4年12月末現在）

○入居者のうち、入居前の住所地が区内である方の割合は約4割となっている。

	圏域					練馬区計	都内(練馬区除く22区)	都内(その他)	都外	計
	練馬	光が丘	石神井	大泉	無回答					
サービス付き高齢者向け住宅全体	35	5	43	11	30	124	111	35	54	324
	10.8%	1.5%	13.3%	3.4%	9.3%	38.3%	34.3%	10.8%	16.7%	
特定施設入居者生活介護	34	4	39	3	21	101	95	31	42	269
	12.6%	1.5%	14.5%	1.1%	7.8%	37.5%	35.3%	11.5%	15.6%	
その他	1	1	4	8	9	23	16	4	12	55
	1.8%	1.8%	7.3%	14.5%	16.4%	41.8%	29.1%	7.3%	21.8%	

(3) 令和4年中の退居状況

○退居後の行先（退居の理由）は、「死亡（施設内）」（24.1%）が最も高く、次いで「有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」（20.5%）、「死亡（病院・診療所）」（19.6%）の順となっている。



6. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

(1) 利用者数（令和4年12月末時点）

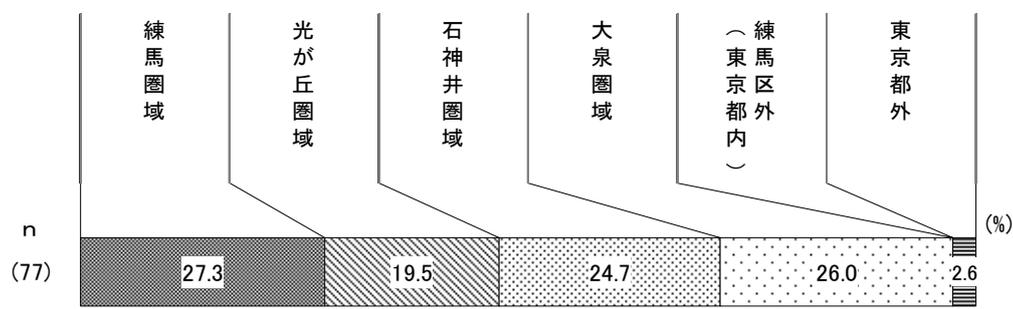
①契約者数

○契約者数は、「6～10人」が62.5%、「16～20人」が25.0%となっている。

		n						(%)
	n	1～5人	6～10人	11～15人	16～20人	21人以上	無回答・不明	
全体	8	12.5	62.5	0.0	25.0	0.0	0.0	

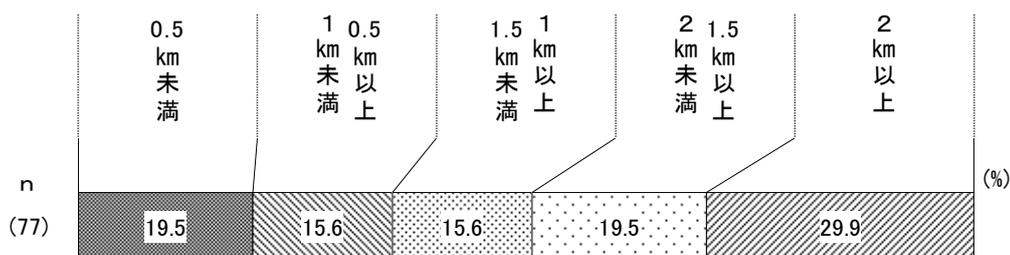
②圏域別

○利用者数を圏域別で見ると、「練馬圏域」が27.3%、「大泉圏域」が26.0%、「石神井圏域」が24.7%となっている。



③事業所からの距離別

○利用者数を事業所からの距離別で見ると、「2 km以上」が29.9%、次いで「0.5 km未満」と「1.5 km以上 2 km未満」が19.5%となっている。



(2) 利用者数について

○利用者数について、「適正数を下回っている」が62.5%となっている。

		n				(%)
	n	適正数を上回っている	適正数を下回っている	適正数である	その他	
全体	8	0.0	62.5	37.5	0.0	

(3) 利用待機者

○利用待機者は、すべての事業所が「いない」と回答している。

		n			(%)
	n	いない	いる	その他	
全体	8	100.0	0.0	0.0	

(4) 看取りの実績（年間）

○看取りを行った実績は、「5～6人」が37.5%、「1～2人」が25.0%となっている。

(%)

	n	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	9人以上
全体	8	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0	12.5

(5) 地域密着型サービスの課題（複数回答）

○すべての事業所が「サービスの内容があまり知られていない」と回答している。

(%)

	n	サービスの内容があまり知られていない	利用者が限定される（要支援を除くなど）	事業所の数が多い	事業所の数が少ない	介護報酬・加算が少ない	各事業所間の連携	よくわからない	その他
全体	8	100.0	37.5	12.5	12.5	12.5	37.5	0.0	12.5

(6) 運営推進会議の開催状況（年間）

○運営推進会議の開催状況は、「2～3回」が87.5%となっている。

(%)

	n	0～1回	2～3回	4～5回	6～7回	8回以上
全体	8	12.5	87.5	0.0	0.0	0.0

(7) 運営推進会議の参加者（複数回答）

○「ケアマネジャー」と「地域包括支援センター職員」が87.5%となっている。

(%)

	n	民生委員・町会関係者	ケアマネジャー	利用者家族	行政職員	地域包括支援センター職員	その他
全体	8	25.0	87.5	25.0	37.5	87.5	25.0

(8) 地域交流の取組と今後の意向

○地域との交流を図るために取り組んでいることが「ある」は75.0%となっている。

「ない」と回答したいずれの事業所も今後は取り組む予定が「ある」としている。

				(%)
	n	ある	ない	
全体	8	75.0	25.0	

					(%)
	n	ある	ない	その他	
全体	2	100.0	0.0	0.0	

(9) 地域交流推進への課題（複数回答）

○「地域交流を行うための人員配置ができない」が62.5%となっている。

(%)

	n	地域交流の方法がわからない	地域交流を行うための人員配置ができない	地域の情報がない	地域交流の必要性を感じていない	その他
全体	8	25.0	62.5	12.5	12.5	12.5

(10) B C Pの策定状況と今後の動向

○すべての事業所が「どちらのBCPも策定している」と回答している。

(%)

	n	どちらのBCPも策定している	いずれかのBCPのみ策定している	策定していない
全体	8	100.0	0.0	0.0

(11) B C Pの作成に必要な支援

○「作成例の提示」が75.0%、「区による研修」が50.0%となっている。

(%)

	n	区による研修	作成例の提示	アドバイザーによる個別相談	事業所間での情報共有	その他
全体	8	50.0	75.0	12.5	37.5	0.0

7. 夜間対応型訪問介護

(1) 利用者数（令和4年12月末時点）

①契約者数

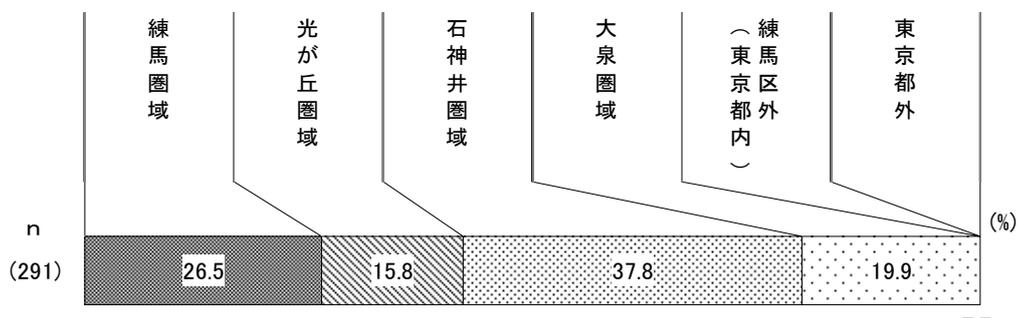
○契約者数は、「101～150人」、「151～200人」がそれぞれ50.0%となっている。

	n	1～50人	51～100人	101～150人	151～200人	201人以上	無回答・不明
全体	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

(%)

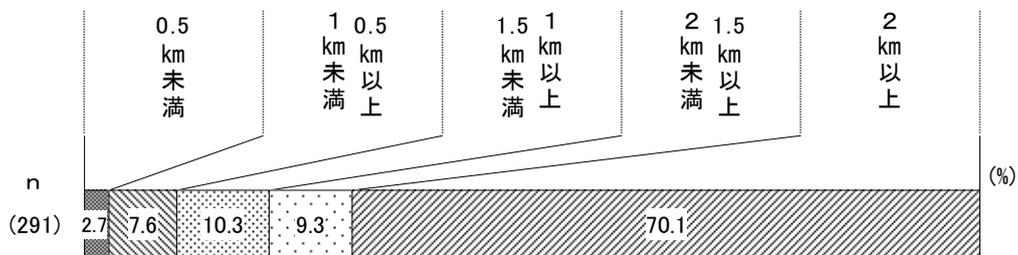
②圏域別

○利用者数を圏域別で見ると、「石神井圏域」が37.8%、「練馬圏域」が26.5%となっている。



③事業所からの距離別

○利用者数を事業所からの距離別で見ると、「2 km以上」が70.1%となっている。



(2) 利用者数について

○利用者数について、すべての事業所が「適正数を下回っている」と回答している。

	n	適正数を上回っている	適正数を下回っている	適正数である	その他
全体	2	0.0	100.0	0.0	0.0

(%)

(3) 利用待機者

○利用待機者は、すべての事業所が「いない」と回答している。

	n	いない	いる	その他
全体	2	100.0	0.0	0.0

(%)

(4) 看取りの実績（年間）

○看取りを行った実績は、「0人」、「9人以上」がそれぞれ50.0%となっている。

		（%）					
	n	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	9人以上
全体	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

(5) 地域密着型サービスの課題（複数回答）

○「サービスの内容があまり知られていない」、「利用者が限定される」が100.0%となっている。

（%）

	n	サービスの内容があまり知られていない	利用者が限定される（要支援を除くなど）	事業所の数が多い	事業所の数が少ない	介護報酬・加算が少ない	各事業所間の連携	よくわからない	その他
全体	2	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

(6) 地域交流の取組と今後の意向

○地域との交流を図るために取り組んでいることが「ある」は50.0%となっている。

「ない」と回答した事業所も今後は取り組む予定が「ある」としている。

（%）				（%）					
	n	ある	ない		n	ある	ない	その他	
全体	2	50.0	50.0	⇒	全体	1	100.0	0.0	0.0

(7) 地域交流推進への課題（複数回答）

○すべての事業所が「地域の情報が無い」と回答している。

（%）

	n	地域交流の方法がわからない	地域交流を行うための人員配置ができない	地域の情報が無い	地域交流の必要性を感じていない	その他
全体	2	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0

(8) BCPの策定状況と今後の動向

○すべての事業所が「どちらのBCPも策定している」と回答している。

（%）

	n	どちらのBCPも策定している	いずれかのBCPのみ策定している	策定していない
全体	2	100.0	0.0	0.0

(9) BCPの作成に必要な支援

○すべての事業所が「作成例の提示」と回答している。

（%）

	n	区による研修	作成例の提示	アドバイザーによる個別相談	事業所間での情報共有	その他
全体	2	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0

8. 地域密着型通所介護

(1) 利用者数（令和4年12月末時点）

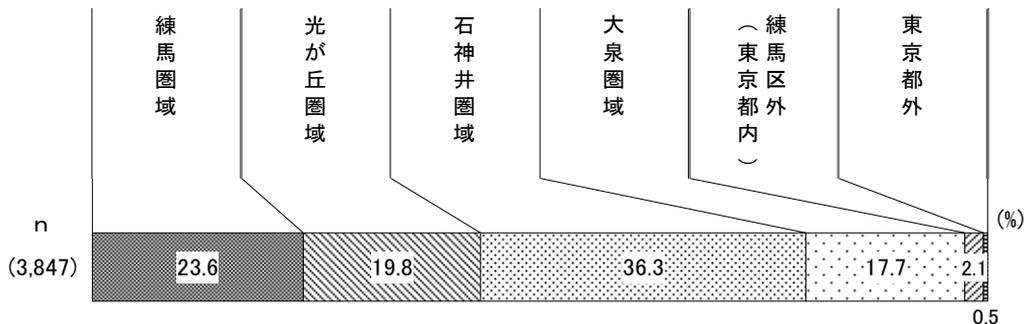
① 1日あたりの平均利用者数

○「5人以上10人未満」が41.8%、「10人以上15人未満」が21.4%となっている。

	n	5人未満	5人以上 10人未満	10人以上 15人未満	15人以上 20人未満	20人以上	無回答・ 不明
全体	98	12.2	41.8	21.4	12.2	12.2	0.0

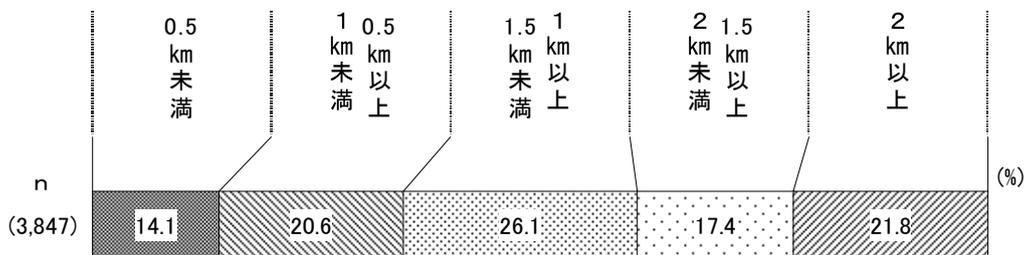
② 圏域別

○利用者数を圏域別で見ると、石神井圏域が36.3%と高くなっている。



③ 事業所からの距離別

○利用者数を事業所からの距離別で見ると、「1 km以上1.5 km未満」が26.1%、「2 km以上」が21.8%、「0.5 km以上1 km未満」が20.6%となっている。



(2) 利用者数について

○利用者数について、全体では「適正数を下回っている」が68.4%となっている。

	n	適正数を 上回っている	適正数を 下回っている	適正数である	その他
全体	98	1.0	68.4	29.6	1.0
練馬	16	6.3	62.5	31.3	0.0
光が丘	26	0.0	65.4	30.8	3.8
石神井	40	0.0	72.5	27.5	0.0
大泉	16	0.0	68.8	31.3	0.0

(3) 利用待機者

○利用待機者は、「いない」が90.8%となっている。

	n	いない	いる	その他
全体	98	90.8	9.2	0.0

(4) 地域密着型サービスの課題（複数回答）

○全体では「介護報酬・加算が少ない」が59.2%、「利用者が限定される」が48.0%となっている。
(%)

	n	サービスの 内容があまり 知られて いない	利用者が 限定される (要支援を 除くなど)	事業所の 数が多い	事業所の 数が少ない	介護報酬・ 加算が 少ない	各事業所間 の連携	よく わからない	その他
全体	98	26.5	48.0	20.4	0.0	59.2	25.5	2.0	7.1
練馬	16	25.0	56.3	18.8	0.0	43.8	25.0	6.3	6.3
光が丘	26	30.8	34.6	30.8	0.0	61.5	34.6	0.0	7.7
石神井	40	27.5	52.5	15.0	0.0	65.0	22.5	2.5	5.0
大泉	16	18.8	50.0	18.8	0.0	56.3	18.8	0.0	12.5

(5) 運営推進会議の開催状況（年間）

○運営推進会議の開催状況は、「年間2～3回」が80.6%となっている。

(%)

	n	0～1回	2～3回	4～5回	6～7回	8回以上
全体	98	19.4	80.6	0.0	0.0	0.0

(6) 運営推進会議の参加者（複数回答）

○「利用者家族」が80.6%、「民生委員・町会関係者」が71.4%となっている。

(%)

	n	民生委員・ 町会関係者	ケアマネジャー	利用者家族	行政職員	地域包括支援 センター職員	その他
全体	98	71.4	56.1	80.6	45.9	52.0	15.3

(7) 地域交流の取組と今後の意向

○地域との交流を図るために取り組んでいることが「ある」は41.8%となっている。

「ない」と回答した事業所で、今後は取り組む予定が「ある」は40.4%となっている。

(%)

	n	ある	ない
全体	98	41.8	58.2



(%)

	n	ある	ない	その他
全体	57	40.4	35.1	24.6

(8) 地域交流推進への課題（複数回答）

○「地域交流を行うための人員配置ができない」が70.4%となっている。

(%)

	n	地域交流の 方法が わからない	地域交流を 行うための 人員配置が できない	地域の 情報がない	地域交流の 必要性を 感じていない	その他
全体	98	23.5	70.4	29.6	3.1	12.2

(9) BCPの策定状況と今後の動向

○「どちらのBCPも策定している」が27.6%となっている。「策定していない」、「いずれかのBCPのみ策定している」と回答した事業所で、今後どちらのBCPも策定する予定が「ある」は87.3%となっている。

				(%)						(%)
	n	どちらのBCPも策定している	いずれかのBCPのみ策定している	策定していない		n	ある	ない	その他	
全体	98	27.6	22.4	50.0	⇒	全体	71	87.3	2.8	9.9

(10) BCPの作成に必要な支援

○「作成例の提示」が80.6%となっている。

							(%)
	n	区による研修	作成例の提示	アドバイザーによる個別相談	事業所間での情報共有	その他	
全体	98	25.5	80.6	19.4	25.5	4.1	

9. (介護予防) 認知症対応型通所介護

(1) 利用者数 (令和4年12月末時点)

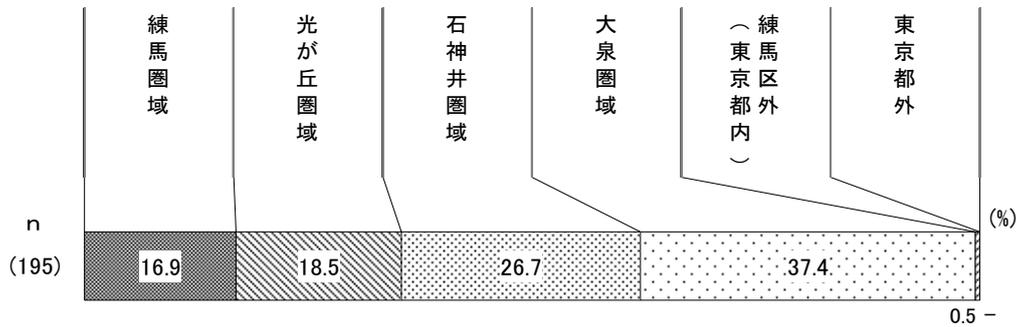
① 1日あたりの平均利用者数

○1日あたりの平均利用者数は、「5人以上10人未満」が81.8%となっている。

	n	5人未満	5人以上 10人未満	10人以上 15人未満	15人以上 20人未満	20人以上	無回答・ 不明
全体	11	9.1	81.8	9.1	0.0	0.0	0.0

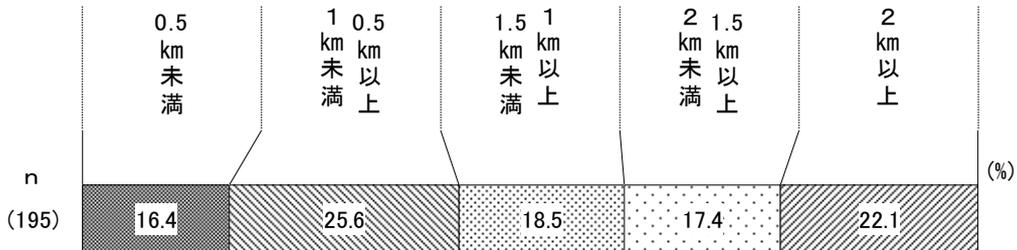
② 圏域別

○利用者数を圏域別で見ると、大泉圏域が37.4%と高くなっている。



③ 事業所からの距離別

○利用者数を事業所からの距離別で見ると、「0.5km以上1km未満」が25.6%、「2km以上」が22.1%となっている。



(2) 利用者数について

○利用者数について、全体では「適正数を下回っている」が90.9%となっている。

	n	適正数を 上回っている	適正数を 下回っている	適正数である	その他
全体	11	0.0	90.9	9.1	0.0
練馬	2	0.0	100.0	0.0	0.0
光が丘	2	0.0	100.0	0.0	0.0
石神井	3	0.0	100.0	0.0	0.0
大泉	4	0.0	75.0	25.0	0.0

(3) 利用待機者

○利用待機者は、「いない」が90.9%となっている。

	n	いない	いる	その他
全体	11	90.9	9.1	0.0

(4) 地域密着型サービスの課題（複数回答）

○地域密着型サービスの課題は、全体では「利用者が限定される」が63.6%、「サービスの内容があまり知られていない」が54.5%となっている。

(%)

	n	サービスの内容があまり知られていない	利用者が限定される(要支援を除くなど)	事業所の数が多い	事業所の数が少ない	介護報酬・加算が少ない	各事業所間の連携	よくわからない	その他
全体	11	54.5	63.6	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	36.4
練馬	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
光が丘	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
石神井	3	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
大泉	4	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0

(5) 運営推進会議の開催状況（年間）

○運営推進会議の開催状況は、「年間2～3回」が81.8%となっている。

(%)

	n	0～1回	2～3回	4～5回	6～7回	8回以上
全体	11	18.2	81.8	0.0	0.0	0.0

(6) 運営推進会議の参加者（複数回答）

○運営推進会議の参加者は、「民生委員・町会関係者」が81.8%となっている。

(%)

	n	民生委員・町会関係者	ケアマネジャー	利用者家族	行政職員	地域包括支援センター職員	その他
全体	11	81.8	63.6	72.7	72.7	72.7	9.1

(7) 地域交流の取組と今後の意向

○地域との交流を図るために取り組んでいることが「ある」は81.8%となっている。

「ない」と回答したいずれの事業所も今後は取り組む予定が「ある」としている。

(%)

	n	ある	ない
全体	11	81.8	18.2



(%)

	n	ある	ない	その他
全体	2	100.0	0.0	0.0

(8) 地域交流推進への課題（複数回答）

○「地域交流を行うための人員配置ができない」が54.5%となっている。

(%)

	n	地域交流の方法がわからない	地域交流を行うための人員配置ができない	地域の情報が無い	地域交流の必要性を感じていない	その他
全体	11	27.3	54.5	18.2	0.0	27.3

(9) BCPの策定状況と今後の動向

○「どちらのBCPも策定している」が90.9%となっている。

「策定していない」と回答した事業所も今後どちらのBCPも策定する予定が「ある」としている。

					(%)				
	n	どちらのBCPも策定している	いずれかのBCPのみ策定している	策定していない					
全体	11	90.9	0.0	9.1					



					(%)			
	n	ある	ない	その他				
全体	1	100.0	0.0	0.0				

(10) BCPの作成に必要な支援

○「作成例の提示」が54.5%、「事業所間での情報共有」が36.4%となっている。

							(%)	
	n	区による研修	作成例の提示	アドバイザーによる個別相談	事業所間での情報共有	その他		
全体	11	18.2	54.5	9.1	36.4	0.0		

10. (介護予防) 小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護

(1) 利用者数 (令和4年12月末時点)

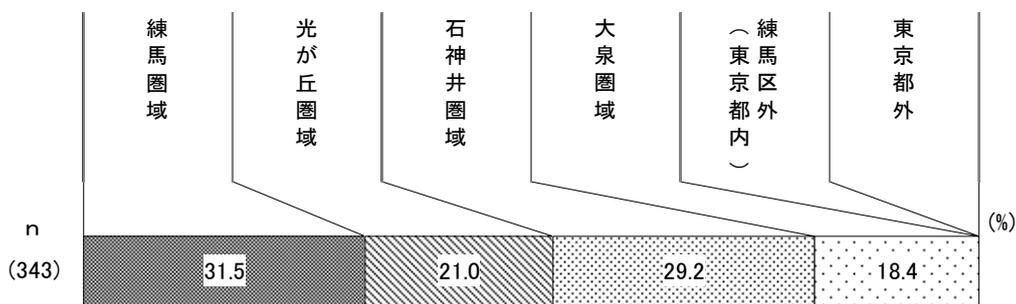
① 登録者数

○登録者数は、「11～15人」と「16～20人」が31.8%となっている。

	n	0～5人	6～10人	11～15人	16～20人	21人以上	無回答・不明
全体	22	9.1	9.1	31.8	31.8	18.2	0.0

② 圏域別

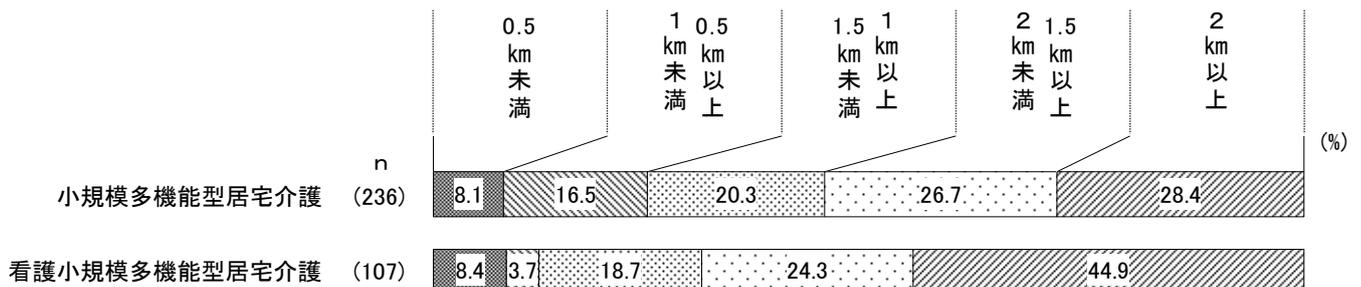
○利用者数を圏域別で見ると、練馬圏域が31.5%、石神井圏域が29.2%となっている。



③ 事業所からの距離別

○利用者数を事業所からの距離別で見ると、『小規模多機能型居宅介護』では「2 km以上」が28.4%、「1.5 km以上 2 km未満」が26.7%となっている。

○『看護小規模多機能型居宅介護』では、「2 km以上」が44.9%、「1.5 km以上 2 km未満」が24.3%となっている。



(2) 利用者数について

○利用者数について、全体では「適正数を下回っている」が77.3%となっている。

	n	適正数を上回っている	適正数を下回っている	適正数である	その他
全体	22	9.1	77.3	4.5	9.1
練馬	4	0.0	100.0	0.0	0.0
光が丘	5	0.0	60.0	20.0	20.0
石神井	8	12.5	75.0	0.0	12.5
大泉	5	20.0	80.0	0.0	0.0

(3) 利用待機者

○利用待機者は、「いない」が86.4%となっている。

(%)				
	n	いない	いる	その他
全体	22	86.4	13.6	0.0

(4) 看取りの実績（年間）

○看取りを行った実績は、「0人」が59.1%、「1～2人」が36.4%となっている。

(%)							
	n	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	9人以上
全体	22	59.1	36.4	4.5	0.0	0.0	0.0

(5) 医療行為の受入状況 ※看護小規模多機能型居宅介護のみ

○看護小規模多機能型居宅介護の医療行為の受入状況は、「胃ろう」「バルーン」「人工肛門」「在宅酸素」「痰吸引」「インスリン注射」「褥瘡」「血糖測定」が100.0%となっている。

(%)																
	n	胃ろう	経管栄養	点滴	バルーン	IVH	人工肛門	導尿	在宅酸素	膀胱ろう	気管切開	痰吸引	インスリン注射	褥瘡	血糖測定	感染症
全体	7	100.0	71.4	71.4	100.0	71.4	100.0	71.4	100.0	42.9	42.9	100.0	100.0	100.0	100.0	28.6

(6) 地域密着型サービスの課題（複数回答）

○全体では「サービスの内容があまり知られていない」が81.8%、「利用者が限定される」が45.5%となっている。

(%)										
	n	サービスの内容があまり知られていない	利用者が限定される（要支援を除くなど）	事業所の数が多い	事業所の数が少ない	介護報酬・加算が少ない	各事業所間の連携	よくわからない	その他	
全体	22	81.8	45.5	31.8	4.5	22.7	27.3	0.0	13.6	
練馬	4	75.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	
光が丘	5	80.0	60.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0	
石神井	8	87.5	25.0	37.5	0.0	12.5	37.5	0.0	0.0	
大泉	5	80.0	80.0	40.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	

(7) 運営推進会議の開催状況（年間）

○運営推進会議の開催状況は、「6～7回」が95.5%となっている。

(%)						
	n	0～1回	2～3回	4～5回	6～7回	8回以上
全体	22	0.0	0.0	4.5	95.5	0.0

(8) 運営推進会議の参加者（複数回答）

○運営推進会議の参加者は、「利用者家族」が90.9%となっている。

(%)							
	n	民生委員・町会関係者	ケアマネジャー	利用者家族	行政職員	地域包括支援センター職員	その他
全体	22	77.3	68.2	90.9	77.3	77.3	9.1

(9) 地域交流の取組と今後の意向

○地域との交流を図るために取り組んでいることが「ある」は77.3%となっている。
 「ない」と回答した事業所で、今後は取り組む予定が「ある」は80.0%となっている。

(%)				(%)					
	n	ある	ない		n	ある	ない	その他	
全体	22	77.3	22.7	⇒	全体	5	80.0	0.0	20.0

(10) 地域交流推進への課題（複数回答）

○「地域交流を行うための人員配置ができない」が68.2%となっている。

(%)						
	n	地域交流の方法がわからない	地域交流を行うための人員配置ができない	地域の情報が無い	地域交流の必要性を感じていない	その他
全体	22	22.7	68.2	22.7	4.5	40.9

(11) BCPの策定状況と今後の動向

○「どちらのBCPも策定している」が59.1%となっている。「策定していない」、「いずれかのBCPのみ策定している」と回答した事業所で、今後どちらのBCPも策定する予定が「ある」は66.7%となっている。

(%)					(%)					
	n	どちらのBCPも策定している	いずれかのBCPのみ策定している	策定していない		n	ある	ない	その他	
全体	22	59.1	18.2	22.7	⇒	全体	9	66.7	0.0	33.3

(12) BCPの作成に必要な支援

○「作成例の提示」54.5%、「事業所間での情報共有」が45.5%となっている。

(%)						
	n	区による研修	作成例の提示	アドバイザーによる個別相談	事業所間での情報共有	その他
全体	22	27.3	54.5	31.8	45.5	9.1

11. (介護予防) 認知症対応型共同生活介護

(1) 利用者数 (令和4年12月末時点)

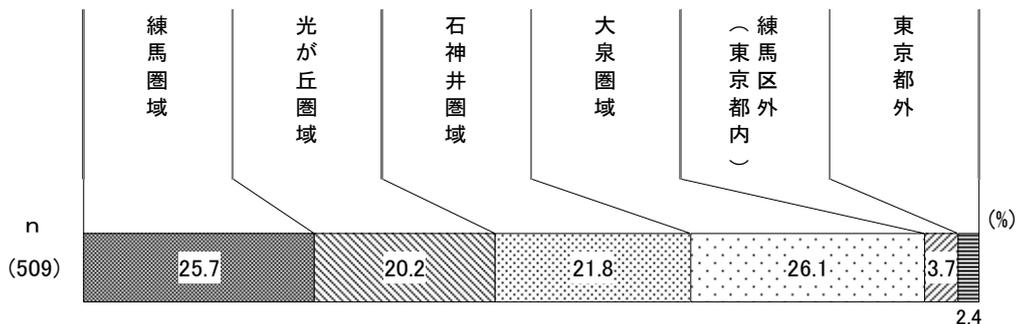
①入居者数

○入居者数は、「16～20人」が62.5%となっている。

		(%)					
	n	0～5人	6～10人	11～15人	16～20人	21人以上	無回答・不明
全体	32	0.0	18.8	9.4	62.5	9.4	0.0

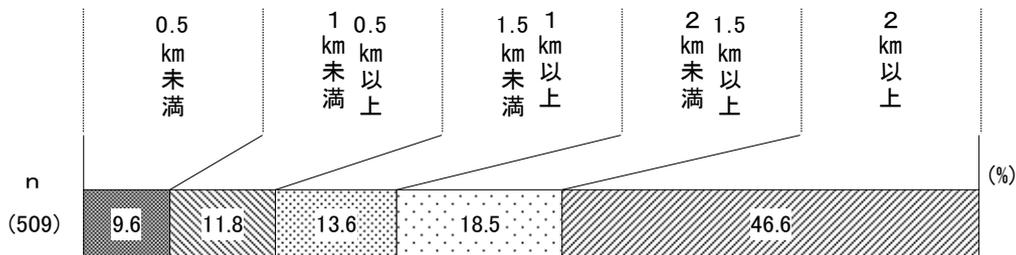
②圏域別

○利用者数を圏域別で見ると、大泉圏域が26.1%、練馬圏域が25.7%となっている。



③事業所からの距離別

○利用者数を事業所からの距離別で見ると、「2km以上」が46.6%と半数近くになっている。



(2) 利用者数について

○利用者数について、全体では「適正数である」が59.4%となっている。

		(%)			
	n	適正数を上回っている	適正数を下回っている	適正数である	その他
全体	32	6.3	28.1	59.4	6.3
練馬	7	14.3	57.1	28.6	0.0
光が丘	8	12.5	25.0	50.0	12.5
石神井	8	0.0	12.5	87.5	0.0
大泉	9	0.0	22.2	66.7	11.1

(3) 利用待機者

○利用待機者は、「いない」が56.3%となっている。

		(%)		
	n	いない	いる	その他
全体	32	56.3	37.5	6.3

(4) 令和4年中の退居状況

①退居者数

○令和4年中の退居者数は、「1～2人」と「5～6人」が34.4%となっている。

(%)

	n	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	9人以上
全体	32	0.0	34.4	21.9	34.4	6.3	3.1

②退居者の行先（退居の理由）

○令和4年中の退居者の行先（退居の理由）は、「死亡」（41.1%）が最も高く、次いで「医療機関（療養病床含む）」（26.6%）の順となっている。

(%)

	n	家庭	特別養護 老人ホーム	介護老人 保健施設	有料老人 ホーム・ サービス付き 高齢者向け 住宅	グループ ホーム	その他の 社会福祉 施設	医療機関 （療養病床 含む）	死亡	その他 （不詳）
全体	124	1.6	16.9	4.0	6.5	2.4	0.0	26.6	41.1	0.8

(5) 看取りの実績（年間）

○看取りを行った実績は、「0人」が53.1%、「1～2人」が28.1%となっている。

(%)

	n	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	9人以上
全体	32	53.1	28.1	15.6	3.1	0.0	0.0

(6) 地域密着型サービスの課題（複数回答）

○全体では「サービスの内容があまり知られていない」が56.3%、「利用者が限定される」が43.8%となっている。

(%)

	n	サービスの 内容があまり 知られて いない	利用者が 限定される （要支援を 除くなど）	事業所の 数が多い	事業所の 数が少ない	介護報酬・ 加算が 少ない	各事業所間 の連携	よく わからない	その他
全体	32	56.3	43.8	31.3	0.0	31.3	25.0	6.3	12.5
練馬	7	57.1	42.9	42.9	0.0	42.9	28.6	14.3	14.3
光が丘	8	50.0	50.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	12.5
石神井	8	62.5	25.0	25.0	0.0	25.0	37.5	12.5	12.5
大泉	9	55.6	55.6	33.3	0.0	33.3	22.2	0.0	11.1

(7) 運営推進会議の開催状況（年間）

○運営推進会議の開催状況は、「6～7回」が93.8%となっている。

(%)

	n	0～1回	2～3回	4～5回	6～7回	8回以上
全体	32	3.1	0.0	0.0	93.8	3.1

(8) 運営推進会議の参加者（複数回答）

○運営推進会議の参加者は、「利用者家族」が87.5%となっている。

	n	民生委員・ 町会関係者	ケアマネジャー	利用者家族	行政職員	地域包括支援 センター職員	その他
全体	32	59.4	37.5	87.5	71.9	75.0	15.6

(9) 地域交流の取組と今後の意向

○地域との交流を図るために取り組んでいることが「ある」は56.3%となっている。
「ない」と回答した事業所で、今後は取り組む予定が「ある」は42.9%となっている。

	n	ある	ない		
全体	32	56.3	43.8		



	n	ある	ない	その他
全体	14	42.9	35.7	21.4

(10) 地域交流推進への課題（複数回答）

○「地域交流を行うための人員配置ができない」が81.3%となっている。

	n	地域交流の 方法が わからない	地域交流を 行うための 人員配置が できない	地域の 情報がない	地域交流の 必要性を 感じていない	その他
全体	32	21.9	81.3	34.4	3.1	18.8

(11) BCPの策定状況と今後の動向

○「どちらのBCPも策定している」が53.1%となっている。「策定していない」、「いずれかのBCPのみ策定している」と回答した事業所で、今後どちらのBCPも策定する予定が「ある」は86.7%となっている。

	n	どちらのBCPも 策定している	いずれかの BCPのみ 策定している	策定して いない				
全体	32	53.1	25.0	21.9				



	n	ある	ない	その他
全体	15	86.7	0.0	13.3

(12) BCPの作成に必要な支援

○「作成例の提示」が84.4%となっている。

	n	区による研修	作成例の提示	アドバイザーに よる個別相談	事業所間での 情報共有	その他
全体	32	28.1	84.4	25.0	40.6	6.3

第6章 參考資料

練馬区高齢者基礎調査

◆ 調査へのご協力をお願い ◆

日頃から、練馬区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。区では、新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定に着手しています。この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価および高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画がより実りある計画となるよう、高齢者の方々から、日頃の生活状況や区の高齢者施策に対するご意見・ご希望などをお聞きするため実施するものです。

調査の対象者として、区内にお住まいの要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方々から2,500人、55～64歳の方々から800人を無作為に選り、調査票を送付させていただきます。なお、令和4年10月1日現在の情報を基に調査票を送付しています。転居等により行き違いが生じる場合がありますが、ご了承ください。

本調査で得られた情報につきましては、計画策定と効果評価の目的以外には利用いたしません。当該情報については、区で適切に管理し、個人が特定される形での公表や、他の目的での使用はいたしません。ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年11月 練馬区

◆ 調査票のご記入にあたって ◆

- 調査票上の「あなた」とは、封筒に印刷されたあて名ご本人を指します。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問文にある「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」などの指示にしたがってご回答ください。また、ご意見や数字などを直接ご記入いただく質問もあります。
- 質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人一人での回答が難しい場合は、ご家族の方などにお手伝いいただき、対象者ご本人の意見を聞いた上で代わりにご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、**11月28日(月)まで**に、同封の返信用封筒にてご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。
- この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

この調査は、(株) サーベイリサーチセンターに委託して実施しています。調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【調査委託元】
練馬区 高齢施策担当 高齢社会対策課 計画係
【調査実施・お問い合わせ先】 (株) サーベイリサーチセンター
電話：0120-965-812 (フリーダイヤル)
(受付/月曜～金曜 (平日) 9:00～17:00)
メール：contact-ml@surece.co.jp

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

- 1 あて名のご本人が記入
- 2 ご家族が記入 (あて名のご本人からみられた続柄：)
- 3 その他 ()

◆あなたのご家族や生活状況について

問1 あなたの性別と、令和4年10月1日現在の満年齢を教えてください。

① 性別(○は1つ) ② 年齢(右語めで記入)

1 男性	2 女性		
			歳

問2 あなたのお住まいはどちらですか。記入例のように、町名と丁目をご記入ください。

町名		丁目
(記入例)	町名 光が丘	丁目 3

問3 家族構成をお教えてください。(○は1つ)

- 1 1人暮らし
- 2 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)
- 3 夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)
- 4 子との2世帯
- 5 親との2世帯
- 6 親・子との3世帯
- 7 その他 ()

問4 あなたは、高齢者(65歳以上)の家族や親せき等の介護をしていますか。(○は1つ)

- 1 主たる介護者として、同居の家族等を介護している
- 2 主たる介護者ではないが、同居の家族等を介護している
- 3 主たる介護者として、別居の家族等を介護している
- 4 主たる介護者ではないが、別居の家族等を介護している
- 5 介護はしていない

問5 現在、あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

- 1 いる
- 2 いない (→次のページへ進む)

(問5で、「1 いる」とお答えの方におたずねします。)

問5-1 あなたは、ご自身の子どものことで、心配ごとが何かありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 子どもの仕事
- 2 子どもの家庭環境 (配偶者など家族との関係など)
- 3 子どもの経済状態
- 4 子どもの病気・障害
- 5 子どものひきこもり
- 6 子どもによる暴力・暴言
- 7 その他 ()
- 8 特になし (→次のページへ進む)

(問5-1で、1～7(何らかの心配ごとがある)とお答えの方におたずねします。)
問5-2 ご自身の子どもへの心配ごとについて、周囲に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族・親族	2 知人・友人
3 近所の人	4 警察
5 医療機関	6 保健相談所
7 地域包括支援センター	8 総合福祉事務所(区役所)
9 その他()	10 相談していない
11 相談先がわからない	

(すべての方におたずねします。)

問6 平日の昼間、ご自宅にあなた以外にどなたかいらっしゃいますか。(○は1つ)

1 いつも誰かがいる	2 誰かがいることが多い
3 自分一人のことが多い	4 いつも自分一人である

問7 地震などの災害時あるいは病気になる際の緊急連絡先はありますか。(○は1つ)

1 緊急連絡先を決めて、周囲に伝えている
2 緊急連絡先を決めているが、周囲には伝えていない
3 緊急連絡先は決めていない
4 緊急時に連絡できる家族・親族・友人はいない
5 わからない

問8 あなたの年収(配偶者がいる場合はご夫婦を合わせた年収。年金を含む)はどのくらいですか。(○は1つ)

1 100万円未満	2 100～200万円未満
3 200～300万円未満	4 300～400万円未満
5 400～500万円未満	6 500～700万円未満
7 700～1,000万円未満	8 1,000万円以上
9 わからない	

問9 あなたの世帯では、どのくらい預貯金がありますか。(○は1つ)

1 100万円未満	2 100～300万円未満
3 300～500万円未満	4 500～700万円未満
5 700～1,000万円未満	6 1,000～1,500万円未満
7 1,500～2,000万円未満	8 2,000～3,000万円未満
9 3,000万円以上	10 わからない

問10 現在の暮らしの状況を経済的にみてどのよう感じていますか。(○は1つ)

1 大変苦しい	2 やや苦しい	3 ふつう
4 ややゆとりがある	5 大変ゆとりがある	

◆住まいについて

問11 あなたは現在どこで生活していますか。(○は1つ)

1 持家	2 賃貸住宅(高齢者向けの住宅、施設を除く)
3 シルバーピア	4 サービス付き高齢者向け住宅
5 都市型軽費老人ホーム	6 住宅型有料老人ホーム
7 介護付き有料老人ホーム	8 その他()

【高齢者向けの住宅・施設の用語説明一覧】

区分	施設などの名称	概要
住宅	①シルバーピア	バリアフリー化され、緊急通報システムなどが備わっている単身の高齢者または高齢者のみの世帯を対象とした賃貸住宅
	②サービス付き高齢者向け住宅	バリアフリー化され、安否確認サービス、緊急時対応サービス、生活相談サービスなどの付いた高齢者向けの賃貸住宅
施設	③都市型軽費老人ホーム	食事や安否確認のサービスが付いた、身体機能の低下などにより自立した生活に不安がある低所得の高齢者を対象とした施設
	④住宅型有料老人ホーム	食事などの日常生活上のサービスは付くが、介護保険サービスは別契約で外部の事業所を利用する有料老人ホーム
	⑤介護付き有料老人ホーム	介護保険サービスなどが付いた有料老人ホーム。介護が必要になっても、そのホームが提供する介護保険サービスなどを利用できる

問12 将来の住まいに関して、不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 高齢期の賃貸を断られる
2 高齢期の賃貸を断られる以外で転居先が決まらない
3 虚弱化した(身体が弱ってきた)ときの住居の構造
4 世話をしてくれる人の存在
5 家賃等を払い続けられない
6 住宅の修繕費等必要な経費を払えなくなる
7 その他()
8 特にない

問13 介護が必要になった場合にどのような暮らし方を希望しますか。(○は1つ)

- 1 自宅で、介護保険のサービスを中心に利用したい
- 2 自宅で、家族や親族などからの介護を中心に受けたい
- 3 家族や親族などの家に住み替えて、介護保険のサービスを中心に利用したい
- 4 家族や親族などの家に住み替えて、家族や親族などからの介護を中心に受けたい
- 5 安否確認サービスの有る住宅(シルバビア)に住み替えて、介護保険のサービスを利用したい
- 6 安否確認と食事や入浴のサービスの有る住宅(サービス付き高齢者向け住宅、都市型軽費老人ホーム、住宅型有料老人ホーム)に住み替えて、介護保険のサービスを利用したい
- 7 介護保険サービスの有る施設・住宅(特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム)に入りたい
- 8 その他()
- 9 わからない

◆外出状況について

問14 あなたは、積極的に外出をされていますか。(○は1つ)

- 1 積極的に外出している
- 2 なるべく外出するようにしている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり外出しようとしていない
- 5 自宅に閉じこもりがちである

問15 次の①～③で外出する頻度はどのくらいですか。

- ① 買い物(○は1つ)
- | | | | | |
|--------|---------|---------|-------|---------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週4～5日 | 3 週2～3日 | 4 週1日 | 5 週1日未満 |
|--------|---------|---------|-------|---------|
- ② 散歩(○は1つ)
- | | | | | |
|--------|---------|---------|-------|---------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週4～5日 | 3 週2～3日 | 4 週1日 | 5 週1日未満 |
|--------|---------|---------|-------|---------|
- ③ ①、②以外での外出(○は1つ)
- | | | | | |
|--------|---------|---------|-------|---------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週4～5日 | 3 週2～3日 | 4 週1日 | 5 週1日未満 |
|--------|---------|---------|-------|---------|

問16 ばつらつセンターや敬老館、街かどケアカフェ、地域集会所(地区区民館・地域集会所)を利用していますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------------------|--------|
| 1 利用している | 2 名前は知っているが、利用したことはない | 3 知らない |
|----------|-----------------------|--------|
- 問17 外出する際に利用する手段を教えてください。(あてはまるものすべてに○)
- | | |
|----------------|--------------|
| 1 徒歩 | 2 車いす |
| 3 電動三輪車 | 4 自転車 |
| 5 バイク、スクーター | 6 自分で運転する自動車 |
| 7 家族などの運転する自動車 | 8 バス |
| 9 電車 | 10 タクシー |
| 11 その他() | 12 わからない |

問18 外出をためらってしまうような問題点はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 新型コロナウイルス感染に不安があること
- 2 電車やバスに乗ることが難しくなってきたこと
- 3 以前よりも歩くことが難しくなってきたこと(青信号の間に横断歩道を渡りきれない等)
- 4 道路に階段や段差、傾斜があったり、歩道が狭いこと
- 5 ベンチや椅子など休める場所が少ないこと
- 6 トイレが少ないこと、使いにくいこと
- 7 けがや病気の心配
- 8 外出したい場所がないこと
- 9 外出する気力が起きないこと
- 10 人との関わりが面倒なこと
- 11 一緒に外出する人がいないこと
- 12 お金がないこと
- 13 その他()
- 14 特に問題点はない

◆仕事や地域での活動について

問19 あなたは、現在、収入のある仕事をしていますか。(○は1つ)

- 1 週5日以上、仕事をしている
- 2 週3～4日、仕事をしている
- 3 週1～2日、仕事をしている
- 4 1か月に1日程度、仕事をしている
- 5 不定期に仕事をしている
- 6 仕事はしていない(→問19-2へ進む)

(問19で、1～5のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問19-1 何歳ぐらいまで働きたいですか。(1日2時間や週1～2日など、勤務時間が短いまたは勤務日数が少ない仕事を含みます。)(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 65歳まで | 2 66～70歳まで | 3 71～75歳まで |
| 4 76～80歳まで | 5 ずっと働きたい | 6 これ以上働きたくない(→問20へ進む) |

(問19-1で、1～5のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問19-1-1 働きたいのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 生活費を得るため | 2 小遣いを得るため |
| 3 将来への蓄え(預貯金)のため | 4 生きがいを得るため |
| 5 持っている技術や経験を活かすため | 6 健康のため |
| 7 何もしないでいると退屈するため | 8 その他() |

【問20へ進んでください】

(問19で、「6 仕事はしていない」とお答えの方におたずねします。)

問19-2 週に何日程度であれば働きたいですか。(1日2時間や週1～2日など、勤務時間が短いまたは勤務日数が少ない仕事を含みます。)(○は1つ)

- | | | |
|------------|---------|-------------------|
| 1 週5日以上 | 2 週3～4日 | 3 週1～2日 |
| 4 1か月に1日程度 | 5 不定期 | 6 働きたくない(→問20へ進む) |

（問19-2で、1～5のいずれかにお答えの方におたずねします。）

問19-2-1 1日に何時間程度であれば働きたいですか。(○は1つ)

1 8時間以上	2 5～8時間未満	3 3～5時間未満
4 1～3時間程度	5 1時間以内	

（すべての方におたずねします。）

問20 地域活動(ボランティアや趣味・スポーツ関係のグループ、町内会・自治会、老人クラブなどの活動)にどのくらいの頻度で参加していますか。(○は1つ)

1 週4回以上	2 週2～3回	3 週1回
4 月1～3回	5 年に数回	6 参加していない (→問20-1へ進む)

（問20で、「6 参加していない」とお答えの方におたずねします。その他の方は、問21に進んでください。）

問20-1 あなたは、どのようなきっかけがあれば、地域活動に取り組もうと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1 活動や団体に関する情報の紹介や団体とのマッチングがあれば活動したい
2 時間に余裕があれば活動したい
3 知り合いがいれば活動したい
4 世話人やリーダーがいれば活動したい
5 関心・興味のあるテーマがあれば活動したい
6 活動する場が身近なところであれば活動したい
7 健康状態がよくなったら活動したい
8 現役世代のうちから高齢期のライフプランを考えるための機会や情報の提供があれば活動したい
9 その他 ()
10 活動したくない・関心がない (→問21へ進む)

（問20-1で、1～9とお答えの方におたずねします。）

問20-1-1 あなたは、今後、どのような分野で活動してみたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1 ボランティア活動・NPO活動	2 趣味関係のグループ	3 学習・教養サークル
4 スポーツ関係のグループやクラブ	5 老人クラブ	6 町内会・自治会
7 その他 ()	8 特にない	

（すべての方におたずねします。）

問21 次の①～③について、どのくらいの頻度で感じていますか。それぞれに回答してください。

① 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。(○は1つ)	1 決してない	2 ほとんどない	3 時々ある	4 常にある
② 自分は取り残されていると感じることがありますか。(○は1つ)	1 決してない	2 ほとんどない	3 時々ある	4 常にある
③ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(○は1つ)	1 決してない	2 ほとんどない	3 時々ある	4 常にある

◆健康について

問22 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 とてもよい	2 まあよい	3 あまりよくない	4 よくない
---------	--------	-----------	--------

問23 あなたは、現在のどの程度幸せですか。(○は1つ)
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

とても不幸	とても幸せ
0点	10点
1点	9点
2点	8点
3点	7点
4点	6点
5点	5点
6点	4点
7点	3点
8点	2点
9点	1点

◆介護予防・フレイル予防について

問24 あなたは、「フレイル」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1 よく知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
-----------	------------	--------

※フレイル：老化により心身機能の活力(筋力や認知機能など)や、社会的な活力(人との交流など)が低下し、要介護になる危険性が高まっている状態。

問25 あなたは、介護予防・フレイル予防につながる生活や活動に取り組んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

1 栄養不足にならないように、1日で多様な食品(肉・魚・野菜・乳製品等)を食べるようにしている
2 何でもおいしく食べられるように、歯科検診を受けたり、お口の体操やマッサージュを行っている
3 筋力や体力が落ちないように、運動・スポーツを行っている
4 脳を活性化するために、知的活動を行ったり、新しいことにチャレンジしている
5 人との交流を減らさないように、友人・知人との外出や、地域の活動(サークルなど)に参加している
6 何もしない(→問25-2へ進む)

(問25で、1～5とお答えの方におたずねします。)

問25-1 実際に取り組んでみて、効果を感じていますか。(○は1つ)

1 効果を感じている	2 少し効果を感じている	3 どちらともいえない
4 あまり効果を感じていない	5 効果を感じていない	

【問26へ進んでください】

(問25で、「6 何もしない」とお答えの方におたずねします。)

問25-2 介護予防・フレイル予防につながる生活や活動に取り組んでいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 元気が過ぎせているから	2 時間に余裕がないから
3 開催場所が身近なところにはないから	4 人との関わりが煩わしいから
5 一緒に参加する仲間がいらないから	6 費用がかかると感じるから
7 その他 ()	

◆介護保険について

問26 介護保険は、介護が必要になった方も、尊厳を保持し、その方の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、社会みんなで支える制度です。その保険料は、区全体の介護保険サービスの利用状況や過去の実績などから、3年ごとに決まります。介護保険のサービスと保険料の関係について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1 | 保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの水準を上げる方がよい |
| 2 | 施設や在宅サービスの水準は現状程度とし、保険料の上昇は高齢者人口の伸びなどによる影響の範囲に抑える方がよい |
| 3 | サービスの水準が低下しても、保険料は安い方がよい |
| 4 | わからない |

問27 あなたは、日々の生活の中で介護保険料や健康保険料の負担についてのどのように感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 保険料が日々の暮らしを圧迫している |
| 2 | 年々、保険料が高くなって、多少の負担と感じている |
| 3 | 適正である（この程度の額ならいい）と思う |
| 4 | それほど負担とは思わない |
| 5 | わからない |

◆医療について

問28 あなたは、自身の体調や口腔ケア、服薬などについて相談できる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持っていますか。(それぞれ○は1つ)

- | | | | | | | | |
|---|----------|---|----|---|-----|---|-------|
| ① | かかりつけ医 | 1 | いる | 2 | いない | 3 | わからない |
| ② | かかりつけ歯科医 | 1 | いる | 2 | いない | 3 | わからない |
| ③ | かかりつけ薬局 | 1 | ある | 2 | ない | 3 | わからない |

問29 現在、病院・医院(診療所・クリニック)への受診はどのようにされていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----------------|---|-------------------|
| 1 | 通院している | 2 | 通院と往診の両方を利用している |
| 3 | 訪問診療・往診を利用している | 4 | 受診していない (→問30へ進む) |

(問29で、1～3のいずれかにお答えの方におたずねします。)

- 問29-1 どのくらいの頻度で、病院・医院(診療所・クリニック)を受診していますか。(○は1つ)
- | | | | | | |
|---|-----------|---|---------|---|-------|
| 1 | ほぼ毎日 | 2 | 週4～5日 | 3 | 週2～3日 |
| 4 | 週1日 | 5 | 月2～3回 | 6 | 月1回程度 |
| 7 | 2～3か月1回程度 | 8 | その他 () | | |

(すべての方におたずねします。)

問30 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になった場合、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|-------------------------|-------------|
| 1 | 現在、在宅医療や介護を受けている | } (→問31へ進む) |
| 2 | 在宅医療や介護を希望する (実現可能だと思う) | |
| 3 | 在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う | |
| 4 | 在宅医療や介護を希望しない | |
| 5 | わからない (→問31へ進む) | |

(問30で3または4とお答えの方におたずねします。)

問30-1 それはなぜですか。(○は3つまで)

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 介護してくれる家族がいないから |
| 2 | 介護してくれる家族などに負担をかけるから |
| 3 | 急に病状が変わったときの対応が不安だから |
| 4 | 在宅でのような医療や介護を受けられるかわからないから |
| 5 | 在宅での体調悪化時にすぐ入院できるかわからないから |
| 6 | 療養できる居住環境 (部屋やトイレ等) が整っていないから |
| 7 | 往診してくれる医師がいないから |
| 8 | 地域の訪問看護・介護体制が整っていないから |
| 9 | 経済的な負担が大きいため |
| 10 | その他 () |
| 11 | 特に理由はない |

(すべての方におたずねします。)

問31 リハビリ療養を目的に入院したことがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----|---|--------------|
| 1 | ある | 2 | ない (→問32へ進む) |
|---|----|---|--------------|

※リハビリ療養: 脳梗塞や脳出血、骨折等による急性期の治療後に在宅復帰を目的にリハビリを行うこと

(問31で、「1 ある」とお答えの方におたずねします。)

問31-1 リハビリ療養を目的に、一番最近入院した医療機関はどこにありましたか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|----|---|------------------|---|-----|
| 1 | 区内 | 2 | 近隣区 (板橋区、北区、豊島区) | 3 | その他 |
|---|----|---|------------------|---|-----|

問31-2 リハビリ療養目的の入院にあり、その医療機関を選んだ理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|---------------------|---|---------------|
| 1 | かかりつけ医からの紹介 | 2 | 入院していた病院からの紹介 |
| 3 | 自宅に近いなど退院後の通院に便利だから | 4 | 専門性が高いから |
| 5 | その他 () | | |

(すべての方におたずねします。)

問32 人生の最終段階における受けたい医療・介護、受けたくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っていますか。(○は1つ)

1 詳しく話し合っている	} (→問32-2へ進む)
2 一応話し合っている	
3 ほとんど話し合っていない	
4 話し合っていない	

(問32で、1または2とお答えの方におたずねします。)

問32-1 話し合っている相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族・親族	2 友人・知人	3 かかりつけ医・主治医
4 看護師	5 ケアマネジャー	6 ホームヘルパー
7 介護施設職員	8 その他 ()	

【問33へ進んでください】

(問32で、3または4とお答えの方におたずねします。)

問32-2 話し合っていない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1 話し合いたくないから
2 話し合う必要性を感じないから
3 話し合うきつかけがなかったから
4 知識がないため、何を話し合っているかわからないから
5 その他 ()

(すべての方におたずねします。)

問33 あなたは人生の最期をどこで迎えたいと思えますか。(○は1つ)

1 自宅
2 子供など親族の家
3 介護保険で利用できる施設 (特別養護老人ホーム等)
4 サービス付き高齢者住宅・有料老人ホーム・都市型介護老人ホーム等の高齢者向け住宅
5 ホスピス (緩和ケア病棟)
6 5以外の医療機関
7 その他 ()
8 わからない

問34 終末期および死後の手続き等で不安なことはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1 死後の公共料金の解約や役所への届け出	2 遺品整理
3 金融機関への連絡	4 所有する不動産に関すること
5 葬儀に関すること	6 相続に関すること
7 お墓に関すること	8 その他 ()
9 特にならない	

問35 終活に興味はありますか。(○は1つ)

1 大いにある	2 少しある	3 あまりない	4 全くない
---------	--------	---------	--------

問36 実際に終活を行うとすると、何を手伝ってもらいたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1 遺言の作成	2 エンディングノートの作成
3 契約関係の整理	4 身の回りの持ち物などの整理
5 お墓・葬儀の準備	6 デジタル遺品の整理
7 その他 ()	8 特にならない

問37 終活に関して、相談するとしたら誰に話したいですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族や親族
2 区役所や地域包括支援センターなど行政の窓口
3 弁護士や行政書士、終活アドバイザーなど民間のサービス
4 その他 ()
5 相談せず、すべて自分で行いたい

問38 終活に関して、区が支援をしたらどのようなことを求めたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

1 専門の相談窓口の設置
2 終活に関するセミナーやイベントの開催
3 弁護士など民間事業者への相談料等に対する補助
4 遺言書やエンディングノートなどの保管場所の登録サービス
5 その他 ()
6 特にならない

◆たすけあいについて

問39 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(○は3つまで)

1 安否確認の声かけ	2 話し相手や相談相手
3 炊事・洗濯・掃除などの手伝い	4 ちよつとした買い物やごみ出し
5 子どもの預かり	6 外出の手助けや通院の送迎
7 災害時の手助け	8 電球交換や軽易な家具・荷物の移動
9 その他 ()	10 特にならない

問40 (高齢者のみならず)地域住民が安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(○は3つまで)

1 安否確認の声かけ	2 話し相手や相談相手
3 炊事・洗濯・掃除などの手伝い	4 ちよつとした買い物やごみ出し
5 子どもの預かり	6 外出の手助けや通院の送迎
7 災害時の手助け	8 電球交換や軽易な家具・荷物の移動
9 認知症の方を見かけたときの声かけ	10 その他 ()
11 特にならない	

問41 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

1	名称も内容も知っている	2	名称は聞いたことがある	3	初めて聞いた
---	-------------	---	-------------	---	--------

※成年後見制度：認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない方のために、成年後見人等が本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守るための制度です。

問42 あなたやあなたの家族が、判断能力が十分でなくなってきた場合、成年後見制度を利用したいと思いませんか。(○は1つ)

1	既に利用している	2	利用してみたい	3	制度の内容がよく理解できていないため、利用したくない	4	利用方法がわからないため、利用したくない	5	家族などが支援してくれるため、利用したくない	6	その他 ()	7	わからない
---	----------	---	---------	---	----------------------------	---	----------------------	---	------------------------	---	---------	---	-------

◆区の保健福祉施策について

問43 日常生活の中での困りごとはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	食事の準備	2	掃除や洗濯
3	ごみの分別やごみ出し	4	庭の掃除や手入れ
5	買い物 (荷物を持って帰ることも含む)	6	バスや電車、車を使っての外出
7	通院や薬を取りに行くこと	8	銀行や郵便局での手続き
9	区役所などでの手続き	10	生活に必要な情報を得ること
11	隣近所との付き合い	12	話し相手がいらないこと
13	その他 ()	14	特に困っていないことではない

問44 あなたが日常生活で何か困ったことがあった時の相談先はどこですか。

(あてはまるものすべてに○)

1	家族・親族	2	知人・友人
3	かかりつけ医	4	かかりつけ医以外の医療機関 (薬局等)
5	ケアマネジャー	6	介護家族の会や認知症カフェ
7	民生・児童委員	8	地域包括支援センター
9	保健相談所	10	社会福祉協議会 (地域福祉コーディネーターなど)
11	その他 ()	12	そのような相談先はない

問45 あなたは老後を楽しんで生きていくために必要なものはどのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1	仕事や家庭内での役割	2	家族の愛情
3	豊かな生活のためのお金	4	何でも相談できる友人・知人
5	打ち込むことのできる趣味や生きがい	6	自分や家族の健康
7	保健福祉などの社会的援助	8	隣近所の助け合い
9	奉仕活動などを通して得られる社会的満足感	10	その他 ()
11	特にない		

問46 あなたは、何歳以上が高齢者だと思いますか。(○は1つ)

1	60歳以上	2	65歳以上	3	70歳以上
4	75歳以上	5	80歳以上	6	その他 ()

問47 あなたは、将来に対してどのようなことに不安がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	健康 (自分や家族が介護を必要とする状態になること等)
2	生計 (経済的に苦しくなること等)
3	防犯・防災 (災害時の避難場所がわからない等)
4	住居 (老朽化、バリアフリーでない等)
5	家族・親族との関係 (連絡を取り合っていない等)
6	隣近所との関係 (困ったときに助け合える関係でない等)
7	預貯金などの管理
8	1人暮らしになること
9	老後への漠然とした不安
10	その他 ()
11	不安なことはない

問48 あなたは、地域包括支援センターをご存知ですか。(○は1つ)

1	現在利用している	2	利用したことがある
3	名前は知っているが、利用したことはない	4	知らない

問49 あなたは、地域包括支援センターにどのような役割を期待しますか。(○は3つまで)

1	要支援者などを対象に、適切な介護予防サービスの利用を促進する
2	個々の高齢者に必要な支援内容を把握し、適切なサービスなどの利用につなげる
3	高齢者の虐待防止・早期対応や権利擁護を図る
4	ケアマネジャーへの日常的個別指導・相談
5	地域の関係者が高齢者に関する地域課題などを検討するための地域ケア会議の充実
6	在宅医療・介護連携の推進
7	認知症の早期発見・早期対応などの認知症施策の推進
8	地域の社会資源の把握・開発および社会資源と人的資源のマッチング体制の整備
9	その他 ()
10	わからない
11	特にない

問50 あなたは、保健福祉や介護保険に関する知識・情報を何から得ていますか。(○は3つまで)

- | | | | |
|----|----------------------------|----|-----------|
| 1 | ねりま区報 | 2 | 練馬区ホームページ |
| 3 | 地域包括支援センター | 7 | 回覧板・掲示板 |
| 4 | 「わたしの便利帳」高齢者の生活ガイド」など区の刊行物 | 9 | インターネット |
| 5 | 高齢者向けホームページ「シニアナビねりま」 | 11 | 病院などの医療機関 |
| 6 | 社会福祉協議会の相談窓口 | 13 | 特にない |
| 8 | 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | | |
| 10 | 家族・友人 | | |
| 12 | その他 () | | |

問51 もし、あなたの周囲で高齢者への虐待がわかったら、どこに相談しますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|------------|---|---------------|
| 1 | 家族・親族 | 2 | 知人・友人 |
| 3 | 警察 | 4 | 医療機関 |
| 5 | 地域包括支援センター | 6 | 総合福祉事務所 (区役所) |
| 7 | その他 () | 8 | わからない |

問52 あなたは、高齢者への虐待を防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|----------------------|----|--------------------|
| 1 | 介護される側と介護する側の相互理解の促進 | | |
| 2 | 地域における見守りや普段からの声かけ | | |
| 3 | 気軽に相談できる窓口の充実 | 4 | 介護に関する情報提供の充実 |
| 5 | 認知症に関する理解の促進 | 6 | 介護保険サービスの充実 |
| 7 | 介護する家族同士の集い | 8 | 介護者がリフレッシュできる機会の充実 |
| 9 | 経済的な支援 | 10 | その他 () |

問53 あなたやご家族が認知症ではないかと感じたとき、どこに相談しますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|----|---------|----|---------------|
| 1 | 家族・親族 | 2 | 知人・友人 |
| 3 | かかりつけ医 | 4 | 精神科などの専門医 |
| 5 | ケアマネジャー | 6 | 介護家族の会や認知症カフェ |
| 7 | 民生・児童委員 | 8 | 地域包括支援センター |
| 9 | 保健相談所 | 10 | 社会福祉協議会 |
| 11 | その他 () | 12 | 相談しない |

問54 あなたは、認知症に関わる施策として、どのようなことが必要だと思いますか。

(○は3つまで)

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 認知症の兆候を早期に見てできる仕組みづくり |
| 2 | 医療と介護保険サービスの連携による認知症の人を支える仕組みづくり |
| 3 | 認知症について正しい知識を得るための講習会や情報提供 |
| 4 | 地域での見守りなど、日常的な支え合い |
| 5 | 本人や家族が気軽に相談できる場所や共に活動できる居場所の整備 |
| 6 | 認知症の本人が自らの気持ちや必要としていることを話し合える場や機会の提供 |
| 7 | 認知症高齢者グループホームの整備など、介護保険サービスの充実 |
| 8 | 介護している家族の負担の軽減 |
| 9 | 認知症予防についての講習会や情報提供 |
| 10 | 介護保険制度や成年後見制度、その他の利用できるサービスに関する情報提供 |
| 11 | 権利擁護センター「ほっとサポートねりま」からの支援 |
| 12 | その他 () |
| 13 | 特にない |

問55 認知症の兆候を早期に見てできる仕組みとして、どのようなものがあればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 認知症の診断に関する受診費用の助成 |
| 2 | 受診できる医療機関の情報 |
| 3 | 気軽に相談できる窓口 |
| 4 | 簡単に認知症の兆候を確認できるチェックシートなどの配布 |
| 5 | その他 () |
| 6 | わからない |

問56 日常生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどの情報通信の機器(ICT機器)をどの程度お使いですか。(それぞれ○は1つ)

- | | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|----------|
| ①パソコン | 1 よく使う | 2 まあ使う | 3 使わない | 4 持っていない |
| ②スマートフォン | 1 よく使う | 2 まあ使う | 3 使わない | 4 持っていない |
| ③タブレット型端末 | 1 よく使う | 2 まあ使う | 3 使わない | 4 持っていない |
| ④その他 () | 1 よく使う | 2 まあ使う | 3 使わない | 4 持っていない |

※タブレット型端末:ノート型サイズで持ち運びでき、ディスプレイなどの表示部分にタッチパネルを搭載したコンピュータの総称

(問56の①～④で、1つでも1または2とお答えの方におたずねします。その他の方は、問57に進んでください。)

問56-1 ICT機器を使用していて困っていることはなんですか。(○は3つまで)

- | | | | |
|---|----------------|----|----------------------|
| 1 | 機能・サービスが複雑である | 2 | 機器の操作が難しい |
| 3 | 機器の接続方法がわかりづらい | 4 | 個人情報不正利用や詐欺サイト接続等の不安 |
| 5 | 通信料金等の維持費が高い | 6 | 以前でききた操作方法を忘れてしまう |
| 7 | 文字が読みにくい | 8 | 教えてくれる人、相談する人がいない |
| 9 | その他 () | 10 | 特にない |

問56-2 ICT機器の使用について相談できる相手・場所はありますか。(○は3つまで)

- | | | | |
|---|---------------|---|-----------|
| 1 | 家族・親族 | 2 | 知人・友人 |
| 3 | メーカー・販売店 | 4 | 民間のパソコン教室 |
| 5 | 区役所 (スマホ教室など) | 6 | その他 () |
| 7 | 特にない | | |

問56-3 ICT機器で使いたい機能は何ですか。(○は3つまで)

- | | | | |
|----|---------------------|----|----------------|
| 1 | ウェブサイトの閲覧 | 2 | メール |
| 3 | SNS※ | 4 | 区役所などへのオンライン申請 |
| 5 | ネットショッピング、キャッシュレス決済 | 6 | 動画視聴 |
| 7 | 写真撮影 | 8 | 地図・乗換案内 |
| 9 | 食事・運動などの健康管理 | 10 | スケジュール管理 |
| 11 | その他 () | 12 | 特にない |

※SNS:「Social Networking Service(ソーシャルネットワークサービス)」の略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。最近では、企業などの広報としての利用も増えている。代表的なものとして、「Facebook(フェイスブック)」「Twitter(ツイッター)」「Instagram(インスタグラム)」「YouTube(ユーチューブ)」「LINE(ライン)」など。

(すべての方におたずねします。)

問57 民間企業ではさまざまな見守りICTサービスを提供していますが、利用したことがあるサービスはありますか。①～④のそれぞれに回答してください。(それぞれ○は1つ)。

また、利用の有無で「2. 利用していたが、やめてしまった」「3. まったく利用したことはない」とご回答された方は、利用していない理由もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

回答例	利用の有無 (それぞれ○は1つ)		利用していない理由 (あてはまるものすべてに○)			
	利用している	利用していたが、やめてしまった	サービスの内容がわからない	サービスの内容がわかりにくい	サービスの内容が高い	安否確認を知らせる機能が家族・友人がいない
① 電化製品系	1	2	①	2	3	4
② 弁当などの配達系	1	2	3	3	3	4
③ 電気・ガス系	1	2	3	3	3	4
④ 住宅取り付け系	1	2	3	3	3	4

※「① 電化製品系」とは、湯沸かしポットなど電化製品の稼働状況から安否を知らせるサービス。

※「② 弁当などの配達系」とは、弁当や食料などの配達の際に安否確認し、結果を知らせるサービス。

※「③ 電気・ガス系」とは、電気やガスの使用状況から安否を知らせるサービス。

※「④ 住宅取り付け系」とは、住宅にセンサーを取り付け、異常を検知するサービス。

問58 今後、利用してみたい見守りICTサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | | | |
|---|---------|---|----------|---|--------|
| 1 | 電化製品系 | 2 | 弁当などの配達系 | 3 | 電気・ガス系 |
| 4 | 住宅取り付け系 | 5 | 特にない | | |

練馬区高齢者基礎調査

◆ 調査へのご協力をお願い ◆

日頃から、練馬区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。区では、新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定に着手しています。この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価および高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画がより実りある計画となるよう、高齢者の方々から、日頃の生活状況や区の高齢者施策に対するご意見・ご希望などをお聞きするため実施するものです。調査の対象として、区内にお住まいの要支援・要介護認定を受けているあるいは総合事業の対象となっている65歳以上の方々から6,500人を無作為に選び、調査票を送付させていただきます。なお、令和4年10月1日現在の情報を基に調査票を送付しています。転居等により行き違いが生じる場合がありますが、ご了承ください。

本調査で得られた情報につきましては、区で適切に管理し、個人が特定される形での公表や、他の目的での使用はいたしません。ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年11月 練馬区

◆ 調査票のご記入にあたって ◆

- 調査票上の「あなた」とは、封筒に印刷されたあて名ご本人を指します。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問文にある「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」などの指示にしたがってご回答ください。また、ご意見や数字などを直接ご記入いただく質問もあります。
- 質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人お一人での回答が難しい場合は、ご家族の方などにお手伝いいただき、対象者ご本人の意見を聞いた上で代わりにご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、**11月28日(月)まで**に、同封の返信用封筒にてご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。
- この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

この調査は、(株) サーベイリサーチセンターに委託して実施しています。調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【調査委託元】
練馬区 高齢施策担当部 高齢社会対策課 計画係
【調査実施・お問い合わせ先】 (株) サーベイリサーチセンター
電話：0120-965-812 (フリーダイヤル)
<受付/月曜～金曜(平日) 9:00～17:00>
メール：contact-ml@surece.co.jp

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

- 1 あて名のご本人が記入 ()
- 2 ご家族が記入 (あて名のご本人からみた続柄：)
- 3 その他 ()

◆ あなただご家族や生活状況について ◆

問1 あなたの性別と、令和4年10月1日現在の満年齢を教えてください。

① 性別(○は1つ) ② 年齢(右詰めで記入)

1 男性	2 女性		歳
------	------	--	---

問2 あなたのお住まいはどちらですか。記入例のように、町名と丁目をご記入ください。

町名		丁目
(記入例)	町名 光が丘	丁目 3

問3 家族構成をお教えください。(○は1つ)

- 1 1人暮らし
- 2 夫婦2人暮らし (配偶者 65歳以上)
- 3 夫婦2人暮らし (配偶者 64歳以下)
- 4 子との2世帯
- 5 親との2世帯
- 6 親・子との3世帯
- 7 その他 ()

問4 あなたは、高齢者(65歳以上)の家族や親せき等の介護をしていますか。(○は1つ)

- 1 主たる介護者として、同居の家族等を介護している
 - 2 主たる介護者ではないが、同居の家族等を介護している
 - 3 主たる介護者として、別居の家族等を介護している
 - 4 主たる介護者ではないが、別居の家族等を介護している
 - 5 介護はしていない
- (→次ページの問5へ進む)

(問4で、1または2とお答えの方におたずねします。)

問4-1 介護を受けている方は介護保険のサービスを利用していますか。(○は1つ)

- 1 利用している
- 2 利用していない
- 3 わからない

(すべての方におたずねします。)

問5 現在、あなたにはお子さんがいらっしゃるでしょうか。(○は1つ)

1 いる	2 いない (→問6へ進む)
------	----------------

(問5で、「1 いる」とお答えの方におたずねします。)

問5-1 あなたは、ご自身の子どものごことで、心配ごとが何かありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 子どもの仕事	2 子どもの家庭環境 (配偶者など家族との関係など)
3 子どもの経済状態	4 子どもの病気・障害
5 子どものひきこもり	6 子どもによる暴力・暴言
7 その他 ()	8 特になし (→問6へ進む)

(問5-1で、1～7 (何らかの心配ごとがある)とお答えの方におたずねします。)

問5-2 ご自身の子どものご心配ごとについて、周囲に相談していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 家族・親族	2 知人・友人
3 近所の人	4 警察
5 医療機関	6 保健相談所
7 地域包括支援センター	8 総合福祉事務所 (区役所)
9 その他 ()	10 相談していない
11 相談先がわからない	

(すべての方におたずねします。)

問6 平日の昼間、ご自宅にあなた以外にどなたがいらっしゃるでしょうか。(○は1つ)

1 いつも誰かがいる	2 誰かがいることが多い
3 自分一人のことが多い	4 いつも自分一人である

問7 あなたの年収(配偶者がいる場合はご夫婦を合わせた年収。年金を含む)はどのくらいですか。(○は1つ)

1 100万円未満	2 100～200万円未満	3 200～300万円未満
4 300～400万円未満	5 400～500万円未満	6 500～700万円未満
7 700～1,000万円未満	8 1,000万円以上	9 わからない

問8 あなたの世帯では、どのくらい預貯金がありますか。(○は1つ)

1 100万円未満	2 100～300万円未満
3 300～500万円未満	4 500～700万円未満
5 700～1,000万円未満	6 1,000～1,500万円未満
7 1,500～2,000万円未満	8 2,000～3,000万円未満
9 3,000万円以上	10 わからない

問9 現在の暮らしの状況を経済的にみてどのよう感じていますか。(○は1つ)

1 大変苦しい	2 やや苦しい	3 ふつう
4 ややゆとりがある	5 大変ゆとりがある	

問10 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

1 名称も内容も知っている	2 名称は聞いたことがある	3 初めて聞いた
---------------	---------------	----------

※成年後見制度:認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない方のために、成年後見人等が本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守るための制度です。

問11 あなたやあなたの家族が、判断能力が十分でなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いませんか。(○は1つ)

1 既にご利用している
2 利用してみたい
3 制度の内容がよく理解できていないため、利用したくない
4 利用方法がわからないため、利用したくない
5 家族などが支援できるため、利用したくない
6 その他 ()
7 わからない

◆住まいについて

問12 あなたは現在どこで生活していますか。(○は1つ)

1 持家	2 賃貸住宅(高齢者向けの住宅、施設を除く)
3 シルバーピア	4 サービス付き高齢者向け住宅
5 都市型軽費老人ホーム	6 住宅型有料老人ホーム
7 介護付き有料老人ホーム	8 特別養護老人ホーム
9 認知症高齢者グループホーム	10 その他 ()

【高齢者向けの住宅・施設の用語説明一覧】

区分	施設などの名称	概要	
住宅	①シルバーピア	バリアフリー化され、緊急通報システムなどが備わっている単身の高齢者または高齢者のみの世帯を対象とした賃貸住宅	
	②サービス付き高齢者向け住宅	バリアフリー化され、安否確認サービス、緊急時対応サービス、生活相談サービスなどの付いた高齢者向けの賃貸住宅	
施設	③都市型軽費老人ホーム	食事や安否確認のサービスが付いた、身体機能の低下などにより自立した生活に不安がある低所得の高齢者を対象とした施設	
	④住宅型有料老人ホーム	食事などの日常生活上のサービスは付くが、介護保険サービスは別契約で外部の事業所を利用する有料老人ホーム	
	⑤介護付き有料老人ホーム	介護保険サービスなどが付いた有料老人ホーム。介護が必要になっても、そのホームが提供する介護保険サービスなどを利用できる	
	⑥特別養護老人ホーム	常時介護が必要で家庭での生活が困難な人が、介護や身の回りの世話を受けながら生活する施設	
	⑦認知症高齢者グループホーム	認知症高齢者が少人数で、家庭的な雰囲気のもとで介護や身の回りの世話を受けながら共同生活を送る住まい	

問13 将来の住まいに関して、不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢期の賃貸を断られる
- 2 高齢期の賃貸を断られる以外で転居先が決まらない
- 3 虚弱化した(身体が弱ってきた)ときの住居の構造
- 4 世話をしてくれる人の存在
- 5 家賃等を払い続けられない
- 6 住宅の修繕費等必要な経費を払えなくなる
- 7 その他 ()
- 8 特にない

問14 介護が必要になった場合(介護がすでに必要な方についてはこれから)どのような暮らし方を希望しますか。(○は1つ)

- 1 自宅で、介護保険のサービスを中心に利用したい
- 2 自宅で、家族や親族などからの介護を中心に受けたい
- 3 家族や親族などの家に住み替えて、介護保険のサービスを中心に利用したい
- 4 家族や親族などの家に住み替えて、家族や親族などからの介護を中心に受けたい
- 5 安否確認サービスの有る住宅(シルバーピア)に住み替えて、介護保険のサービスを利用したい
- 6 安否確認と食事や入浴のサービスのある住宅(サービス付き高齢者向け住宅、都市型軽費老人ホーム、住宅型有料老人ホーム)に住み替えて、介護保険のサービスを利用したい
- 7 介護保険サービスの有る施設・住宅(特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム)に入りたい
- 8 その他 ()
- 9 わからない

◆外出状況について

問15 買い物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。

- ① 買い物(○は1つ)
- | | | | | |
|--------|---------|---------|-------|---------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週4～5日 | 3 週2～3日 | 4 週1日 | 5 週1日未満 |
|--------|---------|---------|-------|---------|
- ② 散歩(○は1つ)
- | | | | | |
|--------|---------|---------|-------|---------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週4～5日 | 3 週2～3日 | 4 週1日 | 5 週1日未満 |
|--------|---------|---------|-------|---------|

問16 外をたためらってしまうような問題点はありませんか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 新型コロナウイルス感染に不安があること
- 2 電車やバスに乗ることが難しくなってきたこと
- 3 以前よりも歩くことが難しくなってきたこと(青信号の間に横断歩道を渡りきれない等)
- 4 道路に階段や段差、傾斜があったり、歩道が狭いこと
- 5 ベンチや椅子など休める場所が少ないこと
- 6 トイレが少ないこと、使いにくいこと
- 7 けがや病気のこと
- 8 外出したい場所がないこと
- 9 外出する気力が起きないこと
- 10 人との関わりが面倒なこと
- 11 一緒に外出する人がいないこと
- 12 お金がないこと
- 13 その他 ()
- 14 特に問題点はない

◆仕事や地域での活動について

問17 地域活動(ボランティアや趣味・スポーツ関係のグループ、町内会・自治会、老人クラブなどの活動)にどのくらいの頻度で参加していますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 週4回以上 | 2 週2～3回 | 3 週1回 |
| 4 月1～3回 | 5 年に数回 | 6 参加していない |

問18 次の①～③について、どのくらいの頻度で感じていますか。それぞれに回答してください。

- ① 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。(○は1つ)
- | | | | |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|
- ② 自分は取り残されていると感じることがありますか。(○は1つ)
- | | | | |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|
- ③ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(○は1つ)
- | | | | |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|

◆健康について

問19 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|--------|-----------|--------|
| 1 とてもよい | 2 まあよい | 3 あまりよくない | 4 よくない |
|---------|--------|-----------|--------|

問20 あなたは、現在のどの程度幸せですか。(○は1つ)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

- | | |
|-------|-------|
| とても不幸 | とても幸せ |
| 0点 | 10点 |
| 1点 | 9点 |
| 2点 | 8点 |
| 3点 | 7点 |
| 4点 | 6点 |
| 5点 | 5点 |
| 6点 | 4点 |
| 7点 | 3点 |
| 8点 | 2点 |
| 9点 | 1点 |

◆医療について

問21 あなたは、自身の体調や口腔ケア、服薬などについて相談できる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持っていますか。(それぞれ○は1つ)

- | | | | | |
|---|----------|------|-------|---------|
| ① | かかりつけ医 | 1 いる | 2 いない | 3 わからない |
| ② | かかりつけ歯科医 | 1 いる | 2 いない | 3 わからない |
| ③ | かかりつけ薬局 | 1 ある | 2 ない | 3 わからない |

問22 現在、病院・医療(診療所・クリニック)への受診はどのようにされていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|----------------|---------------------|
| 1 | 通院している | 2 通院と往診の両方を利用している |
| 3 | 訪問診療・往診を利用している | 4 受診していない (→問23へ進む) |

(問22で、1～3のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問22-1 どのくらいの頻度で、病院・医療(診療所・クリニック)を受診していますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|------------|-----------|---------|
| 1 | ほぼ毎日 | 2 週4～5日 | 3 週2～3日 |
| 4 | 週1日 | 5 月2～3回 | 6 月1回程度 |
| 7 | 2～3か月に1回程度 | 8 その他 () | |

(すべての方におたずねします。)

問23 あなたは、要介護度が高くなったり、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になったりした場合でも、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいと思いませんか。(○は1つ)

- | | | |
|---|-------------------------|-------------|
| 1 | 現在、在宅医療や介護を受けている | } (→問24へ進む) |
| 2 | 在宅医療や介護を希望する (実現可能だと思う) | |
| 3 | 在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う | |
| 4 | 在宅医療や介護を希望しない | |
| 5 | わからない (→問24へ進む) | |

(問23で3または4とお答えの方におたずねします。)

問23-1 それはなぜですか。(○は3つまで)

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 介護してくれる家族がいらないから |
| 2 | 介護してくれる家族などに負担をかけるから |
| 3 | 急に病状が変わったときの対応が不安だから |
| 4 | 在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから |
| 5 | 在宅での体調悪化時にすぐ入院できるかわからないから |
| 6 | 療養できる居住環境 (部屋やトイレ等) が整っていないから |
| 7 | 往診してくれる医師がいらないから |
| 8 | 地域の訪問看護・介護体制が整っていないから |
| 9 | 経済的な負担が大きいかから |
| 10 | その他 () |
| 11 | 特に理由はない |

(すべての方におたずねします。)

問24 どのようなサービスや条件を整えば、介護が必要になっても今の家での生活を続けられると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|--|
| 1 | 24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえ |
| 2 | 24時間365日必要に応じて、計画的あるいは随時に、自宅で医師に診療してもらえ |
| 3 | 施設へ通うことを中心に、自宅へ訪問してもらったり、施設へ泊まったりするなど、柔軟に対応してもらえ |
| 4 | 認知症に配慮した介護保険サービスが整っている |
| 5 | リハビリができた入院施設が整備されている |
| 6 | 体調急変時に一時的に入院できる体制が整っている |
| 7 | デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる |
| 8 | 段差の解消や手すりなど、住まいの構造や設備がバリアフリーになっている |
| 9 | 配食や買い物、ごみ出しなどの生活面を支援してもらえ |
| 10 | 困ったときにいつでも身近に相談できる体制が整っている |
| 11 | 声かけや見守りをしてくれるなど地域の理解や支えがある |
| 12 | 家族が理解・協力してくれる |
| 13 | その他 () |
| 14 | 特にない |

問25 リハビリ療養目的に入院したことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|----|----------------|
| 1 | ある | 2 ない (→問26へ進む) |
|---|----|----------------|

※リハビリ療養: 脳梗塞や脳出血・骨折等による急性期の治療後に在宅復帰を目的にリハビリを行うこと

(問25で、「1 ある」とお答えの方におたずねします。)

問25-1 リハビリ療養を目的に、一番最近入院した医療機関はどこにありましたか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----|--------------------|-------|
| 1 | 区内 | 2 近隣区 (板橋区、北区、豊島区) | 3 その他 |
|---|----|--------------------|-------|

問25-2 リハビリ療養目的の入院にあたり、その医療機関を選んだ理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---|---------------------|-----------------|
| 1 | かかりつけ医からの紹介 | 2 入院していた病院からの紹介 |
| 3 | 自宅に近いなど退院後の通院に便利だから | 4 専門性が高いから |
| 5 | その他 () | |

(すべての方におたずねします。)

問26 人生の最終段階における受けたい医療・介護、受けたくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っていますか。(○は1つ)

1 詳しく話し合っている	} (→問26-2へ進む)
2 一応話し合っている	
3 ほとんど話し合っていない	
4 話し合っていない	

(問26で、1または2のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問26-1 話し合っている相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族・親族	2 友人・知人	3 かかりつけ医・主治医
4 看護師	5 ケアマネジャー	6 ホームヘルパー
7 介護施設職員	8 その他 ()	

【問27へ進んでください】

(問26で、3または4のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問26-2 話し合ったことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 話し合いたくないから
2 話し合う必要性を感じないから
3 話し合うきっかけがなかったから
4 知識がないため、何を話し合っているかわからないから
5 その他 ()

(すべての方におたずねします。)

問27 あなたは人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(○は1つ)

1 自宅
2 子供など親族の家
3 介護保険で利用できる施設 (特別養護老人ホーム等)
4 サービス付き高齢者住宅・有料老人ホーム・都市型軽費老人ホーム等の高齢者向け住宅
5 ホスピス (緩和ケア病棟)
6 5以外の医療機関
7 その他 ()
8 わからない

問28 終末期および死後の手続き等で不安なことはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1 死後の公共料金の解約や役所への届け出	2 遺品整理
3 金融機関への連絡	4 所有する不動産に関すること
5 葬儀に関すること	6 相続に関すること
7 お墓に関すること	8 その他 ()
9 特になし	

問29 終活に興味はありますか。(○は1つ)

1 大いにある	2 少しある	3 あまりない	4 全くない
---------	--------	---------	--------

問30 実際に終活を行うと、何を手伝ってもらいたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1 遺言の作成	2 エンディングノートの作成
3 契約関係の整理	4 身の回りの持ち物などの整理
5 お墓・葬儀の準備	6 デジタル遺品の整理
7 その他 ()	8 特になし

問31 終活に関して、相談するとしたら誰にしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族や親族
2 区役所や地域包括支援センターなど行政の窓口
3 弁護士や行政書士、終活アドバイザーなど民間のサービス
4 その他 ()
5 相談せず、すべて自分で行いたい

問32 終活に関して、区が支援をしたらどのようなことを求めたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1 専門の相談窓口の設置
2 終活に関するセミナーやイベントの開催
3 弁護士など民間事業者への相談料等に対する補助
4 遺言書やエンディングノートなどの保管場所の登録サービス
5 その他 ()
6 特になし

◆介護保険について

問33 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。(○は1つ)

1 要支援 1	2 要支援 2	3 要介護 1
4 要介護 2	5 要介護 3	6 要介護 4
7 要介護 5	8 総合事業対象者	9 わからない

問34 あなたが、介護保険の要介護認定(総合事業対象者の方は健康長寿チェックシートによる判断)を申請した主な理由は何か。(○は3つまで)

1 家事・調理、洗濯、掃除などが負担になってきたから
2 身の回りの行為が困難になってきたから
3 買い物や外出が負担になってきたから
4 通院などに手助けがほしくなくなってきたから
5 物忘れが進んだから
6 介護保険の施設入所を希望しているから
7 住宅改修または福祉用具購入を利用したいから
8 必要時にサービスを受けたいから
9 自分の要介護度を知りたかったから
10 医師、看護師から勧められたから
11 家族に勧められたから
12 友人・知人などに勧められたから
13 その他 ()

問35 あなたが、介護保険の要介護認定を申請した主な原因は、次のうちどれですか。(○は1つ)

1 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	2 心臓病
3 がん(悪性新生物)	4 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)
5 関節の病気(リウマチ等)	6 認知症(アルツハイマー病等)
7 パーキンソン病	8 糖尿病
9 視覚・聴覚障害	10 骨折・転倒
11 脊椎損傷	12 高齢による衰弱
13 その他 ()	14 わからない

問36 あなたが現在利用しているサービスに○をつけてください。サービスを利用していない場合は、124 いずれも利用していないを選択してください。○をつけたサービスについては、満足度についてもご記入ください。

A: 利用しているサービス (すべてに○)	B: 満足度 (満足①、 やや満足②、 ふつう③、 やや不満④、 不満⑤)
(記入例) ① 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	
1 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	()
2 訪問入浴介護	()
3 訪問リハビリテーション	()
4 訪問看護	()
5 居宅療養管理指導	()
6 通所介護 (デイサービス、地域密着型通所介護を含む)	()
7 通所リハビリテーション (デイケア)	()
8 短期入所生活介護 (ショートステイ)	()
9 短期入所療養介護 (医療型ショートステイ)	()
10 福祉用具貸与・購入	()
11 住宅改修	()
12 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	()
13 介護老人保健施設	()
14 介護療養型医療施設 (介護医療院を含む)	()
15 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (24時間対応の訪問サービス)	()
16 夜間対応型訪問介護	()
17 小規模多機能型居宅介護	()
(通い・訪問・泊まりなどを組み合わせたサービス)	()
18 看護小規模多機能型居宅介護 (小規模多機能型居宅介護に訪問看護を組み合わせたサービス)	()
19 認知症対応型通所介護	()
20 認知症対応型共同生活介護 (認知症高齢者グループホーム)	()
21 有料老人ホーム	()
22 都市型軽費老人ホーム	()
23 サービス付き高齢者向け住宅	()
24 いずれも利用していない (→問38へ進む)	()

(問36で、1～23のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問37 現在、介護保険サービスの支給限度額に対して、どの程度利用していますか。(Oは1つ)

1 自費負担分を含めて限度額以上に利用している	} (→問39へ進む)
2 ほとんど限度額いっぱい利用している	
3 限度額まで利用していない	
4 わからない (→問39へ進む)	

(問37で、「3 限度額まで利用していない」とお答えの方におたずねします。)

問37-1 限度額まで利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてにO)

1 利用中のサービスで間に合っているから	【問39へ進んでください】
2 家族介護により、多く利用せずに済んでいるから	
3 利用料の負担が大きくなるから	
4 希望するサービスが利用できないから	
5 他に利用したいサービスがないから	
6 その他 ()	

(問36で、「24 いずれも利用していない」とお答えの方におたずねします。)

問38 介護保険サービスを利用されていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてにO)

1 病院や診療所に入院中	【問42へ進んでください】
2 家族などの介護がある	
3 自分で身の回りのことをするよう努力している	
4 介護保険サービスを使うほど具合が悪くない	
5 できるだけ他人の世話になりたくない	
6 介護保険サービスの使い方がわからぬ	
7 利用しようとしたが、事業者から断られた	
8 使いたい介護保険サービスがない	
9 近くに介護保険サービス事業者がない	
10 他人が家に入ることに抵抗がある	
11 介護保険サービスの料金が高い	
12 介護保険外のサービスを使っている	
13 介護保険制度に不満がある	
14 その他 ()	

(介護保険サービスを利用されている方におたずねします。)

問39 あなたは、ケアマネジャー(介護支援専門員)に満足していますか。(Oは1つ)

1 満足している	2 やや満足している	3 ぶつう
4 やや不満である	5 不満である	

問40 あなたは、ケアマネジャーについてどのように感じていますか。次の①～⑨について、あなたの気持ちを答えください。(Oはそれぞれの質問①～⑨に1つ)

	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
①(介護予防)ケアプラン作成前に親身になって話を聞いてくれた	1	2	3
②複数のサービス事業所を紹介し、選べるようにしてくれる	1	2	3
③介護保険以外の練馬区のサービスなどの情報も提供してくれる	1	2	3
④サービス内容や利用料について、わかりやすく説明してくれる	1	2	3
⑤月1回程度、定期的に訪問して様子や満足度を確認してくれる	1	2	3
⑥サービス事業者との間に入り、連絡や調整を行ってくれる	1	2	3
⑦自分の意向と異なる不要なサービスを勧められたことはない	1	2	3
⑧ケアプラン以外の介護や生活全般についても相談に乗ってくれる	1	2	3
⑨家族や友人・知人にも、同じケアマネジャーをお薦めできる	1	2	3

問41 あなたは、介護保険サービスを利用するようになって変わったことはありますか。

(あてはまるものすべてにO)

1 体が動くようになった	
2 すぐに疲れを感じなくなった	
3 筋肉や関節などの痛みが減った、感じなくなった	
4 自分もやればできる、という自信がついた	
5 食事が楽しくなった	
6 一緒に参加する仲間ができた	
7 人と接するのがおっくうでなくなった	
8 その他 ()	
9 利用する以前と特に変わった点はない	

(すべての方におたずねします。)

問42 要介護状態になっても、リハビリをはじめとした様々な介護保険サービスを利用することにより、心身の維持向上に努めることが大切です。要介護度が改善することについて、あなたはどう考えていますか。(○は1つ)

1	改善して、介護保険サービスの利用を減らし、自立した生活を送りたい
2	改善したいが、介護保険サービスの利用量の減少と内容の変更が不安
3	介護保険サービスの利用量の減少・内容の変更になるため改善したくない
4	改善するとは思えない
5	その他 ()
6	わからない

問43 介護保険は、介護が必要になっても、尊厳を保持し、その方の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、社会みんなが支える制度です。その保険料は、区全体の介護保険サービスの利用状況や過去の実績などから、3年ごとに決まります。介護保険のサービスと保険料の関係について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

1	保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの水準を上げる方がよい
2	施設や在宅サービスの水準は現状程度とし、保険料の上昇は高齢者人口の伸びなどによる影響の範囲に抑える方がよい
3	サービスの水準が低下しても、保険料は安い方がよい
4	わからない

問44 あなたは、日々の生活の中で介護保険料や健康保険料の負担についてどのように感じていますか。(○は1つ)

1	保険料が日々の暮らしを圧迫している
2	年々、保険料が高くなって、多少の負担と感じている
3	適正である(この程度の額ならいい)と思う
4	それほど負担とは感じない
5	わからない

問45 あなたは、介護保険サービスの利用料(食費や娯楽費など実費負担は除く)についてどのように感じていますか。(○は1つ)

1	負担と感じる	2	多少負担と感じる	3	どちらともいえない
4	それほど負担とは感じない	5	負担とは感じない	6	わからない

◆区の保健福祉施策について

問46 日常生活の中でのお困りごとはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	食事の準備	2	掃除や洗濯
3	ごみの分別やごみ出し	4	庭の掃除や手入れ
5	買い物(荷物を持って帰ることも含む)	6	バスや電車、車を使っての外出
7	通院や薬を取りに行くこと	8	銀行や郵便局での手続き
9	区役所などでの手続き	10	生活に必要な情報を得ること
11	隣近所との付き合い	12	話し相手がいらないこと
13	その他 ()	14	特に困っていることはない

問47 あなたは老後を楽しんで生きていくために必要なものはどのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1	仕事や家庭内の役割	2	家族の愛情
3	豊かな生活のためのお金	4	何でも相談できる友人・知人
5	打ち込むことのできる趣味や生きがい	6	自分や家族の健康
7	保健福祉などの社会的援助	8	隣近所の助け合い
9	奉仕活動などを通して得られる社会的満足感	10	その他 ()
11	特にない		

問48 あなたは、何歳以上が高齢者だと思いますか。(○は1つ)

1	60歳以上	2	65歳以上	3	70歳以上
4	75歳以上	5	80歳以上	6	その他 ()

問49 あなたは、将来に対してどのようなことに不安がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	健康 (自分や家族が介護を必要とする状態になること等)
2	生計 (経済的に苦しくなること等)
3	防犯・防災 (災害時の避難場所がわからない等)
4	住居 (老朽化、バリアフリーでない等)
5	家族・親族との関係 (連絡を取り合っていない等)
6	隣近所との関係 (困ったときに助け合える関係でない等)
7	預貯金などの管理
8	1人暮らしになること
9	老後への漠然とした不安
10	その他 ()
11	不安なことはない

問50 あなたは、地域包括支援センターをご存知ですか。(○は1つ)

1	現在利用している	2	利用したことがある
3	名前は知っているが、利用したことはない	4	知らない

問51 あなたは、地域包括支援センターにどのような役割を期待しますか。(〇は3つまで)

- 1 要支援者などを対象に、適切な介護予防サービスの利用を促進する
- 2 個々の高齢者に必要な支援内容を把握し、適切なサービスの利用につなげる
- 3 高齢者の虐待防止・早期対応や権利擁護を図る
- 4 ケアマネジャーへの日常的個別指導・相談
- 5 地域の関係者が高齢者に関する地域課題などを検討するための地域ケア会議の充実
- 6 在宅医療・介護連携の推進
- 7 認知症の早期発見・早期対応などの認知症施策の推進
- 8 地域の社会資源の把握・開発および社会資源と人的資源のマッチング体制の整備
- 9 その他 ()
- 10 わからない
- 11 特にない

問52 あなたは、保健福祉や介護保険に関する知識・情報を何から得ていますか。(〇は3つまで)

- 1 ねりま区報
- 2 練馬区ホームページ
- 3 地域包括支援センター
- 4 「わたしの便利帳」「高齢者の生活ガイド」など区の刊行物
- 5 高齢者向けホームページ「シニアナビ ねりま」
- 6 社会福祉協議会の相談窓口
- 7 回覧板・掲示板
- 8 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ
- 9 インターネット
- 10 家族・友人
- 11 病院などの医療機関
- 12 その他 ()
- 13 特にない

問53 もし、あなたの周囲で高齢者への虐待がわかったら、どこに相談しますか。

- (あてはまるものすべてに〇)
- 1 家族・親族
 - 2 知人・友人
 - 3 警察
 - 4 医療機関
 - 5 地域包括支援センター
 - 6 総合福祉事務所 (区役所)
 - 7 その他 ()
 - 8 わからない

問54 あなたは、高齢者への虐待を防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。

- (あてはまるものすべてに〇)
- 1 介護される側と介護する側の相互理解の促進
 - 2 地域における見守りやふだんだんからの声かけ
 - 3 気軽に相談できる窓口の充実
 - 4 介護に関する情報提供の充実
 - 5 認知症に関する理解の促進
 - 6 介護保険サービスの充実
 - 7 介護する家族同士の集い
 - 8 介護者がリフレッシュできる機会の充実
 - 9 経済的な支援
 - 10 その他 ()

問55 あなたやご家族が認知症ではないかと感じたとき、どこに相談しますか。

- (あてはまるものすべてに〇)
- 1 家族・親族
 - 2 知人・友人
 - 3 かかりつけ医
 - 4 精神科などの専門医
 - 5 ケアマネジャー
 - 6 介護家族の会や認知症カフェ
 - 7 民生・児童委員
 - 8 地域包括支援センター
 - 9 保健相談所
 - 10 社会福祉協議会
 - 11 その他 ()
 - 12 相談しない

問56 あなたは、認知症に関わる施策として、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり
- 2 医療と介護保険サービスの連携による認知症の人を支える仕組みづくり
- 3 認知症について正しい知識を得るための講習会や情報提供
- 4 地域での見守りなど、日常的な支え合い
- 5 本人や家族が気軽に相談できる場所や共に活動できる居場所の整備
- 6 認知症の本人が自らの気持ちや必要としていることを話し合える場や機会の提供
- 7 認知症高齢者グループホームの整備など、介護保険サービスの充実
- 8 介護している家族の負担の軽減
- 9 認知症予防についての講習会や情報提供
- 10 介護保険制度や成年後見制度、その他の利用できるサービスに関する情報提供
- 11 権利擁護センター「まっとサポートねりま」からの支援
- 12 その他 ()
- 13 特にない

ここからは介護をしている方(介護者)におたずねする質問です。

問60 主に介護している方は、あて名のご本人のご家族ですか。(○は1つ)

- 1 家族である (→問60-1へ進む)
2 家族ではない 一以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

(問60で「1 家族である」とお答えの方におたずねします。)

問60-1 あて名のご本人を主に介護しているご家族の性別・年齢・続柄・健康状態について、あてはまるものそれぞれに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

性別 (○は1つ)	1 男性	2 女性	
年齢 (○は1つ)	1 20歳未満	2 20歳代	3 30歳代
	4 40歳代	5 50歳代	6 60歳代
	7 70歳代	8 80歳代	9 80歳以上
続柄 (○は1つ)	1 夫	2 妻	3 息子
	4 娘	5 子の夫	6 子の妻
	7 親	8 孫	9 兄弟姉妹
	10 その他 ()		
	健康状態 (○は1つ)	1 とてもよい	2 まあよい
	3 あまりよくない	4 よくない	

問61 あて名のご本人の介護期間を教えてください。(○は1つ)

1 1年未満	2 1～3年未満	3 3～5年未満
4 5～8年未満	5 8～10年未満	6 10年以上

問62 主に介護している方の就労・就学状況を教えてください。(○は1つ)

1 正規社員	2 非正規社員
3 パート・アルバイト	4 学生 (→問63へ進む)
5 無職	6 その他 ()

(問62で1～3、または5、6のいずれかをお答えの方におたずねします。)

問62-1 主に介護している方の今後の就労意向を教えてください。(○は1つ)

1 現在と同様の形で働きたい	2 正規社員として働きたい
3 非正規社員として働きたい	4 パート・アルバイトとして働きたい
5 わからない	6 働きたくない

(すべての方におたずねします。)

問63 主に介護をしている方は、あて名のご本人の介護以外に育児や他の家族の方の介護や世話等もされていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 自分の子の育児をしている	2 孫の世話をしている
3 幼い兄弟姉妹の世話をしている	4 他の家族の介護や世話をしている
5 本人の介護のみしている	6 その他 ()

問64 あて名のご本人が介護保険サービスを利用されているとき、介護者ご自身はどのようなようにお感じですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 本人がうれしそうにしており、満足である
- 2 サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい
- 3 本人よりも介護者の方がサービス利用を増やしたい、と感じるときがある
- 4 本人と介護者で、サービス利用について意見が一致しないときがある
- 5 サービス利用後、本人が気分を害したり、具合が悪くなったりすることがあり、サービス内容などに不満がある
- 6 本人がサービス利用を嫌がることがあり、介護者としてつらいときがある
- 7 異性のスタッフの対応に不安を感じるときがある
- 8 その他 ()

問65 在宅での介護について、困ったり、負担に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 本人に正確な症状を伝えるのが難しい
- 2 来客の際に気を遣う
- 3 日中、家を空けることに不安を感じる
- 4 本人の言動が理解できないことがある
- 5 本人に受診を勧めても同意してもらえない
- 6 適切な対応や介護方法がわからない
- 7 介護を家族など他の人に任せよいか、悩むことがある
- 8 誰に、何を、どのように相談すればよいかわからない
- 9 家族や親族に介護を協力してもらえない
- 10 家の構造が介護するのに適していない
- 11 サービスを利用したら本人の状態が悪化した(したことがある)
- 12 睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない
- 13 身体的につらい(腰痛や肩こり等)
- 14 精神的なストレスがたまっている
- 15 自分の用事を済ませることができない
- 16 自分の自由になる時間が持てない
- 17 先々のことを考える余裕がない
- 18 経済的につらいと感じたときがある
- 19 その他 ()
- 20 特に困っていることはない

問66 介護をしていてつらい時、どこ(だれ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----|----------------------------|--|
| 1 | 家族・親族 | |
| 2 | 近所の人 | |
| 3 | 民生・児童委員 | |
| 4 | ボランティア | |
| 5 | 介護家族の会や認知症カフェ | |
| 6 | 社会福祉協議会 | |
| 7 | ケアマネジャー | |
| 8 | 医師・医療機関 | |
| 9 | 在宅サービスを行っているホームヘルパー・訪問看護師等 | |
| 10 | 地域包括支援センター | |
| 11 | その他 () | |
| 12 | どこにも (誰にも) 相談していない | |
| 13 | つらい時はない | |

問67 在宅での介護を継続していくうえで、介護者自身が受けたい支援はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----|--|--|
| 1 | 介護者が気軽に休息がとれるサービス (一時入所など) | |
| 2 | 介護者が旅行などの休養がとれるサービス (一定期間の入所など) | |
| 3 | 介護者の身体的負担 (腰痛や肩こり等) を軽減するサービス (マッサージ等) | |
| 4 | 介護の悩みを個別に相談できるサービス (相談会など) | |
| 5 | 介護の悩みを個別に相談できるサービス (電話や自宅等への訪問) | |
| 6 | 介護者同士で話ができるサービスの提供 | |
| 7 | 介護の技術が学べる研修・講座 | |
| 8 | 介護に関する定期的な情報提供 | |
| 9 | その他 () | |
| 10 | 特にない | |

ご協力ありがとうございました。11月28日(金)までに同封の返信用封筒でご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。

なお、この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

練馬区高齢者基礎調査

◆ 調査へのご協力をお願い ◆

日頃から、練馬区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。区では、新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定に着手しています。この調査は、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画がより実りある計画となるよう、特別養護老人ホームの入所待機者の皆さまを対象に、生活場所や申し込みの理由、入所を希望する時期などの現在の状況およびニーズを把握させていただくために実施するものです。調査の対象として、区内にお住まいの特別養護老人ホームの入所待機者の方全員を対象に、調査票を送付させていただきます。なお、令和4年8月末現在の情報を基に調査票を送付しています。転居等により行き違いが生じる場合がありますが、ご了承ください。ご回答いただいた内容は、統計情報の作成のみに使用します。個人が特定される形での公表や、他の目的での使用はいたしません。ご協力いただきますようお願いいたします。なお、調査のご回答内容により、待機の順番が変わることはありません。ご理解ください。

令和4年11月 練馬区

◆ 調査票のご記入にあたって ◆

- 調査票上の「あなた」とは、封筒に印刷されたあて名ご本人を指します。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問文にある「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」などの指示にしたがってご回答ください。また、ご意見や数字などを直接ご記入いただく質問もあります。
- 質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人お一人での回答が難しい場合は、ご家族の方などにお手伝いいただき、対象者ご本人の意見を聞いた上で代わりにご記入ください。
- ★ 対象者ご本人が不在や体調などの何らかの事情により回答できないうちは、下の枠内のいずれかに○印をつけてご返送ください。

- | | | |
|--------------------|------|-------|
| 1 入院・入所中で意思表示ができない | 2 転居 | 3 その他 |
|--------------------|------|-------|
- ご記入いただいた調査票は、**11月28日(月)まで**に、同封の返信用封筒にてご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。
 - この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

この調査は、(株) サーベイリサーチセンターに委託して実施しています。調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【調査委託元】
練馬区 高齢施策担当部 高齢社会対策課 計画係
【調査実施・お問い合わせ先】
(株) サーベイリサーチセンター
電話：0120-965-812 (フリーダイヤル)
<受付/月曜～金曜 (平日) 9:00～17:00>
メール：contact-mi@surece.co.jp

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | あて名のご本人が記入 |
| 2 | ご家族が記入 (あて名のご本人からみられた続柄：) |
| 3 | その他 () |

◆ あなただご家族や生活状況について ◆

問1 あなたの性別と、令和4年10月1日現在の満年齢を教えてください。

- | | |
|------------|--------------|
| ① 性別(○は1つ) | ② 年齢(右詰めで記入) |
| 1 男性 2 女性 | 歳 |

問2 あなたの現在の住まいはどちらですか。記入例のように、町名と丁目をご記入ください。

町名	丁目
(記入例) 【練馬区内の場合】 町名のみ	光が丘 3 丁目
【練馬区外の場合】 都道府県から	●●県●●市 丁目

問3 家族構成をお教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 1人暮らし | 2 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) |
| 3 夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) | 4 子との2世帯 |
| 5 親との2世帯 | 6 親・子との3世帯 |
| 7 その他 () | |

問4 現在、あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|------------|
| 1 大変苦しい | 2 やや苦しい |
| 3 ふつう | 4 ややゆとりがある |
| | 5 大変ゆとりがある |

問6 あなたの年収(配偶者がいる場合はご夫婦を合わせた年収。年金を含む)はどのくらいですか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1 100万円未満 | 2 100～200万円未満 | 3 200～300万円未満 |
| 4 300～400万円未満 | 5 400～500万円未満 | 6 500～700万円未満 |
| 7 700～1,000万円未満 | 8 1,000万円以上 | 9 わからない |

問7 あなたの世帯では、どのくらい預貯金がありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------------|----|-----------------|
| 1 | 100万円未満 | 2 | 100～300万円未満 |
| 3 | 300～500万円未満 | 4 | 500～700万円未満 |
| 5 | 700～1,000万円未満 | 6 | 1,000～1,500万円未満 |
| 7 | 1,500～2,000万円未満 | 8 | 2,000～3,000万円未満 |
| 9 | 3,000万円以上 | 10 | わからない |

問8 あなたは現在どこで生活していますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------------|----|---------------------|
| 1 | 自宅(家族などとの同居も含む) | 2 | 介護老人保健施設 |
| 3 | 病院に入院中 | 4 | 介護療養型医療施設(介護医療院を含む) |
| 5 | 認知症高齢者グループホーム | 6 | 有料老人ホーム |
| 7 | 都市型軽費老人ホーム | 8 | サービス付き高齢者向け住宅 |
| 9 | 特別養護老人ホーム | 10 | その他() |

◆あなたの心身の状況について

(すべての方におたずねします。)

問9 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|
| 1 | 要介護1 | 2 | 要介護2 | 3 | 要介護3 |
| 4 | 要介護4 | 5 | 要介護5 | 6 | わからない |

問10 あなたは、現在、次にあげるような医療器具を利用したり、医療処置を受けたりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|----|----------|----|------------|
| 1 | 胃ろう・経管栄養 | 2 | 気管切開 |
| 3 | インスリン注射 | 4 | 尿管カテーテル |
| 5 | 人工肛門 | 6 | 在宅酸素 |
| 7 | ペースメーカー | 8 | 人工透析 |
| 9 | たんの吸引 | 10 | 褥瘡(床ずれ)の処置 |
| 11 | その他() | 12 | あてはまるものはない |

問11 医師から認知症と診断されたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 認知症専門医(物忘れ外来、老年内科、精神科、心療内科、神経内科等)に診断されたことがある |
| 2 | 認知症専門医以外(かかりつけ医等)に診断されたことがある |
| 3 | 医師ではないが、認定調査員による認定調査で指摘されたことがある |
| 4 | 診断されたことはない |

◆特別養護老人ホーム入所申し込み状況について

問12 特別養護老人ホームの入所を最初に申し込んだのはいつですか。

西暦	年	月

問13 あなたが入所したい特別養護老人ホームは、どのタイプですか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1 | 多床室(2～4人部屋で、費用が安い) |
| 2 | 従来型個室(共用のリビングを併設していない個室で、多床室に比べて費用が高い) |
| 3 | ユニット型個室(共用のリビングを併設している個室で、従来型個室に比べて費用が高い) |
| 4 | どちらでもよい |

問14 問13のご回答の理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | 居室や設備の形態が自分の生活スタイルに合っているから |
| 2 | 希望に合った形の介護を受けられるから |
| 3 | 費用負担の面を考慮して |
| 4 | 急な体調の変化など、緊急の際に安心だから |
| 5 | 入居したいと考えている施設がそのタイプだから |
| 6 | なるべく早く入居したいから |
| 7 | 特にこだわりがないから |
| 8 | その他() |

問15 特別養護老人ホームへの入所申し込みはあなたが決定しましたか。(○は1つ)

- | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|------|---|--------|
| 1 | 本人 | 2 | 配偶者 | 3 | 子 | 4 | 子の配偶者 |
| 5 | 親 | 6 | 孫 | 7 | 兄弟姉妹 | 8 | その他() |

問16 入所申し込みをした特別養護老人ホームの情報はどこで入手されましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|--------------------|
| 1 | ケアマネジャー |
| 2 | 地域包括支援センター |
| 3 | 区役所 |
| 4 | 入所(入院)している(いた)施設職員 |
| 5 | 医師・医療機関 |
| 6 | 社会福祉協議会 |
| 7 | 親族・友人等 |
| 8 | インターネット |
| 9 | 特別養護老人ホーム |
| 10 | その他() |

問17 入所申し込みをされた特別養護老人ホームを選択した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
(あてはまるものすべてに○)

- 1 自宅から近い
- 2 家族が面会に来る際に交通が便利
- 3 居室タイプ(多床室、ユニット型等)が希望と合っている
- 4 併設のデイサービスなど、同じ法人の介護保険サービスを受けていた
- 5 必要な介護保険サービスが受けられる(介護専門職が十分いる)
- 6 必要な介護保険外サービスが受けられる
- 7 必要な医療処置を受けられる
- 8 自立支援に向けたリハビリなどの機能訓練サービスが受けられる
- 9 日中のプログラムが充実している
- 10 緊急時にも対応が可能である(24時間対応が可能である)
- 11 施設の防犯・見守りがしっかりしている
- 12 職員が親切・見守りが良い
- 13 施設が新しい
- 14 部屋や建物の環境が充実している
- 15 見学をして、施設の雰囲気良かった
- 16 栄養管理の行き届いた食事が食べられる
- 17 おいしい食事が食べられる
- 18 料金が安い
- 19 最期までいられる(現在の入所施設には期限があるため)
- 20 話し相手やクラブ活動など仲間との交流がある
- 21 ケアマネジャーに勧められた
- 22 知人・友人に勧められた
- 23 すぐに入所できそうだから
- 24 その他()
- 25 特にない

問18 あなたが特別養護老人ホームを申し込み理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

- 1 将来の介護に不安を感じるため
- 2 1人暮らしで介護する同居の家族がいないため
- 3 家族が働いており、介護する家族がいないため
- 4 家族が精神的・身体的に疲れているため
- 5 現在の住居がバリアフリー化されていないため
- 6 ショートステイ(短期入所生活介護)が必要なきに使用できないため
- 7 デイサービス(通所介護)が必要なきに使用できないため
- 8 24時間のホームヘルプサービス(訪問介護)が必要なきに使用できないため
- 9 現在の在宅サービスの内容に不満があるため
- 10 その他()

問19 あなたが特別養護老人ホームに期待することは何か。(あてはまるものすべてに○)

- 1 専門的な介護が受けられること
- 2 24時間体制で介護が受けられること
- 3 掃除、洗濯などの家事を代わりにやってくれること
- 4 防犯、防災などで安心できること
- 5 孤独にならないこと
- 6 在宅の介護保険サービスより費用が安くなること
- 7 その他()
- 8 特にない

問20 あなたは、区外の特別養護老人ホームに申し込んでいますか。(○は1つ)

- 1 申し込んでいる
- 2 申し込んでいない (→問20-2へ進む)

(問20で、「1 申し込んでいる」とお答えの方におたずねします。)

問20-1 申し込んでいる特別養護老人ホームはどこにありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1 都内(23区内) | 2 都内(23区外) | 3 埼玉県 |
| 4 千葉県 | 5 神奈川県 | 6 その他() |
- 【問21へ進んでください】

(問20で、「2 申し込んでいない」とお答えの方におたずねします。)

問20-2 区外の特別養護老人ホームに申し込まない理由は何ですか。(○は1つ)

- 1 特別養護老人ホームに家族が訪ねてくるのが遠くなるため
- 2 区内の特別養護老人ホームしか申し込みできないと思っていたため
- 3 区外にどのような特別養護老人ホームの施設があるか知らないため
- 4 その他()

(すべての方におたずねします。)

問21 申し込んでいる特別養護老人ホームから「入所できます」という連絡がきた場合、あなたは入所しますか。(○は1つ)

- 1 すぐに入所する
- 2 複数の施設に申し込んでおり、最も希望する施設であれば入所する
- 3 すぐには決められない
- 4 まだ自宅で暮らせるため、お断りする

問22 申し込んでいる特別養護老人ホームから「入所できます」という連絡があった際に、断つことはありますか。(○は1つ)

- 1 ある
- 2 ない (→問23へ進む)

(問22で、「1 ある」とお答えの方におたずねします。)

問22-1 どのような理由で入所の案内を断りましたか。(○は1つ)

- 1 入院中だったため
- 2 通院中だったため
- 3 風邪などで一時的に体調を崩していたため
- 4 介護老人保健施設に入所していたため
- 5 介護療養型医療施設(介護医療院を含む)
- 6 まだ自宅で暮らしたかったために入所していたため
- 7 その他()

◆介護について

問26 あなたが現在利用しているサービスに○をつけてください。サービスを利用していない場合は、「24 いずれも利用していない」を選択してください。○をつけたサービスについては、満足度についてもご記入ください。

A：利用しているサービス (すべてに○)		B：満足度 (満足①、 やや満足②、 ふつう③、 やや不満④、 不満⑤)
(記入例) ① 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	()	(②)
1 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	()	()
2 訪問入浴介護	()	()
3 訪問リハビリテーション	()	()
4 訪問看護	()	()
5 居宅療養管理指導	()	()
6 通所介護 (デイサービス、地域密着型通所介護を含む)	()	()
7 通所リハビリテーション (デイケア)	()	()
8 短期入所生活介護 (シヨートステイ)	()	()
9 短期入所療養介護 (医療型シヨートステイ)	()	()
10 福祉用具貸与・購入	()	()
11 住宅改修	()	()
12 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	()	()
13 介護老人保健施設	()	()
14 介護療養型医療施設 (介護医療院を含む)	()	()
15 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (24時間対応の訪問サービス)	()	()
16 夜間対応型訪問介護	()	()
17 小規模多機能型居宅介護 (通い・訪問・泊まりなどを組み合わせたサービス)	()	()
18 看護小規模多機能型居宅介護 (小規模多機能型居宅介護・訪問看護を組み合わせたサービス)	()	()
19 認知症対応型通所介護	()	()
20 認知症対応型共同生活介護 (認知症高齢者グループホーム)	()	()
21 有料老人ホーム	()	()
22 都市型軽費老人ホーム	()	()
23 サービス付き高齢者向け住宅	()	()
24 いずれも利用していない (→問28へ進む)	()	()

(問26で、1～23とお答えの方におたずねします。)

問27 現在、介護保険サービスの支給限度額に対して、どの程度利用していますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------------|---|-----------|
| 1 自費負担分を含めて限度額以上に利用している | } | (→問28へ進む) |
| 2 ほとんど限度額いっぱい利用している | | |
| 3 限度額まで利用していない | | |
| 4 わからない (→問28へ進む) | | |

(問27で、「3 限度額まで利用していない」とお答えの方におたずねします。)

問27-1 限度額まで利用していない理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1 利用中のサービスで間に合っているから | () |
| 2 家族介護により、多く利用せずに済んでいるから | |
| 3 利用料の負担が大きくなるから | |
| 4 希望するサービスが利用できないから | |
| 5 他に利用したいサービスがないから | |
| 6 その他 () | |

(すべての方におたずねします。)

問28 介護保険は、介護が必要になった方も、尊厳を保持し、その方の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができよう、社会みんなが支える制度です。その保険料は、区全体の介護保険サービスの利用状況や過去の実績などから、3年ごとに決まります。介護保険のサービスと保険料の関係について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 保険料が今より高くなって、施設や在宅サービスの水準を上げる方がよい |
| 2 施設や在宅サービスの水準は現状程度とし、保険料の上昇は高齢者人口の伸びなどによる影響の範囲に抑える方がよい |
| 3 サービスの水準が低下しても、保険料は安い方がよい |
| 4 わからない |

問29 あなたは、日々の生活の中で介護保険料や健康保険料の負担についてどのように感じていますか。(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1 保険料が日々の暮らしを圧迫している |
| 2 年々、保険料が高くなって、多少の負担と感じている |
| 3 それほど負担とは感じない |
| 4 適正である(この程度の額ならいい)と思う |
| 5 わからない |

問30 あなたは、介護保険サービスの利用料(食費や娯楽費などの実費負担は除く)についてどのように感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|------------|-------------|
| 1 負担と感じる | 2 多少負担と感じる | 3 どちらともいえない |
| 4 それほど負担とは感じない | 5 負担とは感じない | 6 わからない |

問31 人生の最終段階における受ける受けない医療・介護、受けたくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っていますか。(○は1つ)

1 詳しく話し合っている	} (→問31-2へ進む)
2 一応話し合っている	
3 ほとんど話し合っていない	
4 話し合っていない	

(問31で、1または2のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問31-1 話し合っている相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族・親族	2 友人・知人	3 かかりつけ医・主治医
4 看護師	5 ケアマネジャー	6 ホームヘルパー
7 介護施設職員	8 その他 ()	

【問32へ進んでください】

(問31で、3または4のいずれかにお答えの方におたずねします。)

問31-2 話し合っていない理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1 話し合いたくないから
2 話し合う必要性を感じないから
3 話し合うきつかけがなかったから
4 知識がないため、何を話し合っているかわからないから
5 その他 ()

(すべての方におたずねします。)

問32 あなたは人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(○は1つ)

1 自宅
2 子供など親族の家
3 介護保険で利用できる施設 (特別養護老人ホーム等)
4 サービス付き高齢者住宅・有料老人ホーム・都市型高齢老人ホーム等の高齢者向け住宅
5 ホスピス (緩和ケア病棟)
6 5以外の医療機関
7 その他 ()
8 わからない

問33 終末期および死後の事務で不安なことはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1 死後の公共料金の解約や役所への届け出	2 遺品整理
3 金融機関への連絡	4 所有する不動産
5 葬儀	6 相続
7 墓	8 その他 ()
9 特になし	

問34 令和3年11月～令和4年10月の過去1年間にショートステイ(短期入所生活介護、もしくは短期入所療養介護)を利用しましたか。(○は1つ)

1 利用した	2 利用していない (→問35へ進む)
--------	---------------------

(問34で、「1 利用した」とお答えの方におたずねします。)

問34-1 ショートステイの利用目的は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 介護者や家族の心身の負担軽減のため
2 介護者や家族の冠婚葬祭、旅行などのため
3 介護者や家族の急病のため
4 認知症への対応のため
5 生活のリズムをつくる (取り戻す) ため
6 夜間の見守りのため
7 閉じこもり状態を防止するため
8 施設の入所待ちのため
9 その他 ()

問34-2 ショートステイは希望している時期に利用できていますか。(○は1つ)

1 利用できている	2 利用できることが多い	3 どちらともいえない
4 利用できないときが多い	5 利用できない	

問34-3 ショートステイは希望している施設を利用できていますか。(○は1つ)

1 利用できている	2 利用できることが多い	3 どちらともいえない
4 利用できないときが多い	5 利用できない	

◆区の施策・情報について

(すべての方におたずねします。)

問35 あなたは、保健福祉や介護保険に関する知識・情報を何から得ていますか。(○は3つまで)

1 ねりま区報
2 練馬区ホームページ
3 地域包括支援センター
4 「わたしの便利帳」高齢者の生活ガイド」など区の刊行物
5 高齢者向けホームページ「シニア ナビ ねりま」
6 社会福祉協議会の相談窓口
7 回覧板・掲示板
8 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ
9 インターネット
10 家族・友人
11 病院などの医療機関
12 その他 ()
13 特になし

問42 在宅での介護について、困ったり、負担に感じていることはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 本人に正確な症状を伝えるのが難しい
- 2 来客の際に気を遣う
- 3 日中、家を空けることに不安を感じる
- 4 本人の言動が理解できないことがある
- 5 本人に受診を勧めても同意してもらえない
- 6 適切な対応や介護方法がわからない
- 7 介護を家族など他の人に任せてよいか、悩むことがある
- 8 誰に、何を、どのように相談すればよいかわからない
- 9 家族や親族に介護を協力してもらえない
- 10 家の構造が介護をするのに適していない
- 11 サービスを利用したら本人の状態が悪化した(したことがある)
- 12 睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもしろくない
- 13 身体的につらい(腰痛や肩こり等)
- 14 精神的なストレスがたまっている
- 15 自分の用事を済ませることができない
- 16 自分の自由になる時間が持てない
- 17 先々のことを考える余裕がない
- 18 経済的につらいと感じたときがある
- 19 その他()
- 20 特に困っていることはない

問43 介護をしていてつらい時、どこ(だれ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族・親族
- 2 近所の人
- 3 民生・児童委員
- 4 ボランティア
- 5 介護家族の会や認知症カフェ
- 6 社会福祉協議会
- 7 ケアマネジャー
- 8 医師・医療機関
- 9 在宅サービスを行っているホームヘルパー・訪問看護師等
- 10 地域包括支援センター
- 11 その他()
- 12 どこにも(誰にも)相談していない
- 13 つらい時はない

問44 介護者ご自身の視点から、特別養護老人ホームを申し込んだ理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 将来の介護に不安を感じるため
- 2 働いており介護する家族がいないため
- 3 高齢あるいは病弱で、介護が困難なため
- 4 精神的に疲れているため
- 5 身体的に疲れているため
- 6 在宅サービスを使いたくないため
- 7 地域に十分な介護保険サービス事業者がいないため
- 8 本人が1人暮らしで、介護する同居の家族がいないため
- 9 ショートステイ(短期入所生活介護)が必要なく使えないため
- 10 デイサービス(通所介護)が必要なく使えないため
- 11 24時間のホームヘルプ(訪問介護)サービスが必要なく使えないため
- 12 現在の在宅サービスの内容に不満があるため
- 13 その他()
- 14 特になし

問45 介護者ご自身の視点から、特別養護老人ホームに期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 専門的な介護が受けられること
- 2 24時間体制で介護が受けられること
- 3 掃除、洗濯などの家事を代わりにやってくれること
- 4 防犯、防災面などで安心できること
- 5 孤独にならないこと
- 6 在宅の介護保険サービスより費用が安くなること
- 7 その他()
- 8 特になし

問46 在宅での介護を継続していくうえで、介護者ご自身が受けたい支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 介護者が気軽に休息がとれるサービス(一時入所など)
- 2 介護者が旅行などの休養がとれるサービス(一定期間の入所など)
- 3 介護者の身体的負担(腰痛や肩こり等)を軽減するサービス(マッサージ等)
- 4 介護の悩みを個別に相談できるサービス(相談会など)
- 5 介護の悩みを個別に相談できるサービス(電話や自宅等への訪問)
- 6 介護者同士で話ができる機会の提供
- 7 介護の技術が学べる研修・講座
- 8 介護に関する定期的な情報提供
- 9 その他()
- 10 特になし

ご協力ありがとうございました。11月28日(月)までに同封の返信用封筒でご返送ください。切手は不要です。そのままご投函ください。
なお、この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

練馬区介護サービス事業所調査

◆ 調査へのご協力をお願い ◆

日頃から、練馬区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。区では、新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定に着手しています。この調査は、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画がより実りある計画となるよう、区内で介護保険サービスを提供されているすべての事業所を対象に、事業展開の現状と今後、介護保険制度の見直しなどに関するご意見・ご要望などをお聞きするため実施するものです。

ご回答いただいた内容は、統計情報の作成のみ 사용됩니다。事業所が特定される形での公表や、他の目的での使用はいたしませんので、ご協力いただけますようお願いいたします。

令和4年11月 練馬区

◆ 調査票のご記入にあたって ◆

- 調査票は、送付した封筒の宛名に記載されているサービス種別ごとに発送していただきます。複数の調査票をお届けした事業所においては、お手数ですが、サービス種別ごとに調査票を作成してください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問文にある「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」などの指示にしたがってご回答ください。また、ご意見や数字などを直接ご記入いただく質問もあります。
- 質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 特にことわりのない場合、令和4年10月1日時点の状況についてご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、**11月28日(月)まで**に、同封の返信用封筒にてご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。
- この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。
- この調査は、(株)サーベイリサーチセンターに委託して実施しています。調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【調査委託元】練馬区 高齢施策担当部 高齢社会対策課 計画係
【調査実施・お問い合わせ先】

(株)サーベイリサーチセンター

電話：0120-965-812 (フリーダイヤル)

〈受付/月曜～金曜(平日) 9:00～17:00〉

メール: contact-mi@surece.co.jp

◆ 機関・組織について

問1 貴事業所が現在実施しているサービスは、つぎのどれですか。(○は1つ)

1 居宅介護支援	2 訪問介護 (総合事業含む)
3 訪問入浴介護※	4 訪問看護※
5 訪問リハビリテーション※	6 通所介護 (総合事業含む)
7 通所リハビリテーション※	8 短期入所生活介護※
9 短期入所療養介護※	10 福祉用具貸与・販売※
11 特定施設入居者生活介護※	12 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
13 夜間対応型訪問介護	14 認知症対応型通所介護※
15 地域密着型通所介護	16 小規模多機能型居宅介護※
17 看護小規模多機能型居宅介護	18 認知症対応型共同生活介護※
19 介護老人福祉施設	20 介護老人保健施設
21 介護療養型医療施設 (介護医療院を含む)	※は、介護予防を含む

問2 運営主体は、つぎのどれですか。(○は1つ)

1 企業(株式会社・有限会社等)	2 社会福祉法人	3 医療法人
4 NPO法人	5 その他 ()	

問3 貴事業所の住所地に該当する日常生活圏域は、つぎのどれですか。(○は1つ)

1 練馬圏域 (〒176 の地域)	2 光が丘圏域 (〒179 の地域)
3 石神井圏域 (〒177 の地域)	4 大泉圏域 (〒178 の地域)

問4 貴事業所では、一般事務以外で介護保険の指定介護サービス事業に関わる派遣労働者(注)を受け入れていますか。(令和4年10月1日現在)

(注) 派遣労働者：労働者派遣法に基づき派遣会社から派遣された者。

1 受け入れている	2 受け入れていない(→問5へ進む)
-----------	--------------------

(問4で、「1 受け入れている」とお答えの事業所におたずねします。)

問4-1 該当する職種欄に受け入れている人数を(あてはまる職種のすべての欄)、合計欄にそれらすべての合計人数を記入してください。(整数で記入)

訪問介護員	介護職員	看護職員	介護報酬請求事務	その他	合計
人	人	人	人	人	人
					人

(すべての事業所におたずねします。)

問5 貴事業所の介護保険の指定介護サービス事業に就業者は何人ですか。(令和3年9月30日時点、平成4年9月30日現在)

※該当者がいない場合は、「0」(ゼロ)を記入してください。		無期雇用職員 (注2)	有期雇用職員 (注2)	合計
介護保険の指定介護サービス事業に就業者 従業員数(注1)	令和3年	人	人	人
	令和4年	人	人	人

(注1) 介護保険の指定介護サービス事業に就業者の従業員数とは、職種や役職等に関係なく、介護保険の指定介護サービス事業に就業者の総数です。管理者、介護事務職、調理員、栄養士、送迎運転手等を含みます。ただし、派遣労働者、委託就業者は含みません。

(注2) 無期雇用職員・有期雇用職員とは、
 ・無期雇用職員とは、労働時間数にかかわらず雇用期間の定めがない者。
 (本調査では、有期労働契約より無期労働契約に転換した者も含む。)
 ・有期雇用職員とは、無期雇用職員以外の労働者。(派遣労働者、委託業務従業者を除く。)

問6 以下の7種類の職種の従業者について、令和3年9月30日時点と令和4年9月30日現在の人数を記入してください。また、令和4年については①～③までの内訳をご記入ください。

職種(注1)	訪問 介護員	サービス 提供者 責任者	介護 職員 (注2)	看護 職員	生活 相談員	PT・OT・ ST等 (注3)	介護 支援 専門員
令和3年無期雇用職員	人	人	人	人	人	人	人
〃 有期雇用職員	人	人	人	人	人	人	人
令和4年無期雇用職員	人	人	人	人	人	人	人
〃 有期雇用職員	人	人	人	人	人	人	人
(令和4年内訳)							
① 性別	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
② 勤続年数	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	1年未満	人	人	人	人	人	人
	1年以上	人	人	人	人	人	人
	3年未満	人	人	人	人	人	人
	3年以上	人	人	人	人	人	人
	10年未満	人	人	人	人	人	人
	10年以上	人	人	人	人	人	人
③ 年齢	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人
	無期	人	人	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人	人	人

(注1) 資格ではなく、従事している仕事(職種)に着目して記入してください。なお、兼務している職員については、主として従事する仕事(職種)のみ記入してください。サービス提供責任者(指定訪問介護サービスのみの該当)と訪問介護員を兼務している場合、サービス提供責任者の欄に記入し、訪問介護員の欄には記入しないでください。

(注2) 介護職員とは、介護保険の訪問介護以外の指定介護事業所で働き、直接介護を行う者をいう。
 (注3) PT・OT・ST等=PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)等の機能訓練指導員。

問7～問26は、居宅介護支援事業所の方への質問です。居宅介護支援事業所以外の方は9ページの問27へ進んでください。

居宅介護支援事業所の方にお聞きします。

問7 地域密着型サービスのうち、今後さらに整備が必要と思われるサービスはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 |
| 2 | 夜間対応型訪問介護 |
| 3 | 認知症対応型通所介護 |
| 4 | 地域密着型通所介護 |
| 5 | 小規模多機能型居宅介護 |
| 6 | 看護小規模多機能型居宅介護 |
| 7 | 認知症対応型共同生活介護 |
| 8 | 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |
| 9 | 特に必要はない |

問8 小規模多機能型居宅介護の利用者数(需要)に対する事業所数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|--------------|---|------------|---|------------|
| 1 | 事業所が多すぎる | 2 | 事業所がやや多い | 3 | 適正な事業所数である |
| 4 | 事業所がやや不足している | 5 | 事業所が不足している | | |

問9 看護小規模多機能型居宅介護の利用者数(需要)に対する事業所数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|--------------|---|------------|---|------------|
| 1 | 事業所が多すぎる | 2 | 事業所がやや多い | 3 | 適正な事業所数である |
| 4 | 事業所がやや不足している | 5 | 事業所が不足している | | |

問10 貴事業所では、(看護)小規模多機能型居宅介護には、どのように対応していますか。(○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 利用者からの問い合わせがあった場合は、(看護)小規模多機能型居宅介護事業所の連絡先の紹介を行っている |
| 2 | 利用者からの問い合わせがあった場合は、(看護)小規模多機能型居宅介護事業所に連絡を取り、利用者を紹介している |
| 3 | 自法人内で実施しているので、まずそこを紹介している |
| 4 | 基本的に(看護)小規模多機能型居宅介護は紹介せず、複数のサービスを組み合わせるなどにより対応している |
| 5 | その他 () |
| 6 | 特に具体的な対応はしていない |

問11 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用者数(需要)に対する事業所数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|------------|---|--------------|
| 1 | 事業所が多すぎる | 2 | 事業所がやや多い |
| 3 | 適正な事業所数である | 4 | 事業所がやや不足している |
| 5 | 事業所が不足している | | |

問12 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の課題は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 利用者がサービスの内容や利用方法を知らない |
| 2 | ホームヘルパーが変わることを利用者が好まない |
| 3 | ケアマネジャーがサービスの内容や利用方法を知らない |
| 4 | 要支援1・2の方の利用ができない |
| 5 | 夜間対応型訪問介護のサービスで十分である |
| 6 | 夜間の訪問介護のニーズは少ない |
| 7 | 利用者の家の鍵を事業者に預けるなど、夜間に事業者が訪問することに不安がある |
| 8 | よくわからない |
| 9 | その他 () |

問13 認知症高齢者グループホームの利用者数(需要)に対する施設数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|-------------|
| 1 | 施設が多すぎる | 2 | 施設がやや多い |
| 3 | 適正な施設数である | 4 | 施設がやや不足している |
| 5 | 施設が不足している | | |

問14 訪問看護ステーションの利用者数(需要)に対する事業所数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|------------|---|--------------|
| 1 | 事業所が多すぎる | 2 | 事業所がやや多い |
| 3 | 適正な事業所数である | 4 | 事業所がやや不足している |
| 5 | 事業所が不足している | | |

問15 通所介護(地域密着型通所介護を含む)の利用者数(需要)に対する事業所数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|------------|---|--------------|
| 1 | 事業所が多すぎる | 2 | 事業所がやや多い |
| 3 | 適正な事業所数である | 4 | 事業所がやや不足している |
| 5 | 事業所が不足している | | |

問16 ショートステイの利用者数(需要)に対する施設数(供給)の関係について、どのように思われますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|-------------|
| 1 | 施設が多すぎる | 2 | 施設がやや多い |
| 3 | 適正な施設数である | 4 | 施設がやや不足している |
| 5 | 施設が不足している | | |

問17 都市型軽費老人ホームの利用者数(需要)に対する施設数(供給)の関係について、どのよう to 感じますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 施設が多すぎる | 2 施設がやや多い |
| 3 適正な施設数である | 4 施設がやや不足している |
| 5 施設が不足している | |

問18 区内のケアマネジャーの質についてどのように感じていますか(貴事業所のケアマネジャー一を含む)。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 利用者本位の自立支援に向けたケアマネジメントができている | |
| 2 概ね利用者本位の自立支援に向けたケアマネジメントができている | |
| 3 利用者本位の自立支援に向けたケアマネジメントができている | |
| 4 個人による差が大きく、一概には言えない | |
| 5 その他 () | |
| 6 わからない | |

問19 自立・軽度化への取組について、どのような課題を感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 利用者の意欲がない | |
| 2 介護保険サービスの支給限度額が低くなることを利用者が好まない | |
| 3 自立・軽度化の取組に対する事業所へのインセンティブが足りない | |
| 4 その他 () | |

問20 ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 レベルや経験年数、テーマ別の研修 | 2 事業所でのOJT(職場内研修) |
| 3 ベテランのケアマネジャーによる指導 | 4 事例を使った検討会 |
| 5 個人の意識の向上 | 6 主任ケアマネジャーの質の向上 |
| 7 その他 () | |

問21 貴事業所のケアマネジャーの質の向上における課題は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 業務多忙のため、研修を受講する時間がない | |
| 2 講師、内容、費用などの面で魅力的な研修内容がない | |
| 3 事業所でのOJT(職場内研修)の体制が整っていない | |
| 4 地域の課題を把握しきれていない | |
| 5 その他 () | |

問22 貴事業所では、地域包括支援センターとどのような連携をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1 地域支援事業での連携 | |
| 2 介護支援専門員に対する日常的な個別指導・相談 | |
| 3 地域における介護支援専門員のネットワーク | |
| 4 支援困難事例についての個別指導・相談 | |
| 5 支援を必要とする高齢者の早期発見・情報共有 | |
| 6 高齢者虐待や権利擁護についての相談や情報交換等 | |
| 7 その他 () | |
| 8 特にない | |

問23 医療機関との入退院支援・調整における課題を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 医療機関によって、入退院支援・調整の対応が異なる | |
| 2 入院時に、医療機関に対して十分な情報提供ができていない | |
| 3 退院前カンファレンスが十分にできていない | |
| 4 退院時に、医療機関から十分な情報提供がない | |
| 5 退院時に、利用者・家族が病状等について十分に理解できていない | |
| 6 退院時に、在宅医と円滑な連携がとれていない | |
| 7 転院時の調整ができていない | |
| 8 その他 () | |
| 9 特にない | |

問24 在宅での看取りに関わった経験はありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問25 在宅での看取りにおいて、連携できる医師は複数いますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問26 今後、在宅での看取りのケースを増やしていきたいかと思いませんか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 非常にそう思う | 2 そう思う | 3 どちらとも言えない |
| 4 そう思わない | 5 全くそう思わない | |

すべての事業所の方にお聞きします。

問27 令和4年10月1日時点の貴事業所の利用者数(練馬区民以外も含む)について、要介護度別に記入してください。(具体的に記入)

- ① 要支援 1 人
- ② 要支援 2 人
- ③ 要介護 1 人
- ④ 要介護 2 人
- ⑤ 要介護 3 人
- ⑥ 要介護 4 人
- ⑦ 要介護 5 人
- ⑧ 総合事業対象者 人

問28 上記の利用者は、令和3年10月1日時点と比較して、要介護度はどのように変化していますか。
(例 要介護3から要介護2へ変化した場合は「改善」として、人数を計算してください)

- ① 改善 人
- ② 維持 人
- ③ 悪化 人

◆苦情対応について

問29 サービス提供困難時(利用者からの過大な要求等)には、どのように対応していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 関係する事業所(居宅介護支援事業部門等)に連絡を取り、適切な対応を図っている
- 2 行政などと連携をとり、適切な対応を図っている
- 3 他の指定介護事業所を紹介している
- 4 その他 ()

問30 直近1年間で、利用者からどのような苦情を受けましたか。(○は3つまで)

- 1 サービス利用時間が短い
- 2 サービス利用回数が少ない(減った)
- 3 サービスの種類が少ない
- 4 サービス内容に不満がある
- 5 サービスが利用しづらい
- 6 サービス提供スタッフに不満がある
- 7 その他 ()
- 8 特に目立つ苦情はない

問31 寄せられた苦情をどのように対応しましたか。(○は1つ)

- 1 事業所内でほぼ対応した
- 2 内部で解決できないものについては、関係機関へ連絡を取るなど、連携して対応した
- 3 その他 ()

◆サービスの質の向上について

問32 貴事業所では、サービスの第三者評価を受審していますか。つぎのうち、受審された種類をお答えください。
(○は1つ) (あてはまるものすべてに○)

- 1 受審している (受審した評価方式) 1 東京都福祉サービス第三者評価)
- 2 受審していない 2 その他 ()

問33 サービスの質の向上のために、どのような取組を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している
- 2 事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている
- 3 利用者や家族に対し満足度調査を行っている
- 4 積極的に外部評価を受けている (ISO、第三者評価等)
- 5 独自の自己評価を実施している
- 6 管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している
- 7 現場のスタッフが自発的に多問題事例(介護以外の生活問題等)に関するケース検討会などを行っている
- 8 現場スタッフに任せている
- 9 意見箱を設置している
- 10 各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加
- 11 その他 ()
- 12 特に行っていない

問34 サービス提供を通して利用者身に起こり得る事故(例:転倒・誤嚥)について、貴事業所で事故防止や、同様の事故を繰り返さないために講じている取組はどのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 事故防止マニュアルの作成
- 2 事故防止研修の実施
- 3 ヒヤリ・ハット報告の徹底
- 4 事故発生時の対応マニュアルの作成
- 5 応急処置技能研修の実施
- 6 感染症予防マニュアルの作成
- 7 その他 ()
- 8 特にない

◆事業所運営について

(「通所介護」「通所リハビリテーション」「短期入所生活介護」「短期入所療養介護」「特定施設入居者生活介護」「認知症対応型通所介護」「地域密着型通所介護」「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」「認知症高齢者グループホーム」「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」「介護療養型医療施設(介護医療院を含む)」の事業所におたずねします。上記以外の事業所は問36に進んでください。)

問35 令和4年10月1日時点の貴事業所の定員数と稼働状況についておたずねします。(サービス種別によっては、定員を登録と読み替えてお答えください。時間帯によって利用者を入れ替えている場合は、合計の人数で記入してください。)

① 定員数・・・ 人 ②令和4年9月の平均利用者数・・・ 人

(すべての事業所におたずねします。)

問36 貴事業所では、介護保険外サービスを提供していますか。(○は1つ)

1 提供している 2 提供を検討している 3 提供していない (→問37へ進む)

(問36で1または2と回答した事業所におたずねします。)

問36-1 つぎの介護保険外サービスのうち、貴事業所で提供あるいは提供を検討しているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|--|
| 1 | 介護保険サービスの上乗せ・付加価値付与サービス
(支給限度基準額を超えて利用したサービス、介護保険サービスに付加価値をつけるサービス) |
| 2 | 家事援助等サービス
(掃除、洗濯、調理、買い物などの代行、ごみ出し、簡単な大工仕事、庭仕事・ペットの散歩等) |
| 3 | 訪問サービス
(訪問美容サービス、訪問マッサージ、訪問趣味講座、訪問生活健康相談等) |
| 4 | 配食サービス
(調理した食事を居住地(自宅や施設等)まで配達するサービス) |
| 5 | 物販等サービス
(日常生活用品や食料の通信販売・移動販売又は貸与・お届け等) |
| 6 | 安否確認・緊急通報サービス
(定期訪問サービス、定期的な電話サービス、緊急通報・安否確認機器販売・貸与・設置) |
| 7 | 移動支援・付き添いサービス
(移送サービス、通院・入院・外出付き添い等) |
| 8 | 通い・サロンサービス
(喫茶・レストラン・会食サービス、生活健康講座・相談・指導サービス、趣味講座・レクリエーション等) |
| 9 | 金銭管理・契約代行サービス
(成年後見、葬儀対応、残存家財整理、身元保証支援、金銭管理に関わる支援等) |
| 10 | その他 (<input type="text"/>) |

(すべての事業所におたずねします。)

問37 貴事業所では、要医療、認知症、障害などを有する利用者に対して、どのような対応を図っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 専門スタッフを配置している |
| 2 | 専門の関係機関と常に連携をとり、緊急時の対応ができるようにしている |
| 3 | 人材の募集・確保を図っている |
| 4 | その他 (<input type="text"/>) |
| 5 | 特段の対応は図っていない |

問38 貴事業所では、ターミナルケアへの対応はどのようにお考えですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|------------------------------|
| 1 | すでに実施している | 2 | 検討段階である |
| 3 | 対応は考えていない | 4 | その他 (<input type="text"/>) |

問39 貴事業所では、介護職員によるたんの吸引および経管栄養などの医療的ケアへの対応はどのようにお考えですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|------------------------------|
| 1 | すでに実施している | 2 | 検討段階である |
| 3 | 対応は考えていない | 4 | その他 (<input type="text"/>) |

問40 ACPについて、どのような取組を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|------------------------------|---|------------------|
| 1 | 利用者と話し合いをしている | 2 | 事業所内で勉強会等を実施している |
| 3 | 事業所外の勉強会等に参加している | 4 | 取組に向けて準備をしている |
| 5 | その他 (<input type="text"/>) | 6 | 特に取り組んでいない |

※ACP(人生会議)について
ACP(アドバンス・ケア・プランニング:人生会議)とは、「自らが望む人生の最終段階の医療・介護について、前もって考え、家族や医療・介護スタッフ等と繰り返し話し合い共有することです。」

問41 医療機関との連携について、貴事業所として取り組んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている |
| 2 | 往診をしてくれる医師・医療機関がある |
| 3 | 急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している |
| 4 | 提携病院があり、入院を受け入れてもらっている |
| 5 | 職員への研修講師などをお願ひしている |
| 6 | ケースカンファレンスへの参加 |
| 7 | 緊急時の対応 |
| 8 | その他 (<input type="text"/>) |
| 9 | 法人内で医療機関も経営しており、連携の問題はない |
| 10 | 特にない |

問42 医療機関との連携を進める上での課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 医療機関の協力が得られない
- 2 情報共有システムが確立されていない
- 3 共有すべき情報がわからない
- 4 連携のための事務負担が大きい
- 5 連携の必要性を感じていない
- 6 個人情報保護に基づき情報提供の同意手続きが難しい
- 7 その他 ()

問43 令和3年度の介護保険法改正において、すべての介護サービス事業者に「自然災害」および「感染症」に関する事業継続計画(BCP)を策定することが義務づけられました。現在の策定状況をおたずねします。(○は1つ)

- 1 自然災害に係るBCPのみ策定している
- 2 感染症に係るBCPのみ策定している
- 3 どちらのBCPも策定している
- 4 策定していない

問44 事業を運営する上での課題は何ですか。(○は3つまで)

- 1 新規利用者の獲得が困難
- 2 利用者1人あたりの利用料が少ない
- 3 設備・スタッフなどが不足し量的に利用者のニーズに応えられない
- 4 利用者や家族が介護保険制度やサービスをよく理解していない
- 5 利用者の身体状況の把握が難しい
- 6 利用者からの苦情や事故への対応
- 7 訪問や送迎が非効率(エリアが広い等)
- 8 入居者の認知症が重度化した場合の対応
- 9 スタッフの確保
- 10 スタッフが短時間で離職してしまう
- 11 スタッフの人材育成
- 12 責任者など中堅人材の確保・育成
- 13 他のサービス事業所との競合が激しい
- 14 他職種との連携
- 15 他のサービス事業所との連携
- 16 医療機関との連携
- 17 介護報酬が低い
- 18 その他 ()
- 19 特に課題はない

問45 貴事業所の従業員に対する利用者・家族等からのハラスメント(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)の発生状況について、どのようにして把握していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 従業員からの報告
- 2 従業員の相談・苦情窓口
- 3 介護記録等の確認
- 4 事業所内の会議等
- 5 その他 ()
- 6 特に把握していない (→問46へ進む)

(問45で、1～5のいずれかをお答えの事業所におたずねします。)

問45-1 過去1年間に、貴事業所の従業員に対する利用者・家族等からのハラスメント(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)について、従業員等から相談や報告等がありましたか。(○は1つ)

- 1 あった
- 2 なかった
- 3 把握していない

(すべての事業所におたずねします。)

問46 ハラスメントに対して、区に期待する支援は何ですか。(○は1つ)

- 1 区民(利用者・家族等)への啓発
- 2 ハラスメント対策のマニュアル整備
- 3 ハラスメント対策の研修
- 4 相談体制の構築
- 5 その他 ()
- 6 特にない

◆介護予防・日常生活支援総合事業について

問47 国において、2024年の介護保険制度改正に向け、「要介護1・2」の訪問介護、通所介護サービスの「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行について議論されています。移行された場合、どのような効果・影響があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 要介護3以上の、より介護の必要性が高い人のサービスの充実する
- 2 要介護1・2の方への支援が不十分となり、利用者の状態が悪化する
- 3 介護費用が抑えられ、介護保険制度が持続可能なものとなる
- 4 要介護1・2の方への支援が不十分となり、長期的に見て介護費用のさらなる増大を招く
- 5 地域の実情に合ったサービス提供が可能となる
- 6 総合事業のサービス需要が増加することにより、サービス提供体制が整わなくなる
- 7 介護報酬が減ることにより、経営が成り立たなくなる
- 8 地域包括支援センターによるケアプラン作成に係る業務が増加することで、センターの運営に支障が生じる
- 9 制度が複雑化し、利用者への説明が難しくなる
- 10 総合事業の指定を受けていない介護サービス事業所を、利用者が継続して利用できなくなる
- 11 今まで通りの支援が受けられなくなり、家族介護者への負担が増す
- 12 その他 ()
- 13 効果・影響はない

地域との関わりについて

問48 貴事業所では、地域の各種団体や組織(民生・児童委員、町会・自治会、地区社協等)との関わりはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 事業所(施設も含む)の近隣の団体や組織との関わりがある
- 2 利用者の居住地域の団体や組織との関わりがある
- 3 特にない (→問49へ進む)

(問48で、1または2とお答えの事業所におたずねします。)

問48-1 それは、どのような団体・組織ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 民生・児童委員
- 2 町会・自治会
- 3 小・中学校
- 4 老人クラブ
- 5 社会福祉協議会
- 6 商店、商店街
- 7 ボランティア・NPO団体
- 8 マンション・団地の管理組合
- 9 その他 ()

問48-2 問48-1の団体・組織とは、どのように関わっていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 介護や福祉についての専門知識や情報の提供・共有
- 2 地域の集まりへの参加
- 3 事業所側の催しへの招待(施設内の行事等)
- 4 事業所(施設)内の機能の開放(会議室等)
- 5 その他 ()

(すべての事業所におたずねします。)

問49 貴事業所で受け入れているボランティアの人数についておたずねします。直近1カ月間に受け入れたボランティア人数(延べ人数、短期/長期は問わない)をお答えください。(具体的に記入)

- ① ボランティア人数.....人
- ② ボランティア人数のうちの高齢者数.....人

問50 貴事業所でボランティアを受け入れる際の課題は何ですか。(○は3つまで)

- 1 新型コロナウイルスの感染防止のため受け入れが難しい
- 2 プライバシーや個人情報情報の保護が難しい
- 3 ボランティアに任せせる業務の決定が難しい
- 4 個人の差が大きく業務を教えることが難しい
- 5 受け入れ体制(指導・監督)が整えられない
- 6 利用者や家族からの信頼を得られない
- 7 募集してもボランティアが集まらない
- 8 ボランティアの確保・手続きがわからない
- 9 その他 ()
- 10 ボランティアを受け入れる予定はない

問51 練馬区介護サービス事業者連絡協議会(区内介護サービス事業所で構成される団体)に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 サービスの質の向上に関する取組
- 2 区や事業者間の連携強化に関する取組
- 3 介護従事者の労働環境の向上に関する取組
- 4 介護人材対策に関する取組(人材創出や介護業界離れの防止など)
- 5 職員の質の向上のための研修の充実
- 6 その他 ()
- 7 特にない

◆人材の確保・育成・定着について

問52 貴事業所の、この1年間(令和3年10月1日～令和4年9月30日まで)での採用者数と離職者数をご記入ください。また、離職者については、勤務年数の内訳についても人数をご記入ください。
※該当職種で行で、該当者がいない欄は「0」(ゼロ)を記入してください。

採用者数
離職者数
勤務年数の内訳

職種(注1)	雇用形態	採用者数	離職者数の内訳		
			1年未満	1年以上3年未満	3年以上
ア. 訪問介護員	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人
イ. サービス提供者責任者	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人
ウ. 介護職員(注2)	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人
エ. 看護職員	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人
オ. 生活相談員	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人
カ. PT・OT・ST等(注3)	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人
キ. 介護支援専門員	無期	人	人	人	人
	有期	人	人	人	人

(注1) 資格ではなく、従事している仕事(職種)に着目して記入してください。なお、兼務している職員については、主として従事する仕事(職種)にのみ記入してください。サービス提供者(指定訪問介護サービスのみの該当)と訪問介護員を兼務している場合、サービス提供者の欄に記入し、訪問介護員の欄には記入しないでください。

(注2) 介護職員とは、介護保険の訪問介護以外の指定介護事業所で働き、直接介護を行う者をいう。
(注3) PT・OT・ST等二PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)等の機能訓練指導員。
(注4) 「離職者」とは、調査対象期間中に事業所を退職したり、解雇された者をいい、他企業への出向者・出向復帰者を含み、同一企業内での転出入者、産休・育児休暇取得中の者を除く。

問53 貴事業所では、従業員の職種別過不足の状況は次のうちどれにあてはまりますか。それぞれの職種への配置の有無をお答えいただき、「1. ある」場合は「過不足状況」へ進んでください。
(それぞれの職種で、「ある、ない」のどちらかに○、「ある」場合は「過不足状況」で1つに○)

回答例	当該職種の配置			過不足状況		
	過剰	適正	やや不足	やや不足	不足	大いに不足
①. ある ②. ない	1	2	③	4	5	
ア. 訪問介護員	1	2	3	4	5	
イ. サービス提供者責任者	1	2	3	4	5	
ウ. 介護職員	1	2	3	4	5	
エ. 看護職員	1	2	3	4	5	
オ. 生活相談員	1	2	3	4	5	
カ. PT・OT・ST等	1	2	3	4	5	
キ. 介護支援専門員	1	2	3	4	5	

問54 全体でみて、貴事業所の従業員の過不足状況はいかがですか。(○は1つ)

1 過剰	2 適正	3 やや不足	4 不足	5 大いに不足
------	------	--------	------	---------

【1、2とお答えの事業所は問55へ進んでください】

(問54で、3～5にお答えの事業所におたずねします。)

問54-1 不足している理由、原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 採用が困難だから	2 離職率が高い(定着率が低い)から
3 事業拡大により必要人数が増加したから	4 その他()

【2～4とお答えの事業所は問55へ進んでください】

(問54-1で、「1 採用が困難だから」とお答えの事業所におたずねします。)

問54-1-1 採用が困難な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 他産業に比べて、労働条件等が良くないから
2 介護の仕事に不安・マイナスイメージを持つ方が多いから
3 同業他社との人材獲得競争が激しいから
4 その他()

(すべての事業所におたずねします。)

問55 貴事業所の現在の従業員の定着状況について、どのように思われますか。(○は1つ)

- 1 定着率が低くて困っている
- 2 定着率は低いですが、特に困っていない
- 3 定着率は低くない

問56 貴事業所では、介護人材の確保において、どのような工夫を行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 求人の際に、仕事そのものの魅力や労働条件を掲載する等求人内容を工夫している
- 2 採用について、従来より多くコストをかけている
- 3 自事業所の理念やアピールポイントをHP等を介して対外的に発信している
- 4 採用説明会や職場体験を実施している
- 5 内定後のフォローをしっかりと行っている
- 6 子育て支援を行っている(子供預かり所を設ける、保育費用支援等)
- 7 練馬福祉人材育成・研修センターが実施する就職相談・面接会に参加している
- 8 その他()

問57 従業員の研修・教育などに関して困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 人材育成のための時間がない
- 2 人材育成のための費用に余裕がない
- 3 従業員の自己啓発への意欲が低い
- 4 事業者や法人内における人材育成の優先順位が低い
- 5 指導のできる人材が少なく、または、いない
- 6 採用時期が別々で効率的な育成ができない
- 7 育成してもすぐに辞めてしまう
- 8 研修を受講させる人的な余裕がない
- 9 その他()
- 10 特にない

問58 貴事業所では、従業員の早期離職防止や定着促進のためにどのような方策をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 労働時間(時間帯・総労働時間)の希望を聞いている
- 2 育児・介護などの休暇制度の活用を奨励している
- 3 能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映している
- 4 心身の健康管理に力を入れている
- 5 福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めている
- 6 キャリアに応じた給与体系を整備している
- 7 新人の指導担当・アドバイザーを置いている
- 8 子育て支援(託児所を設ける、保育費用の助成等)を行っている
- 9 その他()
- 10 特に何もしていない

問59 次のようなIT機器を活用していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 記録から介護保険請求までを一元化したシステムを利用している
- 2 給与計算、ソフト管理、勤怠管理を一元化したシステムを利用している
- 3 グループウェア等のシステムで事業所内の報告・連絡・相談を行っている
- 4 パソコンで利用者情報(ケアプラン、介護記録等)を共有している
- 5 タブレット端末等で利用者情報(ケアプラン、介護記録等)を共有している
- 6 情報共有システム等を用いて他事業者とデータ連携している
- 7 その他()
- 8 いずれも行っていない

問60 貴事業所の介護ロボットの活用状況についておたずねします。(○は1つ)

- 1 既に導入済みである
- 2 今後、導入予定である
- 3 導入に向けて検討中である
- 4 関心はあるが、具体的な検討はしていない
- 5 導入の予定はない
- 6 わからない

※ロボット：①情報を感知(センサ系)、②判断し(知能・制御系)、③動作する(駆動系)、3つの要素技術を有する、知能化した機械システムを指す。ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットという。

練馬区高齢者基礎調査

◆ 調査へのご協力をお願い ◆

日頃から、練馬区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。区では、新たな「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定に着手しています。この調査は、厚生労働省の介護予防・日常生活圏域二一調査手法により実施するもので、効果的な介護予防政策の立案と効果評価および高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画がより実りある計画となるよう、高齢者の方々から、日頃の生活状況や健康状態などを伺うため実施するものです。

調査の対象者は、区内にお住まいの65歳以上の方から2,200人を無作為に選び、調査票を送付させていただきました。なお、令和4年10月1日現在の情報を基に調査票を送付しています。転居等により行き違いが生じる場合がありますが、ご了承ください。

本調査で得られた情報につきましては、性別・年代・居住地域等の情報を統計的に処理して分析を行い、計画策定と効果評価の目的で利用いたします。当該情報については、区で適切に管理し、個人が特定される形の公表はいたしません。なお、本調査で得られた統計データを厚生労働省の管理する区外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年11月 練馬区

◆ 調査票のご記入にあたって ◆

- 調査票上の「あなた」とは、封筒に印刷されたあて名ご本人を指します。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問文にある「○は1つ」「いくつでも」などの指示にしたがってご回答ください。また、ご意見や数字などを直接ご記入いただく質問もあります。
- 質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人一人での回答が難しい場合は、ご家族の方などにお手伝いいただき、対象者ご本人の意見を聞いた上で代わりにご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、**11月28日(月)まで**に、同封の返信用封筒にてご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。
- この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

この調査は、(株) サーベイリサーチセンターに委託して実施しています。調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【調査委託元】
練馬区 高齢施策担当部 高齢社会対策課 計画係
(株) サーベイリサーチセンター
電話：0120-965-812 (フリーダイヤル)
<受付/月曜～金曜 (平日) 9:00～17:00>
メール：contact-m@surrece.co.jp

記入日 令和 年 月 日

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

- 1 あて名のご本人が記入
- 2 ご家族が記入 (あて名のご本人からみられた続柄：)
- 3 その他

◆あなたのご家族や生活状況について

問1 あなたの性別と、令和4年10月1日現在の満年齢を教えてください。

① 性別(○は1つ) ② 年齢(右詰め)で記入

1 男性 2 女性 歳

問2 あなたのお住まいはどちらですか。記入例のように、町名と丁目をご記入ください。

町名 丁目
(記入例) 町名 光が丘 3 丁目

問3 家族構成をお教えてください。(○は1つ)

- 1 1人暮らし
- 2 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)
- 3 夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)
- 4 息子・娘との2世帯
- 5 その他

問4 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

- 1 介護・介助は必要ない
- 2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 3 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

- 1 大変苦しい
- 2 やや苦しい
- 3 ふつう
- 4 ややゆとりがある
- 5 大変ゆとりがある

◆からだを動かすことについて

問6 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。(○は1つ)

- 1 できるし、している
- 2 できるけどしていない
- 3 できない

問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

- 1 できるし、している
- 2 できるけどしていない
- 3 できない

問8 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

1 できるし、している 2 できるだけしていない 3 できない

問9 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

1 何度もある 2 1度ある 3 ない

問10 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

1 とても不安である 2 やや不安である 3 あまり不安でない 4 不安でない

問11 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

1 ほとんど外出不い 2 週1回 3 週2～4回 4 週5回以上

問12 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

1 とても減っている 2 減っている 3 あまり減っていない 4 減っていない

◆食べることについて

問13 身長・体重(整数を右詰めで記入)

身長 cm 体重 kg

問14 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)

1 はい 2 いいえ

問15 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)

1 はい 2 いいえ

問16 口の渾きが気になりますか。(○は1つ)

1 はい 2 いいえ

問17 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。○は1つ)

1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

問18 口の体操・だ液腺マッサージなどの口腔ケアの方法を知っていますか。(○は1つ)

1 知っていて、習慣的にやっている 2 知っていて、時々やっている
3 知っているが、やっていない 4 名前は聞いたことがあるが、やり方は知らない
5 知らない

問19 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

1 はい 2 いいえ

問20 どなたか食事をもとにする機会がありますか。(○は1つ)

1 毎日ある 2 週に何度かある 3 月に何度かある
4 年に何度かある 5 ほとんどない

◆毎日の生活について

問21 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

1 はい 2 いいえ

問22 バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(○は1つ)

1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない

問23 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。(○は1つ)

1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない

問24 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない

問25 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない

問26 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない

◆地域での活動について

問27 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

1 是非参加したい 2 参加してもよい 3 参加したくない 4 既に参加している

問28 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

1 是非参加したい 2 参加してもよい 3 参加したくない 4 既に参加している

問29 以下のような会・グループなどにどのくらいの頻度で参加していますか。

※① - ⑧それぞれに回答してください。(それぞれ〇は1つ)

	週4回 以上	週2 ～3回	週1回 ～3回	月に 1回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアの グループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係の グループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 介護予防のための 通いの場(※)	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

※ 街かどケアカフェ、いきがいデイサービスなど

◆たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお答えをお願いします

問30 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人
7 その他()	8 そのような人はいない	

問31 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげてくれる人(いくつでも)

1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人
7 その他()	8 そのような人はいない	

問32 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人
7 その他()	8 そのような人はいない	

問33 反対に、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人
7 その他()	8 そのような人はいない	

◆健康について

問34 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

1 とてもよい	2 まあよい	3 あまりよくない	4 よくない
---------	--------	-----------	--------

問35 あなたは、現在のどの程度幸せですか。(〇は1つ)
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

とても 不幸	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	とても 幸せ
-----------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----------

問36 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
(〇は1つ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問37 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(〇は1つ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問38 タバコは吸っていますか。(〇は1つ)

1 ほぼ毎日吸っている	2 時々吸っている
3 吸っていたがやめた	4 もともと吸っていない

問39 現在治療中、または後遺症のある病気がありますか。(いくつでも)

1 ない	2 高血圧
3 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	4 心臓病
5 糖尿病	6 高脂血症 (脂質異常)
7 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	8 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9 腎臓・前立腺の病気	10 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)
11 外傷 (転倒・骨折等)	12 がん (悪性新生物)
13 血液・免疫の病気	14 うつ病
15 認知症 (アルツハイマー病等)	16 パーキンソン病
17 目の病気	18 耳の病気
19 その他 ()	

◆認知症にかかる相談窓口の把握について

問40 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問41 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

ご協力ありがとうございました。11月28日(月)までに同封の返信用封筒で
ご返送ください。切手は不要ですので、そのままご投函ください。

なお、この調査票および返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。

主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

1. フルタイムで働いている } 問2～問4へ
2. パートタイムで働いている } 問4へ
3. 働いていない
4. 主な介護者に確認しないと、わからない

※「パートタイム」とは、「週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助(食・べる時)
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)

〔生活援助〕

12. 食事の準備(調理等)
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

〔その他〕

15. その他
16. 不安に感じていることは、特になし
17. 主な介護者に確認しないと、わからない

練馬区高齢者基礎調査等報告書

令和5年（2023年）3月 発行

編集・発行

練馬区 高齢施策担当部 高齢社会対策課
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号
電話：03-5984-4584（直通）

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。